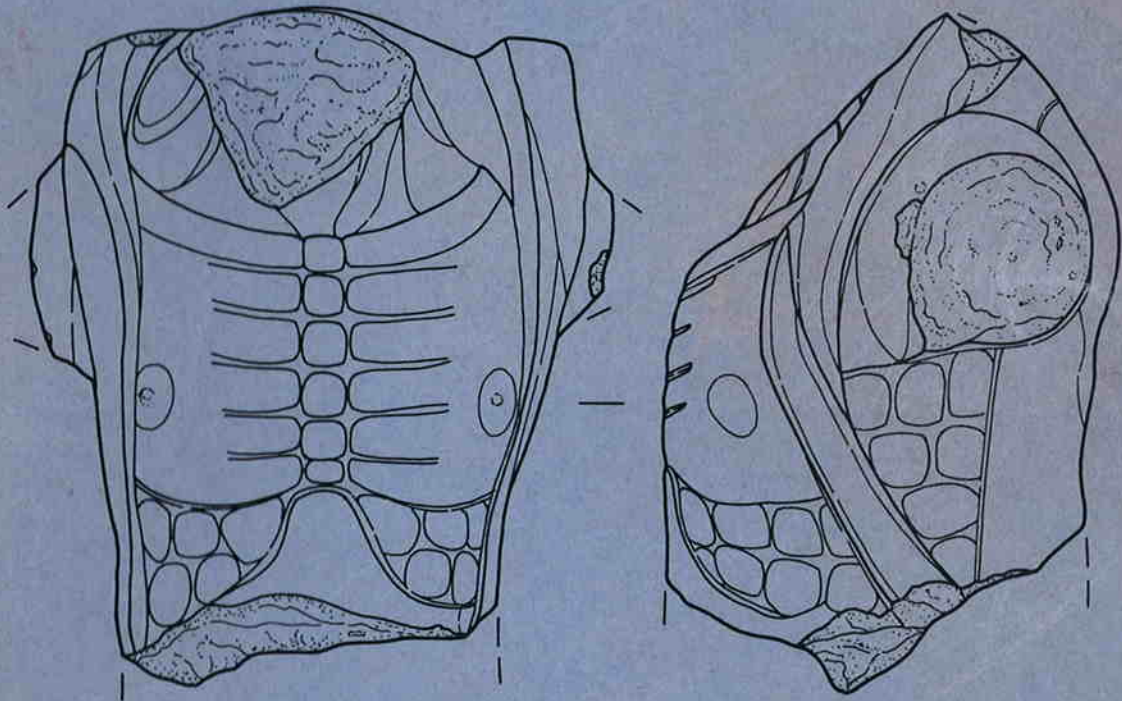


天界寺跡(II)

—首里城公園管理棟新設工事に伴う緊急発掘調査—

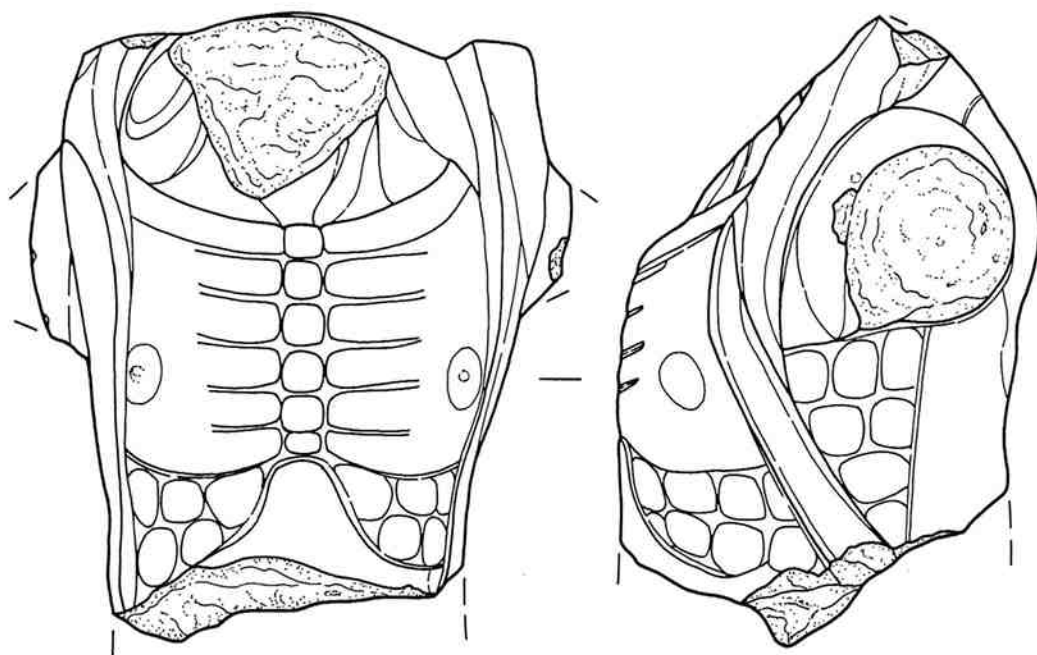


平成14年(2002年)3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

天界寺跡(II)

—首里城公園管理棟新設工事に伴う緊急発掘調査—



平成14年(2002年)3月

沖縄県立埋蔵文化財センター



調査区遠景



石列



コーラル敷B及び瓦溜まり



北側地山面



北側堆積状況



褐釉陶器



青磁



本土産陶器



中国産色絵・染付



沖縄産無釉陶器



沖縄産施釉・無釉陶器



石像



石像



玉類



銭貨



青磁・白磁



屋瓦

序

本報告書は平成8年度と9年度に実施した旧天界寺跡西区緊急発掘調査の成果をまとめたものがあります。発掘調査は首里城公園管理棟建設に伴うもので、沖縄県土木建築部都市計画課からの依頼を受け、沖縄県教育庁文化課が分任事業として実施したものです。出土品の整理及び報告書の刊行は、平成12年度に開所しました沖縄県立埋蔵文化財センターが行いました。

首里城復元整備事業の進行に伴い、かつて威容を誇っていた琉球国の王城がその全容を蘇らせつつあります。城郭内の整備に並行して、城周辺の公園整備も進められており、毎年多くの観光客が訪れる観光名所となっております。

天界寺跡の発掘調査も首里城周辺の公園整備に伴うもので、玉陵に隣接する首里城公園管理センターが新設されることに伴うものです。平成7年度には那覇市教育委員会による発掘調査が実施され、その成果である報告書も刊行されております。

今回の発掘調査は天界寺跡の西側部分について実施しました。発掘調査の結果、赤土造成の下層からは古い時期の円形の溝状掘り込み遺構や柱穴群、石垣や石列のほか瓦だまりなどが検出され、創建当時の様子を窺い知る貴重な遺構が発見されました。また、赤土造成層の上面からは首里古地図に描かれている本殿から延びるコーラル敷きの参道が検出されるなど、記録の少ない天界寺の歴史の一端を窺い知る貴重な発見がありました。

出土品としては、中国やタイなど多くの貿易陶磁器とともに石像が発見され注目されます。石像は県下では初めての出土であり、文献資料とも符合することがわかりました。このような調査成果をまとめた本報告書が沖縄の歴史や首里城などの研究資料として活用されれば幸いです。

末尾になりましたが、本発掘調査事業の実施に際しご協力を賜りました関係各位に、発掘調査及び資料整理の際にご指導・ご助言いただきました諸先生方に厚く御礼申し上げます。

平成14年 3月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所長 知念 勇

例 言

- 1、本書は平成8年度から9年度にかけて実施した、首里城公園管理棟建設工事に係る緊急発掘調査の成果をまとめたものである。
- 2、調査は、沖縄県土木建築部都市計画課からの分任事業として沖縄県教育庁文化課が実施した。
- 3、資料整理作業は、平成11年度までは県文化課が行い、平成12年度からは沖縄県立埋蔵文化財センターが引き続き実施した。
- 4、本書に使用した1/25000地形図は国土地理院発行の資料によった。
- 5、本書に表した高度値は海拔高である。
- 6、資料整理にあたり、下記の方々に各遺物の鑑定、または同定をお願いした。記して謝意を表したい。

陶磁器（五十音順）

池畑 耕一氏（鹿児島県教育庁文化課）
大橋 康二氏（佐賀県立九州陶磁文化館）
鈴田由紀夫氏（佐賀県立九州陶磁文化館）
手塚 直樹氏（青山学院大学）
橋本 久和氏（大阪府高槻市教育委員会）

石 器…神谷 厚昭氏（沖縄県立真和志高等学校）

貝 類…名和 純氏（潟の生態史研究会会員）

魚骨・獸骨…金子 浩昌氏（東京国立博物館）

人 骨…譜久嶺忠彦氏（琉球大学医学部）

- 7、本書の編集は島袋春美・新城ゆかりの協力を得て島袋洋が行った。
- 8、各章の執筆分担は次の通りである。
島袋 洋…第Ⅰ～第Ⅳ章、第Ⅴ章第1節、第Ⅵ章
西銘 章…第Ⅴ章第2節、第7節、第13節、第23・24節、第36節
知念 隆博…第Ⅴ章第3節
山本 正昭…第Ⅴ章第4～6、第9～12節
喜多 亮輔…第Ⅴ章第8節
新城ゆかり…第Ⅴ章第14・15節、第17・18節、第25～27節、第31～33節、第39節
田里 一寿…第Ⅴ章第16節、第21・22節
新垣 力…第Ⅴ章第19・20節
玉城 照美…第Ⅴ章第28・29節、第40節-1
岸本 竹美…第Ⅴ章第30節、第34節
伊集ゆきの…第Ⅴ章第35節
仲座 久宜…第Ⅴ章第37節
上原 静…第Ⅴ章第38節
金子 浩昌…第Ⅴ章第40節-2
譜久嶺忠彦…第Ⅴ章第41節
- 9、遺物の写真撮影は宮崎典子、光嶋香による。
- 10、発掘調査で出土した遺物及び、実測図・写真等の記録は全て、沖縄県立埋蔵文化財センターにて保管している。

目次

卷首図版

序

例言

報告書抄録

第I章	調査に至る経緯	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査体制	1
第II章	位置と環境	3
第III章	調査経過	6
第IV章	層序と遺構	8
第1節	層序	8
第2節	遺構	9
第V章	出土遺物	26
第1節	青磁	26
第2節	白磁	41
第3節	染付	47
第4節	鉄釉染付	54
第5節	瑠璃釉・瑠璃釉染付	54
第6節	翡翠釉	54
第7節	中国産色絵	57
第8節	三彩	58
第9節	宜興窯系	59
第10節	産地不明陶器	59
第11節	粉青沙器	62
第12節	泉州窯系磁器	62
第13節	黒釉陶器	62
第14節	褐釉陶器	65
第15節	タイ産褐釉陶器	72
第16節	タイ産半練土器	74
第17節	本土産磁器	76
第18節	本土産陶器	79
第19節	沖縄産施釉陶器	81
第20節	沖縄産無釉陶器	94
第21節	陶質土器	102
第22節	瓦質土器	109
第23節	土器	114
第24節	類須恵器	116
第25節	土製品	116
第26節	円盤状製品	117
第27節	煙管	119
第28節	貝製品	120
第29節	骨製品	120
第30節	銭貨	123
第31節	青銅製品	127
第32節	鉄製品	128
第33節	埴塼	128
第34節	玉類	130
第35節	石器・石製品	131
第36節	滑石製品	135
第37節	石像	136
第38節	屋瓦	140
第39節	塼	144
第40節	自然遺物	151
1.	貝類	151
2.	動物遺体	152
第41節	人骨	171
第VI章	総括	173

目 次

第1図	古地図に見る天界寺	3
第2図	沖縄本島及び那覇市の位置	4
第3図	天界寺の位置(那覇市歴史地図より)	5
第4図	発掘調査の範囲及びグリッド設定	7
第5図	層序(Jライン、16ライン)	12
第6図	主な検出遺構配置	13
第7図	基壇(F・G-21~23)	14
第8図	石壇A(H~J-24)	15
第9図	石列A(G~K-23)	16
第10図	石列B、C(M-24)	17
第11図	方形堀込み遺構(H・I-22)	18
第12図	溝状石列(L-17・18)	19
第13図	溝状石列(L・M-19・20)	20
第14図	ピット検出状況	21
第15図	円弧状遺構1~6	22
第16図	青磁(1)	34
第17図	青磁(2)	35
第18図	青磁(3)	36
第19図	青磁(4)	37
第20図	青磁(5)	38
第21図	白磁(1)	44
第22図	白磁(2)	45
第23図	白磁(3)	46
第24図	染付(1)	51
第25図	染付(2)	52
第26図	染付(3)	53
第27図	鉄釉染付・瑠璃釉・瑠璃釉染付・翡翠釉	56
第28図	中国産色絵	57
第29図	三彩・宜興窯系・産地不明陶器	61
第30図	粉青沙器・泉州窯系磁器・黒釉陶器	64
第31図	褐釉陶器(1)	68
第32図	褐釉陶器(2)	69
第33図	褐釉陶器(3)	70
第34図	褐釉陶器(4)	71
第35図	タイ産褐釉陶器	73
第36図	タイ産半練土器	74
第37図	本土産磁器	78
第38図	本土産陶器	80
第39図	沖縄産施釉陶器(1)	88
第40図	沖縄産施釉陶器(2)	89
第41図	沖縄産施釉陶器(3)	90
第42図	沖縄産施釉陶器(4)	91
第43図	沖縄産施釉陶器(5)	92
第44図	沖縄産施釉陶器(6)	93
第45図	沖縄産無釉陶器(1)	98
第46図	沖縄産無釉陶器(2)	99
第47図	沖縄産無釉陶器(3)	100
第48図	沖縄産無釉陶器(4)	101
第49図	陶質土器(1)	106
第50図	陶質土器(2)	107
第51図	陶質土器(3)	108
第52図	瓦質土器(1)	112
第53図	瓦質土器(2)	113
第54図	土器	115
第55図	類須恵器	116
第56図	土製品	116
第57図	円盤状製品	118
第58図	煙管	119
第59図	貝製品・骨製品	122
第60図	銭貨(有文)	126
第61図	銭貨(無文)	127
第62図	青銅製品・鉄製品・埴塼	129

第63図	玉類	130
第64図	石器・石製品(1)	133
第65図	石器・石製品(2)	134
第66図	石器・石製品(3)、滑石製品	135
第67図	石像(1)	138
第68図	石像(2)	139
第69図	高麗系瓦・大和系瓦	146
第70図	明朝系瓦	147
第71図	明朝系瓦・塼	148
第72図	ハマフエフキの計測相関	166
第73図	魚骨、ニワトリの計測位置	168
第74図	獣骨の計測位置	169
第75図	切痕	170

表 目 次

第1表	ピット計測一覧	23
第2表	円弧状遺構周辺ピット計測一覧	24
第3表	遺物出土状況	25
第4表	青磁出土状況	39
第5表	青磁観察一覧	28
第6表	白磁観察一覧	41
第7表	白磁出土状況	43
第8表	染付観察一覧	47
第9表	染付出土状況	50
第10表	鉄釉染付・瑠璃釉・瑠璃釉染付 ・翡翠釉出土状況	54
第11表	鉄釉染付・瑠璃釉・瑠璃釉染付 ・翡翠釉観察一覧	55
第12表	中国産色絵出土状況	57
第13表	中国産色絵観察一覧	57
第14表	三彩・宜興窯系・産地不明陶器出土状況	59
第15表	三彩・宜興窯系・産地不明陶器観察一覧	60
第16表	粉青沙器・泉州窯系磁器・黒釉陶器 ・青磁染付・タイ陶器出土状況	62
第17表	粉青沙器・泉州窯系磁器 ・黒釉陶器観察一覧	63
第18表	褐釉陶器出土状況	65
第19表	褐釉陶器観察一覧	66
第20表	タイ産褐釉陶器出土状況	72
第21表	タイ産褐釉陶器観察一覧	72
第22表	タイ産半練土器出土状況	75
第23表	タイ産半練土器観察一覧	75
第24表	本土産磁器観察一覧	76
第25表	本土産磁器出土状況	77
第26表	本土産陶器出土状況	79
第27表	本土産陶器観察一覧	80
第28表	沖縄産施釉陶器出土状況	84
第29表	沖縄産施釉陶器観察一覧	85
第30表	沖縄産無釉陶器観察一覧	95
第31表	沖縄産無釉陶器出土状況	97
第32表	陶質土器出土状況	103
第33表	陶質土器観察一覧	104
第34表	瓦質土器出土状況	110
第35表	瓦質土器観察一覧	111
第36表	土器出土状況	114
第37表	土器観察一覧	114
第38表	類須恵器出土状況	116
第39表	類須恵器観察一覧	116
第40表	円盤状製品法量一覧	117
第41表	円盤状製品出土状況	117
第42表	煙管観察一覧	119
第43表	銭貨観察一覧	123
第44表	銭貨出土状況	125

第45表	簪観察一覧	127
第46表	青銅製品・鉄製品出土状況	128
第47表	玉類観察一覧	130
第48表	石器・石製品出土状況	132
第49表	石器・石製品観察一覧	132
第50表	滑石製品観察一覧	135
第51表	高麗系瓦出土状況表	140
第52表	大和系瓦出土状況表	141
第53表	明朝系軒瓦出土状況表	142
第54表	明朝系瓦の焼成分類別の出土状況表	145
第55表	貝類出土状況(1) 巻貝	149
第56表	貝類出土状況(2) 二枚貝	150
第57表	魚類出土量	165
第58表	サカナ計測一覧	166
第59表	ノコギリガサミ出土一覧	156
第60表	サメ類出土一覧	156
第61表	ウミガメ出土一覧	156
第62表	ウミウ出土一覧	156
第63表	カモ類出土一覧	156
第64表	トリ類出土一覧	156
第65表	キジ類出土一覧	156
第66表	ネズミ出土一覧	156
第67表	イルカ類出土一覧	156
第68表	イヌ出土一覧	156
第69表	ネコ出土一覧	156
第70表	ジュゴン出土一覧	156
第71表	ニワトリ出土量	157
第72表	ウシorウマ出土一覧	158
第73表	ウマ歯出土一覧	158
第74表	シカ出土一覧	158
第75表	ウシ歯出土一覧	158
第76表	ヤギ出土一覧	158
第77表	種不明出土一覧	158
第78表	ウマ出土量	159
第79表	ブタ歯出土量	160
第80表	ブタ出土量	161
第81表	ウシ出土量	163
第82表	ニワトリ計測一覧	167
第83表	イヌ計測一覧	167
第84表	ネコ計測一覧	167
第85表	ジュゴン計測一覧	167
第86表	ウマ計測一覧	167
第87表	ブタ計測一覧	167
第88表	シカ計測一覧	167
第89表	ウシ計測一覧	167
第90表	ヤギ計測一覧	167
第91表	ヒト出土一覧	171
第92表	ヒト計測一覧	172
第93表	ナンバーリング：出土地対照一覧	262

図版目次

図版1	調査区遠景	177
図版2	堆積状況及び遺構検出状況(1)	178
図版3	遺構検出状況(2)	179
図版4	遺構検出状況(3)	180
図版5	青磁(1)	181
図版6	青磁(2)	182
図版7	青磁(3)	183
図版8	青磁(4)	184
図版9	青磁(5)	185
図版10	白磁(1)	186
図版11	白磁(2)	187
図版12	白磁(3)	188
図版13	染付(1)	189

図版14	染付(2)	190
図版15	染付(3)	191
図版16	鉄釉染付・瑠璃釉・瑠璃釉染付・翡翠釉	192
図版17	中国産色絵	193
図版18	三彩・宜興窯系・産地不明陶器	194
図版19	粉青沙器・泉州窯系磁器・黒釉陶器	195
図版20	褐釉陶器(1)	196
図版21	褐釉陶器(2)	197
図版22	褐釉陶器(3)	198
図版23	褐釉陶器(4)	199
図版24	タイ産褐釉陶器	200
図版25	タイ産半練土器	201
図版26	本土産磁器	202
図版27	本土産陶器	203
図版28	沖縄産施釉陶器(1)	204
図版29	沖縄産施釉陶器(2)	205
図版30	沖縄産施釉陶器(3)	206
図版31	沖縄産施釉陶器(4)	207
図版32	沖縄産施釉陶器(5)	208
図版33	沖縄産施釉陶器(6)	209
図版34	沖縄産無釉陶器(1)	210
図版35	沖縄産無釉陶器(2)	211
図版36	沖縄産無釉陶器(3)	212
図版37	沖縄産無釉陶器(4)	213
図版38	陶質土器(1)	214
図版39	陶質土器(2)	215
図版40	陶質土器(3)	216
図版41	瓦質土器(1)	217
図版42	瓦質土器(2)	218
図版43	土器・類須恵器・土製品	219
図版44	円盤状製品	220
図版45	煙管	221
図版46	貝製品・骨製品	222
図版47	銭貨(有文)	223
図版48	上：銭貨(無文) 下：玉類	224
図版49	青銅製品・鉄製品・埴塼	225
図版50	石器・石製品(1)	226
図版51	石器・石製品(2)	227
図版52	石器・石製品(3)、滑石製品	228
図版53	石像(1)	229
図版54	石像(2)	230
図版55	高麗系瓦・大和系瓦	231
図版56	明朝系瓦	232
図版57	明朝系瓦・磚	233
図版58	貝(1)	234
図版59	貝(2)	235
図版60	貝(3)	236
図版61	貝(4)	237
図版62	魚類(1)	239
図版63	魚類(2)	241
図版64	トリ・ニワトリ	243
図版65	イルカ類・ジュゴン・イヌ・ネコ	245
図版66	ウマ(1)	247
図版67	ウマ(2)	249
図版68	ブタ(1)	251
図版69	ブタ(2)	253
図版70	ウシ(1)	255
図版71	ウシ(2)	257
図版72	シカ・ヤギ・不明	259
図版73	切痕	261
図版74	人骨	172

報 告 書 抄 録

ふりがな	てんかいじあと							
書名	天界寺跡(Ⅱ)							
副書名	首里城公園管理棟新設工事に伴う緊急発掘調査							
巻次								
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第8集							
編著者名	島袋 洋・西銘 章・知念隆博・山本正昭・喜多亮輔・新城ゆかり・田里一寿・新垣力 玉城照美・岸本竹美・伊集ゆきの・仲座久宜・上原 静・金子浩昌・譜久嶺忠彦							
編集機関	沖縄県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193-7 TEL098-835-8752							
発行年月日	西暦2002年(平成14年)3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
てんかいじあと 天界寺跡	おきなわけんなはし 沖縄県那覇市 しゅりきんじょうちょう 首里金城町	47201		26° 12' 53"	127° 43' 02"	1996.6.3 } 1998.1.31	1316	首里城公園管 理棟建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
天界寺跡	宗教遺跡	琉球王府時代 近世		石列遺構 石垣遺構 方形掘込遺構 溝状遺構 瓦礫集中遺構 円弧状遺構 土壇 柱穴群など		青磁 白磁 染付 褐釉陶器 本土産陶磁器 沖縄産施釉陶器 沖縄産無釉陶器 瓦質土器 陶質土器 土器 瓦・塼 鉄製品 青銅製品 石像など		石像

第 I 章 調査に至る経緯

第 1 節 調査に至る経緯

首里城復元整備事業の進行とともに、琉球王国の王城が在りし日の姿を今に蘇らせつつある。呼応するように訪れる観光客の数も増え、観光バスやタクシーの往来も激しくなっている。観光メッカのひとつとして賑わいをみせる首里城周辺の整備も急ピッチになり、観光バスなどの駐車スペースの確保、渋滞を引き起こさないような進入路の整備、公園全体の管理センターの充実などが図られ、周辺の様相も一変してきている。

今回の調査の契機もそのような公園整備に係るものである。首里古地図などの古文献にみえる天界寺の寺域にも道路の整備や公園管理センターの新設などの事業が計画された。天界寺の中央部を走る道路、その道路から首里杜館の地下駐車場への進入路整備に伴う緊急発掘調査が終了している^{註1}。今回は天界寺の3回目の調査ということになり、天界寺境内の西側一帯（玉陵に東接する地域）が調査対象となった。

当初、平成8年度に県都市計画課からの調整（玉陵の東側に公園管理センター棟を新設する計画）により、緊急発掘調査に着手した。しかし、調査に着手して間もなく、先に首里杜館地下駐車場への進入路の範囲を発掘調査してほしいとの申し出がなされたため、その地域の発掘調査を優先して行うことになった。その調査の終了後に管理センター棟新設地域の発掘調査を行うことで県都市計画課との調整がなされた。つまり、天界寺東地区（地下駐車場への進入路地区）の調査終了後^{註2}に天界寺西地区（玉陵東接地区）の本格的な発掘調査を実施することになった。

天界寺西地区（玉陵東接地区）の調査費用は改めて県都市計画課が負担し、発掘調査は引き続き県文化課が行うことでまとめ、本格的な発掘調査は平成9年2月中旬からの開始となった。

<註>

註1「天界寺跡―首里城公園整備事業に伴う緊急発掘調査報告」『那覇市文化財調査報告書』第43集 那覇市教育委員会 2000年3月

註2「天界寺跡（I）―首里杜館地下駐車場入り口新設工事に伴う緊急発掘調査―」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第2集 沖縄県立埋蔵文化財センター 2001年3月

第 2 節 調査体制

発掘調査から資料整理および報告書の刊行まで以下の体制で行った。

事業主体・・・・・・・・・・沖縄県教育委員会
教育長・・・・・・・・・・仲里 長和（平成8年度）
“・・・・・・・・・・安室 肇（平成9年度～10年度）
“・・・・・・・・・・翁長 良盛（平成11年度～12年度）
“・・・・・・・・・・津嘉山朝祥（平成13年度）
文化課課長・・・・・・・・大城 将保（平成8年度～10年度）
“・・・・・・・・・・當眞 嗣一（平成11年度～13年度）
文化課課長補佐・・・・・・・・日越 国昭（平成8年度～9年度）
文化課副参事兼課長補佐・・稲嶺 靖子（平成10年度）
“・・・・・・・・・・當眞 嗣一（平成10年度）
“・・・・・・・・・・千木良芳範（平成11年度～12年度）
“・・・・・・・・・・大城 慧（平成13年度）

調査事務

文化課管理係主幹・・・・・・・・比屋根正治（平成8年度）
“・・・・・・・・・・大浜 節（平成9年度～11年度）
“ 主査・・・・・・・・村山 佐代（平成8年度～10年度）
“・・・・・・・・・・砂川 邦子（平成9年度～11年度）

文化課管理係主査・・・當間 清美（平成11年度）
 “ 副主査・・・新垣 敏子（平成8年度）
 “ ”・・・當間 清美（平成10年度）
 “ 主任・・・當間 保智（平成8年度）
 “ ”・・・島袋 正都（平成9～10年度）
 “ ”・・・横山さゆり（平成11年度）
 “ 主事・・・上原 直樹（平成8年度～9年度）
 調査主体・・・・・・・・・・沖縄県立埋蔵文化財センター（平成12年度～13年度）
 調査統括 所長・・・・・・・・知念 勇（平成12年度～13年度）
 調査事務 副所長・・・・・・・・知念 廣義（平成12年度～13年度）
 “ 庶務課主事・・・・・・・・上原 浩（平成12年度～13年度）
 “ ”・・・城間 千賀（平成12年度～13年度）
 調査課 課長・・・・・・・・島袋 洋（平成12年度～13年度）

調査総括

埋蔵文化財係 係長・・・・・・・・大城 慧（平成8年度～9年度）
 “ ”・・・島袋 洋（平成10年度～11年度）
 発掘調査専門員・・・・・・・・島袋 洋（平成8年度～9年度）
 “ ”・・・・・・・・金城 亀信（平成8年度～11年度）
 “ ”・・・・・・・・仲座 久宜（平成8年度～11年度）
 “ ”・・・・・・・・比嘉 聡（平成8年度 現：沖縄県立那覇国際高等学校）
 発掘調査補助員・・・・・・・・當銘由嗣、當銘清乃（旧姓：上原）、新城ゆかり（旧姓：仲與根）、比嘉優子、
 又吉純子、島袋春美、赤嶺雅子、玉寄智恵子

発掘調査作業員

新垣直美、金城さとみ、津波古美津江、大宜見より子、新垣キク、翁長スミ子、太田吉光、名嘉真朝紀、
 島袋智之、宮城利香、桃原佐恵美、与那嶺勢津子、真栄城千枝子、呉我フジ子、中塚末子、宮国恵子、島袋文子、
 古屋聡洋、真志喜千代子、上間チエ、桃原隆信、照屋栄子、柚木崎末子、森山弘恵、當真みよ子、當真フミ、
 當真喜美江、當真すみ子、當真ヨシ子、新垣裕子、城間光子

資料整理作業員

比嘉登美子、長田剛、仲宗根三枝子、城間千鶴子、玉城恵美利、大城美和子、照屋利子、大城直美、池原直美、
 瑞慶覧尚美、源河秀子、折田衣代、高良三千代、玉榮さとみ、金城京子、天願睦美、吉田昌子、比嘉孝子、
 新垣利津代、外間瞳、真榮田聡子、伊集ゆきの、平良貴子、岸本竹美、玉城照美、宮崎典子、譜久村泰子、
 光嶋香、金城克子、比嘉洋子、神元逸子、石嶺敏子

第Ⅱ章 位置と環境

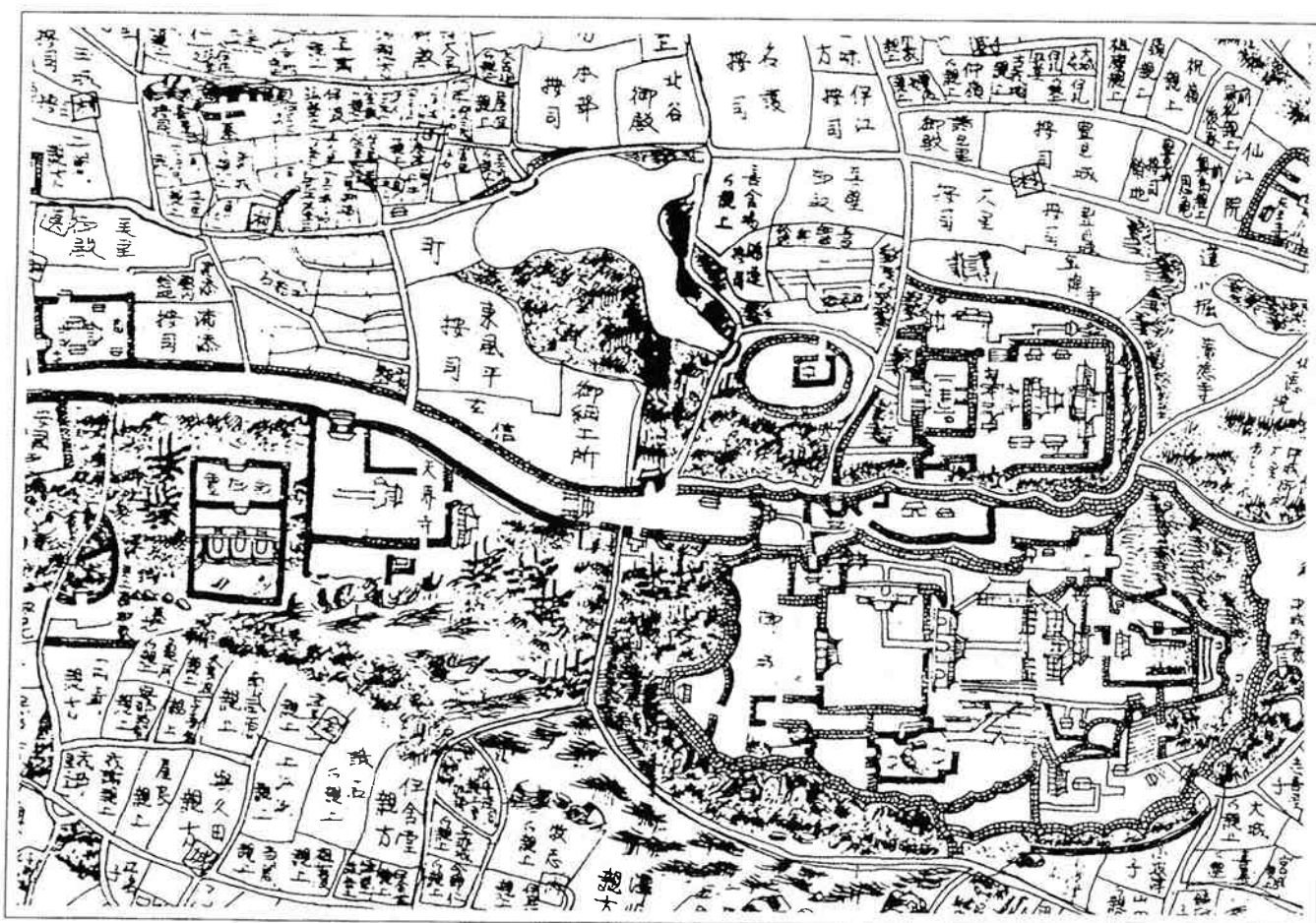
天界寺跡は那覇市首里にある。復元整備事業の進む首里城の西側に位置しており、首里古地図（1773年）をみると、守礼門の南側一帯に位置し、西側を玉陵に接している。

琉球王国の王都として栄えた首里の町は、略三角形を呈す那覇市の東南側に位置し、周辺を丘陵や川に囲まれた琉球石灰岩の台地（標高70～130m）上に展開している。基盤の青灰色粘土（クチャ）層と上部を構成する琉球石灰岩の間から流れる湧き水が豊富で、首里城の内外に樋川や井戸などが見受けられる。

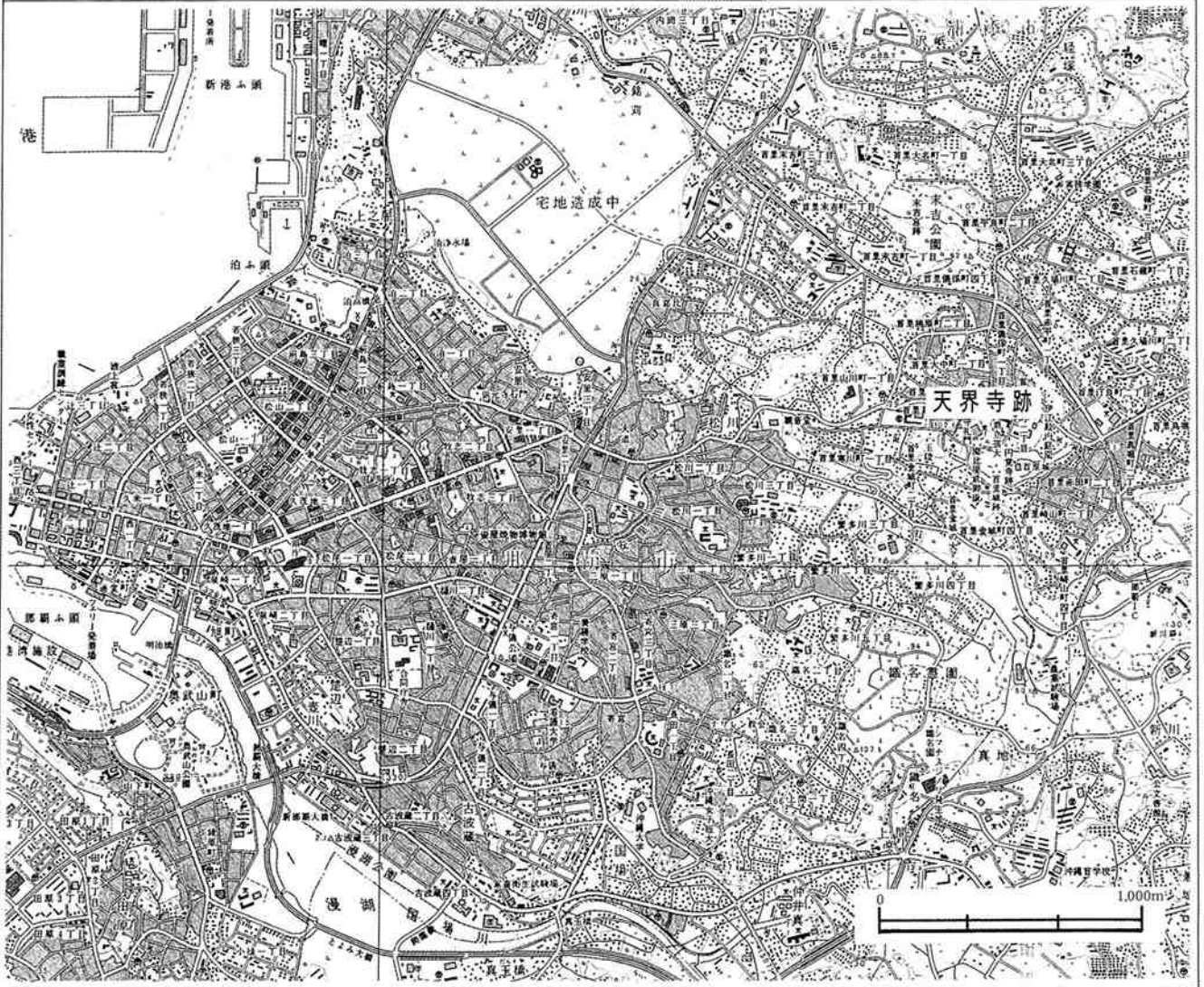
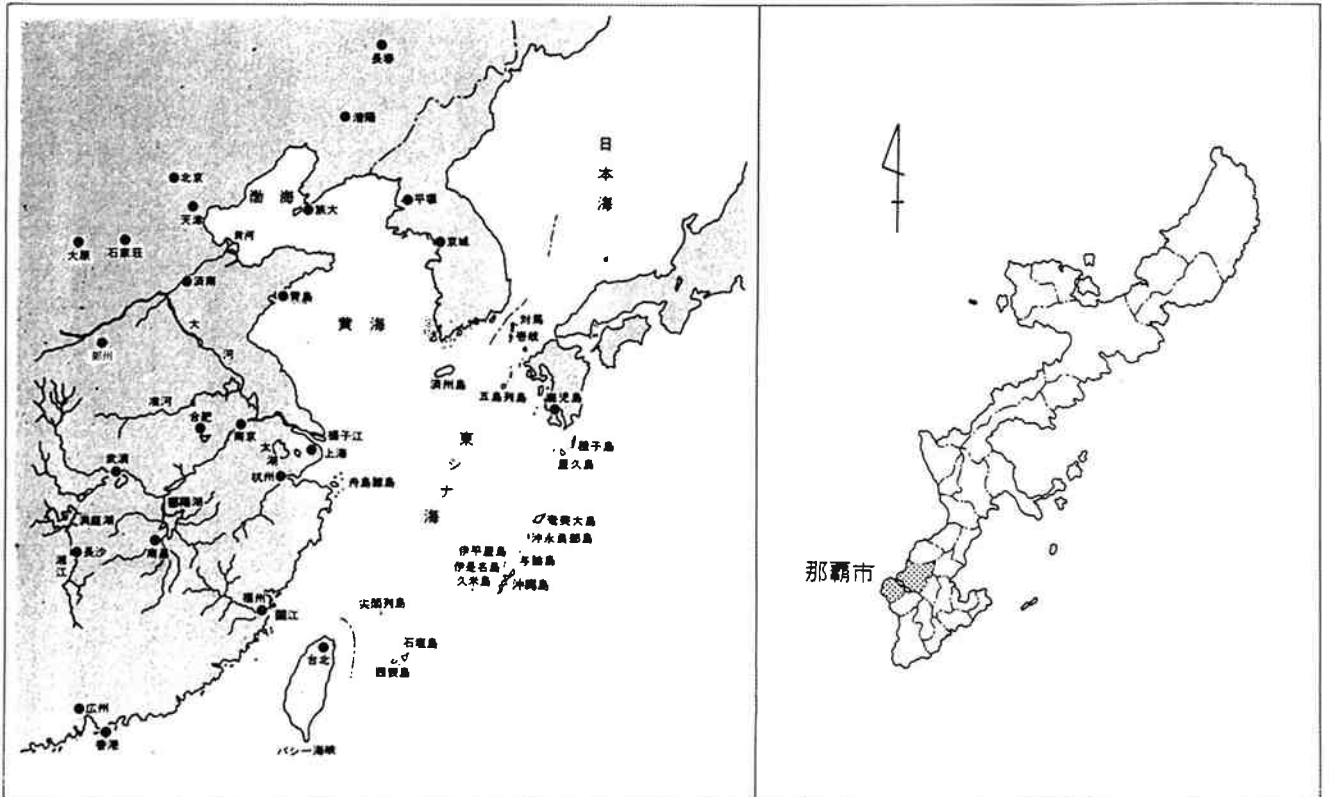
首里城を中心に形成された城下町も、沖縄戦の際に集中砲火を受け、壊滅的な打撃を被った。営々と営まれてきた生活の中に育まれてきた文化、当時の粋を集めた建造物など、多くの文化財が灰燼に帰した。しかし、復帰後の首里城復元を望む声の高まりにより進められている首里城復元整備事業、それに伴い周辺の公園整備事業も活発化し、首里城内はもとよりその周辺でも往時の雰囲気醸し出しつつある。近年は、道路や駐車場などの整備も図られ、観光名所のひとつとなり、多くの観光客で賑わいをみせている。

天界寺は首里城の西側に位置し、守礼門から那覇市街に伸びる綾門大道に沿うように寺域が展開する。境内の東側が高く、西側が低い地形である。南側は琉球石灰岩の岩盤が東西に走り、寺域の南縁をつくっている。第一尚氏の菩提寺として、景泰年間（1450～56）に創建されたことが『球陽』にみえ、『琉球国由来記』には火災にあった天界寺が順治年間（1644～61）にはすべて復旧したことが記されている。

円覚寺・天王寺とともに琉球三大寺と呼ばれ、明治末頃に廃寺となるようである。400年近い歴史を有した天界寺の境内も、尚家の果樹園となり、戦前までは首里城内の三御嶽を統合した三殿内が建てられ、ノロの居室も兼ねて使用された。戦後の宅地化、現在の公園整備事業の進行により、往時の面影はほとんど消え、守礼門から伸びる道（綾門大道）沿いに部分的に残る石垣や天界寺の井戸などが古の様子を偲ばせているだけである。



第1図 古地図に見る天界寺



第2図 沖縄本島及び那覇市の位置



第3図 天界寺の位置 (那覇市歴史地図より)

第三章 調査経過

平成8年6月から調査を開始した。まず、調査対象範囲のほぼ中央、玉陵（西側）寄りの場所から、重機を使用して民家の立ち退きの際の残骸や表土剥ぎを行った。すぐに、拳大～人頭大の琉球石灰岩礫が集中する場所が広がり、そこから特徴的な石質の大きな礫が出土した。細かく見ると丁寧に彫刻されており、文献にみられる石像かと考えられた（巻首図版3）が、近代の遺物に混じって出土しており、確定するまでには至らなかった。

引き続き重機による表土剥ぎを南側の方から北側の方へ進めた。所々には戦後掘った穴が地山まで掘り込まれ、いろんな塵が埋められている場所がみられ、そういう攪乱部については先に全部掘り起こすことにした。そのような場所では、地山面にピットが確認される場合もみられた（巻首図版1）。重機による表土剥ぎが調査区の中央付近まで終了した時点で、グリット設定を行った。

調査対象区のほぼ中央付近に打ち込まれている杭とアスファルト敷きの道路の反対側にある杭を結ぶ直線を基準ラインとした。この東西ラインに直交するように南北のラインを設定し、那覇市教育委員会が実施した調査の際の東西3.5m×南北4mというグリットの大きさに合わせて、調査区全体に方眼を組んだ（第4図）。東から西へアルファベット、北から南へ算用数字を付し、グリットの呼称はG-19、N-20、L-21・・・と呼んだ。基準のラインをGライン、20ラインとした。

調査は南西側（天界寺の井戸と玉陵の間）から開始した。全体的に黒褐色の小礫混入層を約20cm掘り下げると小礫混入が少なくなり、黒味の強い土層になる。その黒色土層を約10cm掘り下げると南側や西側では琉球石灰岩岩盤が露出し、中央部から北側、東側にかけては赤土の地山面が露出する。赤土の上面に黒色の石灰岩礫の集中部や溝状の遺構、ピット様のものが検出されるが、赤土を大きく掘り込んだ攪乱部（底面にユンボの爪跡が残る場合もみられる）も西側、東側で見受けられた。

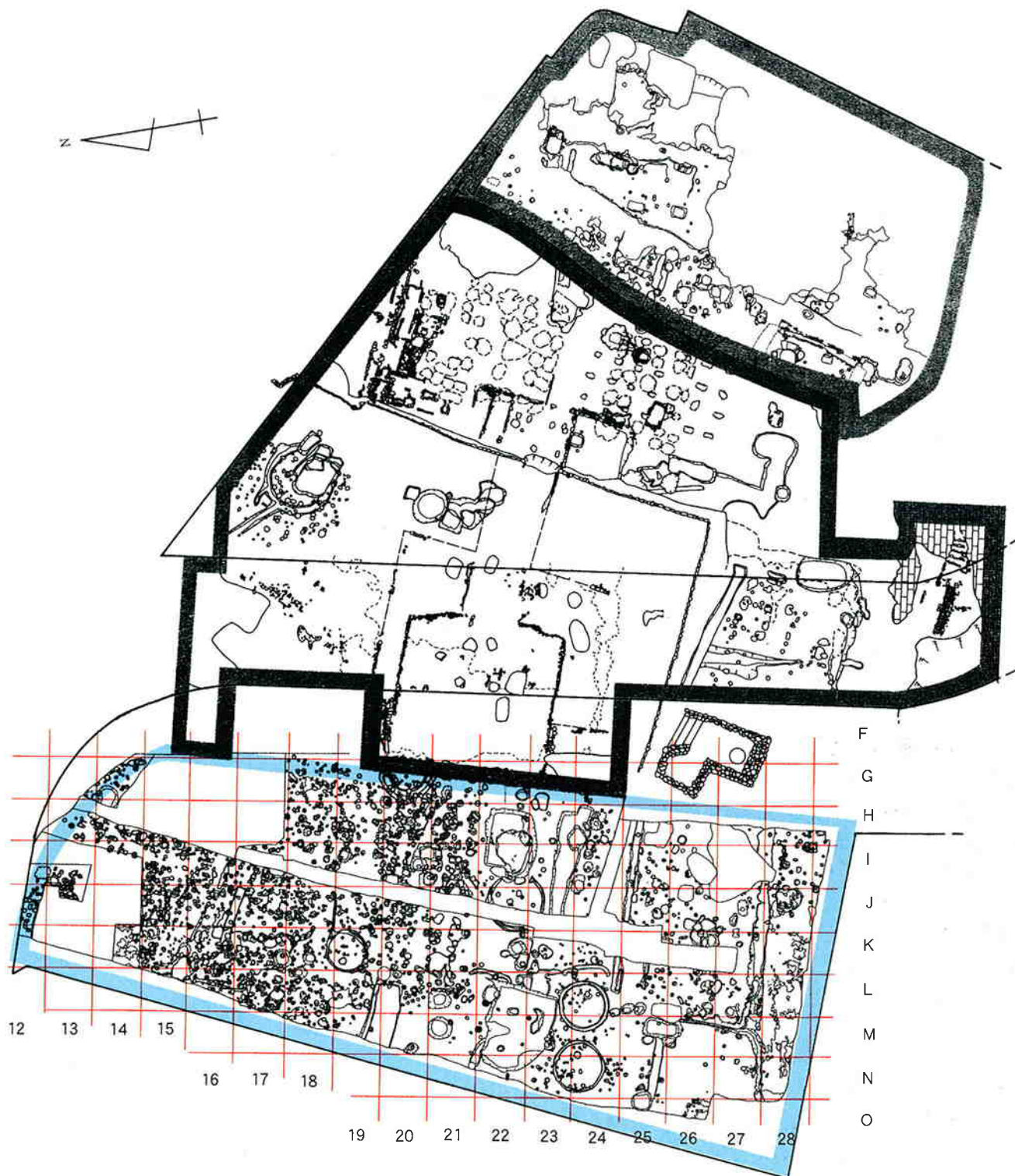
遺物は瓦類を中心に沖縄産陶器や青磁などがみられた。ほぼ全面が赤土上面になり、遺構の状況もある程度把握できたので、この地区の発掘を一時中断し、中央部の21～24ラインを中心とした発掘に移る。那覇市教委の調査により確認された基壇遺構から真っ直ぐに西側へ延びる小礫を敷いた道が造成層（赤土）上面に検出された（第5図）。Jラインにみられる排水管を埋設した溝の東西で状況が異なり、東側は造成層が厚く堆積し西側はかなり攪乱をうけ、造成層はほとんど残っていなかった。

中央部の発掘は基壇中央部の石畳道及びその周辺から開始し、その直下にほぼ同じ幅で、やや大きめの礫敷き道が検出された。南側の石列周辺を掘り下げると、その下部に溝状の黒色土が50cm程の厚みで確認され、遺物はやや古手のものが主体であった。赤土を主体とした造成層をさらに掘り下げていくと、基壇の西側に長形状の落ち込みがあり、下部には礫や瓦の集中部などがあり、青磁、白磁、染付、褐釉陶器、瓦類など造成層よりは古手の遺物が目立つ。

南側の溝状遺構やピット群、石敷き遺構など掘り下げ、写真撮影、実測作業など繰り返し進め、発掘を完了。中央部の発掘調査も南側の石列、石敷き道、長形状落ち込み、井戸北側から延びる石垣、造成層下の黒色土、地山面に検出された円弧状遺構、ピット群など掘り下げ、その都度写真撮影、実測作業など繰り返し行い完掘した。西側では地山直上の瓦集中部を覆ってコーラル敷きの道が検出され、関連するとみられる石列（第13図）ともども調査区外の西側（玉陵側）へ延びる。天界寺の古い時期の参道とみられ、直交するような石垣（第6図）なども検出されている。時期が下っても参道のラインは変わらなかったものと推察される。

北側部分は中央部で確認できた造成層下の黒色土の掘り下げに主目的をおき、攪乱部や造成層は一気に掘り下げた。調査区の北西側では黒色土上面の一面に砂利が敷かれて露出し、その面から立ち上がる石垣（第6図）や溝状石列（第12図）など、天界寺の古い時期のものと考えられる遺構が確認され、調査区外に延びていることも確認された。管理棟建設工事のスケジュールとの兼ね合いから、北側部分の調査中に現場引き渡しが進んでいた南側部分の建設工事も並行して行われた。管理棟の駐車場部分は黒色土検出面で発掘調査を終了した。

黒色土を完全に掘り下げた結果、調査区のほぼ全面に、地山面上にピットが検出され、プランも幾つか確認できた（第14図）。中央部で検出された6基の円弧状遺構（第15図）は注意されよう。造成層や包含層の発掘は、その都度実施した個々の状況写真、スカイマスターからの全体写真、平面・断面実測などを繰り返し行い、途中、2度の台風接近などによる影響もあったが、平成10年1月31日に発掘を終了し、その後2週間ほど完掘したピット群等の実測等を行い、発掘調査の現場業務を総て終了した。



東側：県教育委員会による調査範囲、中央：那覇市教育委員会による調査範囲
 西区調査範囲

0 10m

第4図 発掘調査の範囲及びグリッド設定

第IV章 層序と遺構

第1節 層序

今回の調査対象地域は東西をアスファルト舗装が済んだ首里城線と玉陵の石垣に挟まれ、南北は守礼門から西側に延びる道路から玉陵の石垣までの場所である。調査の直前まで個人住宅があり、ちょうど調査範囲の中央付近を南北方向に下水道管が埋設され、調査区を東西に2分する感じになっている。この下水道管は赤土の地山まで掘り込んで埋設されており、その部分で堆積層が切られている。しかし、東西の基本的な堆積土の層相に変化は見受けられなかった。

確認された土層の状況を見ると、調査範囲の南側（天界寺の井戸の西側地域）と調査区中央から北側地域では異なる様相を呈している。前者は後者の範囲に見られる赤土を主とした造成層（17世紀の中頃の復旧の際の造成）がみられず、全体的な状況からすると天界寺の新しい時期に形成された区域かと想定される。

以下、確認された層序（第5図）について、南側地域（24ライン以南）と中央から北側地域（24ライン以北）に分けて略述する。

・南側地域（24ライン以南）

先述したように南北方向に下水道管理設の際の掘り込みがみられるほか、地山の赤土まで掘り込んでゴミを埋めた場所などが散在し、現代の攪乱を受けた部分も多い。南西側に琉球石灰岩の岩盤が露出するものの、ほとんどは赤土面が広がる。赤土面はほぼ平坦をなし、堆積層もほとんど水平方向の堆積を示す。層序は赤土の地山を含めて3枚確認できた。以下に略述する。

- 第1層 — 暗褐色混礫土層。本地域の全体を覆う表土層で、ジャリを多く含む。瓦類を主体に青磁・染付・褐釉陶器などの中国産陶磁器や本土産陶磁器、沖縄産施釉・無釉陶器などが出土。厚さ約50cmで、ほぼ水平方向に堆積。
- 第2層 — 黒褐色土層。第3層上面に薄くみられる近世の遺物包含層。5cm前後の厚みで、部分的に途切れる箇所も見受けられるほか、現代の攪乱を受けている部分もある。遺物の量は少なく、青磁・褐釉陶器などが目立つ。本層の上面には小礫が集中して広がる部分もあり、何らかの建物遺構の可能性も考えられる。
- 第3層 — 本地区の基盤をなす、琉球石灰岩風化土（赤土）の地山。無遺物層。南西側では琉球石灰岩岩盤が露出。本層の上面には黒褐色の落ち込み部のほか、溝状の遺構なども検出されている。

・中央部から北側地域（24ライン以北）

ほぼ中央付近を南北方向に下水道管の埋設工事に伴う溝が走り、調査区を東西に分断する感じになっている。しかしながら、東西の堆積層に変化はみられず、同じような層相である。現代の宅地造成等の際に大きく攪乱を受けている場所が多いものの、下層においては古の天界寺の様子を窺わせるような堆積層や遺構等が確認された。今回確認された層序は基盤をなす赤土の地山を含めて5枚で、いずれの層も基本的には水平方向の堆積を示す。

以下、確認された層序について概要を記す。

- 第1層 — 茶褐色混礫土層（表土）。戦後の住宅建築の際の造成層。本地域のほぼ全面を覆っており、70cm前後の厚さの所が多い。しかしながら、大きく地山の赤土面まで掘り込まれている場所も見受けられ、そのような場所では2mを越す厚味を有す。現代の陶磁器やガラス片、鉄くずなどに混じって青磁や白磁、褐釉陶器などのグスク時代～近世の遺物も得られている。
- 第2層 — 黒褐色混礫土層。本層も後世の攪乱層かとみられる。本地域の北西側でみられたが、本来的には全面に広がっていたものと考えられる。大部分が第1層の造成の際に削りとられたものとみられる。遺物の量は少なく、近代遺物に混じって青磁、褐釉陶器なども得られている。
- 第3層 — 赤土を主体とした造成層。天界寺が火災を受けた後の復興の際に行われた造成とみられる。上面の20ラインには東西に延びるジャリ敷き道が検出されている。北西側に厚く見られ、1mを越すほどである。細かくみると上部には炭やジャリが比較的混じり、中央付近は粘土質で、下部は礫が混じるという状況がみられるものの、一時期のものともみられ一括した。遺物は近代の時期のものが少なく、グスク～近世のものが主体をなす。
- 第4層 — 黒褐色土層（包含層）。天界寺の古い頃の遺物包含層で、オリジナルな未攪乱層である。20cm

前後の厚みで、上面はジャリが薄く敷かれた感じである。この面から立ち上がる石垣（第6図）なども検出されており、ある時期の地表面の可能性が考えられる。M-21では造成層上面で検出されたジャリ敷き道とほぼ同じライン上にコーラル敷きの道が調査区外の西側（玉陵側）へ延びるように検出されている。L-18・19には若干北側にカーブしながら西側（玉陵側）へ延びる溝状石列（第12図）なども検出されている。遺物は青磁、白磁、染付、褐釉陶器、古銭、青銅製品など15～16世紀頃のもものが主体をなしている。

第5層 一 本地区の基盤をなす、琉球石灰岩風化土（赤土）の地山。無遺物層。若干、北西側へ傾斜している。本層の上面には柱穴様のピットがほぼ全面に検出され、平面プランの想定されるものも見受けられた（第14図）。また、6基検出された円弧状遺構（第15図）は特異なもので注意される。天界寺の創建時の頃の遺構かと考えられる。

第2節 遺構

今回の調査で多種多様の遺構が確認できた（第14図）。南側地域（24ライン以南）では赤土の地山面にピット、土壌、溝状遺構、石列などが検出されている。中央から北側地域（24ライン以北）では赤土主体の造成層の上面及び下方から、基壇、参道、石列、石垣、溝状石列、円弧状遺構、ピット群などが確認され、天界寺の時期的な様子的一端を窺わせている。しかしながら、個々の詳細や境内での全体的な状況など不明な点も多く残った。今回検出された遺構は、すでに那覇市教育委員会が報告^{#1}しているように、造成層の上下の2時期のものに大きく分けることができる。以下、今回検出された遺構について、造成層上面で検出された遺構と造成層下で検出された遺構に分けて概略を述べる。なお、M・N-21グリッドで検出された地山直上の瓦集中部を覆うように検出されたコーラル敷きの参道とみられるものは注意しておく必要がある。

a. 造成層上面で検出された遺構

造成層上面のもの及びそれ以降に造られたとみられるものも含めた。ほとんどの遺構が調査区の中央部で検出されており、基壇、参道、石列A～C、石垣A、ピット群がある。以下、それぞれについて概説する。

・基壇

那覇市教育委員会の調査で検出されたもので、本堂跡と報告されている。今回の調査では市道の区域からはずれた西側部分を再確認した（第7図）。全体の大きさは約13m×13mの方形に検出されている^{#1}。西側面、南側面の西側部分の約2mは琉球石灰岩礫の野面積みであるが、南側面の西側から約5m東側に設けられている溝は、切石により造られている。北側面のほぼ同じ位置にも、同様な溝が設けられている。溝の長さは2m余で、切石の大きさは約30×50cmのもものが主体のようである。溝以外は野面積みの基壇のようであり、溝の部分には翼廊の配置が想定されている。

西側面に用いられている石灰岩礫の大きさをみると、ほぼ中央にみられる積み石の途切れる箇所を境に、北側はやや大きめの礫が主体で、南側は小さめの礫が中心である。また、北側は若干東側に下がるラインで石積みがなされている。遺物は沖縄産施釉・無釉陶器、陶質土器、瓦類が主体をなし、褐釉陶器、青磁、白磁、染付等が得られている。

・参道

本堂跡の基壇の石積みが途切れる部分、基壇西側面のほぼ中央から西側へ延びるように検出された（第6図）。基壇との接点は判然としなかったが、基壇とほぼ直交する。コーラル状になった小礫を敷き詰めており、幅は約2mで、直線的に西側へ延びる。Jラインを南北に走る排水管を埋めた溝まではコーラル状を呈すが、溝の西側ではやや大きめの礫が幅を若干広げるように、ほぼ同じライン上の縁に並んで検出された。その縁石状のものまで含めると、約16mの長さである。

この参道が首里古地図に描かれているように、北側へ折れ曲がるものかどうかは確認できなかった。また、発掘の結果、このコーラル状の礫敷きのすぐ下から、若干大きめの礫を敷いた道が検出された。若干幅広くなり、溝の西側で検出された縁石状のものは下部の礫敷き道かもしれない。それほど時期差は感じられないが、時期が新しくなっても、参道のラインは変動しなかったものと考えられる。

・石列A

本堂の基壇跡とみられるものの南側、天界寺の井戸との間に位置し、東西方向に延びる（第9図）。本石列の東端部は基壇の西端部から約3m東側にみられる南北方向に並ぶ石垣（西側に面を有す）で、そこから約31mの

長さで検出されている。途中、攪乱等により途切れる箇所も見受けられるが、下段の1段が確認されている。

石列東端部の西側に面を有す石垣の状況を見ると、赤土の地山面を削り、整えてから50cm×30cmほどの長方形の石を設置している。その石垣の北面に合わせて北側（基壇側）に面を持つように本石列は配置されている。検出された石列の南側は1段高くなり、小礫が帯状に約50cm幅でみられた。石垣の中込石とも考えられる。

石列の中間付近（東側から約14mの箇所）にほぼ1m幅で石列の途切れる場所があり、通用口のような部分の可能性が想定された。本石列は基壇や基壇の西側に延びる小礫敷きの道にほぼ平行に走ることから、当該時期に機能していたものかとみられる。

遺物の出土量はそれほど多くなく、青磁、褐釉陶器（中国産・タイ産）、沖縄産施釉・無釉陶器、瓦、貝殻等が得られている。

・石列B

調査区の南西側、M・N-24グリットで検出されている（第10図）。最下段の石列かとみられるものが、若干西側へ傾斜しながら東西方向に約6m確認でき、さらに西側へ延びるようである。約40cm幅で相対するように検出され、溝状遺構かと想定される。東側延長部にジャリの広がり若干みられることから、もう少し東側へ延びていたかと推察される。底面に残るジャリの状況からすると、底面にも礫が敷かれていたかと想定される。石列の高さは不明。使用されている礫の大きさは30～50cm大のものから拳大程のものが用いられている。石列の下部に暗褐色土層がみられることからすると、比較的新しい時期のものかとみられる。

・石列C

調査区の南西側、石列Bの約2m南側で検出されている（第10図）。N-25グリットで検出され、調査区外の西側へ延びる。本石列も石列Cと同じようにジャリ様の小礫の上に大きめの礫を配置している。全体的な状況から幅約1mの屋敷囲いの石垣が想定される。本石列の東側は礫はみられず、約2m離れた箇所に礫の広がりが見られることからすると、礫のみられない部分は通用門の可能性も想定できる。本石列の下部には礫混褐色土がみられ、時期的には石列Bと同じ頃の遺構かと考えられる。

・石垣A

調査区の中央部と南側部分を分けるように東西に走る石垣である（第8図）。東側は井戸に行くように、上部をコンクリートで覆っている。24ラインにみられ、20m余り検出されている。戦後の攪乱により壊れている箇所も見受けられる。コンクリートで覆われている東側は石積みが4段みられるが、それ以东は2・3段の検出である。石垣の幅を見ると、東側は約2m幅みられるものの、西側は約1.4m幅である。石垣の面を有す両側は大きめの礫を積み、小さめの礫で内部を充填している。褐色混礫土層から立ち上がる。天界寺の新しい時期のものかと推察される。

・ピット群

調査区南側、天界寺の井戸の西側で検出されたピット群である（第14図）。地山上面で検出されたものであるが、この地域の全体的な状況から造成層以降に属するものと解した。比較的まばらな感じで検出され、東側に多くみられ、調査区外の南側への展開も想定される。ほとんどが円～楕円形状のもので、径が約20cm前後、深さが約30cm前後である。南東側の長方形のものにはピット内に灰が堆積し、魚骨が集中的に出土しており注意される。この地域を細かく区画するように、約10mの間隔で東西方向に走る溝状のものが検出され、南側の溝は西側で北に折れ曲がる。

b. 造成層の下部で検出された遺構

造成層を除去した段階で確認できた遺構で、黒褐色土面に形成されたものや地山上面で確認できたものがある。主に調査区の中央付近から北側で検出されている。掘込遺構、石列D、溝状石列、ピット群、円弧状遺構などが検出されている。以下、それぞれについて簡記する。

・掘込遺構

本堂の基壇跡とみられるものの西側（H・I-22グリット）で検出された（第11図）。約3.5m×2mの大きさで、東西方向に長軸を有す。中央部の深さが約50cm。掘り下げた結果、約2m×1.5mの楕円形状の掘り込みを切るように、長方形（約2.4m×1.8m）の掘り込みが東側に重複している。

楕円形状のものは掘り込みの立ち上がり部はやや斜めであるが、長方形のものはほぼ垂直になっている。第11図上段に示すように楕円形状のものは9層以下が埋土で、長方形のものは第1～8層までが埋土として認められる。また、楕円形状のものは円弧状遺構の一部を壊してつくられている。

つまり、基壇が機能する以前～円弧状遺構の後の間につくられたものといえる。いずれの掘り込みの場合も底面はほぼ平坦にしている。長方形状のものは下層に15cm～20cm大の礫が中心に見られ、その上部に一回り小さな礫が集中してみられた。上部にはセンなどもみられ、本遺構の上面からはタイ産半練の土器の身が出土している。本遺構の性格等は判然としなかった。遺物は割と出土しており、瓦類を主体に青磁、白磁、染付、褐釉陶器、タイ産陶器、貝殻等が目立つ。

・石列D

調査区中央付近の西側、L・M-19・20グリットで東西方向に約5mの長さで3列検出されている（第13図）。3列の石列は、ほぼ等間隔である。最も南側の石列は北に面を持ち、中央と北側の石列は南に面を有す。いずれの石列も石垣Bの面から始まっており、石垣Bがつくられた後に積み上げられたことが判る。使用されている礫の大きさは北側の石列が大きめ（20～30cm大）のものが主体で、南側石列、中央石列の順に主体の礫の大きさが小さくなる。南側・中央石列はほぼ直線的であるが、北側の石列は西へ行くにつれ北側にカーブしている。いずれも調査区外の西側（玉陵側）の方へ延びる。南側石列と中央石列の間には地山直上面で瓦の集中部（灰色瓦が主体）が広がり、中央石列は瓦集中上面から立ち上がっている。礫の大きさからすると、北側石列と南側石列が対応するものかとみられ、中央石列は別の意味合いのものかと考えられるが、詳細は判然としない。

・溝状石列

調査区の北西側、L-17・18グリットで検出されている（第12図）。地山の上層の黒褐色土層面に造られている遺構であり、天界寺の古い時期に属するものとみられる。底石として50cm大のニービ（細粒砂岩）を敷き、その底石の両側の端から立ち上がる石列で縁部をつくる。使用されている石灰岩はそれほど大きくなく、野面である。西壁から6.5mの長さで東側に延びる。東端部は底石だけがみられ、さらに東側に延びていたのか詳細は不明。両石積みは約30cm幅である。

ゆるやかに北側の方へカーブしながら、西壁にぶつかり、さらに西側へ延びる。底石は西側へ傾斜するように敷かれている。石積みの高さは約60cmである。褐釉陶器（中国産・タイ産）を主体に白磁、染付、瓦類が得られている。

・ピット群

今回の調査範囲の中央付近から北側の地山上面で検出（第14図）されたピット群である。平面が円～楕円形状を呈し、径が約50～60cm前後、深さが約60～70cm前後のものが主流である。蜂の巣状に検出されたピット群の中から平面プランの想定できたものが2基みられる。調査区中央の西側と北側の中央付近で確認でき、いずれも長軸を東西方向に持つ、長方形状のプランである。前者は6つのピットで構成され、全体の大きさは約2.5m×5mで、各ピットの間隔は約2.5mである。後者は北東側は未確認だが、18のピットで構成されるものとみられ、全体の大きさは約6m×10mで、東・西のピットの間隔は約1.5m、南・北のピットの間隔は約2mである。

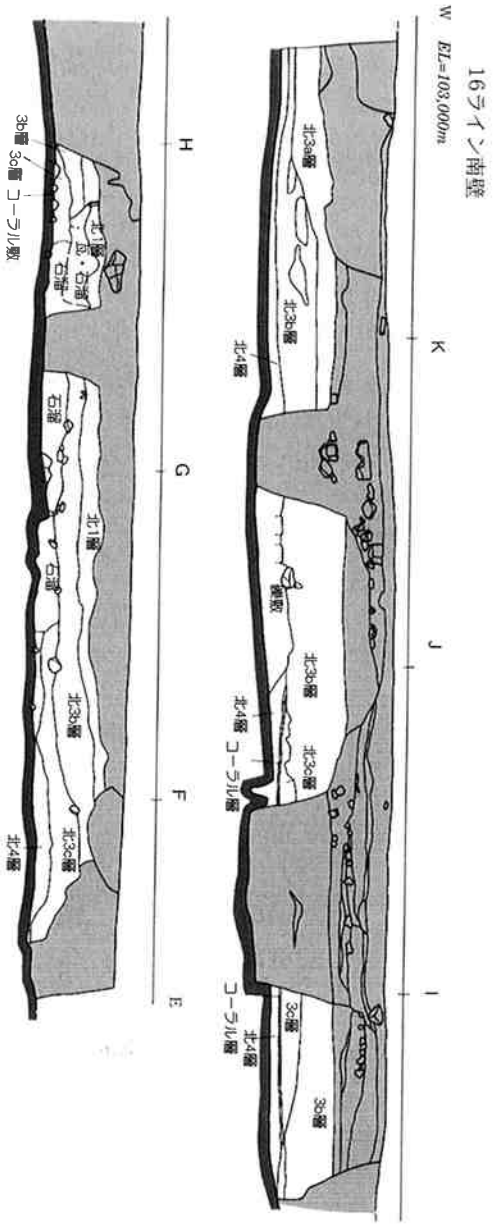
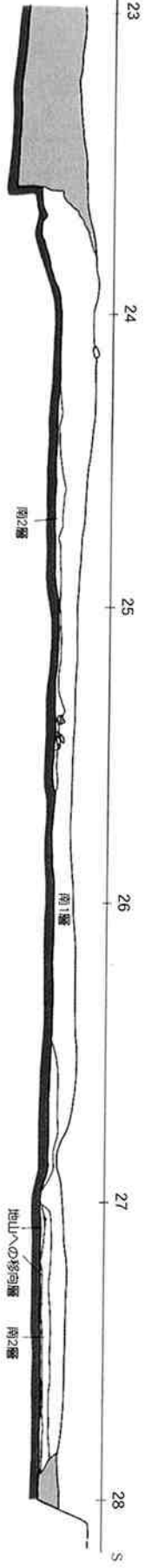
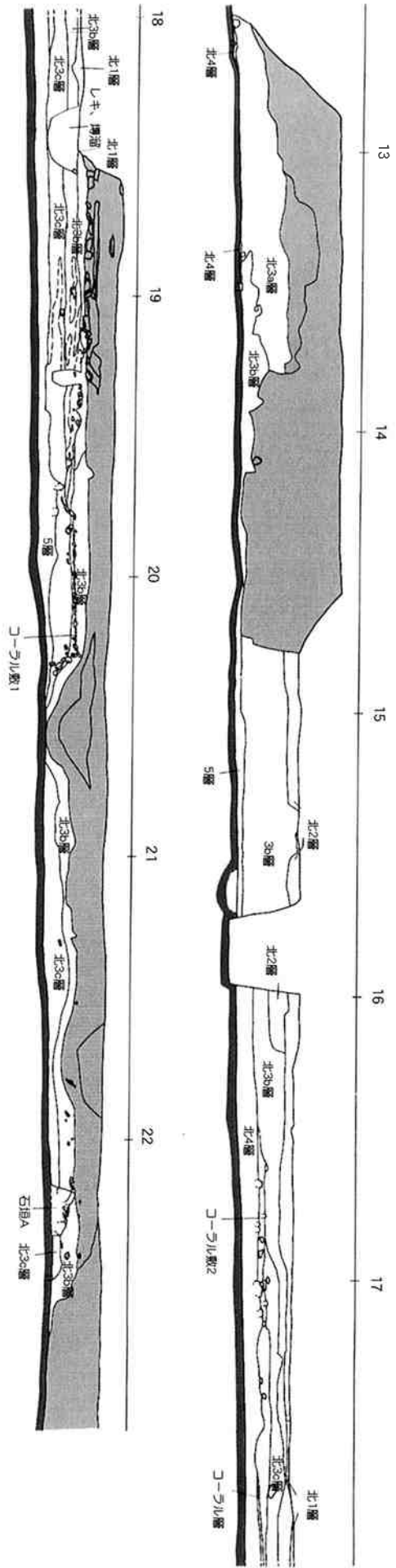
・円弧状遺構

地山上面で6基確認されている（第15図）。検出された場所をみると、調査区の中央付近に集中しており、南西側に2基、中央部に1基、東側に2基、北西側に1基である（第14図）。いずれも外周に幅約30～40cmの溝を配し、その内側はほぼ平坦面をなし、ピットが検出される部分とそうでない部分を有するという似たような特徴がみられる。大きさをみると直径が約4mのもの（4・5）、4.6mを測るもの（1・2）、3.6mのもの（3）が見受けられる。また、1は溝が2重にみられ、2・3は溝が部分的に2重になる。溝の幅はほとんどが約30～40cmであるが、1の内側の溝と3の溝は幅が約20cmである。

〈註〉

註1. 島 弘編 「天界寺跡」 那覇市教育委員会 2000年3月

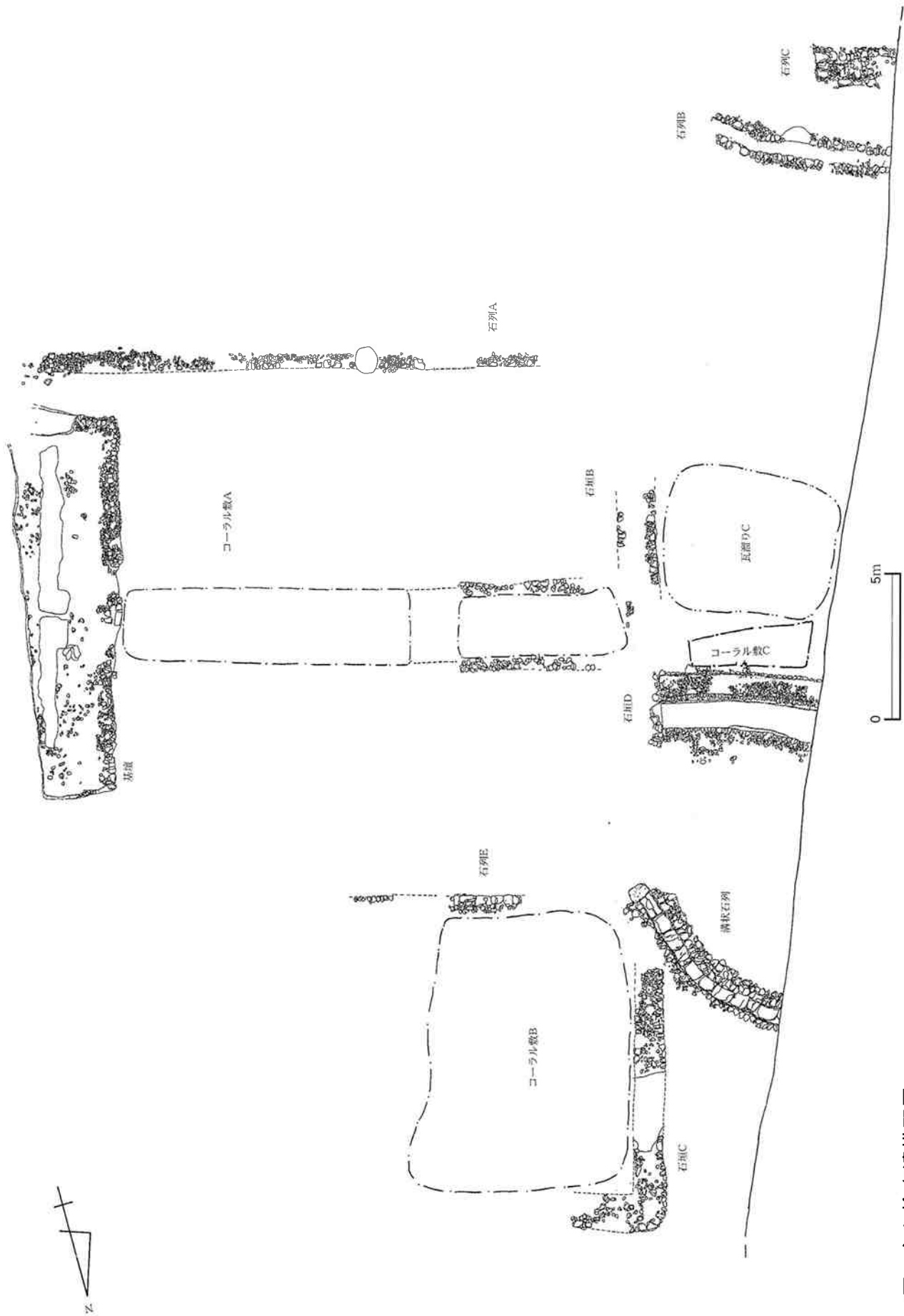
Jライン西壁
N EL=103,000m



- 凡例
- | | |
|----------------|-----------|
| 北側 | 南側 |
| 1 茶褐色強しキ土 | 1 暗褐色強しキ土 |
| 2 黒褐色土 | 2 暗褐色土 |
| 3a 暗赤褐色炭・砂粒混土 | |
| 3b 暗赤褐色土 (しき砂) | |
| 3c 暗赤褐色強しキ土 | |
| 4 黒褐色土 (しき、炭粒) | |
| | ■ 地山 |
| | ■ 埋乱 |

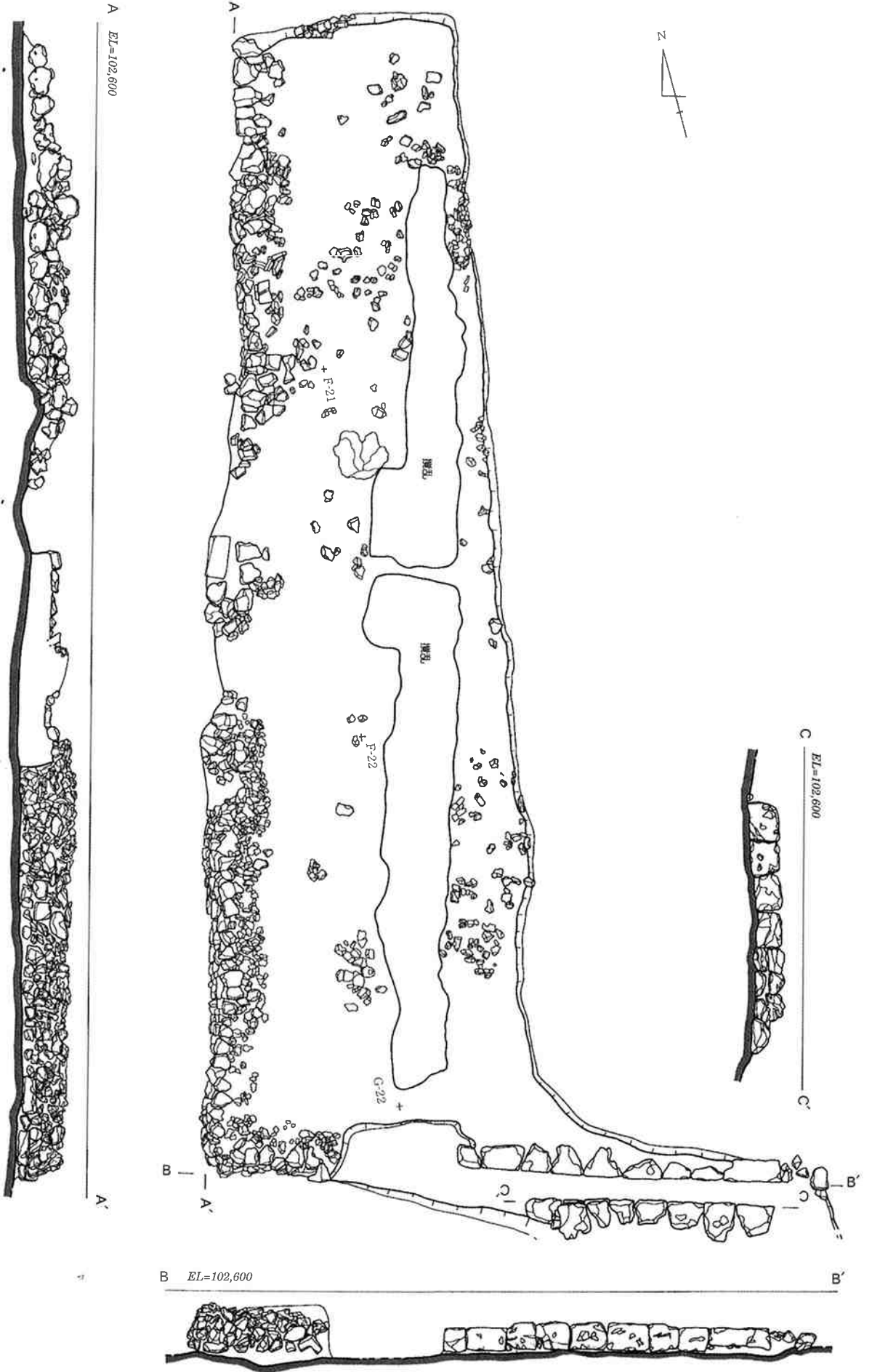


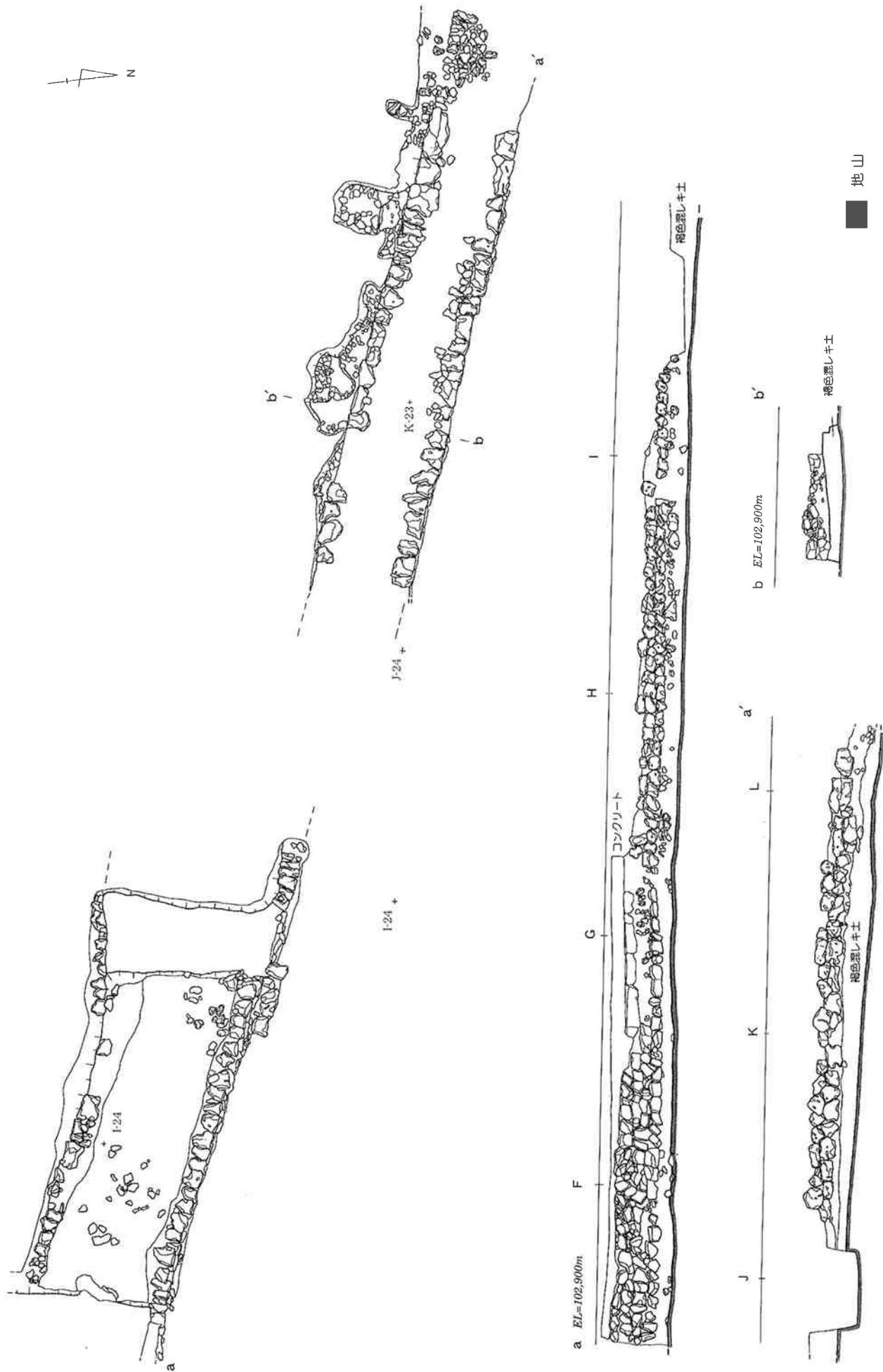
第5図 層序 (Jライン、16ライン)



第6図 主な検出遺構配置

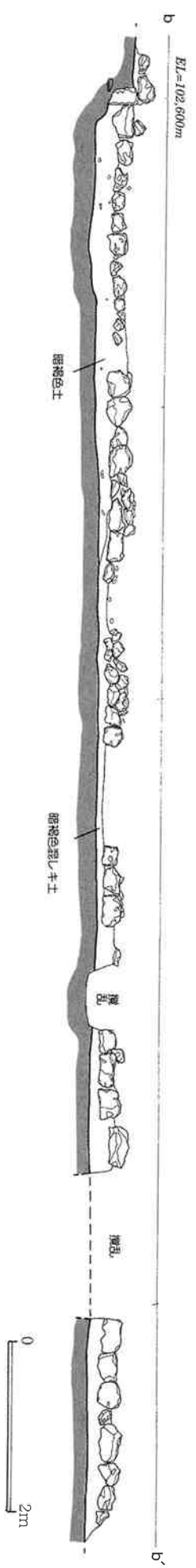
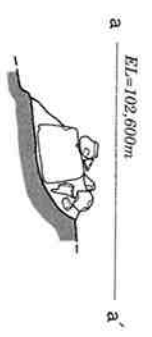
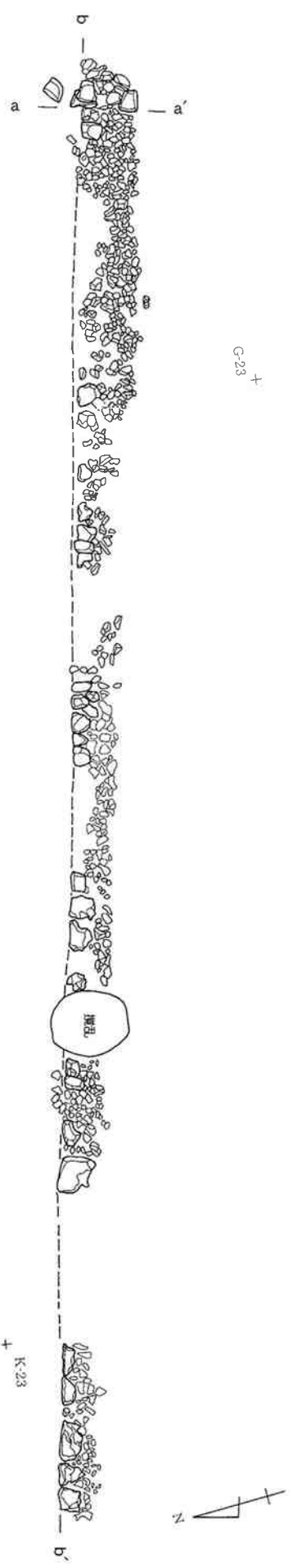
第7図 基壇 (F・G-21~23)



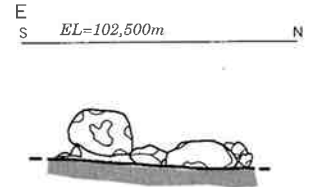
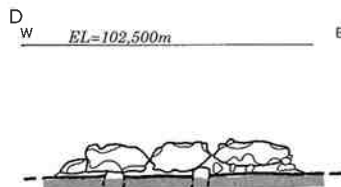
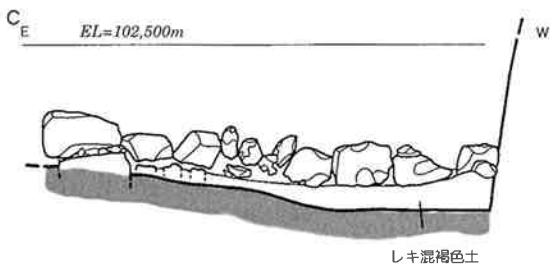
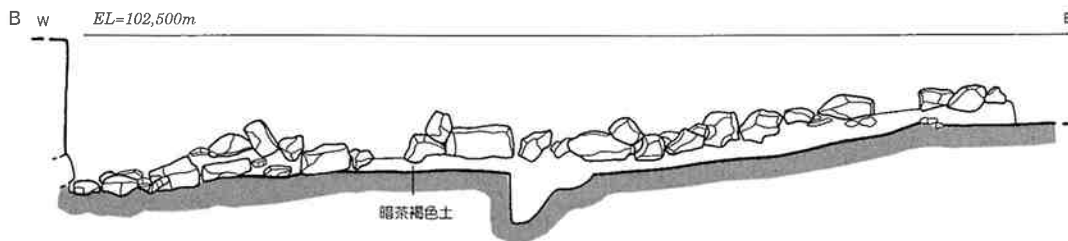
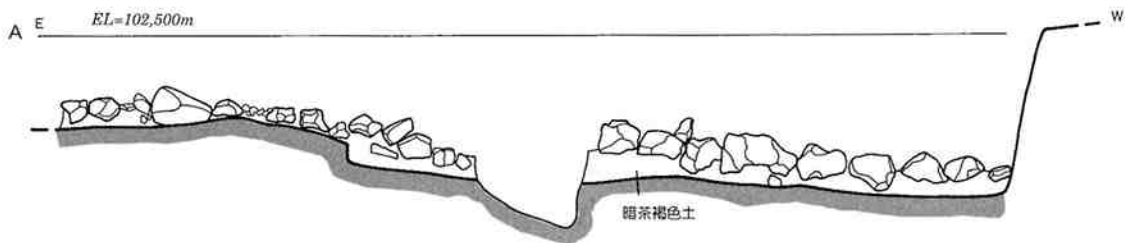
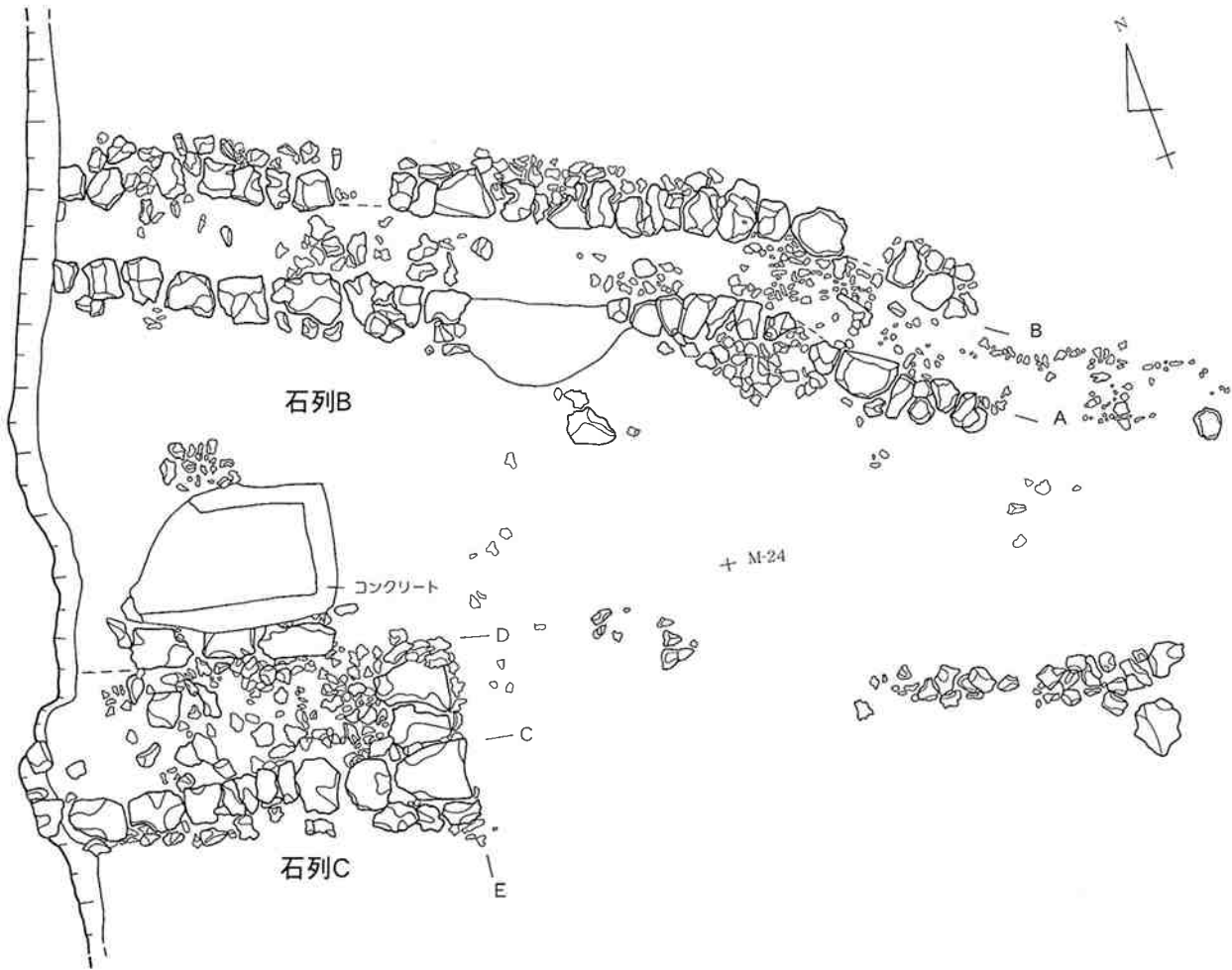


第8図 石垣 (H~J - 24)

G-23



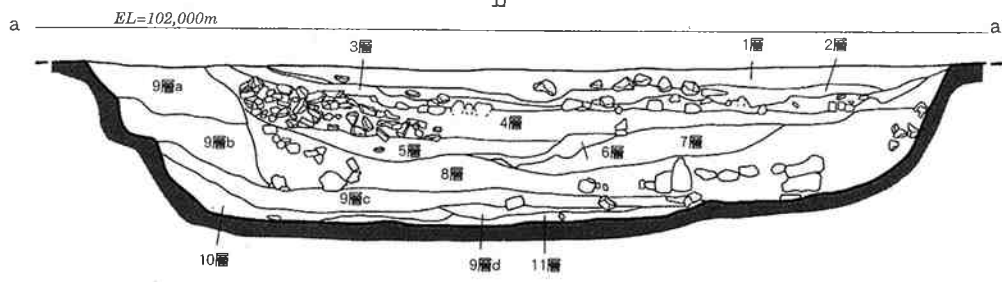
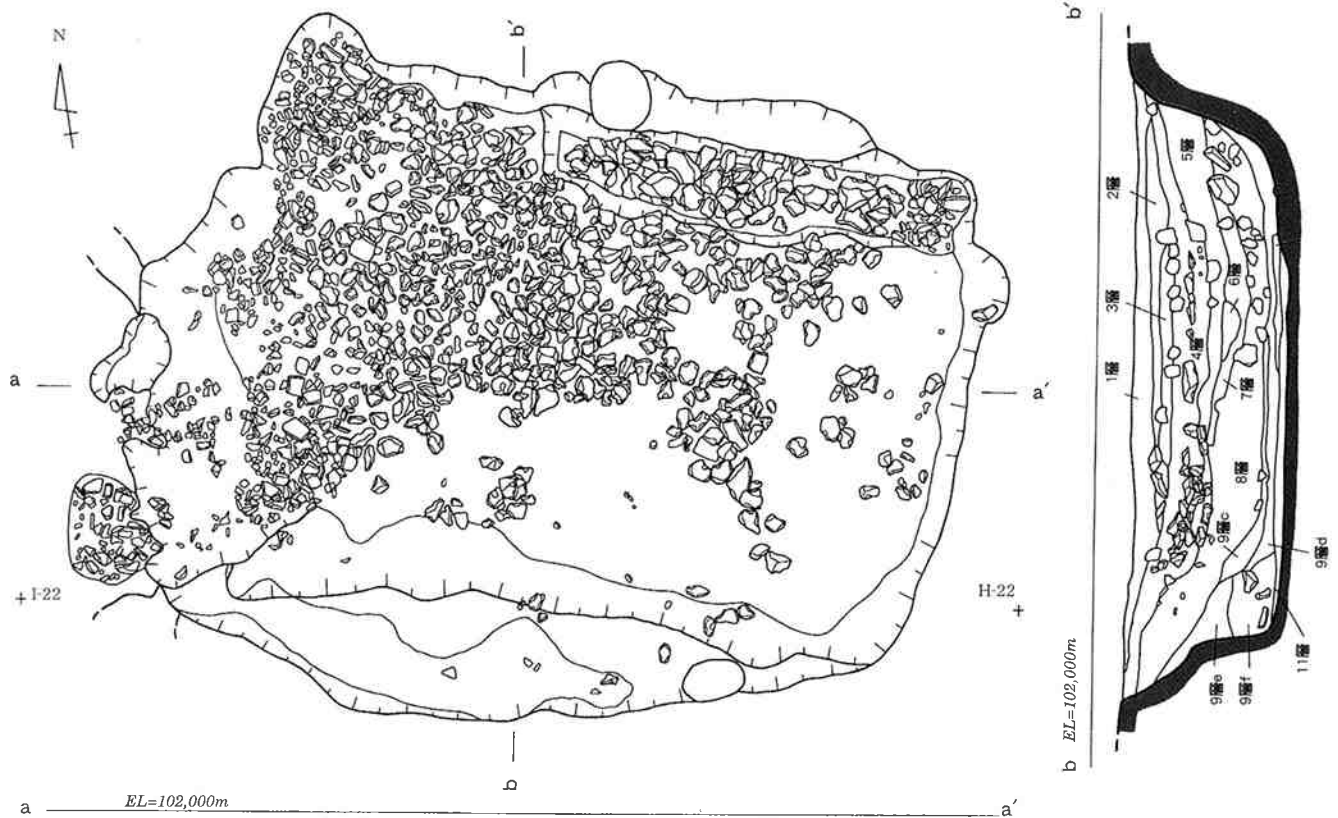
第9図 石列A (G~K-23)



■ 地山



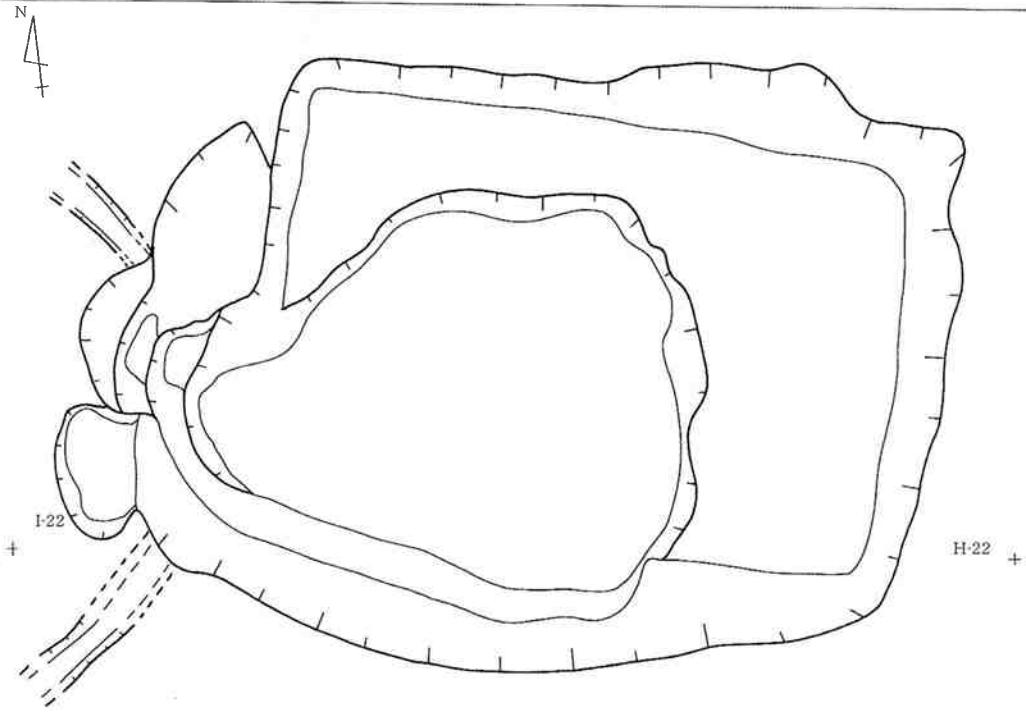
第10図 石列B、C (M-24)



長方形掘り込み遺構内層序

1層	褐色土 (小礫含)
2層	暗赤褐色混暗褐色土 (小礫含)
3層	暗褐色土 (20cm大の集石)
4層	礫集中部
5層	暗赤褐色土
6層	暗褐色土
7層	暗赤褐色混暗褐色土
8層	黒褐色土
9層a	暗褐色土
9層b	暗茶褐色土
9層c	暗褐色土
9層d	赤土・礫混褐色土
10層	赤褐色土
11層	赤土・礫混褐色土

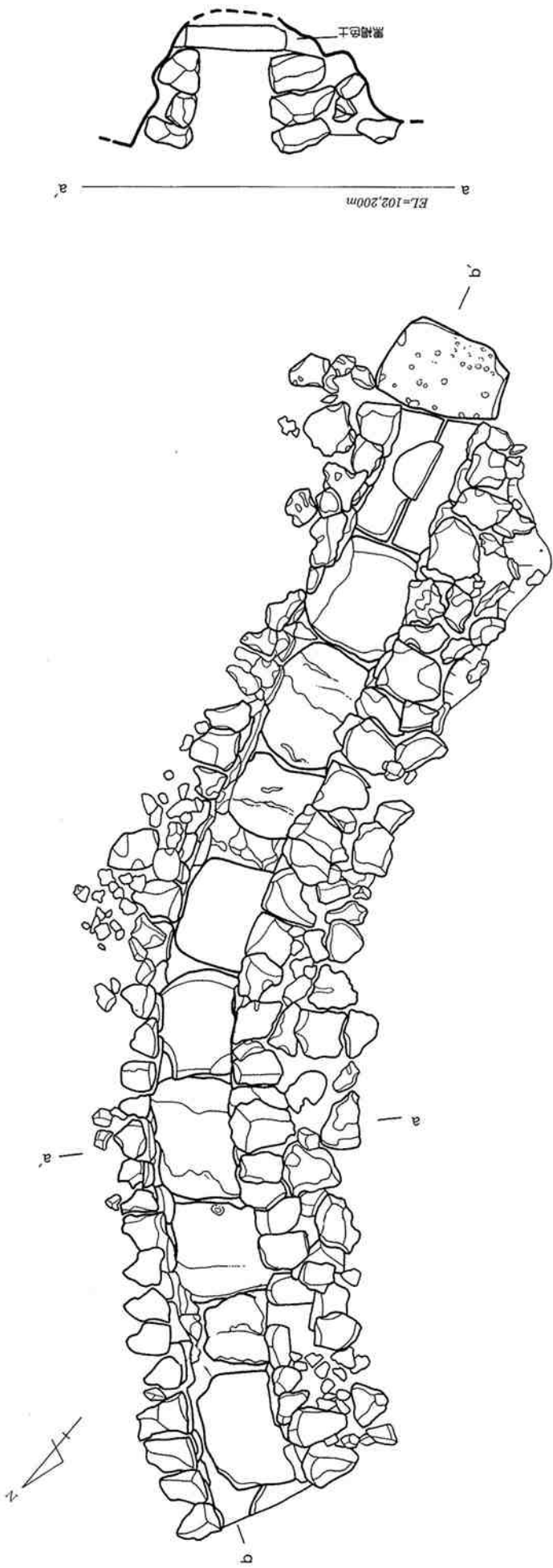
礫・埴集中面 (4層) 検出状況



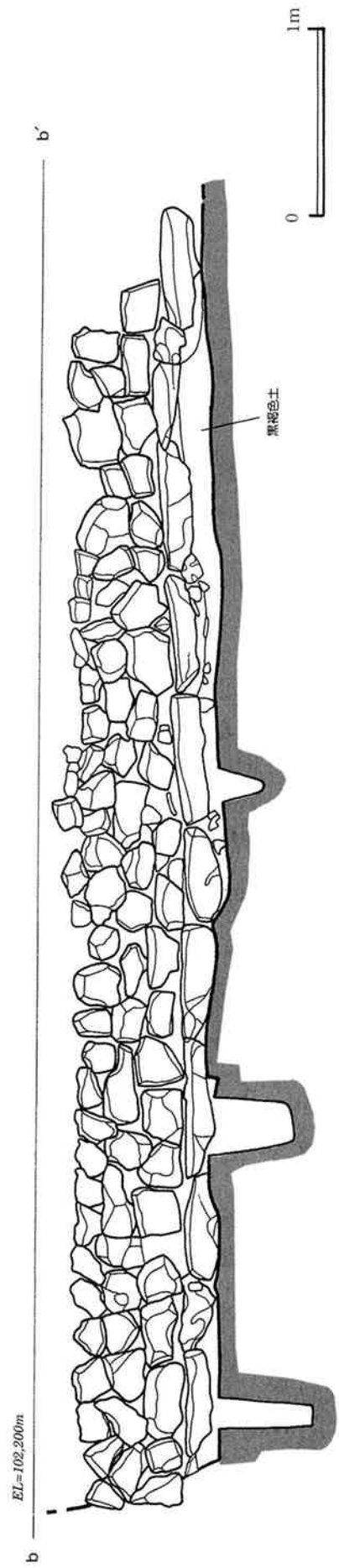
完掘状況



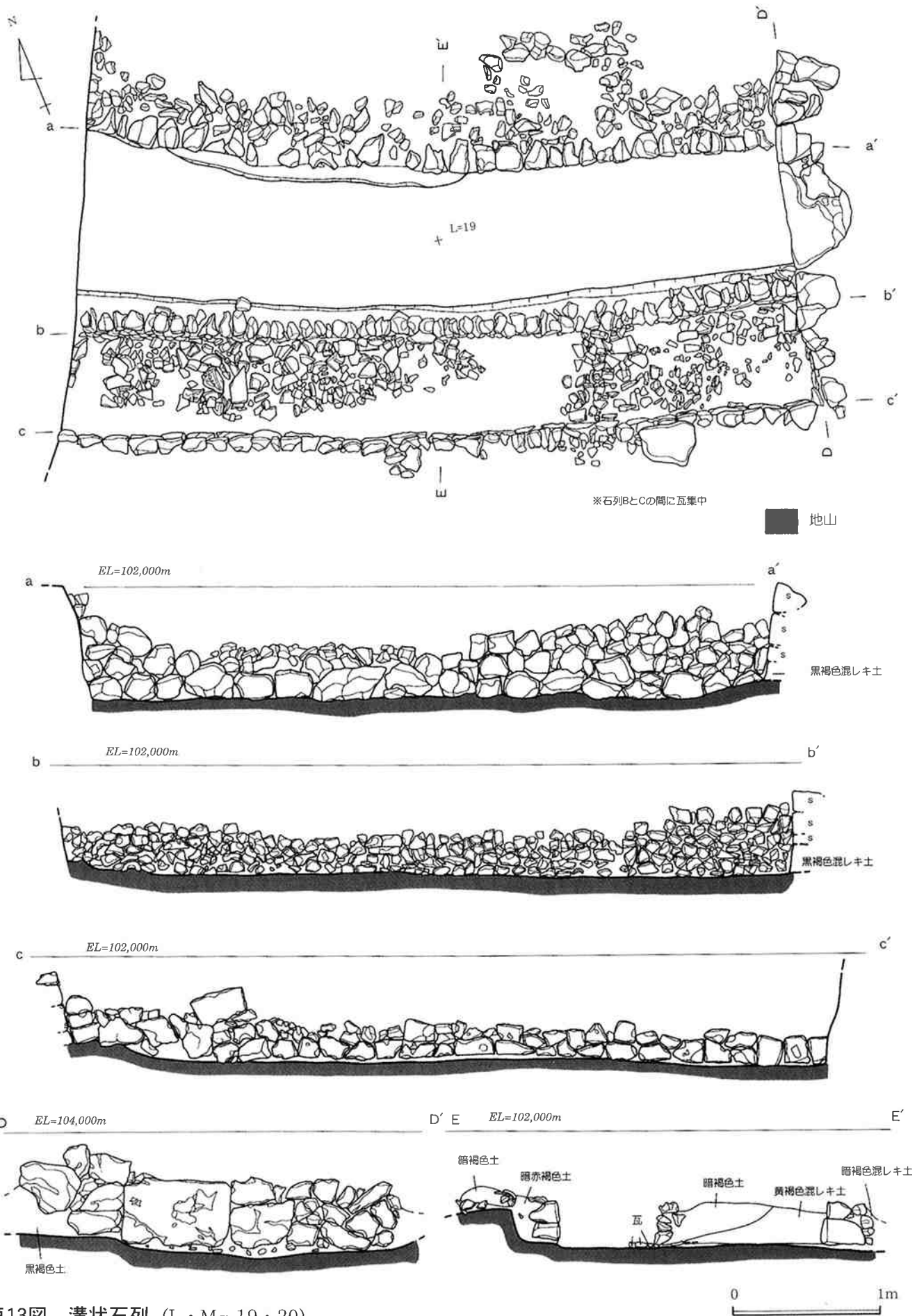
第11図 方形掘り込み遺構 (H・I-22)



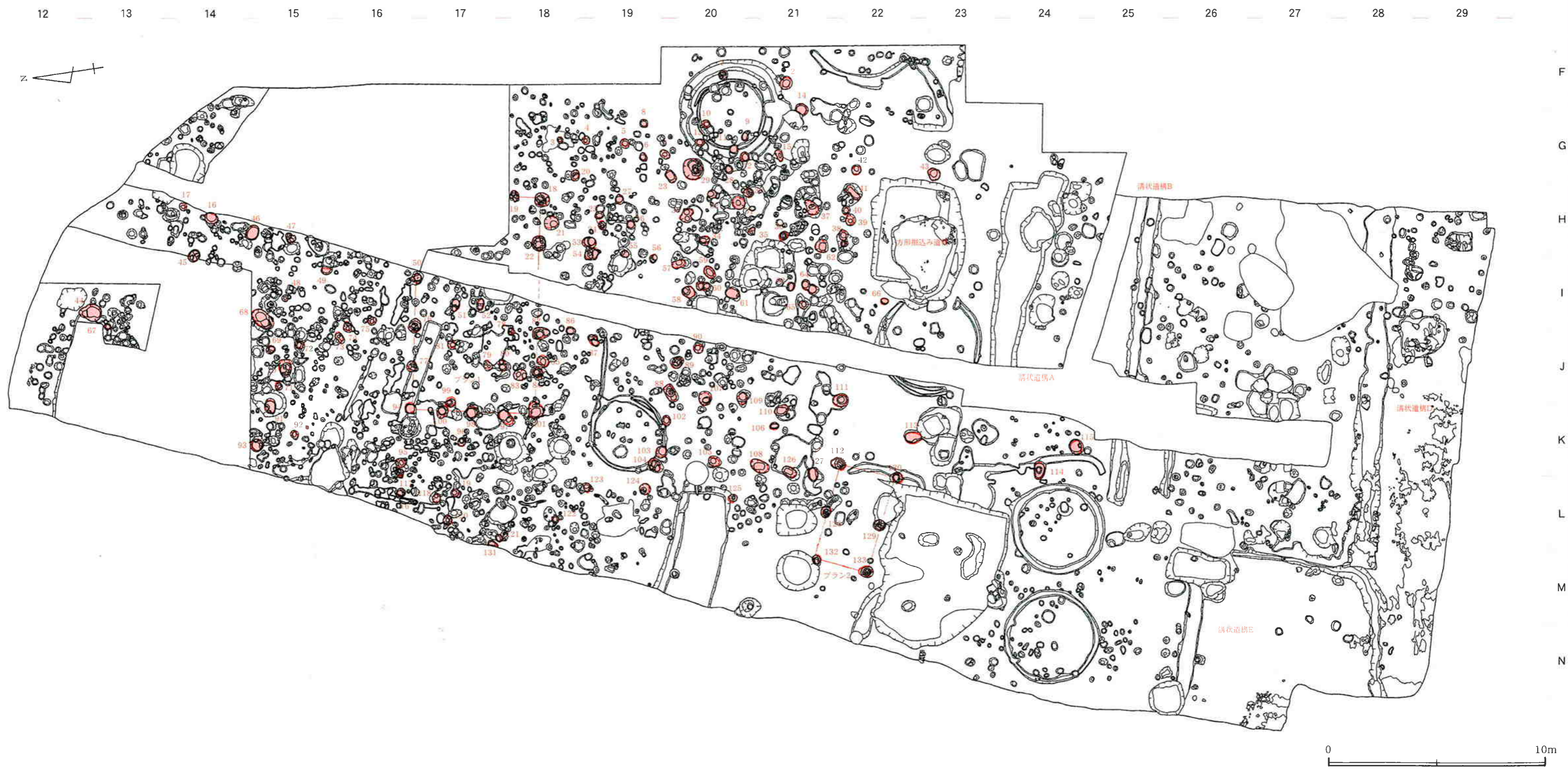
地山



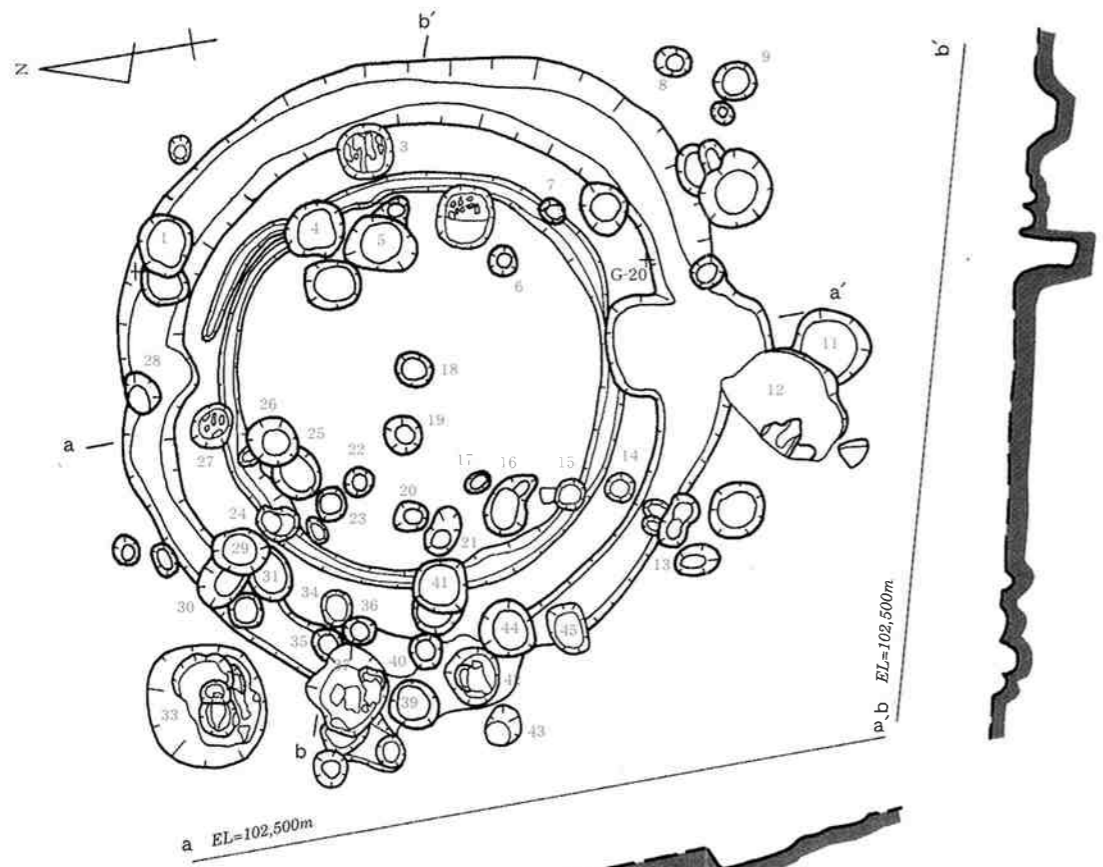
第12图 沟状石列 (L-17·18)



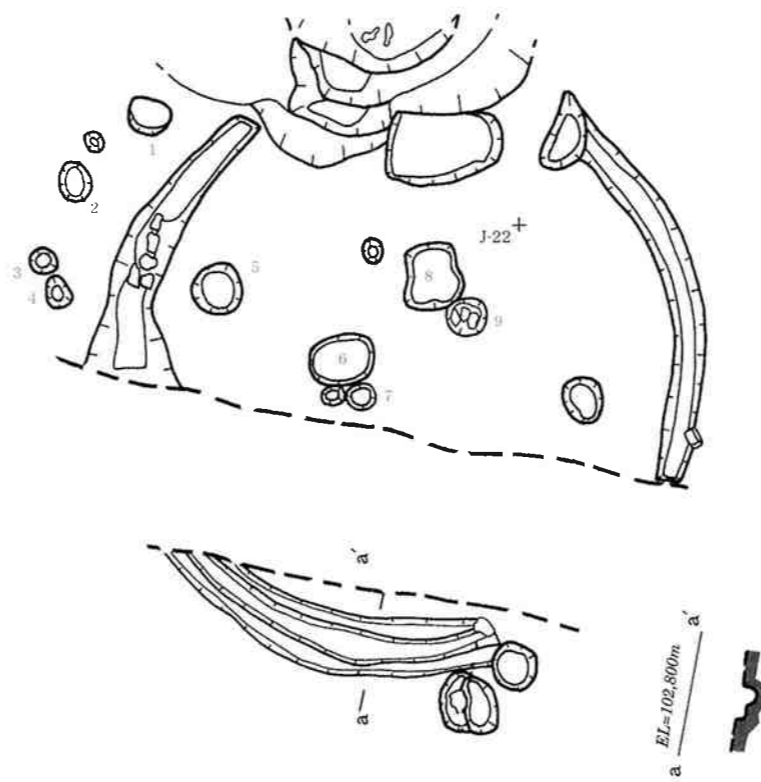
第13図 溝状石列 (L・M-19・20)



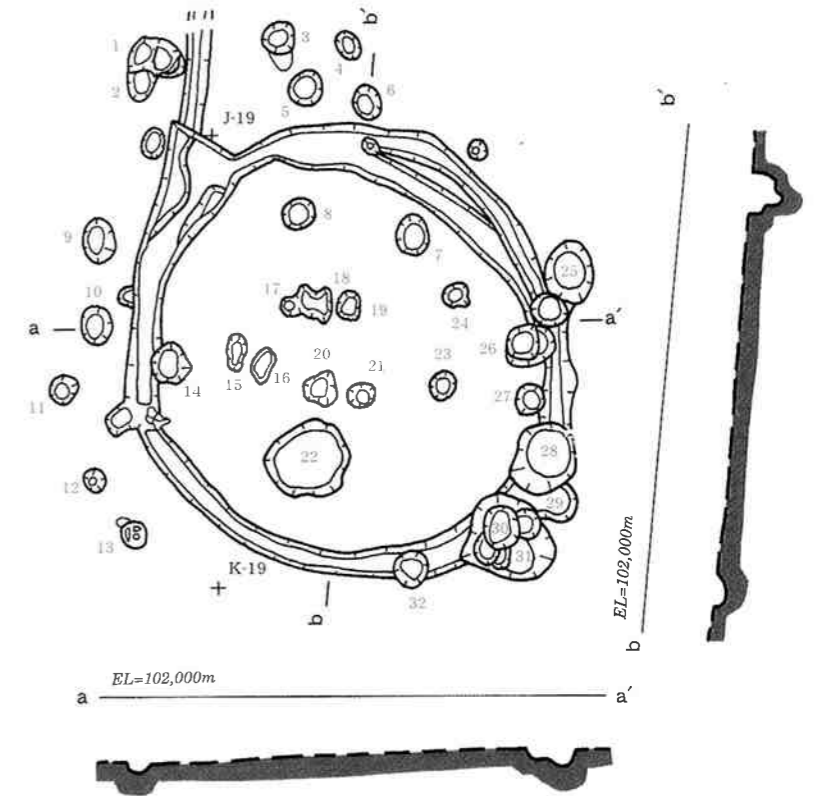
第14図 ピット検出状況 (番号：第1表に一致)



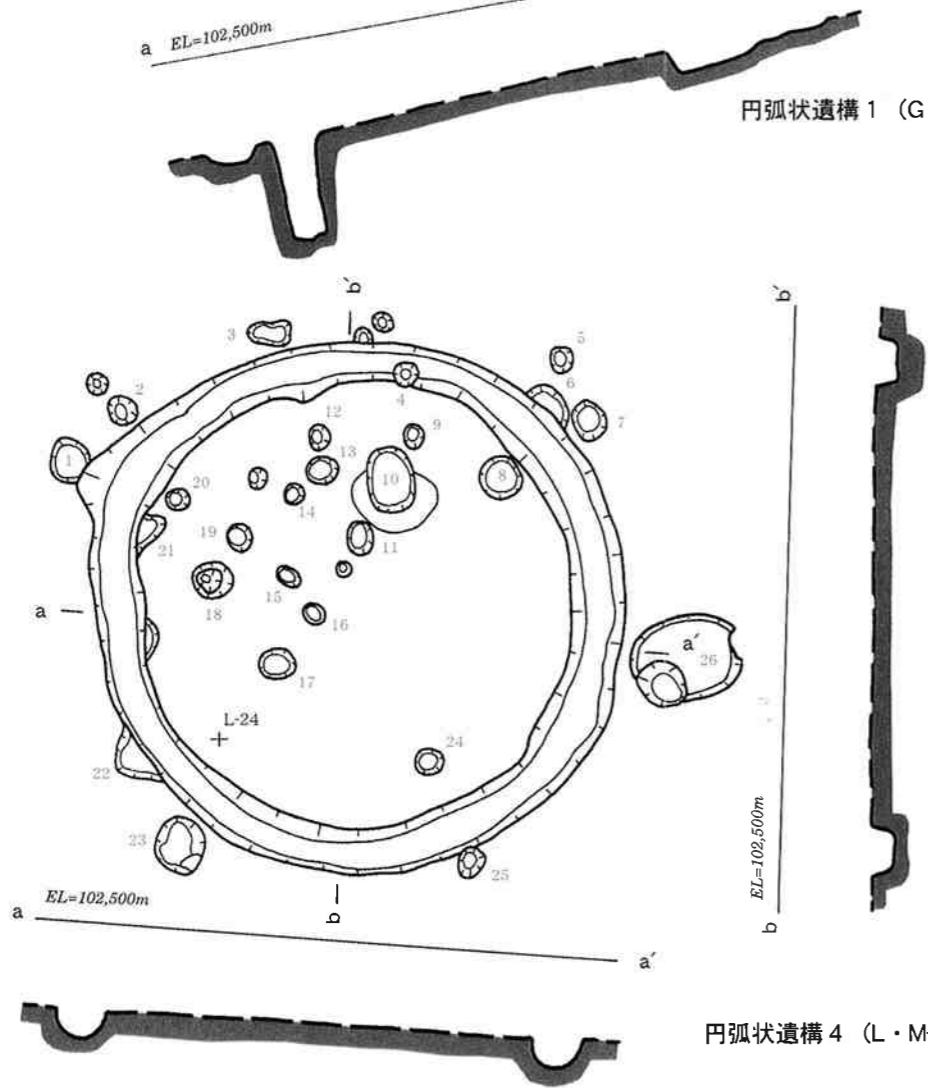
円弧状遺構 1 (G・H-20・21)



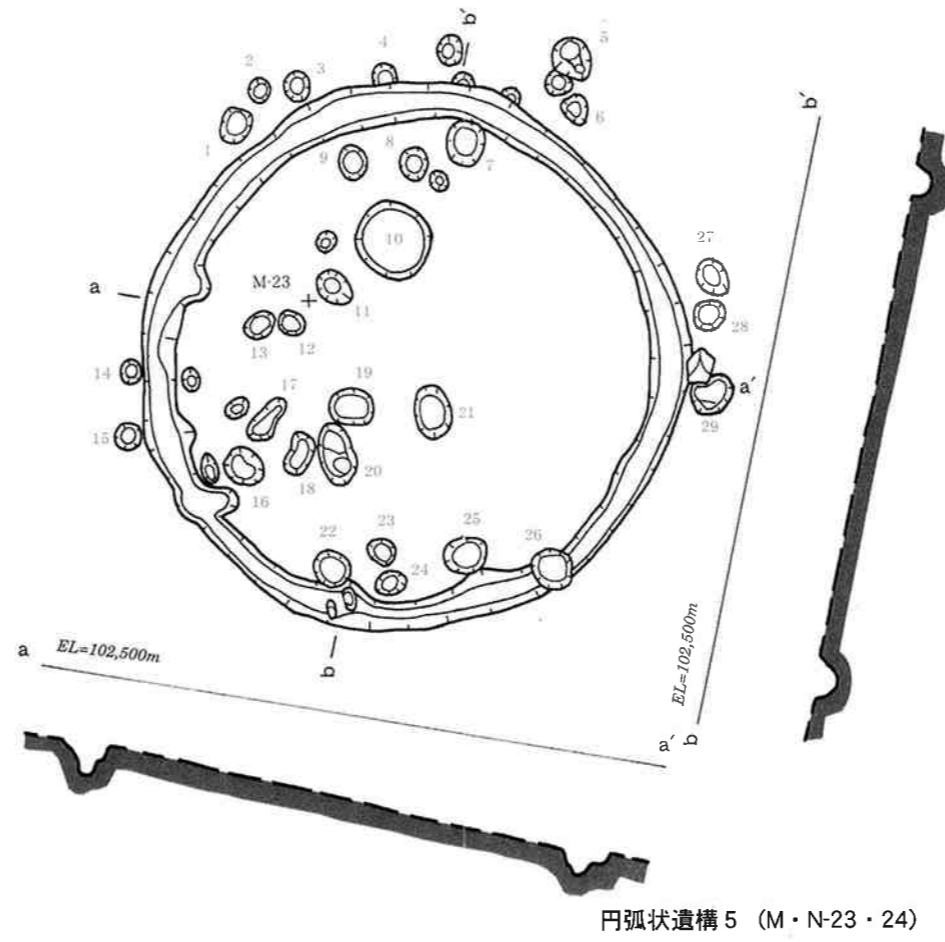
円弧状遺構 2 (I・J-22・23)



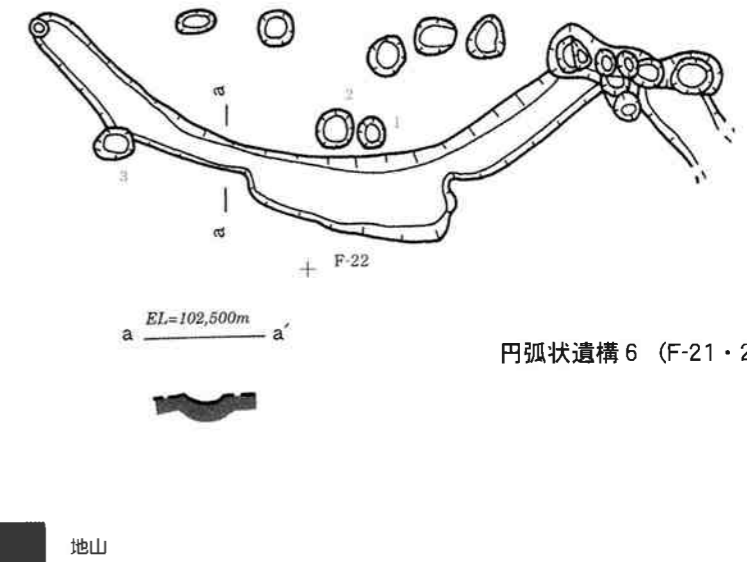
円弧状遺構 3 (K-18・19)



円弧状遺構 4 (L・M-23・24)



円弧状遺構 5 (M・N-23・24)



円弧状遺構 6 (F-21・22)

■ 地山

※遺構 1～6とも方角は同一。
周辺のピット法量は第 2 表を参照。

0 2m

第1表 ピット計測一覧 (第14図に対応)

単位: EL=m, その他はcm

番号	グリット	長径	短径	深さ	EL	出土遺物 (その他)
1	F-20	44	44	64	101.200	(※1-3)
2		64	60	76	101.200	(※1-10)
3	G-18	30	26	60	101.080	
4		38	36	64	101.000	
5	G-19	40	40	65	100.360	
6		40	34	66	100.320	
7		50	38	78	100.280	
8		36	34	60	100.400	
9		54	34	74	101.060	(※1-16)
10	G-20	44	32	86	101.000	銭貨1 (※1-26)
11		44	42	76	101.020	(※1-41)
12		50	46	82	100.980	白磁2、土器1、獣骨1 (※1-44)
13		46	36	77	100.980	白磁1、獣骨1 (※1-29)
14	G-21	61	45	84	100.980	(※1-11)
15		60	37	104	100.780	
16	H-14	56	56	90	100.260	獣骨1
17		40	32	75	100.420	
18		72	70	90	100.700	(プラン1)
19	H-18	50	45	84	100.760	(プラン1)
20		50	45	70	100.900	
21		70	65	86	100.900	
22		70	60	76	100.800	(プラン1)
23	H-19	60	43	58	100.720	
24		40	32	80	100.100	
25		40	36	70	100.200	
26		84	46	64	100.260	タイ産褐釉陶器1、円盤状製品1、獣骨2
27		40	40	68	100.160	
28		40	38	74	101.060	(※1-39)
29	H-20	96	90	74	101.000	青磁3、白磁1、貝1 (※1-33)
30		46	40	86	100.800	青磁3、獣骨2、魚骨2
31		72	60	62	101.180	青磁3、銭貨2、中国産褐釉陶器1、貝1
32		54	42	52	101.240	
33		72	50	70	101.000	青磁7、銭貨1、中国産褐釉陶器1、獣骨1
34		40	30	88	100.840	
35		38	20	88	100.900	
36		42	30	90	100.820	
37		64	46	100	100.820	石製品1、貝1
38		86	54	60	101.160	青磁2、魚骨1
39	H-21	50	44	74	101.060	
40		38	36	80	101.140	
41		100	50	94	100.860	
42		50	36	82	101.120	
43	H-22	60	50	60	101.160	貝4
44	I-12	100	80	70	99.300	黒釉陶器1、貝3、獣骨1
45	I-14	50	36	76	100.300	
46		66	50	80	100.300	
47		52	50	94	100.280	
48	I-15	46	31	60	100.620	中国産褐釉陶器1、タイ産褐釉陶器1
49		72	54	106	100.140	
50	I-16	62	50	70	100.700	青磁3、魚骨1 (プラン1)
51	I-17	56	36	60	100.980	青磁7、中国産褐釉陶器1、銭貨1、青銅製品1、鉄製品1、貝2、獣骨3
52		58	50	68	100.640	青磁1、銭貨2、陶質土器1、獣骨5、魚骨3
53	I-18	75	55	62	100.980	
54		64	62	68	100.920	
55	I-19	75	50	92	100.740	
56		40	35	60	101.000	
57		120	98	76	100.860	中国産褐釉陶器1、貝1、獣骨1
58	I-20	68	56	86	100.780	
59		52	50	62	100.980	獣骨1
60		70	56	68	101.000	
61		66	28	68	100.940	貝1
62	I-21	82	68	82	101.080	中国産褐釉陶器1、土器1、玉1、鉄製品1
63		40	40	72	101.040	
64		86	45	76	101.060	青磁1、白磁1
65		48	40	70	101.100	
66	J-22	38	38	63	101.110	(※2-1)

番号	グリット	長径	短径	深さ	EL	出土遺物 (その他)
67	J-13	44	29	62	99.490	
68	J-15	110	78	68	100.460	青磁3、白磁1、貝1
69		56	40	86	100.300	
70		95	70	108	100.120	青銅製品1
71	J-16	36	28	60	100.600	
72		58	56	94	100.300	
73		40	40	120	100.000	
74	J-17	50	30	60	100.640	貝3、獣骨1
75		43	38	55	100.680	
76		80	55	54	100.860	(プラン1)
77		54	46	80	100.520	魚骨1 (プラン1)
78	J-18	36	34	56	100.980	貝1
79		46	32	58	100.920	
80		54	44	50	101.000	中国産褐釉陶器1
81		42	30	60	100.820	
82	J-19	80	50	56	100.000	(プラン1)
83		56	48	72	100.820	
84		54	50	64	100.860	(プラン1)
85		56	52	72	101.000	
86	J-20	44	38	60	100.920	中国産褐釉陶器1、獣骨1
87		60	42	62	100.880	黒釉陶器1
88	K-15	84	52	96	100.560	青磁1、染付1、沖縄産施釉陶器1、貝1
89		56	50	90	100.640	
90	K-16	50	48	64	100.960	
91		62	50	64	100.340	青磁3、中国産褐釉陶器1、貝13、獣骨15、魚骨13
92		44	38	64	100.460	染付1、貝2
93	K-17	68	56	80	100.140	(プラン1)
94		52	42	65	100.640	
95	K-18	54	52	72	100.640	沖縄産無釉陶器1、貝1
96		44	36	60	100.780	黒釉陶器1
97		50	36	60	100.800	(プラン1)
98	K-19	78	50	66	100.740	青磁1、中国産褐釉陶器1 (プラン1)
99		50	42	60	100.800	
100	K-20	56	46	74	100.660	(プラン1)
101		60	60	80	100.660	青磁3、瓦質土器2、貝1、獣骨2 (プラン1)
102	K-21	48	38	67	100.810	青磁2、銭貨1 (※3-25)
103		58	45	62	100.900	(※3-28)
104		33	26	55	100.970	(※3-30)
105	K-22	62	60	76	100.640	
106		46	30	74	100.800	
107		70	52	66	100.940	
108		88	54	76	100.800	
109	K-23	82	50	69	100.980	
110		46	42	64	100.980	
111	K-24	70	56	68	101.040	
112		50	50	68	100.940	(プラン2)
113	L-16	54	52	78	100.920	貝3
114		64	46	74	100.980	
115	L-17	68	60	78	101.120	貝1
116		44	36	72	100.600	
117		52	40	68	100.660	
118	L-18	58	36	58	100.780	
119		50	40	56	100.800	青磁1、銭貨1、貝3
120	L-19	44	40	60	100.720	備前焼1、貝2、獣骨1
121		34	30	60	100.800	
122	L-20	44	34	68	100.720	中国産褐釉陶器1、貝7
123		36	32	60	100.860	
124	L-21	54	48	82	100.640	
125		44	42	62	100.900	
126	L-22	90	54	78	101.220	
127		70	45	72	99.800	
128	M-17	50	42	50	101.020	青磁1、黒釉陶器1 (プラン2)
129		60	50	72	100.920	(プラン2)
130		52	45	40	101.320	(プラン2)
131	M-21	40	26	76	100.960	
132		50	40	42	100.920	(プラン2)
133	M-22	55	50	60	100.780	(プラン2)

※=「第2表円弧状遺構周辺ピット」中の遺構番号

第2表 円弧状遺構周辺ピット計測一覧

単位：EL=m、その他はcm

遺構	番号	長径	短径	深さ	EL	出土遺物 (その他)
1	1	44	43	54	101.270	
	2	46	22	28	101.510	
	3	44	44	64	101.200	(※1)
	4	48	44	52	101.320	
	5	50	45	56	101.320	
	6	22	22	22	101.670	
	7	20	18	12	101.720	
	8	27	22	12	101.860	
	9	34	30	58	101.220	
	10	64	60	76	101.200	(※2)
	11	61	45	84	100.980	(※14)
	12	92	74	52	101.380	
	13	48	22	42	101.420	
	14	22	22	16	101.560	
	15	26	24	14	101.660	
	16	54	34	74	101.060	(※9)
	17	22	16	10	101.690	
	18	26	25	12	101.710	
	19	30	30	22	101.570	
	20	27	23	24	101.560	
	21	40	24	17	101.630	
	22	20	20	41	101.380	
	23	25	23	15	101.630	
	24	23	20	17	101.530	
	25	38	30	23	101.530	
	26	40	32	86	101.000	銭貨1 (※10)
	27	34	34	82	100.960	
	28	35	26	68	101.020	
	29	46	36	77	100.980	白磁1、獣骨1 (※13)
	30	34	30	28	101.360	
	31	35	28	16	101.580	
	32	26	26	25	101.420	
	33	96	90	74	101.000	青磁3、白磁1、貝1 (※29)
	34	26	24	7	101.720	
	35	25	20	17	101.600	
	36	23	21	18	101.640	
	37	74	64	54	101.640	
	38	28	28	44	101.340	白磁1
	39	40	38	74	101.060	(※29)
	40	28	28	16	101.680	
	41	44	42	76	101.020	(※11)
	42	45	45	15	101.630	
	43	28	27	18	101.660	
	44	50	46	82	100.980	白磁2、土器1、獣骨1 (※12)
	45	42	32	48	101.360	
2	1	38	38	63	101.110	
	2	29	23	11	101.630	
	3	19	18	16	101.580	
	4	24	18	8	101.650	
	5	41	39	15	101.580	
	6	52	40	12	101.580	
	7	21	19	21	101.590	
	8	50	40	12	101.690	
	9	32	29	28	101.520	
3	1	42	28	26	101.160	
	2	24	22	43	101.130	
	3	26	22	14	101.460	
	4	20	16	14	101.480	
	5	25	25	11	101.480	
	6	27	23	28	101.280	中国産褐釉陶器1
	7	28	24	17	101.290	
	8	24	23	16	101.320	
	9	35	24	14	101.320	
	10	30	24	16	101.270	
	11	30	27	11	101.310	
	12	21	19	12	101.280	
	13	20	20	24	101.200	
	14	32	28	41	101.040	
	15	26	14	8	101.400	
	16	22	14	4	101.400	
	17	18	14	10	101.380	
	18	24	14	6	101.140	

遺構	番号	長径	短径	深さ	EL	出土遺物 (その他)	
3	19	22	16	18	101.130		
	20	26	24	16	101.310		
	21	21	18	15	101.330		
	22	66	57	8	101.320	円盤状製品1	
	23	22	20	15	101.330		
	24	21	19	9	101.370		
	25	48	38	67	100.810	青磁1、銭貨1 (※102)	
	26	30	25	40	101.080		
	27	22	21	22	101.260		
	28	58	45	62	100.900	(※103)	
	29	28	25	8	101.400		
	30	33	26	55	100.970	(※104)	
	31	38	34	16	101.320		
	32	26	24	21	101.270		
	4	1	31	29	8	101.720	
		2	26	21	17	101.600	
		3	31	16	10	101.690	
		4	20	14	14	101.540	
		5	20	18	15	101.650	
		6	38	17	5	101.820	
		7	30	28	13	101.780	
		8	32	31	11	101.680	
		9	18	16	15	101.410	
		10	49	38	10	101.700	
		11	26	21	10	101.680	
		12	18	16	7	101.510	
		13	26	21	10	101.480	
		14	18	17	11	101.470	
		15	19	16	14	101.640	
		16	22	16	11	101.660	
		17	29	23	13	101.700	
		18	31	28	25	101.560	
19		22	20	7	101.500		
20		20	17	8	101.710		
21		26	21	11	101.690		
22		45	25	22	101.520		
23		45	40	16	101.560		
24		21	20	15	101.590		
25		21	19	10	101.640		
26		42	40	18	101.630		
5	1	36	23	22	101.420		
	2	17	15	17	101.500	土器1	
	3	22	20	32	101.320		
	4	18	15	11	101.620		
	5	37	30	13	101.640		
	6	23	22	18	101.580		
	7	34	33	28	101.440		
	8	21	21	9	101.600		
	9	25	22	13	101.570		
	10	61	59	30	101.410		
	11	30	21	28	101.380		
	12	21	18	12	101.520		
	13	25	19	14	101.480		
	14	18	16	5	101.550		
	15	19	19	8	101.520		
	16	30	27	23	101.380		
	17	37	20	14	101.480		
	18	30	18	11	101.510		
	19	34	26	3	101.530		
6	20	46	28	24	101.400		
	21	38	29	21	101.400		
	22	31	27	27	101.310		
	23	23	19	15	101.460		
	24	23	18	12	101.500		
	25	33	28	20	101.400		
	26	30	28	16	101.470		
	27	26	23	11	101.670		
	28	24	23	7	101.670		
	29	36	30	21	101.530		
	1	22	20	15	102.000		
2	38	37	18	101.950			
3	32	24	41	101.490			

※=第1表ピット計測一覧での番号

第3表 遺物出土状況

種類	出土地		南圃										北圃										合計																		
	表土・覆土	畦	トレンチ					1層					2層					3層						4層																	
			1層	2層	3層	4層	1層	2層	3層	4層	1層	2層	3層	4層	1層	2層	3層	4層	1層	2層	3層	4層																			
青磁	674	158	24	158	247	274	116	119	50	484	597	132	78	224	114	110	20	1	41	20	28	13	14	58	4	25	47	6	55	1	105	3	2	2	1	365	115	1424	5920		
白磁	178	18	5	32	57	118	34	21	4	51	64	14	17	22	31	11			8	4	5	2	3	9		7	10	2	6	1	48				43	23	200	1048			
袋付	326	25	9	98	61	162	48	32	3	41	46	14	10	9	19	4	2	1	15	1	4		3	10	1	6	7		3	1	44				18	20	227	1270			
鉄軸袋付	6	2		1	1	1												1																							
磁器軸・磁器軸袋付	16			1	7	6	8	1		2	1	1																													
磁器軸	1			3	1	1	3			1	2																														
中国産色絵	30			3	2	3	1	1		3																															
三彩	11	1		6	5	17	2	1		1	2	1																													
真鍮器系	1																																								
産地不明陶器	3																																								
粉青沙器	1																																								
泉州窯系磁器																																									
黒釉陶器	24	2	1	8	8	5				3	1	1																													
褐釉陶器	672	120	46	152	258	329	151	198	51	393	362	115	24	155	82	60	13	3	36	29	35	7	24	33	2	26	97	6	144	6	2	211			15	4	37	172			
タイ産褐釉陶器	157	22	9	35	39	72	16	26	12	128	67	16	10	35	17	8	7		6	13	1	1	6	2	1	2	9	1	17	4	124			37	25	241	1166				
タイ産半線土器	15	4	2	12	7	1	6	2	18	24				1	9	7	5		1		3	1	1	1	1	1	1	1	1	3											
本土産磁器	262	29	1	9	3	8	1	8		18	7	10	1	1	1	1			1																						
本土産陶器	25	2	17	16	31	8		2		9	6	5		3	3																										
沖繩産施釉陶器	1418	79	1	63	28	60	19	32	2	56	38	6	93	8	9	3	1	1	5	3	1	1	13	6	3	4	4	1	3	47											
沖繩産無釉陶器	985	59	1	143	47	97	24	34		52	20	14	27	7	9	1	3	1	13		6	12	8	8	5	1	4	49													
陶質土器	442	24	1	40	9	26	13	9	1	23	10	2	27	4	2	1												25													
真質土器	43	5	11	10	13	5		4	15	4	1	6	3	3					2	2	2	2	1	2	3	1	1	33													
土器	138	16	3	62	111	118	21	20	5	30	25	14	2	18	50	2	2	1	22	1	5	1	5	22	4	6	26	2	1	49											
須恵器	3																																								
土製品																																									
円盤状製品	91	9	2	16	14	18	6	4		10	6	3	5	5	2	1			3	1	1	1	3			3		12													
煙管	5			1																																					
貝製品	2			1																																					
骨製品	4	1	1	2	3					3	6			1																											
銅貨	48	9	15	32	22	12	17	8	44	57	15	5	32	3	7	1			8	2	3	3	1	6	2	2	3	1	3												
青銅製品	27	7	1	8	11	4	1	5		16	19	6	2	12	1	1			2	1	2						1	2	2												
鉄製品	7	4		1	1	3	6	2	7	5				3	1												1	1	1												
埴輪																																									
玉類	3			1						2																															
石器・石製品	98	1	3	4	3	1	1	1	1	3	5	1																													
滑石製品	1																																								
石像	6																																								
埴瓦	3195	492	198	448	273	573	175	569	143	404	240	144	127	483	703	20	13	6	475	9	82	1	44	103	10	43	56														
巻貝(個体数)	406	57	10	58	99	61	14	70	36	148	421	31	27	125	35	49	4		29	5	33	4	4	23	3	12	20	1	71	2	25										
二枚貝(個体数)	206	17	1	27	36	22	13	22	77	163	447	24	12	145	13	24	15		12	11	6	4	1	6	4	1	2	59	16												
動物遺体	317	52	4	71	128	111	17	45	30	276	407	51	56	158	69	34	21		29	3	17	2	3	17	5	8	16	2	26	3	1	21									
合計	9846	1216	319	1498	1521	2172	706	1249	429	2408	2928	620	538	1473	1179	349	106	13	3	715	104	246	48	128	313	33	149	322	23	431	919	39	7727	5	2	7	1	1688	1741	9625	52849

第V章 出土遺物

今回の調査により、青磁・白磁・染付・褐釉陶器・三彩・色絵・瑠璃釉・翡翠釉・黒釉陶器（天目）などの中国産陶磁器、粉青沙器（韓国産）、タイ産の褐釉陶器・半練土器、本土産陶磁器、沖縄産施釉・無釉陶器、陶質土器、瓦質土器、土器のほか、類須恵器、銭貨、玉類、滑石製品、瓦類など多種多様な人工品、骨類、貝類などの食糧残滓が得られている（第3表）。

人工品の中の陶磁器類をみると、圧倒的に中国産の陶磁器類が多く、次いで沖縄産陶器、タイ産陶器、本土産陶磁器の順である。それ以外のものでは、銭貨、玉類、石器・石製品、青銅製品などの出土量が注目されよう。時期的な面からすると創建（15世紀中）～廃寺（明治末頃）という天界寺の歴史の中で把握できるものがほとんどのようである。以下、今回得られた資料について、種別に概要を述べる。

第1節 青磁

総数で5900点余得られており、中国産の陶磁器では褐釉陶器に次いで多く得られている。器種的には碗、皿、盤、搦鉢、壺、瓶、杯、香炉、小碗、酒会壺、蓋、大瓶、鉢、花盆台などバラエティーに富んでいる。量的には碗が圧倒的で、皿、盤と続く。酒会壺や大瓶など大型のものも目立ち、また、あまり例をみないもの（第20図9・14）や花盆台（第19図12）など注意される資料も見受けられる。時期的には14世紀後半～16世紀頃までの幅広いものが得られている。

これらのほとんどが破片の資料であるが、碗、皿、盤、杯、搦鉢の中には全形の窺える資料も若干含まれる。特徴的なもの100点を第16図～第20図に示した。以下、図示したものを中心にそれぞれの器種ごとの器形、文様について概説する。図示したものの個々の詳細については観察表に示した。

・碗

最も多く得られており、特徴的なものを第16図及び第17図に示した。全形の窺える資料も14点ある。文様からみると、蓮弁文、雷文帯、その他、無文に大きく分けられる。また、今回得られたものは腰部のあまり膨らまないタイプのもものが主流をなすようである。口縁部の資料でいえば、無文のもものが多く、蓮弁文、その他、雷文帯の順である。施文されている資料の口縁部形状をみると、圧倒的に直口口縁のものが多い。

蓮弁文の資料を第16図1～5・7～12・18に示した。蓮弁の幅が広く、1枚1枚描くもの（1～5）、ラフなタッチの線描きのもの（7～11）、ラマ式連弁を描くもの（12・18）がみられる。量的には線描き蓮弁文の資料が多いものの、ラマ式連弁の資料は注意されよう。また、内底面を有すもの6点をみると、4点が施文されており、内底面への施文も普通だったかと推察される。

雷文帯の資料は同図12～17に示すもので、ヘラ描きのもの（12～14）、スタンプによるもの（15～17）が見受けられる。前者は外体面に別の文様を配し、内底面も施文の対象にしている。後者には内面に雷文帯を配すものが目立つ。その他の文様を施すものは沈線文（第17図1～3）を主体に施すもので、無文のものは文様を施すものよりやや大振りのもものが目立つようである。図示した底部資料（第17図13～20）のほとんどが内底面に文様を配している。

・皿

総数460点と碗に次いで多く得られており、特徴的なものを第18図に示した。全形の窺える資料も14点ある。器形的な面からみると、口折れ皿、直口口縁皿、外反皿、稜花皿、菊皿などが確認できる。全体的に外反口縁のもものが主体である。直口口縁のものには小さめのもの（2・3）、大きめのもの（4・17）があり、外反口縁も11・12がやや大きめのもので、他は同じような口径のようである。

外反口縁には口縁部上端を水平方向に折り曲げるもの（1）、僅かに外反させるもの（9・11・12）、胴部中央から緩やかに外反するもの（8・10）、腰部からラッパ状に外反するもの（5・6・13～16）などが見受けられる。13～16は稜花を呈す。また、8のように口唇部が尖るものも見受けられる。

文様の面からは無文のもものが圧倒的である。口縁の形状と文様についてみると、2～4の直口口縁のものには文様はみられず、外反口縁のものに文様を施すものが多くみられる。有文資料の施文部位は、外面と内底面に施文するもの（1・20）、内面と内底面に施文するもの（5・14）、内面にだけ文様がみられるもの（7・13）、内底面にだけみられるもの（8～10）、内外両面に文様がみられるもの（6）などが見受けられる。

・盤

360点余得られており、特徴的なものを第20図1～4に示した。器形的にみれば、鐔縁口縁（1・2）の形状を示すものが圧倒的で、他に直口口縁、外反口縁があり、外反口縁のものには稜花形の形状を呈すものも含まれる。1・2は鐔縁盤の資料で、2は口縁部の上方への摘み上げがより明瞭になっている。1は無文、2は内面に幅の広いヘラ状工具により1本1本、蓮弁文を配す。3は口縁部を水平方向に折り曲げるように外反させるもので、内外面に数本1組の蓮弁文を施し、外反部分にも文様を配している。4は口縁部上端を僅かに外反させるもので、底部は高台を有す。文様は内面にだけみられ、口縁部に1本の圈線、その下方に数本1組の蓮弁文を配す。

・播鉢

数的には少なく、3点確認できた。特徴的な2点を第20図6・7に示した。6は全形の窺える資料で、高台際から丸みを持って口縁部に向かい、上端部で僅かに外反するものである。那覇市教育委員会^{註1}や県立埋蔵文化財センター^{註2}の報告に本器種がみられるが、器形的には若干異なるようである。しかし、推算口径是那覇市教育委員会の報告例とほぼ同じであり、県立埋蔵文化財センターの報告例のものは小さめである。若干大きさの異なるものがもたらされていたかと考えられる。また、7は碁笥底の資料であり、今回確認できた。底部の形状にも数種あったかと思われる。

今回得られた資料は無文である。県立埋蔵文化財センターの報告例は外面に沈線を配すが、那覇市教育委員会報告例は無文のようであることから、どちらかといえば文様を施さないものの方が多かったかと推察される。

・壺

ここでいう壺は小型の部類に入るもので、10点余の出土をみた。特徴的なものを第20図8に示した。若干内傾気味の頸部が立ち上がり、口唇部は平坦。胴部は球状に膨らむようであり、本器種に普通にみられる形状を示す。現資料に文様は見受けられない。推算口径は約9cmを測る。

・瓶

120点と比較的多く出土している。特徴的な3点を第20図11～13に示した。形状の判明する12・13はそれぞれ、双耳環瓶、玉壺春瓶と呼ばれるものである。首里城京の内跡の報告^{註3}などにも見受けられる。13は無文のようであるが、11・12は頸部に文様がみられる。今回得られたものからすると、若干有文のものが多いようである。

・杯

量的には少ない。10点余り確認でき、特徴的なものを第20図15・16・19に示した。前二者は馬上杯と呼称される脚を有すものであるが、著しく破損しており、全形の様子はつかめない。16は脚部の下端を方形に整形し、接地面を平坦にしている。また、内側は大きく抉りを入れている。15は身の外面に文様の一部がみられることから、何らかの文様を施していたものとみられる。脚部にも凸帯様のものを1本廻らしている。後者は全形の窺えるもので、腰折れの外反気味の資料である。高台を有す。外面の胴部中央付近に凸帯様のものを1本廻らしているだけで、他の文様は見受けられない。

・香炉

本器種に属すとみられる資料が50点余得られている。特徴的な2点を第20図18・20に示した。18は寄口口縁の、20は口縁部が内湾気味の資料である。前者は筒状を呈す器形が想定でき、後者は丸みのある形状を呈し、底部面の縁に足を付している。18は外面の口縁部に2本の圈線を廻らすのが、20は文様が見受けられない。

以上のほかに、小碗（第20図10・21～24）も得られている。22は全形の窺えるもので、腰部の張らない直口口縁の資料である。外面に線描き蓮弁文を配す。他の資料からすると若干異なる器形のものが含まれるようである。また、第20図9に示すものは全形が窺えないものの注意される。六角形の各面に露胎の窓を有し、そこに人物や花文を貼り付けている。ほとんど報告例のない資料である。14も全体の形状は不明だが、注意される。似たような資料が、那覇市教育委員会報告に記されている。

また、酒会壺、蓋、大瓶、鉢、花盆台などの大型の資料も比較的にみられ、天界寺の特徴的なことのひとつかと考えられる。特に、第19図2に示した内面に花文を配す蓋の資料は、首里城京の内に類例が報告されているものの、あまり例をみないものである。

〈註〉

註1 「天界寺跡」『那覇市文化財調査報告書』第43集 那覇市教育委員会 2000年3月

註2 「天界寺跡（I）」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第2集 沖縄県立埋蔵文化財センター 2001年3月

註3 「首里城跡」『沖縄県文化財調査報告書』第132集 沖縄県教育委員会 1998年3月

第5表 青磁観察一覧

単位：cm

図番号	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地	
第16図・図版5	碗	1	口縁部	14.4	—	—	腰部はほとんど膨らまず、やや外側へ開きながら口縁部に至る直口径の器形を呈す。口唇部は舌状に仕上げる。胴部から口縁部の方へ次第に厚くなる。外面の口径下約2.5cmの箇所に若干の凹部を設ける。文様は外面にだけみられ、弁幅の広い蓮弁を1枚1枚描くものようである。釉は淡青緑色で比較的透明度があり、丁寧に施釉されている。貫入は見受けられない。素地は暗灰白色のやや細かなもので、小さな気泡が目立つ。	不明
		2	底部	—	—	7.0	底部資料。底径からすると大型のものになるかとみられる。高台際からゆるやかな弧状を呈して口縁部へ向かうものようである。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。外側を若干斜位に面取りしている。外面には無銘蓮弁文の弁尻がしっかりと施されている。内底面には花文と圏線を配すが、圏線は途切れている。釉は深緑色のやや透明度のあるもので、厚く施釉されている。高台内側まで施釉し、外底中央部にも施釉する。蛇の目状の釉剥ぎをイメージさせる。外底面の中央部付近に熔着痕が認められる。素地は淡灰白色の細かなものである。	【1-18 地山直上
		3	—	—	—	5.8	幅広のヘラ状工具による蓮弁文の弁尻が高台際まで配されている。高台際からほぼ直線的に外側へ開きながら口縁部の方へ立ち上がるようである。高台は方柱状にやや低くつくり、若干「ハ」の字状に外側へ開く。畳付けは平坦で、外側を斜位に面取りするが、丁寧ではない。内底面に印花文と圏線を施すが、圏線は圍繞しない。釉は暗緑色の失透性のもので、高台内側の下半部から外底面を除き全釉のようである。高台内側に熔着痕がみられる。素地は暗灰白色のやや粗目のもので、気泡が散見される。	不明
		4	口～底	10.8	6.0	4.8	無銘蓮弁文碗の資料で、全形の窺えるものである。他の資料に比べるとやや小型である。器形は高台際から腰部が膨らまずに直線的に口縁部へ向かい、上端部を丸く肥厚させる。口唇部は丸味を帯びる。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。畳付け外面を斜位に面取りしている。外面の無銘蓮弁文は、幅が狭く、先端部は鋭角的である。弁尻は高台際まで施され、弁の縁部はスムーズな直線になっていない。内面は無文のようである。釉は淡緑色のやや失透気味のもので現資料では全釉のようである。比較的厚く施釉されるが、内面の口縁部付近には薄い所もみられ、かならずしも一定していない。縦方向の粗い貫入が数本みられる。素地は淡青白色のやや細かなもので、気泡が目立つ。	不明
		5	口縁部	12.4	—	—	腰部から外側へ開きながら口縁部に向かい、口縁部上端を外反させる。口唇部は平坦面をつくる部分と丸味を帯びる部分が見受けられる。外面にだけ文様がみられる。口径下約2cm下方に2本の圏線を廻らし、その下方に2重の蓮弁文を描く。釉は淡緑色のやや失透気味のもので比較的丁寧に施釉している。内外面に粗い貫入がみられる。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	M・L-19 北側4層
		6	—	17.0	—	—	腰部から外側へ開きながら口縁部へ向かい上端部を折り曲げるように外反させる。口唇部は丸味をもって仕上げる。推算の口径からすると、大型のものようである。内外面に文様が施されるが、全体の様子はつかめない。釉は淡緑色のやや透明度があるもので、丁寧に施釉されている。内外面に粗い貫入が走る。素地は淡灰白色のやや粗いもので、小さな気泡が認められる。	不明
		7	口～底	13.1	7.15	4.4	高台際から弧状を呈して口縁部に至る直口径。口唇部は平坦であるが、両側のカドは丸味をもつ。高台際約5mm幅の平坦な削りを施している。高台は方柱状につくり、内側を斜めに削っており、外側に開く感じになっている。畳付けは斜位につくり、内側の接着部だけが僅かに平坦面をつくる。文様は外面にだけみられる。口縁部にゆるやかな弧状文を連続に配し、ラフなタッチの縦位沈線に施して蓮弁文を描く。釉は淡灰緑色のやや失透気味のものであるが、ほとんどは白く濁っている。基本的に畳付けから外底面は無釉のようであるが、釉垂れの部分も見受けられる。素地は灰褐色のやや粗いものである。	M・L-18 遺構
		8	口縁部	14.4	—	—	口縁から腰部下半の資料で、腰部の膨らまない直口径である。口縁部が若干の凹部をなす所もみられ、外反のような部分もつくる。口唇部は舌状に仕上げていく。文様は外面の口縁部に割とラフなタッチで鋸歯文を連続的に圍繞させ雑な縦位沈線を配し、蓮弁文を描出している。内面に文様は認められない。釉は淡青緑色で比較的透明度があり、内外面に細かく密な貫入が著しい。素地は暗灰白色で粗い。	H-22・23方形掘込み遺構J-25 南側2層+北側2層
		9	底部	—	—	4.2	ラフなタッチの線描き蓮弁文。弁尻が高台際まで配されている。腰部はほとんど膨らまずに口縁部の方へ移行する。高台はやや細く高くつくり、外側へ開き気味になる。畳付けは平坦で、外側を斜位に面取りするが、雑である。高台際約5mm幅の凹部を圍繞させる。内底面に花文を配し、内面にも施文する。釉は淡青緑色の比較的透明度のあるもので、内外面に粗い貫入が見受けられる。全釉のあと外底面を蛇の目状に釉剥ぎしている。外底面の中央部付近に、熔着痕が認められる。素地は淡青白色のやや細かなもので、小さな気泡が散見される。	表土・攪乱
		10	—	13.8	8.9	5.2	高台際から腰部が丸味を帯びて立ち上がり、胴部がほぼ直線的に口縁部に至る。直口径の碗で、口唇部は平坦に仕上げていく。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。外側を斜位に面取りするが雑である。高台は高くつくり、底面部も厚くなっている。外面には口縁部に連続弧状文を配し、雑な縦位沈線を密に施し、蓮弁文を描いている。内底面には花文を配す。内面の下部にも施文しているが判然としない。釉は完全に白く濁り、状況は不明。全釉のあと外底面を蛇の目状に釉剥ぎしている。内外面とも小さな気泡が目立つ。素地はやや粗く、橙褐色を呈す部分と、灰褐色の部分が見受けられる。	H-22方形掘込み遺構
		11	口～底	11.6	6.7	4.2	高台際から、ゆるやかな弧を描くように口縁部に至る直口径。口唇部は丸味を帯びる。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。畳付け外面を斜位に面取りしている。外面に線描き蓮弁文。内底面にも文様を配すが、釉が完全に失透しており、判然としない。釉は淡青緑色を呈すが、白く濁る。内外面とも細かく密な貫入が認められる。素地は灰白色のやや粗目のもので、底面部付近は赤灰色を呈す。	H-21 トレンチ
		12	—	14.8	7.6	5.8	高台際から丸味をもって口縁部に至る直口径碗。口唇部は丸味をもって仕上げており、厚味のある資料である。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。畳付けの外側を若干斜位に面取りしている。高台内側を斜めに削り、外側へ開く感じになっている。外底面の削り出しはやや浅く、底面部が厚くなっている。文様は、外面の口縁部にヘラ描きの雷文帯を配し、その下方にはラマ式の蓮弁文を片切り彫りにより施している。内面は草花文を施し、内底面には1本の圏線と印花文を配す。釉は暗緑色の失透気味のもので、外底面を除き全釉である。外底面は中央部に施釉されており、蛇の目状の釉剥ぎをイメージさせる。素地は淡灰白色の細かなものである。	M・L-19 北側3層
		13	口縁部	—	—	—	腰部が直線的に外側へ開く直口径。口唇部は丸味を帯びる。文様は外面の口縁部に雷文帯を配し、その下方にも施文するが全体の様子はつかめない。内面も施文の対象となっているが、どのような文様か不明。釉は深緑色のやや透明度のあるもので、丁寧に施す。素地は灰白色の細かなもので、小さな気泡が目立つ。	不明
		14	口～底	14.6	7.0	5.2	高台際から丸味をもって口縁部に至る直口径碗。口縁部は丸味をもって仕上げる。高台は方柱状につくり、若干外側へ弧状を呈す。畳付けは平坦で斜位に整形し、高台外面の畳付けに近い部分を斜めに削っているため、高台の中央付近で稜が廻る。文様は外面の口縁部にヘラ描きの雷文帯、体部にラマ式蓮弁文を配すようである。内面には文様は見受けられない。内底面には1本の圏線と印花文が認められる。釉は淡黄緑色の失透気味のもので、外底面を除き全釉である。外底面は中央部も、施釉しており、蛇の目釉剥ぎをイメージさせる。外底面には砂目の熔着がみられる。内外面に細かく密な貫入が著しい。素地は淡灰白色のやや細かなものであるが、暗灰色を呈す部分も見受けられる。	K-19表土・攪乱 H-21ビット 106+J-21～23 表土・攪乱
		15	口縁部	15.0	—	—	腰部から若干外側へ開きながら口縁部に至る直口径。口唇部は舌状を呈す。文様は外面の口縁部にだけ認められ、雷文帯を廻らしている。釉は完全に失透し、口縁部上端から口唇部は白く濁る感じになっている。そのため、状況が判然としない部分もみられる。内外面に細かく、密な貫入が著しい。素地はやや粗いもので、灰褐色を呈す部分と橙褐色の部分が見受けられる。	K-24 石垣A

注 【-】：計測不可、【+】：接合の意

第5表 青磁観察一覧

単位: cm

図番号	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第16図・図版5	碗	口縁部	—	—	—	直口口縁碗の口縁部資料。口唇部は丸味をもって仕上げている。文様は外面はほぼ全面に施文するようだが、全体の様子は不明。内面は口縁部に雷文帯を配すだけのようである。釉は深緑色でやや透明度があり、貫入は見られない。素地は灰白色のやや細かなものである。	I-15 北側4層
			14.8	—	—	外反口縁の資料で、口唇部は丸味をもつ。内外面に文様を施すが、全体的な様子はつかめない。内面は口縁部上端に雷文帯を配し、その下方にも施文している。釉は淡青色で、やや透明度がある。素地は淡灰白色のやや粗いものである。	K-20 コーラル敷A
			14.6	—	—	ラマ式蓮弁の弁先をそのまま口縁部の形状にした資料である。蓮弁は6枚。腰部が丸味をもって口縁部に至る直口口縁碗。口唇部は丸味をもって仕上げている。内外面とも文様で埋めつくされ、両面とも同じパターンで施文のようである。口縁部上端とその下方約1.5cmの箇所に口縁部形状に沿うように三本一組の沈線によりラマ式蓮弁文を配す。二重に施された蓮弁の間には花弁様のものが廻り、胴部では蓮弁ごとに異なる文様が配されるようである。個々については判然としない。釉は暗緑色の失透気味のもので、現資料の全面に施釉されている。内外面とも細かく密な貫入が著しい。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	M-23 石垣A
第17図・図版6	碗	口~底	14.4	7.6	6.0	高台際から腰部がゆるやかなカーブを描き、やや外側へ開きながら口縁部へ至る直口口縁。口唇部は丸味をもって仕上げる。高台は方柱状につくり、やや外側に開く。畳付けは斜位に整形され内側だけが接着面となっている。内底面に圏線と花文を配す。外面の口縁部にも施文しているが、釉が完全に失透しており、判然としない。釉は淡青緑色の失透釉で比較厚く施釉されている。外底面を除き全釉。施釉のあと外底面の縁を削っているが、外底面には釉垂れの部分も残る。熔着痕も認められる。素地は淡灰白色の細かなもので、小さな気泡が多くみられる。	K-18 北側4層
			12.4	6.5	5.0	高台際からゆるやかな弧を描いて口縁部に至る直口口縁。口唇部はやや尖り気味につくる。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。畳付けの外面を斜位に面取りしている。外底面の縁部を若干高台内側へ削り込む。文様は外面の口縁部上端に1本の沈線を廻らし、内底面に圏線とその中に花文を配す。釉は深緑色のやや失透気味のもので、全釉のあと外底面を蛇の目状に釉剥ぎしている。丁寧に厚く施釉され、貫入はみられない。外底面には胎土目様の熔着が認められる。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	I-20 ⁺ 11+J-20 コーラル敷A +L-20石列B
			14.2	—	—	腰部からやや外側へ開きながら口縁部に至る直口口縁。口唇部は舌状を呈す。文様は外面の口唇下約1cmの箇所に1本の沈線を廻らす。現資料に他の文様は見受けられない。釉は淡緑色のやや透明度のあるもので、現資料の全面に施釉している。貫入はみられない。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	L-25溝状遺構
		口縁部	17.0	8.7	6.2	高台際からスムーズな弧を描いて口縁部に至る直口口縁。口縁部で一旦厚みを減じ、口唇部の方へ若干厚くなる。口唇部は丸く仕上げている。高台は逆台形状に畳付けの方へ細くなり、畳付けは平坦。畳付けの外面を斜位に面取りしている。文様は内底面に圏線の一部分が認められるだけである。釉は淡青緑色のやや透明度のあるもので、厚く丁寧に施釉している。外底面に釉剥ぎの部分のみみられるほかは全釉である。内外面に縦方向の粗い貫入がみられる。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	M-24南側2層 +M-23・24地 山直上+M-22 遺構+J-18石 列E
			17.0	7.8	6.4	腰部が大きく膨らんで口縁部に向かい、上端部を外反気味につくり、約7mm幅の微弱な肥厚帯を有す。口唇部は丸味をもって仕上げている。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。畳付けの外側を斜位に面取りするが雑である。文様は釉剥ぎされている。内底面の中央付近に花文を配す。それ以外は釉が完全に失透しており、状況は不明。釉は暗緑色の失透釉で、全釉のあと外底面及び内底面を釉剥ぎしている。内外面に細かく密な貫入が認められる。素地は粗いもので、底面付近は橙褐色を呈し、腰部から口縁にかけては灰褐色を呈す。	H-20・21コー ラル敷A+K-23 石列A
			17.0	7.4	5.8	高台際から腰部が膨らんで口縁部へ向かう。口縁部上端を外反気味につくり、外面をハブラシ状に肥厚させる。口唇部は平坦にしているが、外側のカドを丸味を持って仕上げている。高台は方柱状につくり、やや外側へ開く。畳付けは平坦にし、その外面を斜位に面取りする。面取りは雑で畳付けの平坦面は同様ではない。文様はみられない。釉は灰緑色の失透釉で、高台内側から外底面および内底面を露胎としている。外底面には釉垂れの部分のみみられ、熔着痕も見受けられる。内外面とも細かく密な貫入が著しい。素地は淡灰白色の粗目のもので、白色・黒色の細かな鉱物が散見される。	G-18 北側4層
			12.2	5.6	5.0	腰部が膨らんで口縁部に向かい、口縁部上端を若干外反させる。口唇部はやや平坦面をつくり、斜位になる。高台は方柱状につくるが、畳付け側を削り、段状にしている。そのため、平坦面をなす。畳付けの幅は狭くなっている。外底面の削りは浅く、底面が厚くなっている。文様は見受けられない。外面に整形時の削り痕が若干残る。釉は暗黄緑色の失透釉で、高台畳付けから外底面と内底面の中央部は無釉である。外底面には釉垂れの部分のみみられる。内外面とも細かく密な貫入が著しい。素地は粗く、白色鉱物が多く含まれている。明灰色を呈すが、底面は灰褐色を呈す。	K-23 南側3層
		口縁部	14.4	6.0	6.3	高台際から腰部が丸味をもって口縁部へ向かい、上端部を若干外反させる。口唇部は舌状につくる。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。畳付けの外面を斜位に面取りするが雑である。外面には整形時の削り痕を明瞭に残す。内面の腰部下方に圏線を施すほかに文様は見受けられない。圏線は部分的に2本になる。釉は淡灰緑色でやや透明度があり、薄く施釉される。高台畳付けから外底面にかけて露胎。外面の腰部に熔着物がみられる。素地は暗灰色の粗いものである。	G-18 北側4層
			20.6	—	—	腰部の方から若干外側へ開きながら口縁部に向かい、上端部を外反させる。口唇部は丸味を持って仕上げている。現資料に文様はみられない。釉は淡青緑色の失透釉で厚く、丁寧に施されている。表裏面とも細かく密な貫入が著しい。素地は淡灰白色のやや粗いものである。	L-18 表土・攪乱
			20	—	—	腰部が丸味を帯び、若干外側へ開きながら口縁部に向かい、口縁部上端を外反させる。口唇部は丸味をもつ。現資料に文様はみられない。暗青緑色の失透気味の釉で、割と丁寧に施釉されている。貫入はみられない。素地は淡灰白色のやや粗いもので、大きな気泡がみられる。	K-14コーラル 敷B+J-17北 側1層
			12.8	—	—	腰部の方からやや外側へ開きながら口縁部に向かい、上端部をゆるやかに外反させる。口唇部は丸味を持って整形している。文様は見受けられない。釉は暗緑色の失透釉で、厚く丁寧に施釉されている。貫入はみられない。素地は淡灰色のやや細かなものである。	M-23 南側2層
			12.8	—	—	腰部から略S字状に外側へ開き口縁部に至るもので、口縁部はゆるやかな外反を呈す。口唇部は平坦に整形している。薄手の資料で、外面には整形時の削り痕が明瞭に残る。無文。灰緑色の失透釉を薄く施す。内外面とも口縁部上端に釉溜まりがみられ、内面は直線的な均一した幅であるが、外面は不規則な波状を呈す。内外面とも細かく密な貫入が著しい。素地は淡灰白色のやや粗いものである。	H-22 北側3層
			—	—	5.2	腰部が膨らまずに立ち上がっていく底部資料。高台は方柱状にしっかりつくる。畳付けは平坦で、その外面を斜位に面取りする。内底面の縁に1本の圏線、中央部に梵字を配している。釉は深緑色で割と透明度がある。基本的に外底面だけが露胎。畳付け部には釉が剥がれた部分が目立つ。外面の面取りされた部分に砂目の熔着痕が認められる。内外面に細かな貫入が著しい。素地は淡灰白色のやや粗いものである。	K-15 北側3層
			—	—	5.6	高台際から腰部の方へ張り出すように向かう底部資料。高台部は貼り付けてつくり出している。逆台形状を呈し、畳付けは平坦。外面部を斜めに面取りしている。高台内面を斜めに削り、外側へ開く感じになっている。内底面に花文を配している。釉は淡黄緑色の失透気味のもので、高台及び外底面は無釉。高台外面には釉垂れの部分のみみられる。素地は淡灰白色のやや粗いもので、露胎の部分はやや赤味を帯びる。	K-19 表土・攪乱

注 「—」: 計測不可、「+」: 接合の意

第5表 青磁観察一覧

単位: cm

図番号	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第17図・図版6	碗	底部	—	—	6.0	腰部が丸味を持って立ち上がっていく底部資料。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。高台外面を斜位に面取りし、内側も若干斜めに削る。外底面の中央部は尖る。内底面には、渦巻き状の削り痕が認められる。文様はみられない。釉は淡灰緑色でやや透明度がある。高台畳付けと外底面は無釉であるが、高台外面も1/3ほどは釉がかかっている。内外面に細かく密な貫入が目立つ。素地は黄白色のやや粗いもので、黒色鉱物が散見される。	不明
			—	—	6.2	高台脇で破損している底部資料。高台は逆台形状につくり、畳付けは平坦。畳付け外面を斜位に面取りする。釉は青緑色を呈し、完全に失透している。畳付け外面から外底部は露胎。畳付け部に釉の熔着痕がみられる。素地は灰白色の粗いものである。	L-21 ピット9
			—	—	4.2	高台際からやや開きながら腰部の方へ向かう底部資料。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。外面を斜位に面取りする。高台際の外面に約4mm幅の浅い凹線を廻らす。内底面には約4mm幅と幅広い凹線を1本廻らし、その中に花文と文字を配している。凹線の上にも文様の一部が認められる。釉は淡緑色の失透気味のもので、外底面を除き全釉のようである。外底面の中央部にも施釉する。高台内側を釉剥ぎするが、外底面の縁部には釉が残る。蛇の目釉剥ぎをイメージさせる。素地は淡灰白色の細かなものである。	不明
			—	—	5.2	高台際で破損している底部資料。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。外面を斜位に面取りしている。高台際から外底面と同じ部分まではすばまるように削り出し、そこから直方向の削りを行っている。そのため底面は厚くなっている。釉は淡青緑色のやや失透気味のもので、外底面を除き全釉のようである。外底面の中央部にも丸く施釉し、蛇の目釉剥ぎのイメージを出している。内外面に細かく密な貫入が著しい。素地は淡灰白色のやや粗いもので、外底面の施釉されていない部分は赤味を帯びる。内底面に花卉の弁尻とその中央部に文字を配している。	H-26 溝状遺構C
			—	—	5.4	腰部が丸く膨らんで立ち上がっていく底部資料。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。畳付けの外面を若干斜めに面取りしている。外底面の中央部を高くしている。内底面には、渦巻き状の削り痕が残る。そこに花文を配している。釉は青緑色で、比較的透明度があり、高台および外底面は無釉である。高台外面には釉垂れが目立つ。素地は灰白色のやや粗いものである。	L-18 ピット20
			—	—	7.2	腰部が丸味をもって立ち上がっていく底部資料。高台は逆台形状につくり、畳付けは平坦。厚く、低くつくられた高台は安定感がある。畳付け部は削りが雑で、若干丸味を帯びる。釉は灰緑色で、やや透明度があり、薄く施釉する。高台外面から外底面は露胎。内底面は蛇の目状に釉剥ぎしている。釉剥ぎした部分に胎土目?の痕跡が見受けられる。内外面とも細かく密な貫入が著しい。素地は淡灰白色の細かなものであるが、部分的に淡灰白色や橙褐色を呈す。	G-17 北側4層
第18図・図版7	皿	小皿	13.0	3.2	6.5	口折皿。高台際から緩やかなカーブを描いて口縁部に至り、口縁部上端を逆L字状に外側へ折り曲げるように外反させる。口唇部は幅広く、平坦。内側の稜は割と明瞭である。外端部は丸味をもつ。高台は低くシャープなつくりである。逆台形状に削り出し、畳付けは斜位に仕上げている。外面には蓮弁文を囲繞させる。蓮弁は幅広い沈線でややラフなタッチで描かれている。一段削り込むようにつくられている内底面には双鱼文を配しているようである。釉は深緑色のやや失透気味のもので、高台畳付けから外底面を除き、全釉である。素地は淡灰白色の細かなものである。	M-23 石垣A
			8.4	2.75	4.4	直口口縁の小皿。高台際から緩やかなカーブを描きながら口縁部に至る。口唇部は丸く仕上げる。高台は逆台形状に低くつく。高台内側を斜めに削っており、外側へ開く感じになっている。畳付けは平坦。内底面の中央部に陽凹線を廻らすほかは、文様は認められない。釉は青緑色の失透釉で、全釉。外面や高台内側に釉がはじける部分が見受けられる。内外面に貫入がみられるほか、外底面には胎土目などの熔着痕が認められる。素地は灰白色のやや粗目のものである。	I-27 表土・攪乱
			8.8	2.6	4.6	直口口縁の小皿。高台際で一段低くなり、その部分に稜が廻る。そこから胴部中央へほぼ直線的に開き、そこから若干角度が直方向になり、口縁部に至る。口唇部は舌状を呈す。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。畳付けの内外を斜位に面取りするが、外側の場合大きく削って、畳付けが斜位になる部分も見受けられる。外底面の中央部が盛り上がる。文様はみられない。釉は暗緑色の失透釉。内底面の中央部と外底面を釉剥ぎしているほかは全釉。内外面とも細かく密な貫入が著しい。内底面の中央部及び外底面には釉垂れがみられる。素地は橙褐色のやや粗目のものである。	I-28 南側3層
		口縁部	12.6	3.2	7.4	外反口縁皿。高台際から腰部が丸く膨らみ、口縁部に向かい、上端部で僅かに外反する。口唇部は丸く仕上げる。高台は逆台形状につくり、畳付けは平坦。畳付け外側を斜位に面取りしている。内底面の縁に陽凹線を廻らしているほかは、文様は見受けられない。釉は淡青緑色の失透釉で、内底面の中央部及び高台内側から外底面を露胎としている。内底面は中央部を一段低くなるように削り込んでいる。内外面に細かく密な貫入が著しい。素地は淡灰白色の粗いものであるが、底面は黄味を帯び、その周囲に赤味を帯びる部分もみられる。	不明
			11.0	2.9	5.7	外反皿。高台脇で稜を有し、そこから大きく緩やかに外反しながら口縁部に至る。口唇部は舌状につくる。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。畳付けの外側を斜位に面取りしている。外底面の削りはやや浅めで、縁部に凹部を廻らす。文様は内面に草文、内底面に印花文を配している。釉は淡青緑色の失透気味のもので、外底面を除き全釉である。内外面に細かく密な貫入が認められる。素地は淡灰白色の粗いものである。	L-M-19北側3層 J-19北側1層
			13.0	—	—	外反皿。腰部に稜を有し、そこから大きく外反して口縁部に至る。口唇部は丸く仕上げている。内外面に草文を配す。釉は青緑色で、やや透明度があり資料の全面に施されている。口唇部及び腰部の稜の周辺には細かな気泡が認められる。内外面とも細かな貫入が著しい。素地は淡灰白色のやや粗いものである。	I-20 北側3層
			12.0	—	—	外反皿。腰部がやや丸味を帯び、口縁部を折り曲げるように外反させる。口唇部は舌状に仕上げる。内面にだけ草文が認められる。暗緑色のやや透明度のある釉が、資料の全面に厚く施される。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	I-26 溝状遺構C
			12.2	4.3	6.4	外反皿。腰部が丸味を帯び、そこからゆるやかに大きく外反して口縁部に至る。口唇部は尖る。底面が厚く、外反部から口縁部の方へ厚みを減じる。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。畳付けの外側を斜位に面取りする。文様は内底面だけに認められ、花文とその隙間に「湾」の字を配している。釉は深緑色のやや透明度のあるもので、厚く施釉されている。全釉の後に外底面を蛇の目状に釉剥ぎしている。貫入は見受けられない。外底面の蛇の目釉剥ぎの部分に、熔着痕が円形状にみられる。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	L-23 ピット5
			12.2	4.1	7.0	外反皿。高台際から胴上部までほぼ直線的に至り、そこからゆるやかに外反して口唇部に至る。胴上部で稜をつくるが、不明瞭である。口唇部は舌状に仕上げている。高台は逆台形状に厚く低めにつくられ、安定感がある。畳付けは平坦で、外側を若干斜位に面取りしている。文様は内底面にだけ施されるが、判然としない。内底面の縁を陽凹線が廻る。釉は淡青緑色の失透気味のもので、厚く丁寧に施している。内面から外底面の縁部まで施釉し、外底面の中央部にも施釉している。蛇の目釉剥ぎをイメージさせる。外底面の中央部に胎土目の熔着が認められる。内外面に数本の貫入がみられる。素地は淡灰白色のやや粗いものである。	不明
			11.4	3.2	6.0	外反皿。高台脇に不明瞭な稜をもうけ、そこからほぼ直線的に立ち上がり、口縁部を大きく外反させる。口唇部は丸味を帯びる。高台は逆台形状に細く、高めにつくり、畳付けは平坦。畳付けの外側を若干斜位に面取りする。文様は内底面にだけ、印花文を配している。釉は淡緑色で失透。基本的に内底面及び外底面を露胎としている。内外面に貫入が目立ち外底面に熔着痕も見受けられる。素地は暗灰白色のやや細かなものである。	J-19 北側3層

注 「-」:計測不可、「+」:接合の意

第5表 青磁観察一覧

単位: cm

図番号	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地			
第18図・図版7	皿	11	口~底	14.6	3.7	7.1	外反皿。腰部が丸味を帯び、胴部から直線的に開きながら口縁部に至り、口縁部上端を緩やかに外反させる。口唇部は舌状を呈すが、部分的に平坦面も見受けられる。高台は逆台形状に細く、高めにつくり、畳付けは斜位に仕上げている。内面は内底面の縁部が凸帯様に盛り上がり、陽圏線をつくる。内底面には文様が施されているが、判然としない。他に文様は見られない。釉は暗緑色の失透気味のもので、比較的厚く施釉している。現資料では外底面を除き全釉のようであるが、外底面は蛇の目釉剥ぎの可能性も残る。素地は灰白色のやや細かなものである。	L-M-18 北側3層		
		12	口縁部	14.2	-	-	外反皿。胴部からほぼ直線的に外側へ開いて口縁部に至り、上端部を折り曲げるように外反させる。外反部の内面は不明瞭な稜をつくり、口唇部は舌状を呈す。比較的薄手のものである。現資料に文様はみられない。釉は青緑色の失透気味のもので、薄く施釉される。内外面とも胴上部付近に釉溜まり縁のものが帯状にみられる。内外面とも細かく密な貫入が著しい。素地は淡灰白色のやや粗いものである。	I-25 南側2層		
		13	口~底	12.0	3.2	5.6	稜花皿。高台脇の稜は不明瞭で、そこから緩やかに外反して口縁部に至る。口唇部は丸味を帯びる。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。畳付けの外側を斜位に面取りするが、雑である。外底面は中央部が盛り上がるように削っている。文様は外底面にはみられず、内底面に沈線を2~3本1組とした文様を配しているが、全体の構図はつかめない。内底面の文様は判然としない。釉は内外面とも口縁部は灰緑色、胴部下半は暗緑色を呈し、失透気味のものである。基本的に高台畳付け及び外底面は無釉である。内外面とも細かく密な貫入が著しい。素地は口縁部が暗灰色、胴~底面は橙褐色を呈し、粗いものである。	表土・攪乱		
		14	口~底	12.0	3.0	6.2	稜花皿。高台脇で不明瞭ではあるが、稜をもうけ、そこから緩やかに外反して口縁部に至る。口唇部は丸味を帯びる。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。畳付けの外側を斜位に面取りしている。文様は内面及び内底面にみられる。内面は口縁部に沿うように3本の沈線を配し、その下方にも施文する。内底面には1本の圏線とその中に花文を配している。圏線は途切れるようである。釉は暗緑色でやや透明度がある。全釉のあと外底面を蛇の目状に釉剥ぎしている。外底面の中央付近に胎土目の培着が認められる。内外面とも細かく密な貫入が著しい。素地は暗灰色のやや粗いものである。	K-26 畦		
		15	口~底	11.2	3.0	4.7	稜花皿。高台際から約1cmはほぼ水平方向に向かい、そこから緩やかに外反して口縁部に至る。外反部の下端では比較的明瞭な稜が認められる。口唇部は丸味を帯びる。高台は方柱状に低くつくり、外底面の削りは浅い。畳付けは平坦。内底面の縁部に凹線様のものを廻らす。文様は、露胎となっている内底面に印花文を配している。釉は淡灰緑色の透明度があるもので畳付けから外底面と内底面を除き全釉である。内外面とも細かく密な貫入が著しい。内底面に培着痕がみられる。素地は暗灰白色の粗いものである。底面に大きな気泡がみられる。	J-25南側2層 十J-25南側3層		
		16	口~底	11.4	2.7	5.2	稜花皿。器形的な特徴は前述のものと同様である。高台のつくりが、前述のものより細かく、畳付けは斜位に整形している。文様は内底面に1本の圏線を廻らしているだけで、他に文様はみられない。釉色、釉の状態、施釉範囲なども前述のものと同様である。畳付け部、及び内底面には培着痕が認められる。素地は底面が黄白色、体部から口縁部は暗灰色を呈し、粗いものである。	L-24 南側2層		
		17	口~底	11.8	2.7	6.0	菊花皿。型成形。口縁部と端が内湾気味になり、口唇部は平坦に仕上げる。高台は逆三角形につくり、畳付けは狭く平坦である。内底面は中央部へ凹む。薄手の資料。釉は淡青緑色の失透釉で、高台内側及び、外底面は白色を帯びる。高台周辺部は釉剥ぎしている。高台外面の釉剥ぎ部には気泡が目立つ。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	M-20 瓦溜まりC		
		18	底部	-	-	7.8	腰部まで残る薄手の資料。高台際から約1cm幅で外側へ開き、そこから緩やかに外反して立ち上がる。そのためその部分に稜が廻る。高台は逆三角形に細目につくり、畳付けは斜位になり、内側だけが接着する。内底面は中央部の方へ若干凹む。外底面には、とびガンナの手法がみられる。文様はみられない。釉は淡青緑色の失透釉であるが、外底面の釉は白っぽく薄く施釉している。全釉で畳付け部だけ釉剥ぎしている。内外面は約2cmの白濁色を呈す部分が直線的に残る。素地は淡灰白色の細かなものである。	M-20 瓦溜まりC		
		19	口~底	-	-	4.8	高台脇で破損している。高台は逆台形状に低くつくる。畳付けは平坦で外側を大きく斜位に面取りしている。内底面の縁を陽圏線が1本廻るだけで、他の文様は見受けられない。釉は淡青緑色で失透気味。内底面の中央部付近と高台畳付けから外底面は露胎。内底面の中央部に径約1mm、深さ2mm程の小孔が認められる。内外面には貫入が認められる。高台畳付け部や外底面には釉垂れもみられる。素地は暗灰白色のやや細かなものである。	K-27 南側4層		
		20	碗	底部	-	-	6.6	蓮弁文の弁尻が高台際まで配されている。高台は細くやや高めにつくる。畳付けは平坦で、外側を若干面取りしている。外底面は高台内側から中央部の方へ高くなるように斜めに削り、中央部を平坦にしている。内底面に花文を配す。釉は青緑色で、比較的透明度があり割と厚めに施されている。全釉のあと外底面を蛇の目状に釉剥ぎしている。釉剥ぎした場所に培着痕や剥がれの部分が見受けられる。素地は灰白色のやや細かなもので、小さな気泡が目立つ。	不明	
		21	口~底	-	-	7.4	高台脇まで残る資料。高台は方柱状に低くつくる。畳付けは平坦。外面の高台際を約5mm幅で削り、平坦面をつくる。その部分で稜をなすが雑である。文様は内底面にみられ、縁部に陽圏線、中央部に印花文を配している。釉は暗緑色の失透気味のもので、外底面だけを釉剥ぎしている。外底面はさらにへら状の工具で横方向に削っている。内外面に細かく密な貫入が著しい。素地は暗灰色の粗めのもので黒色鉱物が散見される。外底部は橙褐色を呈す。	I-28 南側3層		
		22	皿	底部	-	-	6.5	高台脇まで残る資料。高台は方柱状に厚く低めにつくり安定感がある。畳付けは平坦。外側を斜位に面取りしているが、雑である。文様は内底面の縁に1本の圏線を廻らし、中央の露胎部に花文を配す。花文は部分的に削られており、全体の様子はつかめない。釉は淡青緑色の失透気味のもので、一段低くなった内底面の中央部と外底面を露胎としている。内外面に細かな貫入が認められ、高台内側に胎土目の培着部が見受けられる。素地は暗灰白色のやや粗いもので、黒色鉱物の混入が目立つ。全体的な状況から大振りの碗の可能性もある。	不明	
		23	口~底	-	-	8.8	高台脇で破損している。推算底径からすると盤の可能性も考えられる。高台は逆台形状につくり、畳付けは平坦。外側を大きく斜位に面取りする。内底面の縁に1本の圏線を廻らし、中央部に花卉をスタンピングしている。釉は淡青緑色の失透気味のもので、高台内側の中央付近から外底面を露胎としている。施釉の部分には薄く白化粧を施している。畳付け部の釉は白く濁るところがみられる。内外面とも細かな貫入が認められる。素地は灰褐色の粗いもので白色鉱物が散見される。	不明		
		第19図・図版8	酒会壺の蓋	1	口~底	27.2	-	18.8	下周部の資料である。鏝部の縁が若干上部へ突出し、外端部は平面をつくる。鏝部の外端はやや上方へ反る。身受け部は内側へすばまるようにつくり、先端部は丸味を帯びる。甲部には文様が施されている。下周と鏝部の境目に2本の圏線を廻らし、それぞれの部位に異なる文様を配している。全体的な図柄は判然としない。釉は淡青緑色の失透気味のもので、甲部から外端部までを施釉し、内面は露胎としている。内面には成形時の調整痕が明瞭に残る。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	K-26 地山直上
				2	口縁部	-	-	-	酒会壺の蓋の頂周付近の資料とみられ、頂部には撮みの痕跡が認められる。外面のラフなタッチの短沈線を網目状に施した文様を主とした文様帯をつくる。甲内面の中央に印花文を配し、その外側に2本の雑な圏線を廻らす。釉は深緑色の失透気味のもので、外面に厚く、内面に薄く施釉している。内外面に細かく密な貫入が認められる。頂周部が厚く、下方へ厚味を減じる。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	F-20ピット15
				3	大鉢?	胴部	-	-	-	大型の資料の胴部片。内外面に文様がみられることから大鉢の可能性が高い。両面とも文様は陽刻によるが、全体的な構図は判然としない。釉は暗緑色の失透気味で、割と丁寧に施釉されている。内外面に細かく密な貫入が著しい。素地は淡灰白色のやや粗いものである。

注 「-」:計測不可、「+」:接合の意

第5表 青磁観察一覧

単位：cm

図番号	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地		
第19図・図版8	4	大瓶	胴部	-	-	-	大瓶の胴部下端の資料とみられる。外面に弁先が尖り気味の蓮弁を1枚1枚描いている。その直上には数本1組みの圏線を配しているようだが、本数は不明。内面には成形時の調整痕が認められる。釉は淡青緑色の失透気味のもので、外面に厚く施釉している。外面には粗い貫入が、内面には細かな貫入が見受けられる。素地は淡灰白色の細かなものである。	M-18 ビット14	
	5	酒会壺	底部	-	-	19.0	酒会壺に特徴的な「く」の字の底部をつくり、下端部の外面を斜位に面取りし、底面部は平坦に仕上げる。内面の屈曲部は直角に近く、明瞭な稜をなす。外面には蓮弁文の弁先がほぼ等間隔に認められる。また、内面には屈曲部から約3.5cm上方に落とし底の接着の痕跡がみられる。釉は暗緑色の失透釉で、外面は厚目に内面は薄く施釉される。底面部近くの外側と内側、および底面部は露胎である。素地は灰白色のやや粗いものである。	L-24 表土・攪乱	
	6	大瓶	胴部	-	-	-	外面に約3mm幅の凸帯様のものが廻る胴部資料。その直下で継目を有す。外面は凸帯様のもの上下に施文するが、図柄などは不明。暗緑色のやや透明度のある釉が両面に施釉されている。内面にだけ細かい貫入が著しい。素地は淡灰白色のやや細かなもので黒色鉱物が散見される。	L-18 表土・攪乱	
	7	袋物	胴部	-	-	-	外面に算木文のような文様を配する胴部資料。暗緑色の失透釉が両面に施釉される。内面にも沈線様のものがみられるが、判然としない。釉は両面とも厚く施されている。内外面に粗い貫入が見受けられる。素地は灰白色のやや粗いものである。	I-25 南側2層	
	8	大瓶	胴部	-	-	-	頸部と胴部の継ぎ目を有する資料で、釉によって接合されている。胴部の先端を方形状につくり、頸部の下端をそれに合わせるように抉りを入れて、合わせるようにしている。頸部下端から約1.5cm上方に2本の凹線様の圏線を廻らしている。現資料にそれ以外の文様は見受けられない。釉は淡青緑色の失透釉で、内外面に施釉されている。胴部は内外面とも同じ厚味で施釉されているが、頸部の方は外側を厚く施釉している。内外面に細かく密な貫入が著しい。素地は乳白色のやや細かなものである。	北側3層	
	9	鉢	胴部	-	-	-	腰部の資料。高台際からそれほど膨らまずに立ち上がっていく。内外面に草花文を施している。釉は深緑色の失透気味のもので、両面とも厚く、丁寧に施釉されている。内外面に細かな貫入が目立つ。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	不明	
	10	大瓶	底部	-	-	8.0	高台際で若干の段を設け、腰部との境目を明瞭にしている。そこから丸味をもって胴部へ移行する。高台は底面部へすばまるように削り、底面はベタ底である。削り出しは丁寧である。現資料に文様はみられない。釉は淡青緑色の失透釉で、外面の高台際までの施釉である。高台外面、底面部および内面は露胎である。施釉されている部分は、細かく密な貫入が著しい。高台外面や底面の縁に釉垂れがみられる。底面部には砂粒の熔着も見受けられる。内面は非常に滑らかである。素地は淡灰白色のやや粗いものである。	不明	
	11	鉢	口縁部	-	-	-	口縁部資料。胴部から若干丸味を帯びながら口縁部に向かい、上端部を折り曲げるように外反させる。口縁部の方へ若干厚くなる。外端部は平坦に仕上げ、やや内傾する。折り曲げ部も平坦面が意識されているが、両側のカドは丸味を帯びる。内外面に施文しており、外面は唐草文、内面は口縁部に1本の圏線、その下方に沈線文と柳描き文を組み合わせた文様が施されている。釉は淡黄緑色のやや透明度のあるもので、資料の全面に施釉されている。貫入はみられない。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	不明	
	12	花盆台	底部	-	-	16.2	花盆台の底部資料とみられる。碁笥底様の底部で、接地面は平坦である。接地面から約1.5cmの高さまでは直線的に外側へ傾き、そこから約5mmを内側へ斜めに削る。そのため、その部分に比較的明瞭な稜を有する。内側への削りの上端部に1本の圏線を施す。そこから若干外側へ開きながら立ち上がっていく。胴部には大きく開いた窓を有していたかと推察され、底面部も抜けているものと考えられる。外面には文様の一部が認められる。釉は暗黄緑色の失透気味のもので、外底部を釉剥ぎする以外は全面に施釉がみられる。外面に粗い貫入が見受けられる。畳付け部に砂粒の熔着が認められる。素地は灰白色のやや細かなものである。	M-21 瓦溜まりC	
	第20図・図版9	1	盤	口縁部	24.2	-	-	鏝縁盤の資料。内体面と鏝縁部の境目の稜は比較的明瞭だが、釉が白く濁り、判然としなくなっている。口縁部には気泡もみられるなど風化が著しく、状況はつかめない。素地は淡灰白色の粗いもので、部分的に橙褐色で黒味を帯びる。	H-21 ビット20-b
		2		口縁部	21.6	-	-	いわゆる鏝縁口縁の盤である。外端部には凹線様のものが1本廻る。内体面と鏝縁部の境目には明瞭な稜を有し、そこから口縁部は若干の凹面が斜位方向につくられる。文様は内体面に幅広いのへら状工具による蓮弁文が1本1本間隔を空けて配されている。釉は暗緑色のやや透明度のあるもので、現資料の全面に施釉されている。内外面に細かく密な貫入が著しい。素地はやや粗目のもので、口縁部の方は灰白色、胴部の方は橙褐色を呈す。	不明
		3		口縁部	26	-	-	外反口縁盤。口縁部をほぼ水平方向に折り曲げるように外反させる。外端部は丸味を帯びる。約2cm幅の外反部には4本の沈線文を主にした文様を配し、内外面に蓮弁文を施している。釉は淡青緑色でやや透明度があり、厚目に施釉されている。内外面に細かく密な貫入が著しい。素地は乳白色のやや細かなものである。	M-21 北側4層
4		口～底		25.7	3.8	15.2	外反口縁盤。高台際から腰部が膨らまずに口縁部に向かい、上端部を僅かに外反させる。口唇部は斜位につくり、両側のカドが丸味を帯びる。高台は方柱状に低くつくり、畳付けは内側部に若干の平坦面がみられ、そこから大きく斜位に面取りされている。文様は内面にだけみられ、口縁部に1本の圏線を廻らし、その下方に約3mm幅の工具による蓮弁文を等間隔に比較的密に施す。内底面は、1段低くつくれるが、文様の状況は不明。釉は淡青緑色のやや透明度のあるもので、厚目に施釉している。現資料の全面に施釉されている。外面に粗い貫入が認められる。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	L-27 溝状遺構D	
5		底部		-	-	9.0	底部資料。高台際に凹線様のものを廻らし、外体面との境目としている。高台はその部分から底面部の方へすばまるように斜位に削り、底面部はベタ底をなす。内底面は若干の凹部をなす。内底面には花文が陽刻されている。釉は暗灰緑色の失透釉で、内外面とも資料の縁部にみられる。内底面及び外面の高台際から外底面にかけは露胎。素地は淡橙褐色のやや粗いものであるが、灰白色を呈す部分も見受けられる。	I-27 表土・攪乱 (爆弾穴)	
6		口～底		16.2	7.15	5.4	同一個体とみられる口縁部と底部から推定復元。高台際から丸味をもって口縁部に向かい、上端部を外反させる。口唇部は丸味を帯びる。高台部は約1cmの高さでつくり、内列りが非常に浅く、縁部を斜位に面取りする。内面の欄目は内底面から口縁部の方へ施している。多方向へ施しており、欄目の1組の条数などは判然としない。釉は暗緑色の失透気味のもので、内面の口縁部から底面部の外面までが施釉の対象となっている。外底面及び内面の口縁部以下は露胎。内底面は円形状に赤味を帯びる部分が見られる。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	L-17 ビット23	
7		底		-	-	6.8	碁笥底の資料。底面部からほぼ直線的に外側へ開きながら立ち上がる。接地面は平坦で、沈線様のものが3条廻る。内面の欄目は内底面から上方へ描き上げている。欄目は5条1組で5mm幅の部分認められる。部分的に欄目をナデ消している所がみられ、その部分は滑らかな器面となっている。釉は暗黄緑色の失透気味のもので、外面にだけ施釉されている。外底面及び内面は露胎である。施釉部分は細かく密な貫入が著しい。	J-16 表土・攪乱	
8		壺		口縁部	9.4	-	-	口～頸部の資料。推算口径からすると、それほど大きくない。口唇部の方へすばまるように頸部が立ち上がり、上端部で若干外反する。口唇部は平坦。頸部の内側で若干の段を有す。現資料に文様はみられない。釉は淡緑色で比較的透明度がある。外面の方に厚く施釉している。口唇部は釉剥ぎしているが、釉垂れもみられる。素地は灰白色のやや細かな素地である。	F-18 表土・攪乱
9		器種不明		胴部	-	-	-	上面観が六角形を呈すもので器種不明の資料である。器形的には腰折れの外反口縁が想定される。胴部の資料のようで、六角形の一つ一つの面に花弁をイメージしたような窓を設けている。窓の部分には外面に人物と草花、内面には鳥と草花を施しているのが認められる。両面の文様とも陽刻による。釉は淡緑色のやや透明度のあるもので、内面は全面に施釉され、外面は窓の部分に露胎としている。割と薄手の資料である。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	M-25南側3層 +L-23石垣A +J-27南側2層

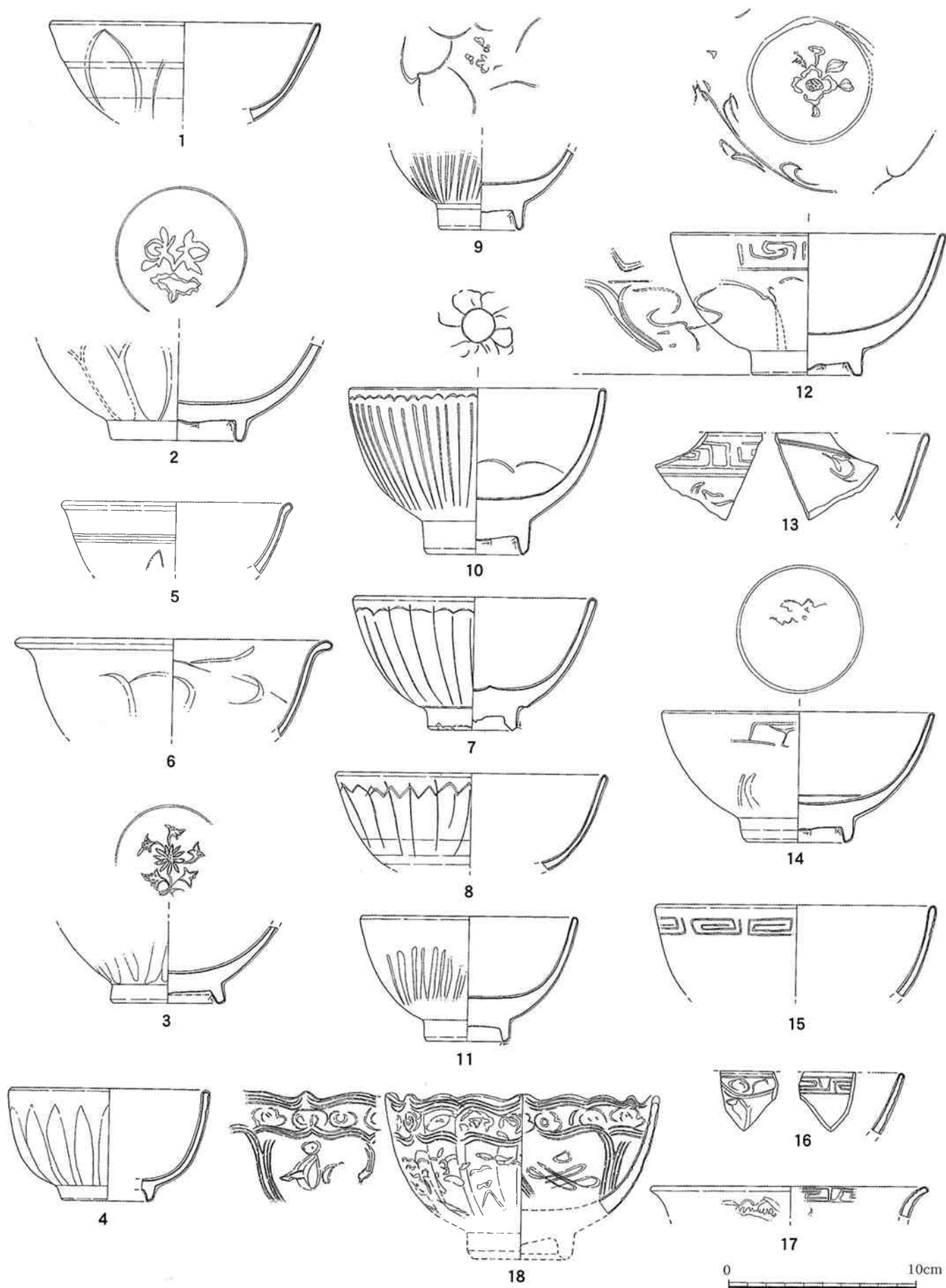
注 「-」：計測不可、「+」：接合の意

第5表 青磁観察一覧

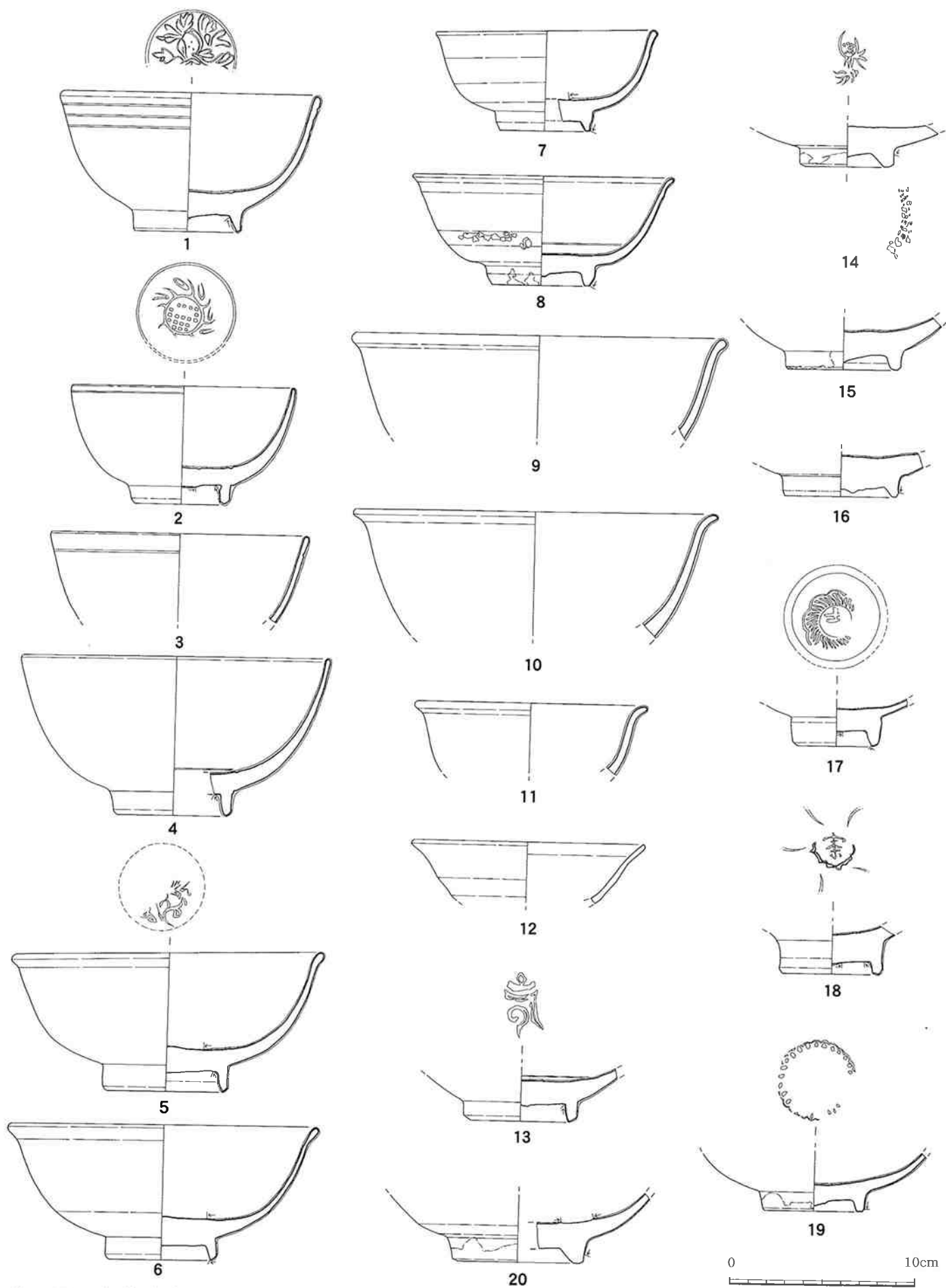
単位：cm

図番号	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
10	小碗	底部	—	—	3.6	底部から胴部中央付近までの資料。腰部が膨らまずに、直線的に立ち上がる。高台は低く、逆台形状につくる。畳付けは平坦で、内側を斜位に面取りする。文様は見受けられない。釉は深緑色の失透気味のもので比較的厚目に施釉される。基本的には外底面が露胎のようであるが、高台内側も無釉の部分が見られる。高台内側に焙着痕が認められる。素地は灰白色のやや細かなものである。	不明
11		胴部	—	—	—	大型の瓶の頸部資料とみられる。内面の下端部に継ぎ目とみられる段を有し、そこから上方は厚く、下方は薄くなっている。文様は外面に施され、縦位沈線で区画された中に草文を配している。比較的ラフなタッチである。釉は淡青緑色の失透気味のものである。貫入はみられない。素地は灰白色のやや細かなもので、黒色の鉱物が散見される。	L-17 北側4層
12	瓶	口縁部	7.5	—	—	双耳環瓶の口縁部～頸部の資料。楕円状につくり、口縁部はゆるやかに外反し4枚の花弁を示すような稜花の形状をつくる。外端部は丸味をもって仕上げる。頸部下端に若干の段を有し、その部分の長軸側に一對のブリッジ状の把手を設けている。外面に文様を配すようだが、釉が完全に失透しており判然としない。釉は暗緑色の失透釉で内外面に施釉されている。内面の下端部に露胎の部分が見られ、全面施釉だったかどうかは不明。素地は淡灰白色のやや粗いものである。	I-22方形掘込み 遺構+K-19表 土・攪乱
13		底部	—	—	8.0	玉壺春瓶の資料である。腰部に最大径を有し、口縁部の方へすぼまる。頸部で破損しており、口縁部の状況は不明。高台は方柱状につくり、やや外側へ開く。畳付けは平坦で外側を斜位に面取りする。文様は見受けられない。釉は暗緑色の比較的透明度があるもので、外面に厚く施釉される。現資料で高台畳付け及びその外面と高台内側を釉剥ぎしており、他は全釉である。内外面に細かく密な貫入が著しい。内面には成形時の調整痕を明瞭に残す。素地は暗灰白色のやや粗いものである。	H-22 方形掘込み遺 構
14	水注	胴部	—	—	—	口縁部、底部を欠失している。胴部が球状を呈すもので、それほど大きくないものようである。胴部の上、下端部に多角形容の若干の段を設けており、その間に蓮弁文を配す。頸部中央付近で継ぎ目が見られ、上端部は外反気味になっている。胴部中央付近の外面には、縦方向に管状の耳を付している。釉は淡青緑色の失透気味のもので、厚く丁寧に施釉されている。内面には施釉の薄い部分が見受けられる。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	J-20・21 コーラル敷A
15	馬上杯	脚部	—	—	—	馬上杯の底部部から脚部の資料かとみられる。外体面に片切り彫りによる蓮弁文の弁尻が認められる。脚部のやや上方側に陽圏線を1本廻らし、竹節状にしている。内底面にも施文しているようだが、釉が失透しており判然としない。釉は淡青緑色の失透気味のもので、現資料の全面にみられる。貫入はみられない。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	F-21 基壇
16		底部	—	—	4.0	馬上杯の脚の底部資料とみられる。底面から約2.5cmまでを三角錐状に内側を削り、上方は棒状になる。外面は底面から約2.5cmの箇所を陽圏線を1本廻らす。そこから底面の方へすぼまるように削り、底面から約5mmの箇所を外側に張り出し、底面へ直線的に整形している。端部は平坦に仕上げている。淡青緑色の失透釉が内外面に施され、底面部及びその両側を釉剥ぎしている。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	J-18 北側3層
17	碗	口縁部	10.4	—	—	稜花碗。高台脇で稜を有し、そこから直線的に外側へ開きながら胴上部に向かい、ゆるやかに外反して口縁部に至る。口唇部は舌状につくる。文様は外面に蓮弁文、内面に唐草様の文様を配す。釉は灰緑色の失透気味のもので、資料の全面にみられる。内外面に貫入が著しい。素地は暗灰色のやや粗いもので、白色鉱物が散見される。	K-27溝状遺構 D+J-26南側 2層
18	香炉	口縁部	7.0	—	—	口縁部上端を内側へカギ状に折り曲げ、上面部を若干の凹面で仕上げる。いわゆる「寄口縁」の資料である。筒状を呈していたかと推察される。文様は口縁部上端に2本の圏線を廻らしている。釉は暗緑色でやや透明度があり、内面よりも外面の方が厚く施釉されている。現資料の全面に施釉されている。内外面とも細かく密な貫入が著しい。素地は灰白色のやや粗いものである。	H-22・23 方形掘込み遺 構
19	小杯	口～底	7.6	4.3	3.6	腰折れの小杯。高台際からはほぼ水平方向に約1cm張り出し、そこから直方向へ立ち上がり、やや外側へ開きながら口縁部へ向かう。口縁部は若干厚し、口唇部は平坦につくる。胴部中央付近に約5mm幅の凸帯を1条廻らす。高台は方柱状につくり、畳付けは斜位に整形している。そのため、内側だけが接地する。凸帯以外に文様はみられない。釉は深緑色でやや透明度があり、全釉のあと畳付け部を釉剥ぎしている。畳付けの内側の接地面に焙着痕が認められる。素地は淡灰白色の細かなものである。	H-23・24 溝状遺構A
20	香炉	口縁部	6.4	—	—	直口口縁の資料で、筒形を呈す。口唇部は丸味をもって仕上げる。底面への折れ曲がり部で破損しており、高台の有無については不明。折れ曲がり部の縁に3個の足を付す。足は底面が約1.6cm、高さが約0.7cmの逆三角形のもので、先端部は丸味を帯びる。文様はみられない。釉は暗緑色の失透気味のもので、内面の胴下部から内底面にかけて露胎としているほか、足の先端部付近も無釉である。内外面とも細かな貫入が著しい。素地は灰白色のやや細かなものである。	K-16 ビット28
21		口縁部	7.0	—	—	胴下部で丸味を帯び、ほぼまっすぐに口縁部に至る直口口縁。口唇部は丸く仕上げている。文様はみられない。釉は淡青緑色の失透釉で、現資料の全面に施釉されている。内外面に貫入がみられる。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	H-21 ^b ・ ^c 9-a +H-20 ^c ビット24
22	小碗	口～底	7.4	4.9	3.5	高台際から腰部がほとんど膨らまずに、口縁部に至る直口口縁。口唇部はやや弧状を呈し、内外に比較的明瞭な稜がみられる。高台は方柱状につくり、畳付けは斜位にしている。文様は外面にだけみられ、口縁部に連続弧状文を横に配し、その下方に雑な沈線を縦位に施し、蓮弁文をイメージさせる。釉は暗緑色で、やや透明度がある。外底面を除き全釉で、内底面及び高台外面付近に細かな貫入が著しい。素地は淡灰白色のやや細かなものである。	不明
23		底部	—	—	2.9	高台から腰部までの資料。腰部はそれほど膨らまない。高台は方柱状にやや外側に開き気味につくる。畳付けは平坦で、両側を斜位に面取りしている。外底面は中央部が盛り上がるように削り、内底面は中央部の方へ凹面をつくる。現資料に文様はみられない。釉は深緑色の失透気味のもので、高台際まで施釉している。高台外面から外底面は無釉である。高台外面には釉垂れがみられる。素地は暗灰色のやや粗いものである。	K-27 溝状遺構D
24			—	—	2.8	高台際で破損。高台は方柱状につくり、畳付けは平坦。畳付けの両側を斜位に面取りしている。外側の方を大きく面取りしており、畳付け部の幅は狭い。釉は暗緑色のやや失透気味のもので、畳付け外側から外底面にかけて露胎としている。素地は灰白色のやや細かなもので、小さな気泡が目立つ。	H-22 方形掘込み遺 構
25			—	—	3.6	ベタ底の底部資料。現資料で内面にだけ施釉されている。釉は暗緑色の失透釉で白く濁る。素地は橙褐色のやや細かなもので、内面側は灰褐色を呈す部分も見受けられる。粒の粗い白色鉱物や黒色の鉱物も散見される。	J-28 南側1層
26	皿	底部	—	—	2.6	碁笥底の資料で、胴下部まで有する。接着面から内側へ若干削り込んで、そこから外側へ開くように立ち上がる。そのため畳付けは尖る。外底面は中央部が盛り上がるように削っている。内底面の中央部にみられる陽圏線以外に文様は認められない。釉は淡緑色でやや透明度を有す。外面の接地面際から外底面にかけて露胎にしている。素地は淡灰白色のやや細かいものである。	I-J-24表土・攪 乱+J-20コー ラル敷A
27			—	—	3.6	碁笥底の資料で、胴下部まで有する。平坦に整形された畳付け部から直線的に外側へ開きながら向かう。外底面は中央部が盛り上がるように削り込む。釉は淡青緑色を呈すが、白く濁り、完全に失透している。そのため、文様などの状況が判然としない。外面の胴下半から外底面にかけて露胎とするが、他は全釉のようである。外底面には釉垂れもみられる。素地は淡灰白色のやや粗いもので、底面部及びその周辺は赤味を帯びる。	不明

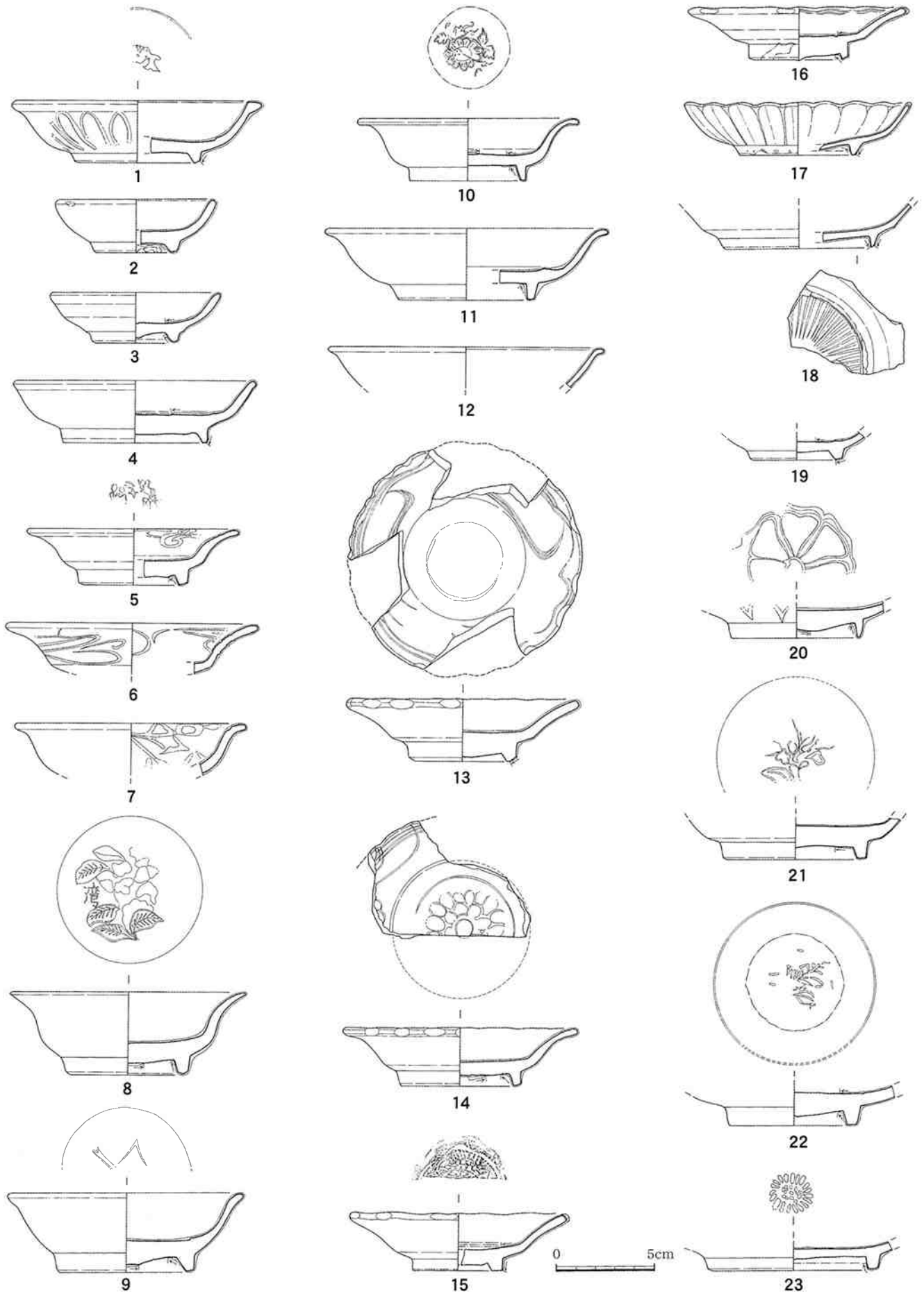
注 「-」：計測不可、「+」：接合の意



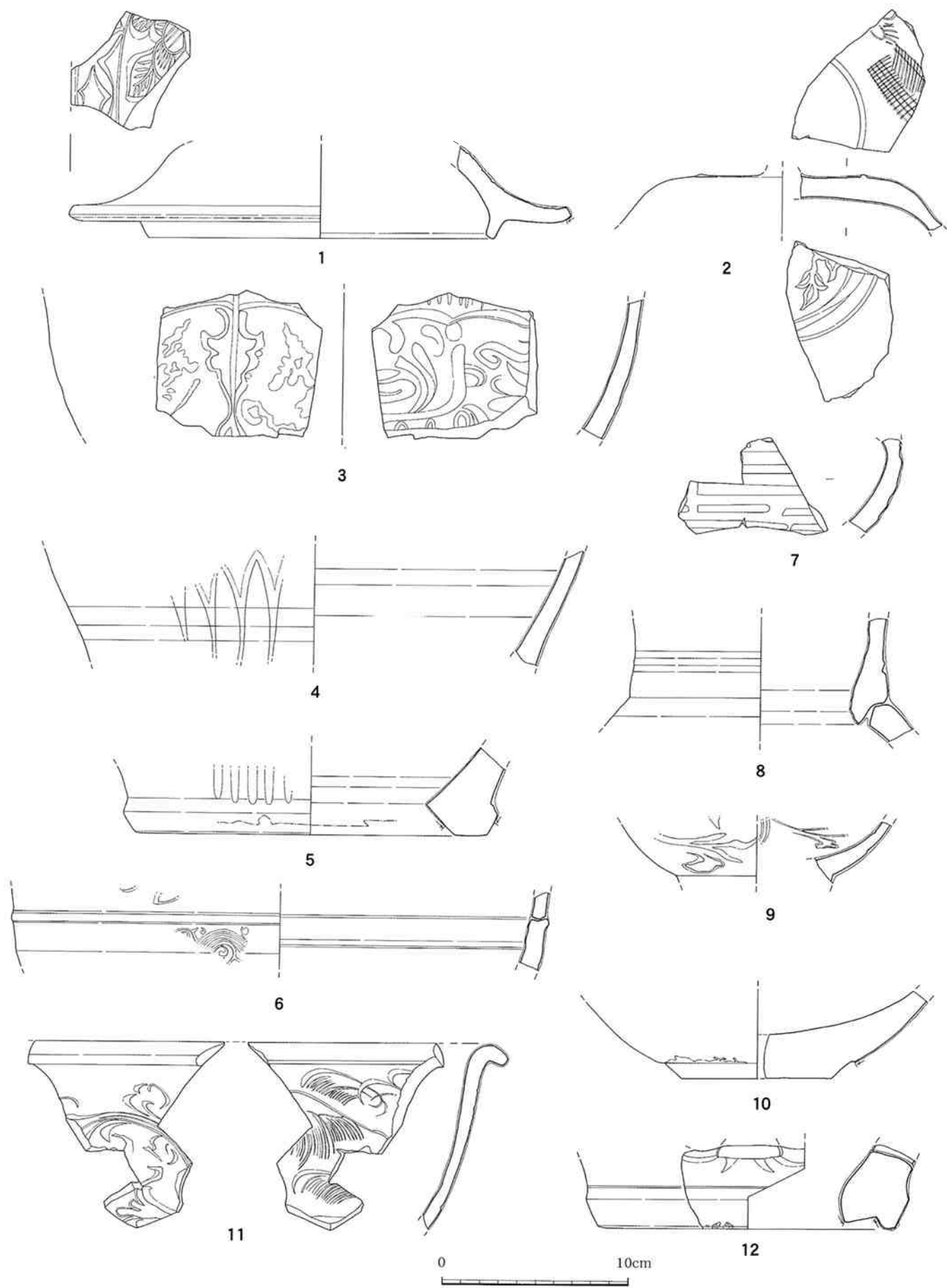
第16图 青磁 (1)



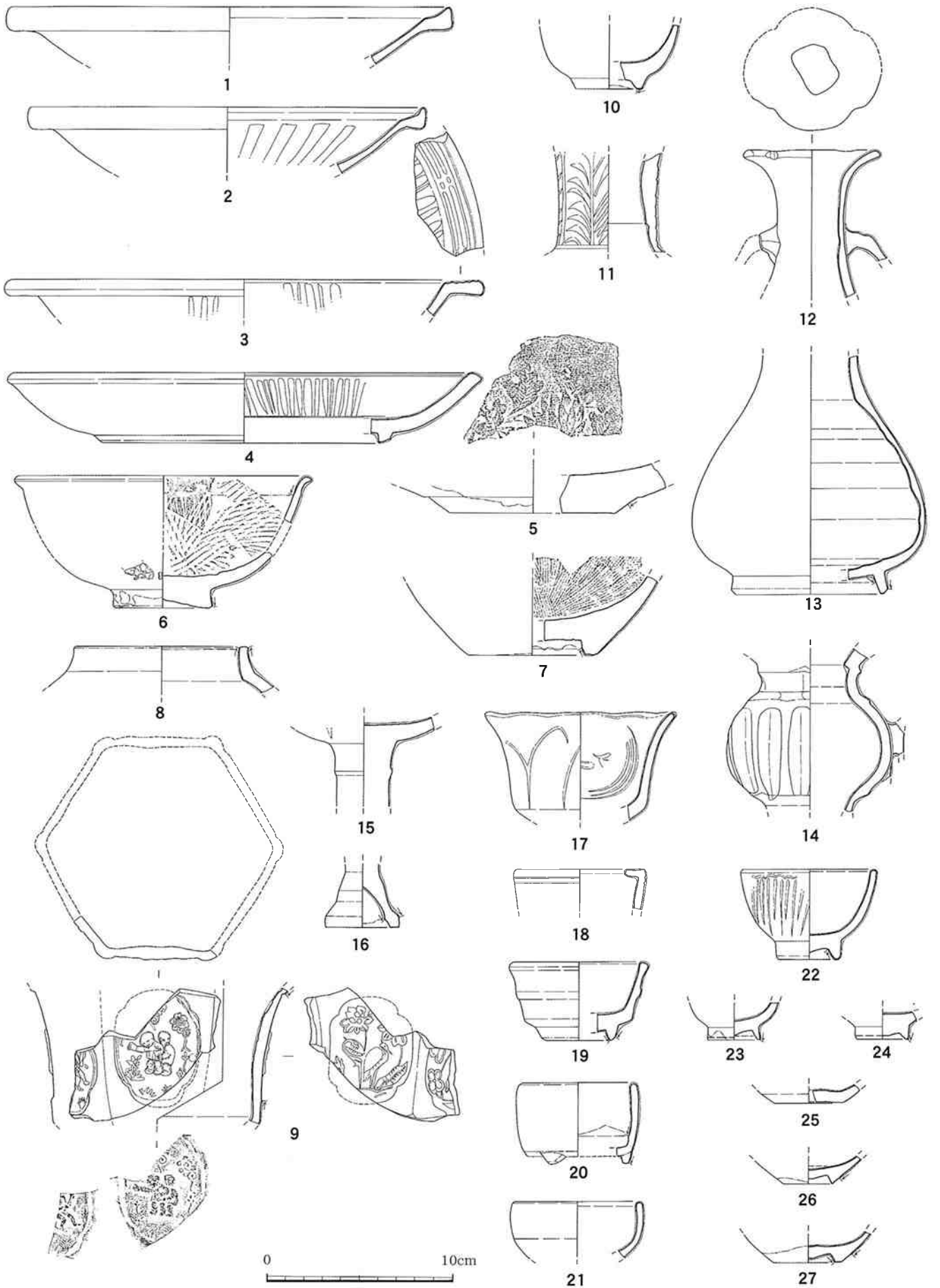
第17图 青磁 (2)



第18图 青磁 (3)



第19图 青磁 (4)



第20图 青磁 (5)

第2節 白磁

白磁は1,049点出土し、第21～23図に示した。器種は皿が全体の半数を占め、その他に碗、壺、杯、盤などがみられる。所属年代は13～14世紀前半の玉縁碗から明代にかけての資料が多くみられる。

第21図1～9・11は碗である。碗の口縁形態は玉縁が2点の他、直口、外反、内湾がみられ、外反するタイプが約8割を占めている。同図3は内面に櫛描で文様を描き、ピロースクタイプⅡの範疇に含まれるものと思われる。同図7は内面に龍文を陽刻する。ここでは中国産を扱ったが、同図11はベトナム産の可能性はある。

第21図10・第22図1～8・10～17・19～26は皿である。口縁形態は直口するタイプがほとんどである。同図1～4などは外反するタイプ、同図8・11などは直口するタイプである。また、サイズは15cm前後のものから、7cm前後の小皿がみられる。同図13は稜花皿、同図15・16は挾入高台をなすタイプである。同図21～25は灯明皿で、いずれも釉は薄く外面は無釉。

第23図1～4は壺である。同図1・2は安平壺で、1は全形をうかがうことができ、丸みを帯びた器形をなす。『天界寺跡（I）』において報告した資料に類する。同図3・4は底部で、厚くつくる。

第23図5～13は瓶である。器形をうかがうことのできる資料は少なく、同図6・8は肩が張る器形、同図10はナデ肩の器形をなすものと思われる。同図10は花文を陰刻する。

第23図16・17は盤である。いずれも鑿縁状口縁をなす。

第21図12～16・第23図18～23は杯である。第21図12は腰折れ杯の底部、第23図22・23は八角杯である。第21図13～15はいずれもロクロ痕が明瞭である。

第22図18は香炉、第23図15は台付きの碗もしくは鉢である。第22図26は焼成後に穿孔を施したもので、何らかの二次製品であろうか。

附記
『天界寺跡（I）』第2節白磁において第27図9・10を16世紀の白磁として報告したが、正しくは瀬戸美濃系の型押端反小皿である。同様な資料は東京都所在の菅谷遺跡（都立学校遺跡調査会2000）では近世の一括陶磁器に含まれている。

第6表 白磁観察一覧

単位：cm

図番号	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	産地・年代	出土地	
第21図・ 図版10	碗	口縁部	16.0	—	—	玉縁碗。釉は濁った白色、素地は白色。	13～14c前	K-20 表土・攪乱	
			15.0	—	—	口禿の外反碗。釉は灰白色、素地は白色。	13～14c前	不明	
	3	皿or碗	口縁部	14.6	—	—	ピロースクタイプⅡに属すると思われる皿もしくは碗。灰白色、素地は白色。内面に櫛描の文様。	12～14c	I-22 北側4層
	4	碗	口縁部	16.8	—	—	外反碗。腰部以下は無釉。釉は灰白色、素地は白色。	13～14c	L-17 北側3層
	5		口縁部	18.0	—	—	外反碗。釉は乳白色、素地は乳白色。	14～15c	G-22 畦
	6		口縁部	16.0	—	—	外反碗。釉は淡暗灰色、素地は淡灰色。外面はロクロ痕が残る。	13～14c	不明
	7		口縁部	12.2	—	—	外反碗。釉は白色、素地は白色。内面に龍文を陽刻する。	14c後～15c	K-18 北側3層
	8		口縁部	13.2	—	—	外反碗。釉は白色、素地は白色。	景德鎮 15c後～16c前	M-21 瓦溜まりC
	9		底部	—	—	7.0	釉は濁った白色、素地は白色。外面は腰部以下は無釉、内底面を蛇の目釉剥ぎ。	13～14c	K-23 石垣A
	10	皿	底部	—	—	6.0	釉は乳白色、素地は淡灰白色。畳付を斜めに削る。	14～15c	不明
	11	碗	底部	—	—	5.8	直線的に開く器形。釉は乳白色、素地は淡灰白色。	ベトナム? 14c後～15c	I-26 南側3層
	12	杯	底部	—	—	3.0	腰折の杯。屈曲部は角が付く。釉は乳白色、素地は白色。	14～15c	F-18 北側4層
	13		口～底	9.1	4.0	3.4	口縁は外反。全体的に二次被熱のためか釉・素地は濁った乳白色。外面はロクロ痕が明瞭。	14～15c	不明
	14		口～底	7.6	3.0	3.0	口縁が外反する小杯。釉は白色、素地は淡灰色。胴下半以下は無釉。外面はロクロ痕明瞭。	14～15c	J-18 北側3層
	15		口～底	7.0	2.9	3.0	直口口縁の小杯。釉は白色、素地は淡灰白色。外面はロクロ痕明瞭。	14～15c	不明
	16		口縁部	7.2	—	—	13に類する外反口縁の小杯。変色しており、釉・素地は濁った乳白色。	14～15c	不明
第22図・ 図版11	皿	口～底	15.8	3.6	8.9	外反皿。釉は濁った乳白色、素地は白色。畳付は無釉。高台内に不明の落款。	16c	J-26 土壌	
		口～底	15.4	4.0	8.8	外反皿、1に準ずる器形。釉、素地は白色。畳付は無釉。	16c	I-28 南側3層	
		口～底	12.0	2.7	6.2	外反皿、器形は1に準ずる。口唇部が若干厚い。釉、素地は白色。畳付は無釉。	16c	H・I-22・23 方形掘込み遺構	
		口～底	12.2	2.7	3.8	外反皿、器形は1に準ずる。釉、素地は白色。畳付は無釉。	16c	M-24南側3層+I-22方形掘込み遺構	

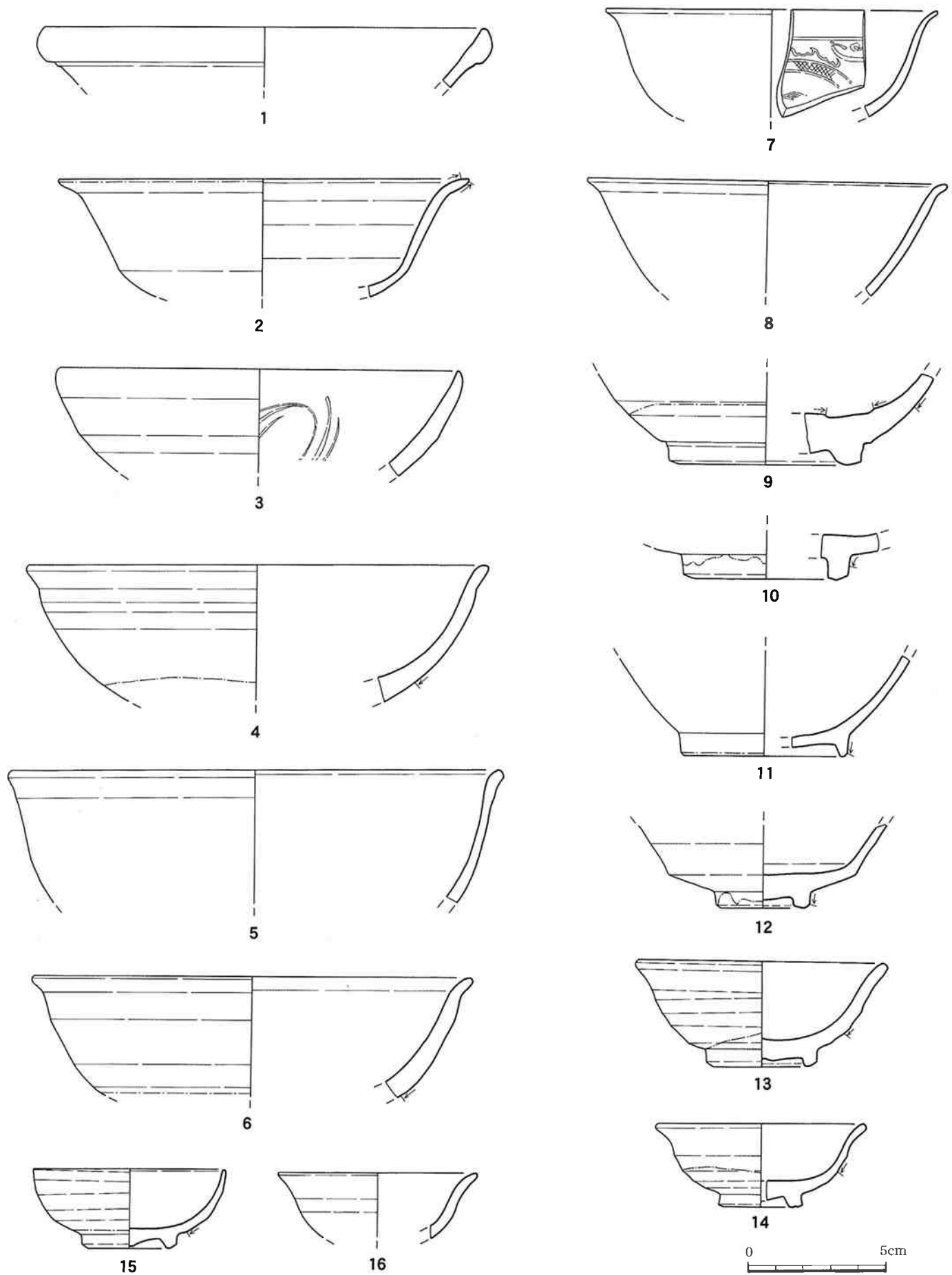
注 「+」：接合の意、「—」：不明の意

第6表 白磁観察一覧

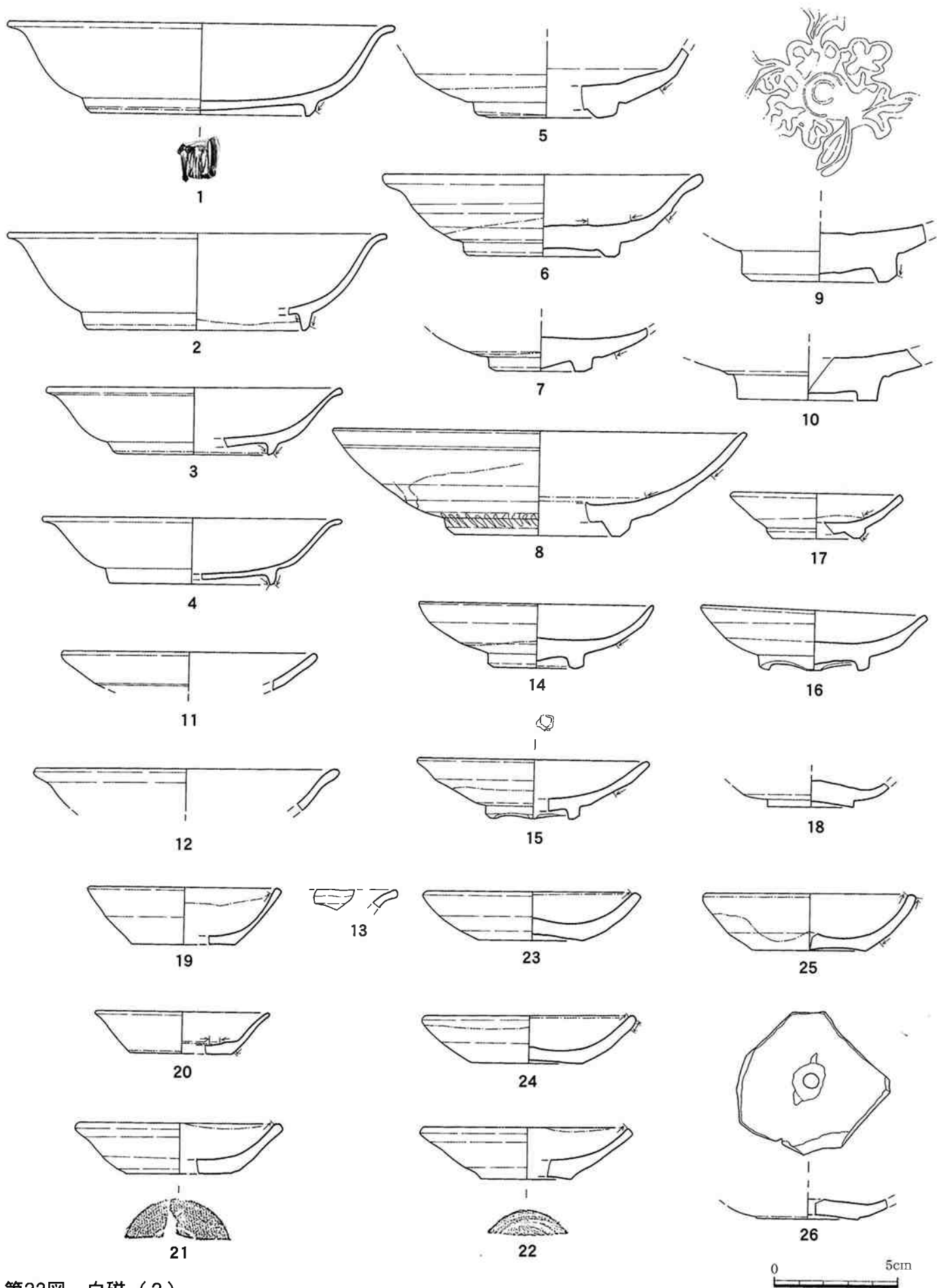
単位: cm

図番号	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	産地・年代	出土地	
第22図・図版11	皿	5 底部	—	—	5.8	釉は淡暗灰色、素地は濁った白色。外面は腰部以下が無釉、内底面は蛇の目釉剥ぎ。	13~14c	J-16・17 表土・攪乱	
		6 口~底	13.0	3.4	6.0	外反皿。釉は濁った暗灰色、素地は濁った白色。外面は腰部以下が無釉、内面は蛇の目釉剥ぎ。	13~14c	H-21 ピット11	
		7 底部	—	—	3.6	釉は乳白色、素地は白色。外面は腰部以下が無釉。ロクロ痕明瞭。	14~15c	不明	
		8 口~底	16.8	4.3	6.8	直口皿。釉は淡暗灰色、素地は淡灰色。外面は胴下半以下が無釉、内面は蛇の目釉剥ぎ。ロクロ痕明瞭。畳付を斜めに削る。	13~14c	東畦+I-28南側3層	
	9 碗	底部	—	—	5.6	釉は乳白色、素地は白色。内底面に印花文を施す。畳付は斜めに削る。	14~15c	不明	
	皿	10 底部	—	—	5.7	釉は青みがかった灰白色、素地は白色。外面は腰部以下が無釉。貫入あり。	13~14c	N-19 トレンチ	
		11 口縁部	10.4	—	—	直口皿。釉、素地とも白色。細かい貫入。	明代?	不明	
		12 口縁部	12.4	—	—	外反皿。釉、素地とも白色。	16c~17c初	不明	
		13 口縁部	—	—	—	稜花皿。釉、素地とも白色。	景德鎮 16c	不明	
		14 口~底	9.5	2.6	3.8	直口皿。釉、素地とも白色。腰部以下は無釉。細かい貫入。	中国 14~15c	L-15 北側4層	
		15 口~底	9.4	2.4	3.8	扶入高台の皿。釉は淡灰白色、素地は白色。腰部以下は無釉。ロクロ痕が残る。	中国	K・L-14 北側4層	
		16 口~底	9.2	2.3	4.4	扶入高台の皿。釉は濁った乳白色。腰部以下は無釉。ロクロ痕が残る。	中国 15c~16c前	K・L-16・17 北側3層	
		17 口~底	7.4	1.9	3.6	直口皿。釉は濁った白色、素地は淡灰白色。内底面は無釉。	中国 明代	N-24 南側3層	
		18 香炉	底部	—	—	3.5	釉は濁った黄白色、素地は白色。外面は無釉。細かい貫入。	中国 明代?	不明
		皿	19 口~底	7.5	2.4	4.1	ベタ底。釉は剥落、素地は灰色。薄手。	中国 明代	M-21 瓦溜まりC
	20 口~底		7.0	1.7	4.0	ベタ底。釉は白色、素地は白色。底面は無釉、内底面は蛇の目釉剥ぎ。	中国	不明	
	灯明皿	21 口~底	8.4	2.1	4.2	ベタ底。釉はほとんど剥落、素地は濁った灰白色。19に比べて厚手。	—	M・L-20 石列D	
		22 口~底	8.6	2.1	3.6	釉は青みがかった灰白色、素地は灰色。外面は一部に釉垂れ。	中国 明代	I-26 溝状遺構C	
		23 口~底	8.8	2.0	4.2	釉は淡黄白色、素地は白色。外面は無釉。ロクロ痕が残る。底面は糸切り。	中国 明代	J-28 地山直上	
		24 口~底	8.6	2.0	4.4	釉は淡暗灰色、素地は灰色。外面は無釉。ロクロ痕明瞭。	中国 明代	H-22・23 方形掘込み遺構	
		25 口~底	8.6	2.3	4.6	釉は淡暗灰色、素地は淡灰色。外面は無釉。ロクロ痕が残る。	中国 明代	I-27 南側3層	
	皿	26 底部	—	—	4.0	ベタ底。釉は剥落、素地は白色。二次穿孔あり。	中国 明代	J-26 南側2層	
	第23図・図版12	壺	1 口~底	10.0	13.3	6.3	安平壺、胴が張る丸みを帯びた器形。口唇部は方形。釉は濁った乳白色、素地は白色。細かい貫入がみられる。高台は斜めに削る。	—	L・M-18北側3層+G-17北側4層+K-16南側1層
			2 口縁部	8.2	—	—	安平壺、胴が張る器形。口唇部は薄い。釉は灰白色、素地は白色。口唇端部、胴下半以下は無釉、内外ともロクロ痕が明瞭。	中国 14~15c	M・L-20 石列D
			3 底部	—	—	7.0	厚手の底部。釉は確認できない、素地は灰白色。	14~15c	M-20 瓦溜まりC
			4 底部	—	—	6.6	釉は暗灰色、素地は灰色。	14~15c	M-21 瓦溜まりC
瓶		5 底部	—	—	8.0	釉は淡青白色、素地は白色。畳付は無釉。	中国 明代?	M-20 瓦溜まりC	
		6 胴部	—	—	—	肩が張る器形。釉、素地とも変色、濁った乳白色。内外ともロクロ痕明瞭。細かい貫入。	中国 14~15c	不明	
		7 胴部	—	—	—	腰部からまっすぐ立ち上がる筒形。釉、素地とも変色、乳白色。内外ともロクロ痕。	中国 14~15c	H-22 方形掘込み遺構	
		8 肩部	—	—	—	肩が張る器形。釉、素地とも白色。内面にロクロ痕。粗い貫入。	中国 16c頃	M-22・23 表土・攪乱	
		9 口縁部	—	—	—	無頸の小瓶? 釉、素地とも変色、濁った乳白色。細かい貫入。	—	不明	
		10 胴部	—	—	—	花文を陰刻。釉は濁った白色、素地は白色。内面に接合帯。	景德鎮 16c	L-21 瓦溜まりC	
		11 胴部	—	—	—	釉は淡灰色、素地は白色。内面に接合帯。	景德鎮 16c	K-21 南側2層	
		12 底部	—	—	5.7	碁筭底をなす。釉は白色、素地は乳白色。底部は無釉。	中国 明代	不明	
		13 底部	—	—	7.4	釉は変色、素地は白色。畳付を斜めに削る。	中国 17c	L-28 表土・攪乱	
型物	14 底部	—	—	—	型物の底部、鱗状の沈文。釉は淡暗灰色、素地は白色。	17c後~18c前	不明		
碗or鉢	15 底部	—	—	—	台付きの碗もしくは鉢の底部。釉、素地とも白色。粗い貫入。	景德鎮 16c頃	不明		
盤	16 口縁部	—	—	—	鏝縁口縁の稜花盤。釉、素地とも白色。	16c	K-28 表土・攪乱		
	17 口~底	25.3	6.4	11.6	鏝縁口縁の盤。釉は灰色、素地は白色。	中国 明代	M-21 瓦溜まりC		
杯	18 口~底	5.8	3.8	3.2	高台からラッパ状に開き口縁は外反。釉は淡灰白色、素地は白色。口唇部に鎔釉、高台は無釉。貫入あり。	景德鎮 16c後~17c初	表土・攪乱		
	19 底部	—	—	4.4	ベタ底。釉は淡灰白色、素地は白色。外底面は無釉、内底面は蛇の目釉剥ぎ。	景德鎮 16c	M-28 南側2層		
	20 口縁部	5.6	—	—	口縁部は外反。釉、素地は白色。	景德鎮 16c~17c初	I-28 南側3層		
	21 口縁部	5.0	—	—	口縁は弱く外反。釉は濁った乳白色、素地は灰白色。粗い貫入。	中国 明代	表土・攪乱		
	22 底部	—	—	2.6	八角杯。釉は青みがかった白色、素地は白色。腰部以下は無釉。畳付は斜めに削る。	中国 15c頃	J-21 畦		
	23 底部	—	—	3.4	八角杯。素地、釉とも変色。扶入高台。	中国 15c	K-20 ピット20		

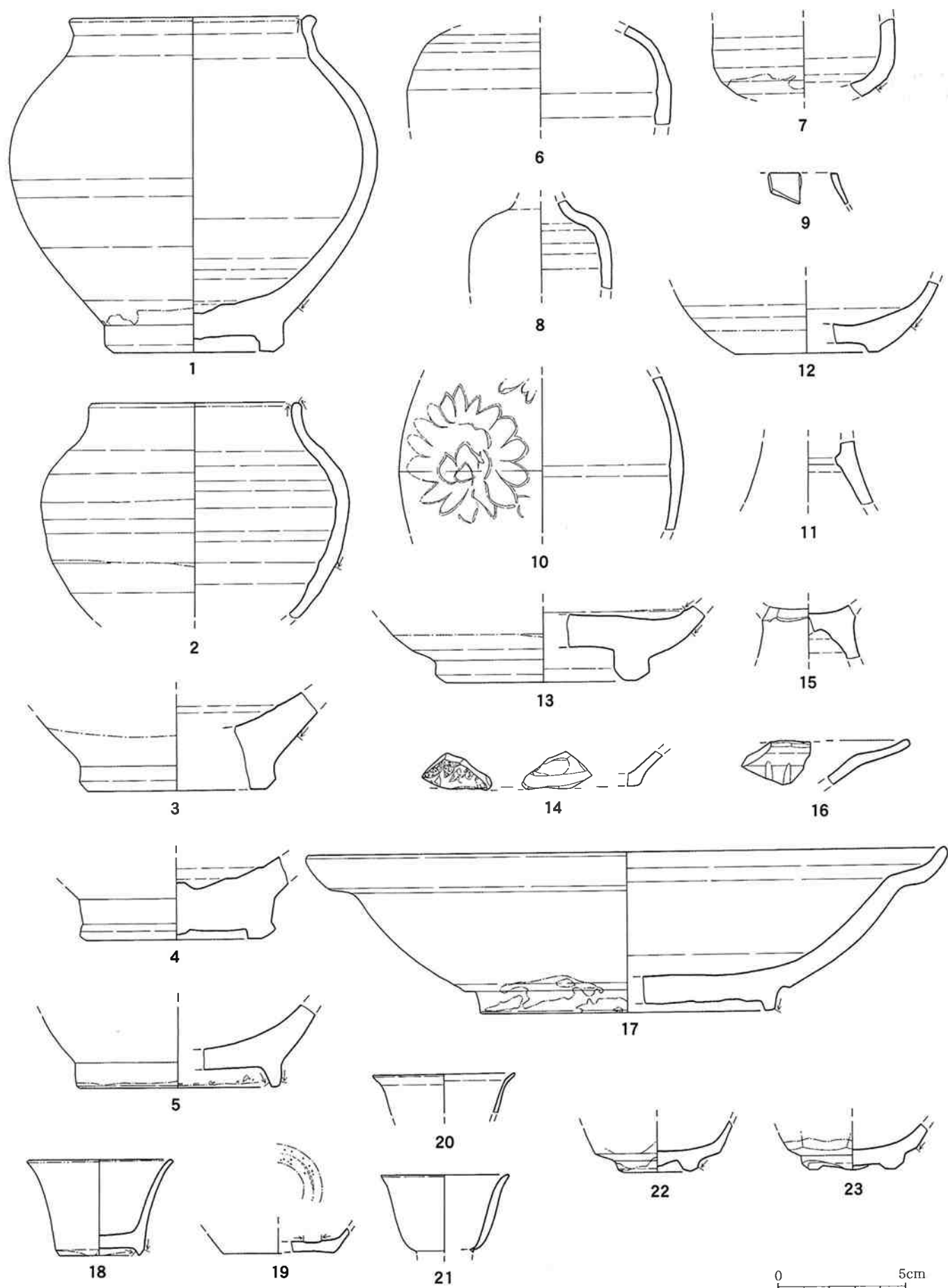
注 「+」:接合の意、「-」:不明の意



第21图 白磁 (1)



第22図 白磁 (2)



第23图 白磁 (3)

第3節 染付

染付は碗、皿、鉢、杯、瓶、火取、蓮華などが出土している。碗では比較的古い15世紀～16世紀代のものが多く、皿では16世紀以降のものが多い。景德鎮窯系が多いが、福建・広東系、漳州窯系も検出されている。

碗：碗は景德鎮窯系のもは15世紀後半～16世紀代のものであるが、福建・広東系、漳州窯系のもは16世紀～18世紀代と少し時代の下るものである。分類は主に口縁部の形態で行った。

I類—口縁部が外反するもの（第24図1・2、6～8）。

II類—腰部から口縁部に向けて直口するもの（第24図3・10・12）。

III類—内湾する胴部をもち口縁は直口するもの（第24図4・9・11）。

IV類—若干窪んだ底部から口縁部へ若干内湾しながらたち上がるもの（第24図5）。

底部は饅頭心型を呈するものや文様等に特徴があるものを図化した。

小碗：小碗は4点を図示した。ともに口縁部は直口するものである。そのうち1点は全体が伺えるものであり（第26図6）、腰部は折れ、腰部から口縁部へは直線的に立ち上がるものである。

皿：皿は年代的には15世紀代～18世紀代のもとの幅があるが、16世紀代を中心としている。分類は口縁部を主として行い、外反と直口とに分類し、さらに細分類を行った。

I類—口縁部が外反するもの。I-a：高台をもつ底部のもの（第25図1～3、14・15）、I-b：底部が碁笥底のものがある（第25図6）。

II類—直口口縁であり、II-a：高台をもつもの（第25図4）、II-b：碁笥底の底部から口縁部にかけて僅かに内湾しながら口縁にいたるもの（第25図7～9、16・17）がある。

その他底部で特徴的なものとして、漳州窯系のもがあり、2点図示した。

鉢：鉢は底部のみで全体が伺えるものはないが、福建・広東系（第26図3、4）及び漳州窯系（第26図1、2）のものが検出されている。

杯：胴部中央に稜のある腰折れの杯で、腰から口縁部に向けて直線的に至る。（第26図7）。

高足杯：高足杯の脚台の部分である。畳付から脚へいったん窪んで立ち上がる（第26図12）。

小杯：口縁部が外反するものを1点図示した。それは底部からほぼ直線的に口縁部へいたるものである。

瓶：瓶は頸部1点、胴部4点、底部1点を図示した。胴部のうちの1点は把手がつくものである。

蓮華：蓮華は1点図示した。底部の釉が剥ぎ取られている部分がある（第26図21）。

その他：袋物（第26図17）と水注の把手（同図20）と考えられるものを各1点図示した。

第8表 染付観察一覧

単位：cm

図番号	器種分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地	
第24図・ 図版13	碗/I	口縁部	14.8	—	—	外面口縁部に圏線・雷文帯、胴部に唐草文、内面口縁部に四方禪文を施す。素地は白色。呉須の発色は弱い。15世紀後半～16世紀初期。景德鎮窯系。	I-17コーラル敷B	
		底部	—	—	6.4	畳付外面を面取している。外面胴部に風景？、内面口縁部に四方禪文、見込に圏線及び折枝梅を描く。素地は白色。呉須の発色は良い。15世紀後半～16世紀初期。景德鎮窯系。	H-22方形掘込み遺構+K-22ピット1	
	碗/II	口～底	13.0	6.2	5.6	外面口縁部に波濤文様、胴部にアラベスク文、高台に2本の圏線を配する。内面は口縁部及び腰部に圏線を巡らし、見込に蓮花文を施す。素地は淡黄色。淡青色の釉中に細かい気泡がある。呉須の発色は淡い。16世紀前半～16世紀中葉。景德鎮窯系。	I・J-16北側4層+I-28ピット15	
	碗/III	口～底	14.2	7.3	4.8	外面口縁部と高台に圏線、胴部に草花文、内面口縁部に圏線、見込に草文を施す。素地は白色。呉須の発色は良い。15世紀後半～16世紀初期。景德鎮窯系。	K-24南側3層+H-26南側2層	
	碗/IV	口～底	14.6	5.5	5.6	外面口縁部と高台に圏線、胴部に唐草文、腰部に如意頭繫文を施す。内面は口縁部に圏線、見込に圏線、花文を施す。素地は白色。呉須の発色はやや弱い。全体に細かい貫入がある。15世紀後半～16世紀初期。景德鎮窯系。	I-25南側2層	
	碗/I	口縁部	15.0	—	—	外面口縁部に圏線、胴部に波濤文を、内面口縁部に四方禪文を施す。素地は白色。呉須の発色は弱い。15世紀後半～16世紀前半。景德鎮窯系。	J-21コーラル敷A	
		口縁部	13.6	—	—	外面口縁部に圏線、胴部に印花を施す。素地は淡黄色。呉須の発色は弱い。17世紀末～18世紀前半。福建・広東系。	H-26北側4層	
			口～底	13.4	6.3	6.0	内外面の口縁部に圏線、外面胴部に不明な文様、見込に草文を施す。素地は白色。呉須の発色は良いが、釉の中で滲んでいる。釉中に気泡が確認できる。15世紀後半～16世紀。景德鎮窯系。	H-26南側2層
	碗/III	口縁部	12.8	—	—	外面口縁部に圏線・雷文帯、胴部に唐草文、内面口縁部に圏線を施す。素地は白色。呉須の発色は良い。15世紀後半～16世紀初期。景德鎮窯系。	J-19北側1層+J-19北側4層	

注（）：推定、「—」：測定不可、「+」：接合の意

第8表 染付観察一覧

単位: cm

図番号	器種・分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地			
第24図・図版13	碗	底部	10	碗/Ⅱ	口縁部	15.2	—	—	外面胴部に花文、内面口縁部に圏線を施す。素地は白色。呉須の発色は弱い。17世紀末～18世紀前半。福建・広東系。	M-24南側1層
			11	碗/Ⅲ	口縁部	12.8	—	—	外面口縁部に圏線、胴部に折枝梅及び鴛文、内面口縁部に圏線を施す。素地は白色。呉須の発色は良い。15世紀～16世紀前半。景德鎮窯系。	不明
			12	碗/Ⅱ	口縁部	15.2	—	—	内外面口縁部に圏線、外面胴部に草花文?を施す。素地は灰白色。呉須の発色は弱い。16世紀末～17世紀前期。福建系。	M-20 トレンチ②
			13			—	—	5.4	高台は内傾するように形成されている。外面胴部に折枝梅文、見込に梅樹文及び略された月が施されている。素地は白色。呉須の発色は弱い。15世紀後半～16世紀前半。景德鎮窯系。	H-25南側1層
			14			—	—	5.2	外面胴部に草花文、見込に梅樹文を施す。素地は淡黄色。呉須の発色は良い。15世紀後半～16世紀初期。景德鎮窯系。	不明
			15			—	—	4.4	底部中央が僅かに盛り上がる。外面胴部に花文、高台に圏線、外底に「大明年造」を施す。見込に圏線及び人物文を施す。素地は白色。呉須の発色は弱い。16世紀後半。景德鎮窯系。	M-20 表土・攪乱
			16			—	—	4.4	外面胴部に唐草文とラマ式蓮弁文、見込に圏線及び蓮池文を施す。素地は淡黄色。呉須の発色は弱い。15世紀後半～16世紀初期。景德鎮窯系。	J-17北側1層
			17			—	—	5.0	底部中央が僅かに窪む蓮子碗。外面胴部に圏線及び不明な文様、見込に圏線及び寿字文を施す。素地は白色。呉須の発色は良い。15世紀末～16世紀前期。景德鎮窯系。	H-27北側4層
			18			—	—	5.1	外面胴部にアラベスク文、内面腰部に圏線、見込に唐草文を施す。釉色は強い青灰色。素地は淡黄色。16世紀前半～16世紀中葉。景德鎮窯系。	I-J-16北側4層
			19			—	—	4.0	外面胴部に宝相華唐草文?及び圏線、見込に圏線及び梅月文を施す。素地は灰白色。呉須の発色は良い。全体的に気泡跡がある。15世紀後半～16世紀前半。景德鎮窯系。	I-16北側1層
			20			—	—	(6.2)	蓮子碗。外面胴部に三葉状の文様及び圏線、見込に圏線及び唐草文?を施す。素地は白色。呉須の発色は良い。16世紀前半～16世紀中葉。景德鎮窯系。	H-27北側4層+ I-28南側3層
			21		胴部	—	—	—	外面胴部に牡丹文を施す。素地は白色。呉須の発色は良い。16世紀末～17世紀前半。景德鎮窯系。	M-21瓦溜まりC
22			—	—	—	外面胴部に蘋文及び波濤文?、内面胴部に花唐草文を施す。素地は白色。呉須の発色は良い。16世紀。景德鎮窯系。	北 トレンチ攪乱層+ L-20南側畦			
第25図・図版14	Ⅲ	Ⅲ/Ⅰ-a	口～底	1	16.6	3.1	8.4	外反口縁Ⅲ。高台は内側に傾斜する。外面口縁部及び高台に圏線、胴部に宝相華唐草文、内面口縁部に雷文帯、見込に圏線及び唐草文?を施す。素地は白色。呉須の発色は良い。15世紀後半～16世紀初期。景德鎮窯系。	北側2層+ G-22基壇	
				2	12.0	3.0	6.6	外反口縁。外面口縁部と腰部に圏線、胴部に宝相華唐草文を施し、内面は口縁部及び見込際に圏線、見込に玉取獅子文を施す。素地は淡黄色。呉須の発色はやや弱い。底部から胴部にかけて貫入がある。15世紀後半～16世紀前半。景德鎮窯系。	J-20コーラル敷A +I-24南側1層	
				3	14.1	3.8	6.4	疊付外面を面取している。外底面に圏線、内面口縁部に圏線、胴部から見込にかけて草花文を施す。17世紀末～18世紀前期。景德鎮窯系。	L-23・24石垣A	
		4	Ⅲ/Ⅱ-a	口～底	11.2	2.3	7.2	外面口縁部及び高台に圏線、胴部に花卉文、内面口縁部に圏線、見込に不明な文様を施す。疊付に砂が付着している。素地は白色。呉須の発色は良い。釉中に細かい気泡がみられる。16世紀後半～17世紀初期。景德鎮窯系。	不明	
		5	Ⅲ/Ⅰ	口縁部	10.8	—	—	外面口縁部に2本圏線、内面口縁部に四方禪文を施す。素地は白色。呉須は少し黒味を帯びる。釉中に細かい気泡がある。16世紀後半～17世紀初期。景德鎮窯系。	M-21瓦溜まりC	
		6	Ⅲ/Ⅰ-b	口～底	13.2	3.25	5.4	口縁部が外反する暮筍底Ⅲ。外面口縁部から胴部にかけて渦卷文、疊付際に圏線を施す。内面は口縁部に圏線、見込に十字花文、その周りに圏線及び花文を施す。素地は白色。疊付無釉。呉須の発色は良い。景德鎮窯系。	H-22方形掘込み遺構	
		7	Ⅲ/Ⅱ-b	口～底	12.0	3.2	4.2	疊付無釉の暮筍底Ⅲ。内面口縁部に圏線、見込に草花文。素地は淡黄白色。呉須の発色は弱い。16世紀。景德鎮窯系。	J-26南側2層+K-26畦	
		10.2			2.7	3.0	暮筍底Ⅲ。文様は略され、外面口縁部に波頭文、胴部に芭蕉文を施す。内面は口縁部及び見込際に薄く圏線、見込に鳥文、芭蕉文を施す。素地は白色。呉須の発色は弱い。16世紀前半～16世紀中葉。景德鎮窯系。	K・L-16北側1層		
		9	底部	—	—	3.0	暮筍底Ⅲ。外面胴部及び内面見込に芭蕉文を施す。素地は淡黄色。呉須の発色は弱い。16世紀前半～16世紀中葉。景德鎮窯系。	J-16表土・攪乱		
		10	Ⅲ	底部	—	—	5.8	底部片。外面高台際に圏線、見込に玉取獅子?を施す。全体的に熱を受けている。素地は白色。16世紀後半～17世紀初期。景德鎮窯系。	不明	
		—			—	8.8	底部片。疊付の外側・内側ともに面取されている。文様は見込に獅子文及び高台外面に圏線が施されている。素地は白色。呉須の発色は良い。16世紀。景德鎮窯系。	不明		
		—			—	7.9	底部片。高台は面取されている。外面高台際に圏線。見込に「志在書中」銘。呉須の発色は弱い。18世紀。福建系。	不明		
		—			—	7.4	底部片。見込に白鷺文を施す。素地は灰白色。外面高台まで施釉し、外底は無釉。釉は白色。外底にヘラによる切り取り跡がある。また、疊付に砂が付着。16世紀末～17世紀前半。漳州窯系。	L-20表土・攪乱		

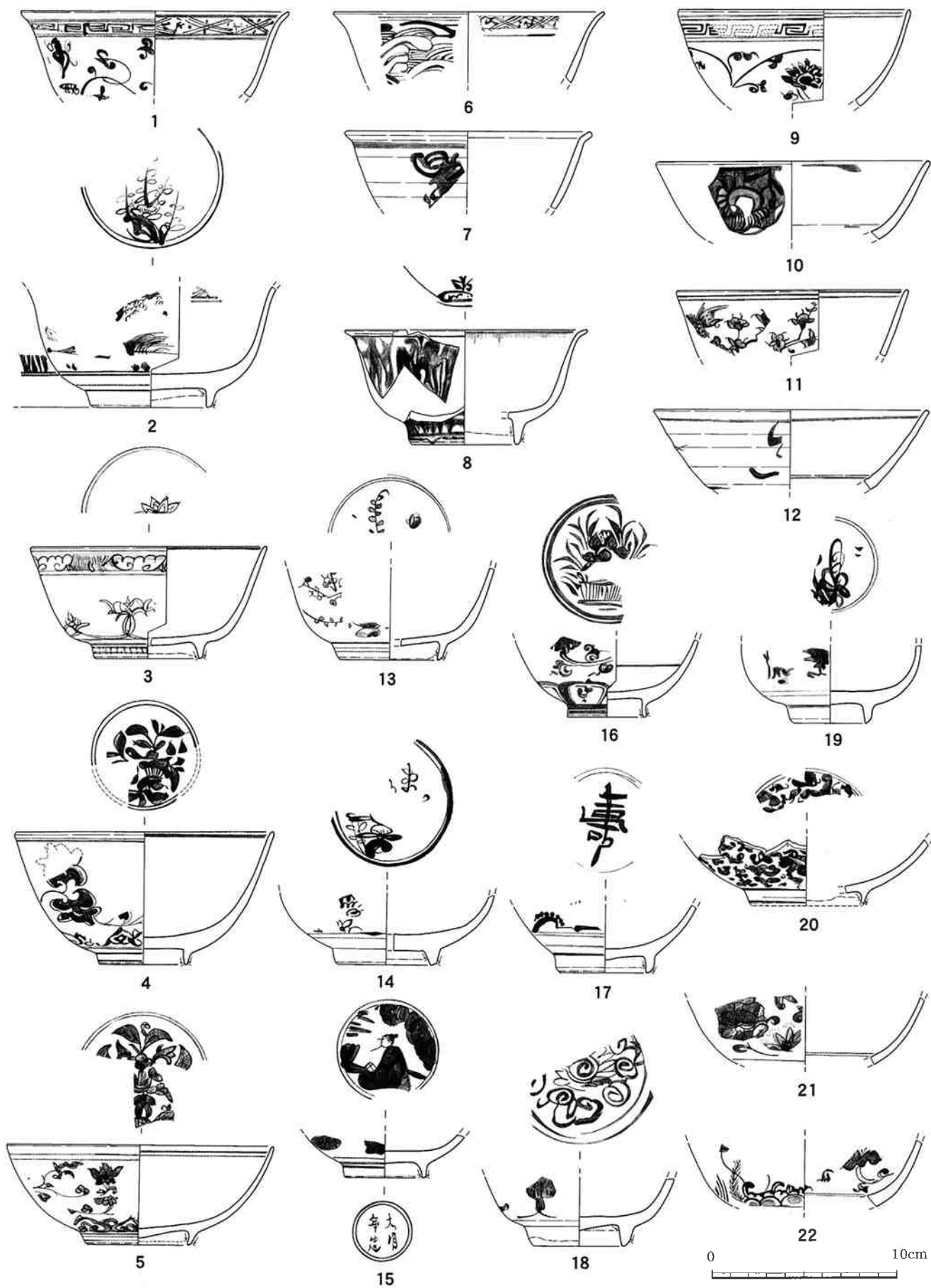
注 () : 推定、[-] : 測定不可、[+] : 接合の意

第8表 染付観察一覧

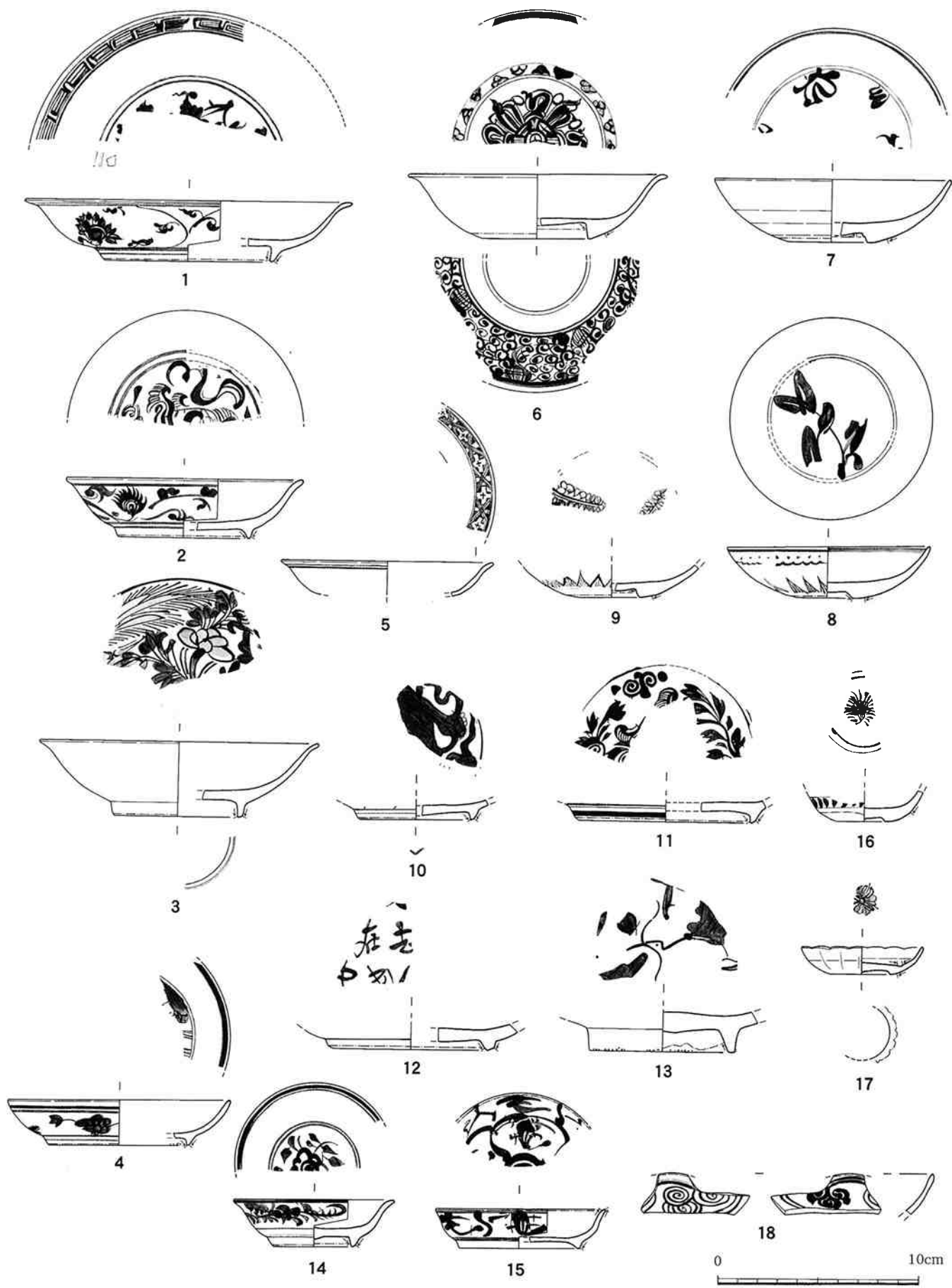
単位: cm

図番号	器種・分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地	
第25図・図版14	Ⅲ/ I-a	口~底	8.1	2.4	4	口縁部外面及び腰部に圏線、胴部に草文、内面口縁部に圏線、見込に圏線及び草花文を施す。畳付は内側に傾斜し、内外面ともに面取されている。素地は白色。呉須の発色は良い。16世紀。景德鎮窯系。	不明	
			8.5	2.0	6.0	型押成形である。内外面ともに「仙芝祝寿」文を施す。素地は白色。口唇及び外底は無釉。18世紀。徳化窯系。	F-21表土・攪乱	
	Ⅲ/ II-b	底部	—	—	2.0	碁笥底Ⅲ。外面胴部に略された蓮弁文、見込に圏線及び靈芝文を施す。外底は無釉。素地は灰白色。呉須は黒ずむ。16世紀~17世紀?。景德鎮窯系。	H-26南側2層+ L-27表土・攪乱	
		口~底	6.1	1.4	2.8	口縁部が輪花状を呈し、碁笥底。外面は陰刻花文を施し、底部にその施文跡が釉として残っている。見込は釉を円状に剥ぎ、中心に十字花文を配する。素地は白色。呉須の発色は弱い。16世紀。景德鎮窯系。	J-27南側3層	
18	Ⅲ	口縁部	—	—	—	ひねり変形Ⅲ。内外面ともにラマ式蓮弁を施す。外面の蓮弁文内は渦巻で表現し、内側の蓮弁文内は宝珠文?を施す。素地は白色。呉須の発色は良い。熱を受けている。16世紀後半~17世紀初期。景德鎮窯系。	不明	
第26図・図版15	鉢	底部	—	—	7.6	内外面ともに文様はあるが圏線以外は不明。素地は白色。呉須の発色はやや弱い。畳付は無釉。全体的に細かい貫入がある。17世紀。漳州窯系?。	M-21瓦溜まりC	
			—	—	12.8	底部片。外面胴部に圏線、見込に圏線及び渦文?を施す。素地は淡黄色。呉須の発色は弱い。高台脇の釉が剥けている。全体的に細かい貫入がある。16世紀末~17世紀前期。漳州窯系。	表土・攪乱	
			—	—	—	見込は蛇の目に釉を剥いている。外面胴部及び底部に印花文を施し、内面は見込に圏線及び陰刻文を施す。素地は淡黄色。呉須の発色は弱い。全体的に細かい貫入がある。17世紀後半~18世紀。福建系。	J-19ピット3	
			—	—	5.4	底部片。高台は外側へ傾斜して形成されている。外面胴部に圏線、蛇の目釉剥ぎの見込に圏線及び不明な文様を施す。素地は淡黄色。呉須の発色は弱い。全体的に細かい貫入がある。17世紀。福建系。	M-21瓦溜まりC	
	5	Ⅲ	底部	—	—	15	底部片。外面腰部及び高台に圏線、見込に玉取獅子文が施されている。素地は白色。呉須の発色は良い。全体に細かい貫入がある。15世紀中葉~15世紀末。景德鎮窯系。	J-15・16北側4層
	6	小碗	口~底	8.2	4.5	3.7	腰折の小碗。外面口縁部、高台脇及び高台に圏線、胴部に唐草文を施し、内面口縁部及び見込周辺に圏線、見込に蓮文を施す。呉須の発色は良い。15世紀後半~16世紀前半。景德鎮窯系。	M-28南側2層+H-22 方形掘込み遺構
	7	杯	—	8.2	—	—	胴部中央に稜のある腰折杯。外面口縁部に圏線、稜より上部に楡扇文?、下部に如意頭繫文を施す。また、如意頭繫文の空白を埋めるように赤色に施文された跡がある。15世紀後半~16世紀前半。景德鎮窯系。	H-23溝状遺構
	8	小碗	口縁部	7.8	—	—	内面口唇から外面口縁部にかけて錆釉、内外面口縁部に圏線を配する。素地は白色。呉須の発色は弱い。16世紀。景德鎮窯系。	L・M-18表土・攪乱
	7.3		—	—	外面口縁部に圏線、胴上部にチベット文字、圏線、松竹梅文?を施す。素地は淡黄色。呉須はやや黒ずむ。15世紀後半~16世紀前半。景德鎮窯系。	L・K-19石列D+ I-20ピット17		
	10	—	胴部	—	—	—	外面胴部に如意頭繫文及び圏線、内面胴部に圏線を施す。素地は白色。呉須の発色は良い。15世紀後半~16世紀前半。景德鎮窯系。	J-18北側1層
	11	小杯	口~底	4.8	3.2	2.2	高台は内外面ともに面取されている。見込に不明な文様が施されている。畳付外面から外底は無釉。素地は白色。呉須の発色は良い。15世紀後半~16世紀前半。景德鎮窯系。	K-27表土・攪乱
	12	高足杯	脚部	—	—	3.6	外面に圏線を配している。外面の底面際まで施釉され、内面は無釉。素地は白色。呉須の発色は弱い。釉中に細かい気泡がある。16世紀。景德鎮窯系。	L-21表土・攪乱
	13	瓶	頸部	—	—	—	肩の張る瓶の頸部。肩部に草文、把手と頸部の間に圏線、把手の形状に沿うように呉須により文様が配されている。内面はガラス質が焼成の際に溶け、自然釉となっている。素地は灰白色。呉須の発色は良い。16世紀。景德鎮窯系。	I-25南側2層
	14		—	—	—	—	瓶胴部。ラマ式蓮弁文内の葉文が施されている。素地は淡黄色。呉須の発色はやや弱く、少し滲む。ベトナム。	K・L-17北側1層
	15		—	—	—	—	瓶胴部。圏線で区画を行い、それぞれ花唐草文を施す。素地は白色。呉須の発色は良い。内面にも施釉され、内外面ともに細かい貫入が入る。15世紀。景德鎮窯系。	J-26南側2層
	16		—	—	—	—	瓶胴部。圏線で区画し、その中に人物文を配す。内面にも施釉され、内外面ともに貫入が入る。素地は白色。呉須はやや滲む。15世紀~16世紀初期。景德鎮窯系。	G-23石列A
	17	袋物	胴部	—	—	—	区画された中に波濤文を描く。呉須の発色は良いが黒味が強い。16世紀~17世紀初期。景德鎮窯系。	K-26畦
	18	瓶	底部	—	—	6.8	外面胴部を圏線で区切り、草花文を施す部分と如意頭繫文に分けている。畳付は内外面ともに面取されている。内面にも施釉。素地は白色。呉須の発色は良い。16世紀。景德鎮窯系。	J-25南側3層
	19		—	—	—	—	瓶のくびれの部分。くびれの部分に圏線、その上下に唐草文を施す。素地は白色。呉須の発色は良い。内面にも施釉される。外面に気泡跡がある。16世紀~17世紀初期。景德鎮窯系。	L-20瓦溜まりC
	20	水注	把手	—	—	—	把手外面に草花文を施し、上部の輪に呉須を垂らす。素地は白色。呉須の発色は良い。釉は若干緑味を呈する。15世紀末~16世紀。景德鎮窯系。	H-22トレンチ
	21	蓮華	底部	—	—	—	内面に唐草文?を配し、外面にも染付する。底面の接する部分の釉を剥いている。素地は白色。呉須は滲む。18世紀末~19世紀中葉。景德鎮窯系。	F-22基壇

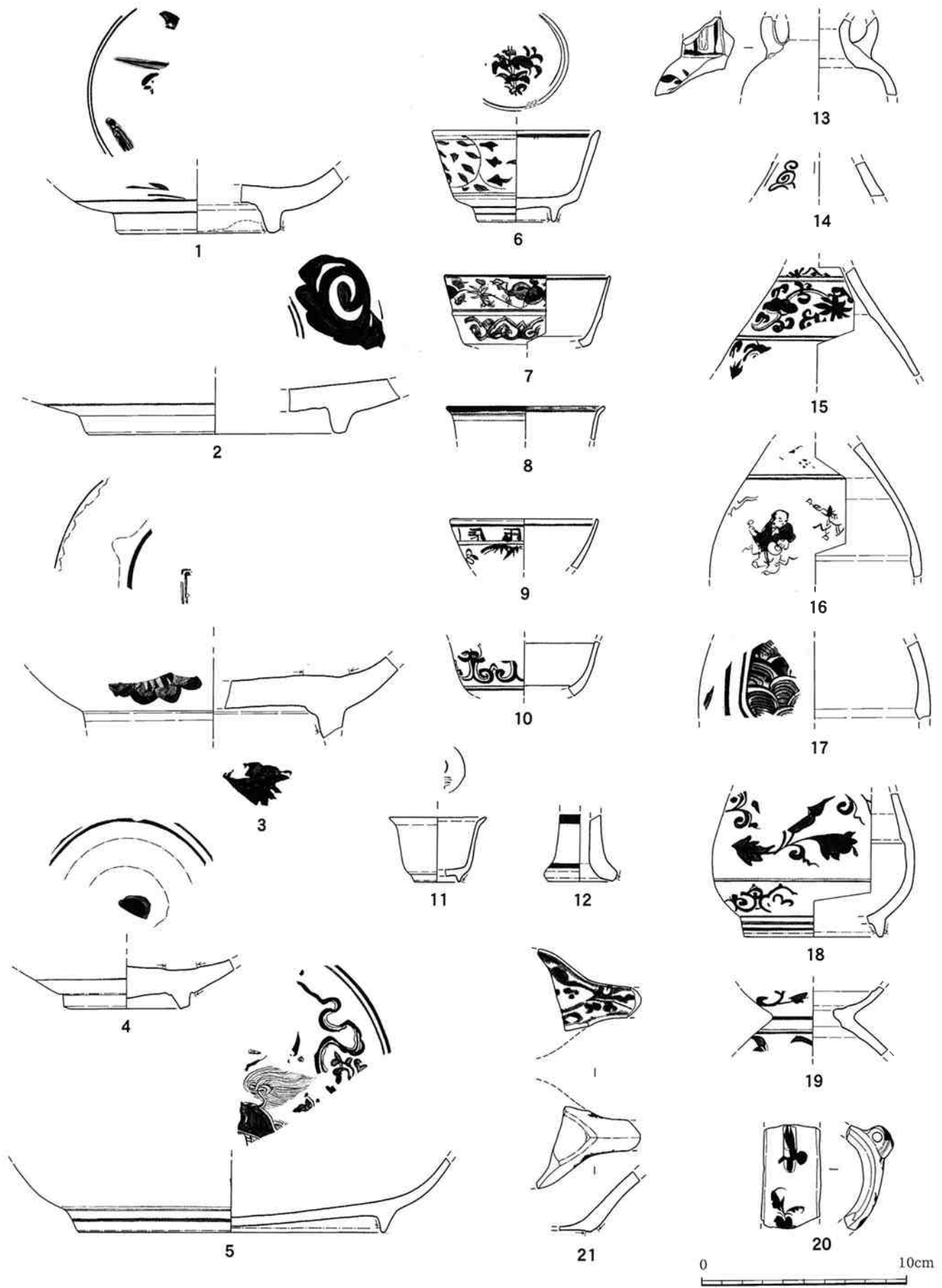
注 (): 推定、[-]: 測定不可、[+]: 接合の意



第24图 染付(1)



第25图 染付(2)



第26图 染付(3)

第4節 鉄釉染付

総計12点得られた。外面に鉄釉、内面に青白色の透明釉を施したものをここにまとめた。小破片の資料が多いが、残存率の高い資料を優先に図化した。ここでは2点図化した。何れも小碗で第27図1、2に示したものである。

1は口縁部から底部まで全形を窺うことができる薄手の外反碗である。釉は畳付を除いて均一に薄く施され、内底面に呉須による山水文と思われる文様が見られる。外底面にも文様を窺うことができるが、残存状況が不良なため全体の構成は不明である。内面口縁下部と内面腰部に二条一組の圈線が見られる。

2は薄手の小碗底部である。1と比べて高台が高く、高台径からやや1より大振りになるものと思われる。釉は畳付から内面高台下部を除いて均一に薄く施され、内底面に呉須による山水文が見られる。外底面中央には印款が見られる。

第5節 瑠璃釉・瑠璃釉染付

瑠璃釉は総計51点、瑠璃釉染付は総計3点得られた。小破片資料が多いが、残存率の高い資料を優先に図化した。ここでは瑠璃釉8点、瑠璃釉染付3点図化した。器種は瑠璃釉に関しては壺、瓶、瑠璃釉染付に関しては碗、瓶が見られた。前回の報告³⁾と比べて小杯、鉢が見られない点で若干、様相を異にする。

<註>

註1. 「天界寺跡(I)―首里杜館地下駐車場入り口新設工事に伴う緊急発掘調査―」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第2集
沖縄県立埋蔵文化財センター 2001.3

第6節 翡翠釉

総計20点得られた。小破片資料が多いが、残存率の高い資料、並びに特徴的な資料を3点、図化した。器種は皿、小皿のみで口縁部は「く」の字状に外反し、中には輪花状になるものも見られた。いずれも白化粧を施した後、外面底部近くはライトブルー、外面胴部から内底面にかけては青緑色の釉を薄く施す。

第10表 鉄釉染付・瑠璃釉・瑠璃釉染付・翡翠釉出土状況

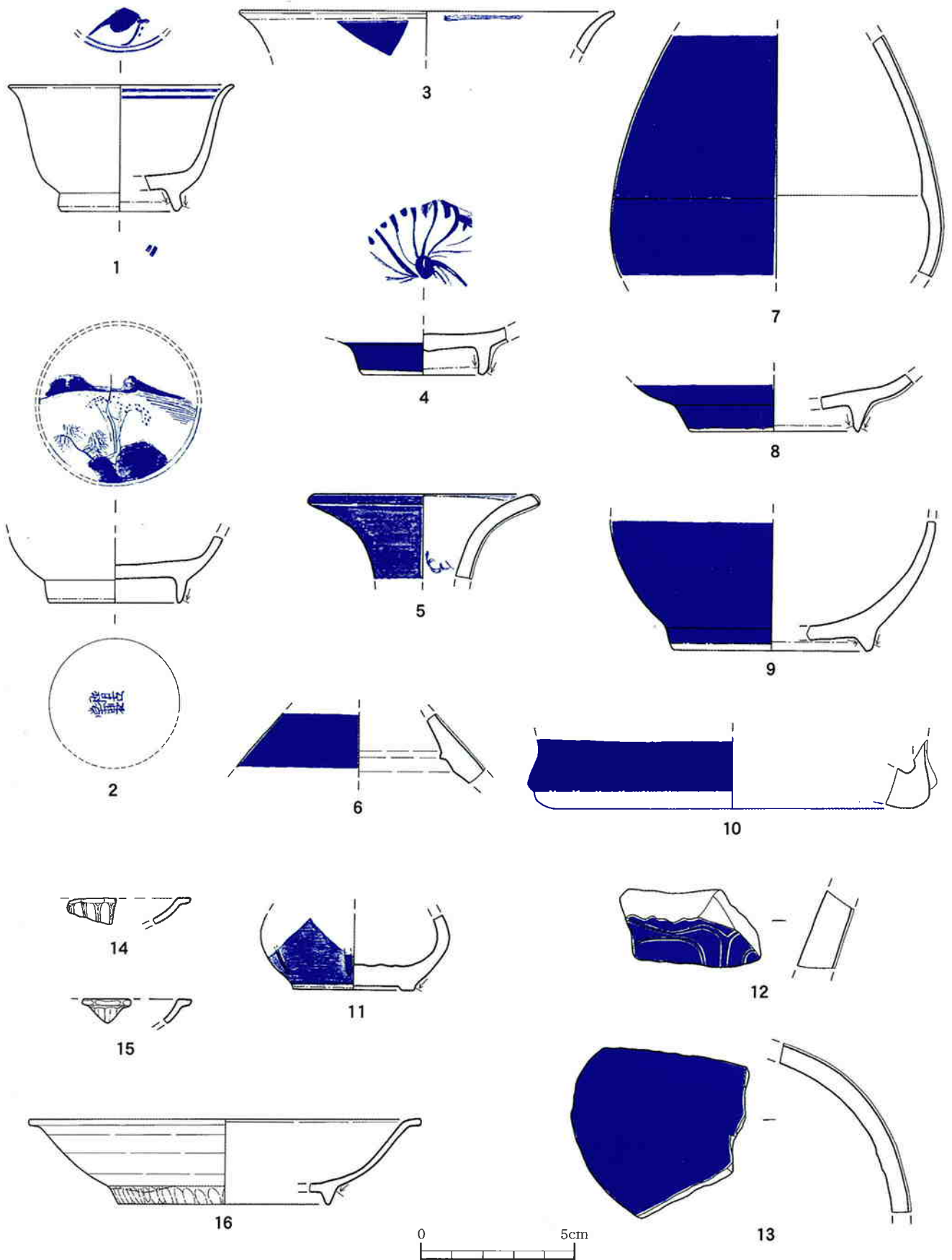
種類・器種	出土地	表土・攪乱	畦	トレンチ	南側				北側		地山直上	方形掘込み遺構	コラル数B	石列D	瓦溜まりC	ピット	遺構	不明	合計
					1層	2層	3層	4層	3層	4層									
鉄釉染付	碗	口～底部	1																1
		口縁部	2	1											1				4
		胴部	2	1															5
		底部	1		1		1												2
	小計	6	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	12
瑠璃釉染付	碗	口縁部					1												1
		底部	1																1
	瓶	口縁部						1											1
	小計	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
瑠璃釉	碗	口縁部	2				1												3
		底部	1																1
	小杯	口～底部	1																1
		口縁部	2			1													3
	瓶	口縁部						2											2
		胴部	5		1	4	1	4	1	1	1		1	1	1			3	24
	壺	底部	1			1	1	1			1		1					1	6
		胴部			1						1		1						2
	不明	口縁部				1					1								1
胴部		3				2									1	1		7	
	小計	15	0	1	7	5	7	1	2	1	1	0	1	1	1	1	1	6	51
翡翠釉	皿	口～底部															1		1
		口縁部	1			2	1		3		1				1			4	13
	小皿	胴部				1	1					1							1
		底部										1							1
	小計	1	0	0	3	1	1	3	0	1	2	0	0	0	1	0	1	6	20

第11表 鉄釉染付・瑠璃釉・瑠璃釉染付・翡翠釉観察一覧

単位：cm

図番号	種類	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地	
第27図・図版16	鉄釉染付	碗	口～底	7.4	4.15	3.8	外反口縁碗で高台は低く、畳付は面取りされている。内面口縁部には2条の圏線、内底面には山水文か。外底面には僅かに圏線が見られる。外面は黒褐色、内面は青白色の釉が畳付を除いて内外面に薄く施釉される。素地は白色微粒子。	L-26 表土・撓乱	
			底部	—	—	4.3	高台は内側にすばみ気味につくり、畳付は丸味を有する。外底面には呉須で印款文、内底面は山水文が描かれる。外面は茶褐色、内面は青白色の釉が畳付を除いて内外面に薄く施される。素地は白色で微砂粒で黒色微粒子が僅かに混入する。	表土・撓乱	
	瑠璃釉染付	小碗	口縁部	12.4	—	—	外反口縁碗で口唇部は丸味を有する。外面は瑠璃釉を施し、内面は青白色の釉で、内面口縁部に一条の圏線が呉須によって描かれている。素地は白色微粒子。	H-26 南側2層	
			底部	—	—	4.0	高台断面は逆三角形で畳付は平坦に仕上げている。外面は瑠璃釉で内面、外底面は青白色の釉が施される。内底面には呉須で花文を描く。素地は薄い青白色の微粒子。	M-22・23 表土・撓乱	
			瓶	口縁部	7.6	—	—	口縁部はラップ状に開き、口唇部は平坦に仕上げている。外面から内面口縁下部にかけて瑠璃釉、それ以外は青白色の釉が施されている。内面頸部に呉須が見られる。素地は青白色の微粒子。	I-26 南側3層
	瑠璃釉	瓶	胴部	—	—	—	ナデ肩を呈する。外面は瑠璃釉で内面は青白色の釉が施されている。頸部と胴部の接統痕が明瞭に見られる。素地は灰白色の微粒子、気泡が僅かに見られる。	M-28 表土・撓乱	
			胴部	—	—	—	外面は瑠璃釉で内面は青白色の釉が施されている。頸部と胴部の接統痕が明瞭に見られる。素地は灰白色の微粒子、黒色砂粒が僅かに混入する。気泡も見られる。	I-24 南側1層	
			底部	—	—	5.6	高台断面は逆三角形で畳付は丸味を有し、胴部は緩やかに立ち上がる。外面は瑠璃釉で内面と外底面は青白色の釉が施されている。高台下部は露胎となる。素地は灰白色の微粒子、黒色砂粒が僅かに混入する。気泡も僅かに見られる。	I-27 南側3層	
				—	—	6.6	高台は低く、畳付は丸味を有する。胴部への立ち上がりはやや急である。釉・胎土は第27図7と同様で、気泡が多く見られる。内面に横位の成形痕が明瞭に見られる。	I-25 南側2層	
			—	—	13.0	ベタ底で胴部へは直に立ち上がる。釉厚で外面は瑠璃釉となり、外底面と内面は露胎となる。素地は青白色の微粒子で黒色細砂粒が混入する。	L-21 南側1層		
			壺	底部	—	—	4.0	高台断面は逆台形で低い。畳付は平坦に仕上げている。胴部への立ち上がりはやや急である。外面は瑠璃釉が施されるが薄く、内面、外底面は露胎となる。素地は灰白色の微粒子で大きい気泡が見られる。	J-15・16 北側4層
			壺?	胴部	—	—	—	器壁が厚いことから大型の製品と考えられる。外面は瑠璃釉が厚く施され、内面は青白色の釉が施される。素地は青白色の微粒子で黒色粒子が僅かに混入する。内面に横位の成形痕が明瞭に見られる。	M-21 トレンチ
	胴部	—		—	—	器壁が厚いことから大型の製品と考えられる。外面は瑠璃釉が厚く施され、内面は青白色の釉が施される。素地は青白色の微粒子。内面に横位の成形痕が明瞭に見られる。	K-17・18 コーラル敷B		
	翡翠釉	小皿	口縁部	—	—	—	器壁が薄く、口縁部が「く」の字状に折れる。胴部には剣先が尖る鎗蓮弁文が見られる。内外面共にムラのある翡翠釉が薄く施される。素地は黄白色でやや粒子が粗い。	不明	
			口縁部	—	—	—	器壁が薄く、口縁部が「く」の字状に折れる稜花皿。胴部には剣先が丸味を帯びた蓮弁文が見られる。内外面共にムラのある翡翠釉が薄く施される。素地は黄白色でやや粒子が粗い。	L-26 南側4層	
		皿	口～底	12.9	2.8	7.0	器壁が薄く、口縁部が「く」の字状に折れ、高台はすばみ気味に低くつくる。内外面共に翡翠釉が薄く施され、高台部は露胎となる。素地は灰白色の微粒子で黒色の微粒子が僅かに混入する。外面に横位の成形痕が見られる。	L-25 遺構	

注「—」：計測不可



第27図 鉄釉染付・瑠璃釉・瑠璃釉染付・翡翠釉

第7節 中国産色絵

中国産色絵は第28図である。確認できた器種は碗、小皿、合子、香炉などがある。詳細は観察表に示した。

第28図1～4は碗である。同図1～3は大きめのサイズ、4は小型のサイズの碗である。5は小皿、6は瓶の口縁部、8は合子の身、9は方鼎形の香炉である。いずれも絵付の残りは悪く剥落している。産地は中国南部が占めており、所属年代は18世紀前後である。6、7は景德鎮窯で16世紀と古い時期に属する。

第12表 中国産色絵出土状況

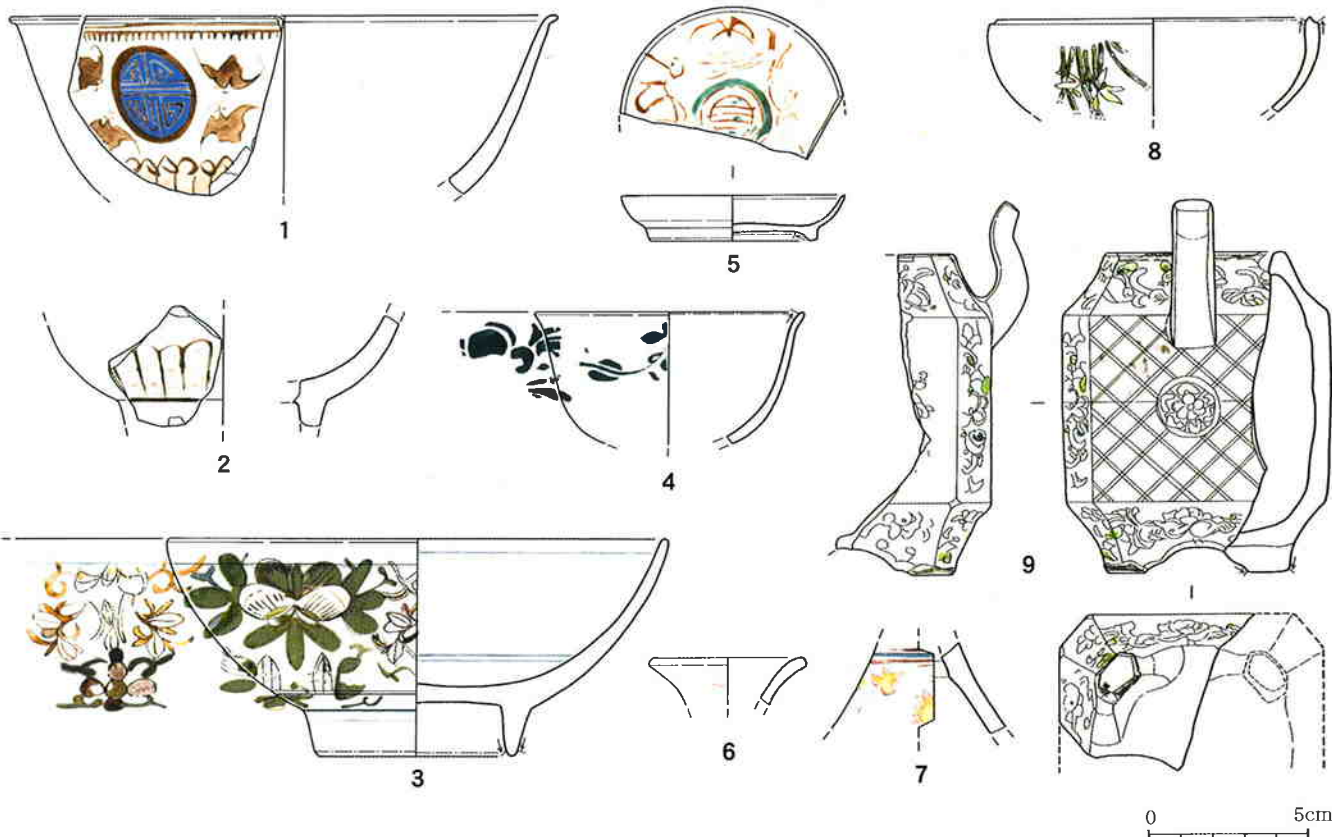
種類	出土地	表土・攪乱	南側				北側		方造形掘込み	溝状遺構A	瓦溜まりC	遺構	不明	合計
			1層	2層	3層	4層	1層	3層						
碗	口～底	2											2	
	口縁部	5			1						1		7	
	胴部	4		1			2					1	8	
	底部	2				1		1					5	
小碗	口～底	6	1										7	
	口縁部	2	2										4	
皿	口縁部	1		1									2	
	底部	1		1					1				3	
小皿	口～底	1											1	
小杯	底部	1				1		1					3	
瓶	口縁部		1										1	
	頸部										1		1	
	胴部	2									1		3	
合子	口縁部	1											1	
香炉	口～底	1											1	
不明	口縁部		1										1	
	胴部	1									1	4	6	
合計		30	3	2	3	1	1	3	1	1	1	2	7	56

第13表 中国産色絵観察一覧

単位：cm

図番号	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	産地・年代	出土地	
第28図 図版17	碗	1	口縁部	17.6	—	—	口唇部が若干外反する。文様は口縁部に圏線と波状文、胴部に蝙蝠と寿字文、底部に線刻蓮弁状の文様を描く。	福建 18c後半	F-21 表土・攪乱
		2	底部	—	—	—	底部資料。1と同じく底部に線刻蓮弁状の文様を描く。	福建 18c後半	表土・攪乱
		3	口～底	16.0	7.0	6.2	ほぼ完形の資料。直口口縁をなす碗で、高台は高い、外面に草花文、内面には口縁、見込みに圏線を描く。	福建 18～19c前半	J-16 表土・攪乱
		4	口縁部	8.6	—	—	丸みを帯びた器形で、口縁はわずかに外反する。外面に唐草文?を描く。	徳化 18c後半～19c前半	G-24 表土・攪乱
	5	皿	口～底	7.1	1.5	5.3	小皿。絵付けの剥落が著しく文様の展開は不明。外底面は露胎。	徳化 18c	F-20 表土・攪乱
	6	瓶	口縁部	5.0	—	—	小型瓶の口縁部、僅かに絵付けが残る。	景德鎮 16c	H-25 南側2層
	7	瓶	頸部	—	—	—	小型瓶の頸部。外面に圏線を描く。絵付は剥落が著しいが、わずかに蔓唐草文がみえる	景德鎮 16c	M-23 表土・攪乱
	8	合子	口縁部	11.8	—	—	蓋受けの部分は露胎。外面に草花?を描く。	中国? 19c?	F-21 表土・攪乱
	9	香炉	口～底	5.9	10.3	8.4	把手のついた方鼎形香炉、四脚をなす。絵付はほとんど剥落するが草花文と思われる。	中国? 18c	表土・攪乱

注「—」：は計測不可



第28図 中国産色絵

第8節 三彩

総計59点得られた。ほとんどが小破片資料で第29図1～14に特徴的なものを示した。白化粧の上に緑・黄釉が施され、一部を除き内面は露胎である。素地は細かく黒色の微粒子が混入するものも見られる。器種は蓋、把手、瓶、壺、水滴、水注、盤、陶枕が見られた。

図8～12、14は水注若しくは水滴の破片で図8、10は器表面の文様から鳥形水注である可能性があり、図9は琴高仙人形若しくは魚形、図14は人形水注である。特に人形水注では腹の部分に動物と波状文と思われる文様のある腹巻様（武具）が見られる。阿波根古島遺跡出土の人形水注もこの様な特徴を持っており、図14と類似する資料であるといえる。これ以外にも仲間村跡で人形水注の出土が報告されている。人形水注以外の出土例としては三彩が首里城跡、南山城跡、天界寺跡、阿波根古島遺跡など緑釉が阿波根古島遺跡、クニンドー遺跡、津嘉山古島遺跡などで報告され、豊見城村では伝世品として鶴形の水注がほぼ完形品に近い状態で確認されている。また今帰仁城跡では魚形の水滴も見られる。これらの形態としては鶴形、鴨形といった鳥形のものが多く見られる。

瓶は図3、4で、図3には継ぎ合わせのためと思われる段を有する。この事から頸部、胴部上半、下半をそれぞれ別個で造り、完成した部品を継ぎ足して成形するといった技法が使われたと推測される。出土例として首里城跡、浦添城跡、今帰仁城跡、天界寺跡、湧田古窯跡、佐慶グスク、クニンドー遺跡が挙げられるが、この内今帰仁城跡出土の瓶は図3と同様の技法により成形されたと思われる。また緑釉瓶が御細工所跡で出土している。

盤は図1である。口縁部を鏝縁状に仕上げており、内面に牡丹文と思われる文様が線刻されている。首里城跡、喜友名貝塚・喜友名グスク、ヒヤジョー毛遺跡、若松遺跡、慶来慶田城遺跡で出土例が報告されているが、その内首里城跡では図1に類似した資料が出土している。

壺は図2、6、小壺は図7である。図6は器表面に雑ではあるが葉文が陽刻されており、器形から長胴丸壺形と推測される。長胴丸壺形は今帰仁城跡、阿波根古島遺跡、宮平ノロ殿内遺跡、クニンドー遺跡、仲間村跡でも出土しており、特に今帰仁城跡出土のものは図6と類似している。

その他の出土例として壺は天界寺跡、喜友名貝塚・喜友名グスク、小壺は平敷屋トウバル遺跡がそれぞれ挙げられる。

蓋は図12で、蓋甲のみ施釉され宝珠状の撮みを持つ。ロクロ成形で蓋の下面は篋などで切り離した後、指撫で成形しているのが見られる。蓋の出土例は糸数城跡、天界寺跡、クニンドー遺跡、山城古島遺跡で報告されているが、クニンドー遺跡出土の蓋は図12と似たような特徴を持つ。

把手は図11であるが、小破片であるため全体の形を推測するのは困難である。他の出土例として首里城跡、湧田古窯跡、佐慶グスクが挙げられる。

これらの他に陶枕（図13）が出土しているが、明代の三彩で陶枕の形式は非常に珍しい。

<参考文献>

- 「首里城跡—管理用道路地区発掘調査報告書—」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第1集 沖縄県立埋蔵文化財センター 2001
- 「首里城跡—御庭跡・奉神門跡の遺構調査報告—」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第3集 沖縄県立埋蔵文化財センター 2001
- 「首里城跡—下之御庭跡・用物座跡・瑞泉門跡・漏刻門跡・廣福門跡・木曳門跡発掘調査報告書—」『沖縄県文化財調査報告書』第133集 沖縄県教育委員会 1998
- 「天界寺跡（I）」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第2集 沖縄県立埋蔵文化財センター 2001
- 「阿波根古島遺跡」『沖縄県文化財調査報告書』第96集 沖縄県教育委員会 1990年
- 「平敷屋トウバル遺跡」『沖縄県文化財調査報告書』第125集 沖縄県教育委員会 1996
- 「喜友名貝塚・喜友名グスク」『沖縄県文化財調査報告書』第134集 沖縄県教育委員会 1999
- 「湧田古窯跡Ⅱ」『沖縄県文化財調査報告書』第121集 沖縄県教育委員会 1995
- 「湧田古窯跡Ⅳ」『沖縄県文化財調査報告書』第136集 沖縄県教育委員会 1999
- 「慶来慶田城遺跡」『沖縄県教育委員会文化課調査報告書』第131集 沖縄県教育委員会 1997
- 「今帰仁城跡発掘調査報告Ⅰ」『今帰仁村文化財調査報告』第9集 今帰仁村教育委員会 1983
- 「今帰仁城跡周辺遺跡範囲確認調査報告書」『今帰仁村文化財調査報告書』第12集 今帰仁村教育委員会 1986
- 「浦添城跡発掘調査報告書」『浦添市文化財調査報告書』第9集 浦添市教育委員会 1985
- 「御細工所跡」『那覇市文化財調査報告書』第18 那覇市教育委員会 1991
- 「天界寺跡」『那覇市文化財調査報告書』第43集 那覇市教育委員会 2000

- 「銘苅原遺跡」『那覇市文化財調査報告書』書35集 那覇市教育委員会 1997
「ヒヤジョー毛遺跡」『那覇市文化財調査報告書』第26集 那覇市教育委員会 1994
「佐慶グスク・山城古島遺跡」『糸満市文化財調査報告書』第8集 糸満市教育委員会 1994
「糸数城跡Ⅰ」『玉城村文化財調査報告書』第1集 玉城村教育委員会 1991
「クニンドー遺跡」『南風原町文化財調査報告書』第2集 南風原町教育委員会 1996
「南風原町の遺跡」『南風原町文化財調査報告書』第1集 南風原町教育委員会 1993
「豊見城村内確認の明代三彩鶴型水注」『文化課紀要』第6号 沖縄県教育委員会 1990
『インドネシア・スラウェシ島に渡った三彩 交趾焼展 本多弘氏コレクションによる』 福岡市美術館 2001

第9節 宜興窯系

4点のみ得られた。素地は茶褐色の微粒子で、白色粒子を含むのも見られる。器表面には泥釉が施され、器肌は滑らかである。いずれも小破片資料で口縁部と底部を各1点得ることができた。第29図15、16に示した。

第10節 産地不明陶器

褐釉陶器4点、泥釉陶器、無釉陶器各1点を産地不明として第29図17～22に掲げた。何れも小破片資料で薄手で文様などは見ることができない。蓋の端部1点、口縁部1点、胴部1点、底部3点を第29図に示した。

第14表 三彩・宜興窯系・産地不明陶器出土状況

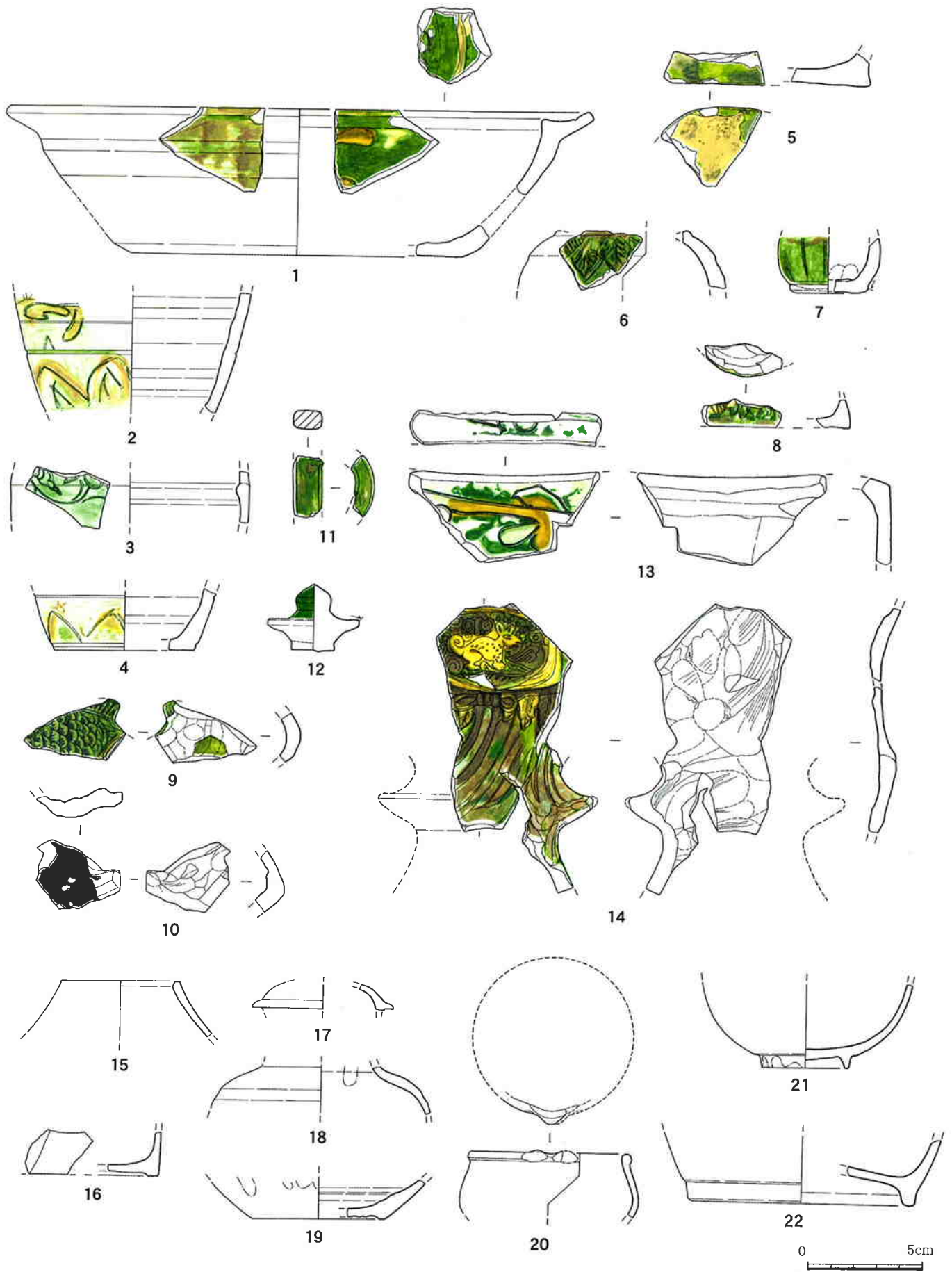
種類・器種	出土地	表土・攪乱	南側				北側			地山直上	コーラル敷A	方形掘込み遺構	石列D	石垣C	溝状遺構C	溝状石列	瓦溜まりC	ヒット	不明	合計
			1層	2層	3層	4層	1層	3層	4層											
三彩	盤	口縁部	1	1	1	1			1											5
		胴部		1	1	3														5
		底部		1																1
	瓶	胴部	1			2									1					4
		底部				2														2
	壺	口縁部																	1	1
	小壺	底部				1														1
		蓋	口～底		1															1
	水注	把手 蓋 胴部 底部		1																1
					1															1
					1	1													2	
人形水注	胴部	4			4	2												1	11	
水滴	胴部																	1	1	
陶枕									1										1	
不明	胴部 底部		4	1		2		1	1		1			1			1	1	5	18
					2	1														3
小計		11	1	6	5	17	2	1	1	2	1	0	0	0	1	1	0	1	8	59
宜興窯系	壺	口縁部	1																	1
		胴部																		1
		底部												1						1
小計		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	4
産地不明陶器	碗	底部	1																	1
	小鉢	口縁部										1							1	2
	小壺	胴部									1								1	
	壺or甕	胴部										1								1
		底部													1					1
	袋物	底部	1																	1
	茶器の蓋	端部																	1	1
	不明	口縁部																		1
胴部		1								1									4	
小計		3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	0	0	0	0	7	18

第15表 三彩・宜興窯系・産地不明陶器観察一覧

単位: cm

図番号	種類	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地	
第29図・図版18	三彩	1	盤	口~底	26.0	(6.5)	(14.6)	素地は肌色、白化粧はなし。内面に牡丹文と思われる文様が線刻され、文様部分に黄釉、無文部分に緑釉をそれぞれ施す。外面は僅かに緑釉が残る。口縁部は口折させた後、鏝縁状に仕上げている。	K-17・18 表土・攪乱
		2	壺?	胴部	—	—	—	素地は白色、ロクロ成形によって仕上げられ、外面に白化粧を施す。器表面に牡丹文と思われる文様と蓮弁文が線刻され、黄釉が僅かに残る。	L-21 表土・攪乱
		3	瓶	胴部	—	—	—	素地は白色、外面に白化粧を施す。釉は剥落している。継ぎ合わせの痕跡である段を内面に有する。器表面に唐草文様が線刻されている。	N-24 南側3層
		4	瓶?	底部	—	—	6.1	素地は薄い水色、ロクロ成形によって仕上げられ、外面に白化粧を施す。釉は殆どが剥落しているものの、黄釉が僅かに残る。器表面に蓮弁文と思われる文様が線刻されている。	L-24 南側3層
		5	不明	底部	—	—	—	素地は薄い黄色、白化粧はなし。緑釉、黄釉が僅かに残り、底面にも僅かに緑釉が付着している。多少の凹凸が見られ、内面は指で押さえて成形したと思われる。	M-28 南側2層
		6	壺	口縁部	(5.8)	—	—	長胴丸壺形と推測される。素地は肌色、外面は型抜き成形、口縁部に雑な葉文を有する。白化粧をせずに黄釉、緑釉を施釉したと思われる。	不明
		7	小壺	底部	—	—	3.4	瓜形の小壺と思われ素地は薄い黄色、ナデ成形。底と器壁の接合面が確認できる。外面に白化粧を施し、緑釉が施釉されていたと思われる。器表面に4条の線が縦に線刻されている。	I-27 南側3層
		8	水注	底部	—	—	—	素地はにぶい赤色、型抜き成形と思われる。外面に白化粧を施し、その上から緑釉と黄釉を施す。器表面の文様から鳥型水注の可能性もある。	K-28 表土・攪乱
		9	水滴	胴部	—	—	—	素地は薄い黄色、化粧面はなく、外面のみに緑釉を施す。型抜き成形で琴高仙人形か魚形と思われる。	不明
		10		胴部	—	—	—	鳥型水注か。型抜き成形、素地は肌色で、白化粧はなく、外面のみに鉄釉が施釉されている。器表面に鳥の羽根と思われる文様が施されている。	J-25 南側2層
		11	水注	把手	—	—	—	素地は桃褐色、白化粧はなし。上面は施釉されていた緑釉が脱色したものであると思われる。	I-20 畦南側
		12		蓋	—	2.85	—	素地は薄い黄色、白化粧はなし。ロクロ成形で蓋の下面は篋などで切り離し、指で雑に成形している。蓋甲にのみ緑釉が施釉されている。宝珠状の握みを持つ。	H-28 南側1層
		13		陶枕	—	—	—	素地は赤褐色、ナデ成形で内面、口唇上面に白化粧を施し、緑釉、黄釉を施釉する。牡丹文と思われる文様が線刻されている。白色の微粒子が混入されている。明代の三彩では陶枕は珍しい。	K・L-18トレンチ+ G-20北側4層
		14	水注	胴部	—	—	—	人形水注。素地は肌色、型抜き成形、白化粧なし。外面のみ施釉されている。主に人の腹部から脚の部分で、腹の部分には動物と波状文と思われる文様のある腹巻様(武具)の帯が確認できる。	K-26畦+ I-27南側3層
15	宜興窯系	壺	口縁部	6.4	—	—	茶器にかかる壺。口唇部は平坦につくり、外反する。内外面共に泥釉が薄く施される。素地は橙褐色の微粒子。清代のものと思われる。	表土・攪乱	
16		壺	底部	—	—	—	茶器にかかる壺。高台は低く、胴部は直に立ち上がる。外面のみ泥釉が薄く施され、やや黒ずむ。素地は橙褐色の微粒子。清代。	不明	
17	産地不明陶器	蓋	端部	—	—	6.2	茶器の蓋の端部と思われる。懸かりは欠損し、頂部へは丸味を有しながら移行する。内外面共に泥釉が薄く施される。素地は茶褐色の微粒子。清代の陶器と考えられる。	不明	
18		小壺	胴部	—	—	—	壺の胴上部、頸部近くと考えられる。頸部への移行部分が欠損している。外面には褐釉が薄く施され、素地は密で黄褐色のやや粗い粒子が混入する。13~15c頃か。	J-18 北側4層	
19		壺	底部	—	—	5.8	低い高台が見られる。高台のつくりは粗雑で胴部へは急に立ち上がる。内外面は露胎であるが、外面には褐釉の釉垂れが見られる。素地は茶褐色で微粒子、白色粒子が僅かに混入する。	K・L-17・18 溝状石列	
20		小鉢	口縁部	7.0	—	—	口縁部は注ぎ口が見られ、断面は長方形状を呈す。内外面共に褐釉を薄く施す。素地は明茶褐色の微粒子で、赤色のやや粗粒子が混入する。	不明	
21		碗	底部	—	—	3.8	薄手の碗。高台は低く、底部から胴部にかけては緩やかに立ち上がる。茶褐色の釉を内外面共に薄く施すが、剥落が激しく、白色に変色している。畳付のみ露胎。素地は茶褐色の微粒子。	F-20 表土・攪乱	
22		袋物?	底部	—	—	10.0	底部から胴部にかけての立ち上がりは急で、高台は低い。袋物と考えられる。全面露胎で、素地は茶褐色でやや粗く、白・黒の粗粒子が多く混入する。明~清代か。	表土・攪乱	

注 「—」:計測不可、():推定、「+」:接合の意



第29图 三彩·宜興窯系·產地不明陶器

第11節 粉青沙器^{註1}

今回の調査では7点のみ得られた。器種は碗と皿で、前者は口縁部、後者は胴部が得られている。碗は外反碗で内外面共に文様が見られる。外面胴部には崩れた雷文帯状の横位文とその下に斜位のやや反った直線を配する。内面は外面に見られるような横位文を2重に配し、その下に唐草に似る曲線を描く。同様の文様は今婦仁グスクの高麗青磁において見られる^{註2}。文様部分には白土をはめ込み、素地の上に白化粧してから釉を施している。

皿は器厚から大振りの皿と思われる。外面胴部は花卉状の曲線を描き、その下に2条の圈線を廻らす。内面は菊花文を横位に連続配置させ、2条の圈線を配する。

<註>

註1. 粉青沙器とは「粉粧灰青沙器」の略称。鉄分の多い鼠色の陶土に白土を化粧掛けし、その上から透明釉を施して焼成した朝鮮王朝初期の代表的な磁器。14世紀末、釉胎が硬質化しはじめた高麗青磁を母胎とし、粉青象嵌へと移行。その後15世紀初頃より粉青印花といった白土装飾が行われるようになる。日本では一般的に「三島」「刷毛目」と呼称されている。大阪市立東洋陶磁美術館「東洋陶磁の展開」1994

註2. 今婦仁グスクの資料においては素地の上には白化粧を施しておらず、且つ象嵌も明瞭であることから高麗青磁としての範疇におさまるものと思われる。しかし、文様に関しては当該資料と類似していることから同系統の文様であることが指摘される。今婦仁村教育委員会「今婦仁城跡発掘調査報告」『今婦仁村文化財調査報告』第9集 1983

第12節 泉州窯系磁器

7点のみ得られた。器種は何れも外反口縁の深めの皿である。内外面共にオリブ灰色の釉が薄く施される。釉には細かな貫入が入り、外面胴部からは露胎となる。素地は粗く、黒色砂粒が多く混入する。県内ではこれまで8遺跡において確認されている。

第13節 黒釉陶器

黒釉陶器は第30図で、同図5～9は口縁部、同図13は胴部、同図10～12・14は底部資料である。確認できた器種は天目茶碗と称するタイプがほとんどで、同図14は壺の可能性もある。ここでは中国産を扱うが一部のものは本土産（瀬戸・美濃系）に含まれる可能性がある。また、口縁部の形態名称は栗（1994）などに従った。

全形をうかがうことのできる資料は同図8のみで、口径に対して器高が低い。今回確認できた碗は口縁形態が鼈口とも称する束口碗のみである。同図5～7は口縁部の折り返しが弱いタイプ、8・9は折り返しが強いタイプである。底部はいずれも高台内の削りは弱く、同図8以外は高台脇を水平に削る。釉色は黒～暗褐色を呈するが、同図13は瀬戸・美濃系の可能性があり茶褐色を呈する。素地は灰白～黄白色を呈し、同図5は暗灰色を呈する。所属年代は13～15世紀のタイプが多い。

<参考文献>

栗 建安 1994「建窯の研究について」『唐物天目』 茶道資料館

第16表 粉青沙器・泉州窯系磁器・黒釉陶器・青磁染付・タイ陶器出土状況

種類・器種	出土地	衣土・痕乱	唾	トレンチ	南側			北側			地山此上	墓理	コトナル敷A	方置拵	コトナル敷B	石列A	石列D	石垣A	講道遺構A	講道遺構B	講道遺構C	講道遺構	ヒツト	遺構	葛原・ヒツト	不明	合計			
					1層	2層	3層	1層	2層	3層																				
粉青沙器	碗	外反口縁部																								1	1			
	碗	口縁部								1																	1	1		
	皿	胴部	1																							1	3			
	小計		1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4			
泉州窯系磁器	皿	口縁部												1														1		
		外反口縁部																											1	
		胴部																											1	
		底部																											2	
	小計		0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	7		
青磁染付	碗	口縁部	1																										1	
		外反口縁部																												1
		口縁部																												1
		胴部																												2
	小計	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5		
タイ陶器	壺	底部																											1	
		口縁部	1				1																						2	
		口縁部																												3
		胴部																												1
	小計	2	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
黒釉陶器	碗	口縁部	1																										1	
		口縁部	3		1	2	2	1																					9	
		胴部	18	2	5	6	3		1	5	11	4	1	3	2	2		2		1	1		2	1	6	3		26		
		底部	1								2	3		1	1	1										1	1		2	
	小計	24	2	8	8	5	0	1	11	24	4	2	6	3	3	1	2	1	2	1	1	4	2	15	4	0	37			
瀬戸・天目	碗	胴部	1																									5		
	小計	24	2	1	8	8	5	0	1	11	24	4	2	6	3	3	1	2	1	2	1	1	4	2	15	4	0	37		
	合計																											172		

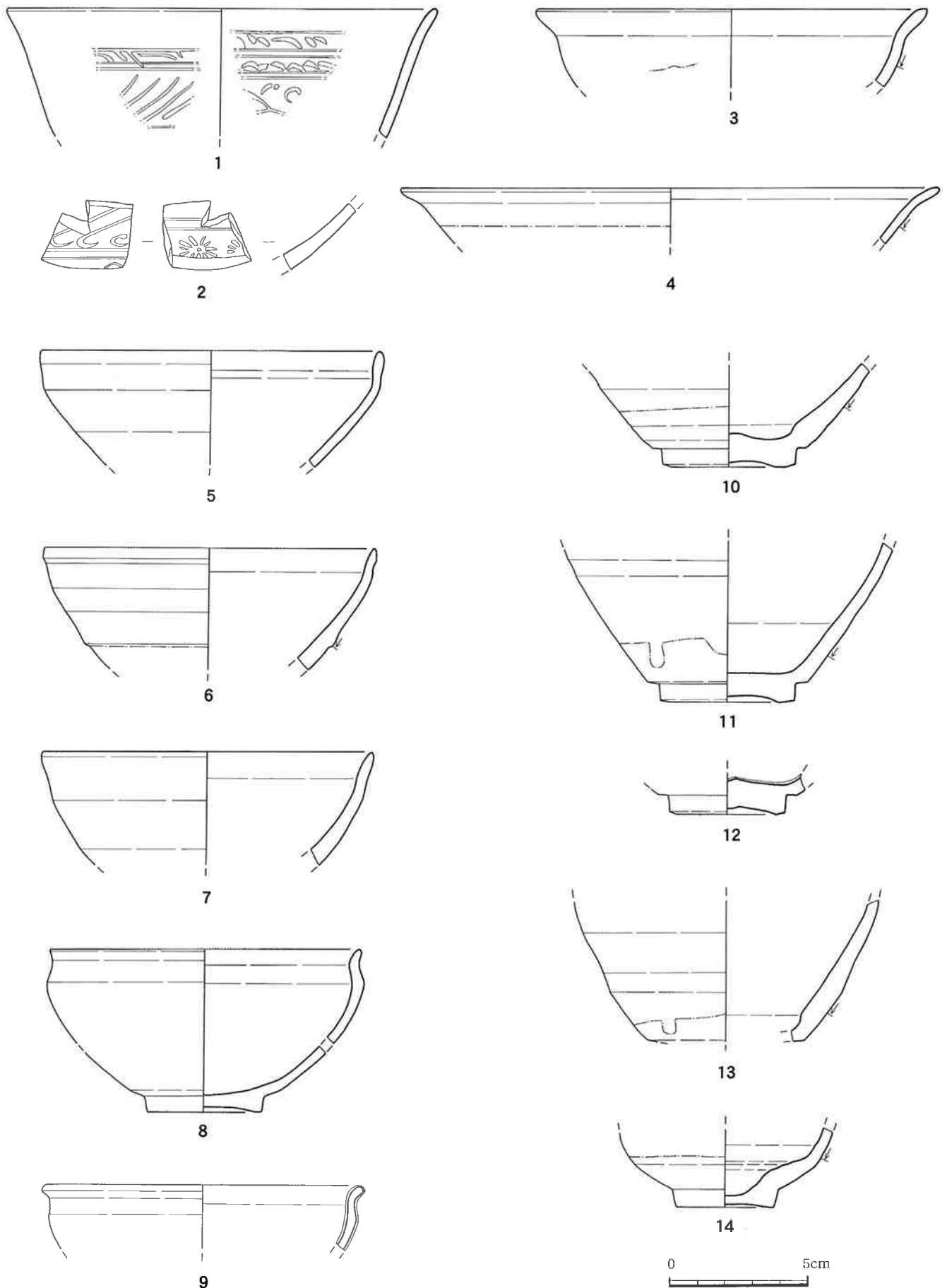
注 ①泉州窯系磁器に属せ 広東系青磁含む。②タイ陶器には、他の東南アジア諸国の陶器も含む。③青磁染付・タイ陶器については表面の都合上集計のみを行った。【*】：検査の意

第17表 粉青沙器・泉州窯系磁器・黒釉陶器観察一覧

単位：cm

図番号	種類	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第30図・図版19	粉青沙器	碗	口縁部	15.8	—	—	口縁部は外反し、口唇部は舌状となる。白土象嵌された直線と曲線で文様は構成される。内外面共に青緑色の釉が施されるが、口唇部は一部露胎となる。素地は灰色の微粒子で気泡が僅かに見られる。	不明
		皿?	胴部	—	—	—	器壁の厚さからやや大振りの皿か。白土象嵌された直線と曲線並びに花文で文様は構成される。内外面共に青緑色の釉が薄く施される。素地は赤灰色の微粒子で気泡が見られる。	H-20 ピット24+基壇
	泉州窯系磁器	皿	口縁部	14.4	—	—	口縁部は緩やかに外反し、口唇部は舌状となる。オリーブ褐色の釉を薄く施すが、内外面共に剥落が見られる。素地は灰白色の粗粒子で、白・黒・灰褐色の砂粒が混入する。気泡も僅かに見られる。	H-19 地山直上
			口縁部	19.8	—	—	口縁部は緩やかに外反し、玉縁状となる。外面にはロクロ痕が明瞭に認められ、オリーブ褐色の釉を薄く施す。細かい貫入が内外面共に見られ、素地は灰白色の粗粒子で、白・黒・灰褐色の砂粒が混入する。	G-20 北側3層
	黒釉陶器	碗	口縁部	12.6	—	—	口縁の折り返しは弱い。釉は黒褐色、素地は暗灰色を呈する。産地・時期：中国13～15世紀	不明
				12.2	—	—	口縁の折り返しは弱い。釉は茶褐色、素地は灰白色を呈する。産地・時期：中国13～15世紀?	I-13 ピット5-h
				12.2	—	—	口縁の折り返しは弱い。釉は茶褐色、素地は灰白色を呈する。産地・時期：中国13～15世紀?	G-17 北側4層
			口～底	11.4	6.0	4.2	口縁の折り返しは強く、畳付まで施釉する。釉は暗黄褐色、素地は灰色を呈する。口縁部片と底部片を図上復元した。産地・時期：中国? 明代?	不明
			口縁部	11.8	—	—	口縁の折り返し折り返しは強い。釉は変色(暗褐色?)、素地は灰白色を呈する。産地・時期：中国? 明代?	L-21 表土・攪乱
			底部	—	—	4.2	高台内の刻りは浅く、高台脇を水平に削る。釉は茶褐色、素地は黄白色を呈する。産地・時期：中国13～15世紀	L-15 ピット1
				—	—	4.9	高台内の刻りは浅く高台脇を水平に削る。釉は暗褐色、素地は灰白色(外面は淡暗褐色)を呈する。産地・時期：中国 明代?	N-24 表土・攪乱
			—	—	—	3.5	高台内の刻りは浅く高台脇を水平に削る。釉は黒色、素地は暗灰色を呈する。産地・時期：中国13～15世紀	K・L-17 土壇
			胴部	—	—	—	釉は淡暗褐色、素地は黄白色を呈する。本土産(瀬戸・美濃系)の可能性ある。産地・時期：中国か瀬戸・美濃 明代?	J・K-20・21 コーラル敷A
			底部	—	—	3.5	内面は無釉。底面に糸切痕。器種は不明だが、壺と思われる。外面に煤附着。産地・時期：中国13～15世紀	K-16 ピット19礫溜まり

注 「—」：計測不可



第30图 粉青沙器・泉州窯系磁器・黒釉陶器

第19表 褐釉陶器観察一覧

単位：cm

図番号	器種・分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第31図・図版20	壺Ⅰ類	口縁部	34.1	—	—	I類の中でも大型の壺。胴部は7mm前後と薄い。オリブ褐色の釉を内外面に施釉する。桃色がかった灰褐色の器色に極小の黒粒と1~2mmの白粒が混入。	不明
			20.3	—	—	口唇部内側を有段に成型し肩部分にはタタキ調整痕と2cm大の砂目が残る。内外面とも黄褐色の釉が掛かる。器色は淡灰色、2mm前後の白、黒粒が混入。	K-16北側1層
	壺	胴部	—	—	—	大型壺の胴部で口縁部へ立ち上がる。両面とも黒味を帯びた茶褐色の釉、肩に2cm大の砂目が等間隔で付着する。胎土には極小の黒粒が混ざる。	H-20北側3層+ I-27北側4層
			—	—	—	最大胴径36.4cmの大型壺。底部にいくにしたがってすぼまる形状。両面とも茶褐色の釉で施釉され、5cm大の白色鉱物を含む。	H-24溝状遺構A
		口縁部	—	—	—	大型壺の口縁部破片で口唇の幅は3.7cmと大きい。黄色味がかった黒色釉が全面に施釉される。5mm大の白色鉱物を含み、器色は灰色を呈する。	N-27表土
	壺Ⅰ類	口縁部	17.5	—	—	I類の小ぶりの壺。第31図2と同様口唇部は有段になる。両面ともオリブ黄褐色の釉が掛かる。灰色の素地に2cm前後の白粒を含む。	L-18表土+H+G-13北側 3層+L-18溝状石列
	壺	底部	—	—	17.7	I類のような口縁部を持つ壺の底部でロクロ痕が明瞭。上げ底でその中心部は薄くなる。胴部全体にオリブ黄褐色の釉が掛かり、2mm大の白粒と1mm以下の黒粒を含む。露胎部分は桃色がかった灰色を呈する。	M-23南側3層
			—	—	—	大型壺の破片。両面ともオリブ緑色の釉が掛かり、黒粒の混入物が目立つ。内面には円形のタタキ痕が一部に見られる。	K-21コーラル敷A+ L-23ピット5
		底部	—	—	13.8	若干上げ底になり、立ち上がり部分を約1.5mm幅で削る。淡灰色の器色で内側には灰色がかった黒褐色の釉がうすく掛かる。	M・N-21・22擾乱
			—	—	12.0	中型壺の底部と見られる。胴部下まで茶褐色の釉が見られ、白と黒粒の混入物が比較的多く混ざる。器色は橙褐色。	不明
		口縁部	19.6	—	—	中型壺。口唇部を折り曲げて頸部をやや開き気味にし、肩は張るようである。器色は青みのある灰色で両面とも露胎。	G-18北側3層+ K-15北側3層
		胴部	—	—	—	第31図11と同一資料と見られるが復元にはいたらなかった。上部には砂目が付着、器表面の剥離が目立つ。外面の一部を除いて淡黄色の釉が掛かり、内面は釉だれがある。素地には1~2mmの白粒を含む。	不明
	底部	—	—	13.9	第31図11、12と同一資料の可能性はある。底部はベタ底状になり厚みがある。白色粒を多く含む。内側は露胎、外面は胴部下まで淡黄色の釉が掛かる。	L-17ピット27	
第32図・図版21	壺Ⅲ類	口縁部	12.8	—	—	白釉陶器で立耳が付く。器壁は4mmと薄い。肩には砂目が付着、内面は茶褐色の釉がまだらに掛かる。白、赤粒を含む、橙褐色の器色。	M-23南側3層+ M-23南側2層
			11.0	—	—	リボン状の耳が付く。胴部はロクロ痕の起伏が著しい。茶に近い黄褐色の釉を外面全体に施釉。淡黄色の素地に黒、白粒が少量混ざる。	J・K-17・18北側4層
	壺	胴部	—	—	—	耳を含む大型壺の胴部片。内外面とも、茶褐色の釉が丁寧に施釉される。1mm程の黒粒が混入、素地は淡灰色。	I-28南側3層
			—	—	—	大型壺の胴部片。円形の文様を沈線で描き、内面はロクロ痕が明瞭に残る。明茶褐色の釉を外面に施釉。器色は淡黄色。	不明
	壺Ⅱ類	口縁部	16.6	—	—	口縁部下ですぼまり、肩へと移行する。黒に近い茶褐色の粒を口唇内面から外面にかけて施釉する。灰色の素地に白粒を含む。	K-28南側4層+ M-28表土(擾乱層)
			17.4	—	—	口唇部を折り曲げ上端を平坦に仕上げる。耳には3本の沈線が入る。口唇部上端は釉はぎされ、下部方向へオリブ黄褐色の釉が掛かる。器色は淡橙色。	L-25遺構
			17.7	—	—	平坦に仕上げた口唇部から頸部へ開き気味に成型。内側は釉はぎされ、外面は緑がかった黄褐色の釉を施釉。器色は橙褐色で白、赤粒が混ざる。	F-18北側4層
			13.0	—	—	平坦に成型した口唇部はやや傾斜し、緩やかに頸部に至る。内外面とも緑がかった黄褐色の釉を施釉。淡灰色の器色に黒粒が混ざる。	K・L-17・18溝状石列
			13.0	—	—	口唇部を折り曲げて丸く肥厚させる。頸部はやや膨らんで肩部へと移行する。灰色の素地に白粒が混ざる。	I-26南側3層
			10.3	—	—	Ⅱ類のなかでも一回りサイズが小さい。胎土には黒、白粒が混ざり、淡灰色を呈する。外面には淡茶褐色の釉が掛かる。	不明
	壺Ⅲ類	口縁部	11.2	—	—	口唇部を折り曲げ、擬肥厚させる。頸部から肩へゆるいカーブを描く。内側に調整痕。内外面とも薄く黄褐色の釉を掛け、赤灰色の素地に白、赤粒が混ざる。	M-21瓦溜まりC
壺	口縁部	9.2	—	—	すぼまった頸部から口唇部へ開き段を作る。蓋受けを意識したものか。内面は調整が丁寧でなく、積み痕が残る。茶褐色の釉が掛かり、白、赤粒が混ざる。	M-21瓦溜まりC	
		8.6	—	—	第33図1同様、有段の口縁。両面とも暗茶褐色の釉が掛かるが気泡が生じている。素地は灰色、硬質な印象を受ける。白、黒粒の混入が見られる。	M-21瓦溜まりC	
		9.1	—	—	長頸壺で口唇部を丸く肥厚させる。外面には茶褐色の釉、内側に釉だれがある。露胎部分は橙褐色、赤と白粒が混ざる。	L-19瓦礫溜まり	
		8.3	—	—	口縁から胴部まで図上復元できた資料。小ぶりだが器壁は厚い。ロクロ痕が内外とも明瞭。黄色味がかった黒色釉が掛かり、素地は灰色を呈する。	G-21北側4層+H-23方 形堀込み遺構	
	底部	—	—	11.4	小振りの壺の底部。立ち上がりからやや膨らんで成型される。淡灰色の素地に黒、白粒が混ざる。	J-16ピット23	
		—	—	10.2	胎土は混入物が多く、粗い印象を受ける。器色は橙褐色、白、赤粒が混ざる。	M-21瓦溜まりC	
		—	—	7.2	第33図6と同様に胎土が粗い。底部は10.8mmと特に厚い。茶褐色の釉が内側内底まで掛かる。白、赤粒が混ざる。	不明	
	挿鉢	口~底	24.6	12.3	9.6	口唇部を玉縁状にし、底部はくびれる。樋目は8本確認できる。口唇部に茶褐色の釉を一周するように塗り、その両端を釉はぎする。素地は桃色がかった茶褐色、白粒が混ざる。	不明
			17.0	—	—	第33図9と形状が類似するもので、一回り小さいサイズのようなものである。樋目は8~9本確認できる。素地は明茶褐色、白と黒粒の混入が見られる。	I・J-13地山直上

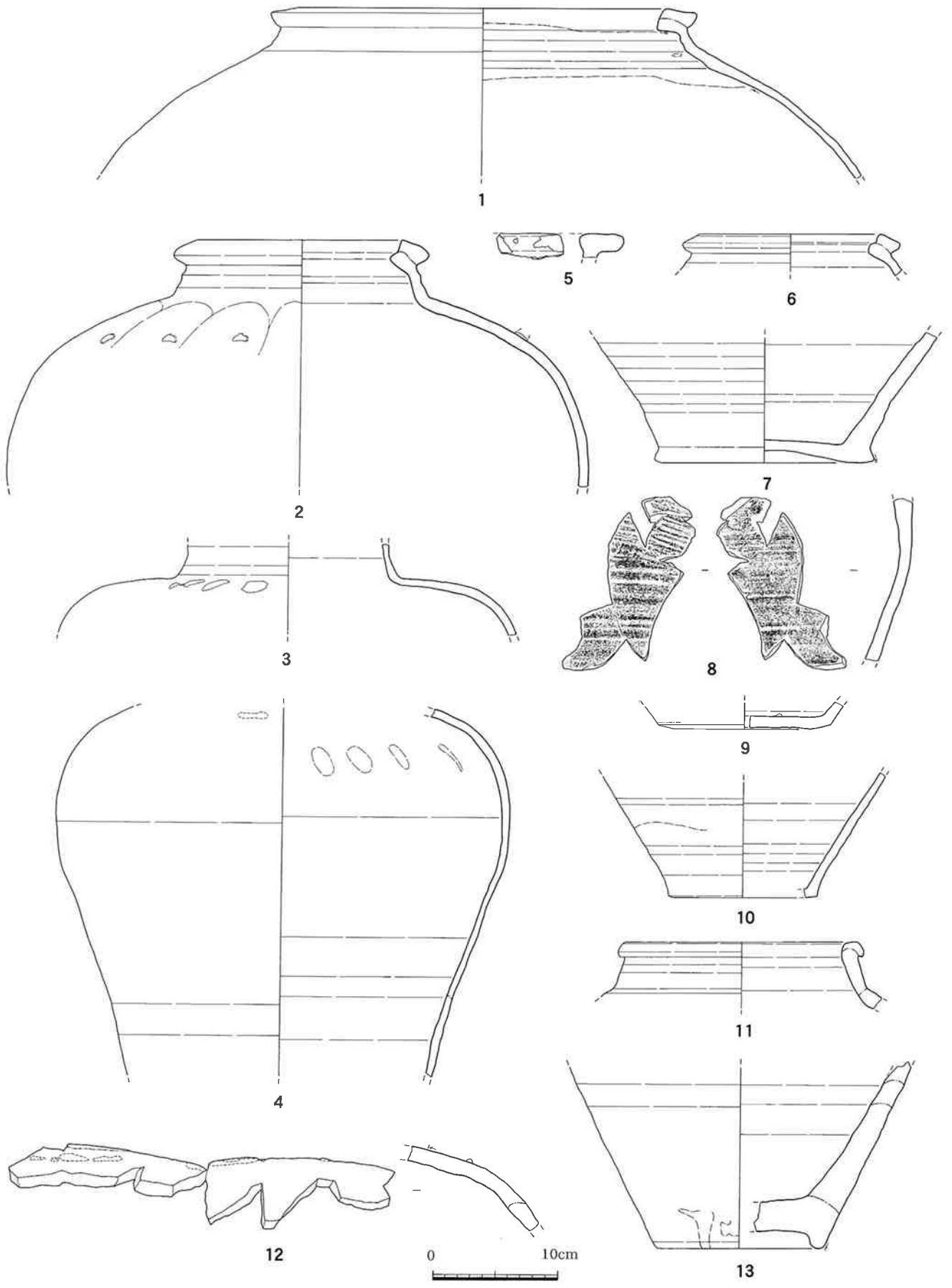
注 「-」:計測不可、「+」:接合の意

第19表 褐陶器観察一覧

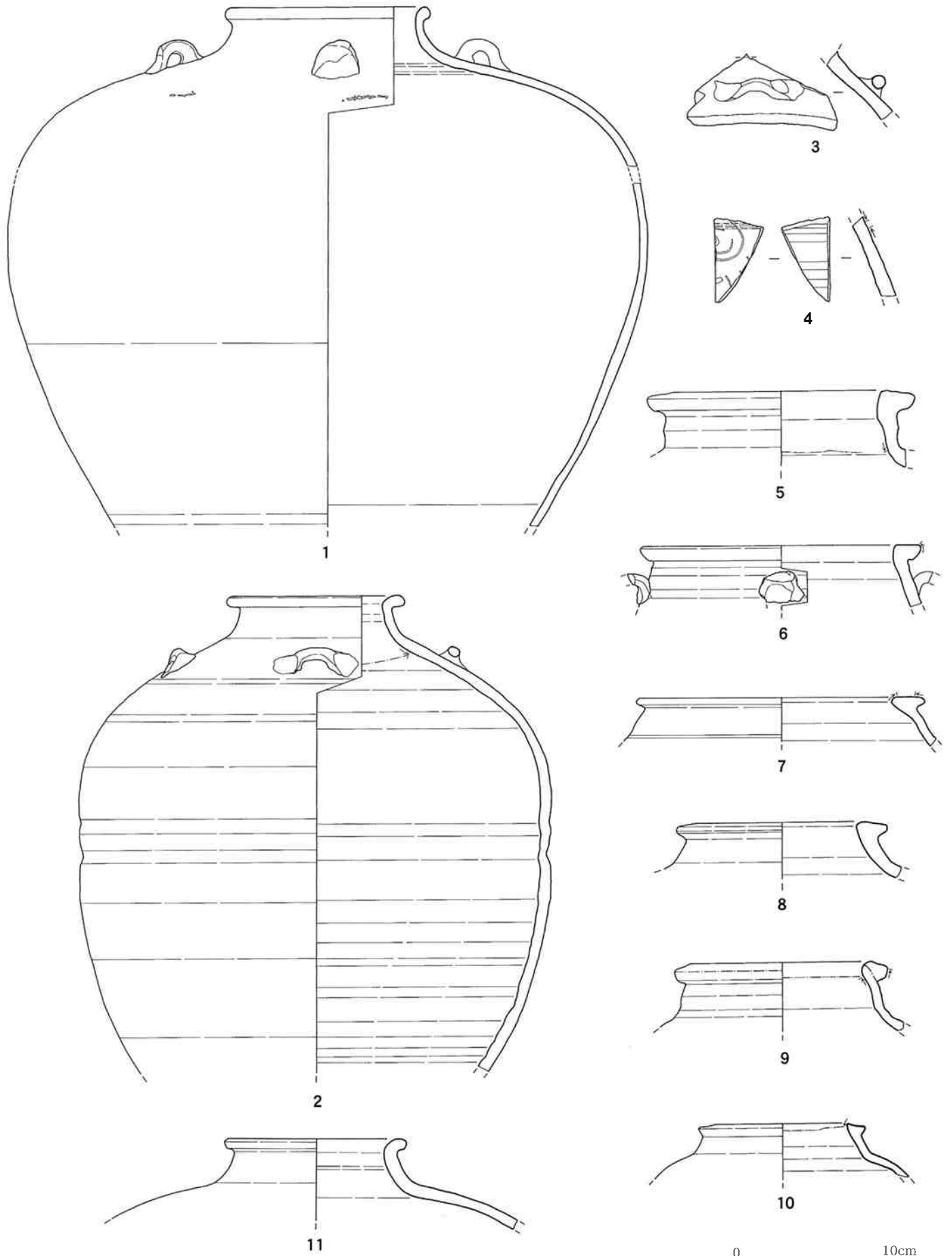
単位：cm

図番号	器種・分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第33図・図版22	鉢	底部	—	—	10.0	胎土が脆いためか、揺り目が明瞭に見えない。橙褐色の素地に混入物も多い。	G-18北側4層
		口縁部	—	—	—	口縁部下に、斜め方向に揺り目が入る。素地は暗茶褐色、白粒の混ざり多い。	不明
		底部	—	—	14.0	前述の4点と質感が異なる。櫛目が交差し内側に茶褐色の釉が掛かる。素地は橙褐色で、2mmほどの白、赤粒を含む。	J・K-18攪乱
	鉢Ⅲ類	口縁部	29.6	—	—	口唇部を舌状に厚く成型するが、器壁は5mmと薄手。暗茶褐色の釉を両面に掛ける。口唇部には積み痕か釉が一部はがれている。素地には黒、白粒が混入。	I-28南側3層
	鉢Ⅱ類	口縁部	—	—	—	口唇部が内側へ張り出し、その上端と胴部に突帯で文様を施す。素地は1~3mmの白粒が多い。内側に凹を描くような調整痕。オリブ黄褐色の釉が掛かる。	K-23南側3層
			31.6	—	—	内側に粘土を追加して内湾気味に成形。口縁部には波状の文様を貼りつける。1mm以下の白粒が混ざる。	畦
	鉢Ⅰ類	口縁部	—	—	—	文様帯を口縁部に貼りつけ、口唇部も波うつ。内側に意図的なものか沈線が走る。外面に茶褐色の釉が掛かり、内面には釉だれが見られる。	不明
			31.2	—	—	ほぼ直行ぎみの口縁部で、口唇部は有段になる。胴部はつなぎ目が明瞭。赤味がかった茶褐色の釉が内側ではまだらになっている。白、黒粒が混ざる。	L-21表土・攪乱
	鉢Ⅲ類	口縁部	—	—	—	小ぶりの鉢。口唇部を逆L字に成型し、口唇部には波状文。淡黄色の釉が掛かり、胴部に一部淡緑色の釉が施されており、絵付けかと思われる。	I-20表土・攪乱
	浅鉢	口縁部	20.8	—	—	内外面とも露胎。素地は茶褐色で白粒などの混入物が見られる。ボール状の丸底が想定される。	J-25南側2層
第34図・図版23	小壺	口縁部	10.4	—	—	口唇部を折り曲げて丸く成形、器高より幅広の小壺。内側から胴部中央付近まで茶褐色の釉を掛ける。素地は淡茶褐色、1mmほどの白粒が混ざる。	H-25・26南側1層+ L-18北側4層
			10	—	—	折り曲げた口唇部が舌状に出る。口唇部内側から外面全体に黒みを帯びた釉を掛ける。内面は剥落が激しい。素地は灰色、1~2mmの白粒も含む。	不明
			7.6	—	—	もっとも薄い部分で1.5mmほどの器壁をもつ小壺。口唇部内側を釉はぎして、そのほかは茶褐色で総釉される。黒粒の混入が見られる。	I-28南側3層
			10.6	—	—	大きくラッパ状に開く器形のようなものである。素地は茶褐色、極小の白粒が混ざる。	H-20ピット20
			3.9	—	—	口唇部を平坦に成形。灰色の素地で、器面調整は丁寧ではない。	不明
			5.4	—	—	口唇部は有段を意識したのか、稜が入るものの歪んでいる。素地は茶褐色、両面は露胎。口唇部上面に自然釉によるものか光沢がある。	I-26南側3層
			3.4	—	—	今回得られた資料の中で、より小さい壺。外面に茶褐色の釉が掛かり、白粒が少し混ざる。器壁は2mmあまりと薄い。	I-27南側2層
		胴部	—	—	—	壺の胴部片と見られるが、下部は底部にほど近い。桃色がかった淡灰色に、黒、白粒が混ざる。素地は第34図16、17と似る。	G-18北側4層
	瓶	口縁部	—	—	—	口唇部をきつく反外させる。茶褐色の釉を両面に施す。白粒が混ざる。	N-27表土
		胴部	—	—	—	膨らんだ胴部から口唇部へすばませるように成形。口縁部はわずかに欠損している。ロクロ痕が明瞭で、素地は淡灰色、黒粒が混ざる。両面とも露胎。	不明
			—	—	—	第34図10と素地が似る。素地は淡灰色。黒粒の混ざりが少量見られる。両面とも露胎。	H-17・19北側4層+ J-19ピット21
		底部	—	—	4.6	第34図10と素地、器面調整が類似する。素地は淡灰色。	K・L-18北側4層
	水注?	口縁部	6.2	—	—	小振りの壺か、水注のような器種も想定できる。口唇部を平坦に成形し、茶褐色の釉が掛かる。黒と白粒が混入。	K-27地山直上+J-27南側2層
		胴部	—	—	—	第34図13aと同一個体と見られる。ロクロ痕が明瞭。外面は茶褐色の釉、内面は露胎。素地に黒、白粒が混ざる。	K-27地山直上+J-27南側2層
	急須	口縁部	7.4	—	—	蓋受けを想定させる口縁部であることから、筒状の急須と思われる。ロクロ痕の残る器壁に、黒粒の混入が目立つ。両面とも露胎のようなものである。素地は淡黄褐色。	不明
	杯	底部	—	—	2.2	第34図14と同様の素地。糸切り底で、内底に釉だれが認められる。内側のロクロ成形が丁寧に調整されていない点を見ると杯以外の器種も否定できない。	J-26南側2層
	小壺?	口縁部	—	—	—	口幅のひろい小壺の可能性もある。口縁部は平坦にし、胴部は薄く成形する。素地は桃色がかった淡灰色、極小の黒粒が混ざる。	H-26溝状遺構C
		底部	—	—	10.8	第34図16aと同一個体と見られる底部資料。ロクロ痕が前者同様、稜をなす。	H-22北側3層
					7.2	比較的小さい壺と考えられる資料。内側は釉剥ぎしたような器面。胎土は精錬されたような質感で橙褐色を呈する。	コーラル敷A+方形堀込み遺構+北側1層
	碗?	胴部	—	—	—	器種としては碗の可能性はあるが、第34図19bのような小壺とも考えられる。内側にはロクロによる稜が残る、内外面とも茶褐色の釉が掛かる。	N-23南側3層
	小壺	口縁部	8.9	—	—	直口気味の口縁部から胴部へ少し張る。口唇部は釉剥ぎ、その他は茶褐色で総釉される。	K-19北側3層
		胴部	—	—	—	第34図19aと同一個体と見られる。胴部下には角が成形されている事から高台付きの器形を想定させる。	K-19石列D
	急須	口縁部	10.8	—	—	口唇部が特徴的な急須。胴部に注口のあった部分がわずかに残る。茶褐色の釉が胴部に掛かる。黒、白粒が素地に見られる。	不明
			9	—	—	前者より小振り。素地は茶褐色、白粒が少量みられる。	F-18攪乱
		胴・注口	—	—	—	注口より上部に取っ手の根本が残る。素地は淡茶褐色、オリブ黄褐色の釉が内部まで掛かる。	不明
		口縁部	7.8	—	—	蓋受けを持たない丸みを帯びた口唇部。注口は欠損するがその根本は指による押痕が見られる。橙褐色の素地に茶褐色の釉が掛かる。	N-24攪乱
注口		—	—	—	露胎の注口。素地は赤みを帯びた灰褐色で白粒が混ざり、質感は粗い。	J-28南側3層	
口縁部		7.8	—	—	怒り肩の胴部で、取っ手は欠損するがその痕が残る。青みがかった灰色の素地に白粒が目立ち、内側には部分的に暗灰色の釉が掛かる。	L-21瓦溜まりC	
		9.6	—	—	口唇部の形状から急須として扱った。内部に赤みのある茶褐色の釉を掛ける。胎土はタイ産半練土器のような質感で橙褐色を呈し、白と透明粒が混ざる。	J-25南側1層	

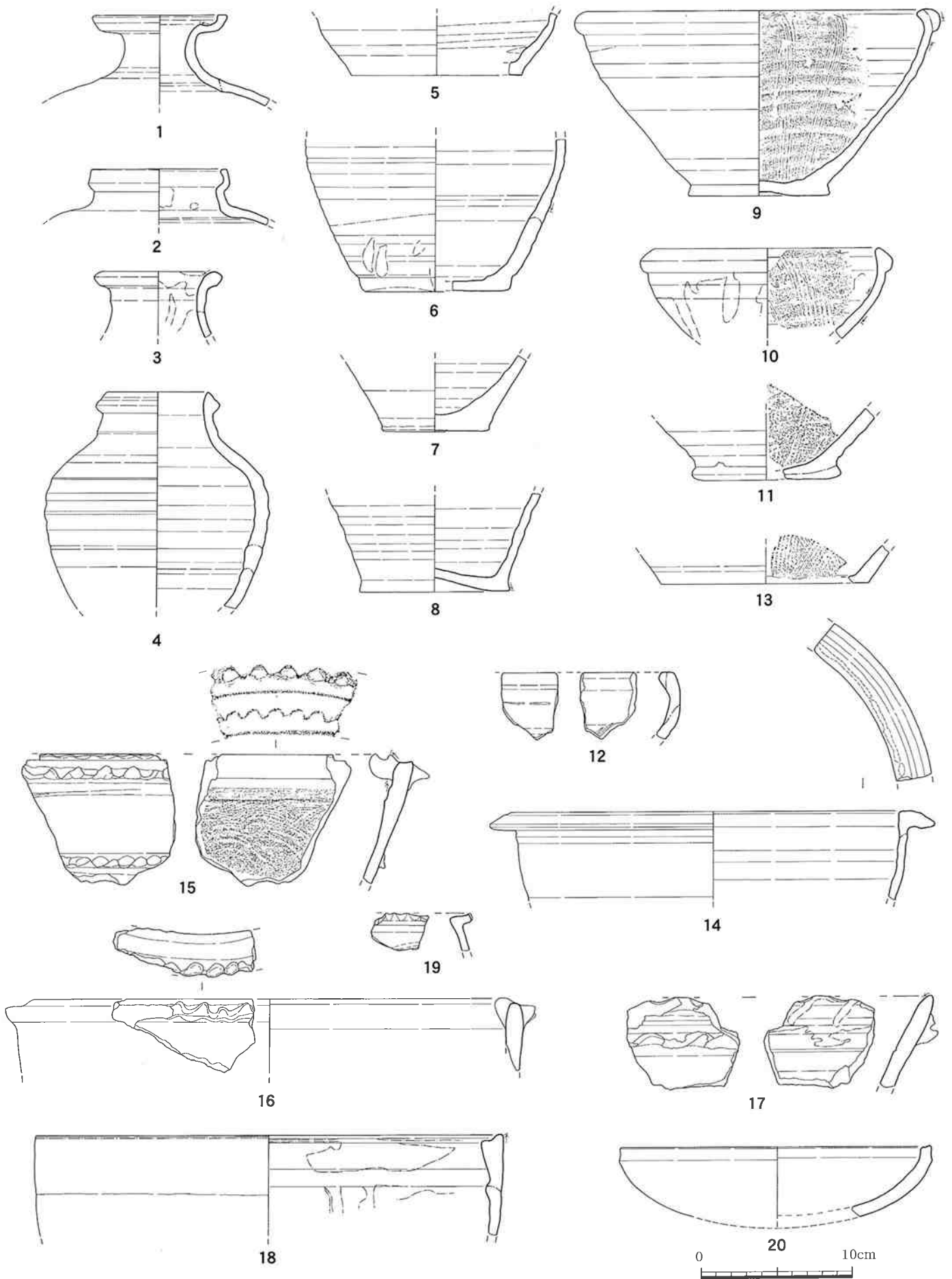
注 「-」：計測不可、「+」：接合の意



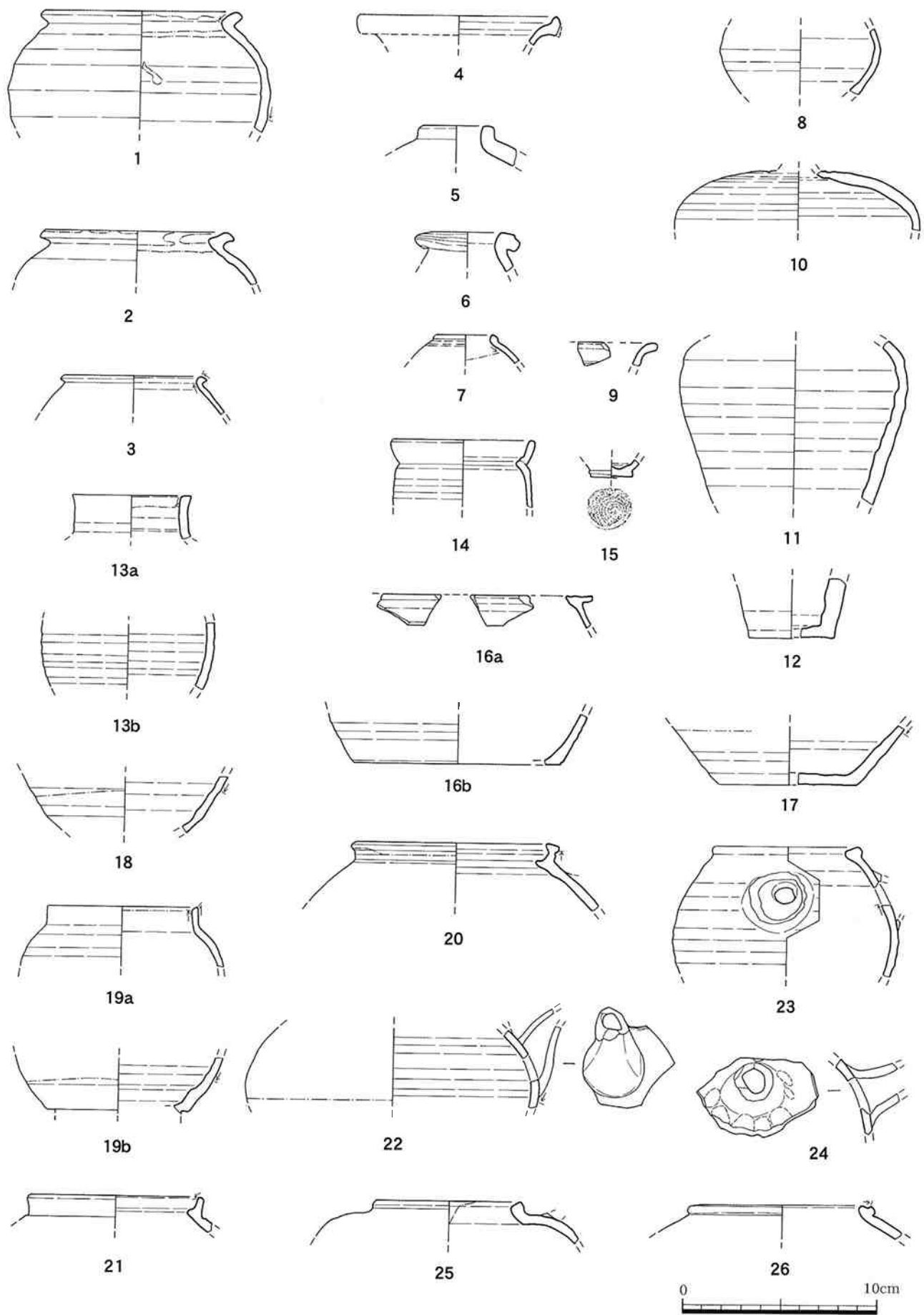
第31図 褐釉陶器 (1)



第32図 褐釉陶器 (2)



第33图 褐釉陶器 (3)



第34图 褐釉陶器 (4)

第15節 タイ産褐釉陶器

本地区においては、小破片が多くを占めるものの総数1170点が得られた。確認できた器種は壺のみで、そのサイズには大小ある。口縁形態により2種に大別した。Ⅰ類は玉縁状で、頸部へなだらかに傾斜するもの(第35図1、2、3、6)。Ⅱ類は口縁部がラッパ状に大きく開き、上端部を三角状につくるもの(第35図4、5、7)とした。その他同図11のように27.5cmの底径をもつ大型の資料がある。また同図12・13は上記の壺類と趣が異なるもので、12は肩部に連続弧状を呈す文様を廻らし、その文様を挟んで上下に2本の稜線を走らせる。頸部の推定径は23.6cmである。13は小さな横耳を貼付し、格子状の文様を配する^註。以下に各資料について観察事項を記する。

〈註〉

金沢大学大学院 向井瓦氏より第35図12、13の資料について、タイ・バンブーン地方を産地とするものではないかとのご助言をいただいた。記して感謝申し上げます。

第20表 タイ産褐釉陶器出土状況

分類・器種	出土地	表土・攪乱	畦	トレンチ	南側				北側				地山直上	基壇	コララル敷A	方形掘込み遺構	コララル敷B	右列A	右列D	右列E	右垣A	右垣B	右垣C	溝状遺構A	溝状遺構B	溝状遺構C	溝状遺構D	溝状遺構E	溝状石列	瓦溜まりB	瓦溜まりC	ヒット	遺構	瓦溜まりC+溝状遺構D	北側4層+南側1層	瓦溜まりA+瓦溜まりC	右列D+右垣A	不明	合計		
					1層	2層	3層	4層	1層	2層	3層	4層																													
Ⅰ類	大	口縁部	1	2			1								1																										11
		胴部																																							2
	中	口縁部	1																																						3
Ⅱ類	大	口縁部	10			2	1	4				4	5		2	1														2										4	40
		胴部	7		1		3	1				1	3	20	1																									24	74
	底部																																							2	
中	底部																																							1	1
	小	口縁部	1				1	1																																2	10
その他	胴部	口縁部	1																																						4
		胴部	130	18	8	32	25	60	16	25	11	111	38	10	6	26	13	3	6	6	11																				1
	底部	5	1			8	6				7	3	4	4	6	2	1																							15	86
耳	1	1		1																																				7	17
合計			157	22	9	35	39	72	16	26	12	128	67	16	10	35	17	8	7	6	13	1	1	6	2	1	2	9	1	17	4	124	37	25	1	1	1	1	241	1170	

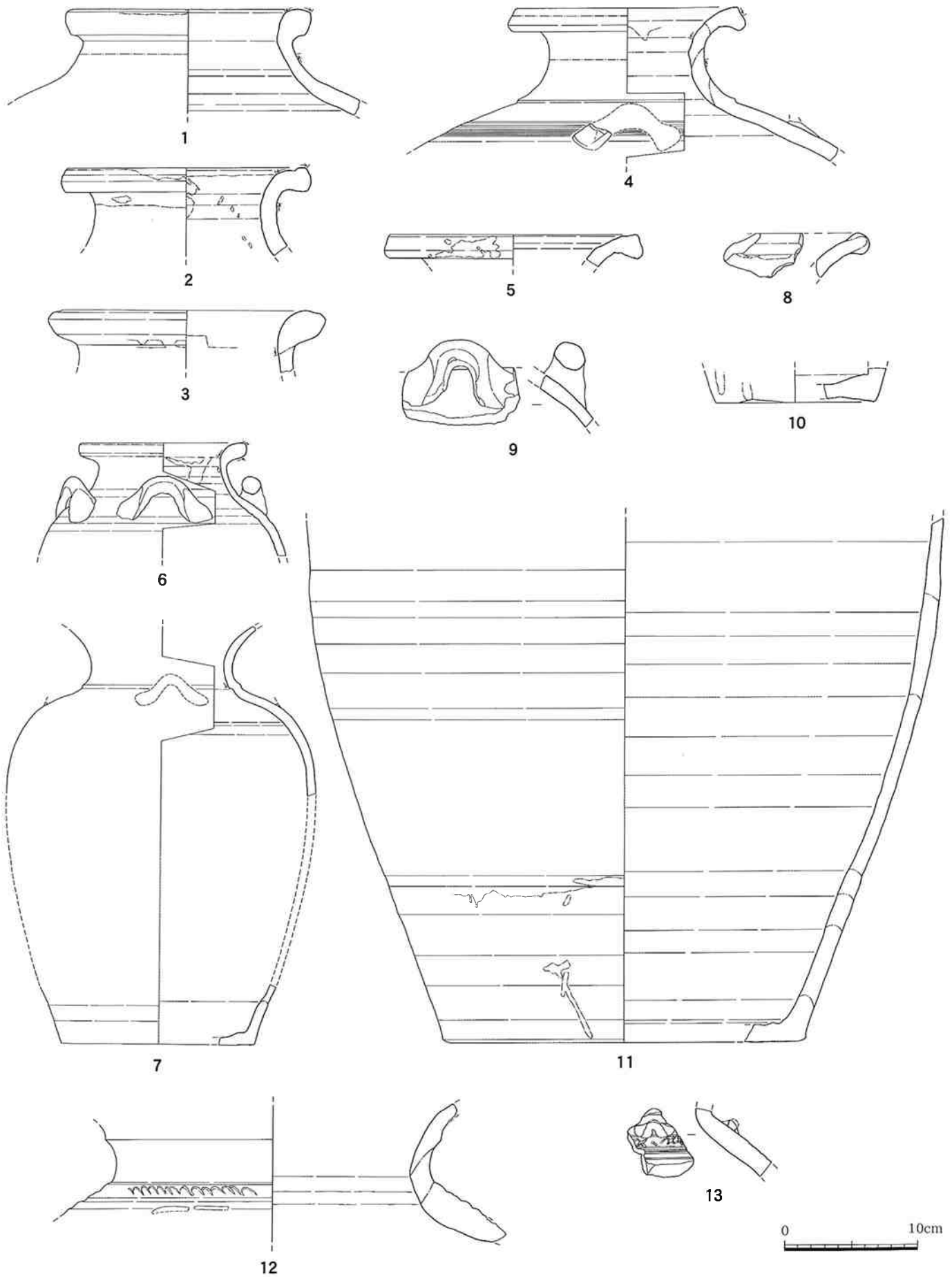
注「+」:接合の意

第21表 タイ産褐釉陶器観察一覧

単位: cm

図番号	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
35図版24	Ⅰ類	口縁部	18.6	—	—	口唇が平坦気味の、玉縁状口縁部。肩から胴部へ黄褐色の釉が掛かる。1~2mm大の黒、白色粒を含み、胎土は暗赤褐色。	M-20瓦溜まりC
			19.0	—	—	口唇部をきつく開き、口縁部の一部と頸部から胴部へ緑がかった黄褐色の釉が掛かる。1mm程度の赤、黒粒を含み、露胎部分の器色は暗赤褐色。	I-27溝状遺構D
			21.0	—	—	口唇部は粘土を重ねて厚く作られる。その内側から外面全体に暗茶褐色の釉を掛け、胎土は灰褐色で混入物は僅かに黒、白、赤粒が見られる。	L-21瓦溜まりC
4	Ⅱ類	口縁部	18.0	—	—	ラッパ状に大きく開き、口唇の上部は角ばり、下部は丸みをつけて成型する。頸部から下へオリーブ褐色の釉が掛かる。外面は暗赤褐色、内面は桃色がかった灰色の器色。内面はロクロ成型後ナデ消しされる。	H-22・23方形堀込み遺構
			19.6	—	—	4と同様の口唇部。1~2mm大の赤色粒と極小の黒色粒が含まれる。露胎部分は暗茶褐色の器面。口唇部に一部オリーブ褐色の釉が掛かる。	I-20コララル敷A
6	Ⅰ類	口縁部	12.8	—	—	小ぶりの壺で口唇部を厚く作る。内側から外面にかけてオリーブ褐色の釉が掛かる。内側の器面はあばた状。	M-20・21瓦溜まりC
7	Ⅱ類	底部	—	—	14.6	口唇部を欠くがラッパ状に大きく開く小ぶりの壺。残存する口縁部から胴部まで黒色の釉が掛かり、底部は露胎である。露胎部分にはぶい橙褐色。白、黒粒が含まれる。	不明
8	壺	口縁部	—	—	—	口唇部を丸く成型する、ミャンマー産の壺と見られる。内外面に黒色の釉を掛け、淡黄褐色の胎土に黒色粒が少量含まれる。(類例:「首里城-下之御庭ほか」2001年3月発行の第42図12)	J-26溝状遺構C
9		耳	—	—	—	大型壺につくものと見られる。図2にもその痕が残るがこれよりも一回り大きい。黒色を基調に一部オリーブ黄褐色を呈する釉が掛かる。黒、赤粒を少量含み、器色は桃色がかった灰色。	L-21瓦溜まりC
10		底部	—	—	12.0	小ぶりの壺の底部。底部近くまで茶褐色の釉が掛かる。1~2mmの白、黒粒が目立つ。器色は桃色がかった灰色。内面はロクロ痕が残り雑な印象。	J-21北側3層
11		底部	—	—	27.5	大型壺の底部資料。オリーブ黒色の釉が胴部全体に掛かる。白、黒、赤の粒を含む。口縁部はⅠかⅡ類のような形状になるかと見られる。	不明
12		胴部	—	—	—	頸部で23.6cm、大型の壺である。肩に列点を施す。1~3mmの白色鉱物を含む。胎土は粗く、内外面ともあばた状で露胎になる。	不明
13		胴部	—	—	—	リボン状の小さな耳がつく。頸部に格子模様を沈線で描き、オリーブ黄褐色の釉が掛かる。断面にはサンドウィッチ状に層をなすのが見られる。白色鉱物を多く含む。	J-27南側2層

注「—」:計測不可



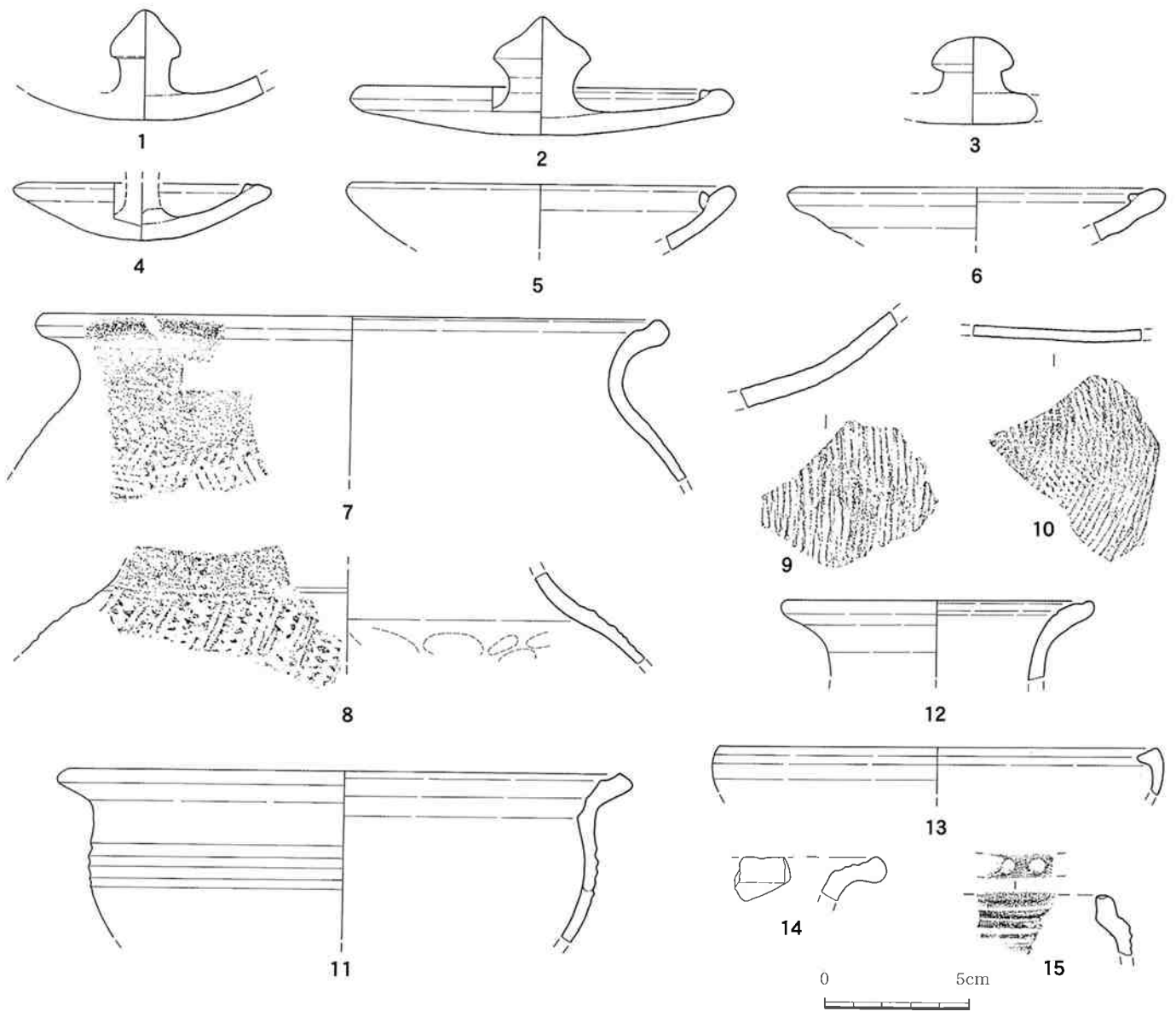
第35図 タイ産褐釉陶器

第16節 タイ産半練土器

今回の調査でタイ産半練土器の蓋と身が確認できた。しかし、身の出土は蓋に比べ僅かであった。半練土器は胎土が粗く、混入物に石英・白色粒・赤色粒・黒色粒などが見られ、焼成は良好なものである。また、橙褐色を基色とした器面に灰・黒色の素地がサンドウィッチ状になっているものが多いのも特徴である。

半練の蓋は、撮みの形態から「宝珠形」(第36図1、2)と「饅頭形」(同図3)の2種類が確認できた。また、端部上面に作る突起で特徴的なものを同図4～6に掲載した。

半練の身は、胴部に叩き目をもつ壺(同図7～10)と胴部に四条の凹圈線を施す鉢(同図11)が確認できた。同図12～15は、胎土や混入物などの特徴から移入品と考えられる資料で、今回は半練土器と共に扱った。同図12は、須恵器に類似する資料だが、胎土にガラス質の混入物がみられる事から、須恵器のように焼成温度の高い窯で焼かれたものとは考えにくい為、今回は移入系土器として扱った。同図13は胴部が膨らみ、口縁部が内反する「鉢」と考えられる資料で、口唇部が内側に肥厚しているのが特徴である。同図14は「蓋」もしくは「鉢」、同図15は「壺」か「鉢」として考えられる資料である。しかし、同図13～15の資料は細片で詳細は不明の為、今回は器種不明として扱った。以上、これら資料の個々の詳細は、第23表の観察一覧に記した。



第36図 タイ産半練土器

第22表 タイ産半練土器出土状況

種類	出土地	表土・攪乱	畦	南側				北側				基壇	コーラル数A	方形掘込み遺構	コーラル数B	石列D	石垣A	石垣C	溝状遺構A	溝状遺構C	溝状石列	瓦溜まりC	円弧状遺構③	ピット	遺構	不明	合計
				1層	2層	3層	4層	1層	2層	3層	4層																
蓋	撮み																						1	1		6	
	口～底							1															1		1	3	
	口縁部	9	2	1	5	3	1	2	2	6	13		5	3	5	1	2					1	1	6		30	98
	胴部	2			3	1		2		5	6		1				1		1			2		1	1	12	38
壺	口縁部	3			1	1				1	1	1							1					2		4	15
	胴部	1	2	1	1	1		1		4	3		1	4			1			1			2			5	28
鉢	口縁部				2	1				1																	4
合計		15	4	2	12	7	1	6	2	18	24	1	9	7	5	1	3	1	1	1	3	1	11	4	52	192	

第23表 タイ産半練土器観察一覧

単位：cm

図	番号	器種	部位	口径 器高 底径	特徴	調整	器色	混入物	出土地
第36図・ 図版25	1	蓋	撮み	2.4(撮径) 3.8(高さ) —	撮み：宝珠形（頸部をきつく作る）。	両面：撫で 撮み頸部：削り	上面：橙褐色 下面：灰橙褐色 素地：黄色	石英、白色粒 赤色粒、黒色粒	J-21 コーラル数A
	2			3.4(撮径) 4.1(高さ) 11.9(端径)	撮み：宝珠形（頸部を緩く作る）。 端部：丸い。 突起：断面隅丸三角。	両面：撫で 撮み頸部：削り	上面：橙黄褐色 下面：暗橙黄褐色 素地：黄色	石英、白色粒 赤色粒、黒色粒	K-16 北側1層
	3			2.8(撮径) 3.0(高さ) —	撮み：饅頭形。 その他：撮みに煤が付着。	撮み：磨き 撮み頸部：削り 胴部：磨き	両面：白黄色 素地：黒色	白色粒 赤色粒、黒色粒	H-13・14 北側4層
	4		— 9.0(端径)	端部：舌状。 突起：断面隅丸。	両面：撫で	上面：黄褐色 下面：暗黄褐色 素地：黄褐色	石英、白色粒 赤色粒、黒色粒	K-21 南側1層	
	5		— 12.0(端径)	端部：尖る。 突起：端部を折り曲げ摘まみ上げる。 その他：ロクロ目を残す。	両面：磨き	両面：黄色 素地：灰色	石英、白色粒 赤色粒、黒色粒	G-21 北側4層	
	6		— 13.2(端径)	端部：舌状。 突起：断面隅丸三角。 底面：端部までのカーブが緩い波状になる。	両面：撫で	両面：黄褐色 素地：白灰色	石英、白色粒 赤色粒、黒色粒	攪乱	
	7	壺	口	22.1 — —	口唇部：丸い。 口縁内：蓋受けの凹みをつくる。 胴部：叩き目。	外面：撫で、叩き 内面：撫で、指圧	両面：灰黄色 素地：黒色	赤色粒、黒色粒	G-22基壇トレン チ+K-23南側3 層
	8			— — —	文様：頸部には二条の圏線。 胴部：叩き目。 その他：内外に煤が付着。	外面：撫で、叩き 内面：撫で、指圧	両面：黄褐色 素地：灰色	石英、白色粒 赤色粒、黒色粒	H-22・23 方形掘込遺構
	9		底	— — —	底部：叩き目。 その他：外面に煤が付着。	外面：叩き 内面：撫で、指圧	外面：灰褐色 内面：黄褐色 素地：灰色	石英 赤色粒、黒色粒	H-20・21 コーラル数A
	10			— — —	底部：叩き目。 その他：外面に煤が付着。	外面：叩き 内面：撫で	両面：黄褐色 素地：黄褐色	白色粒 赤色粒、黒色粒	G-21ピット10
	11	鉢	口	18.0 — —	口唇部：ほぼ平ら。口縁部：外反。 文様：外面に四条の凹圏線。 口唇・口縁の内面に凹圏線。	両面：撫で、磨き	外面：灰黄褐色 内面：灰褐色 素地：灰褐色	貝殻、白色粒 赤色粒、黒色粒	K-23南側2層+ I-28南側3層
	12	移入 系壺	口	10.9 — —	口唇部：舌状。口縁部：外反する。 文様：外面に二条、内面に一条の圏線。 その他：須恵器に類似。	両面：撫で	両面：灰褐色 素地：黄灰色	石英、白色粒 赤色粒、黒色粒	不明
	13	不明	口	12.4 — —	口唇部：平ら（内側に肥厚）。 口縁部：内反する。 その他：鉢の可能性あり。	外面：鏡磨き 内面：撫で	外面：黄褐色 内面：暗黄褐色 素地：灰黄褐色	石英、白色粒 赤色粒、黒色粒	造成層
	14			— — —	口唇部：ほぼ平ら。 その他：蓋・鉢の可能性あり。	外面：撫で 内面：撫で、指圧	外面：橙黄褐色 内面：淡橙黄褐色 素地：黄色	石英 赤色粒、黒色粒	G-17 北側4層
	15			— — —	口唇部：浅く波状になる。 胴部：凹線を施す。 その他：鉢・壺の可能性あり。	外面：磨き 内面：撫で	外面：黄褐色 内面：灰黄褐色 素地：暗黄褐色	石英、白色粒 赤色粒、黒色粒	不明

注 「—」：計測不可、「+」：接合の意

第17節 本土産磁器

本土産磁器には、肥前系、瀬戸・美濃系、銅板転写、型紙摺り、クロム青磁等が見られた。量的には型紙摺りや肥前系磁器が多く、年代は17～20世紀代と幅広い。器種は碗、小碗、皿、小皿、瓶、蓋物、急須、香炉、杯などがあるが、最も多いのは碗、次いで皿となっており、両者で全体の80%を占める。また出土状況としては、表土・攪乱部分からの262点が最も多く、北側3層や基壇、瓦溜まりC等からも一定量の出土が見られる。特徴的な13点を図化した。以下に割愛した資料も含めて概略を記述する。なお、図化した資料については観察表に記した。

肥前系（第37図4～8、10、12）

器種ごとに見ると、碗には17世紀後半～19世紀代を範囲とするものが多く、文様は山水文や草花文等があり、そのほとんどが小振りである。皿では、型成形や糸切成形、外底が蛇ノ目凹形高台の資料も多く見られた。装飾としては丸文や山水文等の文様の他、口唇部に銹釉を施すものもある。鉢には18世紀前半から19世紀後半にかけてのものがある。器形としては蛇ノ目凹形高台のほか、八角鉢がある。その他量的には少ないが、小皿や蓋物、香炉、瓶、小杯などが得られている。

瀬戸美濃系（第37図2、9、13）

器種はバリエーションに富むが量そのものは少ない。19世紀～明治代と年代は下る。染付のほか色絵も少量得られている。

銅板転写

皿と小碗が得られた。合計54点であるが、表土・攪乱からの出土が多い。

型紙摺り

本土産磁器の中では最も多く出土している。各器種とも文様はパターンを繰り返して施文される。碗には直口、外反口縁があり、皿（大：口径15cm前後）には蛇ノ目凹形高台が多い。

クロム青磁

小碗、皿、瓶などの器種がある。碗には同資料の特徴である、トビカンナによる文様が施される。皿は10cm台と小振りで、内面に草花文をあしらっている。

その他の本土産磁器（第37図1、3、11）

上記以外の資料をこれに含めた。薩摩焼の碗、関西系と見られる土瓶のほか、産地が特定できない資料では碗、皿、鉢、急須、火入れ等が少量得られた。

第24表 本土産磁器観察一覧

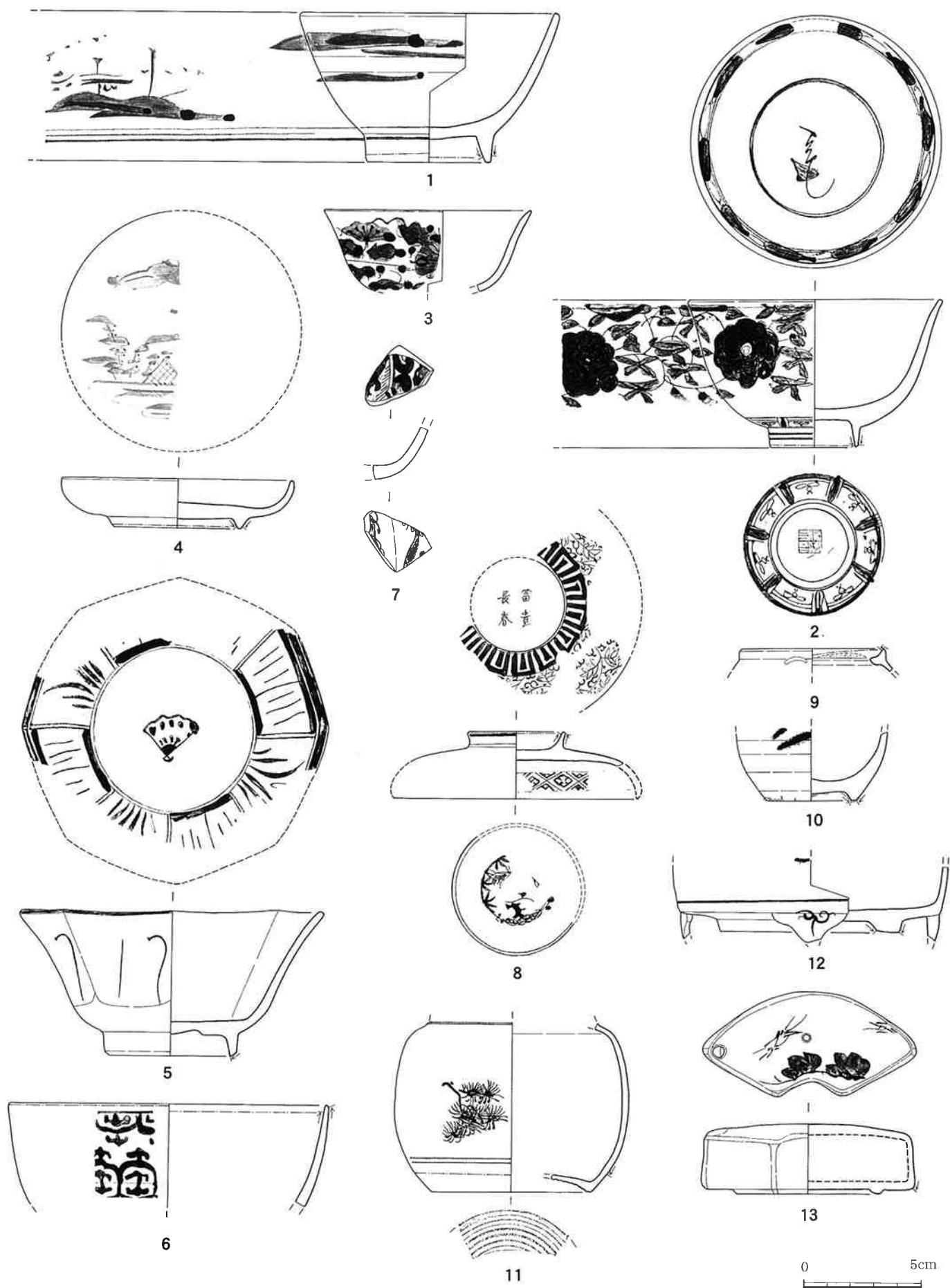
単位：cm

図番号	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	産地・年代	出土地
第37図・図版26	碗	口～底	11.1	6.35	5.3	広東型と称される碗。直口口縁で全体的に厚手。畳付けは無釉で腰部に圈線を廻らし、胴部には雲、山等の文様を描く。	薩摩・19c	F-20 基壇攪乱
			10.9	6.25	3.6	外反口縁。畳付けは無釉。外面に草花文、見込みには圈線と、花文を描く。呉須は濃紺、高台内に銘款。	瀬戸か・20c	I-J-16 北側4層
	小碗	口縁部	8.8	—	—	外反口縁。口唇部外面に薄い呉須で圈線を引く。表面いっばいに草花文が描かれる。	薩摩・1820～1860年代	不明
	小皿	口～底	10.2	22.0	5.5	型成形で厚手。畳付けは無釉。内面に山水文を描く。	肥前・19c	F-21 基壇攪乱
	鉢	口～底	12.9	6.1	5.6	八角鉢。蛇の目凹形高台で、同部分にはハマ痕が残る。外面には木賊、見込みにも窓ごとに線種を変えて文様を描く。内底部には扇。	肥前・19c初～幕末	F-20 基壇攪乱
			口縁部	13.6	—	—	蓋付の鉢と見られ、内側の口唇部が無釉になる。口縁部と胴部に環状文を互い違いに配する。呉須は暗い発色である。	肥前・1760～1790年代
	鉢?	胴部	—	—	—	小破片で器種は特定できないが、底部に近い胴部片。内外面とも施文され、草花をあしらったようである。	肥前・18c前～中	K-22 北側3層
	蓋	口～底	4.1	2.8	10.3	撮みの口唇部は無釉。表面に雷文と唐草、内側に四文襷と圈線を配し、内底には篋等で円文を描く。撮み高台内には「長春富喜」の款。	肥前・1760～1790年代	F-21 基壇攪乱
	急須	口縁部	6.2	—	—	色絵。蓋受け部分から内部へは無釉。外面には白色の釉を施す。肩部に黄で装飾されるが詳細な模様は不明。	瀬戸・美濃系・明治代	不明
	瓶		—	—	3.8	小振りの瓶。辰砂で暗赤褐色の施文がある。外面はわずかにロクロ痕が残る。内面は割合丁寧に成形されている。畳付けには砂が付着。	肥前・1630～1640年代	L-21 瓦溜まりC
	土瓶	底部	—	—	6.8	胴部下から底部にかけて無釉。胴部に松文、肩とその下部には圈線。内面全体には白色釉が掛かる。	明治代	H-26 南側3層
	香炉		—	—	7.6	円筒状の香炉で三つ足と見られる。胴径は11.1cmで足は貼り付け。畳付けは無釉、その他は器内全体にも白色の釉を掛ける。胴部下に圈線を廻らし、足表面にも花文を配す。	肥前・17c後半	L-25 溝状遺構B
	水滴	完形	—	2.8	—	型成形、長軸9.0cm、短軸3.8cm。高台は本体の形状に沿って扇形になる。上面の穴はどちらも4mm前後。乳白色の釉が掛かり、底部は無釉。釉下彩により松枝等は描かれる。	瀬戸・美濃系・明治代	不明

注「—」：計測不可

第25表 本土産磁器出土状況

器種・分類	出土地	表土・擾乱	畦	トレンチ	南側				北側			基壇	コララル数A	コララル数B	石列D	石垣C	瓦溜まりC	ピット	遺構	瓦溜まりC 基壇+	不明	合計	
					1層	2層	3層	4層	1層	3層	4層												
					口~底	口縁部	胴部	底部	口~底	口縁部	胴部												底部
肥前系	碗	口~底	3				1														4		
		口縁部	2				1														3		
		胴部	1					1													1		
		底部	2																		2		
	皿	口~底	1																			1	
		口縁部		1						1												2	
		胴部								1												1	
	小皿	口~底	7	1		1						1									3	13	
		底部	1		1							1										1	
	小杯	口~底	1		1							1										3	
		底部	1									1										1	
	瓶	口~底	1								1											1	
		底部	1								1	1										3	
	鉢	口~底	1														1					1	
		口縁部	2																			2	
胴部		1																			1		
香炉	口~底	1																1			1		
	口縁部	1																			2		
	底部	1																			1		
蓋物	口~底	1																			1		
	口縁部	1			1																2		
	底部	1																			3		
瀬戸・美濃系	碗	口~底	1								1											1	
		口縁部	1																			1	
		胴部																				1	
	小碗	口~底	6	1		1			1	1	1	1	2									2	
		口縁部	2																			2	
		胴部	2																			14	
	皿	口~底	2	1							1											2	
		底部	1																			3	
	小皿	口~底	2																			2	
		口縁部	1																			2	
	瓶	口~底	1																			1	
		胴部	1																			1	
	急須	口~底		1																		2	
		口縁部																				1	
		底部																				2	
型紙摺り	碗	口~底	3																			3	
		口縁部	21	1		1				1	3						3		3		10	43	
		胴部	5	1						1		1					2		1			12	
	小碗	口~底	7	2			1															2	
		口縁部	8																			3	
		胴部	5																			13	
	皿	口~底	2													1	2					8	
		口縁部	3	1																	1	4	
		胴部	3																			5	
	鉢	口~底	3									2										3	
		口縁部	3																			5	
		胴部	3																			3	
	小碗	口~底	1																			1	
		口縁部	4					1														6	
		胴部	8	1																		10	
皿	口~底	1	1																		2		
	口縁部	11			1					1						1					15		
	胴部	4														1					9		
銅板転写	碗	口~底	4																			4	
		口縁部	8	1					1													6	
		胴部	1	1																		10	
	皿	口~底	11			1																2	
		口縁部	8								1						1					15	
		胴部	4																			9	
	クロム青磁	碗	口~底	2																			2
			口縁部	7																			3
			胴部	3	2		1				2												7
		皿	口~底	2	1																		1
			口縁部	3																			3
			胴部	1																			1
		瓶	口~底	1																			1
			口縁部	4																			1
			胴部	1																			1
その他		碗	口~底	4														1					5
			口縁部	13	2		1	2				2			1			2				5	28
			胴部	6	1		2											2					14
		小碗	口~底	8	3															1			2
			口縁部	11	1																		14
			胴部	5									2										6
	皿	口~底	1																			2	
		口縁部	10				2		1													15	
		胴部	2																			2	
	杯	口~底	3	1																		1	
		口縁部	5																			5	
		胴部	5			2																9	
	瓶	口~底	16	2																		1	
		口縁部	2							2							1					7	
		胴部	1	1		1																29	
急須	口~底	4																			3		
	口縁部	1																			2		
	胴部	1								1											1		
火入れ	口~底	1																			1		
	口縁部	1																			1		
	不明	1																			1		
不明	口~底	2																			2		
	口縁部																				1		
	胴部																				1		
合計		262	29	1	9	3	8	1	8	18	7	10											



第37图 本土産磁器

第18節 本土産陶器

本土産陶器には、肥前系、関西系、薩摩焼等の施釉陶器や無釉陶器が得られている。施釉陶器には碗や皿、瓶、鉢、壺などの器種が見られ、無釉陶器としたものには、備前焼の播鉢がある。以下に概要を記し、図化した資料については、法量等、観察一覧に記す。

施釉陶器

出土は18点と少量で、全形の窺える資料は少ない。産地等の特定できた施釉陶器以外にも、瓶や鉢などがあるが、いずれも小破片である。

無釉陶器：備前焼 播鉢

主に口縁形態により以下のように分類を行った。

I類：口縁部幅が、3cm前後。同部分はロクロにより若干窪む。

II類：口唇部幅が4cm強。口縁下部に鑿をつくる。

各分類で特徴的な資料を、第38図に示した。

さらに今回得られた同資料には混入物が①ほとんど見られない、②5~10mm大の粒を多く含む—などの点や、胎土の質感は①滑らかで色調は桃色がかった橙褐色、②粗く、赤に近い橙褐色や灰褐色の器色—というようにいくつもの差異がある。I・II類どちらにも見受けられるが、その相違点は産地の違いを示しているとも考えられる。なお内面の櫛目については交差させるものはなく、放射状櫛掻きの資料のみであった。年代は16世紀代が中心となるものと見られる^{註1}。また出土傾向について、本地区南側一帯から比較的多く得られていることは遺構等の関わりが想定される。

<註>

註1 大橋康二氏（佐賀県立九州陶磁文化館）に実見していただいた。また胎土の項①に該当する資料については稀少であるとのコメントを頂いた。

第26表 本土産陶器出土状況

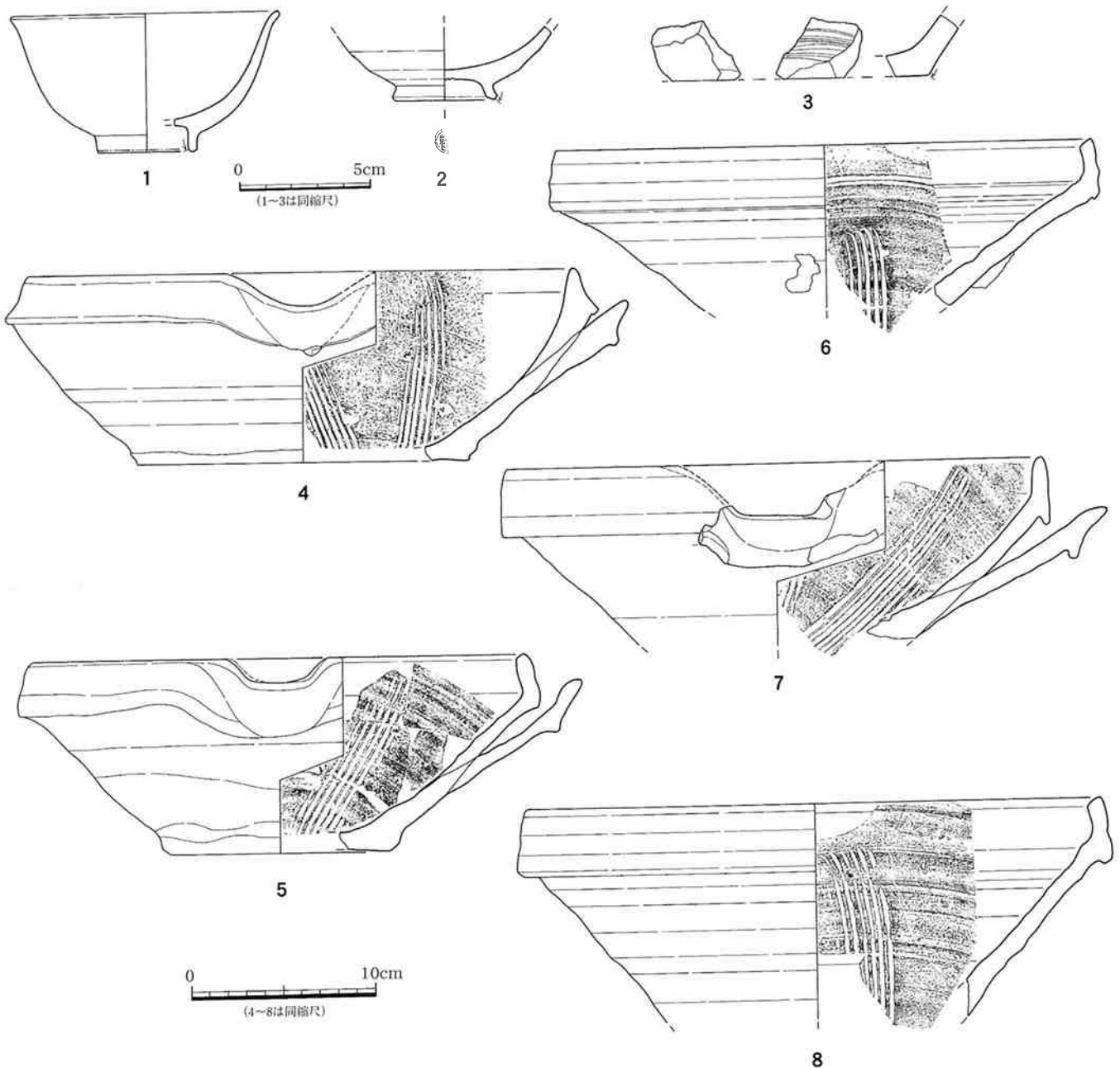
種類・分類	出土地	表土・攪乱	畦	南側				北側			地山直上	コーラル数A	方形掘込み遺構	溝状遺構A	溝状遺構B	溝状遺構C	溝状遺構D	溝状遺構E	溝状石列	瓦溜まりC	ピット	遺構	不明	合計	
				1層	2層	3層	4層	1層	3層	4層															
施釉	薩摩	碗	口~底部	1																				1	
		壺	底部										1											1	1
	肥前	碗	底部	2																					2
		皿	底部	1																					1
	関西系	碗	口縁部	1																					1
			胴部	3																					3
	その他	碗	底部	1				1																	2
			底部								1														
		鉢	口縁部			1																1			2
		不明	口縁部	1																					1
小計			10	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3	18	
無釉	備前	播鉢	I類	口~底部	1						1													1	
			口縁部																						4
		底部									2											1	2	2	
		II類	口~底部	5	4	7	11	3	1		1	3		1	1	1	1	1	1	1	3	2	1	1	6
	胴部	2																						3	
	底部	1																						1	
不明	口縁部	胴部	2		2	2	1		1		1													9	
		底部	8	2	8	4	9	3	1	8	1	1	2			3				1	1	2	7	61	
小計			25	2	17	16	31	8	2	9	6	5	3	3	1	1	1	8	2	1	4	5	9	22	181

第27表 本土産陶器観察一覧

単位：cm

図番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地	
第38 図・ 図版 27	1	碗	—	口~底	10.3	5.3	3.8	薩摩焼、19世紀代。外反口縁で畳付け以外は総釉。胎土は乳白色。内外面とも細かい貫入が見られる。	表土・攪乱
	2	碗	—	底部	—	—	3.9	関西系、19世紀代。外面に絵付けがあるが詳細は不明。胎土は黄褐色。畳付けから高台内は無釉。高台内に印刻。	不明
	3	壺?	—	底部	—	—	—	薩摩焼、18世紀頃。壺もしくは甕と考えられる底部。胎土は鈍い灰褐色。内外面ともオリブ褐色の釉が掛かる。外底部は無釉。	不明
	4	搦鉢	I類	口~底	30.0	10.4	18.2	口唇部は舌状、その表面には自然釉が掛かり、粒状に発色している。5~10mm大の小礫が混入し、胎土は粗い。6本の櫛目が確認できる。両面とも鈍い黄褐色を呈する。	L-25 溝状遺構
	口~底			26.0	11.2	12.6	口唇部は内傾する。混入物も少ない。7本の櫛目が9組確認できるが、内底部分の目の始点では8本のようなものである。器色は暗赤褐色。	I-28 南側3層	
	口縁部			29.0	—	—	口唇部は平坦に作り、混入物はほとんど見られない。胎土も滑らかで他の4点と異なる印象を受ける。6本の櫛目。胎土断面は鈍い橙褐色、表面は灰褐色。	石垣A	
	7	II類	口縁部	29.0	—	—	8と同様に口唇幅が広い。5mm大の砂粒が混入し、櫛目は8本確認できる。器面は灰褐色。	M-24 南側3層	
	8		口縁部	31.0	—	—	口唇部は平坦に成形される。混入物は比較的少ない。焼成具合によるものか、橙褐色を呈しており一見沖縄産無釉陶器にも似る。	I-J-27 溝状遺構	

注「-」：計測不可



第38図 本土産陶器

第19節 沖縄産施釉陶器

器の表面に釉薬を施釉するもので、方言で「上焼（ジョウヤチ）」とも称される。釉薬の種類は灰釉・鉄釉・鉛釉・黒釉・白釉（白化粧十透明釉）などがあり、その上に呉須や緑釉などで文様が施される例もある。器種は碗・小碗・小杯・皿・大皿・大鉢・鍋・壺・瓶・小壺・急須・酒器・蓋・火炉・香炉・火取・灯明具などが確認されている。ここでは各器種の分類概念を記し、詳細は第29表に譲る。

碗（第39図）

I類—高台から逆「ハ」の字形に立ち上がる直口口縁でフィガキー。灰釉単掛け（I-a）と鉄釉単掛け（I-b）に分かれ、aは無文（1）でbは内底に白釉で文様を施す（2）。II類—腰部が丸みを持ち口縁部が外反するもので、高台脇に挟りを入れる。施釉方法はフィガキー（II-a）と内底蛇の目釉剥ぎ（II-b）がある。aは黒釉単掛けで内面及び内底に黒釉で文様を施す（3、4）。bは鉄釉及び錆釉単掛けで無文のもの（5、6）、鉄釉と灰釉の掛け分けで内面及び内底に鉄釉で文様を施すもの（7、8）がある。III類—IIとほぼ同様の器形だが外反口縁がより強調される。高台脇の挟りは不明瞭。白釉単掛けで内底蛇の目釉剥ぎ。無文のもの（9、10）と呉須や鉛釉などで文様を施すもの（11～17）がある。17は灰釉と鉄釉の掛け分けで外面に呉須で文様を施す。18は直口口縁だがIII類の範疇に含まれるもので、白釉単掛けで鉄釉で文様を施す。19は鉄釉と白釉を交互に施すもので、内底露胎部に白土を塗布する。IV類—基本的な器形はIIIに似るが、外面に六角形の面取りが施される。白釉単掛けで内底蛇の目釉剥ぎ。内面に呉須で文様を施す（20）。

小碗（第40図1～18）

I類—腰部が丸みを持ち口縁部が外反するもので内底蛇の目釉剥ぎを施す。鉄釉（または錆釉）と灰釉（または白釉）の掛け分け（I-a）と白釉単掛け（I-b）がある。aは1、2とも無文。bは無文のもの（3）、鉄絵や呉須で文様を施すもの（4～7）がある。II類—基本的な器形はI類に似るが、外面に六角形と五角形の面取りを二段で巡らせるもの。白釉単掛けで畳付のみ露胎。無文（8）。III類—腰部から内湾気味に立ち上がる器形で、いわゆる丸碗と称されるもの。施釉方法は総釉後内底蛇の目釉剥ぎのもの（III-a）と畳付のみ露胎のもの（III-b）がある。aは無文のもの（9、10）、呉須や鉛釉で文様を施すもの（11、12）があり、いずれも白釉単掛けである。bは白釉単掛け（13、14）、透明釉単掛け（15、16）、錆釉と白釉の掛け分け（17）がある。14は外面に線彫り、16は外面に白土象嵌でそれぞれ文様を施す。IV類—全形は不明だが腰部に稜を有するもの。透明釉単掛けで畳付のみ露胎。無文（18）。

小杯（第40図19～22）

I類—外反口縁を呈するもの。鉄釉単掛けのもの（I-a）と透明釉単掛けのもの（I-b）があり、いずれも外面腰部以下は露胎。aは外底に鉄釉で文様を施す（19）。bは無文（20）。II類—器形はI類に似るが高台を削り出さず、底部が碁笥底状を呈するもの。透明釉単掛けで外底面のみ露胎。無文（21）。III類—口縁部が内湾するもの。鉄釉単掛けで文様の有無は不明（22）。

皿（第41図1～9）

I類—高台から逆「ハ」の字形に立ち上がる直口口縁の皿。灰釉単掛けでフィガキー。内底に灰釉を塗布する（1、2）。II類—内湾口縁を呈するもの。口唇部は平坦なもの（II-a）と稜花状のもの（II-b）がある。aは灰釉単掛けで畳付のみ露胎の無文のもの（3）と、白釉単掛けで内底蛇の目釉剥ぎ、内面に呉須で文様を施すもの（4）がある。bは白釉単掛けで内底蛇の目釉剥ぎ、内面に呉須で文様を施すもの（5、6）と、無文のもの（7、8）がある。III類—器形はII類に似るが、内面口縁部に段差を設けて蓋受部（？）を持つ小皿である。灰釉単掛けで内面口縁部から外面まで露胎。無文（9）。

大皿（第41図11～14）

I類—腰部が丸みを持ち口縁部が内湾するもので内底蛇の目釉剥ぎを施す。白釉単掛けのもの（I-a）と透明釉単掛けのもの（I-b）がある。aは内面に呉須で文様を施す（11）。bは無文（12）。II類—腰部から逆「ハ」の字形に立ち上がり、口縁端部を断面三角形に肥厚するもので、施釉方法はいずれもフィガキー。鉄釉単

第29表 沖縄産施釉陶器観察一覧

単位：cm

図番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地	
第39図・図版28	碗	I-a	口～底	13.3	5.6	6.4	畳付にアルミナが一部付着。	表土・攪乱	
		I-b	底部	—	—	6.4	内底に白土で丸文を施す。外面に石灰が付着。	表土・攪乱	
		II-a	口～底	12.4	5.9	6.1	内底に鉄釉で丸文を施す（蛇の目を意識?）。内底にアルミナ一部溶着。畳付にアルミナ塗布。	L-21 瓦溜りC	
				12.1	6.5	6.0	内底に鉄釉で丸文を施す（蛇の目を意識?）。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱	
		II-b	口～底	13.4	6.4	6.5	畳付にアルミナを塗布。	F-20基壇攪乱+J-26溝状遺構C	
				12.1	6.2	5.9	内底にアルミナ一部溶着。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱	
				13.6	6.8	6.6	内面に鉄釉で圏線、内底に鉄釉で丸文を施す。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱+基壇	
				13.4	6.8	6.8	内面に鉄釉で圏線、内底に鉄釉で丸文を施す。内底にアルミナ一部溶着。	F-20・21基壇攪乱	
		III	口～底	12.2	5.4	5.9	畳付にアルミナを塗布。外底面の白土の塗布は不徹底。	表土・攪乱	
				14.6	—	—	外面にヘラ状工具による調整跡が残る。	表土・攪乱	
			口～底	13.9	6.5	6.0	外面に呉須で菊花文を施す。内底にアルミナが溶着。畳付にアルミナを塗布。	東西基壇トレンチ	
				13.6	6.4	6.1	両面に呉須で巴文を3個施す（内面の文様は不明瞭）。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱	
			口～底	12.8	6.6	5.8	外面に呉須で菊花唐草文を施す。内面も呉須で文様を施すが不明瞭。畳付にアルミナ塗布。	表土・攪乱	
				12.8	—	—	外面に呉須で区画文、花文、内面に呉須で圏線、二重圏線を施す（清朝磁器を意識）。	表土・攪乱	
			底部	—	—	6.4	外面に呉須で花文、蓮弁文、圏線、内底に呉須で二重圏線を施す（清朝磁器を意識）。	表土・攪乱	
			口縁部	—	—	—	外面に線彫りと呉須で家紋?を施す。	H-26 北側4層	
			底部	—	—	6.6	外面に呉須で巴文を3個施す。内底にアルミナが溶着。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱	
			口～底	13.1	6.6	5.4	外面に鉄釉で蓮文と斜格子文を3個ずつ、内面に鉄釉で圏線を施す。内底にアルミナ溶着。	不明	
		底部	—	—	5.4	内底露胎部に白土を塗布。畳付にアルミナを塗布。	不明		
		IV	底部	—	—	6.8	外面に呉須で山水文?を施す。内面に呉須で縦位の条線文を施す。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱	
第40図・図版29	小碗	I-a	口～底	8.2	4.1	3.8	両面口縁部に釉垂れあり。畳付にアルミナを塗布。	I-20 畦(南側)	
				9.2	4.3	3.6	畳付にアルミナを塗布。	基壇トレンチ(東西)	
		I-b	口縁部	9.0	—	—	内底にアルミナ溶着。	表土・攪乱	
				8.8	4.4	3.4	外面に鉄絵で葉文を施す。内底に器物が一部溶着。畳付にアルミナを塗布。	F-21 基壇	
				8.6	4.5	3.4	外面に呉須で菊花唐草文、内面及び内底に呉須で雷文帯、二重圏線を施す。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱	
				7.8	—	—	外面に呉須で唐草文?を施す。両面とも透明釉は剥落している。	表土・攪乱	
				4.4	4.4	3.3	外面に呉須で菊花唐草文、内面に呉須で草文?を施す。内底にアルミナ溶着。畳付にアルミナ塗布。	表土・攪乱	
		II	口～底	7.6	4.5	3.6	畳付にアルミナを塗布。外底面の白土の塗布は不徹底。	I-28 南側3層	
		III-a	口～底	7.8	4.3	3.9	内底にアルミナ一部溶着。畳付にアルミナを塗布。	I-28 南側2層	
				8.6	—	—	内面全体に貫入がみられる。	I-28 南側3層	
				9.2	4.6	3.8	外面に釘彫りと鉄釉で唐草文?を施す。口唇部に鉄錆を塗布。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱	
				8.6	4.1	4.0	外面に呉須と鉛釉で印花文を施す。内底にアルミナが溶着。畳付にアルミナを塗布。	I-20 畦(南側)	
		III-b	口～底	9.0	4.3	3.8	畳付にアルミナを塗布（本土産陶器の可能性あり）。	L-20 石列D	
				8.8	4.4	3.8	外面に釘彫りで「院」の銘を施す。畳付にアルミナを塗布。	基壇トレンチ(東西)	
			口～底	9.2	4.5	3.6	畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱	
				—	—	5.2	外面に白土象嵌で葉文?を施す。	基壇トレンチ(東西)	
		口～底	9.0	4.7	3.6	畳付にアルミナを塗布。部分的に石灰が付着。	F-20基壇攪乱+I-16 北側1層		
		IV	底部	—	—	4.0	畳付にアルミナを塗布。本土産陶器の可能性が高い（17c後～18c前）。	表土・攪乱	
		小杯	I-a	底部	—	—	2.6	外底面に鉄釉で丸文を施す。内底に器物片や初殻?が溶着。	J-16 東西畦
					3.4	1.7	1.8	素地は精選され成形も丁寧。	表土・攪乱
			II	底部	—	—	1.4	素地は精選され成形も丁寧。	L-20 北側3層
			III	口縁部	4.8	—	—	小片のため全形は不明。灯明具（ヒョウソク）の可能性もある。	不明

注 「-」：計測不可、+：接合の意

第29表 沖縄産施釉陶器観察一覧

単位：cm

図番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地	
第41図・図版30	Ⅲ	I	口縁部	—	—	—	口唇部の釉は剥落。外面に鉄斑?が見られる。	表土・攪乱	
			底部	—	—	6.4	内底に灰釉を円形に塗布。畳付に砂粒が付着。	不明	
		Ⅱ-a	口~底	12.4	4.6	4.1	全体的に釉の発色は不明瞭(白色に濁る)。	F-20基壇攪乱	
			口縁部	15.2	—	—	内面に呉須で菊花文を施す。	表土・攪乱	
		Ⅱ-b	底部	—	—	—	5.2	内面に呉須で花卉文、内底に圏線、丸文を施す。内底にアルミナ溶着。畳付にアルミナを塗布。	不明
				—	—	—	7.2	内面に呉須で花卉文、内底に印花文を施す。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱
				—	—	—	9.6	内底にアルミナ溶着。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱
				—	—	—	6.0	内底にアルミナ溶着。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱
		Ⅲ	口縁部	9.2	—	—	内面に段差(蓋受部?)を持つ。蓋の可能性もある。	不明	
	10	灯明具		口~底	11.9	2.5	4.9	内底にアルミナ溶着。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱
	大Ⅲ	Ⅰ-a	口~底	—	19.4	5.5	9.0	内面に呉須で蘭文?を3個施す。内底にアルミナ溶着。畳付にアルミナを塗布。	F-20・22基壇攪乱
				—	15.6	6.0	7.0	外面腰部に削り痕?が見られる。内底露胎部に白土を塗布。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱
		Ⅱ-a	—	20.5	6.4	9.8	内底に鉄釉で丸文を施す。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱	
		Ⅱ-b	底部	—	—	10.4	外面腰部に釉垂れが見られる。内底にアルミナ?が一部溶着。外底に器物片?が溶着。	表土・攪乱	
	大鉢	Ⅰ	口~底	—	25.2	11.4	13.1	内底にアルミナ溶着。畳付にアルミナを塗布。外面腰部に石灰が一部付着。	F-20基壇攪乱
				—	19.6	—	—	内面に鉛釉で花文(九曜文?)を施す。	表土・攪乱
		Ⅱ-a	口~底	28.0	12.5	10.0	内底にアルミナ溶着。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱	
		Ⅲ	口縁部	24.4	—	—	内面に鉄釉で圏線を2条施す。内面の釉の発色は不明瞭(白色に濁る)。	表土・攪乱	
第42図・図版31	鍋	—	口縁部	18.0	—	—	口唇部に紐状の横耳を貼付する(1対)。外面腰部に鉄釉が一部付着。	表土・攪乱	
			口縁部	13.2	—	—	内面の釉下に鉄斑?がみられる。	表土・攪乱	
		—	底部	—	—	15.8	外面に飛鉋・圏線を施した後、凹部に白土で象嵌する。内底に砂粒?が付着。	F-20・21基壇攪乱	
	鍋の蓋	—	口~底	16.4	—	—	庇端部の施釉は不徹底。内面に石灰が一部付着。大形急須(アンビン)の蓋の可能性もある。	表土・攪乱	
	壺	—	口~底	—	8.1	—	—	外面肩部に縦耳を貼付(2対)。口唇部は釉剥ぎ後に白土を塗布。	不明
				—	12.0	—	—	外面肩部に縦耳を貼付(2対)。口唇部は釉剥ぎ後に白土を塗布。内面口縁部に器物片が溶着。	表土・攪乱
	瓶	Ⅰ	口~底	—	2.6	12.7	5.8	外底面に糸切り痕がわずかに残る。外面に石灰が部分的に付着。	表土・攪乱+基壇
				—	—	—	4.8	外底面に糸切り痕がわずかに残る。外面にロクロ痕がみられる。成形は7より丁寧。	基壇
		Ⅱ	底部	—	—	—	—	外面に線彫りと呉須で梅樹文を施す。内面にロクロ痕がみられる。	表土・攪乱
				—	—	—	6.4	外底面の施釉は不徹底。外底面に砂粒?が付着。	表土・攪乱
				—	—	—	6.2	外底面に砂粒?が付着。	表土・攪乱
		Ⅲ	胴部	—	—	—	—	外面頸部に弧状(S字状?)の縦耳を1対貼付。外面に線彫りと呉須で線条文?を施す。	表土・攪乱
				—	—	—	—	外面に鉄釉を流し掛ける(鉄斑?)。	表土・攪乱
			底部	—	—	—	6.1	外面に呉須を流し掛ける。外底面に鉛釉を雑に施釉後、畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱
				—	—	—	9.0	外面に鉛釉を流し掛ける。畳付にアルミナを塗布。	表土・攪乱
		胴部	—	—	—	—	—	いわゆる嘉瓶。外面にロクロ痕がみられる。	不明
			—	—	—	—	—	外面に丸彫りで鐫文を施す。瓶子の胴部?	不明
	小瓶	Ⅰ	胴部	—	—	—	—	外面胴部の屈曲部は釉がわずかに剥げる。	表土・攪乱
				—	—	—	4.2	外底面に糸切り痕が明瞭に残る。外底に砂粒?が付着。	K-19畦
		Ⅱ	底部	—	—	—	5.2	外面に白土象嵌で区画文・花文を施す。成形は19より丁寧。	不明
	小壺	—	口縁部	5.9	—	—	素地は灰白色の微粒子で堅緻。中国産褐釉陶器の可能性もある。	J-18ピット18	
第43図・図版32	急須	Ⅰ-a	口~底	4.3	9.5	5.9	外面に線彫りで二重圏線を二条施す。内面に石灰が一部付着。	F-20・22基壇攪乱	
			口縁部	5.8	—	—	把手の孔に石灰が付着。内面にロクロ痕がみられる。	F-21基壇攪乱	
		Ⅰ-b	胴部	—	—	—	—	内面にロクロ痕がみられる。注口裏に孔を縦に2個?穿つ。	K-24南側3層
			底部	—	—	—	7.4	外底面に成形時の指頭痕がみられる。	表土・攪乱
				—	—	—	7.2	外底面に石灰が付着。	表土・攪乱

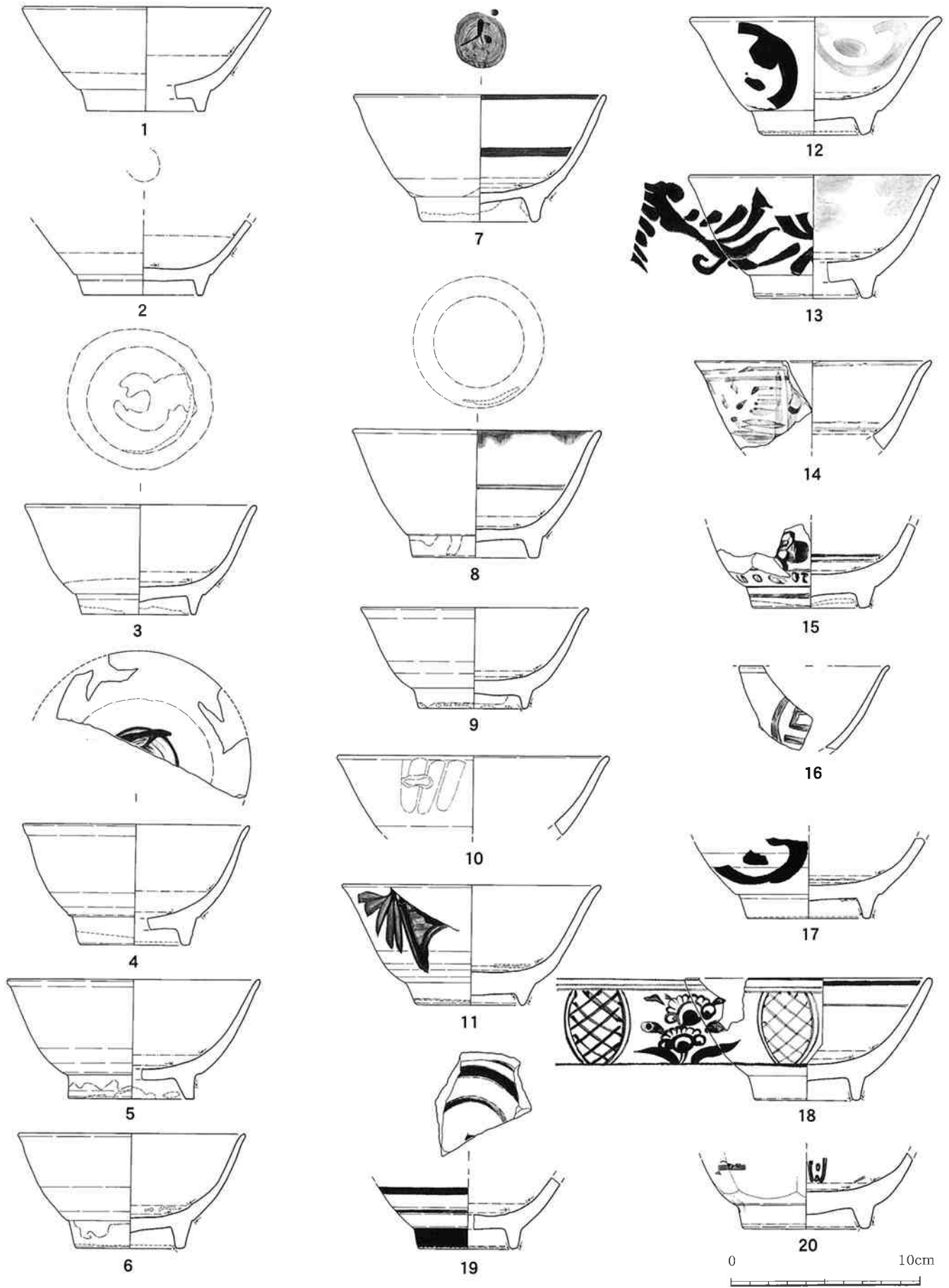
注「-」:計測不可、+:接合の意

第29表 沖縄産施釉陶器観察一覧

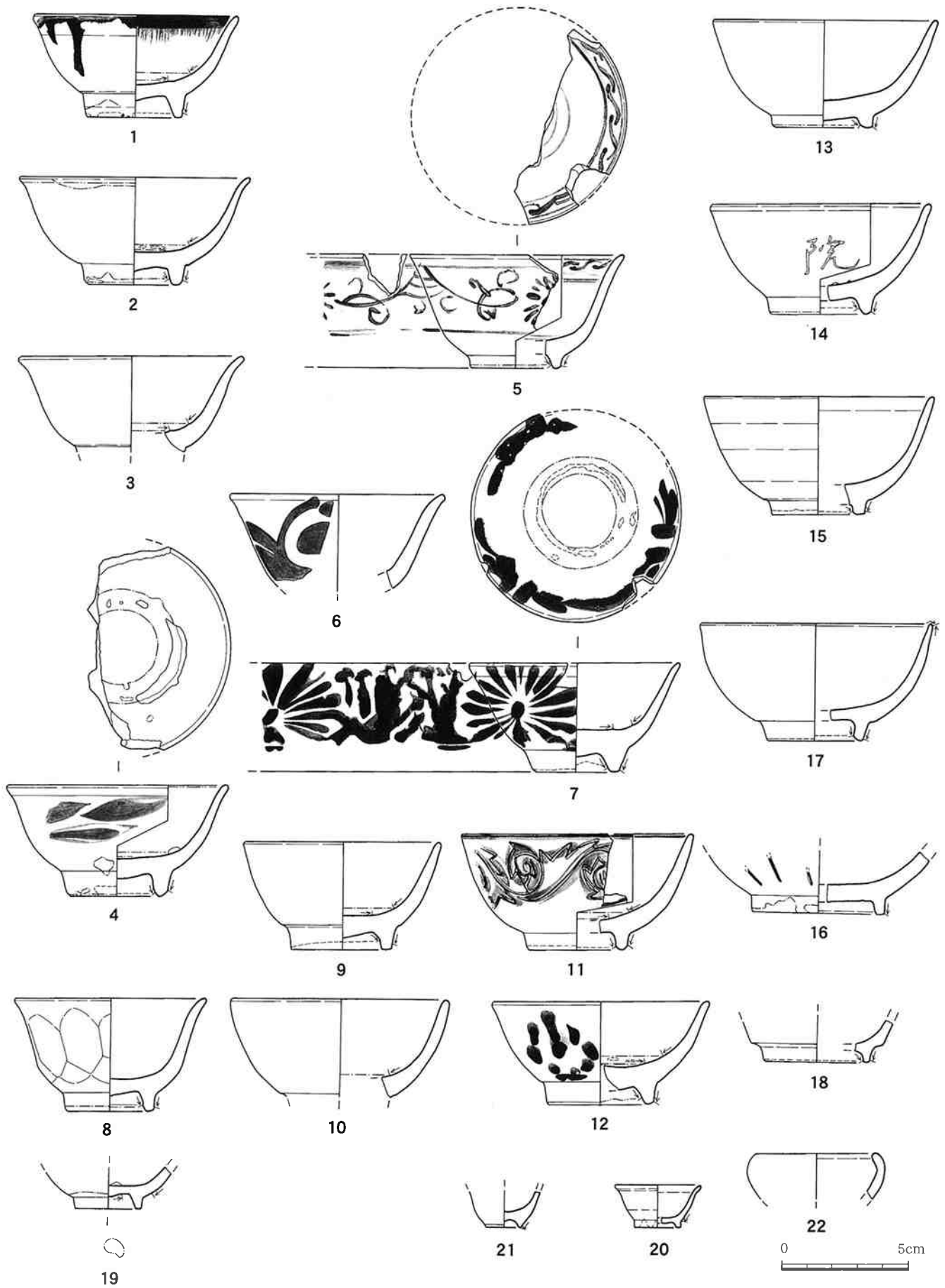
単位：cm

図番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地			
第43図・図版32	急須	I-b	注口	-	-	-	注口裏に約6mmの孔を三角状に3個穿つ。	表土・攪乱			
			口~底	5.0	8.4	7.0	口唇部にアルミナを塗布。注口裏に孔を横に2個穿つ。	表土・攪乱(爆弾穴)+H-24ピット7.8.9			
				6.2	8.4	6.4	外面に線彫りと呉須で煉瓦文?を施す。注口裏に約6mmの孔を縦に2個穿つ。内底に藁灰?が付着。	表土・攪乱			
			口縁部	6.1	-	-	外面に線彫りと呉須で桐文を施す。内面に石灰が付着。内面にロクロ痕がみられる。	F-21基壇攪乱			
				5.0	-	-	外面に呉須で松竹梅文?を施す。内面にロクロ痕がみられる。	H-19ピット1+F-20基壇攪乱			
			口~底	5.0	-	6.3	外面に線彫りと呉須・鉛釉で圏線・丸文・斜格子文を施し、注口と把手に緑釉を流し掛ける。	F-20基壇攪乱			
				5.6	9.6	6.5	外面に型押しと線彫りで花文・圏線・花卉文?を施す。注口裏に約6mmの孔を縦に2個穿つ。	基壇			
			胴部	-	-	-	外面に線彫りで渦文を施す。外面は白化粧を除き釉は剥離している(瑠璃釉?)。	表土・攪乱			
			II	把手	-	-	-	全体的に釉の発色は不明瞭(白色に濁る)。	表土・攪乱		
			III	口縁部	10.6	-	-	内面口縁部に釉剥ぎ時の削り痕がみられる。	表土・攪乱		
				胴部	-	-	-	注口裏に約3cmの孔を1個穿つ。内面にロクロ痕がみられる。	表土・攪乱		
				把手	-	-	-	外面の施釉はやや雑でムラがある。	表土・攪乱		
			酒器	I	胴部	-	-	-	外面に線彫りと呉須・鉛釉で花卉文・圏線・斜格子文を施す。注口に緑釉を流し掛けるが剥離が著しい。	表土・攪乱	
					II-a	胴部	-	-	-	外面に線彫りで「落成 クラブ」の銘を施す(他は判読不可)。	K-16畦
					II-b	底部	-	-	7.2	外面に線彫りと呉須・鉛釉で花卉文を施す。注口に緑釉を流し掛ける。	表土・攪乱(爆弾穴)
						底部	-	-	9.2	内面にロクロ痕がみられる。	不明
			第44図・図版33	蓋	I-b	口~底	8.2	3.5	5.9	庇端部に陰圏線を巡らす。撮基部に約3mmの孔を1個穿つ。	表土・攪乱
8.1	2.8	6.3					撮基部に約4mmの孔を1個穿つ。	表土・攪乱			
I-c	口~底	5.7			3.2	3.8	撮基部に約5mmの孔を1個穿つ。庇上面に器物の溶着痕がみられる(急須の蓋の一部?)。	I-20畦			
		5.5			-	3.9	外面に線彫りと呉須で飛鳥文?を施す。撮基部に約5mmの孔を1個穿つ。	L-20造成層			
	5.5	-			4.4	外面に線彫りと呉須で文様(笹と梅花)を施す。撮基部に約5mmの孔を1個穿つ。	表土・攪乱				
	口縁部	6.8			-	-	外面に線彫りと呉須・鉛釉で花卉文を施す。撮基部に約6mmの孔を1個穿つ。第43図11の蓋である。	表土・攪乱			
口~底	6.4	2.9			4.9	外面に線彫りと呉須で車輪文を施す。撮基部に約4mmの孔を1個穿つ。第43図8の蓋である。	表土・攪乱				
I-d	口~底	5.4			2.8	3.4	庇端部に陰圏線を巡らす。撮基部に約5mmの孔を1個穿つ。	表土・攪乱			
I-a	底部	5.6			-	4.2	外面に黒土象嵌で圏線、鳥文?を施す。全体的に釉の発色は不明瞭(白色に濁る)。	J-27南側1層			
II	口縁部	12.3			-	10.1	滑り止めの畳付部に黒釉が一部付着。	F-22基壇攪乱			
III	口~底	10.5			3.5	6.3	庇上面の露胎部にアルミナが溶着。滑り止めの畳付部にアルミナを塗布。	表土・攪乱			
火炉	-	口縁部	15.8	-	-	内面口縁部に三角形の器物受を貼付。	表土・攪乱				
	-	胴部	-	-	-	外面に獣面(獅子)の外耳を貼付。	表土・攪乱				
香炉	-	口縁部	11.6	-	-	鉄釉の下に白化粧が確認される。	表土・攪乱				
	9.0		-	-	14に比して口唇部の稜が明瞭に確認される。	不明					
火取	I-a	口縁部	12.0	-	-	口唇部に白土を塗布。釉調は鮫肌状を呈する。	表土・攪乱				
		口縁部	12.4	-	-	内面口縁部に三角形の器物受を貼付。口唇部にアルミナを塗布。	表土・攪乱				
	I-b	口~底	14.4	-	-	内面にわずかに石灰が付着。	表土・攪乱				
			10.6	8.6	7.0	外面に丸彫りで圏線を2条巡らす。外底に墨書で「天」の銘を施す。	F-20基壇攪乱				
		10.2	8.1	6.8	外面に丸彫りで葉文(蘇鉄?)を施す。外底に墨書で「寺社」の銘を施す。	表土・攪乱					
	底部	-	-	11.8	外面を竹節状に成形。内面にロクロ痕がみられる。	F-21基壇攪乱					
	I-c	口~底	10.6	8.3	6.6	畳付にアルミナを塗布。内底付近に器物片?が溶着。	表土・攪乱				
			10.0	8.0	7.4	外面に緑釉で丸文?を3個施す。	表土・攪乱				
	底?	-	-	12.8	外面に透かし彫りを施す(線彫りと呉須・鉛釉で文様を施すが全形は不明)。内底に目跡?が付着。	不明					
	II	口縁部	11.0	-	-	外面に飛鉋で文様を巡らす。	不明				
		胴部	-	-	-	外面に線彫りで斜格子文を施す。火炉の可能性もある。	I-28南側3層				
灯明具	I	口~底	8.8	2.0	4.4	両面口唇部に煤跡?が付着。内面の透明釉は剥離している。	不明				
		III	底部	-	-	7.3	畳付にアルミナ及び器物片が僅かに付着。内面にロクロ痕がみられる。	表土・攪乱			
不明	-	口~底	1.8	2.9	3.6	内面にロクロ跡がみられる。	表土・攪乱				

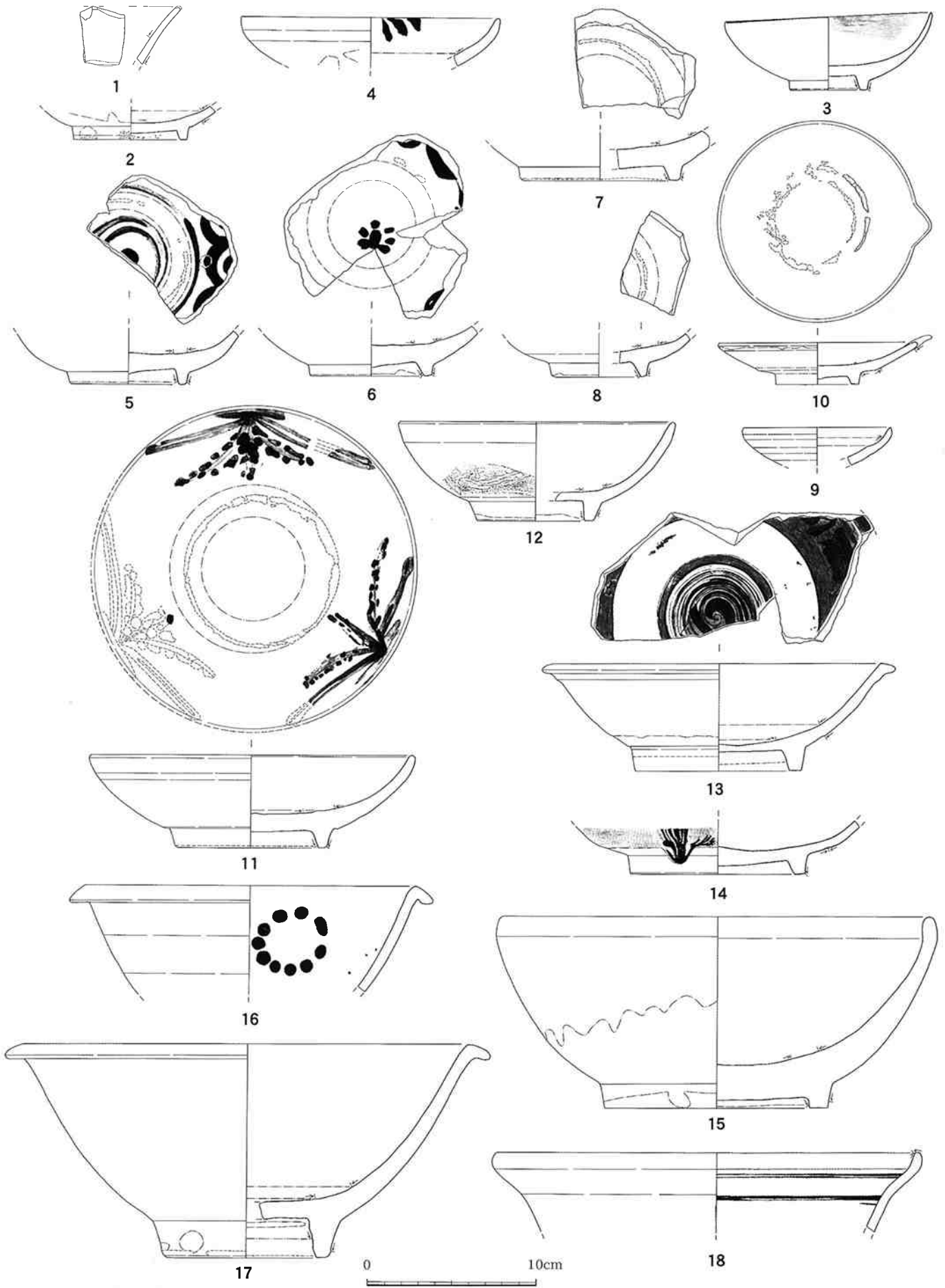
注「-」:計測不可、+:接合の意



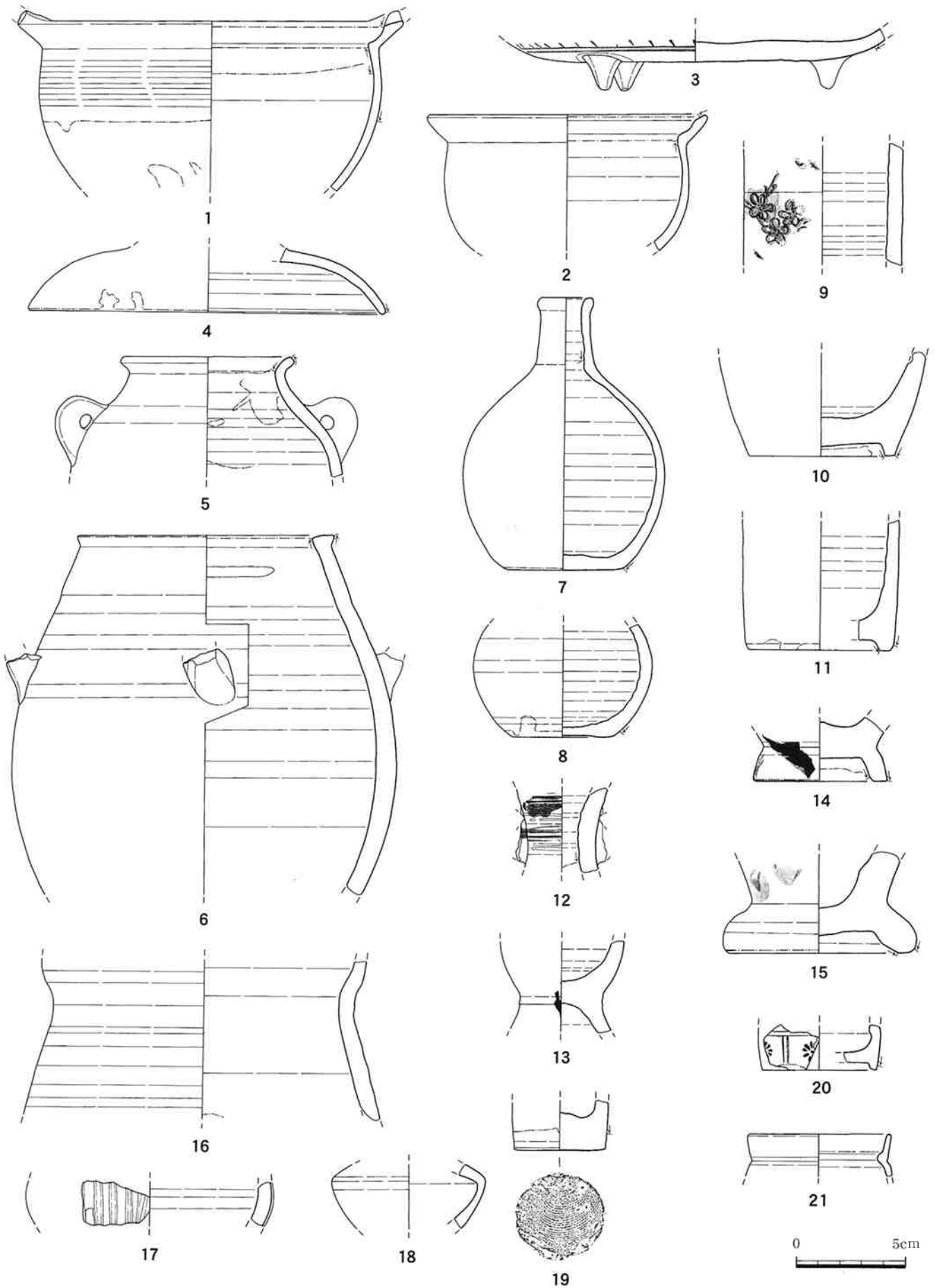
第39図 沖縄産施釉陶器（1）



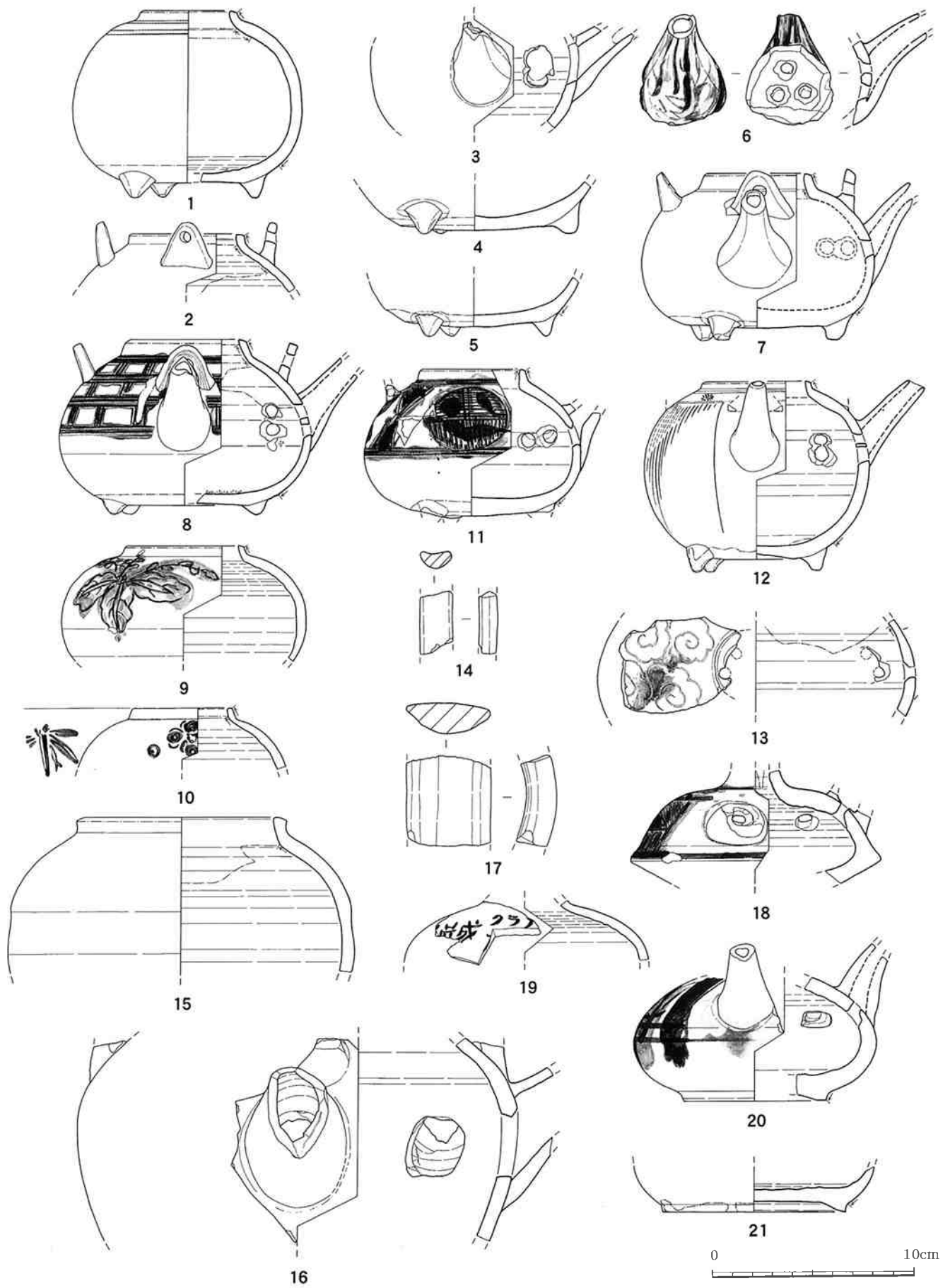
第40図 沖縄産施釉陶器 (2)



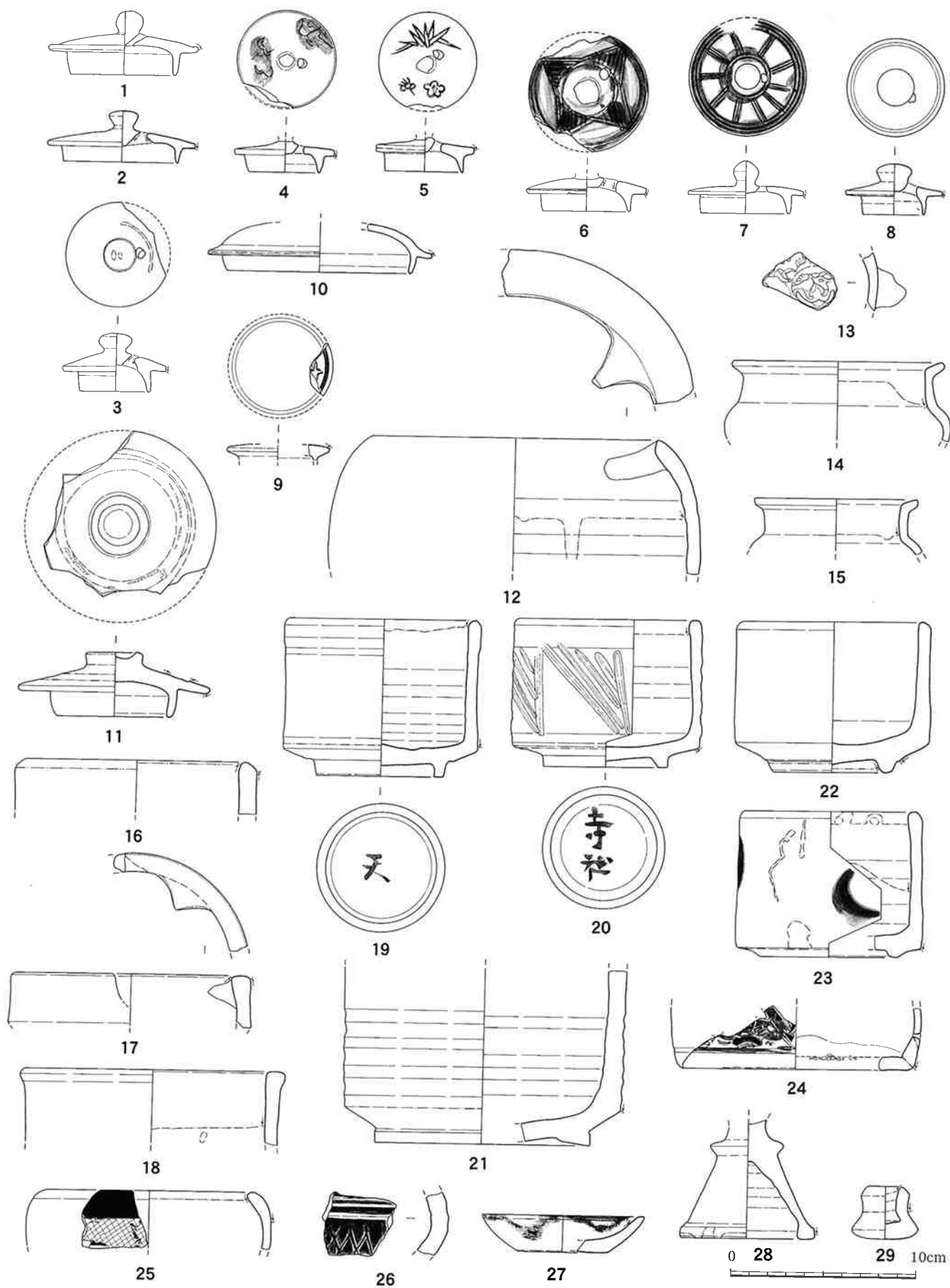
第41図 沖縄産施釉陶器 (3)



第42図 沖縄産施釉陶器 (4)



第43図 沖縄産施釉陶器 (5)



第44図 沖縄産施釉陶器 (6)

第20節 沖縄産無釉陶器

高火度で焼成された焼き締め陶器で、方言で「荒焼（アラヤチ）」とも称される。基本的には無釉であるが、マンガン釉や泥釉などの自然釉が施される例もある。器種は碗・皿・火炉・火取・蓋・急須・瓶・鉢・搦鉢・壺・甕が確認されているが、壺や甕などの貯蔵器が主体を占める。以下に各器種の分類概念を記し、個々の詳細は第30表に譲る。

碗（第45図1～4）

I類—高台削りの浅い厚手の碗で、口縁部は直口するもの（1）と外反するもの（2）がある。1は外底に判？が確認される。3は高台脇に削りを入れる。無文。II類—高台削りがI類に比して丁寧なもの。口縁部の形態及び文様の有無は不明（4）。

皿（第45図5～9）

I類—底部から逆「ハ」の字状に立ち上がる直口口縁の小皿で、底部は高台を持たず平底を呈する。無文（5～8）。II類—器形はI類に似るが胴部に稜を持つもの。無文（9）。

火炉（第45図10、11、27）

I類—平底の底部からほぼ垂直に立ち上がり、肩部で内側に屈曲するもの。外面肩部に方形の把手を1対、外底には円盤状の脚を3つ貼付する。10は両面に泥釉を施釉する。11は両面に灰褐色の釉を施す。いずれも無文と思われる。II類—胴部が球形を呈するもので、底部は高台を持ち「割高台」が施される（27）。

火取（第45図12～14）

平底の底部から垂直に立ち上がる円筒状の器形で、直口口縁を呈するもの（12）、頸部で内側に屈曲するもの（13）、外底に円盤状の脚を貼付するもの（14）がある。14は外底に判？が施される。

蓋（第45図15～19）

I類—底内面をくぼませ撮みを形成するもの。小形のもの（15）と大形のもの（16）がある。いずれも無文。II類—皿形の器を伏せた形を呈するもの。底端部の形態は不明（17）。III類—底上面をドーム状に傾斜させるもので、端部を外側に張り出す。撮みの形態及び文様の有無は不明（18）。IV類—底が「ハ」の字状に傾斜するもので、滑り止めを持たない。無文（19）。

急須（第45図20）

器形が球形を呈するもので、胴部に円錐状の注口を設ける。口縁部及び底部の形態は不明。無文。

瓶（第45図21～26）

I類—胴部が砲弾形を呈する大形の徳利で、口縁部が舌状のもの（21）と方形のもの（22）がある。II類—方言で「チュワカサー」または「ヒラチビ」と称されるもの。外面に黒褐色の釉を施釉する（23）。III類—口縁をほぼ垂直に立ち上げる長頸の瓶（24、25）。26はIII類の底部で、削り出しの浅い高台を有する。

鉢（第46図1～10）

I類—口縁部が内湾する平底の鉢で、「ミジクブサー」とも称される。口縁部の形態により、頸部がすぼまるもの（I-a）、口縁部が断面三角形に肥厚するもの（I-b）、口縁部が舌状のもの（I-c）に分かれる。aは両面に泥釉を施釉するもので無文（1）。bは両面に泥釉を施釉するもので、外面に櫛描きで文様を施す（2）。cは外面に櫛描きで文様を施すもの（3）と、無文のもの（4、10）がある。5はI-cの範疇に含まれるもので、口唇部をくぼませ蓋受部を設ける。無文。II類—口縁部を外側に折り曲げ鏝縁状を呈するもの。外面に赤色顔料を塗布する（6）。III類—平底の底部からほぼ垂直に立ち上がる桶形のもの。口縁部の形態は不明（7、8）。

搦鉢（第46図11～22）

I類—腰部から逆「ハ」の字状に開く器形で、口縁部直下に抉りを入れ稜を形成するもの。搦目は内面全体に施され、口縁部のみ搦目がナデ消される（11～14）。底部は平底を主とするが、高台を持つもの（15～17）もある。II類—口縁部を外側に折り曲げ鏝縁状を呈するもの。搦目は内面全体に密に施され、口縁部のみ搦目がナデ消される。底部は平底で高台を持たない（18～22）。

壺（第47図）

I類—卵形の胴部から頸部を垂直に立ち上げるもので、口縁部を外側に折り曲げ鏝縁状を呈する（1～4）。他に口縁部を方形に成形するもの（5）や、鏝上面をくぼませるもの（6）もあるが、いずれもI類の範疇に含まれる。II類—胴部が砲弾形を呈する玉縁口縁の壺で、肩部に紐状の横耳を貼付する。外面に泥釉を施釉するも

の(7~9)と、褐灰色の釉を施釉するもの(10)がある。Ⅲ類-肩部を強く張り頸部を垂直に立ち上げるもので、外面に圈線を巡らせる。口縁部の形態は不明(11)。

甕(第48図)

I類-口縁部を外側に折り曲げ鋸縁状を呈するもので、肩部に最大径を持ち頸部がすぼまるもの(I-a)と、底部からほぼ垂直に立ち上がるもの(I-b)がある。aは外面に櫛描きで文様を施す(1)。bは外面に櫛描きで文様を施すもの(2)、外面に圈線を巡らせるもの(3、5)、無文のもの(4)がある。Ⅱ類-口縁部が断面方形状を呈するもので、肩部に最大径を持ち頸部がすぼまるもの(Ⅱ-a)と、底部からほぼ垂直に立ち上がるもの(Ⅱ-b)がある。aは外面に圈線を巡らせる(6)。bは貼り付けで文様を施すもの(7、9)、櫛描きで文様を施すもの(8)がある。

<参考文献>

『沖縄のやきもの-南海からの香り-』 佐賀県立九州陶磁文化館 1998
 『九州陶磁の編年-九州近世陶磁学会10周年記念-』 九州近世陶磁学会 2000
 盛本勲・比嘉優子・城間肇 他「首里城跡-管理用道路地区発掘調査報告書-」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第1集 沖縄県立埋蔵文化財センター 2001.3
 島袋洋・島袋春美・當銘清乃 他「天界寺跡(I)-首里杜館地下駐車場入り口新設工事に伴う緊急発掘調査-」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第2集 沖縄県立埋蔵文化財センター 2001.3
 島袋洋・西銘章・城間肇 他「首里城跡-下之御庭跡・用物座跡・瑞泉門跡・漏刻門跡・廣福門跡・木曳門跡発掘調査報告書-」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第3集 沖縄県立埋蔵文化財センター 2001.3

第30表 沖縄産無釉陶器観察一覧

単位: cm

図番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地		
第45図 図版34	碗	I類	口~底	13.0	5.8	5.2	素地は橙色粒子。外底に「-?」の判。外面回転擦痕。	K-22北側3層+ I-25ピット5		
			口縁部	13.5	-	-	素地は灰褐色粒子で堅緻。両面轆轤痕。	H-26南側3層		
			底部	-	-	6.7	素地は鈍橙色粒子。外面口クロ痕と回転擦痕。	攪乱(爆弾穴)		
		Ⅲ	II類	底部	-	-	6.8	素地は赤灰色粒子で堅緻。両面口クロ痕。	I-28南側3層	
	I類			口~底	9.0	2.6	2.8	素地は灰色粒子で器色は鈍橙色。内面は被熱して灰褐色に変色。内面に石灰?が付着。外面回転擦痕。	K-19瓦・隣溜り +I-22方形遺構	
					10.0	2.9	3.9	素地は明赤褐色粒子。口唇部に煤?が付着。両面口クロ痕。	F-21トレンチ 表土・攪乱	
			9.2		2.4	5.7	素地は灰色粒子。底部は上げ底。両面口クロ痕で外面腰部に回転擦痕。	K-22瓦溜り		
	火取		II類	口~底	10.0	3.0	6.0	素地は橙色粒子。外面回転擦痕で外底の成形は雑。	L-28表土(攪乱層)	
				I類	口~底	11.2	16.1	12.2	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。器色は一部赤灰色。外面口クロ痕と回転擦痕、内面口クロ痕。	L・M-20瓦溜りC
					把手	-	-	-	素地は赤褐色粒子。内面口クロ痕。把手の孔は直径約1cmで、把手直下に約3mmの孔を穿つ。	K・L-16北側1層
			火取	-	口縁部	12.6	-	-	素地は鈍赤褐色粒子。内面口クロ痕。	L-21石垣B(攪乱)
				-	口~底	11.0	9.1	11.0	素地は明赤褐色粒子。外面肩部に稜を有する。内面口クロ痕。	攪乱(爆弾穴)
		-		底部	-	-	9.4	素地は灰色粒子で器色は鈍橙色。内面口クロ痕。外底に判?	攪乱(爆弾穴)	
	蓋	I類	撮み	-	-	-	素地は橙色粒子で石灰粒混入。撮み中央に直径約5mmの孔を穿つ。	I-26南側2層		
			撮み	-	-	-	素地は赤褐色粒子。内面口クロ痕。外面に暗赤褐色の釉を施釉。	F-20基壇(攪乱)		
		II類	撮み	10.9	-	-	素地は赤褐色粒子で堅緻。外面に圈線。外面に目跡?が付着。	不明		
		III類	庇	14.8	-	-	素地は赤褐色粒子。外面は灰褐色に変色。両面口クロ痕。	M-21瓦溜りC		
		IV類	庇	-	-	15.0	素地は鈍赤褐色粒子。庇端部は灰赤色に変色。両面口クロ痕。	攪乱(爆弾穴)		
	急須	-	注口	-	-	-	素地は鈍赤褐色粒子。注口の孔は直径約5mmを測る。内面口クロ痕。	I・J-24南側1層		
	瓶	I類	口縁部	6.0	-	-	素地は鈍赤褐色粒子。外面に圈線。両面口クロ痕。	攪乱(爆弾穴)		
				9.6	-	-	素地は鈍赤褐色粒子で器色は灰赤色。外面に圈線。内面口クロ痕。	I-24南側1層		
		II類	底部	-	-	12.0	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。両面に口クロ痕。内面に石灰?が付着。	F-21表土・攪乱		
			口縁部	3.1	-	-	素地は明褐灰色粒子で器色は鈍赤褐色。口縁部は玉縁状を呈する。両面口クロ痕。	M-22・23表土 (攪乱層)		
			胴部	-	-	-	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。両面口クロ痕。	攪乱(爆弾穴)		
		III類	底部	-	-	9.6	素地は橙色粒子。高台切りは浅い。両面口クロ痕。	L-24南側3層		
			底部	-	-	8.6	素地は明赤褐色粒子。外面に圈線。外底中央に約2cmの孔を穿つ。両面口クロ痕。	攪乱(爆弾穴)		

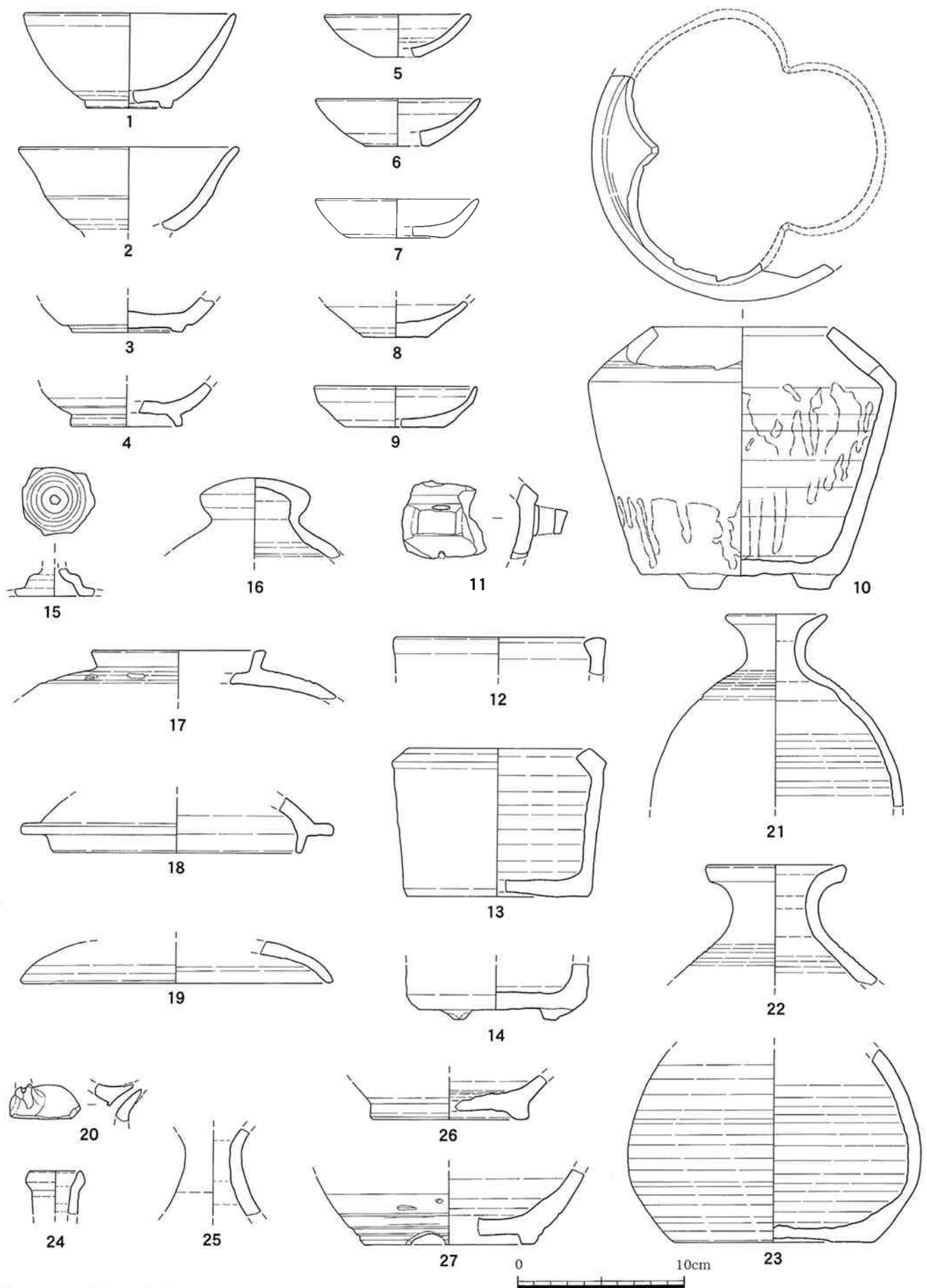
注 「-」:計測不可、「+」:接合の意

第30表 沖縄産無釉陶器観察一覧

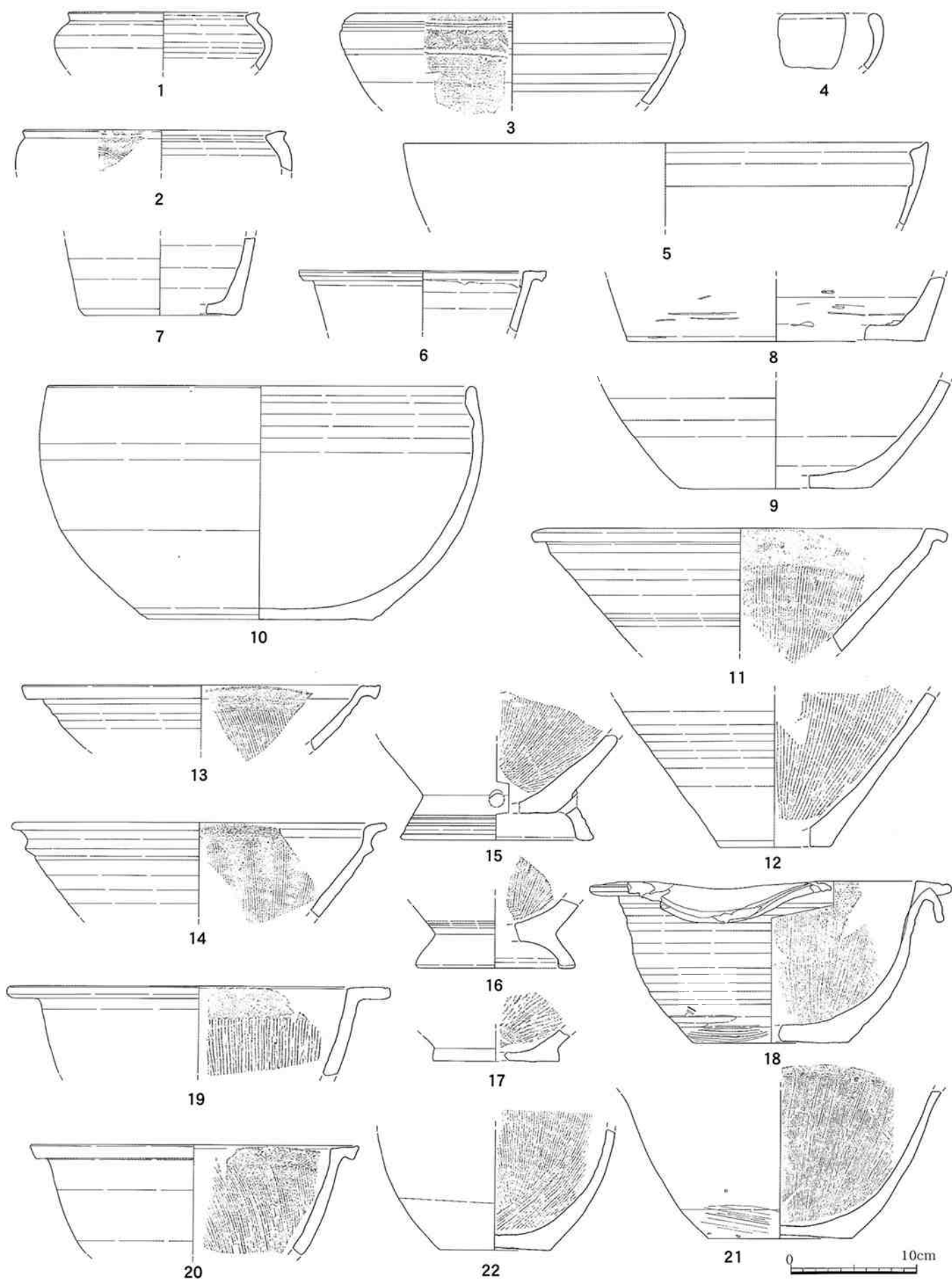
単位: cm

図番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第46図・図版35	鉢	I-a	口縁部	15.4	—	—	素地は灰褐色粒子で堅緻。両面ロクロ痕。	L-16北側1層
		I-b	口縁部	21.1	—	—	素地は鈍赤褐色粒子。外面に6本櫛の波状文。内面ロクロ痕。	攪乱(爆弾穴)
		I-c	口縁部	25.2	—	—	素地は明赤褐色粒子。外面は灰褐色に変色。外面に圏線、櫛描きの波状文。両面ロクロ痕。	攪乱(爆弾穴)
				24.4	—	—	素地は橙色粒子で白色粒混入。外面回転擦痕、内面ロクロ痕。	N-25南側3層
		II類	口縁部	19.9	—	—	素地は橙色粒子で器色は鈍赤褐色。両面ロクロ痕。	K・L-16北側1層
		III類	底部	—	—	12.2	素地は橙色粒子。外面回転擦痕、内面ロクロ痕。	K・L-16北側1層
				—	—	23.8	素地は灰色粒子で器色は鈍赤褐色。外面回転擦痕、内面ロクロ痕。	攪乱(爆弾穴)
		I-c	底部	—	—	15.4	素地は橙色粒子で器色は一部赤灰色。外面ロクロ痕と回転擦痕、内面ロクロ痕。	攪乱(爆弾穴)
			口~底	24.0	18.8	18.0	素地は淡赤褐色粒子。両面ロクロ痕。中国産の褐釉陶器の可能性もある。	H-22方形掘り込み遺構
		挿鉢	I類	口縁部	33.1	—	—	素地は明赤褐色粒子。内面に10本櫛の挿目を右回転で施し、口縁部はナデ消す。両面ロクロ痕。
	—				—	9.0	素地は橙色粒子。内面に7本櫛の挿目を右回転で施す。外面ロクロ痕。	N-24表土
	口縁部			23.5	—	—	素地は橙色粒子。鏝上面に圏線。内面に挿目を密に施し、口縁部はナデ消す。両面ロクロ痕。	F-20基壇攪乱
				29.4	—	—	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。外面に灰赤色の釉を施釉。内面に10本櫛の挿目を施し、口縁部はナデ消す。	I・H-23溝状遺構
	底部			—	—	15.1	素地は橙色粒子。内面は被熱して一部褐灰色に変色。内底に挿目を施す。高台脇に直径約1cmの孔を穿つ。	J-28南側3層
				—	—	12.8	素地は橙色粒子。外面は被熱して一部灰褐色に変色。内底に挿目を施す。両面ロクロ痕。	M-22・23表土(攪乱層)
	II類		口~底	28.7	12.6	12.4	素地は橙色粒子。鏝上面に圏線。内面に挿目を密に施し、口縁部はナデ消す。両面ロクロ痕。	攪乱(爆弾穴)
				30.4	—	—	素地は明赤褐色粒子。鏝上面に圏線。内面に挿目を密に施し、口縁部はナデ消す。両面ロクロ痕。	攪乱(爆弾穴)
			口縁部	26.0	—	—	素地は橙色粒子。口縁部は一部被熱して褐灰色に変色。内面に挿目を右回転で密に施し、口縁部はナデ消す。両面ロクロ痕。	F-20基壇(攪乱)
				—	—	11.4	素地は明赤褐色粒子で器色は一部赤灰色に変色。内面に挿目を右回転で密に施し、口縁部はナデ消す。	F-20基壇(攪乱)
			底部	—	—	9.0	素地は鈍赤褐色粒子。内面に挿目を右回転で密に施す。両面ロクロ痕。	F-22基壇(攪乱)
				—	—	—	—	—
	第47図・図版36	壺	I類	口縁部	12.0	—	—	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。外面は灰褐色を呈する。両面ロクロ痕。
13.2					—	—	素地は鈍赤褐色粒子。内面に石灰が付着。両面ロクロ痕。	F-21基壇
11.8					—	—	素地は鈍赤褐色粒子で器色は灰褐色。両面ロクロ痕。	不明
15.0					—	—	素地は鈍赤褐色粒子。外面に圏線。両面ロクロ痕。	不明
19.6					—	—	素地は灰赤色粒子で灰白色粒混入。両面ロクロ痕。	攪乱(爆弾穴)
25.8					—	—	素地は鈍赤褐色で堅緻。両面に褐灰色の釉を施釉。鏝上面に溶着痕(把手?)。両面ロクロ痕。	不明
II類			口縁部	15.3	—	—	素地は鈍赤褐色粒子で器色は鈍黄褐色。外面に圏線。両面ロクロ痕。器面はアバタ状。	F-22基壇(攪乱)
			口~底	15.0	57.8	21.8	素地は鈍赤褐色粒子で外面は一部褐灰色。外面に圏線。外面ロクロ痕と回転擦痕、内面ロクロ痕。	J-16・17攪乱
			底部	—	—	24.5	素地は橙色粒子で外面は一部灰褐色。外面に圏線。外面回転擦痕、内面ロクロ痕。	H-28南側1層+I-28南側3層
口縁部			27.0	—	—	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻、白色粒混入。両面に褐灰色の釉を施釉。両面ロクロ痕。	不明	
III類			胴部	—	—	—	素地は鈍赤褐色粒子で外面は灰褐色。外面に圏線。外面回転擦痕、内面ロクロ痕。	不明
第48図・図版37	甕	I-a	口縁部	34.3	—	—	素地は明赤褐色粒子で外面は灰褐色。外面に圏線、櫛描きの波状文、丸文貼り付け。両面ロクロ痕。	F-20基壇(攪乱)
				42.8	—	—	素地は明赤褐色粒子で内面は灰赤色。鏝上面に圏線、外面に圏線、櫛描きの波状文。両面ロクロ痕。	F-22基壇(攪乱)
		I-b	口縁部	44.8	—	—	素地は明赤褐色粒子。鏝上面に圏線。外面に圏線。内面ロクロ痕。	不明
				36.5	—	—	素地は橙色粒子で器色は明赤灰色。鏝上面に圏線。両面ロクロ痕。	F-20基壇(攪乱)
				—	—	—	素地は明赤褐色粒子で内面は鈍赤褐色。外面に圏線。両面に石灰が付着。両面ロクロ痕。	M-23表土(攪乱層)
		II-a	口縁部	39.5	—	—	素地は鈍赤褐色粒子で外面は一部灰褐色。外面に圏線。両面ロクロ痕。	攪乱(爆弾穴)
		II-b	口縁部	35.8	—	—	素地は鈍赤褐色粒子で内面は鈍黄褐色。外面に貼り付けで丸文、突帯。両面ロクロ痕。	F-21トレンチ基壇(攪乱)
				46.4	—	—	素地は鈍赤褐色で外面は灰褐色。外面に圏線、櫛描きで波状文。内面ロクロ痕。	不明
		胴部	—	—	—	素地は鈍赤褐色粒子で白色粒混入。外面に貼り付けで突帯。外面回転擦痕、内面ロクロ痕。	F-20基壇(攪乱)	

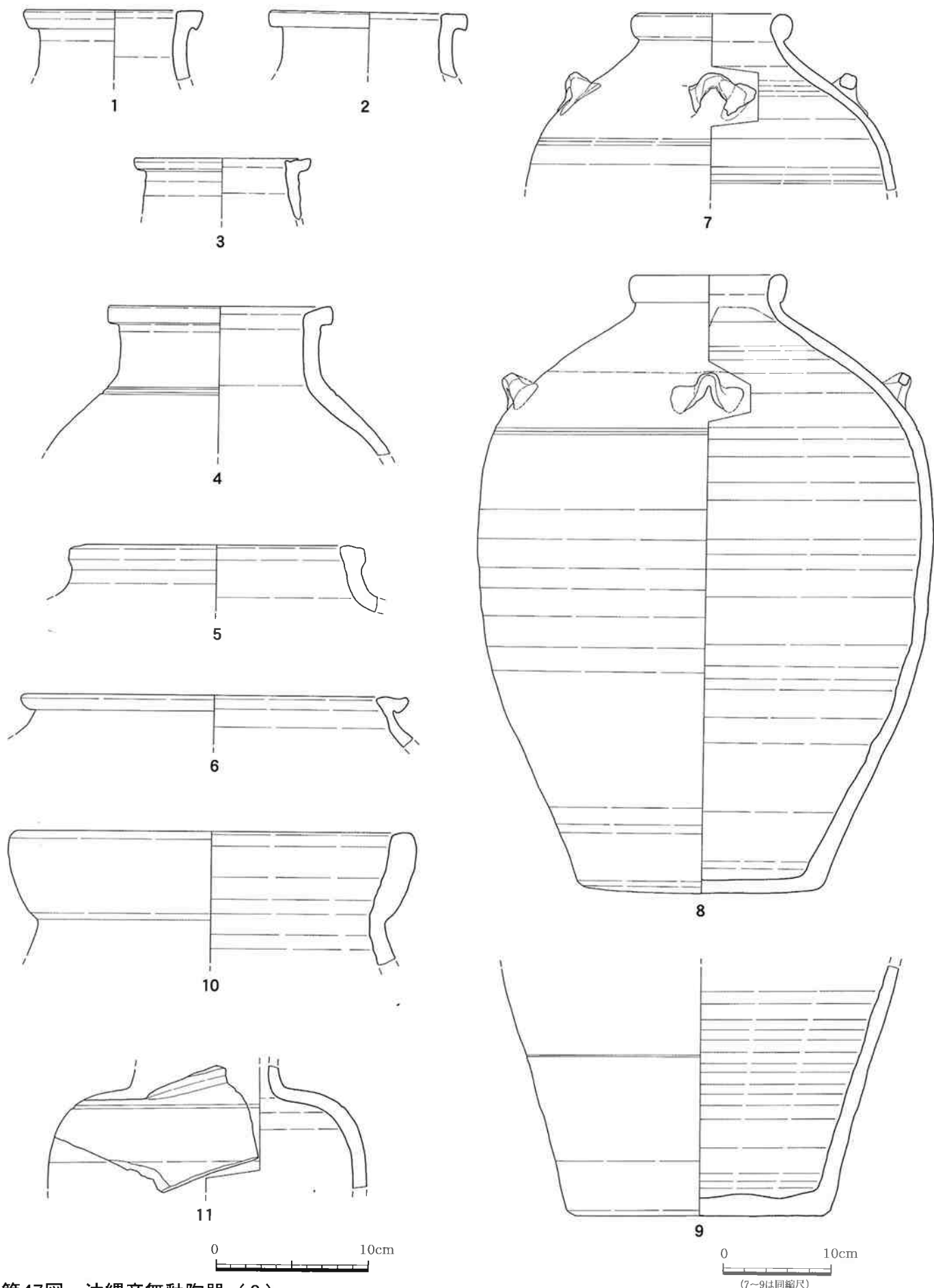
注 「-」:計測不可、「+」:接合の意



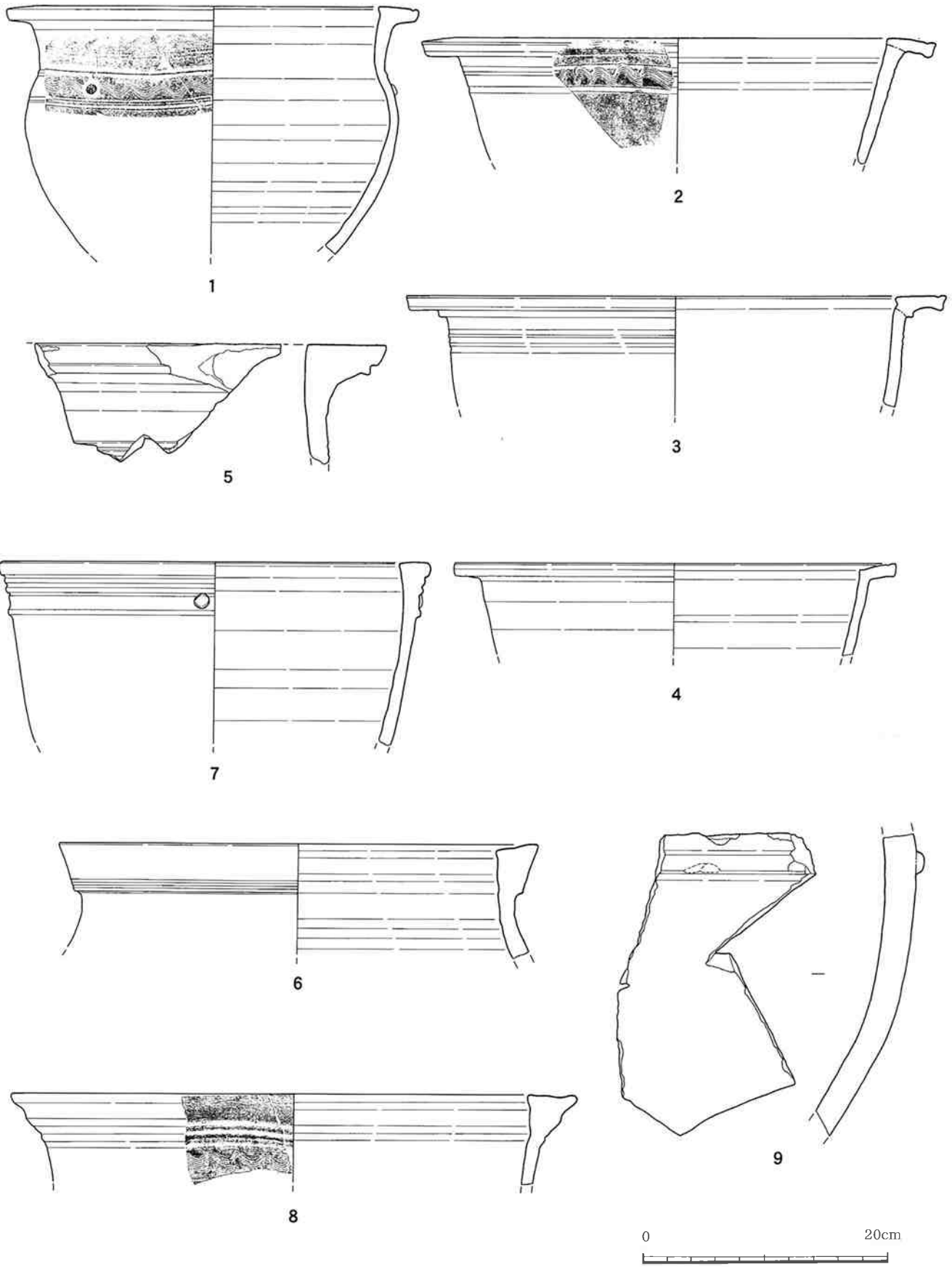
第45図 沖縄産無釉陶器 (1)



第46図 沖縄産無釉陶器 (2)



第47図 沖縄産無釉陶器 (3)



第48図 沖縄産無釉陶器（4）

第21節 陶質土器

ここで扱う陶質土器とは、壺屋で「アカムヌー」^{註1}と呼ばれているものである。アカムヌーは、胎土を精選し、混入物に砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・雲母などがあり、ロクロ引き・輪積みによって成形される。また、高い耐火性を目的とする（二次的に火を受ける）器種が多い為、低い焼成温度で焼かれており、触れると粉末が付着する。今回の調査では鍋・急須・火炉・灯明皿・水鉢・鉢・浅鉢・播鉢・碗・瓶・壺・蓋などが確認できた。これらの器色は橙褐色や黄褐色を主体とし、鍋・火炉・急須・灯明皿のような使用時に火を受ける器種の内外には煤が付着している。各器種の概要は下記に、個々の資料の詳細は第33表の観察一覧に記した。また、細片で器種が明確に特定できないものは不明品として扱った。

鍋 「サークー」^{註1}と呼ばれているもので、胴部は球状に膨らみ、口縁部は外反して蓋受けを作る器形で、口縁付近には紐状の把手が貼付される（第49図1・2）。天界寺跡(I)^{註2}では、羽釜のように胴部に鏝を貼付するもの(Ⅱ類)が出土しているが、今回の調査では確認できなかった。

急須 蓋：頂部に撮みを貼付し、傘部は緩いカーブを描いて端部に至るもの（第49図3）が確認できた。天界寺跡(I)では撮みを付けないタイプ(Ⅱ類)も出土しているが、今回は確認できなかった。

身：天界寺跡(I)の分類でいうⅠ・Ⅱ類が確認できたが、口縁部を外反させて内側に蓋受けを作る器形(Ⅲ類)は、今回確認できなかった。また、参考に破損しているが注口も掲載した(同図8)。

Ⅰ類 口縁部を微弱に立ち上げて短い頸をつくるもの(同図4)で、壺屋古窯群Ⅲ^{註3}で確認された「球状に膨らむ胴部」(同図5)も確認できた。

Ⅱ類 口縁部をほぼ直口に立ち上げ、長い頸をつくるもの(同図6)で、壺屋古窯跡の「算盤珠状の胴部」(同図7)も確認された。

火炉 「フィールー」^{註1}と呼ばれているもので、器体に火窓を設け、物を乗せる目的のために口唇部を幅広く作ったり、口縁部を内側に折り曲げたり、口縁部内側に突起を貼付するなどの工夫を成形に反映させている。

また、胴部は有孔の把手を貼付している。火炉は天界寺跡(I)の分類を元に形態的特徴から、下記の5種類に分類する事ができた(分類は天界寺跡(I)に対応するがⅦ類は今回、追加した資料である)。

Ⅰ類 底部から口縁部へ逆「ハ」の字に外傾するもの(第49図9・10)。

Ⅱ類 底部から胴上半部まで外傾して直線的に至り、口縁部は内側に折れて内傾するもの(同図11・12)。

Ⅲ類 底部から口縁部までほぼ直線的に直口し、筒状になるもの(同図13・14・15)。

Ⅵ類 胴部は球状に膨らみ、口縁部は内傾するもの(第50図1～3)。

Ⅶ類 Ⅵ類の器形の口唇部を幅広く作り、比較的大型のもの(同図4・5)。

灯明皿 第50図6・7は、口縁部から底部へ逆「ハ」の字状に外傾する器形で、低い高台状の底面に明確な糸切り痕を残す。また、口唇部には微弱な突起を貼付しているのも特徴である。

水鉢 胴部は球状に膨らみ、口縁部は内反する器形で、胴上半部に丸彫り圏線と櫛描波状文を組み合わせた文様を施しているのが特徴である(第50図8・9)。

浅鉢 胴部は膨らみ、口縁部は僅かに内反する器形である。用途は不明であるが口径や底径に比べて高さがない事から、今回は浅鉢として扱った(第50図10)。

播鉢 底部から口縁部へやや膨らみを持ちながら外傾して至る器形で、口縁部は外側へ水平に折り曲げている。器体の内面には僅かに播り目が残っている(第50図11)。

碗 第50図12は口縁部が僅かに外反する小型の器で、用途は不明だが、形態的特徴から今回は碗として扱った。

瓶 第50図13は細い径の資料で、全形が窺えないため用途は不明だが、形態的特徴から今回は瓶として扱った。

鉢・壺 第50図14・15は形態的特徴から壺もしくは鉢を考えられる資料であるが、細片の為、詳細は不明である。

蓋 第51図1は、頂部に高台状の撮みを作るもので、内面に比べて外面を丁寧に仕上げている。同図2は、頂部の安定感が無く、皿には適していない。同図1・2ともに天界寺跡(I)の類例から鍋の蓋と考えられる資料である。

第51図3は上面から下面に向けて孔を設けている為、手焙りの蓋と考えられる資料であるが、全形が窺える資料ではない為、詳細は不明である。第51図4は下面より上面を丁寧に調整している資料で、用途は、形態的特徴から今回は被せ蓋として扱った。対応する身は不明である。第51図5は頂部に撮みを付ける落とし蓋で、形態的特徴がタイ産半練土器の蓋と類似している事から模倣品の可能性が考えられる資料である。対応する身は不明である。

第51図6・7は上面を平坦に成形し、かかりをほぼ垂直につくるもので、壺屋古窯群Ⅲでは大型壺の蓋と考えられている資料である。

不明品 第51図8～10は器体に貼付される外耳・把手及びその胴部である。同図11は蓋及び器物の脚と考えられる資料である。同図12・13は高台を有する火炉と考えられる底部で、観察一覧では「底部Ⅰ」とした。

同図14・15はベタ底で底部から胴部までほぼ直口する火炉もしくは鉢と考えられる底部で、観察一覧では「底部Ⅱ」としている。同図16～18は底部から口縁部へ緩やかに膨らみながら外傾して至る火炉もしくは鉢と考えられる底部で、観察一覧では「底部Ⅲ」と表記。同図19・20は円柱に扁平な台を乗せたようなもので、蓋もしくは底になると考えられる。

〈註〉

註1：「沖縄大百科事典上・中巻」沖縄タイムス社 1983年

註2：「天界寺跡（Ⅰ）」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第2集 沖縄県立埋蔵文化財センター 2001年

註3：「壺屋古窯群Ⅲ」『那覇市文化財調査報告書』第38集 那覇市教育委員会 1997年

第32表 陶質土器出土状況

器種・分類	出土地	表土・攪乱	畦	トレンチ	南側				北側				地山直上	基壇	コイラル敷A	方形掘込み遺構	コイラル敷B	石垣C	溝状遺構A	溝状遺構D	溝状石列	瓦溜まりC	遺構	ピット	不明	合計
					1層	2層	3層	4層	1層	2層	3層	4層														
鍋	口縁	25					2						4											7	39	
	胴部	6																					1	2	10	
	耳	3	1							1				2											7	
急須	蓋																							1	1	
	口縁	3				1		1																	1	
	胴部	1																							1	
	注口	1	2			1																			2	
	耳	1																								1
火炉	蓋																								1	
	内反	7											3												4	
	外反	1																							1	
	逆三角	6																							2	
	肥厚	1																							1	
	逆「く」字形	8				1		2																	3	
	その他	口～底	1																							1
		口縁	3				1		1					1												3
		耳												1			1									1
		胴部	15					1	1					1												4
底部	12																						1	3		
灯明皿	口～底	3																							3	
	口縁	11	1		2	1	2						1						1						7	
	胴部	20			3																			3	14	
	底部	5			2																				3	
水鉢	口縁	1																							1	
	口～底	7	1																					1	2	
鉢	内反	7																							3	
	有文	8				1																			3	
	逆L字	5																							2	
	有文	3												1											4	
	口～底	4	1		1																				6	
	その他	27	6	1	1			2		1											4	2	1	16	61	
浅鉢	口縁	18	1			1																		1	4	
	胴部	1																							1	
	底部	1																							1	
挿鉢	口縁	3																							1	
	胴部	1				1																			1	
	底部	1																							1	
壺	口縁																								1	
	頸部																								1	
	口縁	4					1																		1	
蓋	底部																								1	
	口～底	2				1																			1	
	口縁	2			1																				3	
不明	撮み	1																							1	
	口縁	12	1		4		1				1						1	1						1	9	
	耳				1																				1	
	把手				1																				1	
	胴部	172	9		19	8	10	11	4		13	5	1	12	4	1				1	1	16	8	11	55	
不明	脚	1			1																				2	
	底部	23					2		1	1	1	1		3											11	
	不明																								1	
	合計	442	24	1	40	9	26	13	9	1	23	10	2	27	4	2	1	1	2	1	1	25	14	22	173	

第33表 陶質土器観察一覧

単位: cm

図	番号	器種	部位	口径 器高 底径	特徴	成形	調整	器色	混入物	出土地	
第49図・図版38	1	鍋	口	16.4	口唇部:舌状。 口縁部:緩く外反。蓋受け部:端部を掴み上げる。 把手:撫で付け。	ロクロ	外面:磨き 内面:撫で	外面:暗橙褐色 内面:橙褐色 素地:灰褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	不明	
	2			19.8	口唇部:舌状。 口縁部:緩く外反。蓋受け部:緩やかに立ち上がる。 把手:撫で付け。	ロクロ	外面:ロクロ目のみ確認 内面:削り	外面:黄褐色 素地:灰褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	表土・攪乱	
	3	急須蓋	頂~端	8.8(端部) 6.2(高台) 3.5(高さ)	撮み:饅頭形。 上面:丸彫りの圏線を撮みの周りに巡らす。 下面:端部付近に僅かな煤が付着	ロクロ	上面:磨き 下面:磨き、撫で	上面:黄灰色 下面:黄褐色 素地:淡灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	I-15 ビット 15	
	4	急須I類	口	9.2	口唇部:丸い。 頸部:短頸。	ロクロ	外面:磨き、削り 内面:撫で、筥削り	外面:黄褐色 内面:暗灰黄褐色 素地:暗灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	攪乱	
	5	急須I類	注口	—	注口:下面に煤が付着。	ロクロ	外面:撫で、削り、磨き	外面:赤褐色 素地:灰褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	F-20 表土・攪乱	
	6	急須II類	口	7.4	口唇部:丸い。 頸部:長頸。	ロクロ	外面:磨き 内面:撫で、筥削り	外面:黄褐色 内面:暗黄褐色 素地:暗黄褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	M-20 北側3層	
	7			—	外面:胴下半部に多量の煤が付着。 内面:石灰が付着	ロクロ	外面:削り、撫で、磨き	外面:黄褐色 内面:灰黄褐色 素地:橙褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	攪乱	
	8	急須	注口	—	貼付部:撫で痕が残る。	不明	外面:磨き	外面:黄褐色 素地:橙褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	不明	
	9	火炉I類	口	22.3	口唇部:平ら。内外に肥厚する。 口縁部:外傾する。 突起:上面観が台形。撫で付け。	ロクロ 輪積	外面:撫で、磨き 内面:撫で	外面:暗黄褐色 素地:灰黄褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	攪乱	
	10			25.8	口唇部:平ら。内外に肥厚。 口縁部:外傾する。 胎土:他の陶質土器に比べてやや粗い。	ロクロ	外面:磨き、撫で	外面:黄褐色 内面:暗灰褐色 素地:灰褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	不明	
	11	火炉II類	口	15	口唇部:平ら。 把手:上面観が台形。 文様:口縁部に二条の圏線。	ロクロ	外面:撫で、磨き、削り 内面:撫で	外面:黄褐色 内面:暗灰褐色 素地:灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	攪乱	
	12			12	口唇部:平ら。口縁部:内側に折れる。 火窓:半月状。把手:欠損。撫で付け。 文様:口縁部に二条の圏線。胎土:やや粗い。	ロクロ	外面:磨き、撫で、削り 内面:指圧、撫で	外面:暗橙褐色 素地:暗橙褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	不明	
	13	火炉III類	口	19.8	口唇部:平ら。 口縁部:内外に肥厚する。胎土:粗い。 外面:僅かに煤が付着。	ロクロ	両面:撫で	外面:赤褐色 素地:暗赤褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	不明	
	14			胴	—	胴部:やや外傾。 把手:上面観が台形。撫で付け。	ロクロ 輪積	両面:撫で	外面:暗黄褐色 素地:灰黄褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	F-22 表土・攪乱
	15			口	14.4	口唇部:丸い。 口縁部:内外に肥厚。 突起:断面観が鉤状。撫で付け。	ロクロ	外面:撫で、磨き 内面:撫で	外面:暗橙褐色 素地:灰黄褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	基壇
第50図・図版39	1	火炉VI類	口~底	14.4	口唇部:舌状。口縁:内反。底部:高台。火窓:半月状。 突起:上面観断面形。外面:口縁部付近と底部付近に白化粧土の圏線。 内面:口唇内面に煤が付着。	ロクロ	外面:磨き	外面:灰黄褐色 内面:黄褐色 素地:灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	F-21 表土・攪乱	
	2			13.7	口唇部:丸い。口縁部:内反。把手:上面観が丸い。撫で付け。 突起:上面観台形。撫で付け。外面:白化粧土の圏線。 内面:突起に煤が付着。	ロクロ	外面:ロクロ目のみ確認	外面:黄褐色 素地:灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	I-28 南側3層	
	3			15.6	口唇部:尖る。 口縁部:内側に肥厚。やや内傾する。把手:上面観が丸い。撫で付け。 胎土:やや粗い。その他:胴部外面と口唇部内面に煤付着。	輪積 ロクロ	両面:撫で	外面:灰褐色 内面:灰黄褐色 素地:橙褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	I・J-24 南側1層	
	4	火炉VII類	口	23.8	口唇部:尖る。口縁部:内外に肥厚。 突起:上面観台形(欠損している)。撫で付け。 外面:白化粧土の圏線。	ロクロ	外面:磨き 内面:撫で	外面:暗黄褐色 内面:灰黄褐色 素地:灰褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	攪乱	
	5			27.4	口唇部:尖る。 外面:白化粧土の圏線。 胎土:他の陶質土器に比べてやや粗い。	ロクロ	外面:削り 内面:撫で	外面:暗赤褐色 内面:暗灰赤色 素地:暗灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	F-20 表土・攪乱	
	6	灯明皿	口~底	8.3	口唇部:丸い。小さい突起を1つ貼付する。煤が付着。 底部:底面に糸切の痕	ロクロ	両面:撫で	外面:黄灰色 内面:暗赤褐色 素地:灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	不明	
	7			4	底部:底面に糸切の痕。内面に煤が付着。	ロクロ	両面:撫で	外面:黄灰色 内面:灰色 素地:暗灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	F-20 表土・攪乱	
	8	水鉢	口	15.4	口唇部:舌状。 口縁部:内反する。 胴部:輪積みの痕が明確に残る。	ロクロ	外面:削り、磨き 内面:撫で	外面:暗黄褐色 内面:淡黄褐色 素地:灰黄褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	F-22 表土・攪乱	
	9			19	口唇部:丸い。 口縁部:内反する。 文様:櫛描波状文。	ロクロ	外面:削り、磨き 内面:撫で	外面:黄褐色 内面:灰黄色 素地:黄灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	南側3層	
	10	浅鉢	口	32.2	口唇部:平ら。 口縁部:内外に肥厚する。	ロクロ	外面:指圧 内面:撫で	外面:灰黄色 内面:黄褐色 素地:灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	F-20 表土・攪乱	

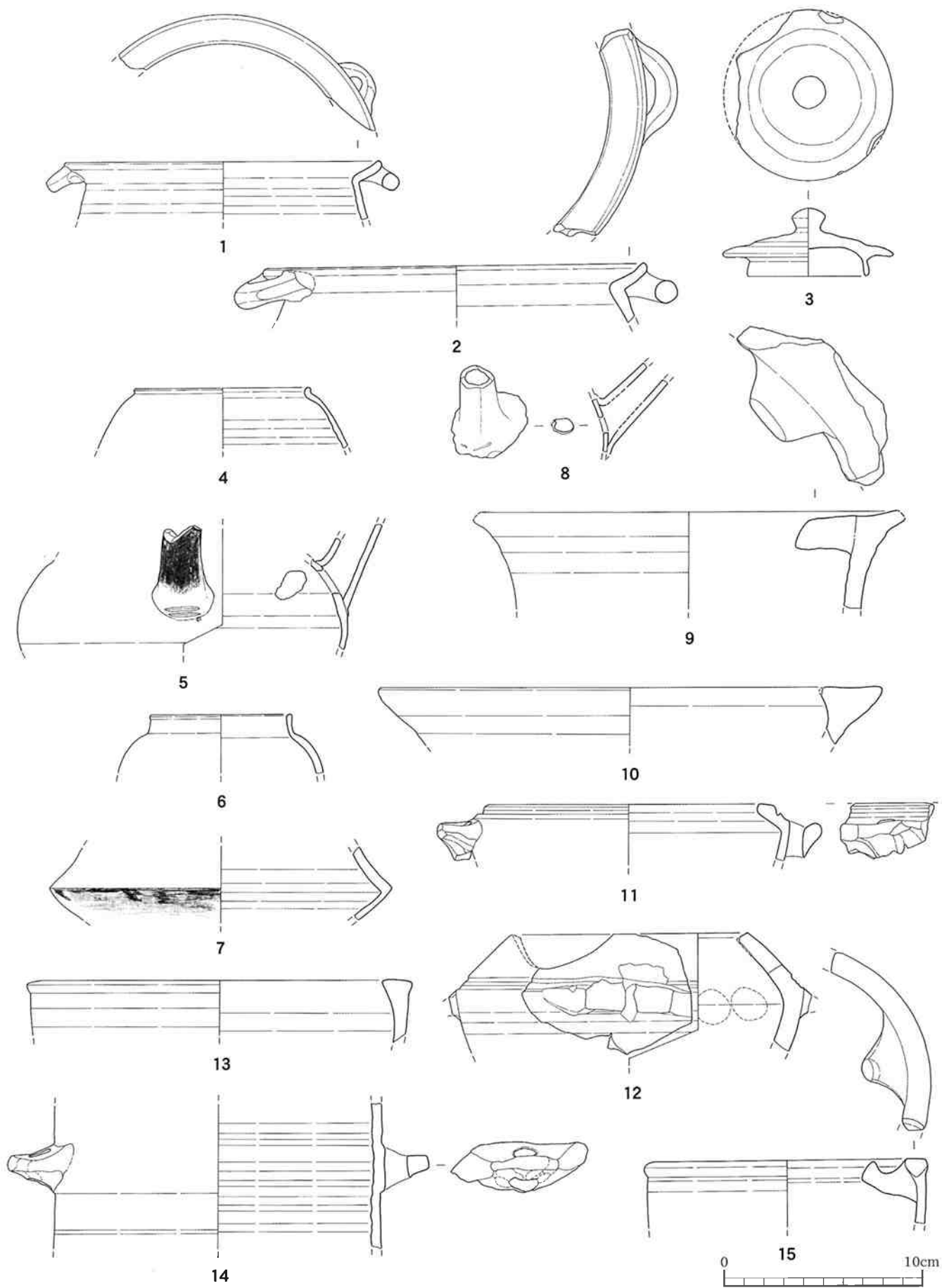
注 「—」:計測不可

第33表 陶質土器観察一覧

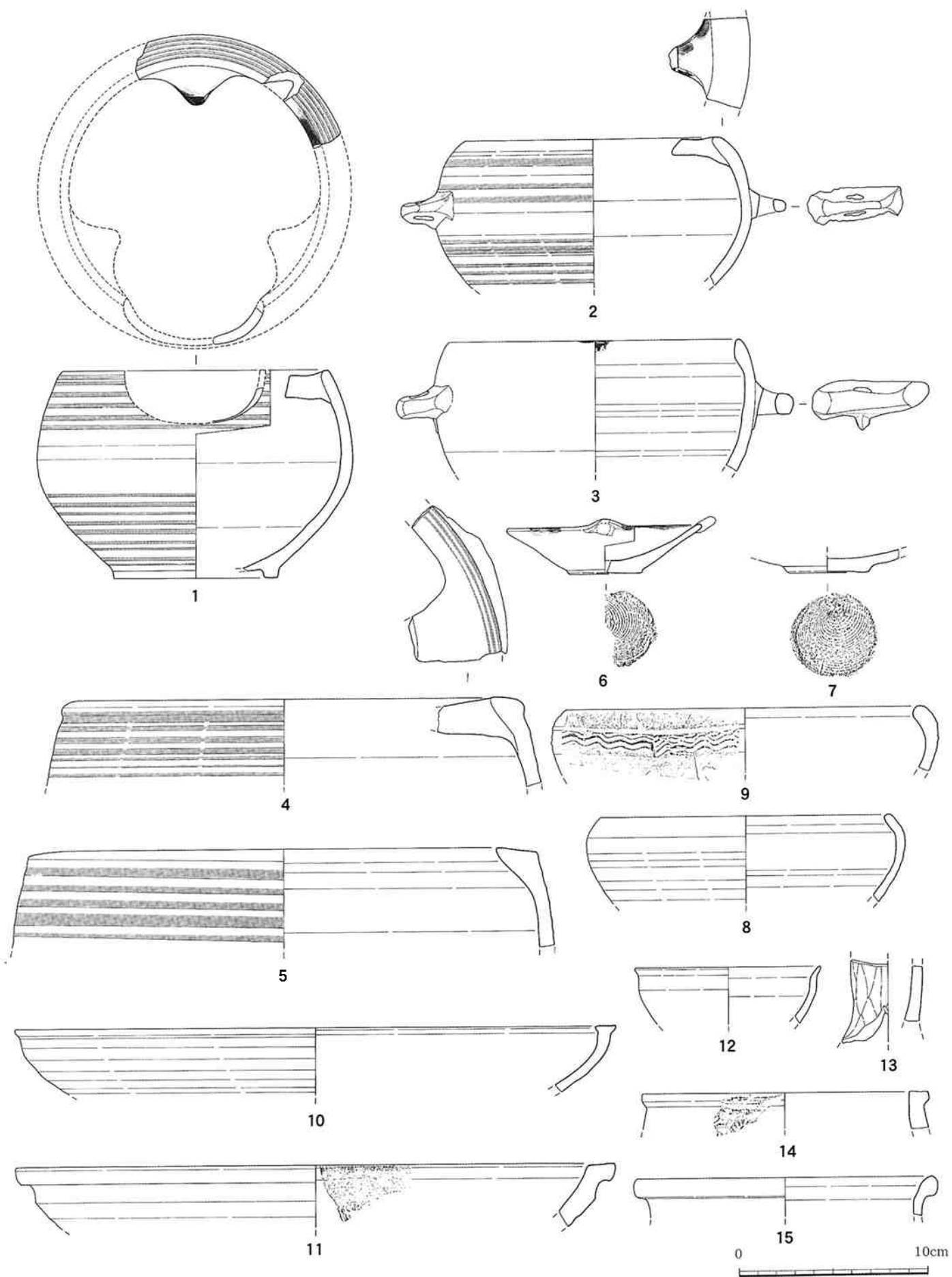
単位：cm

図	番号	器種	部位	口径 器高 底径	特徴	成形	調整	器色	混入物	出土地
第50図・図版39	11	描鉢	口	32.1 — —	口唇部：平ら。 口縁部：外反し、それから外側へ水平に折れる。 内面：僅かに描り目を残す。口唇付近に僅かな煤が付着。	ロクロ	外面：磨き 内面：撫で	外面：橙褐色 内面：暗橙褐色 素地：赤褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒	M-23 表土・攪乱
	12	碗	口	10.0 — —	口唇部：丸い。 口縁部：外反する。	ロクロ	両面：磨き	外面：暗赤褐色 内面：赤褐色 素地：暗赤褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒	I-24 北側3層
	13	瓶	頸	— — —	口縁部付近：僅かに煤が付着。	撫で	外面：指圧 内面：撫で	両面：暗褐色 素地：暗黄褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒	不明
	14	壺 or 鉢	口	15.2 — —	口唇部：平らで、外側に肥厚する。 文様：胴部に菊花文の印刻が僅かに残る。	撫で	外面：削り、撫で 内面：撫で	両面：灰黄色 素地：黄灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	L-19 南側1層
	15	鉢	口	16.2 — —	口唇部：外側に丸く肥厚する。 口縁部：外反する。 その他：僅かに煤が付着。	ロクロ	外面：削り、磨き 内面：撫で	両面：橙褐色 素地：灰橙褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	M-22・23 表土・攪乱
第51図・図版40	1	鍋の蓋	頂	5.0(頂径) — —	内面：成形・調整が雑。 外面：多量の煤が付着。	ロクロ	外面：撫で、磨き 内面：撫で	外面：灰褐色 内面：灰黄褐色 素地：灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	不明
	2	鍋の蓋	端	17.6(端径) — —	端部：丸い。 両面：輪積み痕が明確に残る。	輪積 ロクロ	上面：磨き(頂部) 下面：撫で	上面：黄褐色 下面：暗黄褐色 素地：灰黄褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	K-22 ビット1
	3	手焙り蓋	端	— — —	面：孔を一つ確認(欠損している為、一部分のみ)。 その他：手焙りの可能性あり。	撫で	両面：撫で	両面：灰黄色 素地：灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	J-19 北側4層
	4	被せ蓋	端	— — 12.0(端径)	撮み：高台状の撮み？(欠損している)。 傘部：縁に暗橙褐色の塗料が塗られている。 端部：下面を平らに成形。その他：皿の可能性も考えられる。	ロクロ	両面：磨き	上面：黄褐色 下面：橙褐色 素地：暗黄褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	攪乱
	5	蓋と蓋	頂～ 端	9.9(端径) 2.7 5.0(底径)	撮み：欠損。 端部：丸い。 その他：タイ産半練土器に類似。	撫で	両面：撫で	上面：灰黄色 下面：黄褐色 素地：黄灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	I-28 南側3層
	6	蓋	端～ 底	— — 8.8	上面：平らに成形。 底部：高台から端部への移行が急。	ロクロ	両面：撫で	両面：暗黄褐色 素地：灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	不明
	7	蓋	端～ 底	14.0(端径) — —	上面：中央部が僅かに窪む。 底部：高台から端部への移行が緩やか。	ロクロ	上面：撫で 下面：磨き 高台：内面に削り	両面：暗赤褐色 素地：灰赤褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 粗殻	L-22 遺構(燻集 中部)
	8	外耳	— — —	把手：孔を設けているようである。 その他：急須の可能性あり。	輪積	把手：磨き	両面：暗黄褐色 素地：黄灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	H-25 南側1層	
	9	把手	— — —	把手：丁寧に成形。 焼成：良好で硬質。沖繩産無釉陶器に近い質。	削り	把手：磨き	両面：赤褐色 素地：赤褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	H-27 南側1層	
	10	胴	— — —	胴部：筒状のものが貼付されていたようである。	ロクロ	両面：撫で	外面：黄褐色 内面：暗黄褐色 素地：黄灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	攪乱	
	11	脚	— — —	端部：丸い。 焼成：良好で硬質。沖繩産無釉陶器に近い質。 その他：脚の可能性あり。	ロクロ	外面：撫で 内面：磨き	上面：灰赤褐色 下面：黄褐色 素地：黄灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒	攪乱	
	12	底 I	— — —	底部：低い高台を有する。 その他：火炉の底部、または鍋蓋の可能性あり。	ロクロ	外面：磨き、撫で 内面：撫で	両面：橙褐色 素地：灰褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	F-20 表土・攪乱	
	13		— — —	胴部：底部付近に圈線を巡らす。 底部：高台を有する。 その他：火炉の可能性あり。	輪積 ロクロ	外面：削り、磨き 内面：撫で	両面：暗黄褐色 素地：灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒	F-22 表土・攪乱	
	14	底 II	— — —	底部：直線的に立ち上がる。 底面：糸切り痕。底面の縁には削り。 その他：火炉・鉢の可能性あり。	輪積 ロクロ	外面：削り、磨き、撫で 内面：撫で	外面：暗赤褐色 内面：橙褐色 素地：赤褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	攪乱	
	15		— — —	底部：やや膨らみを持ちながら立ち上がる。 胎土：他の陶質土器に比べてやや粗い。 その他：火炉・鉢の可能性あり。	輪積	両面：撫で	両面：黄褐色 素地：灰黄褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒	攪乱	
	16	底 III	— — —	底部：底面に糸切りの痕が残る。 その他：対応器種は不明。	ロクロ	両面：撫で	外面：灰橙褐色 内面：灰黄褐色 素地：灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	不明	
	17		— — —	底部：底面を丁寧につくり、稜が明確。 その他：火炉・鉢の可能性あり。	輪積 ロクロ	外面：撫で、磨き 内面：撫で	外面：暗黄褐色 内面：赤褐色 素地：灰黄褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒	不明	
	18		— — —	底部：稜が不明確。 文様：胴部に一条の細い圈線。 その他：火炉・鉢の可能性あり。	輪積	外面：鈍磨き、撫で 内面：撫で	外面：黄灰褐色 内面：黄褐色 素地：暗黄褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒	K-24 表土・攪乱	
	19	底	— — —	底部上面：中央部に孔を設ける。	不明	上面：欠損で不明 下面：磨き	外面：暗灰色 内面：灰黄色 素地：黄灰色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	N-25 南側3層	
	20	端～ 底	— — —	底部上面：中央部に孔を設ける。下面：中央部が凹む。	不明	上面：撫で 下面：磨き	外面：暗黄褐色 内面：黄褐色 素地：灰黄褐色	白色粒 黒色粒・赤色粒 雲母	M-21 瓦溜まりC	

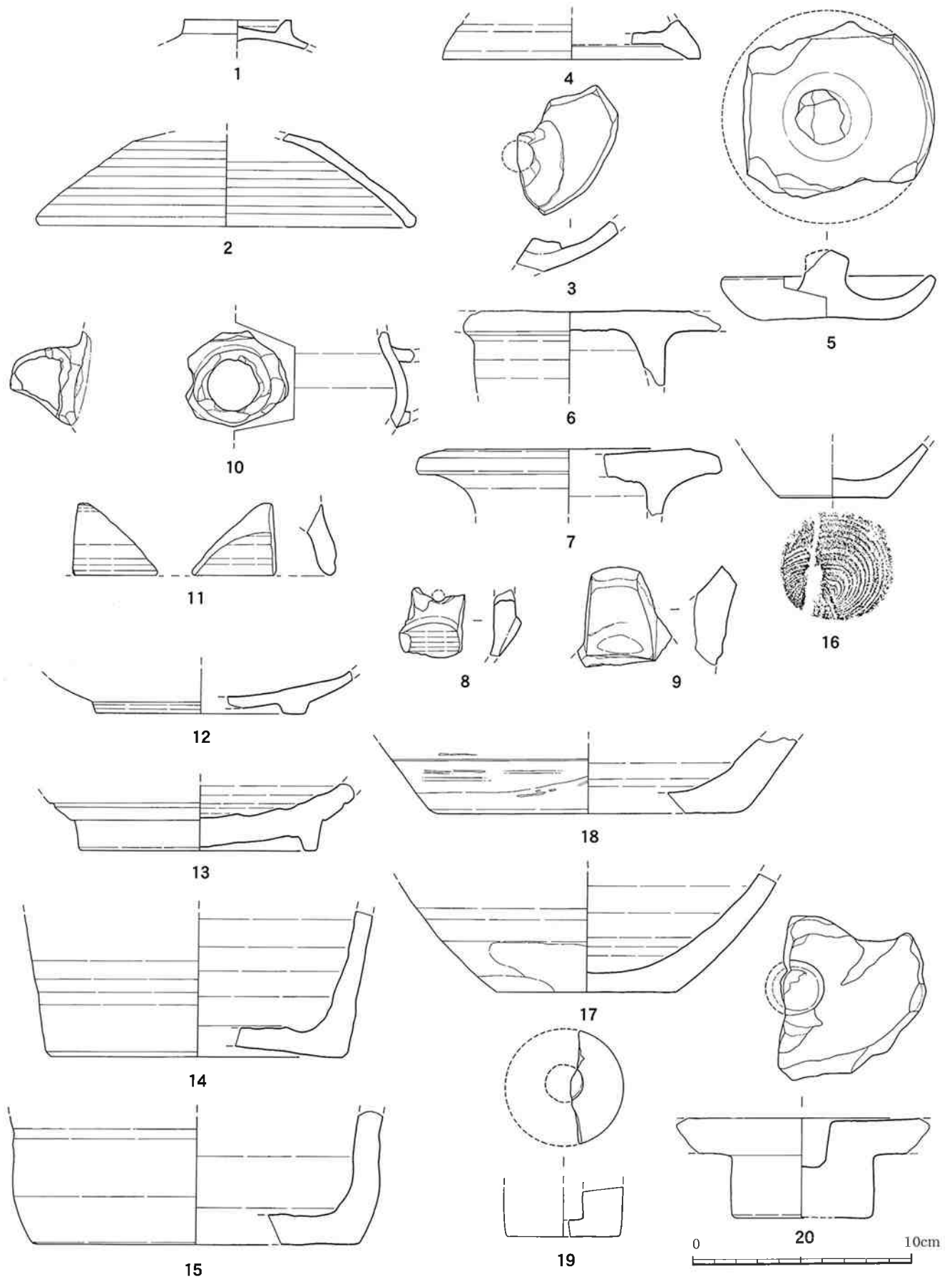
注 「—」：計測不可



第49図 陶質土器 (1)



第50図 陶質土器 (2)



第51図 陶質土器 (3)

第22節 瓦質土器

ここで扱う瓦質土器とは、胎土は精選され、混入物に砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・雲母などを含み、ロクロ引き・輪積みによって成形されたものを指す。また、焼成が悪い為、触れると粉末が付着するものが多い。上記のような特徴は陶質土器（アカムヌー）と同じである。しかし、アカムヌーは壺屋で「赤物」と称され^{#1}、主に橙褐色や黄褐色を主体としているが、瓦質土器は焼成後の状態が瓦と似ており、暗灰色や黄灰色を主体としている。また、陶質土器は火炉・鍋・急須・灯明などの火を使う器種が多いが、瓦質土器は火を使わない植木鉢・播鉢などの器種が多く、大型の器物が見られるのも特徴である。今回の調査では植木鉢・播鉢・鉢・蓋・瓶・飾り物・火炉（火炉Ⅰ・Ⅱ、奈良火鉢）などの器種が確認できた。また、器種は特定できないが特徴的な破片も併せて掲載した。各器種の特徴は下記に、個々の資料の詳細は第35表の観察一覧に記している。

植木鉢 第52図1～5は底部から胴部へ膨らみをもって至り、口縁部は内反する器形で、口縁部や胴部に数条の波状凸帯を貼付し、その間に草花浮文、牡丹唐草文などが印刻される。今回は水抜き穴を設けている底部資料が確認できなかったが、類例^{#2}から用途は植木鉢と考えられる。

播鉢 第52図7～9は底部から直線的に外傾して口縁部へ至る器形で、器体の内面に数条の播り目を施す播鉢である。

蓋 第52図11は、頂部が扁平で、底部には高台状の脚をもつ蓋である。どの器種に対応する蓋であるかは不明である。

瓶 第52図12は狭い口径をもつ口縁部片で、用途は不明だが、形態的特徴から今回は瓶として扱った。

鉢 第52図6は口縁部が外側へ水平に折れる器形で、口縁の外側に二条の波状凸帯を貼付している。同図10は底部から胴部へやや膨らみをもって至り、口縁部は僅かに内反する器形である。以上の二点、用途は不明だが、形態的特徴から今回は鉢として扱った。

火炉Ⅰ 第52図13は胴部が僅かに膨らみ、口縁部は内反する器形で、口縁付近には半月状の火窓を設けている。胎土の特徴は土器のようであるが、焼成が良く硬質である為本項で扱った。同図14も胴部に膨らみを持ち、口縁部が内反する器形であるが、同図13に比べて口径は大きく浅い器体である。口縁部には二条の凸帯を巡らし、その間に不明瞭ではあるが縦の凸帯が梯子状に施している。同図15は胴部が膨らみ、口縁部は直口する器形で花卉状の丁寧な作りの火窓を設けているのは特徴的である。

火炉Ⅱ 第53図1～4の資料。喜友名貝塚・喜友名グスク^{#3}では陶質土器の火炉で報告されているものである。前例を踏まえれば陶質土器として扱う資料であるが、陶質・瓦質の区別が判然としないため、今回は本項で扱った。器体は上面観が円形になる部分と、そこから突出した上面観が方形となる部分の2つで構成される。同図1は上面観が円形になる部分の口縁部で、器物を乗せる突起が貼付されている。同図2はその底部である。同図4は上面観が方形になる部分で、口縁部は外側に折れて張り出している。同図3も形態的特徴から同図4と同様の器物の底部と考えられる資料で、高台を作っているのが特徴的である。

奈良火鉢：第53図5～8は、中世後期に大和国内において生産された奈良火鉢^{#4}に類似する資料である。奈良火鉢は全国範囲で流通し、それを各地で模倣した在地産の「模倣奈良火鉢」も生産され、在地圏内で流通していたようである。今回の資料が本来の奈良火鉢、あるいは模倣品なのか判断し難いが、奈良火鉢の範疇に属するものとして本項にて扱った。今回の調査で出土した資料には、奈良火鉢にみられる菊花の印刻が施されているものが確認できた。同図5・6は底部から直線的に口縁部へ至り、上面観が方形の角鉢になると考えられる資料で、同図5は口縁部付近に菊花の印刻を巡らせ、同図6は胴部に菊花の印刻を無秩序に施しているのが特徴である。同図7は細片の為、全形は窺えないが、二条の凸帯の間に菊花の印刻が施されている口縁部である。同図8は底部から直線的に口縁部へ至る器形で、胴上半と胴下半に四条ずつ凹線を巡らし、その間に菊花の印刻を施しているのが特徴である。

器種不明 第53図9は全形が窺えない為、器種は断定し難いが、形態的特徴から鉢と考えられる口縁部片である。同図10・11は器種が不明な底部片である。同図10は底径が小さく、直線的に口縁部に至る器形で、同図11は同図10とほぼ同じ器形であるが、底径が大きく、底面の稜を明確に作っている。同図12は器物の突起と考えられる資料であるが、全形が窺えない為、詳細は不明である。同図13は獅子頭を模して造形した資料だが、全形が窺えない為、詳細は不明である。

第53図14～17は印刻が施されている破片資料である。細片の為、全形は窺えないが、特徴的な資料を掲載した。同図14は口唇部が外側に肥厚し、その下に四方繁文の印刻、同図15は口縁部が内反し、口唇部付近に貼付された

凸帯の下に印刻が施されている。同図16は胴部が外傾して、口唇部付近に貼付された凸帯の下に印刻が施されたものである。同図17は部位も不明の破片だが、文字のような印刻が施されている資料である。

<註>

註1：『沖縄大百科事典 上巻』沖縄タイムス社 1983年

註2：『湧田古窯跡（Ⅱ）』『沖縄県文化財調査報告書』第121集 沖縄県教育委員会 1995年

註3：『喜友名貝塚・喜友名グスク』『沖縄県文化財調査報告書』第134集 沖縄県教育委員会 1999年

註4：『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会 1998年

第34表 瓦質土器出土状況

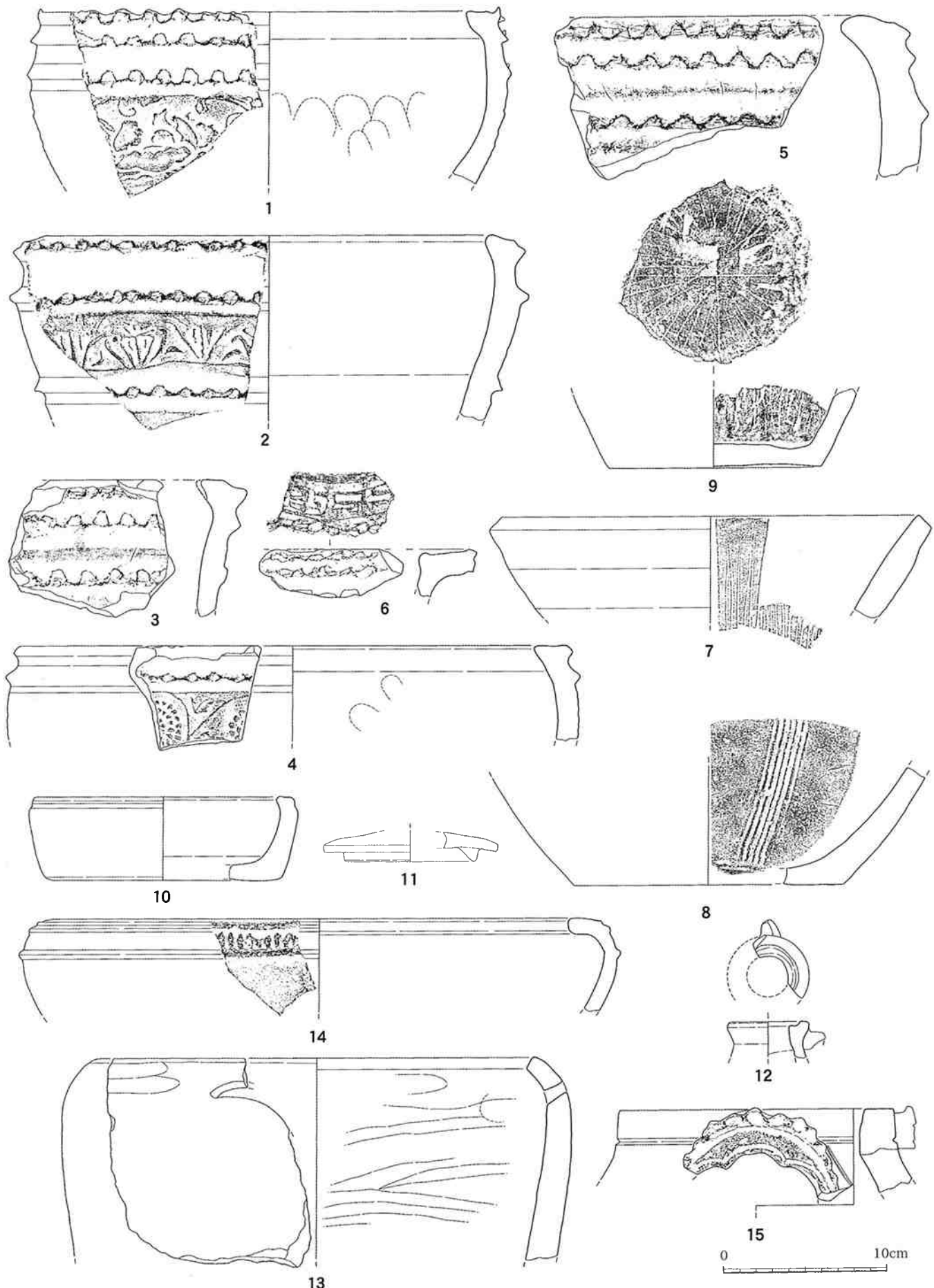
器種・分類	出土地		表土・攪乱	畦	南側				北側		地山直上	基壇	コ－ラル敷A	方形掘込み遺構	コ－ラル敷B	石列D	石垣A	溝状遺構A	溝状遺構B	溝状遺構C	溝状遺構D	溝状遺構E	溝状石列	瓦溜まりC	円弧状遺構③	ピット	遺構	不明	合計
	1層	2層			3層	4層	3層	4層																					
植木鉢	直口	口縁部																							1			1	
	内湾	印花	口縁部																								1		1
		波状文	口縁部	2	2	2				1	1			1					1	1					7		1	2	21
	逆L字	無文	口縁部			1												1										1	3
			口縁部										1											1				2	4
	その他	有文	胴部	6	1	3	3	4		1	1		2	1											5	1	1	6	35
			口縁部		1	1		1																	2				5
		底部	6		2	1						1			1			1	1					3			1	17	
挿鉢	胴部																							1		1	1	3	
	底部				1	1	1		1					1										1			3	9	
鉢	口縁部																										1	1	
	口～底																										1	1	
蓋	口縁部																								1			1	
瓶	口縁部			1																								1	
火炉	大型	口縁部	1																									1	
	小型	口縁部	2			1	1																						4
		口～底	2																					1			1	4	
	その他	口縁部	2										1															1	2
		胴部								1																			1
		底部	4	1	2							1												1	1		2	12	
		足付き	底部	2																				2				1	5
器種不明	口縁部		2				1		1	1	1																1	1	8
	胴部		9		2	1	1	1	2	5		2	1			1		1	1	1	1		8	3	1	1	14	3	
	底部		1			1	1	1								1												2	54
	脚		1			1																		1				7	
	有文	不明	3	1			2		1	6	1		1		1	1							1	1	4		5	27	
合計			43	5	11	10	13	5	4	15	4	1	6	3	3	2	2	2	1	2	3	1	1	33	1	11	9	44	235

第35表 瓦質土器観察一覧

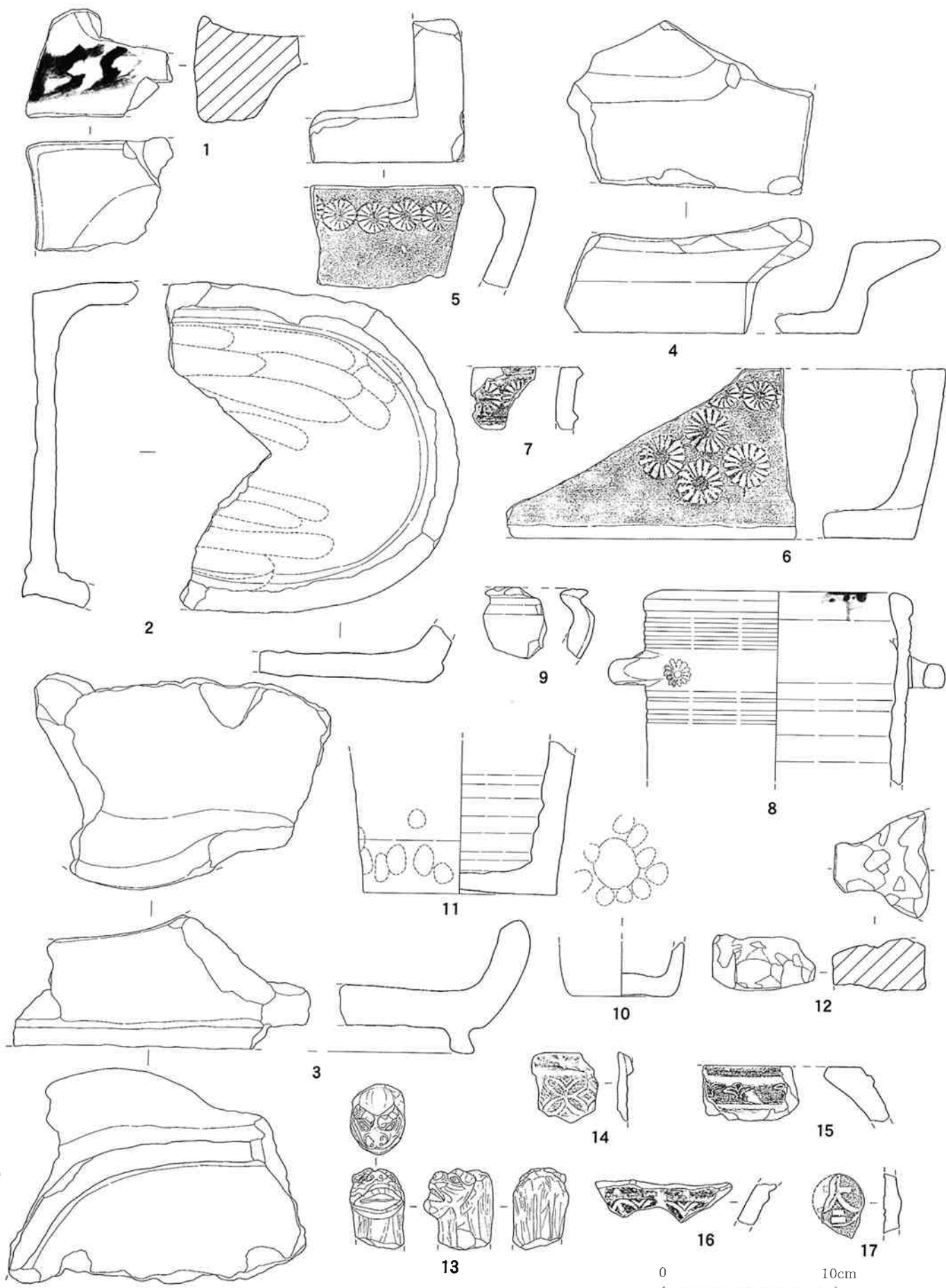
単位: cm

図	番号	器種	部位	口径 器高 底径	特徴	成形	調整	器色	混入物	出土地
第52図・図版41	1	植木鉢	口	28.9	口唇部: 平ら(浅く凹圓線)。口縁部: 内側に肥厚。 文様: 三条の波状凸帯文を廻らし、その下に牡丹唐草の 印刻を施す。	ロクロ	外面: 撫で 内面: 撫で、指圧	外面: 黄黒褐色 内面: 黒褐色 素地: 灰黄褐色	赤色粒 黒色粒	L-25遺構
	2			30.8	口唇部: 平ら(浅く凹圓線)。口縁部: 内側に肥厚。 文様: 口縁に二条一組、胴下部に一条の波状凸帯文を廻ら し、間に印刻を施す。	ロクロ	外面: 撫で 内面: 撫で、指圧	外面: 黒褐色 内面: 灰褐色 素地: 灰黄褐色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	H・I-27地山直上
	3			—	口唇部: 平ら(浅く凹圓線)。口縁部: 内側に肥厚。 文様: 口縁に二条一組、胴部に一条の波状凸帯文を廻ら す。	ロクロ	外面: 撫で、磨き 内面: 撫で	外面: 黄褐色 内面: 黄褐色 素地: 灰黄褐色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	M-27南側4層
	4			34.0	口唇部: 平ら。口縁部: 内側に肥厚。 文様: 口縁に二条一組の波状凸帯文を廻らし、その下に菊 花の印刻を施す。	ロクロ	外面: 撫で 内面: 撫で、指圧	外面: 暗灰色 内面: 黒褐色 素地: 黄灰色	赤色粒 黒色粒	M-25南側3層
	5			—	口唇部: 平ら(浅く凹圓線)。口縁部: 内側に肥厚。 文様: 口縁部に二条一組の波状凸帯と一条の波状凸帯を 廻らす。	ロクロ	両面: 撫で	両面: 暗灰色 素地: 黒灰色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	M-21瓦溜まりC
	6	鉢	口	—	口唇部: 平ら(印刻が施される)。 口縁部に二条の波状凸帯を廻らす。	ロクロ	両面: 撫で	両面: 暗灰色 素地: 暗赤褐色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	H-22遺構
	7	掃鉢	底	26.2	口唇部: 平ら。 口縁部: 外傾する。 掃り目: 全体的に等間隔で施す。	ロクロ	両面: 撫で	外面: 黒灰色 内面: 暗黒灰色 素地: 灰色	白色粒(微砂粒) 赤色粒 黒色粒、雲母	J-19北側4層
	8			16.8	底部: 底面を明確につくる。 掃り目: 六条一組で施す。	撫で	外面: 篋削り・篋撫 で 内面: 撫で	外面: 暗灰色 内面: 黄灰色 素地: 灰色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	M-21瓦溜まりC
	9			13.2	底部: 底面を明確につくる。 掃り目: 全体的に雑に施す。	撫で	両面: 撫で	外面: 灰黄色 内面: 灰色 素地: 暗黄褐色	白色粒 赤色粒 黒色粒	K-L-18北側4層 +L-17コーラルB
	10	鉢	口~ 底	13.6 5.2 12.4	口唇部: 平ら。口縁部: やや内反する。 底部: 底面の稜は不明確。 文様: 口縁部外面に一条の圓線。	撫で	両面: 撫で	両面: 黄灰色 素地: 灰色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	L-M-21遺構
11	蓋	頂~ 端	10.8(端径) 1.5(高さ) 8.4(底径)	底部: 高台状の脚を持つ。 その他: 高台内部以外は全体的に磨かれている。	撫で	外面: 磨き 内面: 磨き、撫で	両面: 黄灰色 素地: 灰色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	I-17ピット1第2層	
12	瓶	口	4.8	口唇部: 平ら(口唇に段差をつくる)。 口縁部: やや外反する。	撫で	両面: 撫で	両面: 灰色 素地: 灰色	白色粒 赤色粒 黒色粒	I-20畦	
13	火炉 I	口	27.0	口唇部: 平ら。口縁部: 内反する。 火窓: 三日月状の火窓を設ける。 その他: 内面には煤が付着。焼成が良好。	撫で	外面: 撫で、削り、磨 き 内面: 撫で、削り	外面: 暗黄褐色 内面: 暗灰色 素地: 黄褐色	白色粒 赤色粒 黒色粒	H-23溝状遺構A	
14			30.0	口唇部: 平ら。 口縁部: 内反する。 文様: 梟子状の凸帯を廻らせる。	撫で	外面: 撫で、磨き 内面: 撫で	外面: 暗黄褐色 内面: 灰色 素地: 黒灰色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	I-27溝状遺構D+I-27攪乱	
15			34.0	口唇部: 平ら。口縁部: 直口。 火窓: 花弁状に作る。 文様: 口縁に一条の圓線。その他: 初殻を混入。	撫で	外面: 撫で、磨き 内面: 撫で	外面: 橙褐色 内面: 暗灰色 素地: 黄褐色	白色粒 赤色粒、初殻 黒色粒、雲母	H-22・23方形遺構	
第53図・図版42	1	火炉 II	口	—	口唇部: 平ら。 突起: 大きめの突起を内側に貼付する。 その他: 器体の内側に多量の煤が付着している。	撫で	両面: 撫で	外面: 黄褐色 内面: 暗黄褐色 素地: 灰黄褐色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	F-20表土・攪乱
	2			—	底部: 稜は明確ではない。 その他: 初殻が混入されている。	輪積	外面: 撫で、篋削り 内面: 撫で	両面: 橙褐色 素地: 灰橙褐色	白色粒 赤色粒、初殻 黒色粒、雲母	F-20表土・攪乱
	3			—	口唇部: 平ら。 口縁部: やや膨らむ。 底部: 高台を作る。	撫で	外面: 撫で、磨き 内面: 撫で、削り	外面: 灰黄褐色 内面: 暗灰黄褐色 素地: 灰褐色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	M-21瓦溜まりC
	4			—	口唇部: 平ら。 口縁部: 外側に張り出す。 底部: 稜は明確ではない。	撫で	両面: 撫で	外面: 黄褐色 内面: 暗黄褐色 素地: 灰色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	攪乱
	5	奈良火鉢	口~ 底	—	口唇部: 平ら。 口縁部: やや外傾する。 文様: 口縁付近に菊花の印刻を廻らす。	撫で	外面: 撫で 内面: 磨き	両面: 灰色 素地: 灰色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	不明
	6			10.0	口唇部: 平ら。口縁部: やや膨らみをもって外傾。 底部: 底面を明確につくる。 文様: 菊花の印刻を無秩序に施す。	輪積 ロクロ	外面: 磨き 内面: 篋撫で	外面: 暗灰色 内面: 灰色 素地: 灰色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	不明
	7			—	文様: 二条の三角状凸帯の間に菊花の印刻を施す。	撫で	両面: 磨き	両面: 黄褐色 素地: 灰色	白色粒 赤色粒 黒色粒	L-19南側4層
	8	器種不明	口	16.4	口唇部: 舌状。口縁部: ほぼ直口。 文様: 胴上半と胴下半にそれぞれ四条ずつの凹圓線 を廻らし、その間に菊花の印刻を施す。	輪積	両面: 撫で	外面: 橙灰褐色 内面: 暗黄灰色 素地: 灰色	白色粒 赤色粒 黒色粒	L-25遺構
	9			—	口唇部: 尖る。 口縁部: 外反する。	ロクロ	外面: 磨き 内面: 撫で	外面: 暗灰色 内面: 灰色 素地: 黄灰色	白色粒 赤色粒 黒色粒	H-28南側1層
	10			6.6	胴部: やや膨らみを持って立ち上がる。 底部: 底面の稜は不明確。	撫で	両面: 撫で	外面: 灰黄色 内面: 灰色 素地: 黄褐色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	K-23南側2層
11	11.2			底部: 底面を明確につくる。 その他: 輪積の痕がはっきりと残る。	輪積 ロクロ	両面: 撫で	外面: 灰褐色 内面: 黄灰褐色 素地: 灰色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	K-16表土・攪乱	
12	突起	—	—	器物の突起もしくは飾り物の部品。 その他: 煤が所々に付着。	不明	磨き、削り	暗黄褐色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	不明	
13	飾り物	不明	—	飾り物: 獅子頭を造形したものである。	撫で	外面: 撫で、削り	両面: 橙褐色 素地: 橙灰色	白色粒 赤色粒 黒色粒	I-28南側3層	
14	器種不明	口	—	文様: 凸帯の下に四方繁文の印刻を施す。 その他: 内面は全て欠損している。	撫で	外面: 撫で	外面: 灰黄褐色 素地: 暗黄褐色	白色粒 赤色粒 黒色粒、雲母	K-18攪乱	
15			—	口唇部: 平ら。口縁部: 内傾する。 文様: 凸帯と浅い凹線の間印刻を施す。 その他: 内面に火を受けた痕跡を残す。	ロクロ	外面: 磨き 内面: 撫で	外面: 灰色 内面: 白灰色 素地: 白	白色粒 赤色粒 黒色粒	K-16畦	
16			—	文様: 凸帯の下に印刻を施す。	撫で	外面: 磨き 内面: 撫で、磨き	外面: 黄褐色 内面: 赤褐色 素地: 黄褐色	白色粒 赤色粒 黒色粒	J-19北側1層+ L-19北側4層	
17			—	文様: 文字と取れる印刻が施される。	不明	外面: 磨き 内面: 撫で	両面: 黒褐色 素地: 灰色	白色粒 赤色粒 黒色粒	不明	

※ 「—」: 計測不可



第52図 瓦質土器 (1)



第53図 瓦質土器 (2)

第23節 土器

土器は総数で1,049点出土した。うち、12点を第54図に示した。今回得られたものは宮古式土器に類するタイプとパナリ焼に類するタイプに分けられるが、若干異なる点もあるため胎土などをもとに分類した。

I類：砂泥質の胎土で、混和材に微細な白色粒を多く含み、粗い赤色粒がみられる。器面調整にはヘラ磨きを施す例がある。やや硬質。

II類：砂泥質の胎土で、混和材に粗い白色粒を含んでいる。硬質。

III類：上記2タイプに含まれないものを一括した。また、滑石混入の胴部片が2点得られた（小破片のため図は省略）。

I類は第54図1・6・8・9である。壺、甕がみられる。1は口縁部が弱く内傾する甕、6は口縁が弱く外反し肩部の張る壺である。8・9は底部でゆるやかに開く器形をなす。

II類は同図3～5・7・10である。壺、甕がみられる。3は小型の壺で口縁は強く外反する。5は口縁が強く内湾する甕もしくは無頸の壺である。4は把手である。7は胴部片で孔を穿つ。10は底部でゆるやかに開く器形である。

III類は同図2・11・12である。2は口縁が「く」の字に折れる壺で、11・12は口縁部である。12は縄文晩期（高宮編年前V期）に属するものと思われる。

第36表 土器出土状況

器種	出土地 表土・攪乱	畦	トレンチ	南側				北側				地山直上	基壇	コラル敷A	コラル敷B	石列A	石列B	石列D	石列E	石垣A	石垣B	石垣C	溝状遺構A	溝状遺構B	溝状遺構C	溝状遺構D	溝状石列	瓦溜まりA	瓦溜まりC	円弧状遺構①	円弧状遺構③	方形掘込み遺構	十石列D	十溝状遺構C	十溝状遺構D	ピット	遺構	不明	合計											
				1層	2層	3層	4層	1層	2層	3層	4層																																							
壺	口縁部			2	2	2	1	1						2			1																			1		3	19											
	頸部	2			1	5	1				1	1	1																							3	3	2	23											
	胴部	130	15	2	56	96	108	19	18	5	29	17	12	1	15	45	2	2	1	19	1	5	1	5	19	3	6	20	1	1	43	1	1				36	22	174	931										
	底部	2		1		3	3		1						1	1																						1		26										
深鉢	口縁部																																							1		1								
	口縁部	1	1		3	5	3	1			1	3			1	1																									1		9	35						
	耳						1																																			2		2						
	胴部	2																																									2		2					
甕or壺	不明	1																																										1		7				
	胴部																																												2		2			
器種不明	滑石混入																																															1		1
	有孔																																																1	
合計		138	16	3	62	111	118	21	20	5	30	25	14	2	18	50	2	2	1	22	1	5	1	5	22	4	6	26	2	1	49	1	2	1	1	43	27	192							1049					

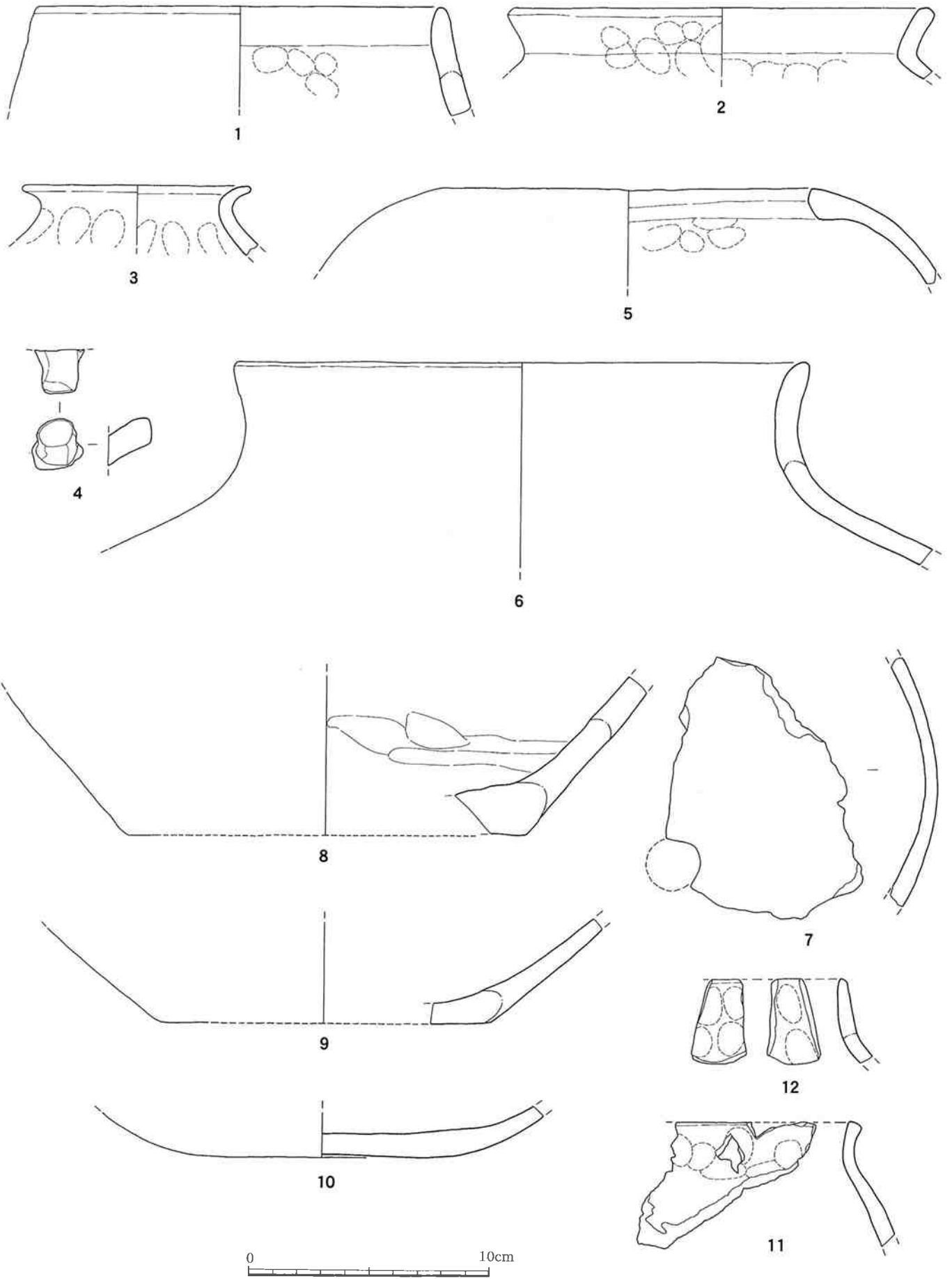
注「+」：接合の意

第37表 土器観察一覧

単位：cm

図番号	品種	部位	分類	計測値	観察事項	出土地	
第54図・図版43	1	甕	I	口径：17.2	内傾する甕。粗い赤色粒を含んでいる。内面は指押さえ、撫でがみられる。外面は不明。	K-27地山直上+K-28南側4層	
	2	壺	III	口径：17.6	口縁が「く」の字に折れる。内外に指押さえ。微細な黒色鉱物を含む。	K・L-17・18 溝状遺構D	
	3			口径：9.7	口縁が強く外反する。内外に指押さえ、口縁部に撫でを施す。	K-20 コーラル敷A	
	4	甕or壺	耳	II	—	小型の把手。ヘラ磨きを施す。	L-26 遺構
	5	壺	口縁部	I	口径：15.4	きつく内傾する器形。甕もしくは壺。外面はヘラ磨き、内面はヘラ磨きと指押さえ。口唇部は平坦に形成する。	M-20 石列D+K-22ピット1
	6				口径：24.3	口縁が緩く外反し肩部が張る。口唇部は舌状を呈する。外面は口縁に撫で、肩部にヘラ磨きを施し、内面は撫でを施す。	L-27 溝状遺構D
	7	不明	胴部	II	—	有孔胴部。焼成前の穿孔と思われる。内外とも撫でを施す。粗い白色粒を多く含む。	H-22 方形掘込み遺構
	8		底部	I	底径：16.5	緩く開く器形で、角をもって立ち上がる。外面は細かなヘラ磨き、内面は撫でを施す。	L-20 石列D
	9				底径：14.0	緩く開く器形で、角をもって立ち上がる。外面は細かなヘラ磨き、底面・内面は撫でを施す。微細白色粒を多量に含む。	L-21 瓦溜まりC
	10				底径：10.4	ゆるやかに開く器形で、ルーズに立ち上がる。内面はナデを施すが外面は不明。	L-21 瓦溜まりC
	11	深鉢	口縁部	III	—	縄文晩期の土器。口縁が直立する。砂質の胎土で微細な白色粒を多く含む。内外とも指押さえ。	L-17 ピット1
	12	甕or壺	—	—	—	泥質の胎土で、混和材は目立たない。口縁が緩く外反し、口唇部を平坦にする。内外とも撫でを施す。	L-21 表土・攪乱

注「+」：接合の意



第54图 土器

第24節 類須恵器

類須恵器は8点得られ、第55図1～5に示した。確認できた器種は壺、碗がある。カムィ焼古窯跡採集の資料と検討した結果、類似した特徴を持つものと思われる。観察事項等は別表に示した。

同図1・2は壺である。1はナデ肩で甕形の器形に近い。口縁部は弱く外反し、丸く肥厚する。焼成は悪く、器面は粗れている。2は口縁部が大きく外反するタイプで、口縁部は丸みを帯びた三角形である。口唇部には浅い凹線を廻らせる。同図3は碗である。薄手で口唇部は丸く形成する。同図4・5は器種不明の胴部で、いずれも壺であろうか。4は内外ともタタキの痕が明瞭である。5は積み痕が確認できる。

第38表 類須恵器出土状況

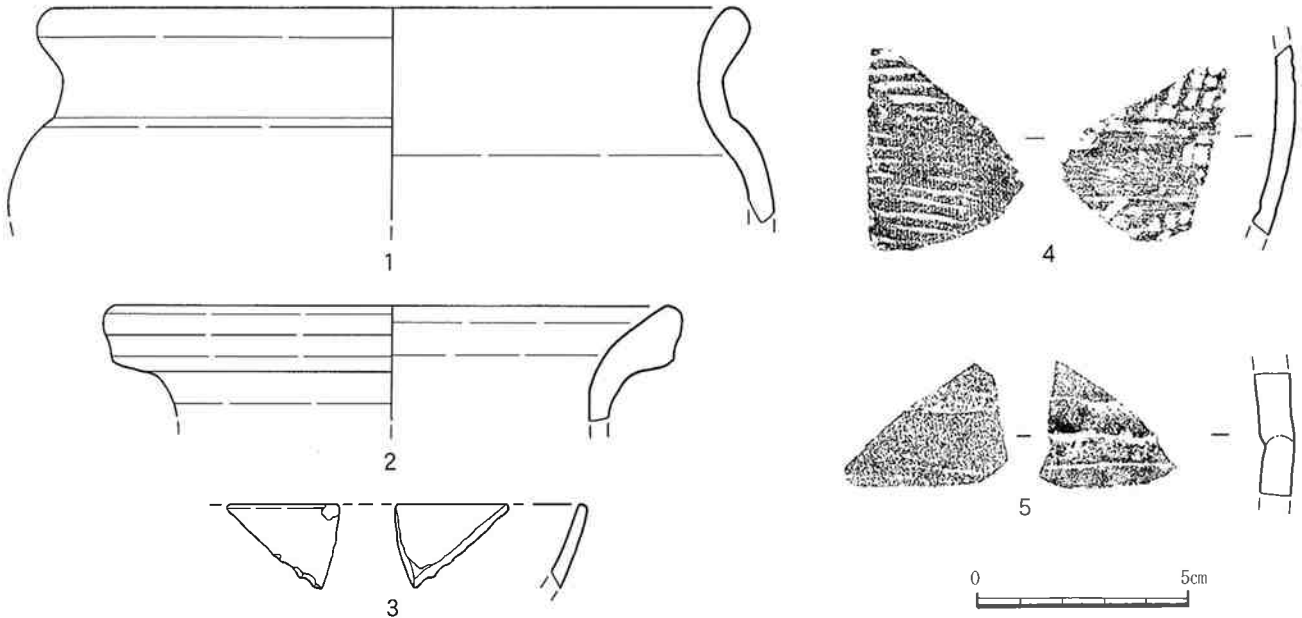
器種	出土地	表土・攪乱	南側			北側			石列E	遺構	合計
			3層	2層	4層	3層	2層	4層			
碗	口縁部							1		1	
壺	口縁部	2							1	3	
	胴部	1	1	1	1					4	
合計		3	1	1	1			1	1	8	

第39表 類須恵器観察一覧

図	番号	器種	部位	法量	観察事項	出土地
第55図・図版43	1	壺	口縁部	口径16.0	調整：ロクロ。混和材：黒色、ガラス質の鉱物微粒。色調：内外は淡灰褐色、断面は黄褐色。	I-27 南側3層
	口径13.6			調整：ロクロ。混和材：わずかに黒色鉱物粒。色調：淡灰色。		
	3	碗	口径12.8	調整：ロクロ。混和材：わずかに白色微粒。色調：内外は淡暗褐色、断面は褐色。	不明	
	4	不明	胴部	—	調整：叩き。混和材：わずかに白色微粒。色調：内外は黝褐色、断面は黒褐色。	北側2層
	5			—	調整：ロクロ、叩き？混和材：白色粒。色調：内外は黝褐色、断面は暗褐色。	

単位：cm

注「—」：計測不可

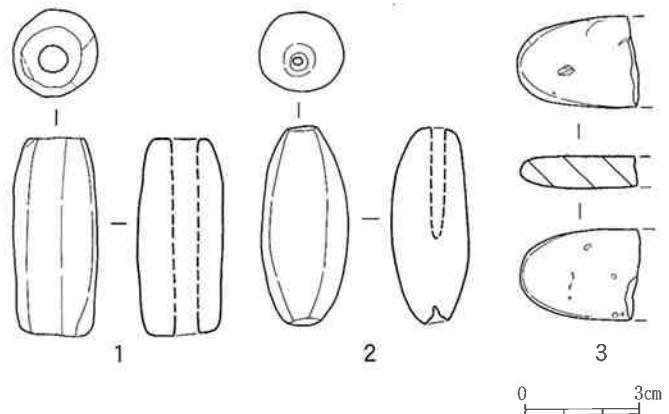


第55図 類須恵器

第25節 土製品

土製品としたものを、第56図に示した。いずれも瓦質である。第56図1と2はどちらも中央を穿孔し、1が26g、2は20gとなっている。中央の径は1が7mm、2は3.5mmと後者が細いが2は製作途中なのか貫通していない。用途は土錘が考えられる。1はL-18北側3層、2はI-21ピット106より出土。

第56図3は破損しているが端部を丸く、断面は平坦に成形されているもので、用途不明である。I-28南側3層より出土。



第56図 土製品

第26節 円盤状製品

今回円盤状製品として扱ったのは、これまで同名で呼称されている、陶磁器等を円形に打割調整した二次利用品である。本地区では、276点が出土している。素材には青磁、白磁、中国産褐釉陶器、染付、沖縄産施釉・無釉陶器、陶質土器、瓦質土器、土器、瓦、天目茶碗、本土産陶磁器などが使われている。大きさは、1～9cm台までと幅があるが、主体となるのは2～4cm台で、天界寺跡（I）と同じ傾向を見せる。

また素材の中で碗や皿等の底部を利用したものには、高台を残すタイプと割り取るタイプがあるが、本地区では16点の底部利用品の内、13点が前者にあたる。（表中「厚さb」は高台を含めた計測である。）

以下に各部分の法量一覧と、出土状況をまとめた。

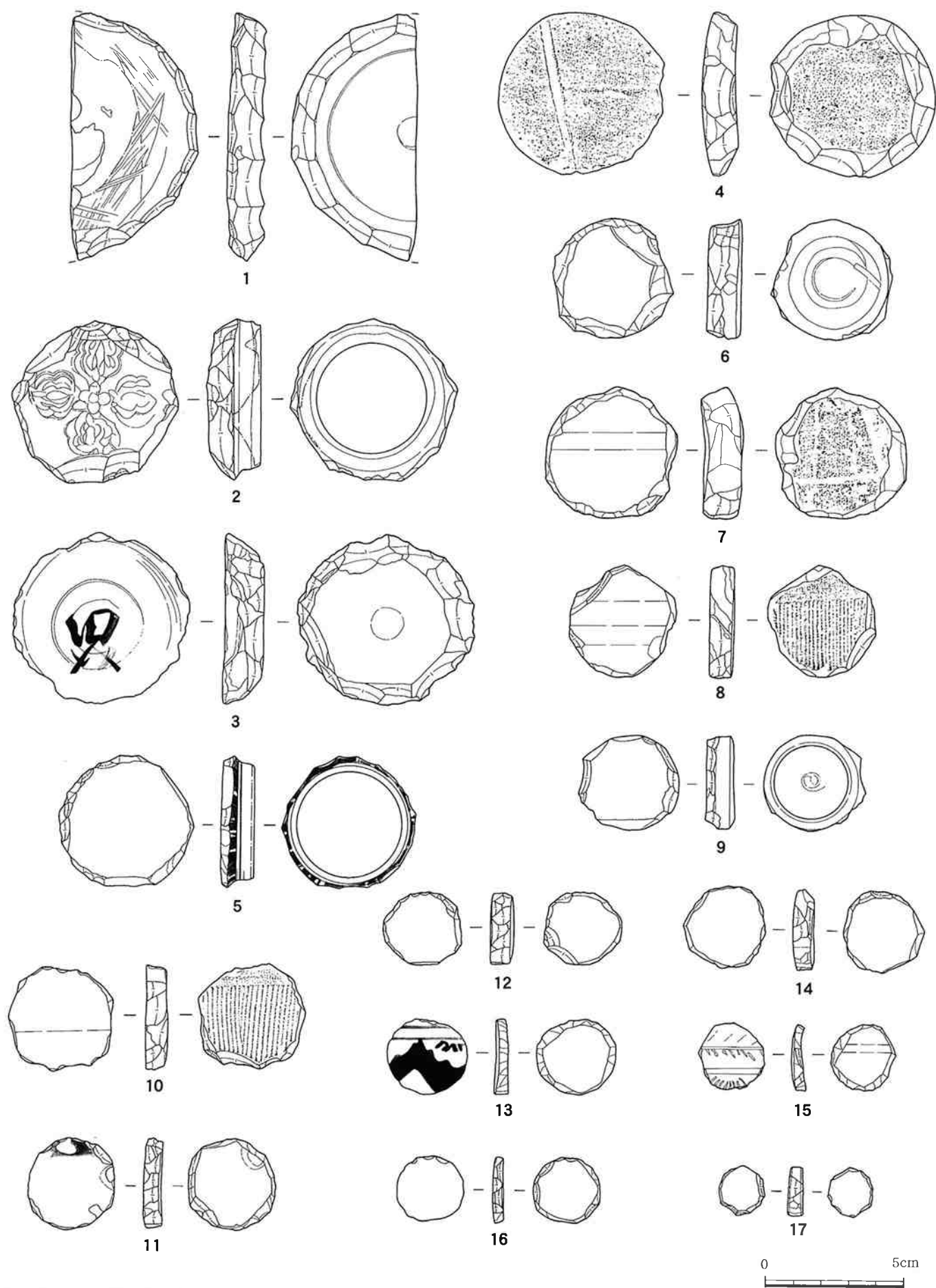
第40表 円盤状製品法量一覧

単位：mm/g

図版	番号	素材（器種）	長径 (mm)	短径 (mm)	厚さ a(mm)	厚さ b(mm)	重さ (g)	使用 部位	完・破	出土地
第57 図・ 図版 44	1	本土産か（皿）	88.7	46	12.8		53.7	底部	破	基壇
	2	青磁（碗）	60.7	58.4	12	19.2	70.2	底部	完	H-20ピット25
	3	沖縄産施釉陶器（鉢か）	64.6	61.7	14.5		69.7	底部	完	表土攪乱
	4	平瓦	62.1	59	12.4		50.8	胴部	完	表土攪乱
	5	染付（碗）	48.7	47.7	3	11.7	18.5	底部	完	基壇
	6	黒釉陶器（碗）	44.4	42.1	13		33.6	底部	完	南側2層
	7	平瓦	49.3	48.1	14.1		36.3	胴部	完	M-25・26ピット2
	8	沖縄産無釉陶器（搦鉢）	40.2	39.8	8.6		14.6	胴部	完	J-12ピット5
	9	白磁（小皿）	37.4	34.1	6.5	9.6	13.2	底部	完	攪乱
	10	本土産陶器（搦鉢）	41.2	39.1	7.6		13.6	胴部	完	攪乱
	11	染付	33.2	32.3	6.6		10.1	胴部	完	不明
	12	中国産褐釉陶器	28.4	25.8	7.6		8.1	胴部	完	南側2層
	13	染付	28.8	26.1	5.2		4.7	胴部	完	南側1層
	14	中国産褐釉陶器	29.6	29.1	7.2		8.7	胴部	完	溝状遺構D
	15	沖縄産か（瓶）	24	23.6	5.4		3	胴部	完	南側3層
	16	陶質土器	24.4	24.4	3.9		2.4	胴部	完	攪乱
	17	青磁	17.4	16.6	5		1.9	胴部	完	不明

第41表 円盤状製品出土状況

出土地	表土・攪乱	トレンチ	南側				北側				堆山直上	基壇	コーラル敷A	方形掘込み遺構	石列A	石列D	石垣A	石垣C	溝状遺構A	溝状遺構D	瓦溜まりC	ピット	遺構	不明	合計				
			1層	2層	3層	4層	1層	3層	4層																				
1～1.9	青磁 白磁 陶質土器 小計	1 1 1 3	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	1 1 1 3	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	3 1 1 7	5 1 1 7			
2～2.9	青磁 白磁 本土産磁器 染付 沖縄産施釉陶器 沖縄産無釉陶器 陶質土器 瓦 小計	1 3 1 1 1 3 3 6 15	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	1 1 1 1 1 1 1 1 7	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	14 4 5 5 5 14 4 23	7 7 5 5 4 7 7 23		
3～3.9	褐釉陶器 沖縄産無釉陶器 陶質土器 瓦 瓦質土器 土器 染付 白磁 沖縄産施釉陶器 小計	3 9 1 3 1 1 1 2 2 21	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	6 6 1 13 2 2 2 17 81	6 6 1 13 2 2 2 17 81		
4～4.9	染付 本土産陶器 天目 本土産磁器 沖縄産施釉陶器 沖縄産無釉陶器 陶質土器 陶質土器 瓦質土器 瓦 小計	1 1 1 1 15 1 1 1 1 8 29	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	1 1 1 1 23 3 1 1 1 3 29	1 1 1 1 23 3 1 1 1 3 29			
5～5.9	沖縄産施釉陶器 沖縄産無釉陶器 陶質土器 瓦 小計	1 4 1 7 13	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	3 8 3 14 28	3 8 3 14 28			
6～6.9	青磁 沖縄産施釉陶器 沖縄産無釉陶器 陶質土器 瓦 瓦質土器 小計	1 1 4 1 1 1 7	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0	1 1 6 1 4 1 16	1 1 6 1 4 1 16			
7～7.9	青磁 白磁 沖縄産無釉陶器 瓦 小計	1 1 1 1 4	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	1 1 3 1 6	1 1 3 1 6			
8～8.9	本土産陶器	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
9～9.9	沖縄産無釉陶器	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計		91	9	2	16	14	18	6	4	10	6	3	5	5	2	1	3	1	1	3	3	12	11	2	48	276			



第57図 円盤状製品

第27節 煙管

本地区では総数17点が得られ、材質には陶器製、磁器製、瓦質、青銅等が見られる。形態では、火皿、羅宇、吸口をつなげて使用する羅宇煙管と延べ煙管の二つがあるが、延べ煙管は1点のみでその他はすべて羅宇煙管となっている。また羅宇煙管の火皿にはパイプ形と、釣鐘形がある。各部位の計測と共に概要を以下に記した。

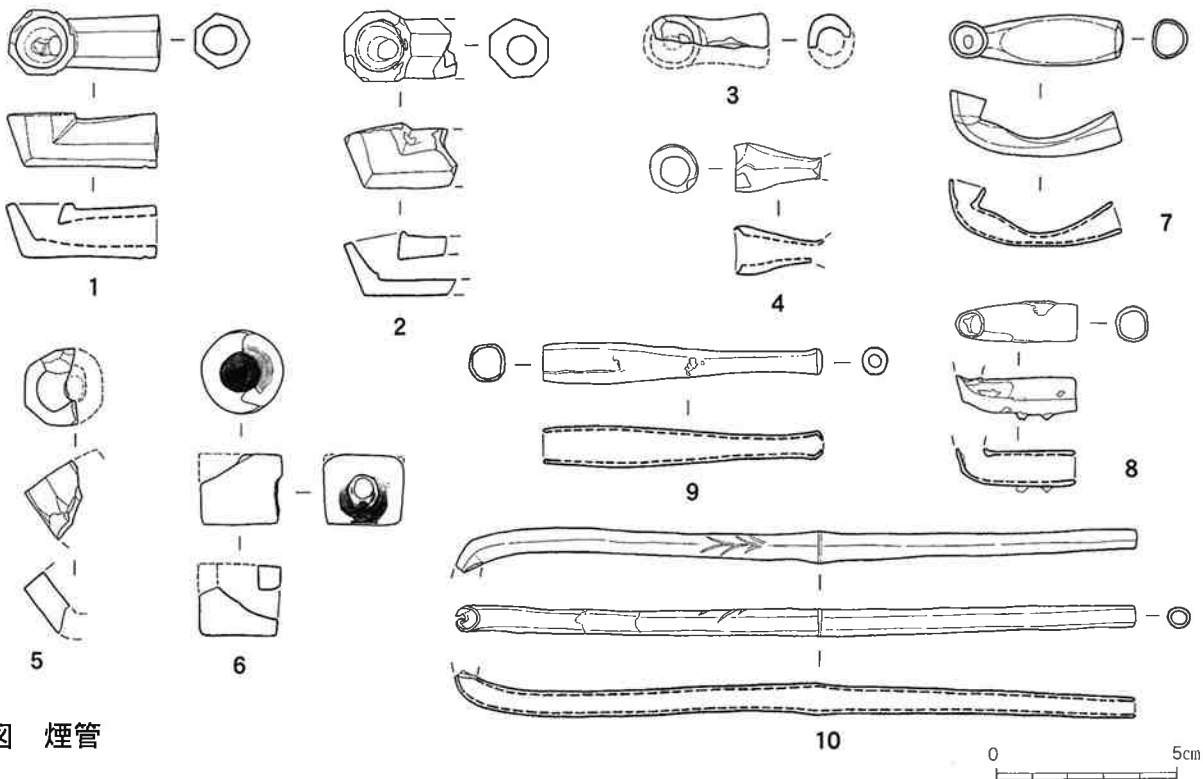
その他の煙管の出土状況は、陶製では無釉がM-23表土から1点、N-25南側3層より1点、L-24南側3層より1点、施釉では攪乱部から1点出土している。青銅製では、出土地不明が2点、L-22礫集中部より1点である。これらはすべて雁首である。

第42表 煙管観察一覧

単位：cm

番号	部位	材質	火皿	羅宇 接続部	吸口	高さ	長さ	観察事項	出土地
第58 図・ 図版 45	1	雁首 陶製	1.8 1.3	1.4 0.8	-	1.3	4	一部欠損するが、ほぼ完形の火皿。火皿は八角、胴部は七角で成形されている。焼成時の火の受け具合で黒味を帯び、内面は暗褐色を呈する。	I-22北側3層
	2	雁首 陶製	1.9 1.2	1.6 0.7	-	1.5	-	火皿、胴部とも八角で成形。外面には自然釉と思われる黒色を呈する箇所がある。内面は暗褐色。	不明
	3	雁首 陶製	(1.5) (1.1)	(1.5) (0.7)	-	-	(3.4)	全体的に丸みを帯びた雁首。厚みも3~4mmと図2・3と比べ薄手である。	不明
	4	吸口 磁器製	-	1.2 0.9	-	1.3	-	羅宇接続部分は内側に一段稜をつくる。外面は成形時の指ナデがされ、全体に黄緑色の釉が掛かる。	不明
	5	雁首 瓦質	(2.1) (1)	-	-	-	-	破片ではあるが大きめの火皿。外面は面取りされ、全体では八角になるかと思われる。内縁は熱のため灰褐色に変色している。	J-28南側1層
	6	雁首 瓦質	(2.2) (1.1)	7.8 -	-	1.8	2.2	よく使用されていたのか内側や火皿の縁、羅宇接続部分の周辺まで煤けている。	石列D
	7	雁首 青銅製	1 0.8	1 0.8	-	1.8	4.4	胴の部分が変形しているが火皿の完形。火皿の縁は羅宇接続部分より厚い。	不明
	8	雁首 青銅製	- -	1 0.8	-	(1)	(3.3)	火皿の付け根から欠損している。7よりは若干小ぶりだが断面の厚みがある。縦に合わせ目の稜が見られる。	表土・攪乱
	9	吸口 青銅製	- -	0.9 0.7	0.7 0.3	1	7.7	羅宇接続部分から、吸口に向かって1.5mm、合わせ目の稜が走る。断面は1mm弱と薄手。	攪乱
	10	胴部~ 吸口	青銅製	- -	- -	0.6 0.4	1.3	18.7	火皿上部を欠損する延べ煙管。植物の笹を模しているのか中央に節のような2本の稜、その上部には6枚の葉が彫られている。

注 () : 推定計測, 「-」: 計測不可。



第58図 煙管

第28節 貝製品

ボタン状製品、碁石の出土が確認された。ボタン状製品はヤコウガイ又はチョウセンサザエ、碁石はチョウセンサザエの蓋を利用したものと思われる。

ボタン（第59図1～3）

第59図1は、直径1.5cm、厚さ1mmを測る。中央に約2mmの孔を2個穿孔する。両面に光沢があり、裏面には殻の一部と肋が確認できる。L-26 攪乱から出土。

同図2は、直径1.3cm、厚さ2mmを測る。中央に約2mmの孔を2個穿孔する。表面には光沢があり、裏面には殻の一部が付着している。K-22トレンチから出土。

同図3は、直径1.5cm、厚さ2mmを測る。中央に約2mmの孔を4個穿孔する。表面には光沢があり、裏面には殻の一部が付着している。K-23ピット3（攪乱）から出土。

碁石（第59図4）

同図4は、直径2cm、厚さ5mmを測る。ほぼ正円に整形され、横断面はレンズ状を呈している。僅かに成長線も確認できる。G-21攪乱から出土。

<参考文献>

「御細工所跡」 『那覇市文化財調査報告書』第18集 那覇市教育委員会 1991年3月

第29節 骨製品

歯ブラシ・脊椎骨有孔製品・板状製品・骨針・棒状製品・ヘラ状製品・サイコロの出土が確認された。総数35点の骨製品が得られ、うち22点を第59図に示した。以下個々に詳細を述べる。

歯ブラシ（第59図5～8）

5は、歯ブラシの頭部。残存長2.6cm。植毛の為と思われる小孔が4列あり、両端と内側の2列が交互にくる配列である。全体に研磨が施されている。頭部の先端は丸い。M・L-20石列Dから出土。6は、歯ブラシの柄。残存長10.2cm。断面は四角形を呈する。あまり丁寧な研磨は施されておらず、全体に骨の質感が残っている。柄は湾曲しており、先端には青銅製の釘の様なものがはめ込まれ、周辺には青錆が付着している。僅かに残った頭部の状況から孔は、4列あったと思われる。L-21瓦溜まりCから出土。7は歯ブラシの柄。残存長8.8cm。断面は半円形を呈する。裏にプラスチック製の板状のものが、青銅製の金具によって止められている。それは自在に動き、実用的に使われていたと思われるが詳細は不明。J-26南側1層から出土。8は、歯ブラシの柄。残存長8cm。断面は三角形を呈する。柄の先端には、径2mmの孔がある。本品は出土資料の中で最も丁寧な仕上がりで、光沢もある。表土・攪乱から出土。

脊椎骨有孔製品（第59図9～12）

9・10はメジロザメ科の脊椎骨を、11・12はエイの尾椎骨を利用し、その中央部を穿孔している。9は被熱した為か全体的に黒く変色している。直径2.9cm、厚さ1.3cm、孔径3mm、I-21ピット8から出土。10は直径2.1cm、厚さ8.5mm、孔径8mm、J-27南側3層から出土。11・12は2点とも縁を削られている。特に12は片面の縁が他の一面よりも一回り小さくなるほどに深く削られている。11は直径1.8cm、厚さ7mm、孔径2mm、H-18北側4層から出土。12は、直径1.7cm、厚さ8mm、孔径1.5mm、出土地不明。

板状製品（第59図13～20）

牛あるいは馬の骨を研磨整形している。半月状（13～17）とのべ板状（18・19）がある。前者に関しては、大きさが4cm前後とほぼ同じで、図示した中には研磨の著しい箇所があり、その部分が研ぎ出された状態になっているものも見受けられる。後者はいずれも破損している為、用途などの詳細は不明である。

13は裏面に骨の海面組織が残存するものの全面に研磨が施されている。特に表面の一端に著しく、擦痕が横位にはしっている。長さ3.9cm、厚さ2mm。J-21畦から出土。14も裏面に僅かに骨の海面組織が見られるが、全面に丁寧な研磨が施されている。擦痕が側面は斜位に、また表と裏の一端に横位にはしっている。長さ3.8cm、厚さ2mm。K-23石列Aから出土。15は一端を両面からの研磨によって研ぎ出し、刃部を形成している。他端は欠損。片面に薄く二条の溝がはしっているのが確認できる。残存長3.3cm、厚さ2mm。L-20北側4層から出土。16は表裏面にアルファベットの「W」に似た溝が彫られている。擦痕が側面には斜位に、弧の部分には横位にはしっている。長さ3.5cm、厚さ2.5mm。J-18北側3層から出土。17は形状的にはのべ板に近い。両面のほぼ中央に格子状

の溝が彫られている。片面のみ研磨が著しいが、一端が両面からの研磨により研ぎ出され、刃部を形成しているが、15程著しくない。加工途中だったと思われる。長さ4.2cm、厚さ3mm。K-18ピット9から出土。18はのべ板状を呈し、一端が隅丸になっている。特に目立ったキズや研磨の痕も見受けられない。他端が欠損している為、全体の詳細は不明。残存長3.2cm、厚さ1mm弱と非常に薄い。J-26南側2層から出土。19は全面に擦痕が縦横にはしっている。両端が欠損している為、全体の詳細は不明。残存長5.6cm。出土地不明。天界寺跡（I）^{註1}に類例資料が報告されている。20は牛あるいは馬の肋骨を研磨加工したもの。全面に丁寧な研磨が施されているが、裏面は海面組織が僅かに残っている。正面観は、砲弾状に先端部が尖がり基端部は水平方向に整形されている。ほぼ中央に直径約2mmの孔が2個穿たれているが、その周辺に紐ずれ痕は見受けられない。下端の尖っている部分やその側面には、細かいキズがあり、使用痕かと思られる。実際に握ると手のひらにちょうど収まるぐらいの大きさであり、実用品ではないかと想定されるが、詳細は判然としない。長さ6.5cm。H-27北側4層から出土。

骨針（第59図21）

鳥骨の両端を斜めに削いだ形状である。一端が破損しているがほぼ完形品である。中が空洞のため非常に脆い。長さ8.6cm。I-25南側2層から出土。

棒状製品（第59図22・23）

22は牛か馬の骨を棒状に成形し、一端が先細くなっている。断面形は丸い。長さ11.6cm。L-20北側4層から出土。23は牛あるいは馬の骨を棒状にし、先端部を鉤状に成形している。他端は欠損。断面は扁平な五角形状を呈する。現代の裁縫用に使用されている編み針と形状が同じである。残存長約6cm。F-20表土・攪乱から出土。

ヘラ状製品（第59図24）

牛あるいは馬の骨を利用しており、丁寧に研磨が施されている。本品は刃部と柄部からなる。刃部は両面から研ぎだされており、煤のようなものが付着している。柄は若干のひねりがあるが、非常に握りやすい形である。先端には径3mmの孔がある。中間部が破損しているものの、全長は約10cm前後であったと推察される。御細工所跡^{註2}喜友名貝塚・喜友名グスク^{註3}に類似資料の報告がある。出土地不明。

サイコロ（第59図25）

牛骨を一辺が約1cmの立方体に成形し、研磨を施している。全体的に黒く変色している。各面の数の目は浅く掘られており、大きさや並びは揃っている。対面する数の目を足すと「7」になる仕組みは現代のサイコロと変わらない。北側3層からの出土。サイコロの出土例は勝連城跡^{註4}などの報告があるが、最近では喜屋武グスクからの出土も報告されている。^{註5}

不明（第59図26）

牛あるいは馬の骨を利用している。長さ3.3cm。断面形は丸い。らせん状の溝があり、わずかだが磨耗が見られる。何かにはめ込んで使用したと思われるが、実用的なものと言うよりは、装飾的な観が強い。溝以外の部分には、丁寧な研磨が施され光沢もある。下端に行くにつれ先細くなっており、先端は丸い。詳細は不明。出土地不明。

<註>

- 註1 「天界寺跡（I）」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第2集 沖縄県立埋蔵文化財センター 2001年3月
註2 「御細工所跡」『那覇市文化財調査報告書』第18集 那覇市教育委員会 1991年3月
註3 「喜友名貝塚・喜友名グスク」『沖縄県文化財調査報告書』第134集 沖縄県教育委員会 1999年3月
註4 「勝連城跡」『勝連町の文化財』第6集 勝連町教育委員会 1984年3月
註5 沖縄タイムス朝刊 市町村20面カラー掲載 2002年2月5日

<参考文献>

- 「湧田古窯跡（IV）」『沖縄県文化財調査報告書』第136集 沖縄県教育委員会 1999年3月
「伊原遺跡」『沖縄県文化財調査報告書』第73集 沖縄県教育委員会 1986年3月
「首里城跡」沖縄県教育委員会文化課・編 昭和63年3月

第43表 錢貨観察一覧

単位mm/g

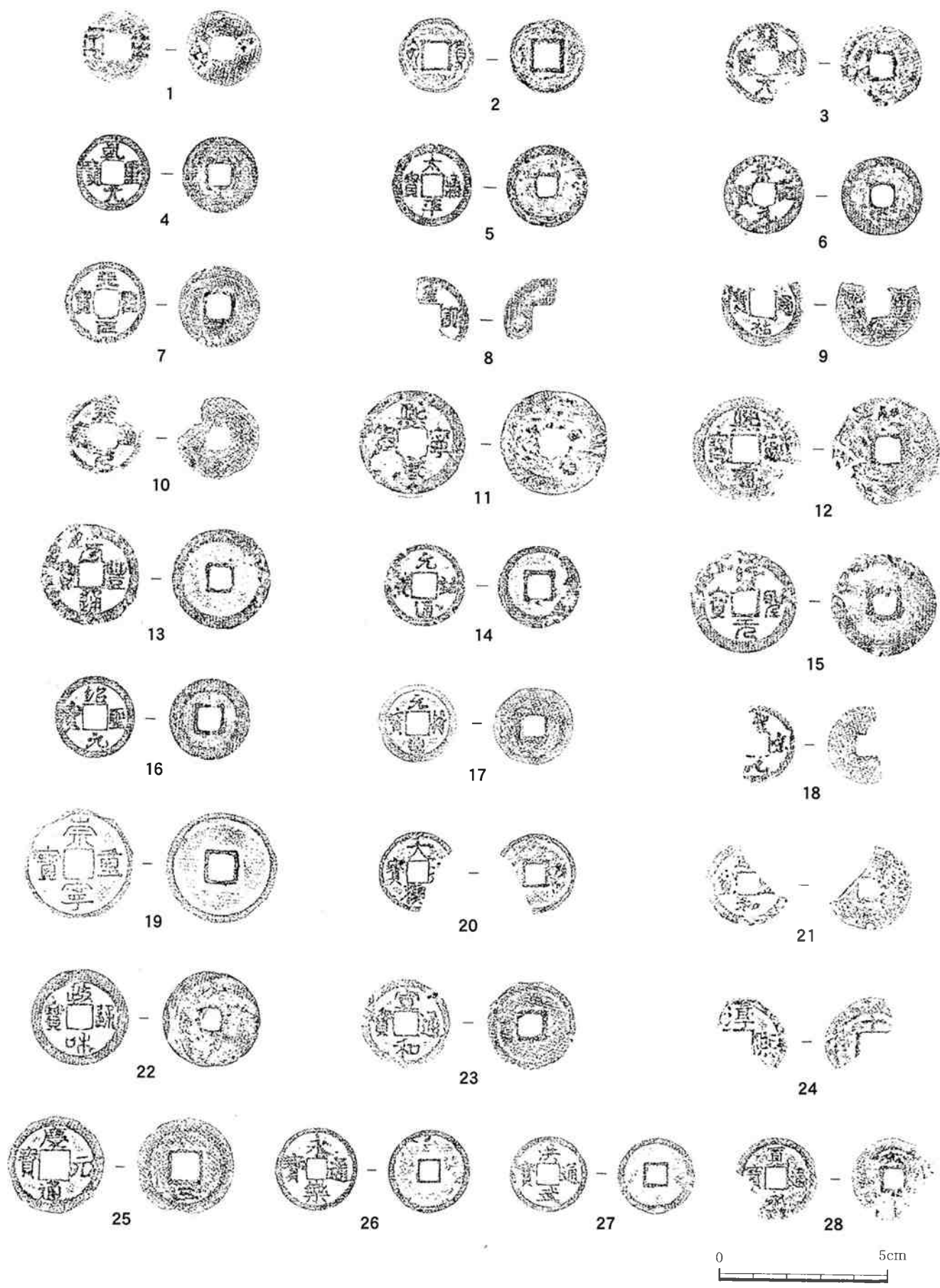
番号	銭文	銭種	背文	書体	時代 初鑄年代	外縁外径 外縁内径	外縁厚 内縁厚	孔径 縦×横	重さ	完/破	観察事項	出土地	
第60図・図版47	14	元祐通寶	元祐通寶	無文	行書	北宋 1086年	24 21	2.0 0.5	7.0 6.0	3.8	完	全体的に青緑色の錆で覆われる。左上にわずかな欠けがみられる。錆と摩滅のため「寶」が不明瞭になっているが、判読は可能。	北側3層
	15	○聖元寶	紹聖元寶 折二銭	無文	篆書	北宋 1023年	31 23	2.0 0.5	6.0 6.0	7.5	完	左上と上文字に錆の塊が付着。「聖」「寶」は潰れて不明瞭だが判読は可能。銭文と書体から紹聖元寶折二銭であると思われる。	畦
	16	紹聖元寶	紹聖元寶	無文	行書	北宋 1094年	24 19	1.0 0.9	7.5 6.5	3.1	完	「寶」の文字が摩滅により不明瞭だが、他の三文字は明瞭に観察できる。	表土・攪乱
	17	元符通寶	元符通寶	無文	行書	北宋 1098年	24 19	1.3 1.0	6.0 6.0	3.7	完	保存状態は良好だが、「符」「通」「寶」が摩滅により不明瞭である。判読は可能。	コーラル敷A
	18	聖宋元□	聖宋元寶	無文	行書	北宋 1101年	24 19	1.5 0.5	6.0 —	2	1/2	左半分が欠損。摩滅のため「聖」「宋」「元」が不明瞭だが、判読は可能。聖宋元寶になると思われる。	ピット
	19	崇寧重寶	崇寧重寶 当十銭	無文	篆書 ?	北宋 1103年	33 29	2.0 0.5	8.0 8.0	7.1	完	保存状態が良好で、文字も明瞭。	造成層
	20	大觀□寶	大觀通寶	無文	楷書	北宋 1107年	24 20	1.3 1.0	6.0 6.0	2.4	3/4	右文字が欠損しているが、「大」「觀」「寶」の三文字から大觀通寶になると思われる。	北側1層
	21	□和□寶	政和通寶	無文	楷書	北宋 1111年	25 20	1.5 0.5	6.0 6.0	2.4	3/4	上文字の一部と右文字が欠損。上文字は残存部位から「政」の可能性が高いため、政和通寶になると思われる。	北側3層
	22	政和通寶	政和通寶	無文	篆書	北宋 1111年	29 22	2.0 1.0	6.0 6.0	8	完	「通」「寶」がやや潰れているが、判読は可能。他の二文字は明瞭である。	表土・攪乱
	23	宣和通寶	宣和通寶	無文	楷書	北宋 1119年	27 22	2.0 0.5	6.0 6.0	5.5	完	右下から左下にかけて、縁がところどころ欠けている。右上と右下の縁には錆が付着。「宣」「通」「寶」の文字がやや潰れているが、判読は可能。	北側4層
	24	淳熙□□	淳熙元寶	十	真書	南宋 1174年	— —	2.0 0.5	— —	2.4	1/2	下文字と左文字が欠損。全体的に青緑色の錆で覆われる。「熙」がやや潰れているが判読は可能。背文と銭文から淳熙元寶になると思われる。	ピット
	25	慶元通寶	慶元通寶	三	楷書 ?	南宋 1195年	29 23	2.0 0.5	9.0 9.0	6.5	完	全体的に淡褐色の錆で覆われる。銭文は明瞭。背文は不明瞭だが判読は可能。	ピット
	26	永樂通寶	永樂通寶	無文	楷書 ?	明 1408年	25 21	1.5 0.5	6.0 5.0	2.6	完	「寶」がやや潰れているが、他の銭文は明瞭。	北側4層
	27	洪武通寶	洪武通寶	無文	楷書 ?	明 1368年	22 19	1.8 1.0	5.0 5.5	3.5	完	「寶」がやや潰れているが、他の銭文は明瞭。	表土・攪乱
28	寛永通寶	寛永通寶	文	楷書	江戸 1668年	25 20	1.5 0.5	6.0 5.0	2.8	3/4	全体的に淡褐色の錆で覆われる。左下が一部欠けている。銭文・背文ともに不明瞭だが、判読は可能。	表土・攪乱	

□—欠損 ○—判読不能

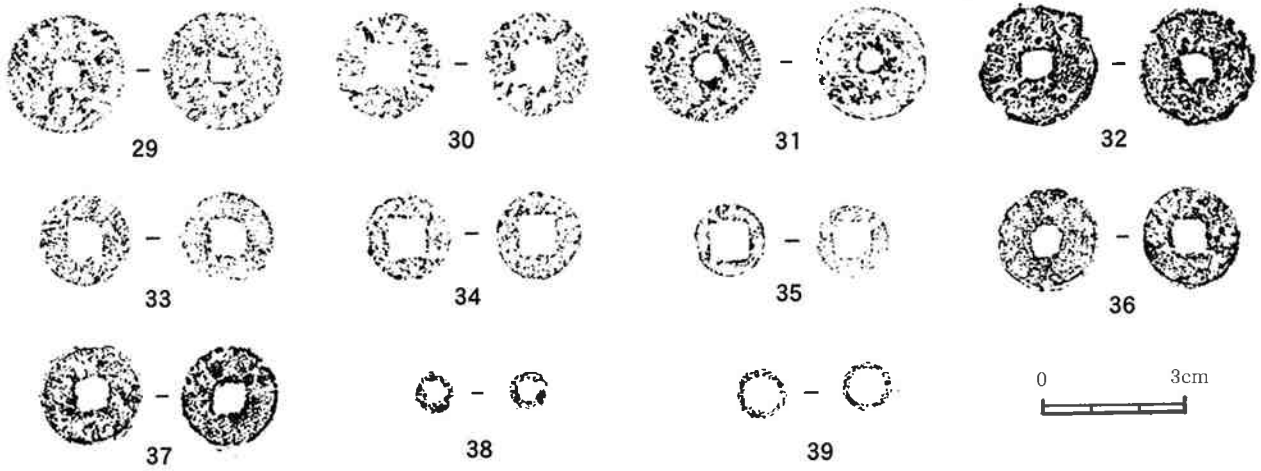
第43表 錢貨観察一覧

単位mm/g

番号	銭種	分類	最大径	厚さ	孔径 縦×横	重さ	完/破	観察事項	出土地
第61図・図版48	無文銭	A-I-1	24	1.8	5.0 5.0	2.8	完	全体的に褐色の錆で覆われる。	北側2層
		A-I-1	22	1.8	8.0 8.0	2.1	完	全体的に淡褐色の錆で覆われる。	地山直上
		A-II-1	23	1.9	5.0 5.0	3.6	完	全体的に青緑色の錆で覆われる。裏面には淡褐色の錆が付着。	ピット
		A-III-1	23	1.4	6.0 5.0	1.8	完	完形に近いが、縁が一部欠けている。全体的に青緑色の錆で覆われる。	遺構
		B-I-1	19	1.1	7.0 7.0	0.9	完	全体的に淡褐色の錆で覆われる。	不明
		B-I-1	18	1	7.5 7.5	0.5	完	全体的に淡褐色の錆で覆われる。縁に欠けが数カ所みられる。	北側1層
		B-I-2	15	0.7	8.0 7.5	0.4	完	全体が淡緑色の錆に覆われる。穿内の角のひとつがやや丸みを帯びている。	南側1層
		B-II-1	20	0.8	6.5 6.0	1	完	全体的に淡褐色の錆で覆われる。穿は円に近いがやや角張っている。	コーラル敷A
		B-III-1	20	0.9	7.0 6.0	1.4	完	全体的に淡褐色の錆で覆われる。	南側4層
		C-II-2	8	1.3	8.0 6.0	0.1	完	全体的に淡褐色の錆で覆われる。縁が一部欠けている。	南側4層
		C-II-3	10	1.1	4.0 3.0	0.1	完	全体的に淡褐色の錆で覆われる。	不明



第60圖 錢貨 (有文)



第61図 錢貨（無文）

第31節 青銅製品

本地区からの青銅製品には簪を中心に、武具類や香炉、家具等の装飾金具と考えられるもの、棒状製品などが見られた。以下に各製品について概観する。

簪 簪は、総数8点が得られ、そのうち形状の特徴的な5点を第62図に示した。主にⅠ類：竿の断面が四角で頭部に花を持つもの、Ⅱ類：耳搔き状あるいは匙状の頭部（カブ）を呈し、首や竿部分が六角になるもの—に大別できる。

Ⅰ類には第62図1（花）と第62図2（竿部分）がある。この類の竿部分は通常一首、ムディ、竿と区分できるが、図2は残存のもので見るかぎりすべて竿のような形状を示している。簪以外の製品も想定されたが、先端にいくにしたがい細くなり、上部が接合痕を印象づけるような状態である事から、簪として扱った。一方Ⅱ類では、匙状の簪は得られず、耳搔き状のものだけとなっている。法量、観察事項を以下の一覧に記す。

第45表 簪観察一覧

単位：mm/g

図番	番号	分類	完・破	残存長	残存重量	カブ 長軸 短軸	首 最大幅 最小幅 長さ	ムディ 幅 長さ	竿 最大幅 最小幅 長さ	観察事項	出土地
第62図・図版49	1	Ⅰ	破	21	2.4	—	—	—	—	表面は6つの花卉と花芯、さらに芯は7つの丸で表現されている。裏面は竿部分と接合するための板状のものが接していたと思われる。花の断面の厚みは2mm程度で模様等も含め丁寧なつくりの印象を受ける。	南側3層
	2	Ⅰ	破	205	13.9	—	—	—	4 2.2 205	花の部分が欠落したもの。残存が20cmあまりと長い。上部は断面がほぼ四角、中間付近から先端へは断面が隅丸で細くなる。首、ムディを区別する稜はなく、竿で全体が形づくられ、特徴的である。	石列D
	3	Ⅱ	完	180	7.94	28.5 5.5	2.6 2.2 32	2.5 2	2.7 1.9 117.5	カブは断面の厚さが2.1mm、内側もくぼまず平坦気味なので厚い印象を受ける。首から竿にむかって緩やかな稜をなし、ムディで互いの稜が交差する。竿はあまり細身ではなく先端部分だけが若干すぼまる。	南側3層
	4	Ⅱ	完	120.8	4.3	11 4	2.9 2.4 36	3 2	3.2 1.3 72.8	首、竿とも6つの稜をなし、ムディの部分で交差している。竿は先端にいくにしたがい細くなる。	表土・攪乱
	5	Ⅱ	完	92	2.1	7 3.8	2.2 1.7 18.5	2.4 0.7	2.5 0.9 69.4	カブは、耳搔き状で曲がり具合が強い。首にいくつかの稜があり、ムディ部分で交差しながら、竿では六角の稜となっている。全体的に細身の簪である。	遺構（I-22 造成層面）

その他の青銅製品 その他の青銅製品には多様なものが見られた。その中で残存状態が比較的良く、用途が推定できるものを第62図7～13、16に示した。

第62図6は5.3cm×1.85cm、厚さ1mm、重さ5.8gの金具。中央に孔が3つ、さらに全体に花や葉等を配する。I-21ピット5の出土。

同図7は刀の鏢で短軸（横）5.7cm、長軸（縦）6.6cm、厚さ4.5cmを計測した。茎孔（なかごあな）と呼ぶ中心の孔は縦が3.8cm、幅0.7cm、その周辺は切羽台で窪んでいる。片方のみ3つの稜で縁取られている。全体的に錆が付着。H-20ピット24より出土。

同図8は楕円で玉状の製品。長さ1.1cm、幅0.7cm、重さ2.7gで一部錆により変色している。J-27ピット39上部より出土。

同図9と10は側面が半円を描くもので中は空洞になっている。前者は正面に溝が走っており鈴が想定される。重さ1.4g、方形状掘込み遺構より出土。後者は9より若干大きく、厚さは1mm程度と薄い。重さ2.7g、H-23南側2層より出土。

同図11は釘のような形状で頭部は角が面取りされ、孔があいている。下部は断面が四角で、装飾物の留め具と考えられる。残存長1.7cm、重さ2.1g、I-14北側4層より出土。

同図12は青銅製香炉の足で、獅子を模している。上部は香炉本体と接合するための突起があり、裏面は空洞で型により成形された事が窺える。K-17北側1層より出土。

同図13は分銅で重さ10.9g。材質は表面の色や錆の具合から真鍮とも考えられる。文字の様な沈線が刻まれている。I-28南側3層より出土。

第62図16は残存長5.3cmの細身の角釘で頭部はすぼんだような形状になっている。暗青色で断面は方形。J-27溝状遺構より出土。

第46表 青銅製品・鉄製品出土状況

種類	出土地	表土・攪乱	畦	トレンチ	南側				北側				地山直上	基壇	コイラル敷A	方形状掘込み遺構	コイラル敷B	石列D	石列E	石垣A	石垣C	溝状遺構D	溝状石列	瓦溜まりC	ビット	遺構	不明	合計	
					1層	2層	3層	4層	1層	2層	3層	4層																	
青銅製品	簪	I	2				1										1											4	
		II	1				1																		1			4	
	角釘		1	1				1																		1	3		
	蹄鉄		1																									1	
	鍔		1																									2	
	金具類		4			1	3	1		1			1	4	4	1							1	1			2	3	
	武具小物		1	1													1											8	
	板状製品		8	1		3	3	1		1										1					3	2	4	43	
	棒状製品		4	1		1	3	1		1											1				3	2	4	32	
	さじ状製品		2																										2
	筒状製品																												1
	輪状製品		1				1								1											1	2	10	
	粒状		6	2	1	2	1			1				7	1	1	1							1	2	4	36		
不明		1	1		1		1		1				1	1			2						2		4	8			
合計		27	7	1	8	11	4	1	5		16	19	6	2	12	1	1	2	1	2		1	2	2	13	6	26	176	
鉄製品	角釘		1	4			1	1	3	5	2	6	4		3	1			1	1	3	1		1	4	1	1	44	
	丸釘		1							1																		2	
	笠釘		1																									1	
	蹄鉄		1																									2	
	金具																											1	
	鍔											1																1	
	小札												1												1			1	
	刃子		1																									1	
取手		1																									1		
合計		7	4	0	0	1	1	3	6	2	7	5	0	0	3	1	0	0	1	1	3	1	0	1	5	1	1	54	

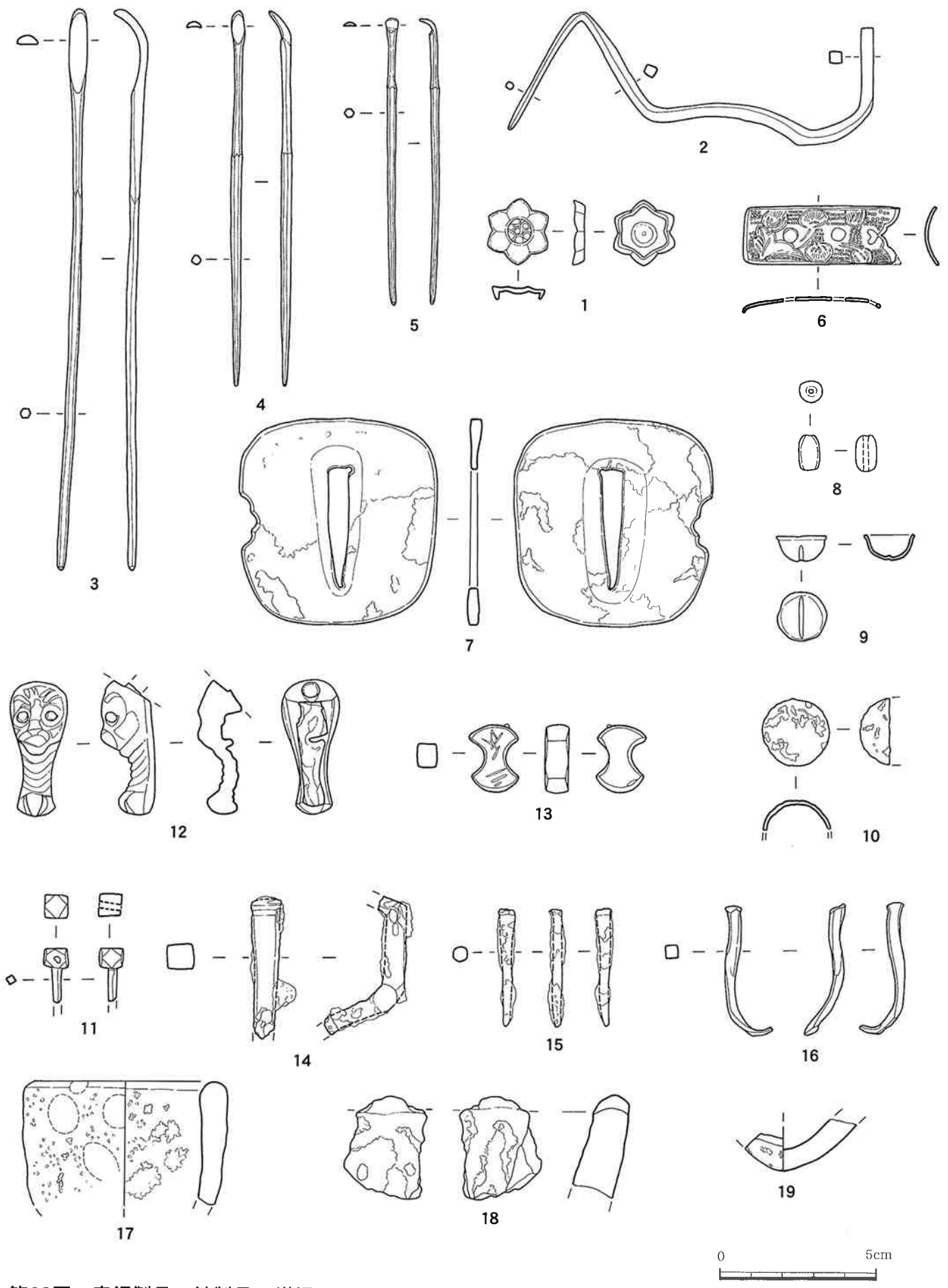
第32節 鉄製品

総数54点の鉄製の製品があるが、形状の不明なものが多い。その内比較的原形をとどめている釘数点を掲載した。その他種類や出土状況については一覧表を参照していただきたい。

第62図14は残存長約5.6cm、最大幅1cm、重さ9.5gの角釘で、下部が欠損している。頭部は逆L字形になる。K-18北側4層より出土。同図15も断面が方形の角釘で残存長3.8cm、重さ1.9g、出土地J-24北側3層。

第33節 埴埜

第62図17は、推定口径6.4cmの埴埜で口唇断面は丸くなる。外面が黒色、内面は暗茶褐色で両面とも大小の気泡が生じている。出土地G-17北側4層より出土。同図18は17より器壁が厚い。内容物が付着したため、特に内面に凹凸がある。出土地不明。同図19は埴埜の底部で両面とも黒色を呈する。L-21瓦溜まりCより出土。



第62図 青銅製品・鉄製品・埴埴

第34節 玉類

玉類は総数22点が出土した。そのうち11点を第63図に示した。形態から分類すると勾玉2点、切子玉2点、丸玉18点となる。そのうち丸玉には白形・卵形の2種の形状がみられ、白形16点、卵形1点、不明1点となっている。材質^{#1}から分類すると勾玉のうちヒスイ製1点、貝製と思われるものが1点、丸玉のうち流紋岩質と思われるものが1点で、他はすべてガラス製である。出土層別にみると、勾玉が表土・攪乱、ピットから各1点、切子玉が北側3層、瓦溜まりCから各1点、丸玉が表土・攪乱、ピットから各2点、南側2層、北側3層、コーラル敷B、石列A、瓦溜まりCから各1点、出土地不明のものが9点となっている。

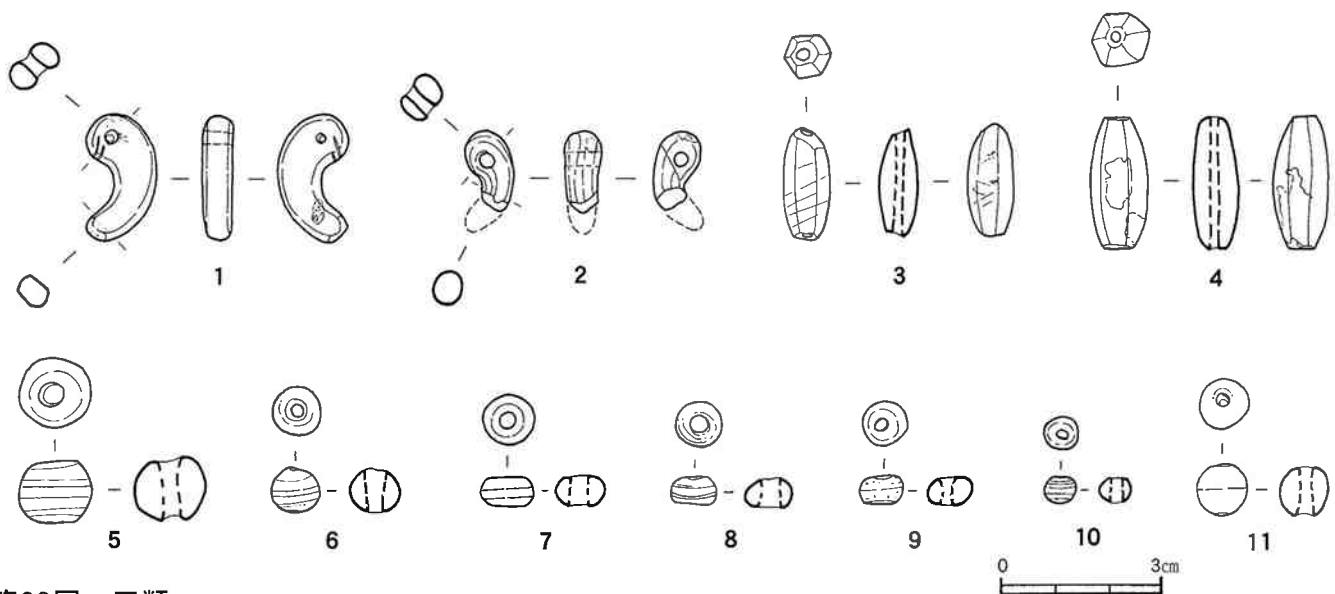
(註)

註1. 材質の同定は神谷厚昭氏の御教示による。

第47表 玉類観察一覧

単位mm/g

第63図 図版48	高さ	直径	孔径	残存 重量	形態	形状	材質	色調	観察事項	出土地
1	23 (長さ)	6 (幅)	2	2.3	勾玉	—	ヒスイ	緑色	両面が丁寧に磨かれ、滑らかで光沢がある。頭部の下部から孔に向けて溝が2本入っている。色調は緑を基調とするが、表面があせて茶色とまだらになっている。	表土・攪乱
2	29 (長さ)	7 (幅)	3	1.1	勾玉	—	貝製?	茶色	尾部を欠損する。表面は大部分が剥落し、白色の素地が露出している。また、数条の筋が観察できる。	ピット
3	21	8	2	1.8	切子玉	六角錘	ガラス	淡褐色	側面が丁寧に面取りされ、上面観は六角形を呈す。側面観は胴部がゆるやかに膨らみ、上下端がすばまる形状を呈す。上端が一部欠けており、緑色の素地が観察できる。	北側3層
4	35	12	2	2.0	切子玉	六角錘	ガラス	淡褐色	側面が面取りされ、上面観は六角形を呈す。側面観は胴部がゆるやかに膨らみ、上下端がすばまる形状を呈す。風化により表面が粉っぽくなり、ザラザラしている。	瓦溜まりC
5	13	11	3	2.3	丸玉	白形	ガラス	赤色	上・下面が平坦に仕上げられている。下面が僅かに欠けている。表面はなめらかで、螺旋状の筋が確認できるため、巻きつけ技法により作られたと思われる。	北側3層
6	7	9	3	0.7	丸玉	白形	ガラス	深緑色	下面が平坦に仕上げられている。表面がアバタ状を呈し、ザラザラする。螺旋状の筋が明瞭に観察できるため、巻きつけ技法により作られたと思われる。	表土・攪乱
7	5	9	3	0.7	丸玉	白形	ガラス	透明	上・下面が平坦に仕上げられている。内部に細かな気泡が見られる。保存状態が良好でなめらかな表面。螺旋状の筋が観察できるため、巻きつけ技法により作られたと思われる。	コーラルB
8	5	9	4	0.5	丸玉	白形	ガラス	青緑色	下面が平坦に仕上げられている。表面にアバタが若干観察できる。螺旋状の筋が明瞭に観察できるため、巻きつけ技法により作られたと思われる。	不明
9	5	9	3	0.7	丸玉	白形	ガラス	緑色	上・下面が平坦に仕上げられているが、左右で高さが異なる。表面はアバタ状を呈し、ザラザラしている。螺旋状の筋がみられるため、巻きつけ技法により作られたと思われる。	不明
10	6	5	2	0.3	丸玉	白形	ガラス	赤色	表面に黒い釉がまだらに観察できる。またアバタが若干観察できる。	不明
11	6	9	2	2	丸玉	卵形	流紋岩質?	黒・灰色のまだら	上・下面が平坦に仕上げられている。上面観はややいびつな円形を呈す。表面はなめらかで光沢があり、茶色の斑点が若干観察できる。	石列A



第63図 玉類

第35節 石器・石製品

今回の調査で確認できた器種は、石斧・敲石・磨石・砥石・硯・印鑑・台座・石臼・鉢・石球・基石の11器種で、破損品や製作途中にあるもの、石材まで含めると総数は142点である（第48表）。最も多く出土した石球は99点で、全体の約70%を占めている。一方で他の器種は数点の出土しかなく、石球の出土量の多さは特筆すべき事項であろう。出土地は表土・攪乱のものが多く、遺構から出土したものは僅かであった。以下、器種別に概略を記述していき、個々の特徴については第49表の観察一覧に記載する。なお、敲石と磨石、基石は集計のみ行ない、本文及び図化は割愛した。

石斧(第64図1・2)

2点とも磨製石斧と思われる資料であるが、刃部を欠くため刃の研ぎ出し方等の詳細は不明である。いずれも緑色片岩を利用した製品である。

砥石(第64図3～7)

石鱗状に形を整えたものから不定形で小型のものまで、様々な形状がみられた。研ぎ面には、いずれも溝状の使用痕が残る。石質は安山岩が主であるが、石斧等に利用される緑色片岩を用いたものもあった（第64図7）。なお、石質同定の結果、人工物を素材としたものがあったが、砥石という性格上、本項目で扱った（第64図4）。

硯(第65図1・2)

凝灰岩を利用した平均的なサイズの硯と、大理石（結晶質石灰岩）を利用して作られた小型の硯が出土している。

印鑑(第65図3)

篆刻で「純郎」と彫られた印鑑である^{註1}。表採資料で、朱肉が付着している点から、比較的新しい時期のものと思われる。

台座(第65図4)

器物等を置く台座のようなものが得られている。小破片ではあるが、図上復元を試みた結果、四足になるものと思われる。

石臼(第65図5・6)

石臼は、上下一組になっていることから、上臼をミームン（雌）、下臼をウームン（雄）と言う^{註2}。今回の調査では第65図5は上臼であるが、同図6は小破片のため、上臼か下臼かは不明である。これらは石質が異なるため、同一の石臼ではないと思われる。比較的新しい臼は落とし口を横へずらしているが、古いタイプの臼は中央に落とし口を設けてあるといい^{註3}、同図5は中央に穴があいていることから、古いタイプの石臼と言えよう。

鉢(第65図7)

鉢の底部と思われる資料だが、他の器物になる可能性もあり、詳細は不明である。

石球(第66図1～7)

石弾と称される場合もあるが、今回の資料は小型で軽量なため、石球として紹介したい。大きさは直径1.4cm程度の小さなものから、直径5.5cm大のものまであり、直径の最大値により3種類に分類を行った。

大……直径が3.5cm以上のもので14点得られた。重量の最大値は143g、最小値は41g、平均値は64gである。

中……直径が3.5cm未満から2.5cmまでのもので35点得られた。重量の最大値は40g、最小値は9g、平均値は23gである。

小……直径が2.5cm未満のもので29点得られた。重量の最大値は18g、最小値は3g、平均値は9gである。

石質は、ほとんどのものが石灰質の砂岩を利用したもので、なかには石球が2個もしくは3個くっついたような興味深い資料も見られた。これらは別に分類を行い、その結果2個タイプが19点、3個タイプが2点であった。しかし、石灰質砂岩は性質上、このような形状には自然状態でもなりうるようであり^{註4}、実際に今回の調査でも球状の瘤が沢山付いた石灰質砂岩が得られている。これらは何れも明瞭な加工痕は見られないため、自然状態と思われるが、このような形状は石球の材料として都合が良く、それぞれを打ち欠いて少し手を加えるだけで一度に沢山の石球を得ることも可能である。したがって今回は、このような資料を石材として積極的に解釈し、その内の1点を図化した(第66図5)。

<註>

註1. 篆刻文字の解読は、沖縄県立博物館の宮城 勉氏によるものである。記して感謝を申し上げます。

註2. 大城精徳 「思い出の中の民具トーフウーシを中心として」 『ヤチムン会誌』 1971年

註3. 上江洲 均 『沖繩の民具』 考古民俗叢書<12> 慶友社 1973年

註4. 砂岩（石灰質）の性質については、沖縄県立真和志高校の神谷厚昭先生に御教示をいただいた。記して感謝を申し上げます。

＜参考文献＞

『五体字類』 西東書房

『篆刻字林 普及版』 三圭社

第48表 石器・石製品出土状況

種類・分類	出土地	表土・攪乱	畦	南側				北側				墓壇	瓦溜まりC	ピット	遺構	不明	合計	
				1層	2層	3層	4層	1層	2層	3層	4層							
石斧	破損		1														2	
敲石	破損		1														2	
磨石	破損				1												1	
砥石	完形				1												2	
	破損																2	
硯	完形		1														3	
	破損																1	
印鑑	完形		1														1	
台座	破損																1	
石臼	破損		1														3	
鉢	口縁部																1	
	底部																1	
石球	大	完形	3														3	
		途中	11														11	
	中	完形	7			1											9	
		途中	17														1	
	小	破損	5			1											6	
		完形	13															16
	石材	途中	12															12
		破損	1															1
	基石	2口	19															19
		3口	2															2
用途不明	磨面有	完形															1	
		破損	2			2	1	1	1	1	1	2					3	
	加工面有	完形															1	
破損																1		
石材	破損																1	
合計			98	1	3	4	3	1	1	1	3	5	1	6	3	4	8	142

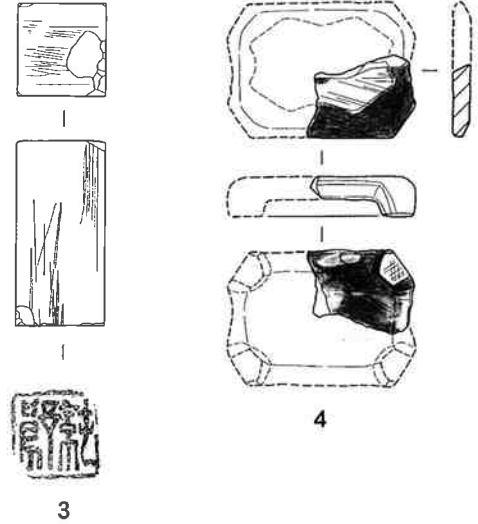
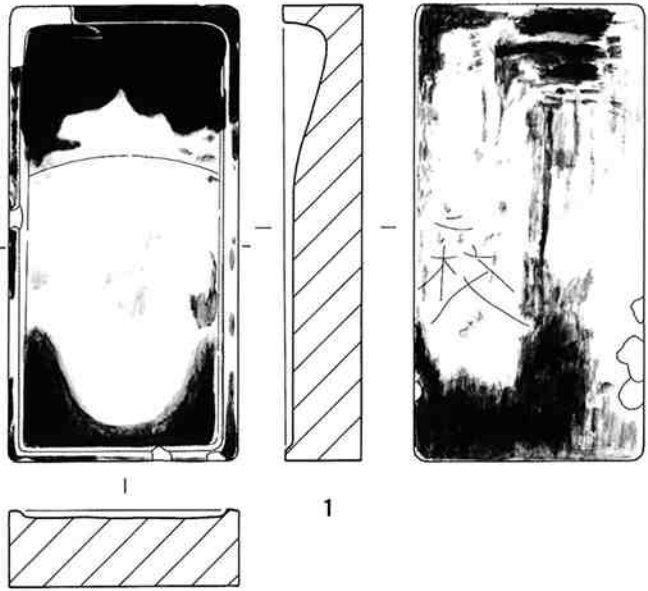
第49表 石器・石製品観察一覧

図番号	器種	状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	観察事項	出土地
第64図・図版50	石斧	破損	(6.6)	4.3	1.3	(63)	緑色片岩	磨製石斧で、基端部および周縁部を打割調整により整える。身の部分は表裏面ともに研磨が施されているが、丁寧ではない。刃部は欠損しているため、刃の研ぎだし方については不明である。使用による衝撃で破損してしまったものと考えられる。	表土・攪乱(爆弾穴)
			(10)	5.3	(1.3)	(100)		身の一部に研磨痕を有すが、調整は丁寧ではない。石斧としたが、大部分が欠損しているため詳細は不明である。	F-21墓壇
	砥石	破損	10.1	6.3	4.9	(460)	安山岩	石鏡状を呈す形状である。表面および側面を利用しており、いずれも滑らかな磨面である。表面中央には使用による深い溝が縦走る。上下端は敲打調整、裏面は打割調整のままである。	不明
			3.3	6.1	2	(52)	人工物	小型で、全体的に滑らかな磨面を呈す。研ぎ面には深い溝が二箇所に認められる。	不明
	完形	4.6	4.2	3.2	105	泥岩	小型で、全体的に滑らかな磨面を呈す。特に下端部はツルツルとした平坦面を形成し、細かいキズが多数見受けられる。表面には使用による深い溝が縦方向に二箇所、認められる。	H-22北側3層	
		5	6.8	2.8	106	安山岩	小型で、表裏面および下端部に磨面を有す。表面には使用による深い溝が二箇所に認められる。	H-25南側1層	
		破損	(11.7)	6.7	(2.6)	(255)	緑色片岩	表面および両側面に磨面を有す。裏面は欠損しているため詳細は不明である。表面中央部の剥がれ及び右側で縦方向に走る溝は、使用により生じたものと推測される。	不明
第65図・図版51	硯	完形	12.3	6.2	2.1	285	凝灰岩	全体的に墨が付着しているが、特に墨受け部には墨が残っている。墨受け部の深さは12mm、墨を擦る部分は2mmの深さである。裏面には「二校」の引っかけ文字が読みとれる。	J-16・17表土・攪乱
			7.2	4.8	0.8	60	大理石	小型の硯である。墨受け部は浅く5mm程度の深さで、墨を擦る部分にいたっては1.5mmの深さしかない。	不明
	印鑑	完形	5	2.4	2.5	80	蠟石	朱肉が残る印鑑である。篆刻で「純部」と思われる文字を刻む。先の尖った工具を用いているが、手がすべり誤って文字を削ってしまったと思われる箇所も見受けられる。彫りは甘く、丁寧ではない。全体的に細かいキズが多数あり、上部（手で握る箇所）は緩やかに弧状を描いている。	表探
	台座	破損	*3.6	*5	1.1	(6)		器物や置物をのせる、台座のようなものと思われる。破片から図上復元を試みた結果、上面観は両脇を挟った長方形で、四つ脚になると思われる。白っぽい半透明の蠟石に、薄く墨のようなもので色を塗り、図で示したデザインになると思われる。器面は丁寧に磨かれているが、石質が軟らかいため、キズが多数見られる。	L-25畦溝状遺構
	石臼	破損	*30	*30	(8.2)	(2270)	安山岩	直径30cmになると思われる上臼である。穀類の落とし口が中央にあり、推算径は6cmである。幅2.5cmほどの縁と側面は丁寧に成形されていて滑らかなであるが、窪んでいる中央の部分はゴツゴツしていて器面は粗い。久米島産の安山岩を利用している。	L-21瓦溜まりC
			(2.3)	(4)	(2)	(28)	砂岩	小破片であるため、上下どちらの白になるかは不明である。中央部の穴は直径2.7cm程度と推算され、これには上下の白を合わせる役目を持った金具がはめ込まれる。溝が彫られており、その幅は約1.5mm、深さは1mm程度で、本標品には四条認められる。目の細かいタイプの石臼と言えよう。	表土・攪乱(爆弾穴)
	鉢	破損	—	底径*18cm	(6.5)	(2500)		鉢の底部と思われる資料である。内側が滑らかに調整されているのに対し、外側はゴツゴツとした打割調整のままである。形状から鉢としたが、他の器物になる可能性もある。	H-21ピット11a
第66図・図版52	石球	完形	2	1.9	1.7	6.4		小に分類されるが、明瞭な調整痕は認められない。	表土・攪乱(爆弾穴)
			2.8	2.9	2.5	22.2		中に分類される。一部に制作時の敲打痕が認められる。	表土・攪乱(爆弾穴)
			3.8	4	3.7	68.2		大に分類されるが、明瞭な調整痕は認められない。ほぼ正円を呈す石球である。	表土・攪乱(爆弾穴)
		途中	4.9	5.3	3.9	127.5		大に分類されるが、形状は他の石球と比べて幾分扁平であり、敲打や剥離調整の途中と思われる。	表土・攪乱(爆弾穴)
		石材	3.6	8.1	3.6	106		石球の石材と思われる資料である。「く」の字状を呈しており、一見すると三個の石球がくっついたような感じをうける。分割すると、大1個、中2個の3個の石球を一度に得ることが可能である。明瞭な加工痕は見当たらず、また自然状態でも、このような形状にはなりやすい石質であるため、製品ではなく、石球を得るための石材として今回は扱いたい。	表土・攪乱(爆弾穴)
		途中	2.2	1.8	1.3	6.2		上記5のようなものを分割したものと考えられる。剥片部が残っており、丁寧な調整はされていない。	表土・攪乱(爆弾穴)
		破損	2.8	2.6	(1.4)	(116)		破損品と思われるが、詳細は判然としにくい。	M-24南側1層

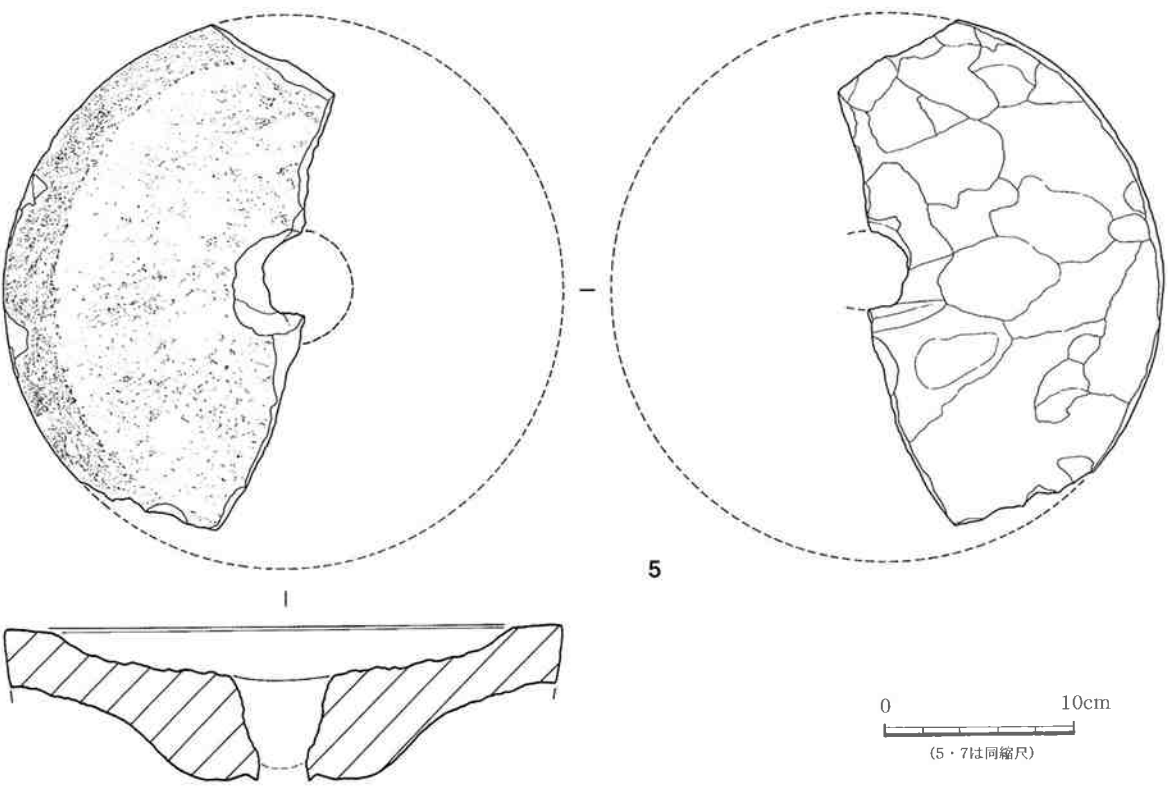
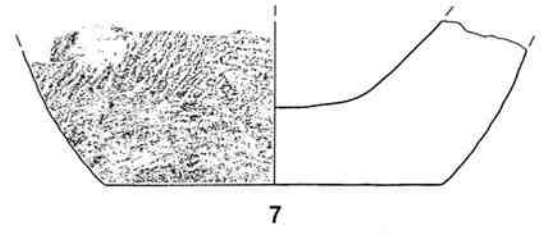
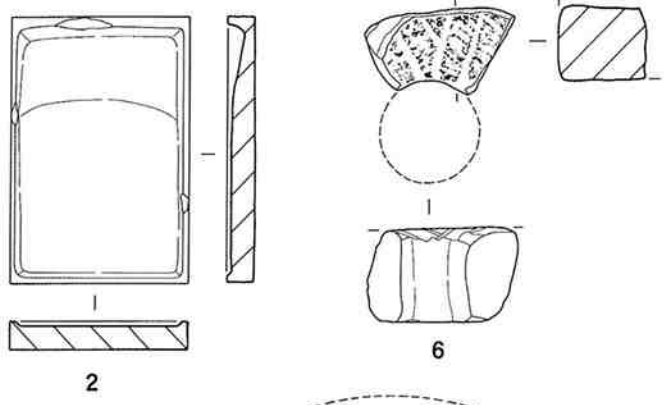
注 法量は最大値を計測し、破損品には()を付けた。「*」:復元した値、「-」:計測不可。



第64図 石器・石製品 (1)



0 5cm
(1~4・6は同縮尺)



0 10cm
(5・7は同縮尺)

第65図 石器・石製品 (2)

第36節 滑石製品

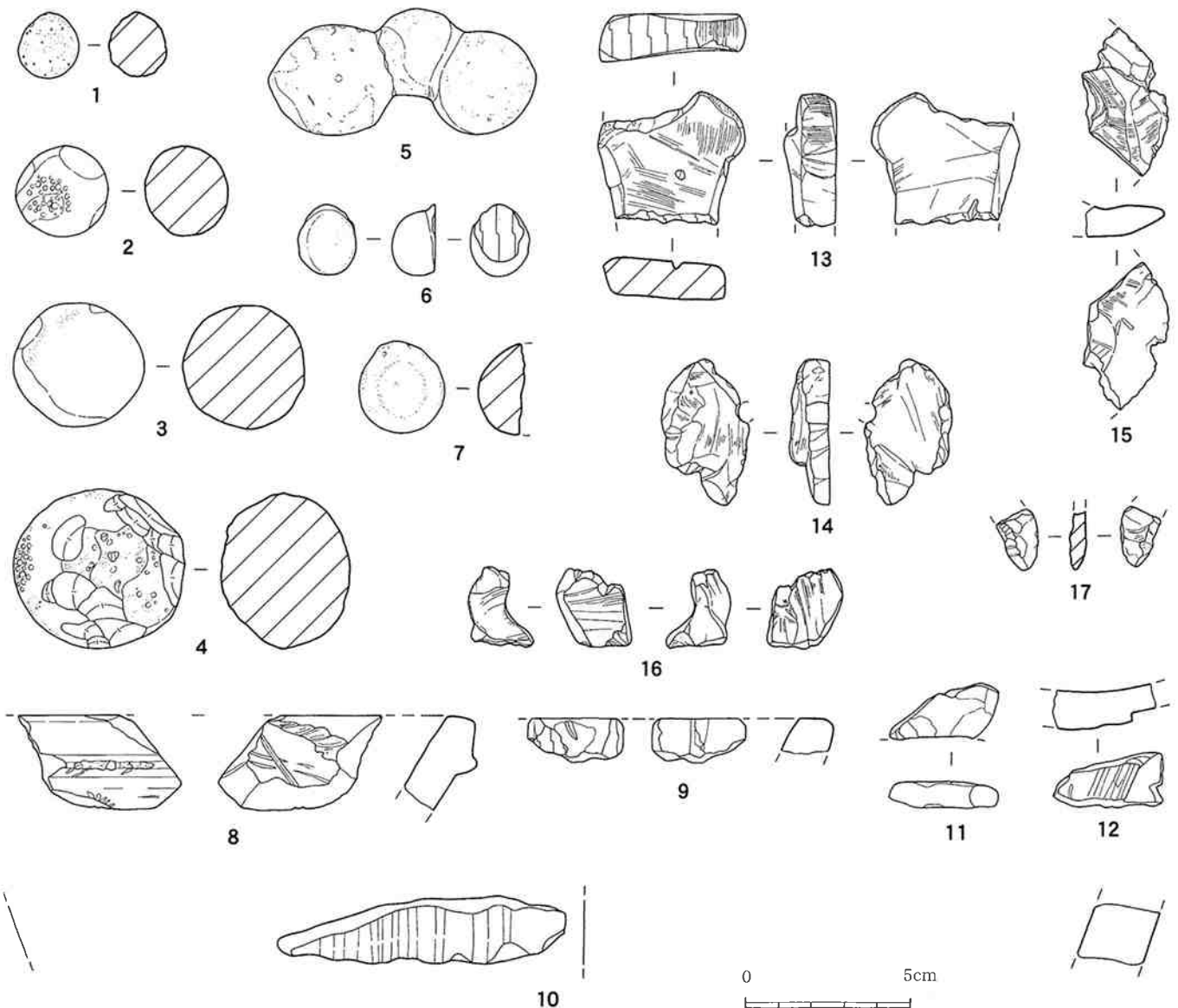
滑石製石鍋と破片の2次利用品をまとめてあつかった。総数11点が得られ、うち10点を第66図に示した。

石鍋は同図8~12で、いずれも小破片であり全形をうかがうことはできない。口縁部は鏝状をなすタイプ（同図8）と、直口と思われるタイプ（同図9）がある。2次利用品は同図13~17で、いずれも破片を研磨しているが用途は不明である。同図13は杓状、同図15は鏝状に形成しているため、何らかの用途が考えられるが、他は不明。

第50表 滑石製品観察一覧

図	種類	部位	計測値	観察事項	出土地
第66図 図版52	石鍋	8	—	鏝状の口縁部。鏝の形成は弱い。口唇部は平坦に形成する。	J-19北側1層
		9	—	直口のタイプ。口唇部を平坦にする。	H-20ピット20
		10	—	胴部片。研磨痕が残る。	I・J-16北側4層
		11	—	胴部片。研磨痕が残る。	I・J-16北側4層
		12	—	外底面に段を形成する。条線がみられる。	I-20造成層(20-30)
	2次利用品	13	重さ：34.1g	表裏、側面に研磨を施し、上辺などに条線。被熱のためか全体的に黒ずむ。	不明
		14	重さ：14.9g	表裏とも研磨し、側辺は手なれのためか角がとれる。孔の一端が残るが、2次加工か不明。巴旦杏形を呈する。	J-21畦
		15	重さ：11.8g	鏝状の製品。本来は円形であったと思われる。研磨および条線が明瞭。	G-20ピット14
		16	重さ：8.4g	不定形。研磨がみられる。	不明
17	重さ：1.1g	三角形。剥離調整か。	I-17ピット1		

注 「—」：計測不可



第66図 石器・石製品（3）・滑石製品

第37節 石像

調査地の東端に位置するL・M-22・23グリッドの表土から、表土除去中に石像の破片が検出されている。発見された地点は、平面が直径数メートルの円形で、丸底状にくぼんでいることから、第二次大戦時の砲弾穴の可能性が考えられる。これらの石像はこの穴の攪乱層からまとまって検出されていることから、これが砲弾穴だとすれば、終戦後に平場造成を行う際、そこに何らかの理由で破壊された石像を、まとめて埋設した可能性もある。

石像に関して『球陽』には、尚貞王28（1696）年に「仁王石像を護国寺の門に請安す」とあり、さらに同年「円覚寺の山門に改めて観音及び羅漢を奉ず」と記されている。この『球陽』中には、天界寺の石像についての記載はみられないが、これと同時期に安置した可能性も考えられる。しかし、表土からの出土ということもあり、時期的なものは判然としない。なお、『球陽』によると、この翌年にあたる尚貞王29（1697）年には、現在那覇市の指定史跡となっている旧天界寺の井戸が掘られたことが記されている。

石像はすべて頭部及び腕をはじめとした四肢は欠損しており、さらに胴体部も一部破損しているため、像の種類及び部位等に関して不明な点が多いが、この中で確認できるのは類似資料が2体分出土していることから、対で安置していたと考えられる金剛力士（仁王）像と思われる立像及び、蓮華の台座に倚坐した坐像及び立像に大きく二分することができる。石材はすべて安山岩で、石質同定により鹿児島県産の可能性が高いとする所見を得ている。

1. 金剛力士（仁王）像〈第67図 石像（1）〉

第67図1及び2は丸彫りの石像の上半身部で、第67図1は高さ66cm、最大幅47cm、最大厚39cmを測り、第67図2は高さ61cm、最大幅53cm、最大厚39cmである。筋骨隆々とした胴の両脇から首のうしろにかけ、裸体に天衣をまとっていることから、金剛力士（仁王）像と考えられる。2体分出土している内のひとつで、頭部・腕部は欠損している。本資料の底部は2体とも上げ底状に丸くくぼんでおり、くぼみの内部には鑿痕（のみあと）も見られることから意図的に彫り込まれたものとみられ、さらにくぼみの中に白色の漆喰が付着していることから、下半身部は凸状に加工した上で、漆喰を接着剤として上半身部に接合していたことが推測できる。しかし、下半身部は今回の調査では得られていないため、明確な接合方法は不明である。

第67図3は唯一得られた腕部の破片である。筋肉の形状から上腕二等筋の部分であり、その筋肉の付き方等から左上腕の破片と思われる。長さ33cm、最大径21cmを測る。衣服が彫刻されていないことから、金剛力士（仁王）像のものと思われたため、その胴体部である第67図1及び2の資料の肩部に接合を試みたが、接合部が欠けているため不可能であった。

2. 立像及び坐像〈第68図 石像（2）〉

石像の台座である蓮華座の部分が2点及び、これに関連すると思われる衣服の彫刻が施された石像の破片が1点得られている。

第68図4及び5は、丸彫り石像の台座と考えられる資料で、蓮華を模していることから蓮華座と呼ばれる。その上部には下半身の一部分が彫刻されているが、破損しているため像の種別等については不明である。第68図4の台座は、高さ58cm、最大幅48cm、最大厚53cmを測る。部分的に衣服の彫刻が覆うが、像の下部に幅広の蓮弁が彫られており、前面及び上部には衣服が表現されている。座した脚部らしきものが見られないことから、立像の可能性はある。底面は第67図1及び2と同様に上げ底状に彫り込まれており、端部に径1cmほどの溝を伴ったくぼみがみられ、そこに鉄錆が付着した状態が確認できることから、何らかの技法で接合する際に、鉄筋状の金属を用いていたことが想定できる。

第68図5も蓮弁が彫刻された台座であるが、第68図4の資料に比して蓮弁が精緻で、表現も優れている。前面両側には縦位に2本の脚部らしき陽刻が見られるが、右脚部は破損しているため、下ろしているのか、あるいはあぐら状に曲げているのかは判然としない。なお、台座に座って両足を下ろしている状態を善跏倚坐（ぜんかいぎ）、左脚を下ろし、右脚を横位に曲げている場合は半跏倚坐（はんかいぎ）と称しており、本資料はこのいずれかであったと思われる。

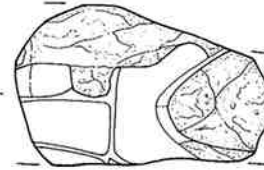
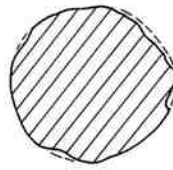
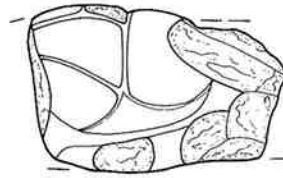
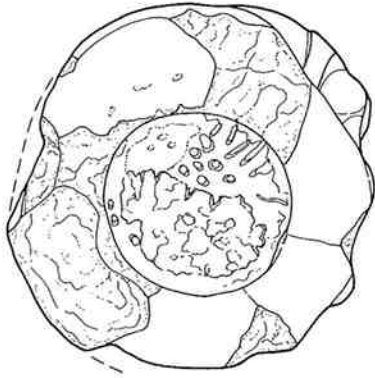
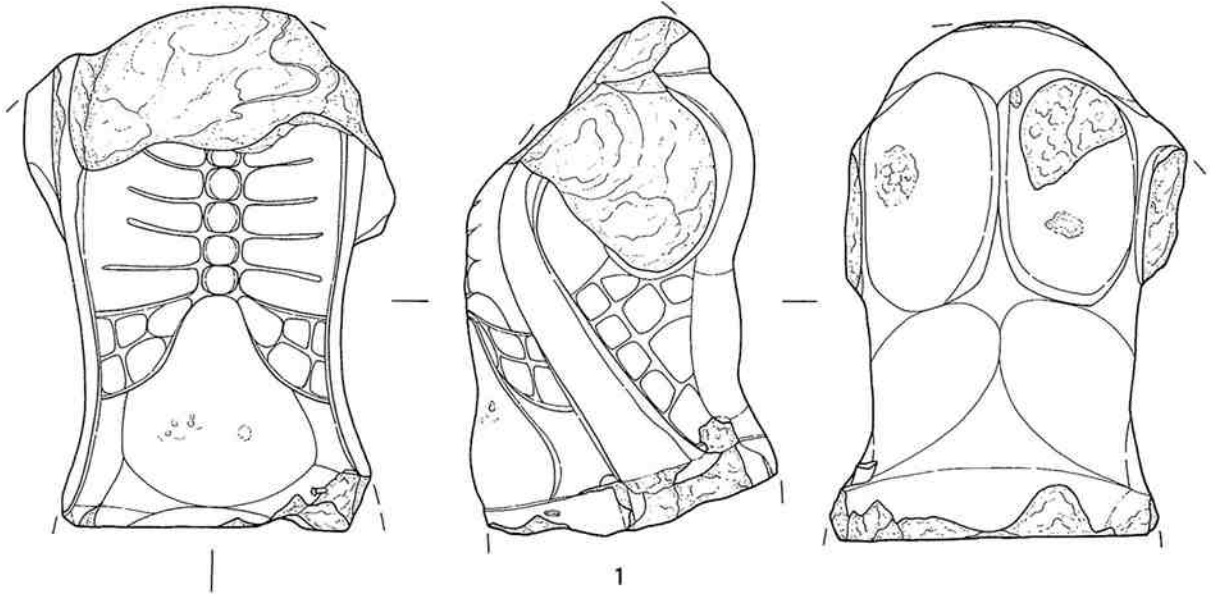
また、今回得られた蓮華座の資料は、正面観が逆台形状をした請花の部分のみであるが、蓮華座は通常、その下部に請花と同様に蓮弁を施した台形状の反花（かえりばな）があり、最下部には比較的装飾の少ない框座（かまちぎ）の3つで基本的に構成されていることから、元来はそれぞれに配してあったことが、第68図4底面の接合

部に彫り込まれたくぼみからも考えられるが、今回の調査では反花及び框座は確認されていない。

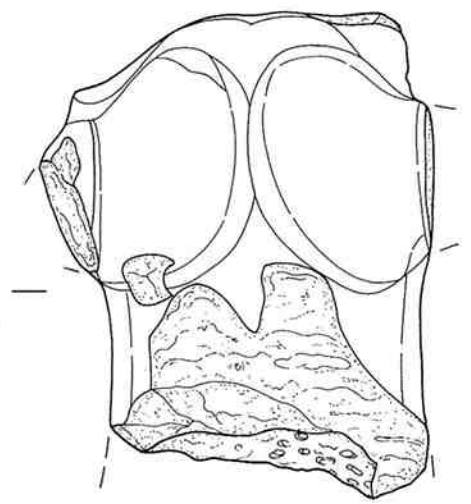
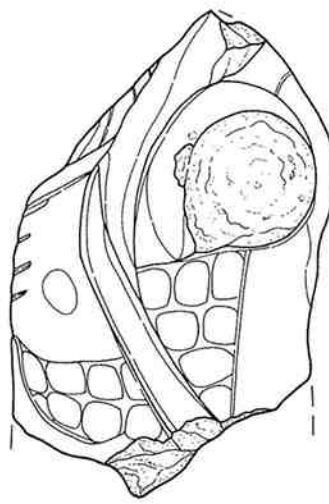
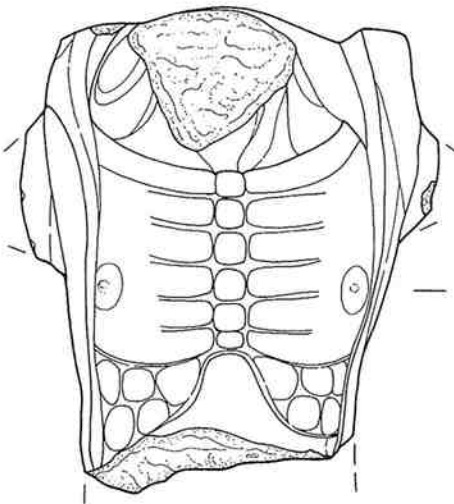
第68図6は、高さ43cm、最大幅46cm、最大厚39cmを測る。上下が著しく破損しているため、石像のどの部位に該当するか判然としない資料だが、衣装がたなびく状況が彫刻されている資料である。本資料が、第67図1・2及び第68図4・5のいずれかの衣服の可能性を考えたが、残存部が希少であることから接合も不可能で、確認するに至らなかった。

参考文献

- 球陽研究会編 『沖縄文化史料集成5 球陽 読み下し編』 株式会社角川書店 1974.3
久野 健 『仏像の歴史—飛鳥時代から江戸時代まで—』 株式会社山川出版社 1987.9
庚申懇話会編 『日本石仏事典 第二版』 雄山閣出版株式会社 1995.2
佐和隆研編 『仏像図典』 株式会社吉川弘文館 1973.6



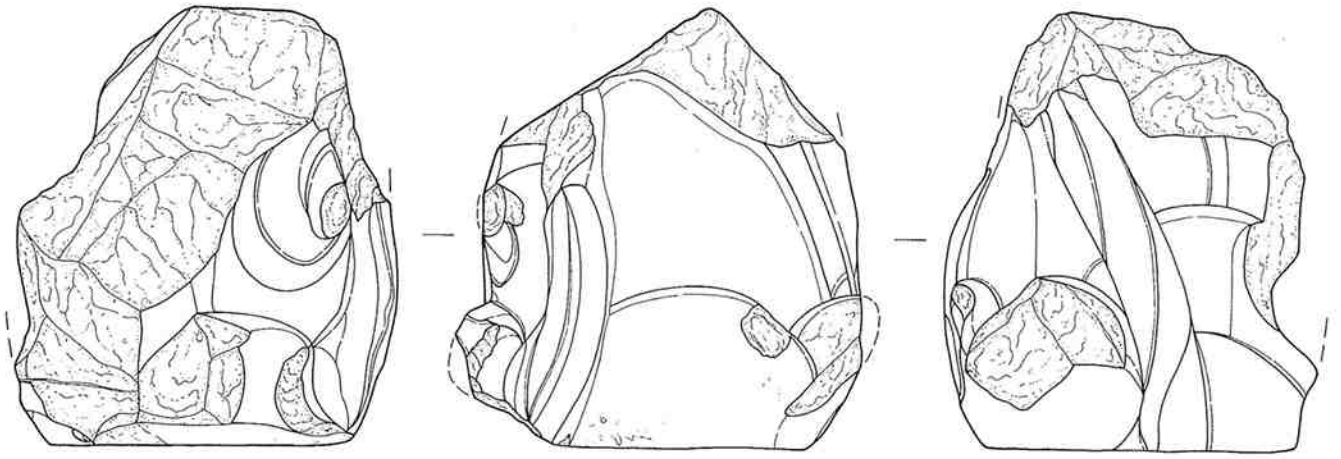
3



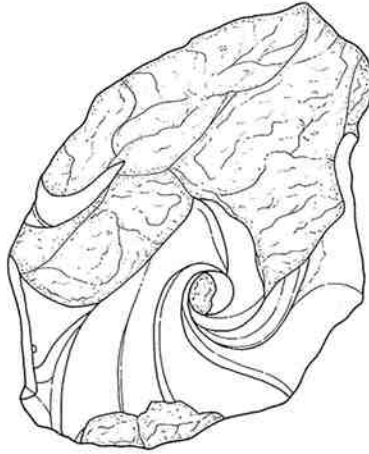
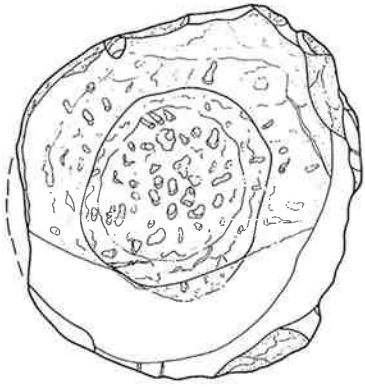
2



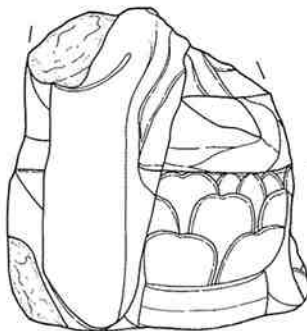
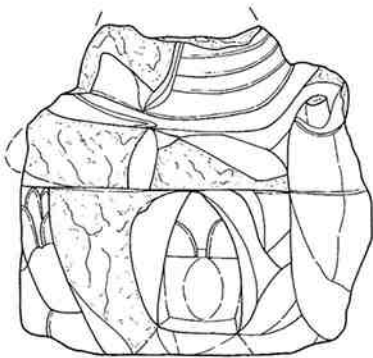
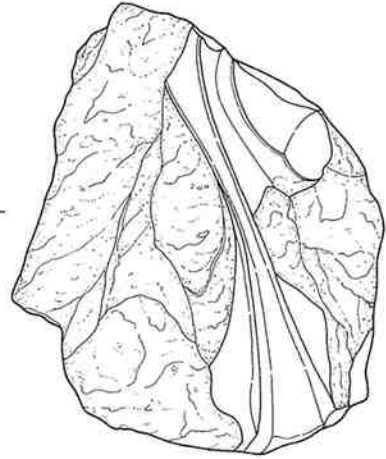
第67図 石像(1)



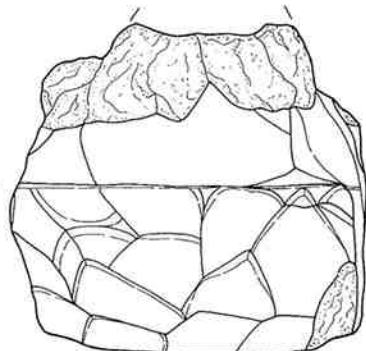
4



6



5



第68図 石像(2)

第38節 屋瓦

屋瓦は総数19,374点余出土した。ただし、ほとんどが破片で僅かに4点の完形品(平・丸瓦各2点、いずれも明朝系瓦)を得たのみである。なお、これら破片は特徴的な部位や造瓦技術などから、2期3種類の瓦に分類できる。1期目はグスク時代にあたり、高麗系瓦と大和系瓦の2種類で、2期目が近世およびそれ以降に生産された明朝系瓦である。出土量の内訳は高麗系瓦206点、大和系瓦38点、明朝系瓦19,130点で、種類間に大きな差が認められた。以下、各時期ごとに特徴的な資料を図化し概要を報告する。出土地区、層位別の集計を第51～54表に示した。

I. グスク時代の屋瓦

A. 高麗系瓦

高麗系瓦は種類の明確なものは軒丸瓦(1点)、丸瓦(15点)、平瓦(190点)の3種類で、屋根葺材の組み合わせの種類、量とも僅少である。

a. 軒丸瓦

第69図3は瓦当顎部分を残した細片である。瓦当面には紡錘状の連弁文と外区をめぐり珠文の一部がみられ、いずれも文様はきわめてシャープに仕上げている。瓦当顎の外縁部は面取りが行われ、厚さが薄くなり瓦当面部側に反り返る。色調は灰色である。北側4層出土。

b. 平瓦

同図7は凸面側に「癸酉年高麗瓦匠造」の刻銘を有する平瓦の大形破片である。刻銘はほぼ中央にあり、その上下方向に羽状文が配され、横位に連続して施文されている。凹面には糸きり痕と布目が覆う。また、同面には幅が約0.2cmの細い紐圧痕が一条、横位に認められる。この紐圧痕の位置は、図に示すように凸面側の刻銘部分より下位の位置にあり、整形筒を圍繞していたことが推測される。瓦の色調は灰色瓦で、厚さは約1.5cmと薄い。出土地点不明である。

第51表 高麗系瓦出土状況表

種類・分類	出土地・遺構 出土層		表土・攪乱	畦	トレンチ	南側			北側			地山直上	基壇	コーラル数A	方形掘込み遺構	コーラル数B	石列A	石列D	石垣A	溝状遺構A	溝状石列	瓦溜まりA	瓦溜まりC	ピット	遺構	不明	合計					
	1層	2層				3層	1層	3層	4層																							
軒丸瓦																												1				
丸瓦	玉縁左片	玉縁右片						1																				1	0			
	端部左片	端部右片																										1	0			
	側面破片	上下端破片								1	1												1				1	2	4			
	筒部破片									2	1													2			1	7				
平瓦	広端左片	広端右片	1																									1	2	0	8	
	狭端左片	狭端右片																											0	0		
	側面破片	上下端破片	2	1	1	1	1	1	1	1	1	4	10	6													3	4	1	4	7	27
	筒部破片		11												2	1	1	1	1	1	1	1					4	21	1	30	128	
合計			15	1	1	1	2	2	5	11	47	8	4	7	4	2	3	2	2	2	1	1	4	33	2	46	206					



B. 大和系瓦

大和系瓦は軒丸瓦(1点)、軒平瓦(1点)、丸瓦(19点)、平瓦(15点)、雁振瓦(2点)の5種類である。前記の高麗系瓦に比べると種類は多いが、出土量は極めて少ない。

a. 軒丸瓦

第69図1は左巻の三つ巴文様を施す瓦当の顎部破片である。破損した断面から瓦当裏面に、数回の粘土を詰めた跡が認められ、最終的に裏面を比較的平坦に仕上げたことが分かる。既報告にみる同文瓦当は、顎を長く整形したもののみで、本資料のように瓦当顎が短く、裏面が平坦に整形したものは未だみられず、新タイプとなる

軒丸瓦である。文様の巴文には糸きり痕が明瞭に残り、また、瓦当面全体に細かい白砂が多数付着している。外区には3+1+3+1……の順で珠文が配されている。色調は灰色を帯びる。K-22遺構出土。

b. 軒平瓦

第69図2の瓦当文様は線で表現された唐草文の軒平瓦である。破損資料であるが、中心飾りに5枚の葉を有する花文をおき、その両側に唐草文を配している。左側の唐草文は4巻みられ、右側は3巻を僅かに遺存している。左右の唐草文は非対称的である。瓦当表面には離れ砂の細かい白砂が付着している。顎の成形は貼り付け顎で、接合面は縦方向のナデ整形がみられる。L-15北側4層出土。

c. 丸瓦

同図4～6の3点である。5と6が玉縁側の破片で、打捺文様の羽状文と縄目文の二種類を代表する。5は羽状文を施文するもので、凹面には刺し網状の紐圧痕を残す。紐痕の幅は約0.3cmである。筒部の厚さは1.4cmを計測した。4は側面に二面の面取りがみられる資料で、打捺文に縄目文を施す。5と同様の紐圧痕がみられるが、紐圧痕は幅約0.4cmと太い。筒部の厚さは2.0cmである。色調は前者が褐色で、後者が灰色を帯びる。6は凸面に羽状文を有する玉縁から側面部まで及ぶ破片で、厚さが約2.9cmと厚手である。大型の丸瓦を想定できる資料である。4はG-21基壇出土。5はH-22方形掘込み遺構。6はM-21北側3層出土である。

第52表 大和系瓦出土状況表

出土地・遺構 出土層	表土・攪乱	ピット	南側			北側			地山直上	基壇	コイラル敷A	方形掘込み遺構	コイラル敷B	右列A	右列D	瓦溜まりC	不明	合計
			1層	2層	3層	3層	3層											
種類・分類																		
軒丸瓦		1																1
玉縁左片	玉縁右片																	1
丸瓦														1				0
端部左片	端部右片																	0
側面破片	上下端破片	1	4		1				1	1	1						2	1
筒部破片					1					1						1	2	5
軒平瓦												1						1
平瓦																		1
広端左片	広端右片																	0
狭端左片	狭端右片																	1
側面破片	上下端破片		1			1	1											1
筒部破片						1					2			1	1			3
雁振瓦	破片								2									2
合計		1	5	1	1	1	2	1	3	2	3	1	1	1	1	2	13	38

d. 平瓦

本類に分類できる平瓦はいずれも細片で総数15点である。瓦の表面は白砂が付着し無文である。また、側面は面取りが行われ平面を有する。

e. 雁振瓦

雁振瓦に属する破片は2点得られた。丸瓦部分が小形で、凸面に羽状打捺文があり、凹面には縦位のナデ整形痕を特徴する瓦である。細片のため上記の平瓦と同じく図を割愛した。

II. 近世の屋瓦

A. 明朝系瓦

明朝系瓦は本調査地区出土の主体瓦で、総数19,130点余りの破片からなる。瓦の種類は軒丸瓦(227点)、軒平瓦(202点)、丸瓦(5,764点)、平瓦(12,937点)の4種類である。これら瓦群は焼成技術や文様構成、素地などから、還元炎焼成の灰色瓦系と酸化炎焼成の赤色瓦系の2種類に大別できる。出土量は灰色瓦系が総数14,159点、赤色瓦系が4,784点である。(他187点は細片のため分類せず)。以下、2系統に分けて報告する。

1. 灰色系瓦

本瓦の種類は軒丸瓦(64点)、軒平瓦(61点)、丸瓦(4,342点)、平瓦(9,692点)の4種類である。

a. 軒丸瓦

瓦当文様はいずれも花文様で、灰色系と赤色系では表現方法が若干異なる。前者の灰色系瓦は側視型のみに対し、赤色系瓦は側視型と正面型の2タイプが認められる。

灰色瓦の瓦当文様は、前述したとおり瓦当文様の花文は側視型である。花柄の違いからⅠ類（10点）、Ⅱ類（34点）、Ⅲ類（13点）の3種類に分類する。

Ⅰ類には同一の花文ながらバリエーションが認められ、表現において花芯や花弁などの違いにより、さらにa～cの3種類に細分される。

Ⅰa類 第70図1は中央の花文を残して大きく破損した資料である。側視型の花文は粘土の肥厚差で巧みに表現され、茎、葉などを描いている。花芯は格子状である。珠文数は欠落のため不明であるが、珠文そのものは径約0.4cmと小さく、その間隔は約0.9cmで密に配されている。色調はやや褐色を帯びる。推定の瓦当径は約11.8cmである。M-20コーラル敷A出土。

Ⅰb類 同図2の瓦当文様は基本的には1と同じ側視型の花文である。瓦当面の下半分を欠落しているが、花芯を中心にして上半部分に花弁を対象的に配している。また、花芯の側面部にはゼンマイ状の髭もみられる。花芯は斜格子文状に刻まれている。珠文は径約0.6cmと若干大きいが、個数が多いグループである。丸瓦と瓦当面との接合角度はほぼ90度で、瓦当裏面の接合面の粘土の厚さは比較的薄い。推定の瓦当径は約14cmである。M-21、瓦溜まりC出土。

Ⅰc類 同図3は瓦当中央から欠落した製品である。文様の花弁は兎の耳状に上部に伸びているのがみられる。珠文は径約0.5cmとやや大きく、珠文の間隔を1.1～1.4cmで配している。丸瓦との接合角度は90度である。瓦当裏面の接合の粘土は厚いのを特徴とする。推定の瓦当は径約14cmである。出土地点は不明である。

Ⅱ類 同図5も瓦当面の状況を良好に残す資料で、側視型の花文が線で表現されているタイプである。珠文は径約1.0cmで大きく、数は約18個と比較的多く配されている。瓦当はやや正円形ではないが約14cmである。丸瓦は90度に接合されている。瓦当裏面には指痕が縦位によく残っている。M-21瓦溜まりC出土。

Ⅲ類 同図4も瓦当は線で表現した側視型の花文で、瓦当面が良く残った完形資料である。丸瓦との接合箇所がわずかにみられ、その接合角度は90度であることが確認できる。瓦当文様は一枚の葉の上に描いたような花文で、中央上部において両側に分かれる線が特徴的である。珠文は径が約0.4cmと小さく、その数は12個を数える。瓦当径が約14.5cmである。瓦当裏面には縦位の指圧痕がみられ、粗面を呈する。L-16北側2層出土。

第53表 明朝系軒瓦出土状況表

出土地・遺構 出土層	表土・掘乱	畦	トレンチ	南側				北側				地山直上	基壇	コーラル敷A	方形掘込み遺構	コーラル敷B	右列D	石垣A	溝状遺構A	溝状遺構D	瓦溜まりA	瓦溜まりB	瓦溜まりC	ピット	遺構	不明	合計		
				1層	2層	3層	4層	1層	2層	3層	4層																		
軒丸瓦	灰色瓦	a	1			1	1																3					6	
		b																						1					1
		c	1																					2					3
	赤色瓦	Ⅱ	4		1				1								1						2	21		2	2	34	
		Ⅲ	1	1		2	1			1											1	2		3			1	13	
		Ⅰ	26			2		3		1		3		1	1	2		2					2	5	2	1	8	59	
	軒丸(有孔)	Ⅱ	12						1			1			3								2				2	21	
		分類不可	13	3	2		3	5	1	2			1	2		1	1	1					4					7	
		小計	58	4	3	4	5	9	1	5	1	3	2	1	3	1	5	1	7	0	1	1	7	4	65	2	6	28	227
		合計	107	5	6	9	9	14	3	7	2	7	3	4	10	1	13	1	19	1	3	2	12	6	117	4	14	50	429
軒平瓦	灰色瓦	Ⅰ	2		1			1						3	4		1						14		1	1	28		
		Ⅱ	2								2			1	3		1						3			2	14		
		Ⅲ	2				1					1											2			3	9		
		Ⅳ			1																					1	9		
	赤色瓦	Ⅰ	22	1			1				2		2					1					5			1	6	37	
		軒平(有孔)	1																				2			1	6	37	
分類不可	20		1	5	3	4	1	2	1			1	3	1		9	1	2	1	4		28	2	5	10	104			
小計	49	1	3	5	4	5	2	2	1	4	1	3	7	0	8	0	12	1	2	1	5	2	52	2	8	22	202		
合計	107	5	6	9	9	14	3	7	2	7	3	4	10	1	13	1	19	1	3	2	12	6	117	4	14	50	429		

b. 軒平瓦

本瓦の瓦当面は鳥瓦に一般的な逆三角形を呈する。瓦当文様はⅠ類（28点）、Ⅱ類（14点）、Ⅲ類（9点）、Ⅳ類（9点）の4種類に分類できる。

Ⅰ類 第71図1は瓦当面が風化のため摩滅しているが、中央の花文がやや具象的に表現された花文である。やや斜めから俯瞰した構図の花文で、花芯の周辺に丸い花卉が6枚描かれている。そして花文の下部には茎、小葉がみられる。瓦当面に向かい右側と下部が欠落しているため、大きさは明らかではない。平瓦の凹面には桶巻きの紐圧痕が残り、とくに整形は行われていない。接合角度は115度で瓦当裏面の粘土の量が多く厚くなっている。瓦当面裏は横ナデが行われている。J-16瓦溜まりA出土。

Ⅱ類 同図2は中央の花文のみを残してほとんど欠落した資料である。花芯は格子模様で、周辺に三枚に分かれた花卉を配している。また、花文の下部は船状か横位の葉を描いている。さらに茎やゼンマイ状の髭もみられる。平瓦部分は欠落しているが、接合面に向かい瓦当面は厚みを増している。I-26南側2層出土。

Ⅲ類 同図3は比較的小型の瓦当資料で、瓦当面に向かい左側の外区を欠落している。文様の残りは比較的良好で、比較的簡略化した花文が描かれ、花芯は丸く無文で、両側に先端が裂け三枚状にみせる花卉が特徴的である。葉の両側は裂ける表現が行われている。平瓦との接合角度は107度である。M-20石列D出土。

Ⅳ類 同図4は顎の三角部分を欠落した資料である。瓦当面は風化が進行し、中央の花文も摩滅しているが、これまでの類例を参考にみると、湧田古窯跡Ⅰ^{※1}、天界寺跡（Ⅰ）^{※2}などに類似する。花文は六枚の花卉で構成される。両側には先尖り葉文が描かれている。平瓦との接合角度は107度で、凹面には桶巻き紐圧痕が残る。接合の粘土も厚い。M-21瓦溜まりC出土。

c. 丸瓦

丸瓦は総破片数4,342点である。本瓦は前記したとおり還元炎焼成による造瓦であるが、仔細に色調をみると、若干酸化し褐色を帯びるものも含まれている。そのことから灰色系と褐色系に大別すると、前者が2,243点、後者が2,099点である。個体数を割り出すため、完形品における四隅部分が4点そろって1個体と判断すると、灰色系の場合は四隅部分の総破片数が553点であることから、4点で割り算すると138枚余りの枚数になる。同じく褐色系が142枚である。

第70図8の資料は玉縁の段部から約7cmの箇所、孔径約2.5cmの釘孔が、凸面側から穿たれている。端部は欠落して存在しないが、これまでの有孔資料から勘案すると軒丸瓦の破片資料と考えられる。凸面の整形はナデがなされ、無紋である。凹面は明瞭な布目痕が覆っている。筒部の厚さは2.2cmである。出土地点不明である。

d. 平瓦

平瓦は総数9,692点の破片からなる。本瓦の灰色系と褐色系の出土量は5,910点对3,782点で、丸瓦同様に灰色系が多い。個体数は灰色系が302点、褐色系が172点である。

第71図6、7は凹面に桶巻き板に巻かれていた紐圧痕を明瞭にみせる資料である。前者にはさらに桶板の大きさもわかる圧痕がみられる稀有な資料である。桶板圧痕の幅約2.5cmである。後者にも紐圧痕がみられる。紐圧痕の間隔は約2.5cmである。6はM・N-21・22、表土攪乱出土。7は出土地点不明である。

2. 赤色系瓦

赤色系瓦の種類は軒丸瓦（80点）、軒平瓦（37点）、丸瓦（1,422点）、平瓦（3,245点）の4種類である。使用方法とも関わるが、赤色系瓦には灰色系瓦には観られなかった漆喰の付着がある。

a. 軒丸瓦

瓦当文様はⅠ類（59点）、Ⅱ類（21点）の2種類に分類される。花文の構図は側視型と正視型の2種類が認められる。

Ⅰ類 第70図6は瓦当面のほぼ全体を残した製品である。瓦当文様の花文は側視型で、瓦当面全体に花卉が覆

う。珠文の径約0.5cm、数が12個である。瓦当裏面は粗面を呈し、指痕が多数残されている。丸瓦との接合には粘土は少ない。丸瓦との接合角度は約97度で、瓦当径約14.5cmである。出土地点不明である。

Ⅱ類 第70図7は外区の一部を欠く製品である。中央の花文は正視形で、粘土の厚さにより表現する手法がとられている。珠文は9個と少ない。大きさは径約0.6cmである。瓦当径は約15cmで、丸瓦との接合角度は100度。表土攪乱出土である。

b. 軒平瓦

本類は逆三角形をした瓦当面を特徴とし、髭瓦とも称する。瓦当文様の種類は1例のみで、出土数が37点である。

第71図5は向かって左の外区が破損している。焼成は良好で文様は鮮明であるが、花文はかなり抽象化され、中央の上部に格子文を施す花芯があり、その両側と下部に柿の実状の縦線の入った花卉が配されている。茎はなく英語のスペルにあるV状の凸線を描いている。花文の両側にある葉はとくに葉脈が強調され、葉そのものからも飛び出し一見するとソテツ葉にも類似する。外区には漆喰が付着する。垂れ長さは11.0cmである。K-19表土・攪乱出土である。

c. 丸瓦

丸瓦は総数1,422点出土した。いずれも破片で、紙幅の都合で図は割愛した。個体数を割り出すため、完形品における四隅部分の4点がそろって1個体分と判断し、四隅部分の総破片数386点を、4点で割り算すると96枚余りになる。

d. 平瓦

平瓦は総数3,245点得られた。丸瓦同様に図は割愛した。個体数は四隅部分が4点そろって1個体と判断し、四隅部分の総破片数581点を4点で、割りだすと145枚余りになる。

小結

以上、当調査地区の出土屋瓦は中世と近世の二期に分類できた。中世のグスク時代に属する高麗・大和両系瓦と近世以降の明朝系瓦の出土比率は、高麗系瓦：大和系瓦：明朝系瓦が1.1%：0.2%：98.7%となり、グスク時代の瓦が極めて僅少で、近世瓦を主体とした地区であることが判明した。後者の明朝系瓦は造瓦技法や焼成技法から灰色系瓦と赤色系瓦の前後二期に細分した⁴³⁾。分類の結果、灰色系瓦：赤色系瓦は75%：25%と、先行型式の灰色瓦が多く認められた。次に瓦葺建物にかかわる遺構をみると、高麗・大和両系瓦が葺かれた具体的な建物遺構は明らかではなく、同時期の掘立柱建物との関係について今後明らかにする必要がある⁴⁴⁾。次期の明朝系瓦は先行型式の灰色系瓦葺き建物が広く、または複数存在していたことを窺わせ、また赤色系瓦の段階になると瓦葺き建物の規模そのものは小さくなっていたことが推測できる。

参考文献

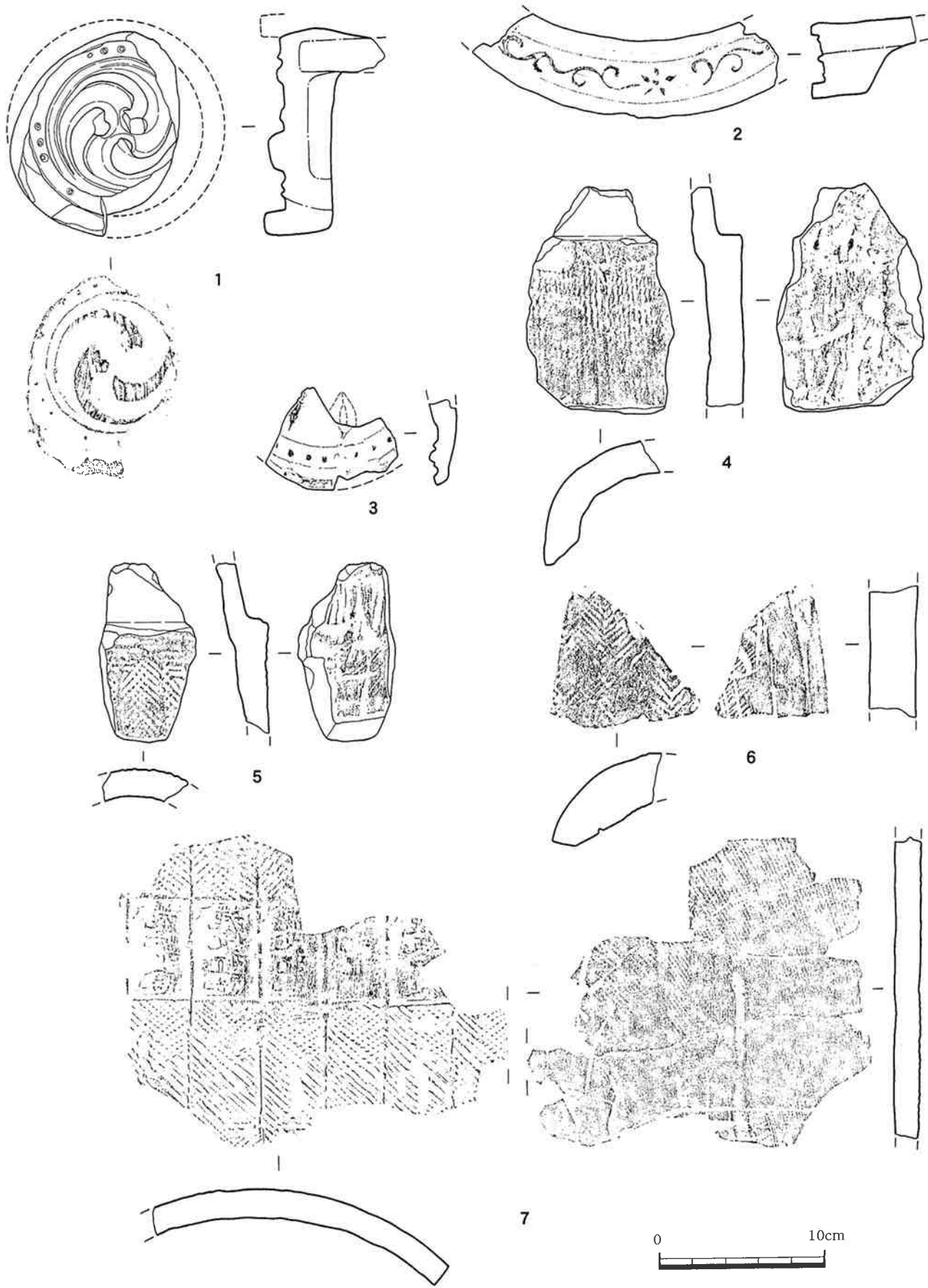
- 註1 沖縄県教育委員会『湧田古窯跡Ⅰ』1993年
註2 沖縄県立埋蔵文化財センター『天界寺跡(Ⅰ)』2001年
註3 上原静「首里城跡西のアザナ地区出土の明朝系瓦とその推移」『南島考古』第14号 1994年
註4 a. 那覇市教育委員会『天界寺跡』- 首里城線街路事業に伴う緊急発掘調査報告 1999年
b. 那覇市教育委員会『天界寺跡』- 首里城公園整備事業に伴う緊急発掘調査報告 2000年

第39節 塼

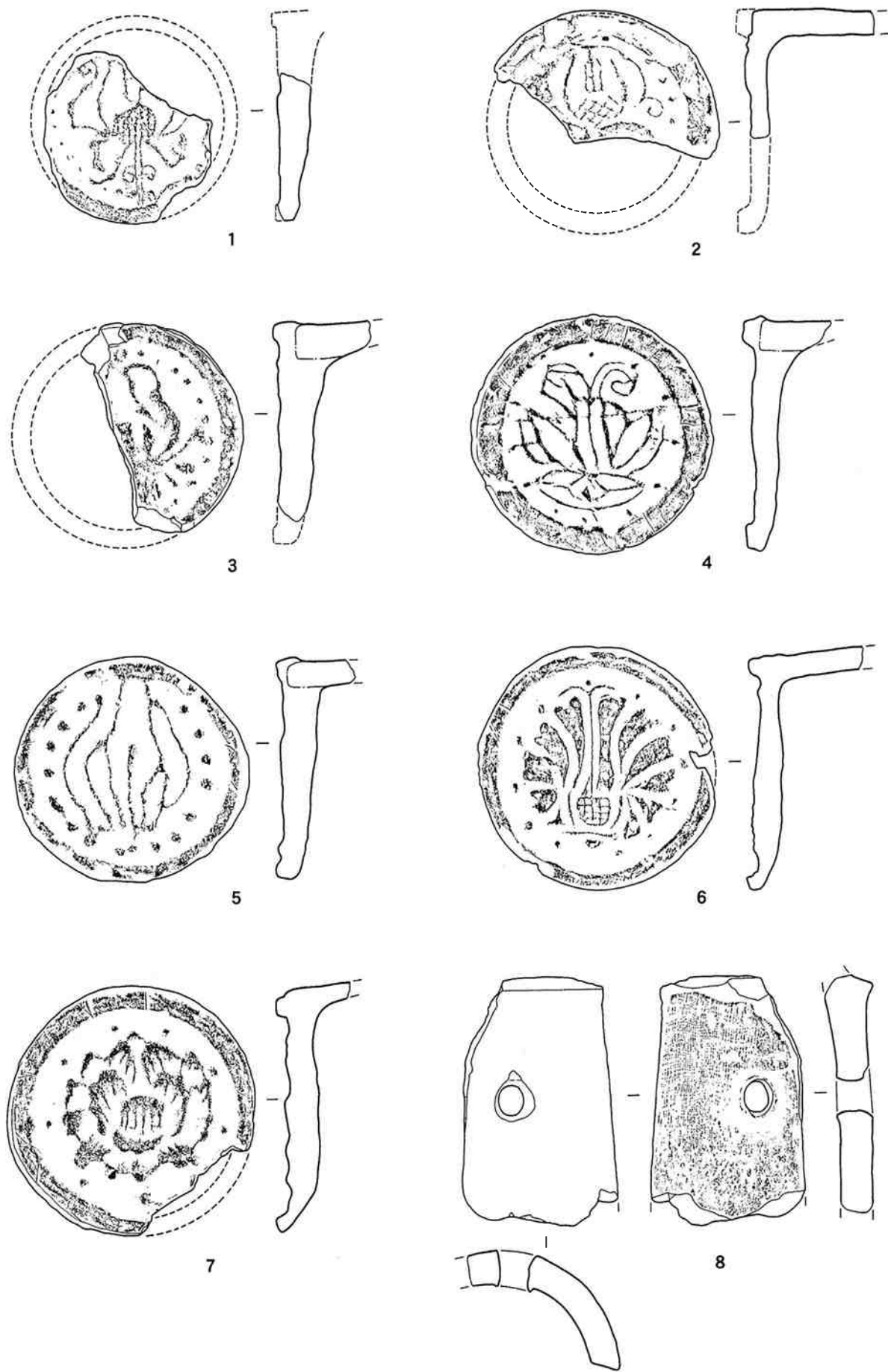
屋瓦と同様に多く得られた。平面形が、方形、三角等を呈するものが一般的で、今回は特異なものを図示した(第71図8)。湧田古窯跡(Ⅰ)⁴⁵⁾の例(第100図2、3)に類似するものと見られ、下部に取っ手が付く。残存部位の厚みは3.5cm、(最も厚い部分は7.8cm)、縁は破損している。出土地不明。

(註)

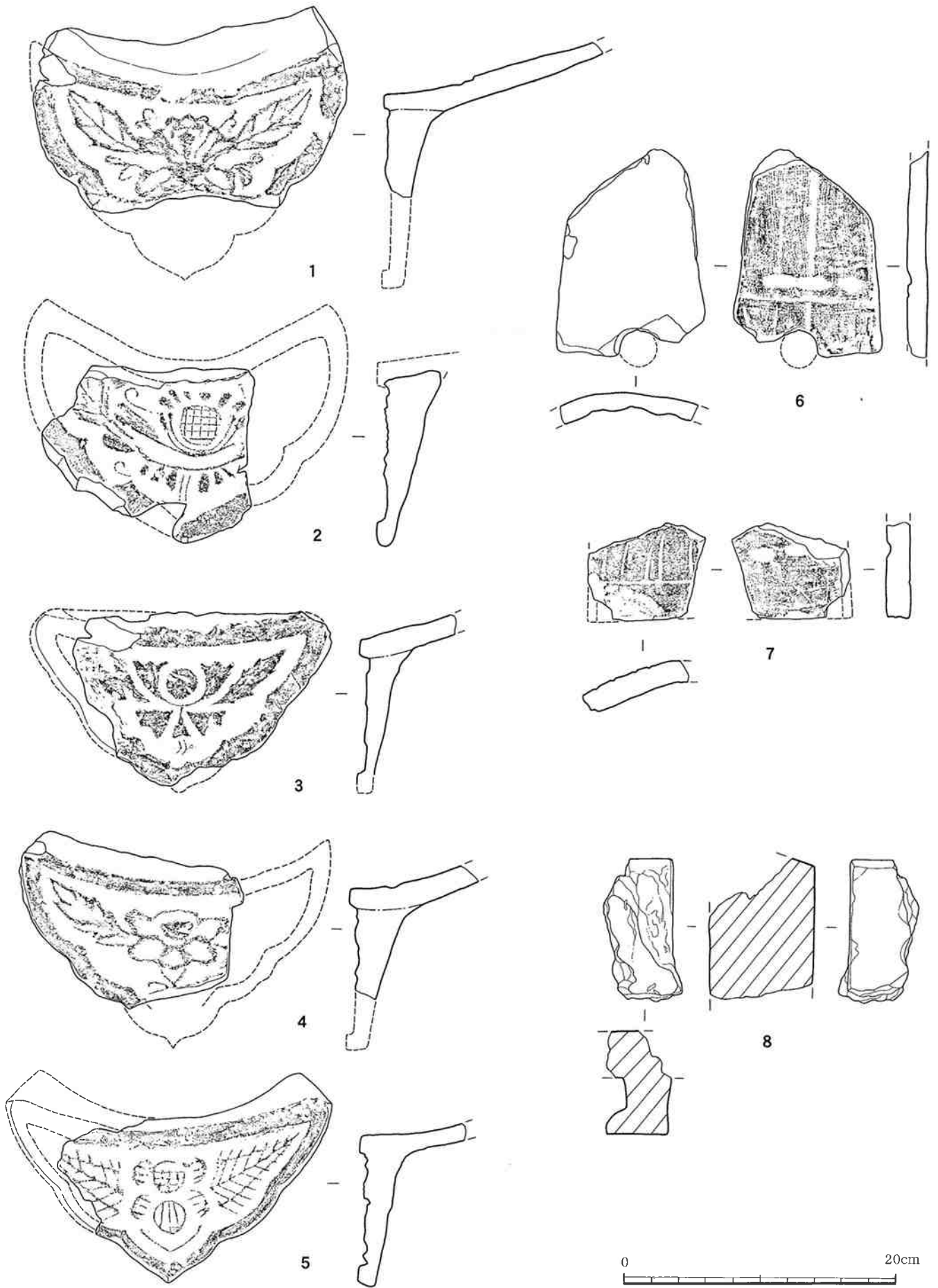
- 大城慧、島袋洋他「湧田古窯跡(Ⅰ)」沖縄県教育委員会 1993年



第69図 高麗系瓦（軒丸瓦3、平瓦7）大和系瓦（軒丸瓦1、軒平瓦2、丸瓦4～6）



第70図 明朝系瓦（軒丸瓦1~7、丸瓦8）



第71图 明朝系瓦（軒平瓦1~5、平瓦6、7）磚（8）

第40節 自然遺物

1. 貝類

本遺跡から出土した貝は巻貝30科93種、二枚貝19科50種である。総数5283点を数え、天界寺跡（Ⅰ）^{註1}で報告された結果をはるかに上回るものである。出土状況で見ると、アラスジケマンガイが圧倒的に多く1946点である。次いでカンギク711点、マガキガイ383点、ウミニナカニモリ223点となっている。陸産では6科7種検出されているが、その個体数は、僅少である。

貝は、ほぼ調査区全域から出土しているが、主に調査区の北側に集中しており、その中の北側4層からの出土は全体の約16%を占めている。

先に調査、報告された天界寺跡（Ⅰ）^{註1}と比べると検出された貝種に差異はなく、僅かに今回が多種である。ただ、個体数には若干の違いがみられる。例えば、前回最も多く検出されたオキナワヤマタニシは、今回では前回の約8分の1と少ない。また、アラスジケマンガイやカンギクなどは前回とは比にならない程の出土量である。注意したい点は、これらの貝は、比較的容易に採取でき、現在も食卓を飾ることがしばしばある。表土・攪乱や不明からの出土が多く、大半は近・現代の食滓ではないかという疑念が残る。

前回の調査で検出されたヤコウガイ蓋集中部で見られるような特徴的な遺構が今回は確認できず、遺物の方も注意すべき点が見られなかったため、今回は自然遺物として集計した。その結果、蓋が279点、殻の方はほとんどが破片で検出され、個体数を数えられるのは93点と少ない事が分かった。

今回はじめて化石種と思われる貝種（イタヤガイ、キンチャクガイ）が確認された。同定を依頼した名和氏^{註2}によると、すでに絶滅した種であるという見解を得られた。

* 個体数の算出方法

- ・ 巻貝は完形、殻頂、破片に分けて集計し、前二者の合計を個体数とした。
- ・ 二枚貝は右殻と左殻に分け、それぞれを完形、殻頂、破片に分け前二者を合計しさらに右殻、左殻のどちらか多い方を個体数とした。

<引用文献>

「伊佐前原第一遺跡」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第4集 沖縄県立埋蔵文化財センター 2001年3月

<註>

註1 「天界寺跡（Ⅰ）」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第2集 2001年3月 沖縄県立埋蔵文化財センター

註2 名和 純氏（潟の生態史研究会会員）に今回の貝類の同定を依頼した。記して感謝を申し上げます。

<参考文献>

「平敷屋トウバル遺跡」『沖縄県文化財調査報告書』第125集 沖縄県教育委員会 1996年3月

「湧田古窯跡（Ⅳ）」『沖縄県文化財調査報告書』第136集 沖縄県教育委員会 1999年3月

「沖縄県那覇市首里旧天界寺跡」『日本考古学年報49』 日本考古学協会 1998年7月

2. 動物遺体

金子浩昌

(1) はじめに

本報告は先年刊行された「天界寺跡 (I)」遺跡の西部地域に当たる地点の調査の際に出土した動物遺体についての記述である。前回の報告内容と比べて種類のには大きく変わるところはなかったが、ウマ、イヌなどの一括出土例は検出されなかった。しかし、動物遺骸の主要種であるニワトリ、ウマ、ブタ、ウシなどの遺骸は前回より多く出土し、いっそう生活の感覚の高まった遺物の在り方を示していたようである。

今回の調査と報告に当たって種々お世話になった沖縄県立埋蔵文化財センターの島袋洋氏、西銘章氏にお礼申し上げます。また資料整理に当たっていただいた瑞慶覧尚美氏、玉城照美氏、玉城恵美利氏、新城ゆかり氏の皆様にも御礼申し上げます。

(2) 検出された脊椎動物遺体種名表

節足動物門 Phylum ARTHROPODA

軟甲亜綱 Subclass Malacostraca

十脚目 Order Decapoda

ワタリガニ科 Family Portunidae

ノコギリガサミ *Scylla serrata*

脊椎動物門 Phylum VERTEBRATA

軟骨魚綱 Class Chondrichthyes

メジロザメ目 Order Carcharhiniformes

メジロザメ科 Family Carcharhinidae

イタチザメ *Gaieocerdo cuvier*

科目不明 Fam.et gen.indet.

エイ目 Order Rajiformes

科目不明 Fam.et gen.indet.

硬骨魚綱 Class Osteichthyes

ダツ目 Order Beloniformes

ダツ科 Family Belonidae

属・種不明 Gen.et sp.indet

キンメダイ目 Order Beruciformes

イトトウダイ科 Family Holocentridae

属・種不明 Gen.et sp.indet

カサゴ目 Order Scorpaeniformes

コチ科 Family Platycephalidae

コチ属 *Platycephalus* Sp.

スズキ目 Order Perciformes

ハタ科 Family Serranidae

属・種不明 Gen.et sp.indet

フエダイ科 Family Lutjanidae

ヒメフエダイ *Lutjanus gibbus*

キマダラフエダイ *Pristipomoides sieboldii*

属・種不明 Gen.et sp.indet

タイ科 Family Sparidae

クロダイ属 *Acanthopagrus* sp.

タイワンダイ *Argyropus bieekeri*

フエフキダイ科 Family Lethrinidae

ヨコシマクロダイ *Monotaxis grandoculis*

イソフエフキ *Lethrinus atkinsoni*

ハマフエフキ *Lethrinus nebulosus*

フエフキダイ属 *Lethrinus* Spp.

ベラ科 Family Labridae

コブダイ(カンダイ) *Semicossyphus reticulatus*

タキベラ *Bodianus oxycephalus*

ブダイ科 Family Scaridae

イロブダイ *Bolbometopon bicolor*

ナンヨウブダイ *Scarus gibbus*

ナガブダイ *Scarus rubroviolaceus*

属・種不明 Gen.et sp.indet

ニザダイ科 Family Acanthuridae

属・種不明 Gen.et sp.indet

フグ目 Order Tetraodontiformes

モンガラカワハギ科 Family Balistidae

属・種不明 Gen.et sp.indet

爬虫綱 Class Reptilia

カメ目 Order Chelonia

鳥綱 Class Aves

ペリカン目 Order Pelecaniformes

ウ科 Family Phalacrocoracidae

ウミウ *Phalacrocorax filamentosus*

ガンカモ目 Order Anseriformes

ガンカモ科 Family Anatidae

カモ類 *Anatidae* Gen. et sp. indet

キジ目 Order Galliformes

キジ科 Family Phasianidae

ニワトリ *Gallus gallus var. domesticus*

哺乳綱 Class Mammalia

齧歯目 Order Rodentia

クマネズミ属の一種 *Rattus* sp.

クジラ目 Order Cetacea
イルカ科 Family Delphinidae
イルカ類 *Delphinidae Gen et sp.indet*
食肉目 Order Carnivora
イヌ科 Family Canidae
イヌ *Canis familiaris*
ネコ科 Family Felidae
ネコ *Felis catus*
海牛目 Order Sirennia
ジュゴン科 Family Dugongidae
ジュゴン *Dugong dugong*

寄蹄目 Order Perissodactyla
ウマ科 Family Equidae
ウマ *Equus caballus*
偶蹄目 Order Artiodactyla
イノシシ科 Family Suidae
ブタ *Sus scrofa var. domesticus*
シカ科 Family Cervidae
シカ属の一種 *Cervus sp.*
ウシ科 Family Bovidae
ウシ *Bos taurus*
ヤギ *Capra hircus*

(3) 検出された動物遺体について

1. 節足動物

ノコギリガザミ：出土地点不明でハサミ脚1点があったのみである。

2. 軟骨魚類

イタチザメ：歯1点があったのみである。

メジロザメ科椎骨：椎体径小さく、椎体長の長いタイプ（A）と椎体長が短く、椎体径の大きいタイプ（B）があり、Bタイプの方が大型になる。大型のイタチザメはBタイプの椎体になる。

エイ類：鈎状の鱗が検出されているが、わずかに1点である。

3. 硬骨魚類

イトウダイ科の一種：前鰓蓋骨があった。この科の魚種の前鰓蓋骨は細かい刻みのある外縁と、遠位骨端寄りに鋭い1棘を付けるのが特徴である。

コチ属：歯骨1点があるが、近心部を欠損する。骨体のほぼ中央位置での骨体高9.0あり、大型である。

ハタ類複数種：ハタ類に比定される骨格の出土はやや多い。形態的特徴を理解し易い前上顎骨、歯骨でみると、前上顎骨咬面の盛り上がるような高まりをもつ形態と歯骨の近心部のくびれの弱い形態が一種になる。これとは別に歯骨にはさらに二つの形態があり、近心部のくびれのほとんどみられない点の特徴である。さらに近心部くびれがつよく、しかも咬面と外縁の両面からくびれをみる。

キマダラフエダイ：フエダイ科前上顎骨にみる近心突起の角度の直立するような形をみる。前鰓蓋骨の後縁の大きな1棘の形態が特徴的である。

ヒメフエダイ：フエダイ類にしばしばみられる特徴的な前鰓蓋骨の後縁にみられる切痕が、この種ではもっとも深く、前縁にまで達する。この標本は1点があったのみである。

フエダイ科の複数種：上記のフエダイ各種とは別種と考えられる前上顎骨、歯骨がある。標本も多くさらに数種はあるのではないと思われる。

クロダイ属：前上顎骨、主上顎骨、歯骨があり、やや多い出土である。

タイワンダイ：マダイ *Pagrus major* とはかなり異なった前上顎骨、歯骨の形態である。前上顎骨の背縁は丸みのある弧をもち、臼歯は二列に並ぶ。歯骨は高い骨体の特徴的である。タイワンダイ属と思われる。

ヨコシマクロダイ：検出標本は少ないが、本種の特徴である大型の臼歯をみる。

イツフエフキ：前上顎骨1点がある。長い近心端の突起をもつ。遠心端を破損するが、もともと骨体部分の短いのが本種の前上顎骨の特徴である。咬面の近心寄りには細歯が幅広くみられる。

ハマフエフキ：本種主上顎骨の出土がもっとも多い。近似種を含めると圧倒的に多い出土になる。比較的サイズのそろっていることが特徴である。

フエフキダイ属の一種：キツネフエフキに似るが、前上顎骨骨体部の長いのが特徴である。ハマフエフキに比べて少ないが、ハマフエフキに混在してよくみることがある。

コブダイ：コブダイの検出は多くないが、前上顎骨、歯骨、咽頭骨には比較的大型サイズの標本をみることができる。

タキベラ：小型の咽頭骨1点があったのみである。

イロブダイ：ブダイ類中では少なく、下咽頭骨1点を得たのみである。

ナンヨウブダイ：特に目立った出土ではなかった。上咽頭骨2点があったのみである。

ナガブダイ：下咽頭骨7点があり、やや多い出土であった。

ニザダイ類：尾柄部に付く楕状の鱗があるが、1点のみの出土である。

モンガラカワハギ科の一種：歯骨1点。

4. 爬虫類

ウミガメ類：四肢骨の断片が3点あったのみである。

5. 鳥類

ウミウ：上腕骨と大腿骨が各1点出土した。いずれも破片であるが、ウ類の特徴をよくみることができる。

カモ類：上腕骨1点と尺骨2点がある。上腕骨と尺骨遠位骨端を残す標本は同サイズのカモ類であるが、近位骨端を残す尺骨の1点は、骨体が細く他の2点とは別種である。

ニワトリ：頭骨を除く四肢骨を多く出土している。脛骨、中足骨の出土が多く、それに次いで上腕骨、中手骨の出土が多い。完存する標本は上腕骨、中手骨、大腿骨などに各1点をみるのみであった。特に大型になる骨をみることはなく、中型サイズのニワトリであったようである。中足骨にやや大きいサイズの標本をみた。

不明の鳥骨片：鳥骨には形態を異にする尺骨片、頸骨片がある。おそらく海鳥類であろうと思われるが、種を確認するまでには至らなかった。

6. 哺乳類

クマネズミ属の一種：おそらく混入標本であろう。脛骨1点があったのみである。

イヌ：少数の破損した骨片が出土している。下顎骨は近心部分、尺骨、脛骨は近、遠位骨端を欠損していたが、破損に特に人為的な痕跡はみなかった。

ネコ：少数の四肢骨片があったのみである。表土、攪乱層の出土標本などもあり、遺構中出土の標本は少ないが、グスク期のネコもあったと思われる。

イルカ類：椎骨1点があったのみであるが、この時期のイルカ類としては類例が少ない。天界寺跡としては今回はじめての出土である。

ジュゴン：出土層位の明らかでない標本もあったが、前頭骨一部、椎骨と肋骨、上腕骨が検出されている。時代が新しくなる程ジュゴンの一遺跡からの出土例は少なくなる。前回は肋骨片1点があったのみであるから、今回の出土は多かったといえる。

ウマ：ウシには及ばないが多くの骨格を出土している。環椎1点、頸椎1点、不完全な下顎骨1点があるが出土地点不詳である。遊離歯があるが、地点不明の標本も多く、まとまる標本はほとんどない。

四肢骨標本中、近、遠位骨端の最大幅は日本在来馬中もっとも小型のトカラ馬のサイズであった。先に天界寺跡（I）出土の埋葬馬を報告したが、この地点のウマはさらに小さいサイズのウマであったようである。

四肢骨は多く検出しているが、破損標本が多く、それらは解体時、あるいは骨髄の摘出のために割られたものと思われる。骨端は骨化しており成獣個体が多い。上腕骨、撓骨、脛骨、大腿骨はいずれも近位部あるいは中間部で割られ、その打撃後、割れた痕をみることができた。基節骨、中節骨は完存するが、末節骨には切痕があった。

ブタ：多くの歯牙、骨格を出土している。解体後に壊された頭骨、下顎骨ではやや形の残る標本もあった。前頭骨、頭頂骨は幅広く、骨質厚く、ブタの特徴がよくみられた。下顎骨は左右の結合が可能な標本が一点あったが、左右顎骨の開く角度が広く、短頭化したブタの顔つきを彷彿とさせた。骨体は現生リュウキュウイノシシと比べて明らかに大きく、厚みのある骨体をもっていた。顎骨と歯牙の形状は模式的な標本を写真に示したが、乳臼歯と永臼歯M1（M2）、永臼歯M1,M2（M3）、（P）：未萌出歯、となる標本が多く、歯牙数としてはM1、M2がもっとも多く、M3の数はM1あるいはM2の三分の一である。

四肢骨では骨端を残す標本が肩甲骨、上腕骨、撓骨にみることができたが、全体のなかでは少なかった。また若い個体がほとんどであったために四肢骨の計測値を検討することは有効ではなかったが、近、遠位骨端の計測値はリュウキュウイノシシと同じくらいのサイズで、さらに大きくなるような個体はなかった。上腕骨遠位部滑車上孔は閉鎖標本と開孔標本の両方があり、閉鎖標本の方が大きかった。また上腕骨の遠位骨端の骨化例は3点あるが、2点は近位骨端の骨端は未骨化である。撓骨の遠位骨端の骨化例が1点あり、3.5歳令で高年齢になる。

上記した歯の萌出状況、骨端の骨化状況からみて、本遺跡のブタは2～3歳未満の個体が多く、3歳以上になるのはごく少なかったと推定される。

ニホンジカ：角、大腿骨、脛骨がある。角は落角で、眉枝の開き方はニホンジカ *Cervus nippon* と同じである。枝部、幹部ともに切断されていて、枝部のほうがやや長い。切断面は平らである。何らか用途があって、持ち込まれたものである。他の四肢骨も骨体をうち割られており、食用にされている。

ウシ：ブタに次ぐ多くの骨格を出土しているが、破損した標本が多い。ピット、造成層、黒褐色土層、基壇、コーラル敷部分での出土が多い。完存する四肢骨標本はなかったが、近、遠位骨端幅は日本の在来牛中、中小型の見島あるいは口之島牛に近い数値であった。

角突起、下顎骨でかたちの残されたのは各一点があったのみである。上腕骨、撓骨、中手骨、大腿骨、脛骨、中足骨は、うち割られ、その際についた傷、割れ面がみられる。骨体の上部から中間部で割られることが多かった。中手骨、中足骨が比較的上部で割られているのは、骨製品の素材を取る目的があったことも考えられる。

ヤギ：歯と下顎骨、四肢骨が出土している。他の獣骨に比べて検出数ははるかに少ない。30標本中の21標本が不明あるいは攪乱層中の出土であることは問題ではないかと思われる。

(4) 総括

天界寺跡の調査として2001年度刊行報告に次ぐものであるが、当然のことながら資料は前回のものと一括されるものであって、内容的にもそうした様相を示していた。前回報告資料を含めて、以下にその特徴となる点を述べておきたい。

魚類：少数の、しかし大形のサメ類椎骨があり、ハマフエフキ類がもっとも多かったことは前回と変わらない。本遺跡のハマフエフキのサイズは前上顎骨、歯骨の全長計測値をグラフに示したが、特に集中するサイズは、採集標本ではみられず、前上顎骨全長14.0mmという小形から、47.5mmという大形があったが、22.0mm台で出土量のピークがあり、30.0mm前後でピークがある。やや小形のサイズから中形までの、この種の魚の棲息状況を反映しているのであろう。また比較的単純な網漁法によったのではないかと推測される。

ブダイ類が減って、コブダイなどのベラ類、フエダイ類、ハタ類の割合の多くなっていることも特徴である。いずれも比較的小さいサイズから大形個体までが採られていた。このような点は、近世はじめ頃の特徴ではないかと思われる。その他の魚種の目立たなかったことは、他の遺跡同様である。

鳥類：ウ、オオハムその他の未詳の海鳥とカモ類が少数検出されるのは、この地域の特徴である。南島では、石器時代には、今少し種類も多いが、減少する一方である。

主体を占めるのはニワトリであって、四肢骨を主とした出土が多い。ニワトリはグスク期以後に現れ、急速に増える。本土での中世以降の在り方と共通するが、より食用性が高かったと思われる。本土ではカモ類の渡来が多いので、食用としてはカモ類が主になっている。こうしたことも南島地域での特徴であろう。

獣類：本遺跡では、海棲獣類としてイルカ類、ジュゴンを検出したが、やはり僅かなものであった。石器時代以降激減し、グスク期と比べてもさらに減少する。グスクでこのようなジュゴンの骨格の利用は一般にはなくなり、肉用のみとなっていた。ただし、それには種々の制約があり、直接捕獲する機会は限られたのであろう。

肉の供給の主体はブタであった。当時のブタの形質、利用の方法を知る好資料が出土している。ブタは大陸からの渡来種を基本としたもので、屠殺の時期、方法もそれに基づいていたものであつたらう。

ウマ・ウシは現在知られる在来種で、ウマは小型のトカラ馬系、ウシはやや大きく中もしくは中小型であった。共に食用にされているが、ウシの方が多い。こうした状況はグスク期以来認められるところである。前回の調査でみたウマの埋葬例は本地区では知られなかった。南島文化としては異質な様相であったが、やはり一般的ではなかったようである。

前回は知られなかったシカの遺骸が若干であるが、出土している。シカはこれまでも時折見る機会がある。沖縄には棲息しない特殊な動物として注目されたのであろう。角は加工されており、道具あるいは器具の一部であったのであろうか。四肢骨のあることは、食用に当てられるためであったのかもしれない。

<参考文献>

- 西中川駿「古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」『科学研究費補助金、一般研究 (B)、研究成果報告書』 1991年
金子浩昌「湧田古窯跡 (I)」『沖縄県文化財調査報告書』第111集 沖縄県教育委員会 1993年3月
金子浩昌「喜友名貝塚・喜友名グスク」『沖縄県文化財調査報告書』第134集 沖縄県教育委員会 1999年3月
金子浩昌「湧田古窯跡 (IV)」『沖縄県文化財調査報告書』第136集 沖縄県教育委員会 1999年3月
金子浩昌「天界寺跡 (I)」『沖縄県埋蔵文化財センター調査報告書』第2集 沖縄県埋蔵文化財センター 2001年3月

第59表 ノコギリガサミ出土一覧

部位	出土地	個数
ハサミ	不明	1

第60表 サメ類出土一覧

種類	部位	d	L	出土地
メジロザメA		9.0	5.7	ピット
		11.9	10.3	
		13.7	16.0	
		14.0	18.1	
		9.3	7.7	不明
		9.8	8.1	
		9.8	8.8	
		10.8	9.5	
		10.8	9.8	
		13.6	16.2	
メジロザメB	脊椎	19.3	7.6	表土・攪乱
		—	—	
		16.3	8.1	ピット
		—	—	
		8.4	3.6	北側1層
		18.6	10.4	北側3層
		19.2	7.6	北側4層
		—	—	
		44.4	27.8	南側3層
		18.4	9.5	南側4層
		24.7	10.0	コーラル敷A
		17.7	9.7	溝状石列
		28.4	13.3	不明
20.5	9.6			
20.2	9.5			
18.6	7.8			
イタチザメ	歯		石列E	

注 「J」: 計測不可

単位: mm

第61表 ウミガメ出土一覧

部位	出土地	個数
不明	石列D	1
	北側4層	1
	不明	1

第62表 ウミウ出土一覧

部位	右/左	出土地	個数
上腕骨	骨体	左	北側4層
	遠位端	右	
大腿骨	遠位端	右	不明

第63表 カモ類出土一覧

部位	右/左	出土地	個数
上腕骨	近位部~遠位部	右	不明
			表土・攪乱
尺骨	近位部~遠位部	左	不明
			北側4層
	骨体	不明	表土・攪乱

第66表 ネズミ出土一覧

部位	右/左	出土地	個数
脛骨	完存	右	基壇

第67表 イルカ類出土一覧

部位	出土地	個数
腰椎	溝状石列	1

第64表 トリ類出土一覧

部位	右/左	出土地	個数
椎骨	不明	不明	1
上腕骨	骨体	不明	表土・攪乱
橈骨	骨体	不明	表土・攪乱
尺骨	近位部~遠位部	左	ピット
	骨体	左	南側4層
大腿骨	骨体	不明	不明
		右	ピット
		不明	南側1層
寛骨	白部	不明	南側2層
脛骨	遠位部	右	北側3層
		左	ピット
	骨体	左	不明
			ピット
		不明	表土・攪乱
		北側4層	

第68表 イヌ出土一覧

部位	右/左	出土地	個数
下顎骨	P2	右	北側3層
	犬歯	左	石列D
肋骨	破片	不明	北側1層
尺骨	近位部~遠位部	左	ピット
中手骨	近位部	不明	南側1層
脛骨	近位部~遠位部	右	表土・攪乱
			不明
基節骨	遠位部	右	北側4層

注 ○: キズあり

第69表 ネコ出土一覧

部位	右/左	出土地	個数
胸椎		北側4層	1
寛骨	腸骨部~坐骨	左	方形掘込み遺構
		右	表土・攪乱
大腿骨	完存	左	方形掘込み遺構
		右	表土・攪乱
踵骨	遠位部	右	表土・攪乱
中足骨II	近位部	右	不明

第65表 キジ類出土一覧

部位	右/左	出土地	個数
大腿骨	近位部~遠位部	左	基壇

第70表 ジュゴン出土一覧

部位	右/左	出土地	個数
前頭骨	頬骨突起	左	不明
歯			不明
胸椎		北側2層	1
環椎		表土・攪乱	1
腰椎		地山直上	1
棘突起		北側4層	1
肋骨		表土・攪乱	1
		ピット	1
上腕骨	近位部端はずれ~遠位部	右	北側1層
破片			ピット

第72表 ウシorウマ出土一覧

部位	右/左	出土地	個数	
頭蓋骨	破片	不明	1	
切歯骨		不明	<1>	
歯	破片	方形掘込み遺構	1	
椎体	椎体	表土・攪乱	1	
		南側1層	1	
		南側2層	(1)	
		北側4層	2	
	椎弓	南側2層	2	
		南側3層	1	
		北側3層	1	
		北側4層	(1)	
		ピット	(1)	
		不明	1	
	椎窩		北側4層	1
	椎頭		南側1層	1
棘突起		地山直上	1	
		基壇	1	
		ピット	(1)	
		不明	1	
尾椎		北側3層	11	
肋軟骨		北側3層	1	
		遺構	(1)	
		不明	1	
肋骨		表土・攪乱	(1)	
		南側2層	1(1)	
		南側3層	(2)	
		北側1層	(1)	
		北側2層	(1)	
		北側3層	(3)	
		北側4層	(7)	
		コーラル敷A	(3)	
		溝状石列	(1)	
		ピット	(4)	
	不明	(2)		
肩甲骨	遠位端破片	不明	北側4層	1
大腿骨	骨頭のみ	不明	ピット	(1)
脛骨	破片	不明	北側3層	(1)
脛骨	骨体	不明	南側2層	1
脛骨	骨体	不明	表土・攪乱	2

注 ○:キズあり, ():破片, <>:半欠, ():効

第75表 ウシ歯出土一覧

部位	右/左	出土地	個数		
上顎骨	M2	右	北側3層	1	
	P2		表土・攪乱	1	
	P4		南側2層	1	
			南側2層	1	
			北側4層	1	
	dm4		ピット	1	
	P4 M2.3		不明	1	
	M1		コーラル敷A	1	
	P3		不明	1	
	P4		北側3層	1	
	dm4		不明	1	
	M1		不明	1<1>	
			南側2層	1	
			北側4層	1	
			コーラル敷A	1	
下顎骨	M2	左	溝状石列	1	
			遺構	1	
			不明	1	
			南側2層	1	
			北側3層	1	
	M3	左	南側2層	1	
			北側3層	1	
			表土・攪乱	1	
			表土・攪乱	1	
			ピット	2	
	歯	右	P3	北側3層	<1>
			P4	南側3層	1
			M2	地山直上	1
				不明	1
			切歯	北側3層	1
左		P2	ピット	1	
		P3	北側4層	1	
		P4	北側3層	1	
		P4	北側4層	1	
		M1	不明	<1>	
歯(破片)	左	M2	石列D	1	
		M3	北側4層	1	
		M2	方形掘込み遺構	1	
		M3	ピット	1	
		M1.2.3	南側2層	1	
歯(破片)	左	歯(破片)	北側4層	1	
		歯(破片)	ピット	1	
		切歯	南側3層	1	
		歯(破片)	表土・攪乱	2	
		歯(破片)	北側1層	1	
歯(破片)	左	歯(破片)	北側2層	1	
		歯(破片)	北側4層	1	
		歯(破片)	瓦溜まりC	(1)	
		歯(破片)	遺構	1	
		歯(破片)	不明	5	

注 門:未明出, <>:半欠

第73表 ウマ歯出土一覧

部位	右/左	出土地	個数		
犬歯		北側1層	1		
I1		南側3層	1		
P2		不明	1		
P2.3		表土・攪乱	1		
P4	右	北側3層	1		
P4		ピット	1		
M1		不明	1		
M2		南側3層	1		
M2?		北側4層	1		
破片		表土・攪乱	1		
上顎骨	右	犬歯	北側3層	1	
			地山直上	1	
		E2	北側4層	1	
		P2	不明	1	
		P3	コーラル敷A	1	
		P3or4	北側3層	1	
		P3or4	遺構	1	
		P3or4	コーラル敷A	1	
		M1	北側4層	1	
		破片	不明	遺構	1
下顎骨	左	I1.2.3	北側4層	1	
		dm4	南側2層	1	
		P2	不明	1	
		P3	不明	1	
		P4	不明	1	
		P4	北側4層	1	
		P3.4M1	不明	1	
		破片	不明	瓦溜まりC	1
		I2	不明	ピット	1
		I3	不明	北側3層	1
		P2	不明	ピット	2
		P2	不明	表土・攪乱	1
		P4	不明	北側4層	1
		P4	不明	南側2層	1
		M3	不明	南側1層	1

第74表 シカ出土一覧

部位	右/左	出土地	個数	
角		不明	(1)	
大腿骨	近位端	左	溝状遺構D	1
	遠位端			(1)
脛骨	遠位端		不明	1

注 ○:キズあり

第77表 種不明出土一覧

部位	右/左	出土地	個数	
頭蓋骨	破片	不明	溝状遺構A	1
頬骨		不明	南側4層	1
下顎骨		不明	不明	(1)
尾椎		不明	北側3層	1
指骨		不明	南側1層	1
寛骨	腸骨部	右	南側1層	(1)
脛骨	骨体	右	北側3層	1

注 ○:キズあり

第76表 ヤギ出土一覧

部位	右/左	出土地	個数	
上顎骨	M2	左	表土・攪乱	1
	M3		北側4層	1
	P4		不明	1
	M1	右	南側2層	1
	M1.2		北側3層	1
下顎骨	M2.3		コーラル敷B	1
	M3		不明	1
	破片		表土・攪乱	1
	環椎			1
	肋骨		表土・攪乱	1
上腕骨	遠位骨端はずれ	左	表土・攪乱	<1>
	骨体～遠位部		不明	1
	骨体		不明	1
尺骨	遠位部	右	表土・攪乱	(1)
			不明	1
			不明	1
桡骨	近位端	右	表土・攪乱	1
	近位部		ピット	(1)
	近位端～遠位部		表土・攪乱	1
腕骨	近位骨端はずれ	左	南側4層	1
	骨体	不明	表土・攪乱	(1)
	近位部	左	不明	1
掌骨	骨体	右	表土・攪乱	(1)
	腸骨部	左	北側4層	(1)
	坐骨	右	表土・攪乱	1
脛骨	近位部～遠位部	右	表土・攪乱	1
	骨体		北側3層	1
	近位部	左	表土・攪乱	(1)
末節骨	骨体～遠位端	左	不明	1
			北側4層	1

注 ():効, <>:半欠, ○:キズあり

第58表 サカナ計測一覧

科・種	右/左	計測部位	計測値	出土地
フエフキダイ科	右	前上顎骨	34.5	不明
			34.1	
			39.0	
			27.5	
			27.0	
			39.0	
			29.9	
			39.3	
			23.0	
			23.6	
			30.5	
			26.6	
			39.5	
			15.8	
			16.0	
			17.3	
			18.2	
			18.2	
			19.3	
			20.0	
	20.5			
	21.3			
	22.0			
	22.6			
	22.8			
	23.0			
	25.8			
	27.3			
	27.1			
	29.8			
	34.8			
	39.0			
	43.0			
	47.0			
	26.7			
	34.5			
	39.0			
	46.0			
	25.9			
	34.0			
29.7				
15.5				
16.8				
19.8				
27.6				
27.7				
18.2				
18.5				
19.8				
19.8				
20.2				
20.4				
21.3				
22.1				
22.2				
22.3				
22.3				
24.6				
24.7				
25.9				
27.7				
29.5				
29.8				
34.0				
35.3				
45.0				
24.7				
24.7				
28.6				
29.2				
29.5				
18.4				
18.9				
21.9				
22.0				
25.3				
26.1				
フエフキダイ科	左	前上顎骨	26.5	不明
			28.6	
			31.7	
			34.2	
			34.5	
			38.3	
			38.5	
			45.7	
			28.7	
			47.0	
			22.7	
			42.4	
			26.5	
			32.1	
			42.4	
			45.7	
			21.2	
			21.2	
			22.2	
			24.0	
	38.3			
	25.1			
	26.4			
	26.5			
	28.4			
	28.0			
	29.2			
	29.8			
	32.1			
	33.6			
	42.4			
	42.4			
	42.5			
	51.6			
	45.5			
	44.5			
	39.0			
	46.5			
	45.5			
	26.8			
21.4				
22.9				
23.9				
27.0				
31.2				
36.4				
16.9				
18.5				
19.2				
20.4				
20.6				
22.2				
23.7				
24.5				
25.5				
25.5				
26.4				
28.8				
30.7				
38.7				
39.3				
39.8				
46.5				
39.5				
44.1				
14.5				
22.9				
23.9				
24.4				
24.4				
32.2				
44.1				
20.7				
21.0				
22.5				
22.6				
フエフキダイ科	右	主上顎骨	23.4	不明
			23.5	
			23.6	
			23.9	
			24.0	
			24.4	
			26.8	
			—	
			—	
			65.0	
			13.0	
			45.0	
			45.0	
			54.0	
			43.0	
			43.0	
			7.3	
			47.7	
			8.4	
			—	
	—			
	—			
	47.5			
	8.1			
	60.0			
	10.1			
	53.0			
	8.0			
	68.0			
	16.7			
	68.0			
	16.1			
	65.0			
	15.6			
	65.0			
	13.3			
	18.7			
	10.9			
	12.7			
	19.7			
24.5				
25.0				
18.1				
23.5				
24.0				
31.8				
27.3				
38.1				
12.0				
24.6				
31.6				
34.5				
12.5				
14.9				
34.2				
31.8				
25.0				
31.1				
13.5				
17.9				
25.5				
12.0				
8.4				
27.2				
9.4				
16.7				
21.6				
22.2				
27.5				
29.5				
31.9				
35.5				
23.4				
23.8				
19.9				
26.2				
27.9				
フエフキダイ科	左	前上顎骨	39.0	不明
			11.0	
			39.0	
			10.7	
			30.8	
			8.2	
			39.0	
			11.5	
			24.0	
			8.3	
			35.3	
			7.0	
			67.0	
			21.0	
			18.5	
			6.8	
			35.7	
			8.4	
			35.7	
			9.1	
	44.2			
	9.8			
	35.7			
	7.9			
	35.7			
	8.9			
	44.2			
	9.0			
	47.8			
	13.1			
	47.8			
	11.7			
	47.8			
	12.7±			
	—			
	—			
	65.0			
	14.7			
	67.6			
	11.9			
68.0				
—				
66.0				
9.8				
47.5				
7.3				
フエフキダイ科	右	前上顎骨	26.5	不明
			20.4	
			22.6	
			23.8	
			28.1	
			21.0	
			22.8	
			32.3	
			35.1	
			49.0	
			26.5	
			26.5	
			30.0	
			36.9	
			26.5	
			36.9	
			29.6	
			37.0	
			26.5	
			39.0	
	11.0			
	39.0			
	10.7			
	30.8			
	8.2			
	39.0			
	11.5			
	24.0			
	8.3			
	35.3			
	7.0			
	67.0			
	21.0			
	18.5			
	6.8			
	35.7			
	8.4			
	35.7			
	9.1			
	44.2			
9.8				
35.7				
7.9				
35.7				
8.9				
44.2				
9.0				
47.8				
13.1				
47.8				
11.7				
47.8				
12.7±				
—				
—				
65.0				
14.7				
67.6				
11.9				
68.0				
—				
66.0				
9.8				
47.5				
7.3				
フエフキダイ科	左	前上顎骨	23.4	不明
			23.5	
			23.6	
			23.9	
			24.0	
			24.4	
			26.8	
			—	
			—	
			65.0	
			13.0	
			45.0	
			45.0	
			54.0	
			43.0	
			43.0	
			7.3	
			47.7	
			8.4	
			—	
	—			
	—			
	47.5			
	8.1			
	60.0			
	10.1			
	53.0			
	8.0			
	68.0			
	16.7			
	68.0			
	16.1			
	65.0			
	15.6			
	65.0			
	13.3			
	18.7			
	10.9			
	12.7			
	19.7			
24.5				
25.0				
18.1				
23.5				
24.0				
31.8				
27.3				
38.1				
12.0				
24.6				
31.6				
34.5				
12.5				
14.9				
34.2				
31.8				
25.0				
31.1				
13.5				
17.9				
25.5				
12.0				
8.4				
27.2				
9.4				
16.7				
21.6				
22.2				
27.5				
29.5				
31.9				
35.5				
23.4				
23.8				
19.9				
26.2				
27.9				
フエフキダイ科	右	前上顎骨	26.5	不明
			20.4	
			22.6	
			23.8	
			28.1	
			21.0	
			22.8	
			32.3	
			35.1	
			49.0	
			26.5	
			26.5	
			30.0	
			36.9	
			26.5	
			36.9	
			29.6	
			37.0	
			26.5	
			39.0	
	11.0			
	39.0			
	10.7			
	30.8			
	8.2			
	39.0			
	11.5			
	24.0			
	8.3			
	35.3			
	7.0			
	67.0			
	21.0			
	18.5			
	6.8			
	35.7			
	8.4			
	35.7			
	9.1			
	44.2			
9.8				
35.7				
7.9				
35.7				
8.9				
44.2				
9.0				
47.8				
13.1				
47.8				
11.7				
47.8				
12.7±				
—				
—				
65.0				
14.7				
67.6				
11.9				
68.0				
—				
66.0				
9.8				
47.5				
7.3				
フエフキダイ科	左	前上顎骨	26.5	不明
			20.4	
			22.6	
			23.8	
			28.1	
			21.0	
			22.8	
			32.3	
			35.1	
			49.0	
			26.5	
			26.5	
			30.0	
			36.9	
			26.5	
			36.9	
			29.6	
			37.0	
			26.5	
			39.0	
	11.0			
	39.0			
	10.7			
	30.8			
	8.2			
	39.0			
	11.5			
	24.0			
	8.3			
	35.3			
	7.0			
	67.0			
	21.0			
	18.5			
	6.8			
	35.7			
	8.4			
	35.7			
	9.1			
	44.2			
9.8				
35.7				
7.9				
35.7				
8.9				
44.2				
9.0				
47.8				
13.1				
47.8				
11.7				
47.8				
12.7±				
—				
—				
65.0				
14.7				
67.6				
11.9				
68.0				
—				
66.0				
9.8				
47.5				
7.3				
フエフキダイ科	右	前上顎骨	26.5	不明
			20.4	
			22.6	
			23.8	
			28.1	
			21.0	
			22.8	
			32.3	
			35.1	
			49.0	
			26.5	
			26.5	
			30.0	
			36.9	
			26.5	
			36.9	
			29.6	
			37.0	
			26.5	
			39.0	
	11.0			
	39.0			
	10.7			
	30.8			
	8.2			
	39.0			
	11.5			
	24.0			
	8.3			
	35.3			
	7.0			
	67.0			
	21.0			
	18.5			
	6.8			
	35.7			
	8.4			
	35.7			
	9.1			
	44.2			
9.8				
35.7				
7.9				
35.7				
8.9				
44.2				
9.0				
47.8				
13.1				
47.8				
11.7				
47.8				
12.7±				
—				
—				
65.0				
14.7				
67.6				
11.9				
68.0				
—				
66.0				
9.8				
47.5				
7.3				
フエフキダイ科	左	前上顎骨	26.5	不明
			20.4	
			22.6	
			23.8	
			28.1	
			21.0	
			22.8	
			32.3	
			35.1	
			49.0	
			26.5	
			26.5	
			30.0	
			36.9	
			26.5	
			36.9	
			29.6	
			37.0	
			26.5	
			39.0	
	11.0			
	39.0			
	10.7			
	30.8			
	8.2			
	39.0			
	11.5			
	24.0			
	8.3			
	35.3			
	7.0			
	67.0			
	21.0			
	18.5			
	6.8			
	35.7			
	8.4			
	35.7			
	9.1			
	44.2			
9.8				
35.7				
7.9				
35.7				
8.9				
44.2				
9.0				
47.8				
13.1				
47.8				
11.7				
47.8				
12.7±				
—				
—				
65.0				
14.7				
67.6				
11.9				
68.0				
—				
66.0				
9.8				
47.5				
7.3				
フエフキダイ科	右	前上顎骨	26.5	不明
			20.4	
			22.6	
			23.8	
			28.1	
			21.0	
			22.8	
			32.3	
			35.1	
			49.0	
			26.5	
			26.5	
			30.0	
			36.9	
			26.5	
			36.9	
			29.6	
			37.0	

第82表 ニワトリ計測一覧

単位: mm

部位	右/左	計測部位	計測値	出土地	
上腕骨	完存	左	GL	70.6	不明
			BP	19.6	
			Bd	15.4	
			SD	6.7	
尺骨	完存	右	BP	24.1	表土・擾乱
			左	GL	
中手骨	完存	右		GL	46.8
			左	BP	19.1
大腿骨	完存	右		Bd	17.3
			左	SD	8.3
近位端	左	BP		22.4	21
			近位端~骨体	右	GL
完存	右	Bd			
			近位端~骨体	左	BP
近位端	左	BP			
			近位端~骨体	左	BP
近位部~遠位端	右	Bd			
			骨体~遠位端	左	Bd
遠位端	右	Bd			
			左	SD	12.4
右	Bd	13.4			14.5(欠)
		左	Bd	10.6	5.5
右	Bd			10.6	6.2
		左	Bd	12.2	9
中足骨	近位部~遠位部			左	SC
		遠位端	右		Bd
遠位端	右			Bd	12.3
		遠位端	右	Bd	14.8
遠位端	右			SC	9
		遠位端	右	Bd	15.7

第86表 ウマ計測一覧

単位: mm

部位	右/左	計測部位	計測値	出土地	
上顎骨	右	高さ	P2	39.75	不明
			P3	19.1	
			P4	21.57	
			M1	39.29	
			M2	35.9	
	左	高さ	M2	64.46	南側3層
			P3	23.98	
			M1	35.53	
			P4	30.77	
			P3	26.55	
下顎骨	右	高さ	P4	33.26	北側4層
			M1	32.39	
	左	高さ	P2	31.54	不明
			P4	32.55	
肩甲骨	右	遠位最大幅	P2	31.73	ビット
			P4	25.13	
上腕骨	右	遠位最大幅	SLC	80.81	遺構
			SLC	80.49	
上腕骨	左	遠位最大幅	SLC	55.11	北側4層
			SLC	80.64	
上腕骨	右	遠位端	Bd	66	不明
			Bd	71.03	
上腕骨	左	遠位端	Bd	67.0±	北側4層
			Bd	71.63	
中手骨	左	遠位端	BP	38.10±	北側4層
			BP	38.10±	
寛骨	左	約最小幅	肩骨部~白部	37.73	石列D
			肩骨部	36.36	
脛骨	右	約最小幅	脛骨部	27.53	南側2層
			脛骨部	87.28	
脛骨	右	遠位端	Bd	64.26	ビット
			Bd	55.05	
脛骨	右	遠位端	Bd	53.98	ビット
			Bd	55.28	
脛骨	右	遠位端	Bd	51.42	表土・擾乱
			Bd	43.54	
中足骨	右	遠位端	Bd	43.78	ビット
			Bd	40.33	
中足骨	左	遠位端	Bd	39.74	南側2層
			Bd	40.12	
中足骨	左	遠位端	GL	45.98	北側3層
			Bd	43.48	
中足骨	左	遠位端	BP	48.01	北側4層
			Bd	39.98	
中足骨	右	遠位端	GL	41.86	北側4層
			BP	43.81	
中足骨	右	遠位端	GL	69.02	南側2層
			Bd	35.04	
中足骨	右	遠位端	BP	42.55	北側1層
			GL	75.64	
中足骨	左	遠位端	Bd	42.12	北側1層
			BP	49.48	

第87表 ブタ計測一覧

単位: mm

部位	右/左	計測部位	計測値	出土地	
肩甲骨	右	SLC	骨体~遠位端	19.7	南側2層
			遠位部	18.0	
			遠位部	14.9	
			遠位部	18.5	
			遠位部	20.1	
	左	SLC	骨体~遠位端	22.2	南側3層
			遠位部	15.8	
			遠位部	12.7	
			遠位部	12.6	
			遠位部	18.0	
上腕骨	左	SLC	近位部~遠位端	18.9	南側2層
			近位部~遠位部	16.9	
			近位部~遠位部	21.7	
			近位部~遠位部	16.0	
			近位部~遠位部	17.4	
	右	SD	近位部~遠位端	14.3	コーラル敷B
			近位部~遠位部	31.9	
			近位部~遠位部	13.8	
			近位部~遠位部	12.8	
			近位部~遠位部	11.5	
上腕骨	右	SD	近位部~遠位部	13.2	コーラル敷A
			近位部~遠位部	32.7	
			近位部~遠位部	13.2	
			近位部~遠位部	32.7	
			近位部~遠位部	13.2	
	左	BP	近位部~遠位部	21.8	北側4層
			近位部~遠位部	24.8	
			近位部~遠位部	28.2	
			近位部~遠位部	20.5	
			近位部~遠位部	19.3	
腕骨	右	SD	近位部~遠位部	23.6	北側3層
			近位部~遠位部	23.6	
			近位部~遠位部	23.6	
			近位部~遠位部	23.6	
			近位部~遠位部	23.6	
	左	BP	近位部~遠位部	22.2	ビット
			近位部~遠位部	14.8	
			近位部~遠位部	26.0	
			近位部~遠位部	18.7	
			近位部~遠位部	28.3	
尺骨	右	DPA	近位部~遠位部	18.2	表土・擾乱
			近位部~遠位部	27.4	
			近位部~遠位部	18.7	
			近位部~遠位部	31.9	
			近位部~遠位部	21.8	
	左	DPA	近位部~遠位部	29.0	不明
			近位部~遠位部	18.7	
			近位部~遠位部	15.1	
			近位部~遠位部	32.7	
			近位部~遠位部	23.3	
中手骨	右	BP	IV	12.4	北側2層
			IV	57.7	
			IV	12.8	
			IV	18.5	
			IV	59.2	
	左	GL	III	16.5	基壇
			III	18.5	
			III	59.2	
			III	16.5	
			III	18.5	
大腿骨	右	SD	近位部~遠位部	16.3	表土・擾乱
			近位部~遠位部	18.2	
			近位部~遠位部	18.0	
			近位部~遠位部	12.3	
			近位部~遠位部	13.1	
	左	SD	骨体~遠位端	21.1	溝状遺構B
			骨体~遠位端	21.1	
			骨体~遠位端	13.6	
			骨体~遠位端	13.2	
			骨体~遠位端	12.3	
中足骨	右	GL	IV	37.3	北側4層
			IV	70.6	
			IV	58.2	
			IV	70.6	
			IV	58.2	
	左	GL	IV	48.6	不明
			IV	13.1	
			IV	13.1	
			IV	13.1	
			IV	13.1	

注*: イノシシの可能性

第83表 イヌ計測一覧

単位: mm

部位	右/左	計測部位	計測値	出土地	
下顎骨	犬歯		10.31×6.83	石列D	
脛骨	遠位端	右	BD	19.51	不明

第84表 ネコ計測一覧

単位: mm

部位	右/左	計測部位	計測値	出土地	
大腿骨	完存	右	GL	101.14	表土・擾乱
大腿骨	完存	左	GL	102.89	方形掘込み遺構

第85表 ジュゴン計測一覧

単位: mm

部位	計測部位	計測値	出土地
肋骨	径	32.37×23.87	表土・擾乱

第89表 ウシ計測一覧

単位: mm

部位	右/左	計測部位	計測値	出土地	
腕・尺骨	左	近位端	BP	77.7	コーラル敷B
			DPA	61.4	
腕骨	左	近位端	BP	89.5	不明
			Bd	65.9	
脛骨	右	近位端~骨体	BP	90.2	北側2層
			Bd	63.3	
脛骨	右	骨体~遠位端	Bd	39.8	ビット
			SD	39.8	

第88表 シカ計測一覧

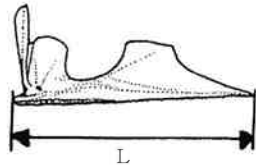
単位: mm

部位	右/左	計測部位	計測値	出土地
角	左	角座径	35.93×40.96	不明

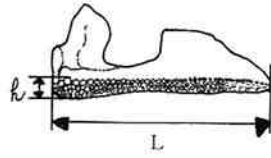
第90表 ヤギ計測一覧

単位: mm

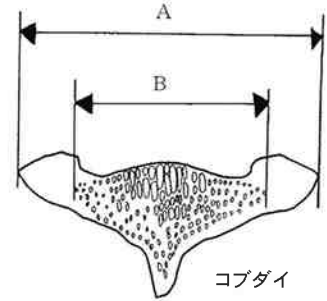
部位	計測部位	計測値	出土地	
腕骨	近位端	BP	24.06	表土・擾乱
	近位端~遠位端	BP	24.65	表土・擾乱



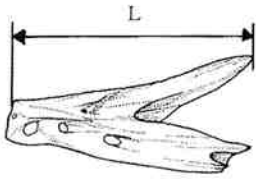
スズキ目 前上顎骨 (左)



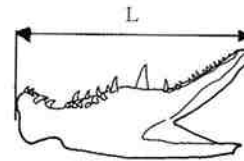
ハタ科 前上顎骨 (右)



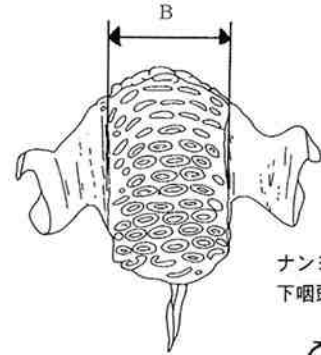
コブダイ
下咽頭骨



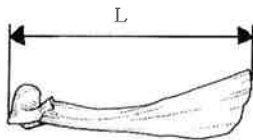
スズキ目 歯骨 (左)



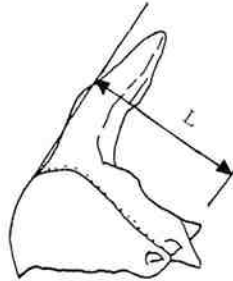
ハタ科 歯骨 (右)



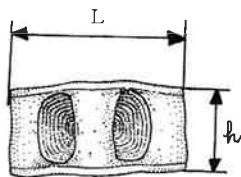
ナンヨウブダイ
下咽頭骨



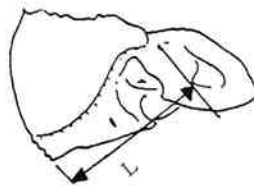
スズキ目 主上顎骨 (左)



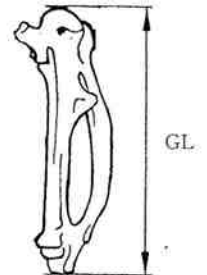
ナンヨウブダイ 前上顎骨 (左)



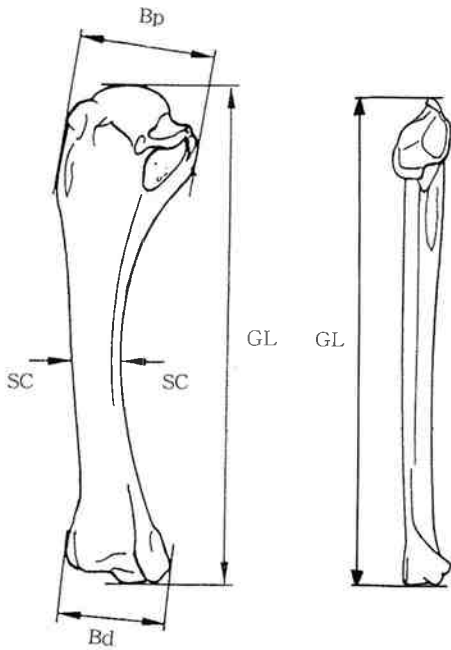
サメ類 脊髄骨



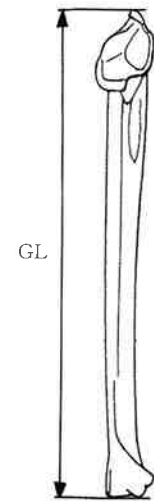
ナンヨウブダイ 歯骨 (左)



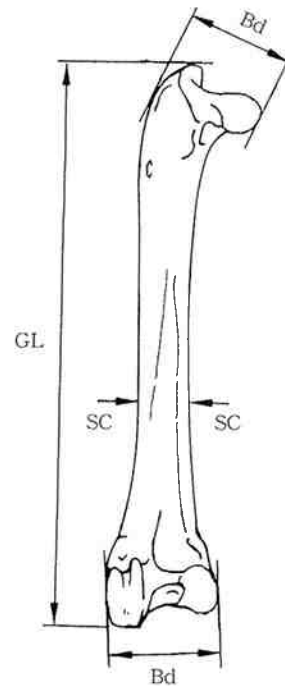
ニワトリ
中手骨 (左)



ニワトリ
上腕骨 (左)



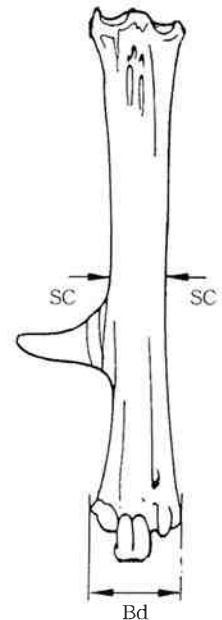
ニワトリ
尺骨 (右)



ニワトリ
大腿骨 (左)

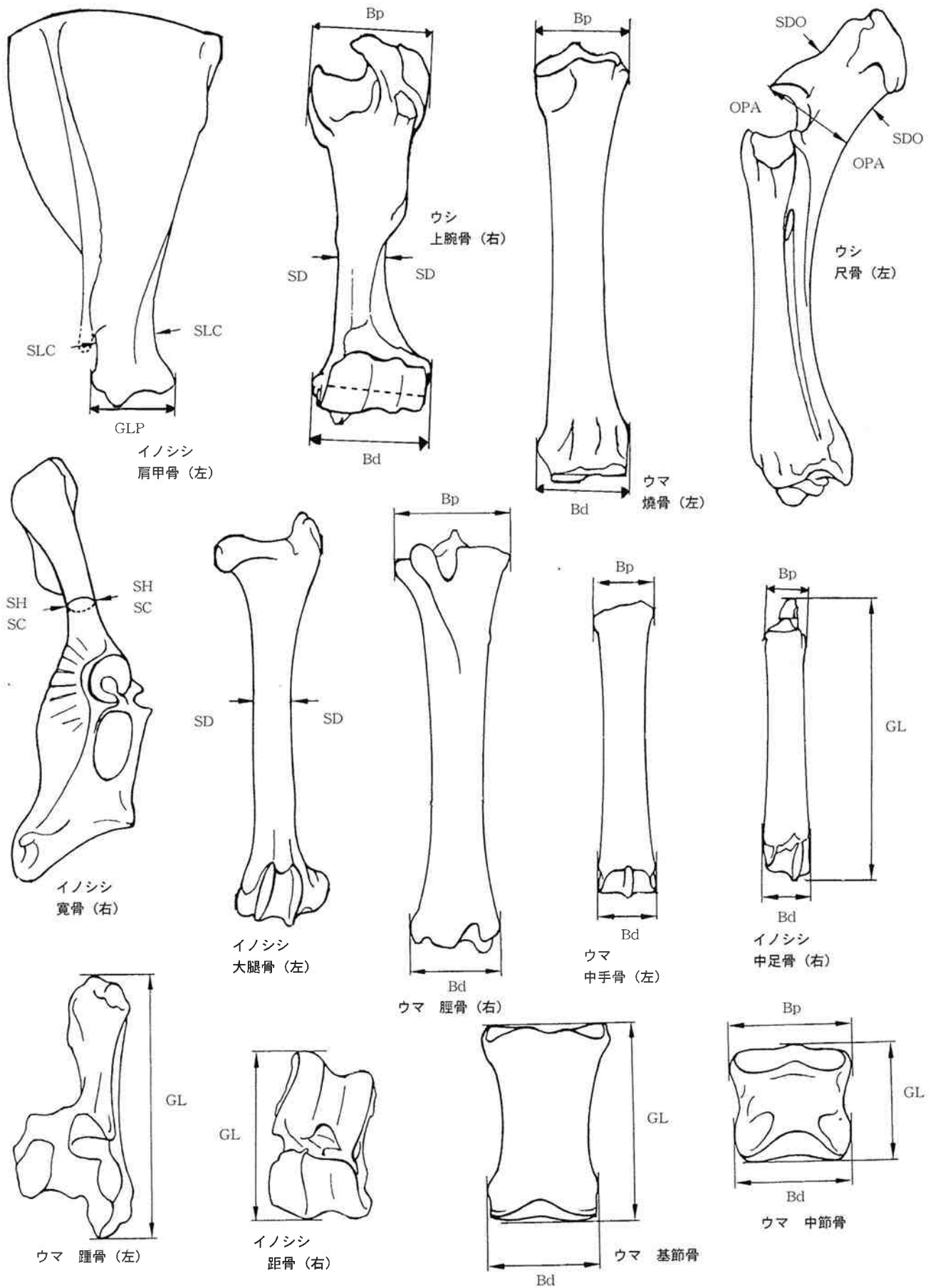


ニワトリ
脛骨 (右)



ニワトリ
中足骨 (左)

第73図 魚骨、ニワトリの計測位置



第74図 獣骨の計測位置



第75図 切痕

イヌ (1.右脛骨)、ヤギ (2.左寛骨、3.左脛骨)、ウシ (4.右肋骨、5.左橈骨、6.左橈骨・尺骨、7.右中手骨、8.左大腿骨、9.右中足骨) ウマ (10.右橈骨、11.右中手骨、12.左寛骨、13.左大腿骨、14.左脛骨、15.右中足骨)

第41節 人骨

天界寺西区の発掘調査により成人男性4体、性別不明成人2体、乳児1体の人骨が出土した。人骨は全体的に破損して残存部位が少ないため、詳細な観察は行えなかった。以下に人骨所見の概要を記す。なお計測はKNUSSMANN(1988)に、観察等はWHITE(2000)に従った。主要計測値を第2表に示す。また、比較群としてナーチャー毛古墓群、銘苺古墓群、ヤッチのガマを参照した。

K・L-18、19 成人男性1体

残存部位は左寛骨(図版74a-1)、左大腿骨(a-2)、左脛骨近位端(a-3)、腓骨骨幹近位部(a-4)が確認された。骨幹部の大きさや筋付着部の発達程度から同一個体のものであると思われる。寛骨は下前腸骨稜が発達し寛骨臼が大きく、恥骨下角が狭いことから、男性の特徴を示していた。また恥骨結合面より年齢は30～40代と推定される。大腿骨も、小転子や粗線などの筋付着部が比較的発達している。中央矢状径は26mm、横径は25mmと、近世に属するナーチャー毛(M6:27.6, M7:25.1)や銘苺南A・C・D地区(M6:28.0, M7:29.0)、ヤッチのガマ(M6:27.1, M7:25.9)集団の平均値よりやや小さい。脛骨は、脛骨粗面が発達しているが、残存部位が少なく詳細は不明である。

24ライン 成人男性1体

左尺骨片(図版74b)が確認された。骨幹部は厚く頑丈で、尺骨粗面や回外筋稜などの筋付着部が発達していて、男性と推定される。骨体矢状径は14mm、横径は17mmと、ヤッチのガマ(M11:12.4, M12:15.2)より大きく、ナーチャー毛(M11:13.3, M12:15.8)や銘苺南A・C・D地区(M11:13.5, M12:17.5)と近い値をとる。

N-25 成人男性1体

左大腿骨近位端(図版74c)が確認された。骨頭や骨頸は大きく頑丈で、殿筋粗面上部や大転子が発達していることから男性と推定される。頸垂直径は34mm、頸矢状径は27mmとなり、ヤッチのガマ(M15:1.9, M16:27.2)より垂直径が大きい値をとる。

I-27 成人男性1体

右橈骨(図版74d)が確認された。橈骨粗面などの筋付着部の発達は弱いが、骨幹部の長径は比較的大きい。骨体最小周は38mmと、ヤッチのガマの男性(39.6)に近いことから、本橈骨の性別はおそらく男性と思われる。

J-27 性別不明成人1体

手の基節骨のみである。詳細は不明。

L-19 乳児1体

右大腿骨片(図版74f)のみが確認された。骨体中央幅は6.8mm、最大長は74～76mmの範囲内と推定される。AKIYOSHI(1976)の胎児骨を用いた研究を参照すると、妊娠10ヶ月(中央幅：5.91±0.20、最大長：71.85±1.58)よりやや大きい。このことから、出生して1年以内の乳児と推定される。

出土地不明 性別不明成人1体

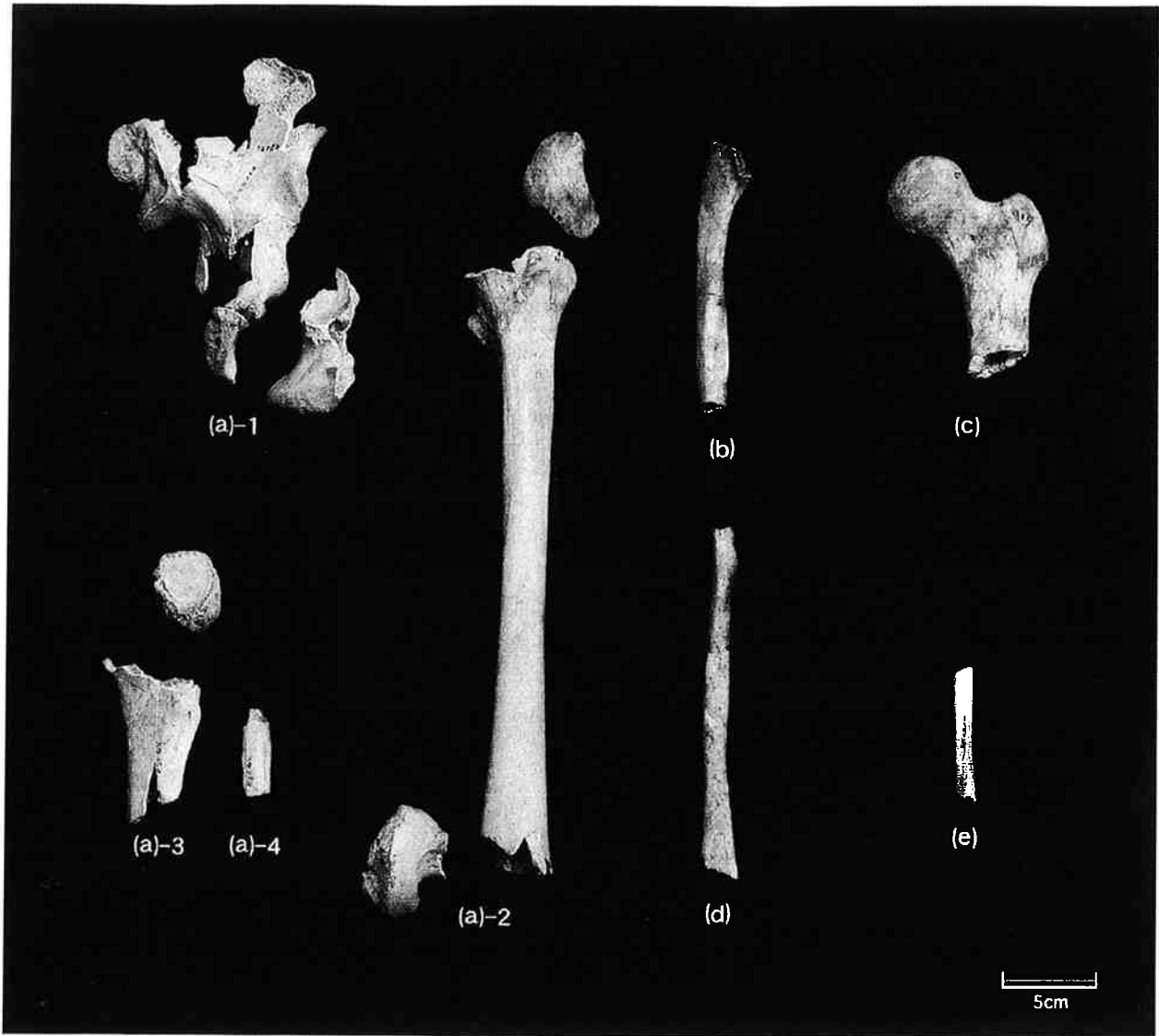
左尺骨遠位部(図版74e)のみである。詳細は不明。

引用文献

- AKIYOSHI T 1976 : Studies on fetal bone extremities and the derivation of an equation for estimating fetal body length. Acta med. Nagasaki. 20 : pp.15-18.
 土肥直美, 譜久嶺忠彦 1999 : 那覇市銘苺古墓群南 (A・C・D) 地区出土の人骨, 銘苺古墓群 (II) 那覇市文化財調査報告書第40集, 那覇市教育委員会 : pp.175-188.
 譜久嶺忠彦, 土肥直美, 石田肇 2000 : 那覇市ナーチャー毛古墓群出土の人骨, ナーチャー毛古墓群 那覇市文化財調査報告書第44集, 那覇市教育委員会 : pp.182-204.
 譜久嶺忠彦 他 2001 : ヤッチのガマ・カンジン原古墓群出土の人骨, 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第6集, 沖縄県立埋蔵文化センター : pp.345-385.
 KNUSSMANN, R., 1988 : MALTIN/KNUSSMANN - Anthropologie, Handbuch der Vergleichenden Biologie des Menschen, Bd. I. Stuttgart, Gustav Fischer Verlag.
 White T.D., 2000 : Human Osteology Second Edition. ACADEMIC PRESS, San Diego.

第91表 ヒト出土一覧

残存部位		性別	右/左	出土地
橈骨	骨幹部	成人男性	右	南側3層
尺骨	近位? 骨体部	成人男性	左	遺構
	遠位部	性別不明成人	右	不明
寛骨	腸骨? 坐骨部	成人男性	左	表土・攪乱
	骨幹部	乳児	右	北側3層
大腿骨	近位端	成人男性	左	不明
	骨幹部	成人男性	左	表土・攪乱
脛骨	近位部	成人男性	左	表土・攪乱
腓骨	近位部	性別不明成人	不明	表土・攪乱
基節骨(手)		性別不明成人	不明	溝状遺構D



第92表 ヒト計測一覧

		(mm)			
		K・L18・19	24ライン	I-27	N-27
計測項目		男性	男性	男性	男性
尺骨					
11	骨体矢状径	l	14		
12	骨体横径	l	17		
11/12	骨体横断面示数	l	82.4		
桡骨					
3	骨体最小周	r		38	
4	骨体横径	r		(14)	
5	骨体矢状径	r		(12)	
5 (2)	頸矢状径	r		(14)	
5/4	骨体断面示数	r		85.7	
大腿骨					
6	骨体中央矢状径	l	26		
7	骨体中央横径	l	25		
8	骨体中央周	l	80		
9	骨体上横径	l	(20)		
10	骨体上矢状径	l	(22)		
15	頸垂直径	l			
16	頸矢状径	l			34
17	頸周	l			27
6/7	骨体中央断面示数	l	104.0		97
10/9	骨体上断面示数	l	75.9		

図版74 人骨

第VI章 総括

今回の調査成果について、前章までに概述した。ここでは今一度整理するとともに、若干の課題点について触れ、まとめとしたい。

今回の調査により、玉陵以東の範囲の調査が終了したことになる。文献資料にみられる天界寺の寺域^{註1}のほぼ東側半分を調査したことになる。既に、那覇市教育委員会が実施した調査成果の報告^{註2}、沖縄県教育委員会による調査成果の報告^{註3}がなされている。これまでの調査成果からすると、景泰年間(1450～56)に尚泰久王によって建立された天界寺は万暦年間(1576年)の火災による消失、順治年間(1644～61)の復旧から琉球王国の処分(1879年)で廃寺になるまで約230年間存続していたようであるが、時代の流れとともに、その主体部を寺域の東側へと移動しているようにみえる。

今回の調査範囲の堆積層の状況を見ると、後世の攪乱を受け、本来的な堆積層が残っていない部分も多くみられる。判然としない部分もあるが、調査区の南西側(天界寺の井戸の西側)地域とそれ以北の地域で違いが認められた。

南西側(25ライン以南)では表土下に黒褐色混礫土層、黒色土層があり、地山の赤土になる。いずれも水平方向の堆積である。黒褐色混礫土層は約30cm、黒色土層は約10cmの厚みである。地山の赤土面には溝状遺構やピット群が検出され、黒色土層面では小礫集中部が確認されている。出土している遺物からすると、17世紀頃のものを中心に、それ以降の時期のものが圧倒的であり、当該時期の頃から一帯が利用されたものと想定される。

一方、中央～北側(25ライン以北)では表土下の黒褐色混礫土層(南西側と同様な層相)の下に赤土を主体とした造成層が確認されている。表面はほぼ平坦で、層厚は北西側で厚い。その上面には幅約2mの小礫敷きの遺構が本堂跡から西側へ直線的に伸びる。また、南側の井戸との境界をなすような石列が東西方向に検出されており、本堂跡とされている基壇を有する遺構とある時期の空間を形成している。首里古地図(1700年)に描かれている天界寺の状況とよく似ている。出土遺物は比較的幅がみられ、16～18世紀頃のもの主体をなしている。

この赤土を主体とした造成層の下には黒褐色土層が確認され、北側ではジャリが薄く敷かれた感じである。その面から立ち上がる石垣やコーラル敷き、瓦溜まりの部分が見られるほか、本層の下部に大きな礫を敷き、その両側に野面石積みを立ち上げる溝状石列などの遺構が検出されている。出土遺物は15・16世紀頃のもの主体で、特に、高麗系瓦の多くは本層から出土している。

この黒褐色土層の下は赤土の地山で、上面には蜂の巣状にピット群が検出されたほか、石列、円弧状遺構など天界寺の創建時の遺構かとみられるものが確認されている。

次に検出された遺構についてみる。大きくみれば造成層上面及び南西側で検出された遺構がひとつの時期をつくり、造成層下の黒褐色土面、地山面に検出された遺構に分けられる。

造成層上面に形成された遺構は、那覇市教育委員会が実施した調査で確認された本堂跡とされる基壇を有する遺構を中心に、そこから西側へ伸びる参道(コーラル状の小礫敷)、井戸との境目をなすように東西方向に伸びる石列Aなどが検出されている。参道部はほぼ重なるように数枚の小礫敷きの面が確認され、本堂が機能している時期に参道の改修があったことを窺わせている。その際には参道のラインは同じ場所に設けたようである。

この石列Aの南側に後出の石垣Aが井戸との境目をつくるように東西に伸びている。石垣A、本堂跡、参道が首里古地図(1700年頃)に描かれている状況を示すものかと考えられる。北側では遺構の検出はなく、広場になっていたかとみられ、また、寺域の北側を東西に伸びる綾門大道と境内の境目をなす石垣やその石垣に設置された門などは確認できなかった。

南側で検出された遺構は首里古地図には描かれてないものの、時期的には相前後する頃が想定される。石列Bは溝状を呈し、底面の状況からすると西側に流れていたかと推察される。石列Cは南西側遺構と中央部を区切るものとみられる。南西側の地山面のピット群は建物跡が想定でき、それを挟むように南北で東西方向に走る溝が検出され、また、中央部付近を南北に走る溝が本地区を二分しており、東西に建物があつたかと想定される。

造成層下の遺構は調査区の北西側を中心に展開する。地山面の状況を見ると、ピット群は中央から北側に、円弧状遺構は中央部のやや南側寄りでも集中的に検出されている(第14図)。円弧状遺構は6基確認されたが、詳細はつかめなかった。円形を呈す浅い溝状のものと、その内外にみられるピットで構成されている。円の直径に大小がみられる。また、浅い溝状のものが二重に配されるものなど、若干のバリエーションがみられる。ピットは

北側のものより浅めのものが多い(第1表)。寺という本遺跡に特徴的なものなのか興味深い。那覇市教育委員会の調査では、綾門大道に近い場所で検出されている。

中央から北側で集中的に検出されたピット群は、深さが50cmを越すものが目立った(第1表)。比較的プランが明確なものは第14図に示した2棟だけであるが、網掛けしたものは可能性の想定できるピットである。本堂跡の位置している周辺の地山面には、深さが70cmを越すようなピットが割と見受けられた。創建時の頃から大きな建物が配置された場所かと推察される。

中央西側では明式瓦を中心とした瓦溜まりの上部を覆ってコーラル敷きの道が東西方向に伸びて検出された。西側は玉陵の方へ延びており、東側は調査区西壁から約5mのところまで途切れる。北接する石列Dや石垣Bなどはコーラル敷きの道と関連する可能性も考えられる。このコーラル敷きの道はライン的には、造成層上面の参道とほぼ同様である。

北側第4層面で検出された溝状石列、石垣C、石列E、コーラルBなども建物に関連する遺構かとみられる。特に、溝状石列は底面部が西側へ傾斜しており、水は西側に流れたものと考えられる。本遺構は玉陵側へ延びている。遺構の検出状況からすると、建物の配置場所は創建時からほとんど変わらなかったものと想定される。

本堂跡の西側で検出された方形掘り込み遺構は建物とは重ならない位置にあり、本堂が機能した頃には埋められていたようである。小礫が広がる部分があったり、何らかの目的でつくられたものと考えられるが、詳細は不明。

最後に遺物についてみよう。これまでの調査と同様、今回の調査においても多種多様な遺物が得られている(第3表)。種類のにはこれまでの調査で出土しているものと大差ない。量的には青磁、褐釉陶器、沖縄産施釉・無釉陶器、染付、タイ産褐釉陶器、白磁の順(第3表)である。出土状況を見ると南側第2～第4層、北側第3・4層、瓦溜まりCなどから多く出土している。

青磁は碗が圧倒的で、酒会壺や大瓶などの大型のものが目立つ。第19図12の花盆台、同図2の内面施文の蓋は首里城京の内跡^{註5}に類例が報告されており、第20図14のものは那覇市教育委員会の調査報告に類例がみられる。後者はあまり類例報告のないもので注目される。また、第20図9の六面体の資料や同図6・7の播鉢なども注目されよう。

白磁はこれまでの2度の調査で報告されているものとはほぼ同様であるが、第21図1の玉縁口縁碗のような古手のものが若干みられる。また、第23図1・2の壺や第22図21～25の灯明皿などはこれまでの調査でも出土しており、本遺跡には多くもたらされていたものと考えられる。染付は16世紀頃の景德鎮窯系のものが主流で、碗や皿などが中心。第26図19の瓢箪型の資料は注意される。

鉄釉染付、瑠璃釉、翡翠釉、色絵などが得られている。前三者は17世紀頃、後者は18世紀頃を中心としているようである。碗、皿、瓶が主体である。三彩は量的には多くないものの、第29図1の盤、13の陶枕、14の人形などが注意される。盤は首里城^{註5}に、人形は阿波根古島遺跡^{註6}に類例の報告がみられる。近年、煎茶の道具として注目されている宜興窯系の資料も数点確認できる。15世紀頃の泉州窯系磁器(第30図3・4)や黒釉陶器(第30図5～14)も若干得られている。後者は瀬戸・美濃系の可能性のある資料(第30図13)も見受けられる。また、第30図1・2に示す韓国産の粉青沙器(高麗青磁を母体)は注意されよう。

褐釉陶器は青磁に次いで多く、器種もバラエティーに富んでいる。壺が主体をなす。第31図2、第31図4の壺や第33図9～13の播鉢、15・16の鉢、20の浅鉢などが注意される資料である。タイ産の褐釉陶器は壺形のみが得られている。大小のものがあり、第35図8はミャンマー産のものとみられ、首里城^{註5}などから報告されている。タイ産半練土器はやや北側3・4層に集中傾向があり、蓋が多い。蓋の中央に付される摘みは宝珠形と饅頭形がある。首里城京の内跡から比較的まとまって報告されている。

本土産陶磁器をみると、陶器には施釉がみられる薩摩系、肥前系、関西系のものがみられ、無釉には備前焼の播鉢が多い。磁器には肥前系、瀬戸・美濃系が主流で、17世紀後半～19世紀代の比較的新しい時期のものが中心である。沖縄産の施釉・無釉は量的にも器種的にも豊富で、前者は碗、後者は壺類が主体をなすという他遺跡の出土状況と同様である。陶質土器は南側で多く出土しており、器種的には12種確認されている。灯明皿の量的な出土は本遺跡の特徴かとみられる。瓦質土器は大型のものが主流で、奈良火鉢とみられる第53図5～8は注意されよう。また、第52図1～5の鉢や第53図17のスタンプ文のある資料は湧田古窯跡^{註7}に類例の報告がみられる。

土器は南側で多く出土しており、宮古の土器、パナリ焼きが主体。器種的には壺形が圧倒的である。類須恵器や土製品が若干得られている。円盤状製品は2～4cm台のものが多く、底部を利用するものは高台を残すものが

多い。小型の資料は古く、大型の資料は新しい傾向がみられる。煙管は陶器製、磁器製、瓦質土器製、青銅製のものが見受けられる。貝製品のボタン、碁石はヤコウガイ、チョウセンサザエの蓋などが利用されているが、近年のものの可能性もある。骨製品では宮古からの出土も報告^{註8}される板状製品や、第59図20の先端部が尖る資料などが注目される。

銭貨は28種、492点出土している。有文314点のうち40点は洪武通宝で、全体の68%は北宋銭。有文のものは北側3・4層から多く、無文のものは南側に多い。また、無文銭は1.5～2.2cmの直径のものが多く、中央の孔は四角で、径の1/3程度のもので主体である。青銅製品では第62図7の刀の鏝が注意され、同図17の埴塙も注意される。玉類は22点出土しており、勾玉、切子玉、丸玉が得られている。丸玉が中心である。ほとんどがガラス製であるが、第63図1は翡翠製、2は貝製、11は琉紋岩製のようなものである。

石器では第66図1～7に示すような石球が全体の70%の出土量であるが、詳細不明な部分が多く、注意しておきたい。また、第65図5の石臼は古いタイプに属すようである。滑石製品も10点余得られている。第66図13・15は加工面が多くみられるもので、15は伊良波東遺跡^{註9}などから報告されているバレン状製品かとみられる。一対の石像の出土は注目される。ただ、攪乱部からの出土であり、時期的には明確にできなかったのは残念である。金剛力士像とみられ、天界寺の門の両側に配置されていたと考えられる。

瓦は19,300点余り得られており、高麗系、大和系の古手のものと近世の明朝系瓦がある。19,100点余が明朝系瓦で、高麗系瓦が200点余、大和系瓦が40点足らずの出土である。高麗系瓦は北側第4層、ピット群から多く得られている。また、明朝系瓦は瓦溜まりに集中し、湧田古窯跡^{註7}から報告されているような還元炎焼成による灰色・褐色瓦が主流で、酸化炎焼成の赤瓦はそれほど多くない。天界寺の初期の頃の建物は灰色瓦が主体的に葺かれていたようで、赤瓦の頃には建物の規模縮小が想定される。塙は方形、三角形のものがある。第71図8は下部に取っ手がつくもので、湧田古窯跡などから報告されている。

貝類はこれまでの調査で出土しているものとほとんど変化はみられない。ヤコウガイは蓋が279点、身が93点と圧倒的に蓋が多く得られている。ヤコウガイ、カンギク、マガキガイは各層から出土しており、ウミナカニモリ、クワノミカニモリやアクギガイ科、イモガイ科は北側第3・第4層に多い。骨類の状況をみると、ブダイ科、フエフキダイ科は北側第3・第4層及びピット群に多い。ウシ、ブタは各層から出土しており、ウマは北側第3・第4層から多く得られている。また、シカの角は攪乱部からの出土であり、最近のものかもしれない。ネコは方形掘り込み遺構から得られており、17世紀頃には本遺跡にもたらされていたかと考えられる。

人骨は成人男性が4体、性別不明成人が2体、乳児が1体確認できている。いずれも造成層以後の人骨の可能性が高い。全体的に大きく破損しており、詳細は不明。

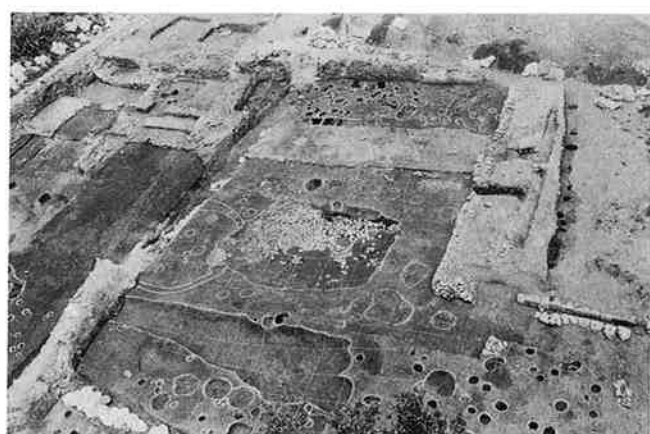
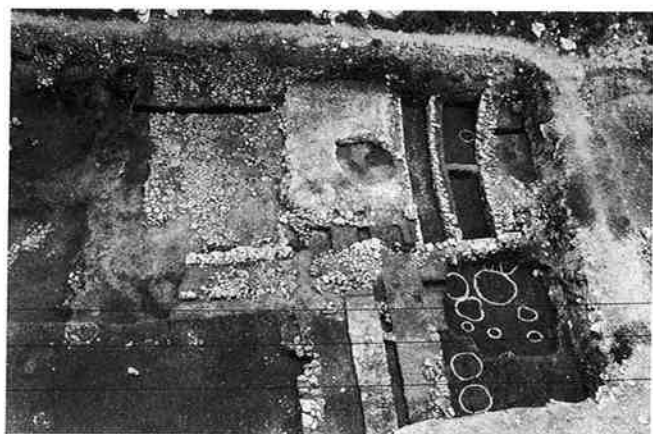
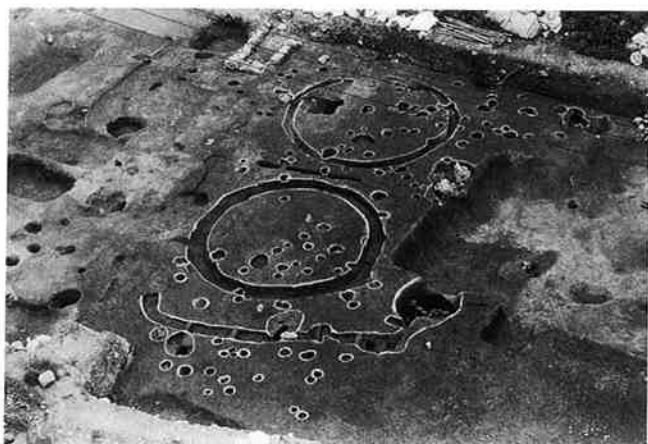
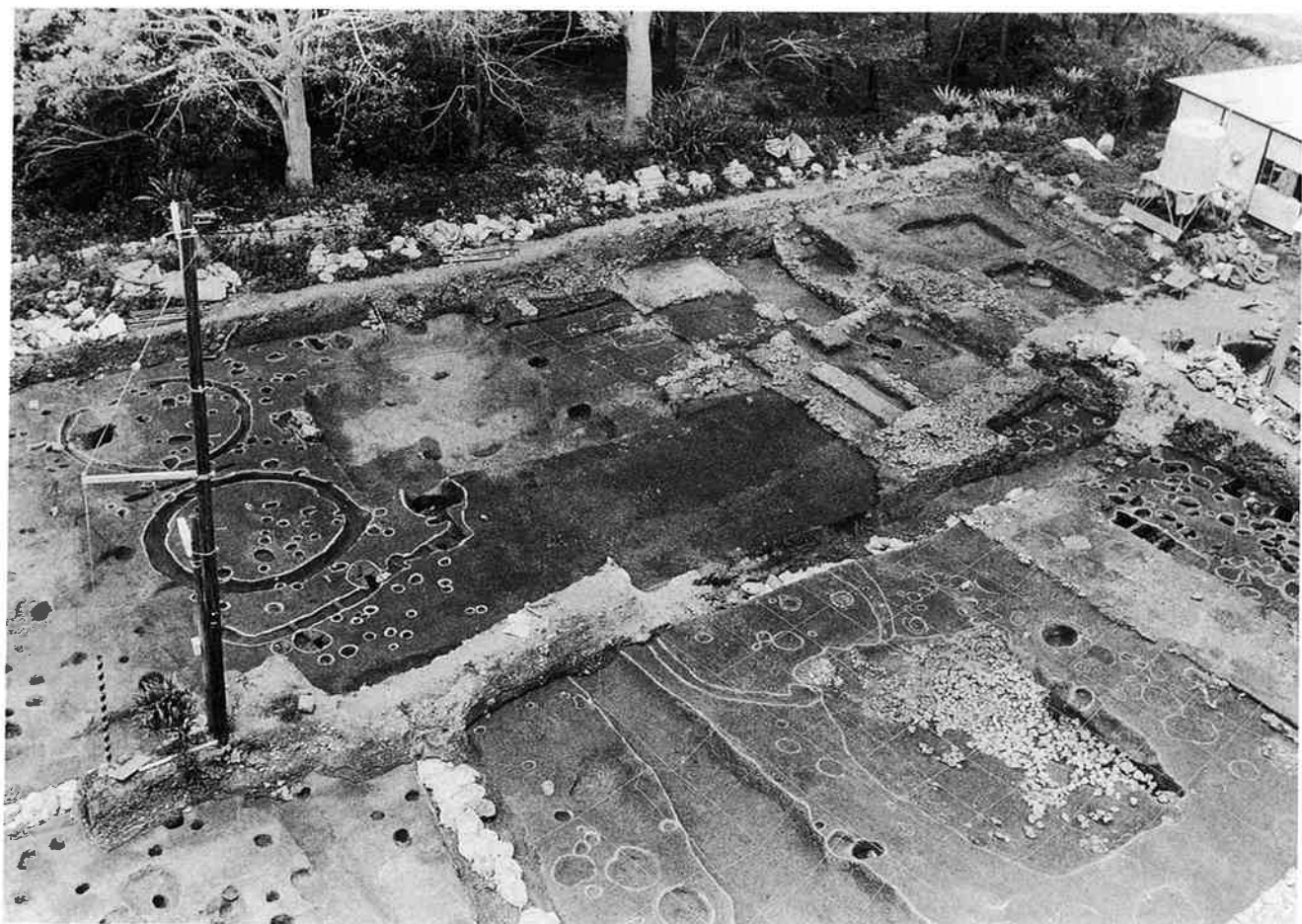
以上、今回の調査成果について、層序、遺構、出土遺物を概観した。これまでの調査成果も含め、今後の課題点について若干ふれてみたい。第4図はこれまでの調査範囲と今回の調査範囲を繋げたもので、中区の中央付近を南北に走る石垣を境に、一段低くなった西側と高くなっている東側に分けられる。西区の造成層下の黒褐色土層下部及び地山面に構築された遺構が、玉陵側の方へ延びており、創建時の天界寺は西区から玉陵一帯に展開していたかと推察される。

東側は一段高くなった地山面がさらに東側では琉球石灰岩の岩盤になり、もともと丘陵部のような場所であったかとみられる。1644～1661年の復旧の際に開かれた場所かと想定されるが、1576年の焼失の痕跡は確認できなかった。1492年の円覚寺の創建、8年後の玉陵の創建、それに伴う天界寺の位置付けの変化など、文献資料からのアプローチも今後必要となろう。伽藍配置の検討や円覚寺との関連、さらに、天界寺の時代変遷の検討など課題は多いものの、これらを明らかにすることで、天界寺の全体像が浮き彫りになってくるものと思われる。

〈註〉

- 註1 「球陽」 1743年
註2 「天界寺跡」『那覇市文化財調査報告書』第43集 那覇市教育委員会 2000年3月
註3 「天界寺跡（I）」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第2集 沖縄県立埋蔵文化財センター 2001年3月
註4 「首里城跡—京の内跡発掘調査報告書（I）—」『沖縄県文化財調査報告書』第132集 沖縄県教育委員会 1998年3月
註5 「首里城跡—下之御庭跡・用物座跡・瑞泉門跡・漏刻門跡・廣福門跡・木曳門跡発掘調査報告書—」『沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第3集 沖縄県立埋蔵文化財センター 2001年3月
註6 「阿波根古島遺跡」『沖縄県文化財調査報告書』第96集 沖縄県教育委員会 1990年3月
註7 「湧田古窯跡（I）」『沖縄県文化財調査報告書』第111集 沖縄県教育委員会 1993年3月
註8 砂辺和正「金属製銀を伴う骨製品」『南島考古だより』58号 沖縄考古学会 1997年
註9 「伊良波東遺跡」『豊見城村文化財調査報告書』第2集 豊見城村教育委員会 1987年

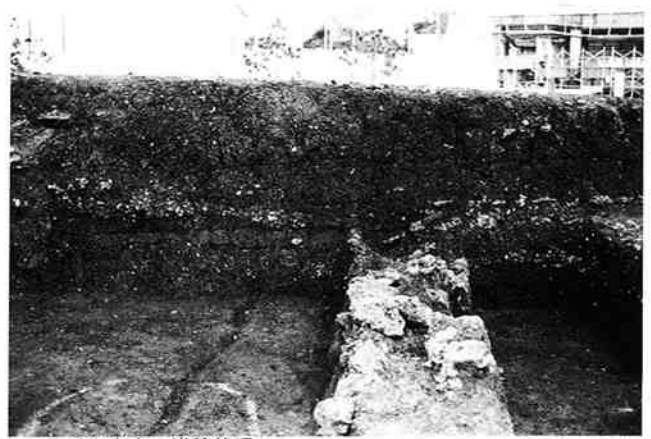
图 版



図版1 調査区遠景



Jライン北側：堆積状況



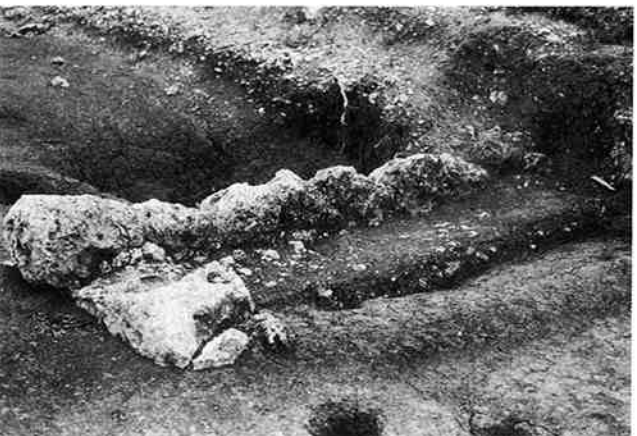
Jライン中央：堆積状況



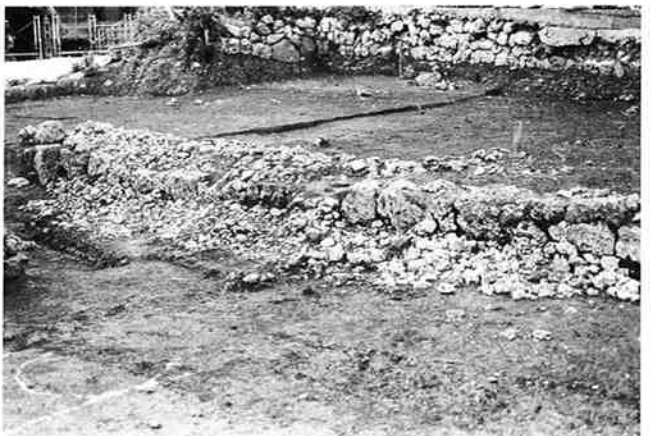
南側：溝状遺構D



南側：石垣A



南側：石列C



南側：溝状遺構A

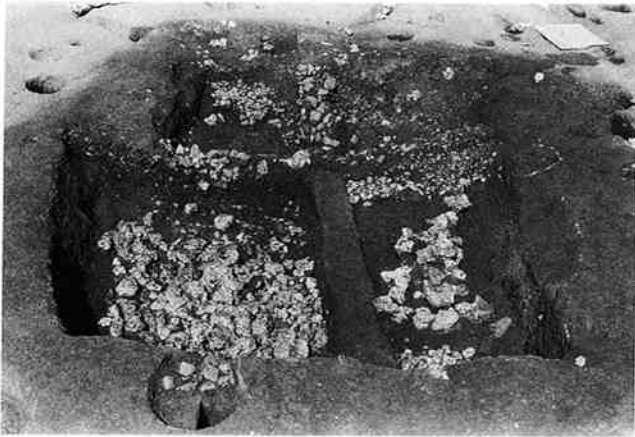


中央：基壇



中央：基壇堆積状況

図版2 堆積状況及び遺構検出状況(1)



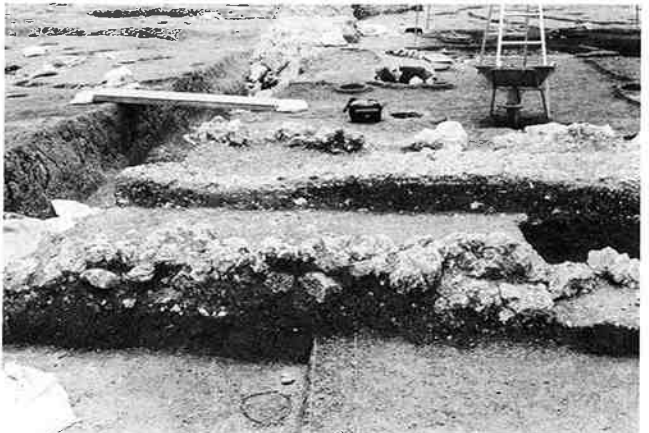
中央：方形掘込み遺構



中央：コーラル敷A（東より）



中央：コーラル敷A（西より）



中央：コーラル敷（西より）堆積状況



中央：瓦溜まりC



中央：石列D



北側：溝状石列

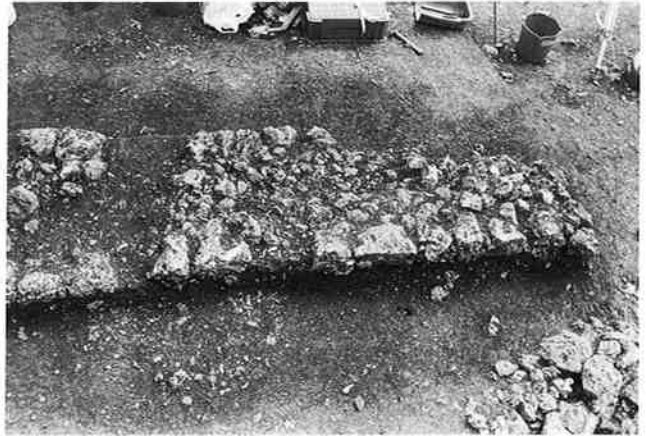


北側：コーラル敷B

図版3 遺構検出状況（2）



北側：石垣C



北側：石垣C



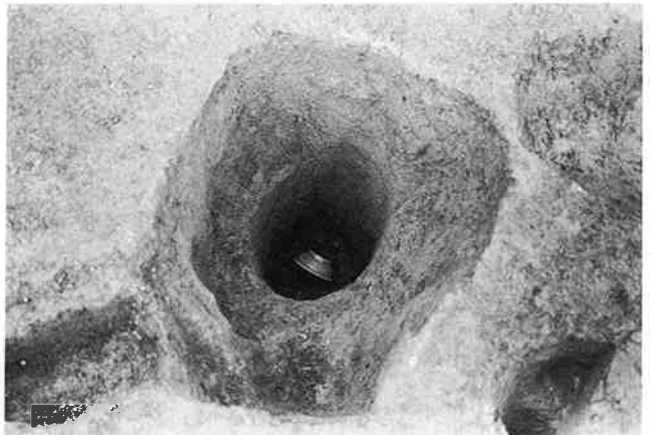
円弧状遺構



円弧状遺構、溝



ピット検出



ピット検出

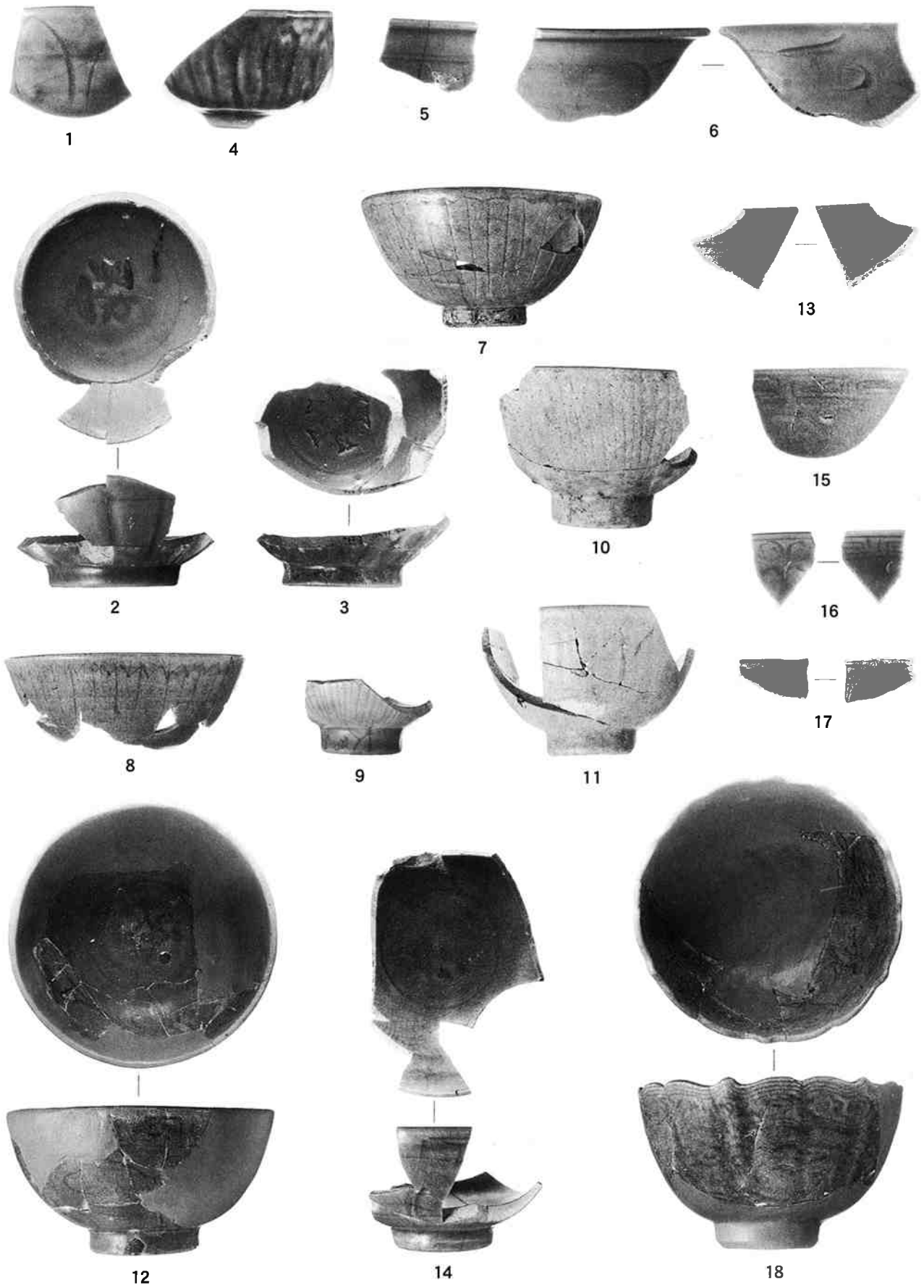


石像検出

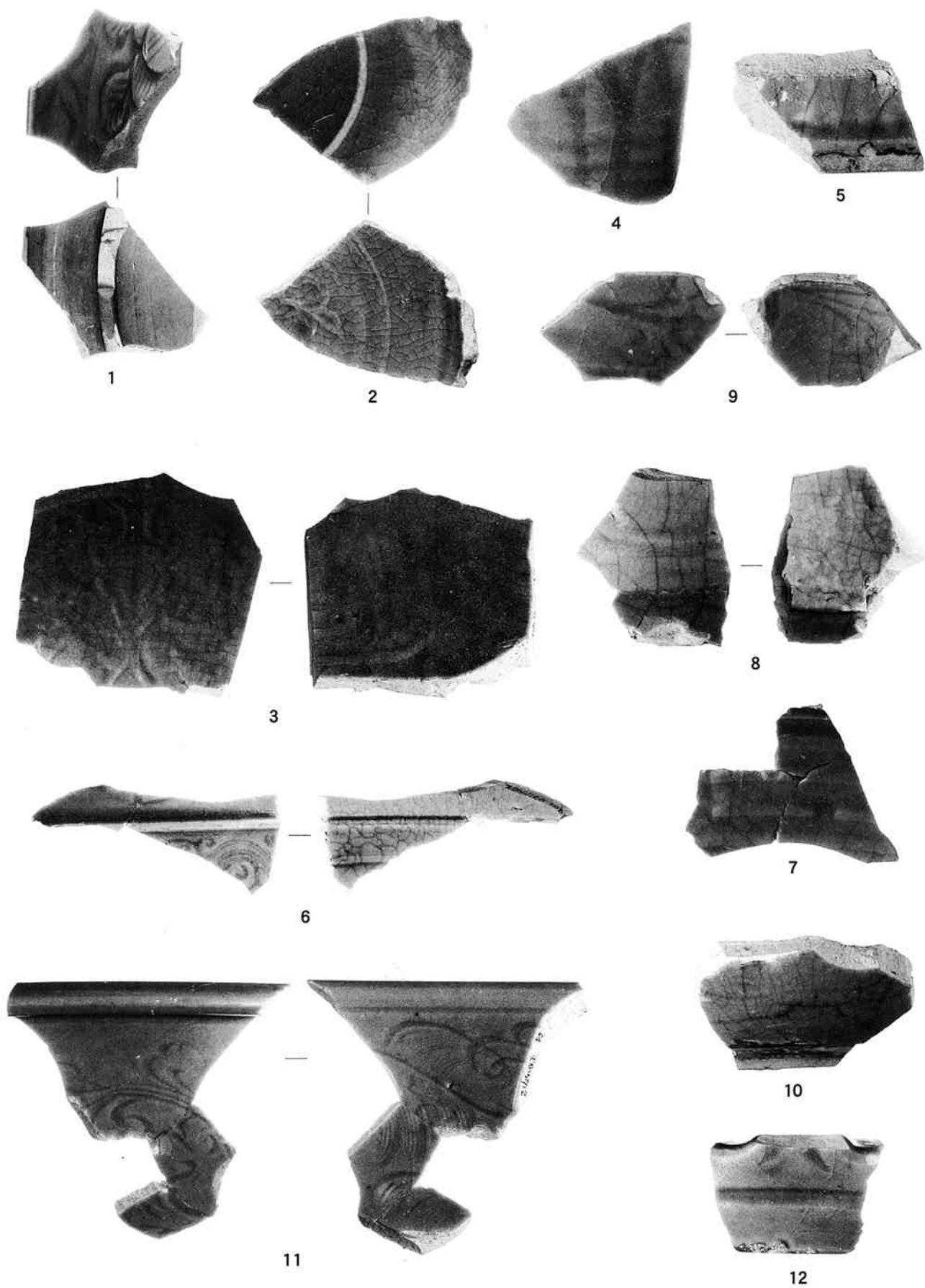


調査風景

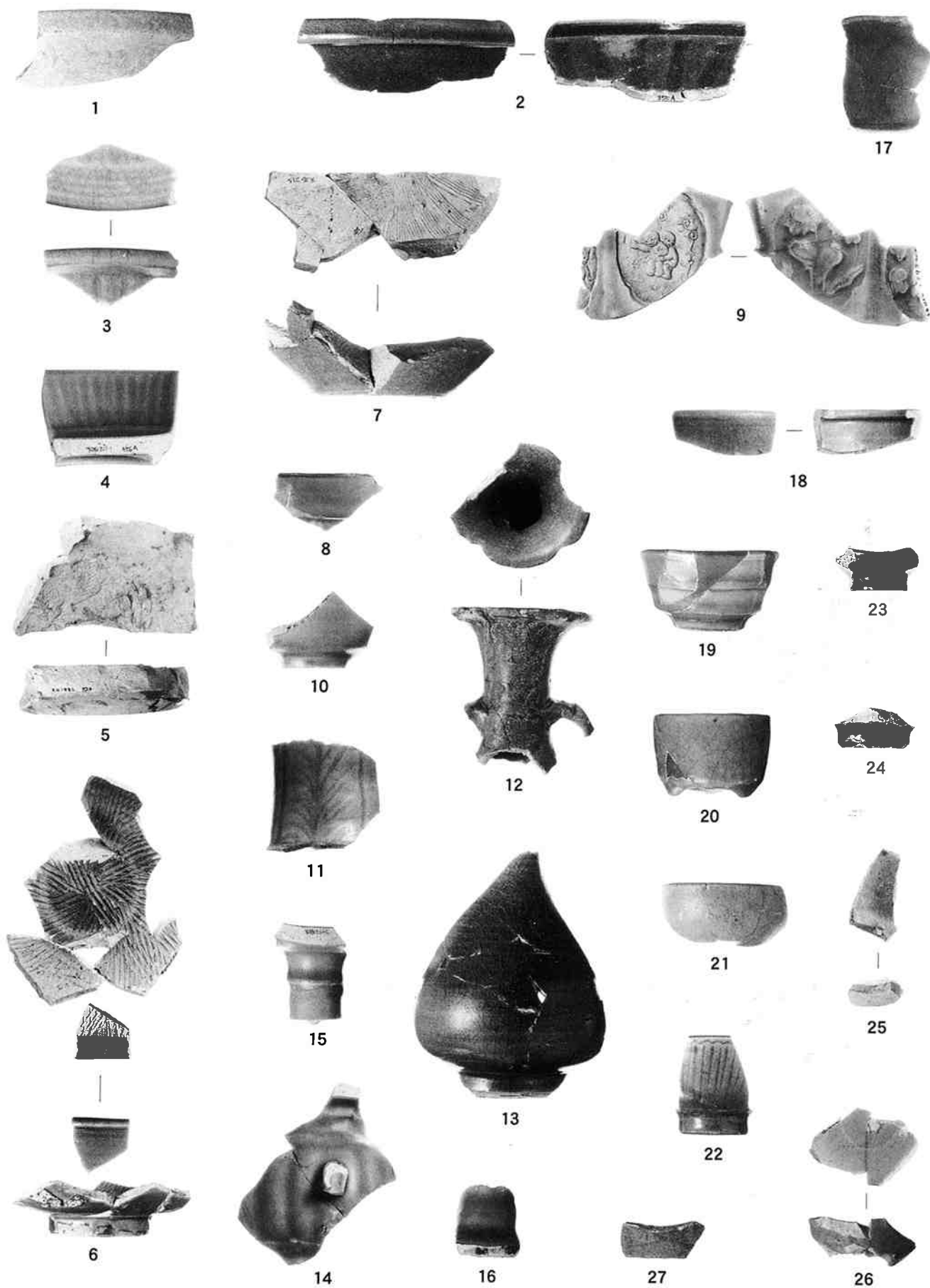
図版4 遺構検出状況(3)



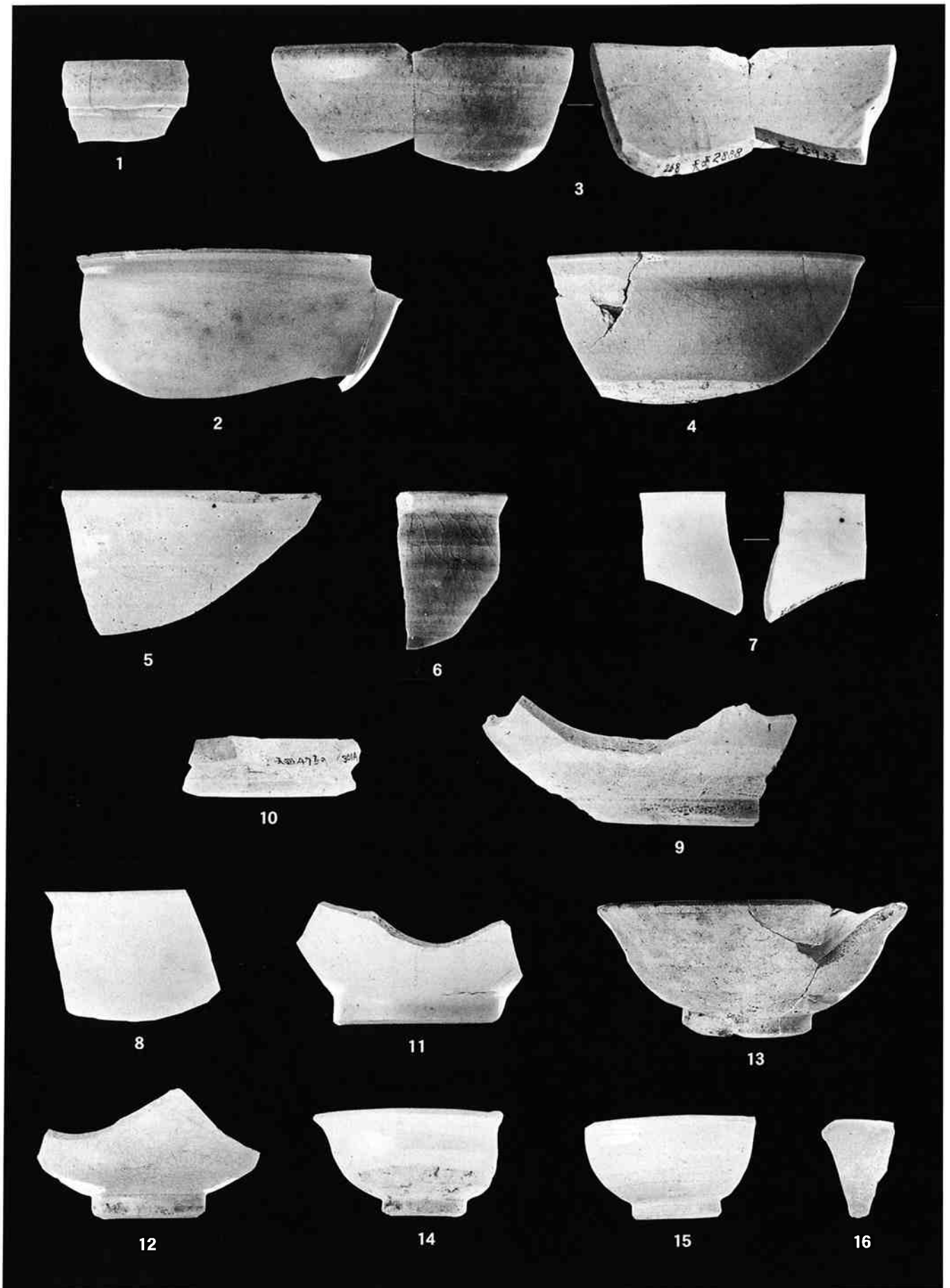
图版5 青磁(1)



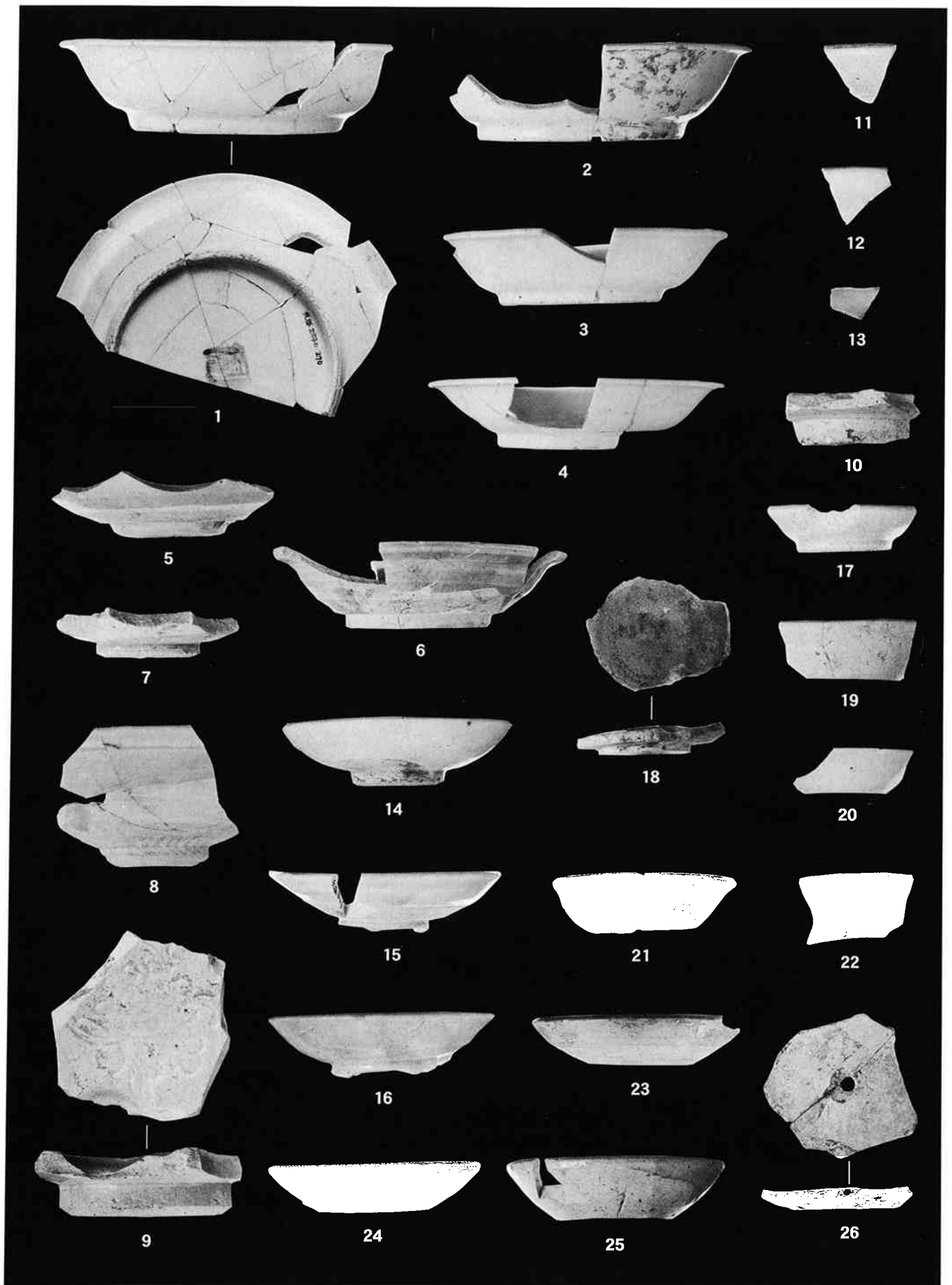
图版8 青磁(4)



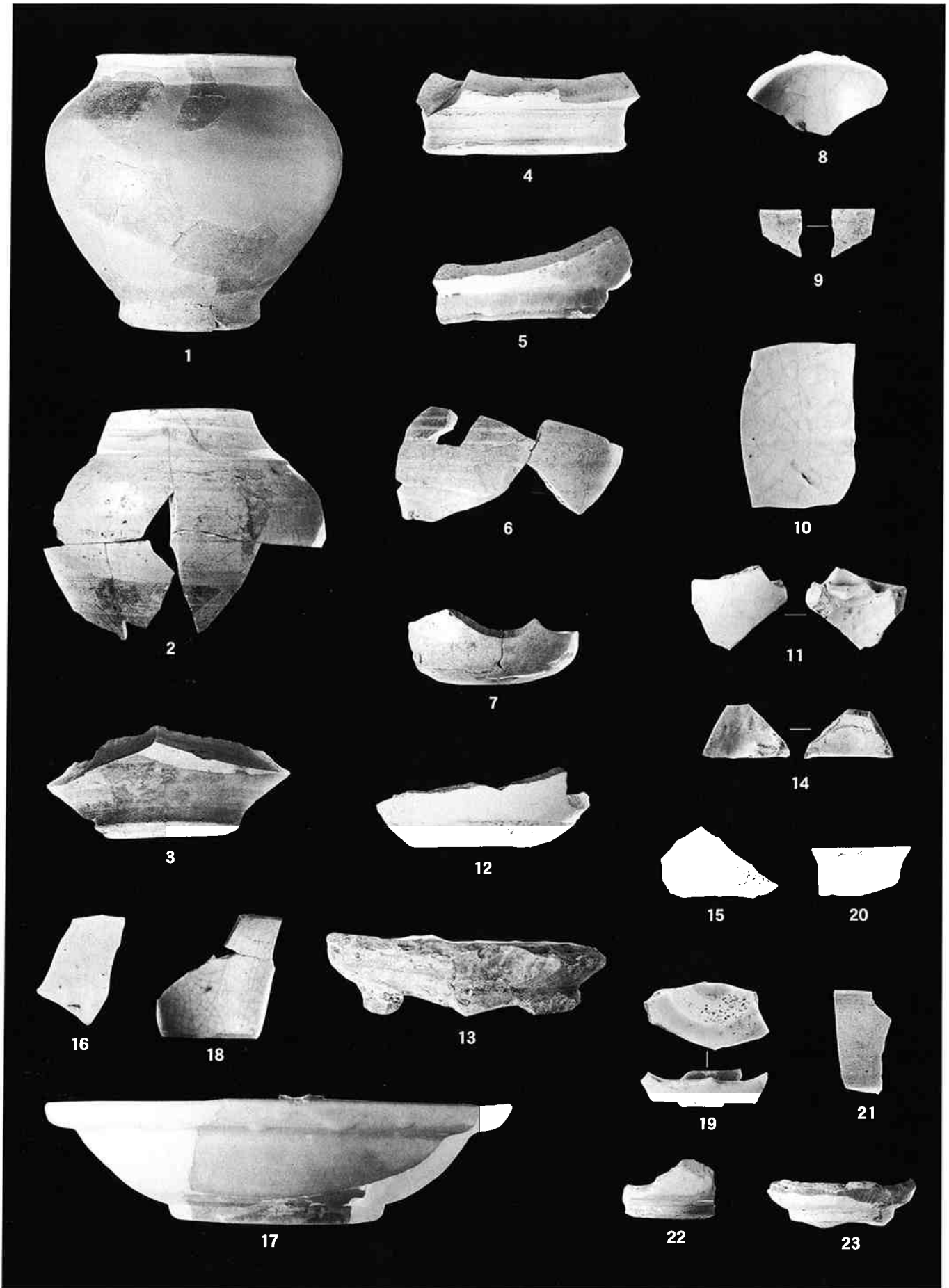
图版9 青磁 (5)



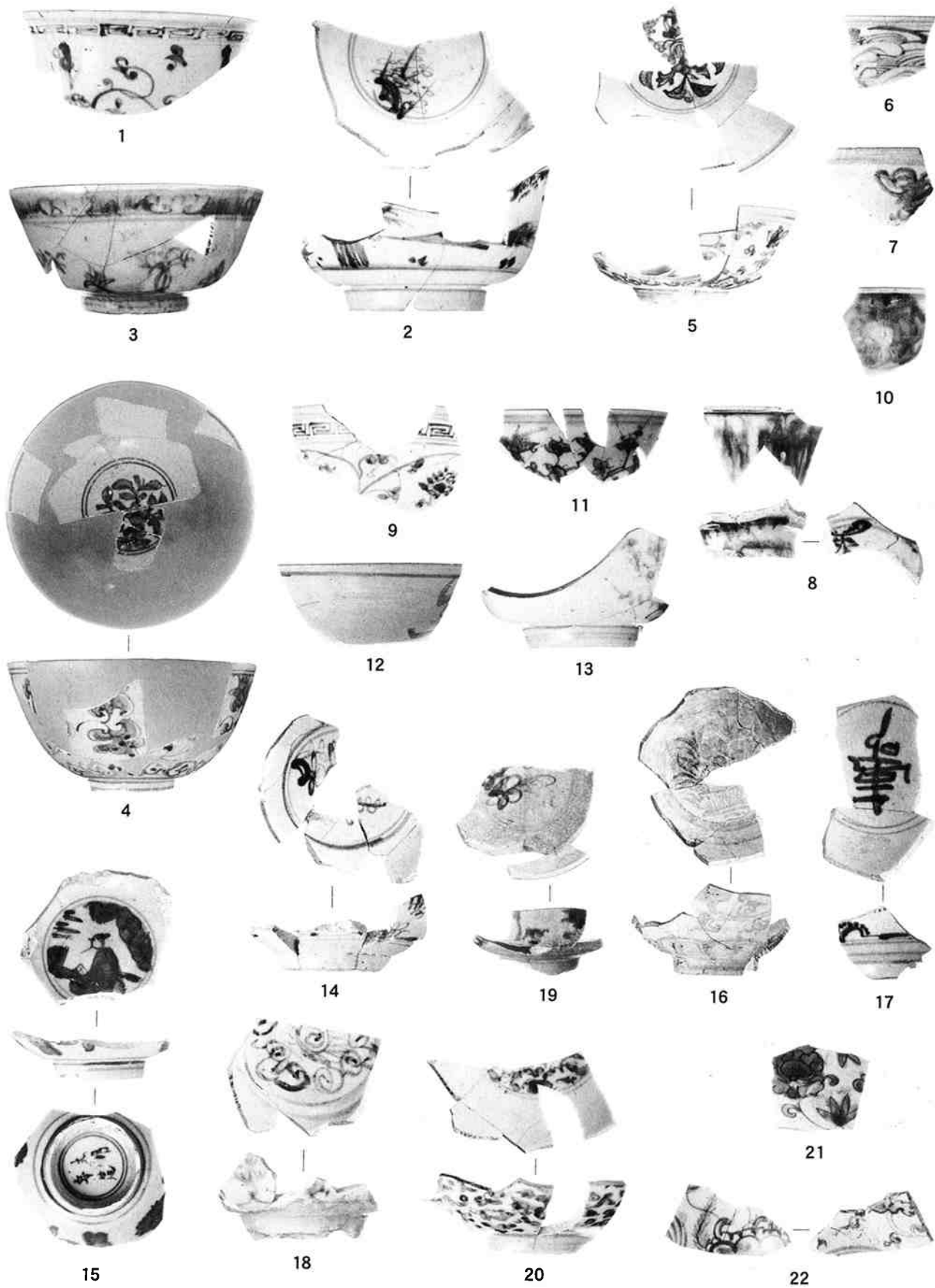
图版10 白磁(1)



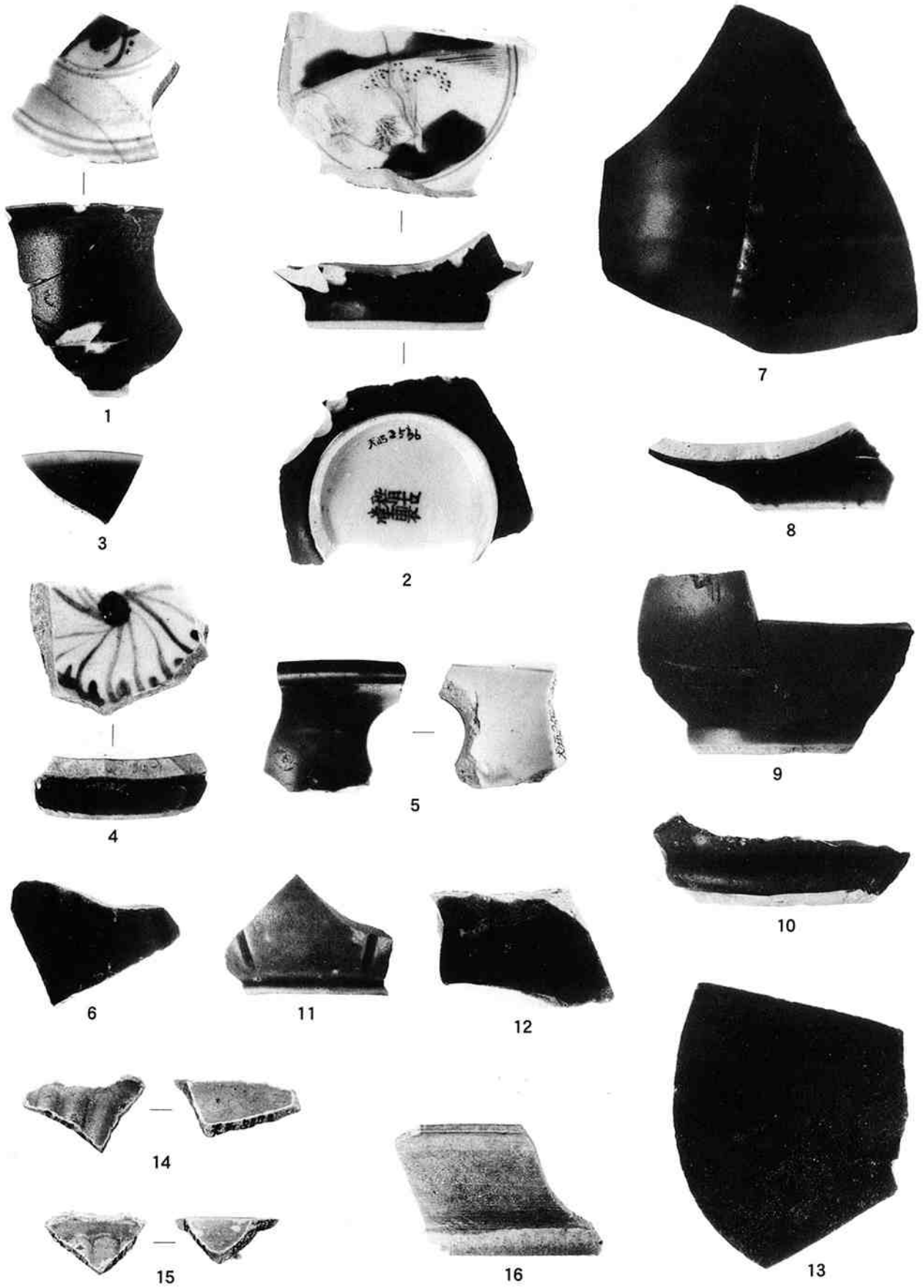
图版11 白磁 (2)



图版12 白磁 (3)



图版13 染付(1)



図版16 鉄釉染付・瑠璃釉・瑠璃釉染付・翡翠釉



1



4



5



2



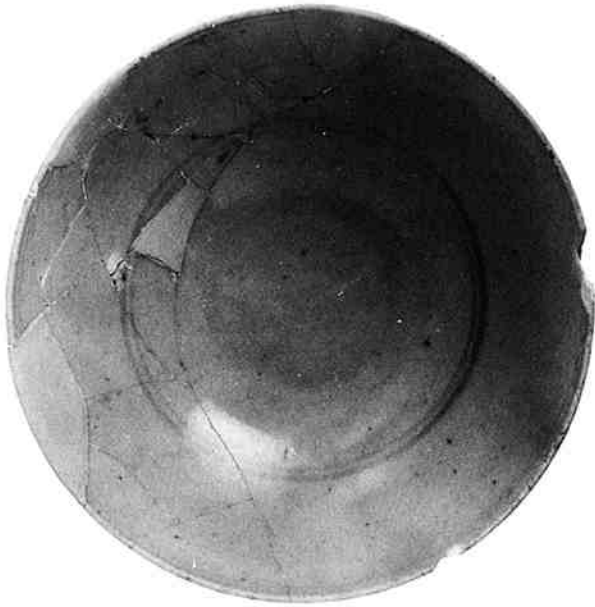
6



8



7



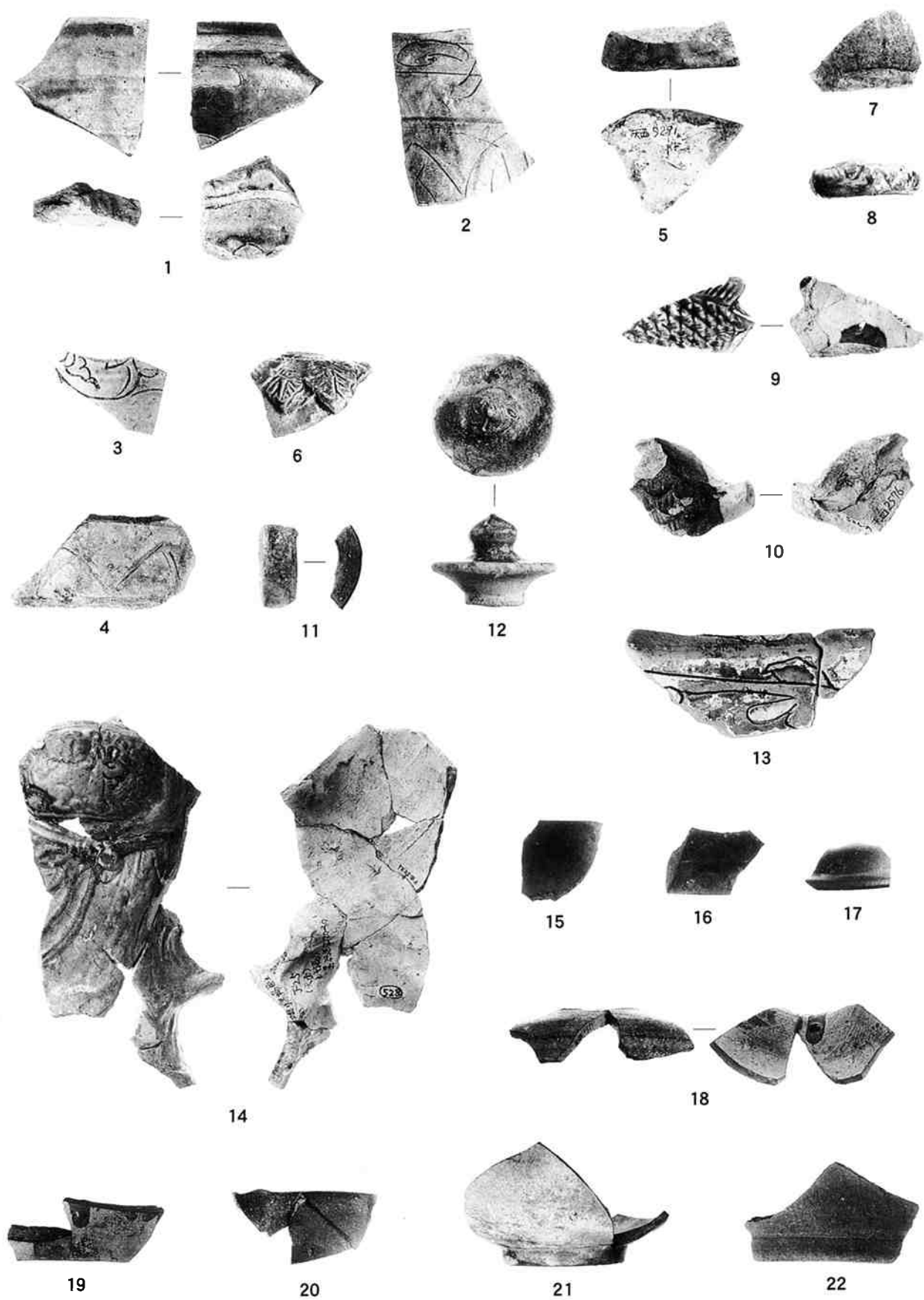
3



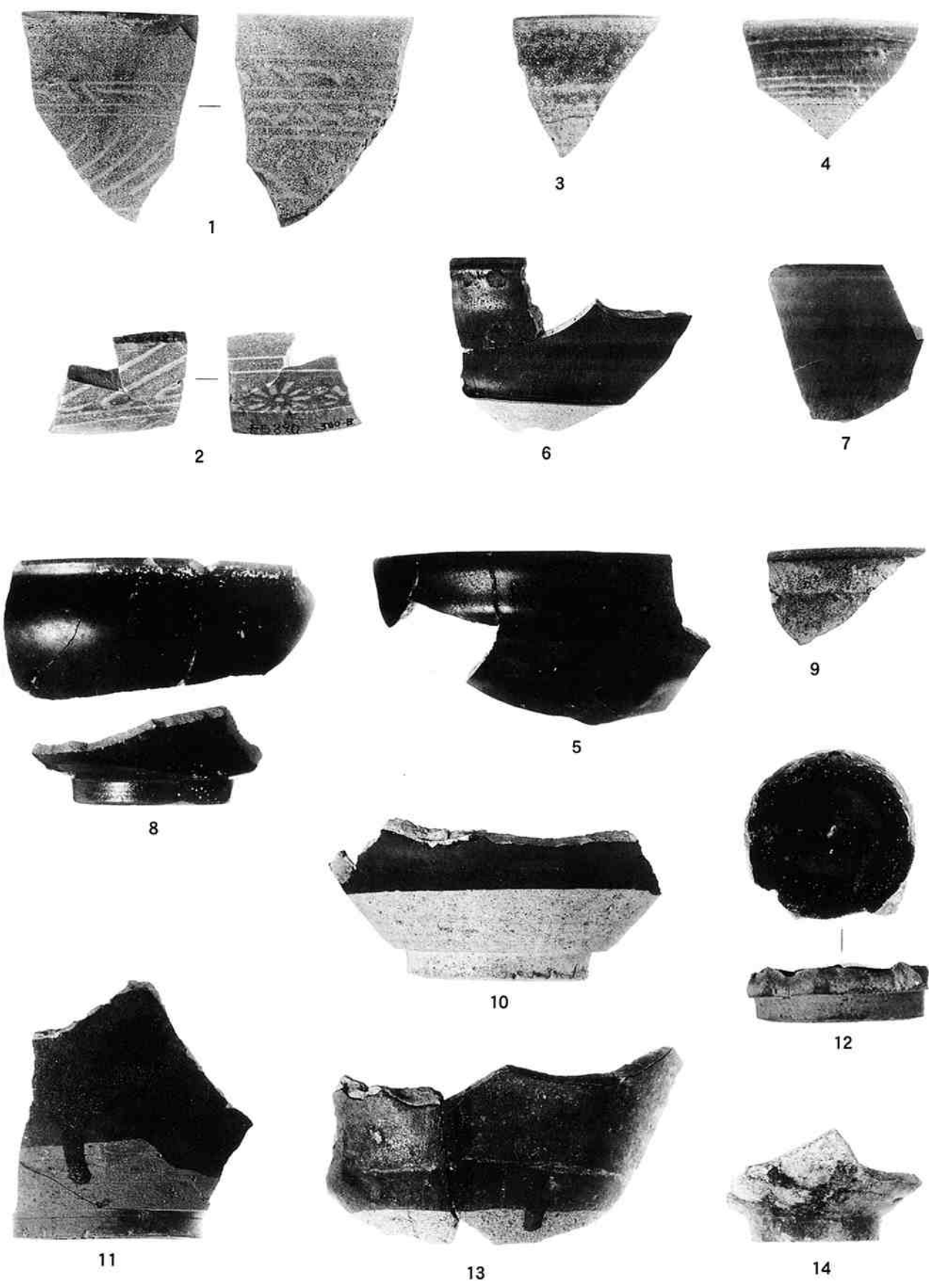
9



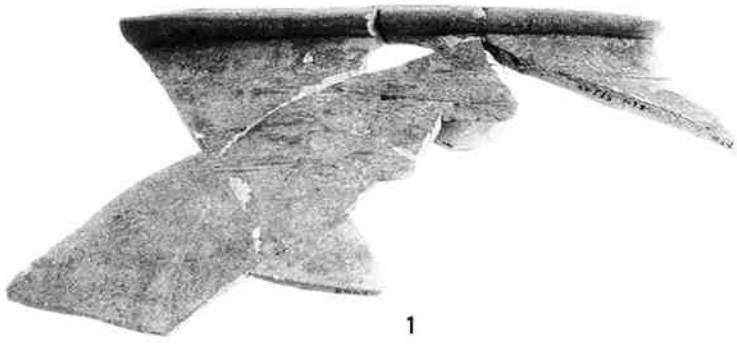
图版17 中国産色絵



图版18 三彩·宜興窯系·產地不明陶器



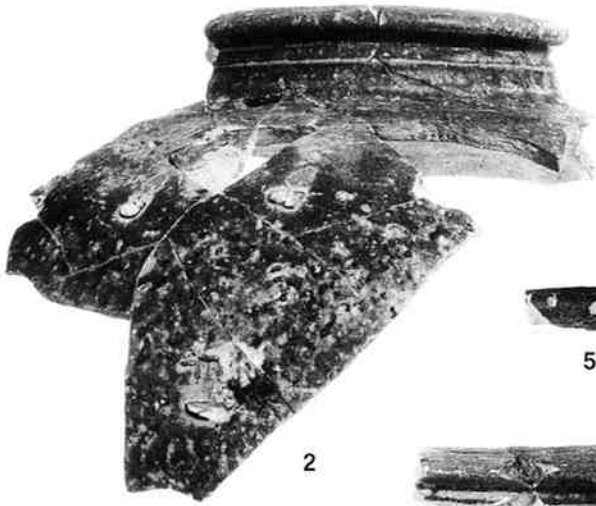
图版19 粉青沙器·泉州窯系磁器·黑釉陶器



1



7



2



5



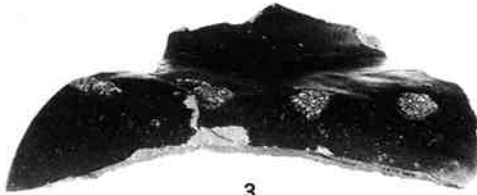
8



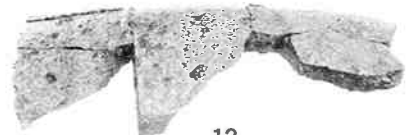
6



11



3



12



4



9

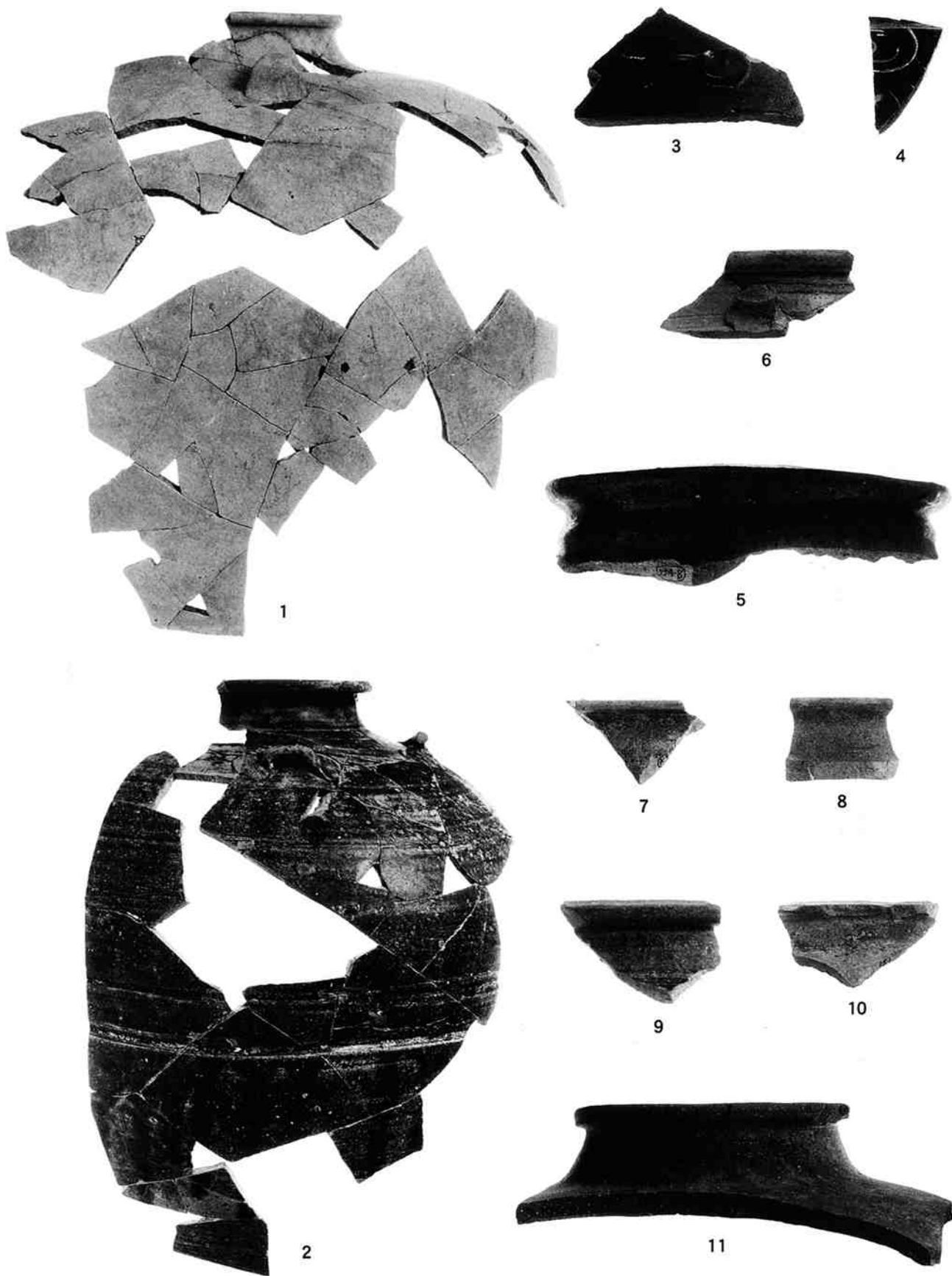


10

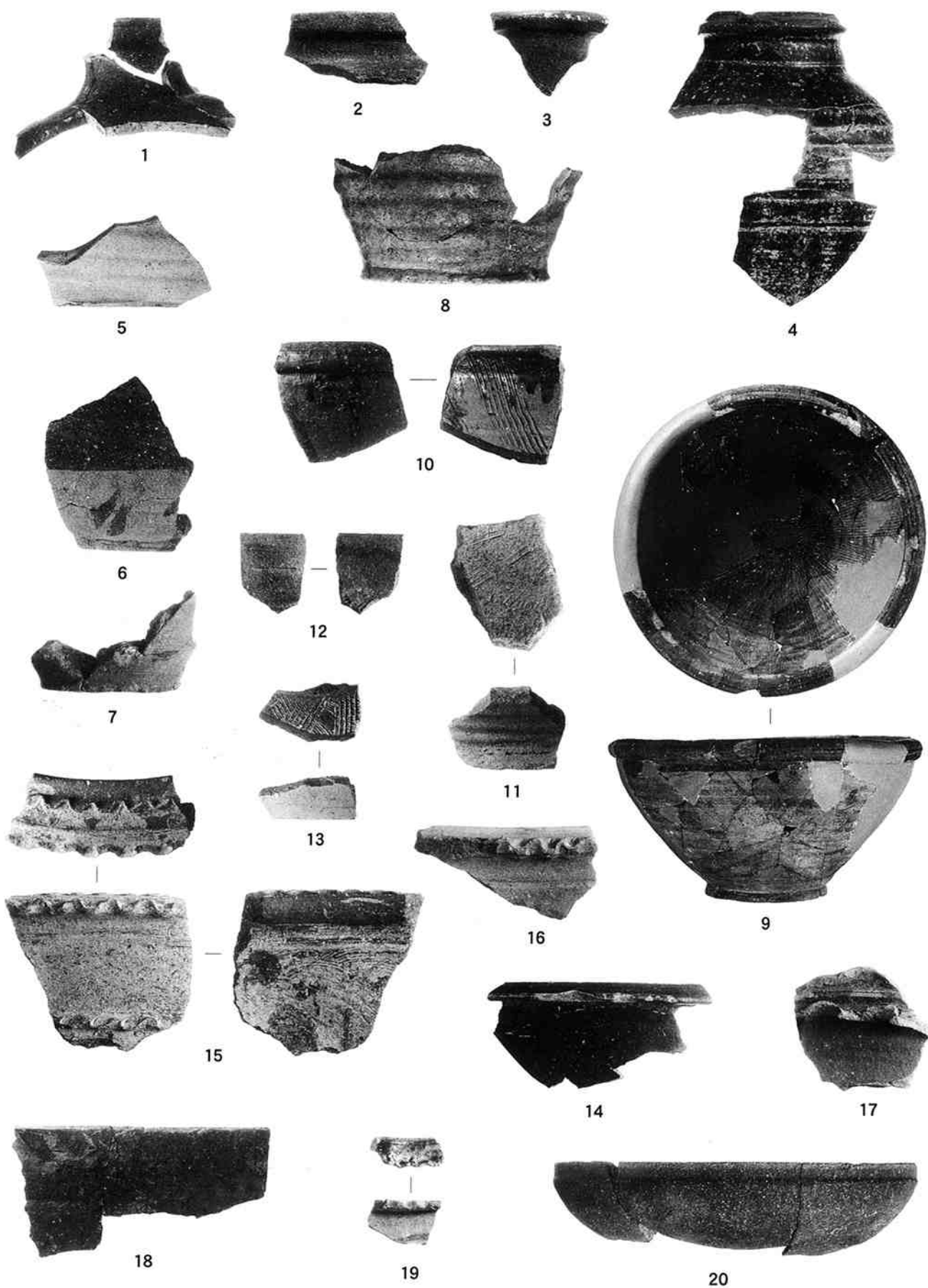


13

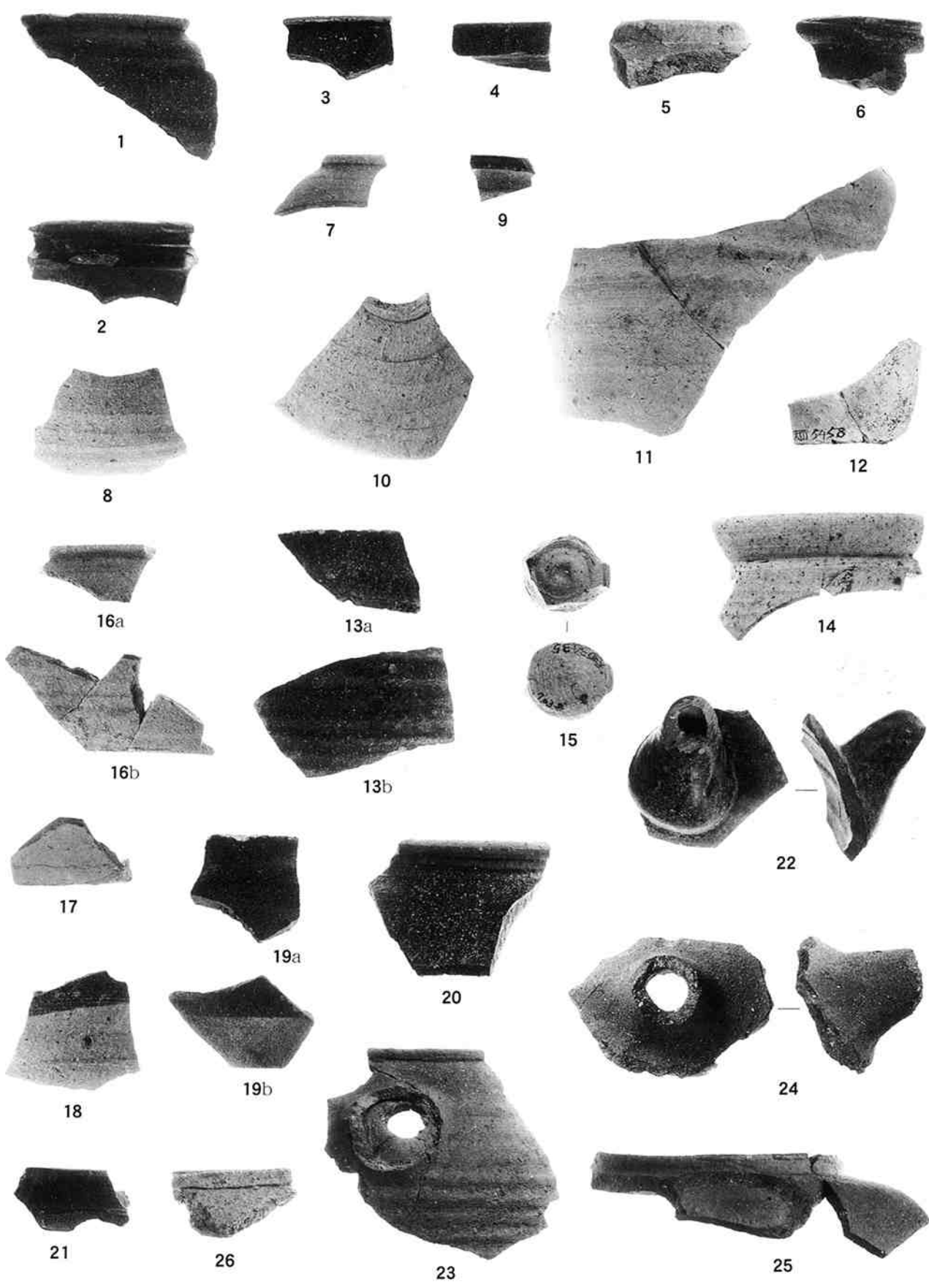
图版20 褐釉陶器 (1)



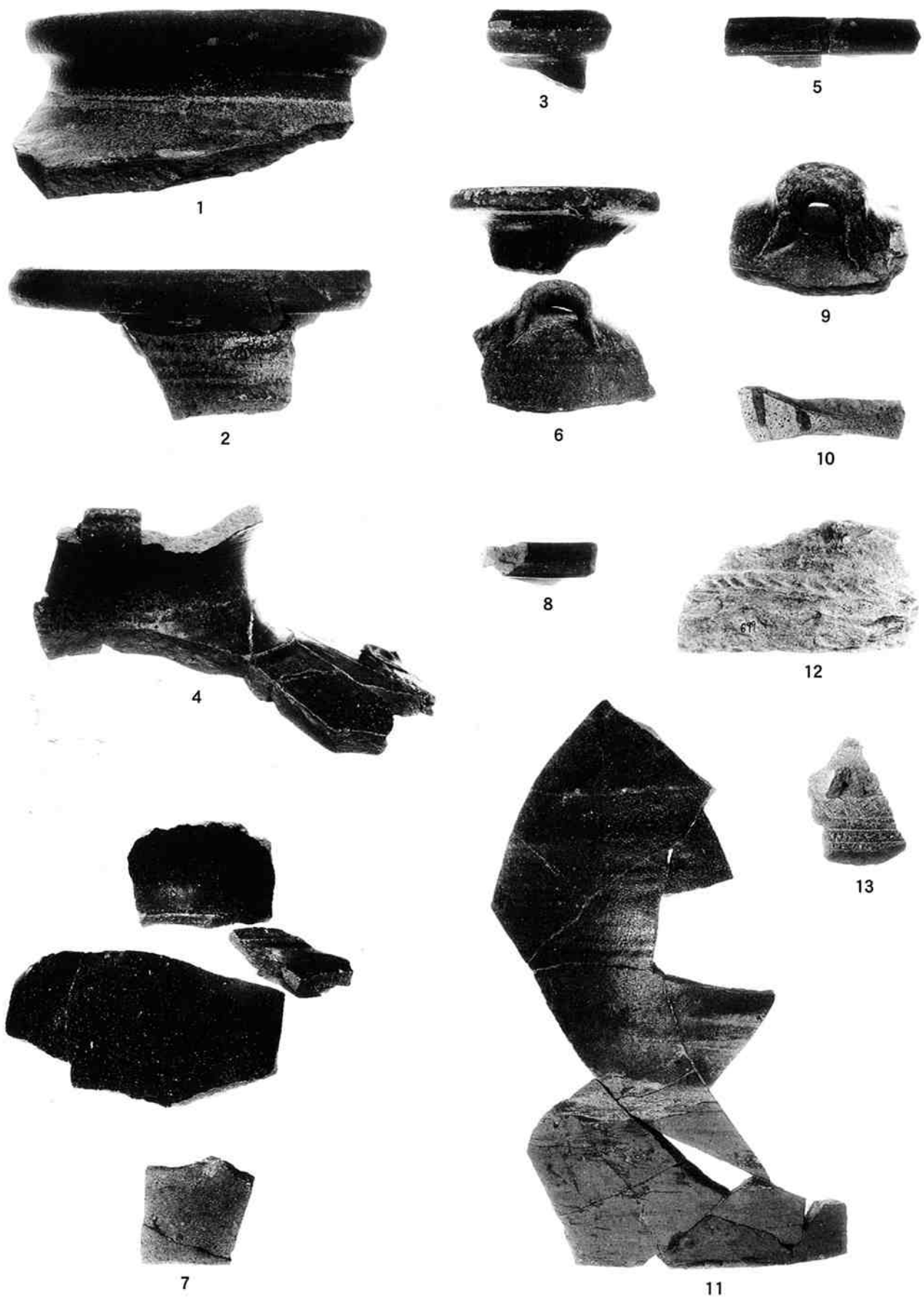
图版21 褐釉陶器 (2)



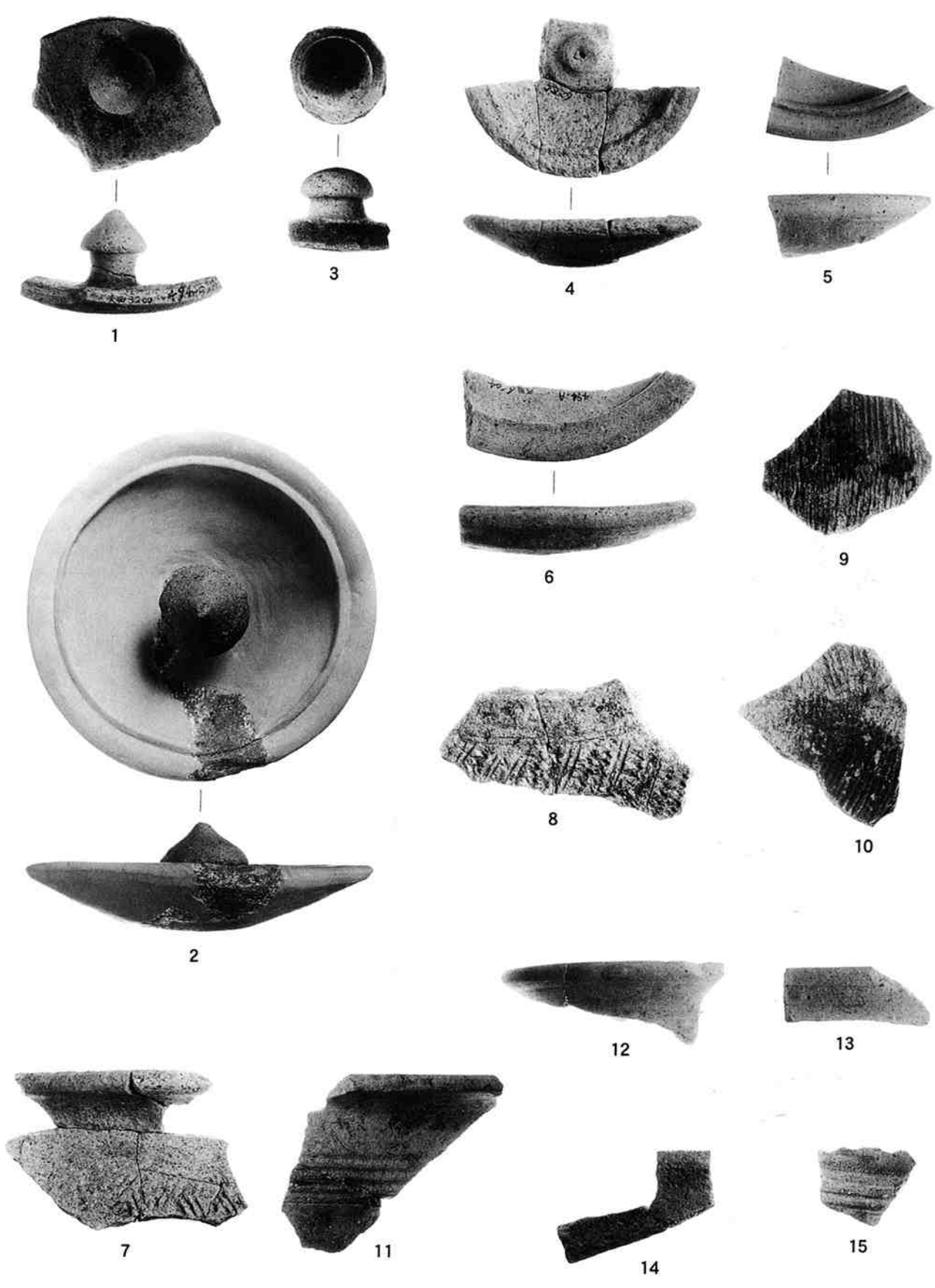
图版22 褐釉陶器 (3)



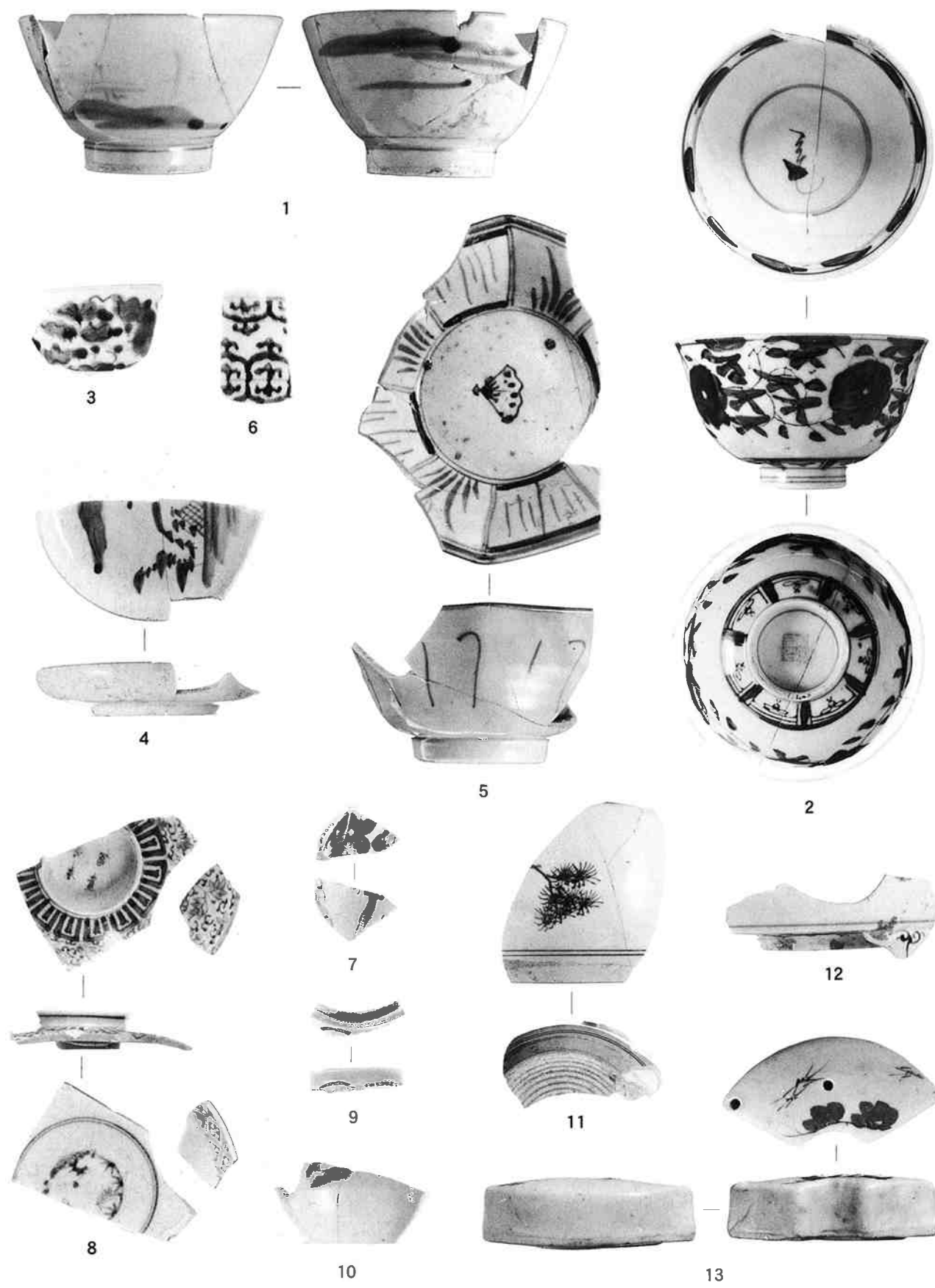
图版23 褐釉陶器 (4)



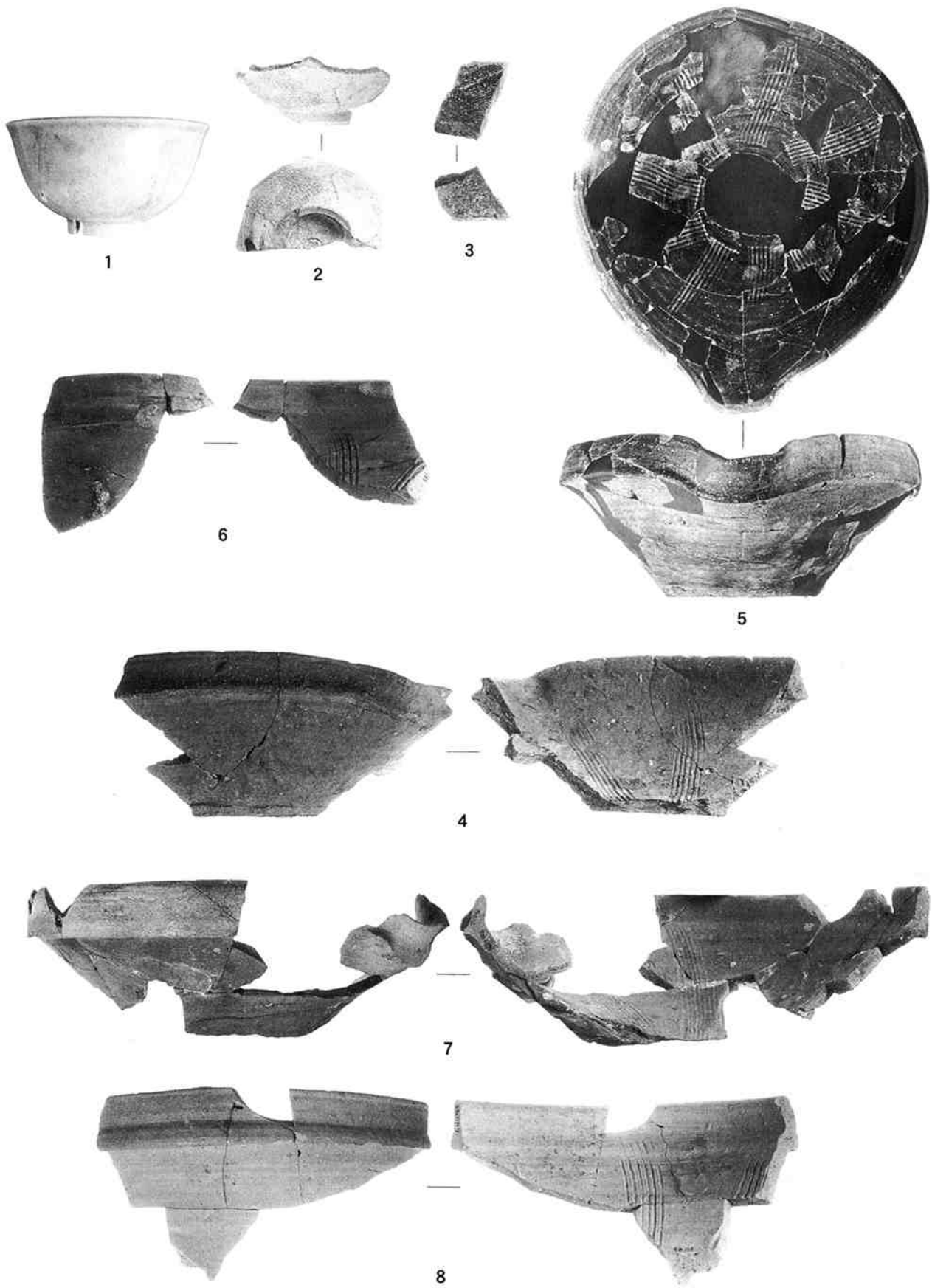
図版24 タイ産褐釉陶器



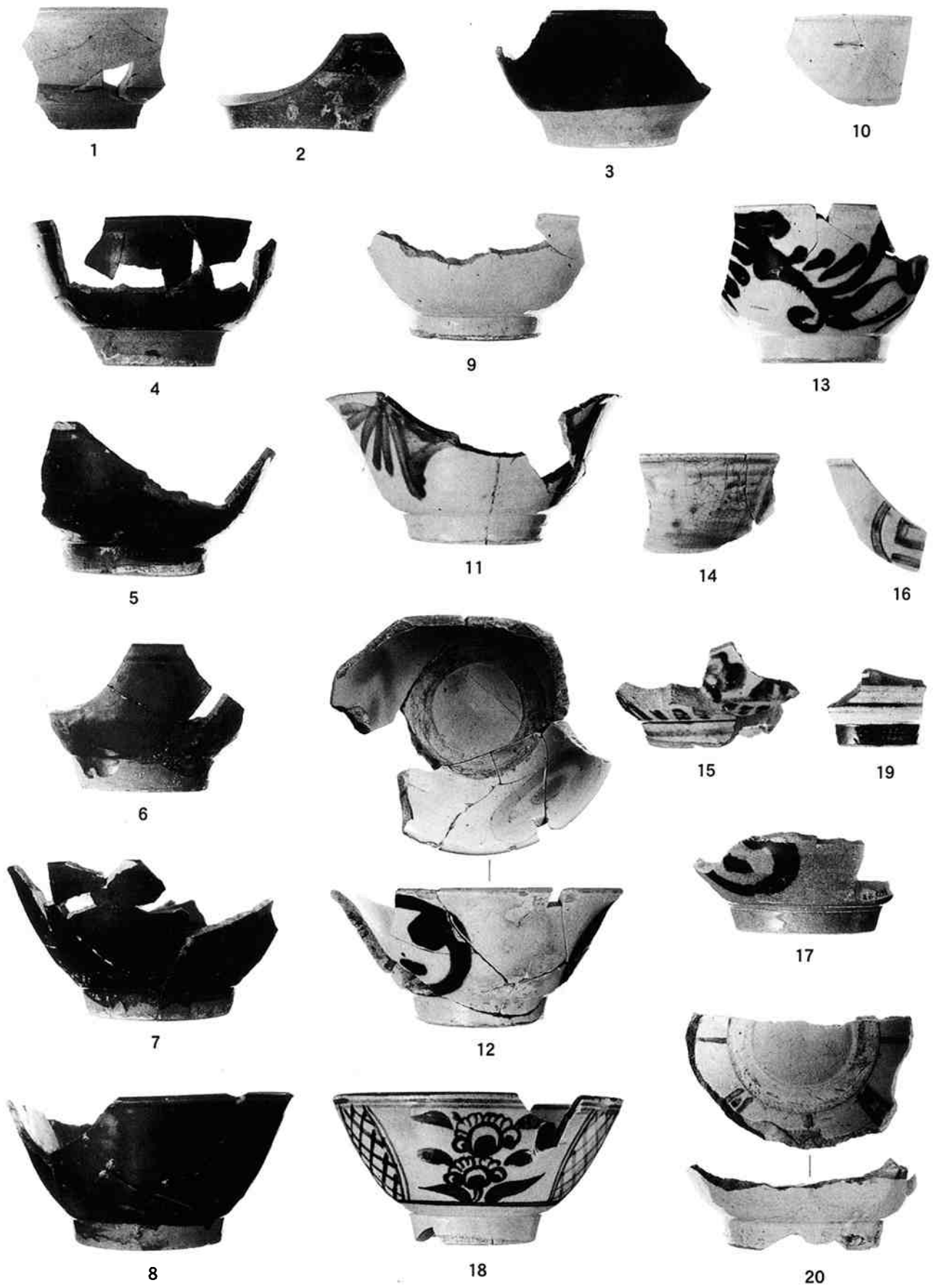
図版25 タイ産半練土器



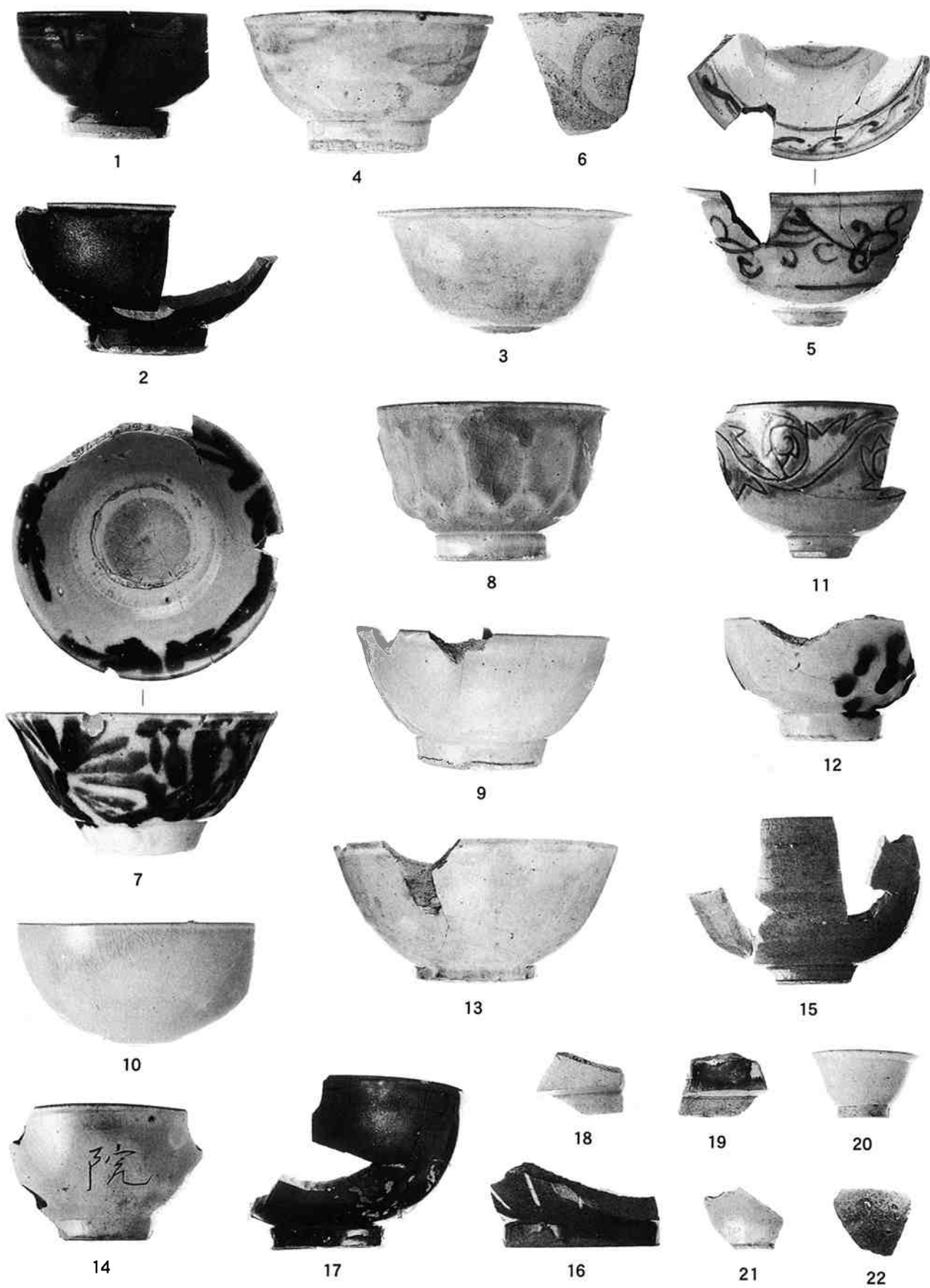
图版26 本土産磁器



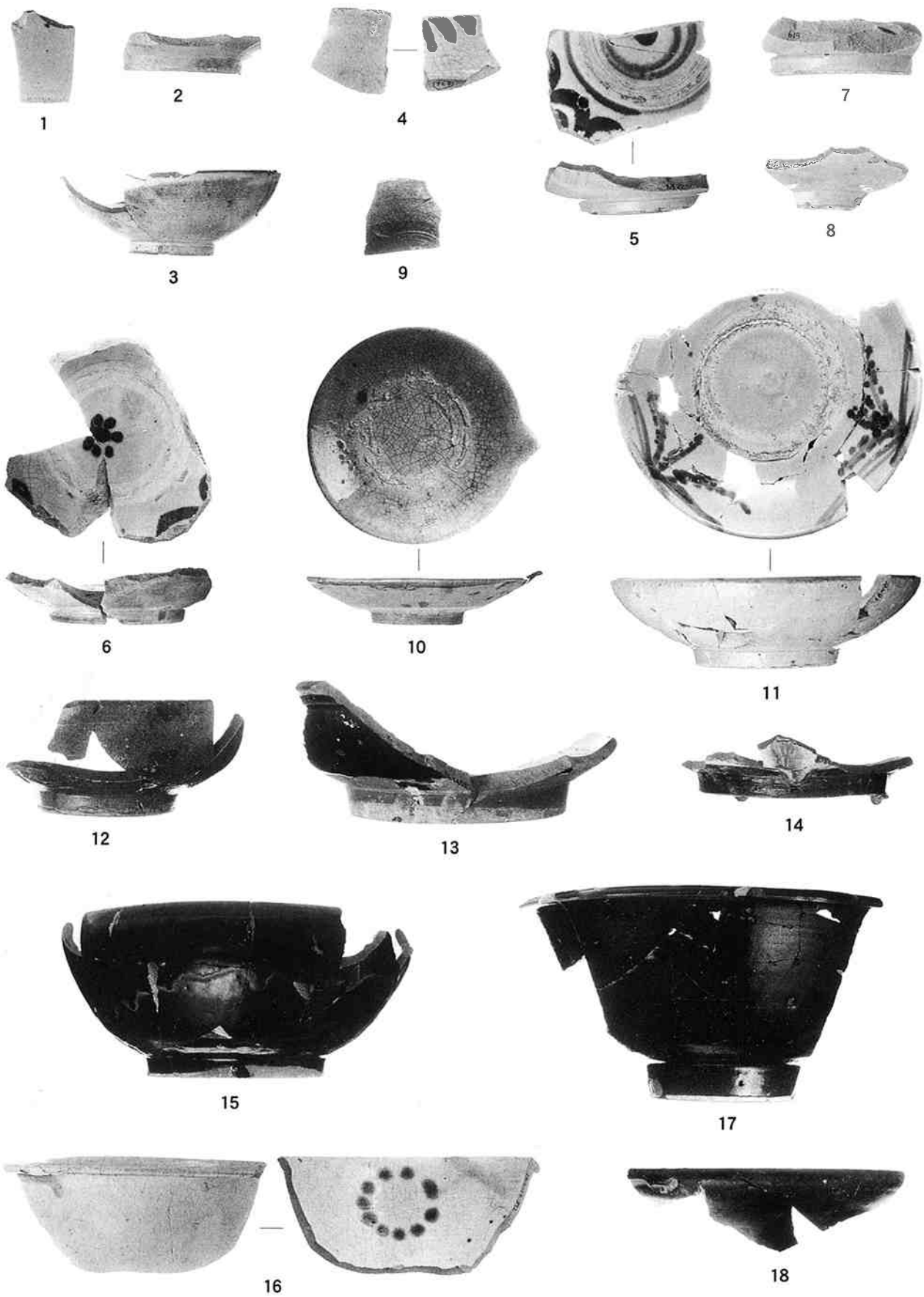
图版27 本土産陶器



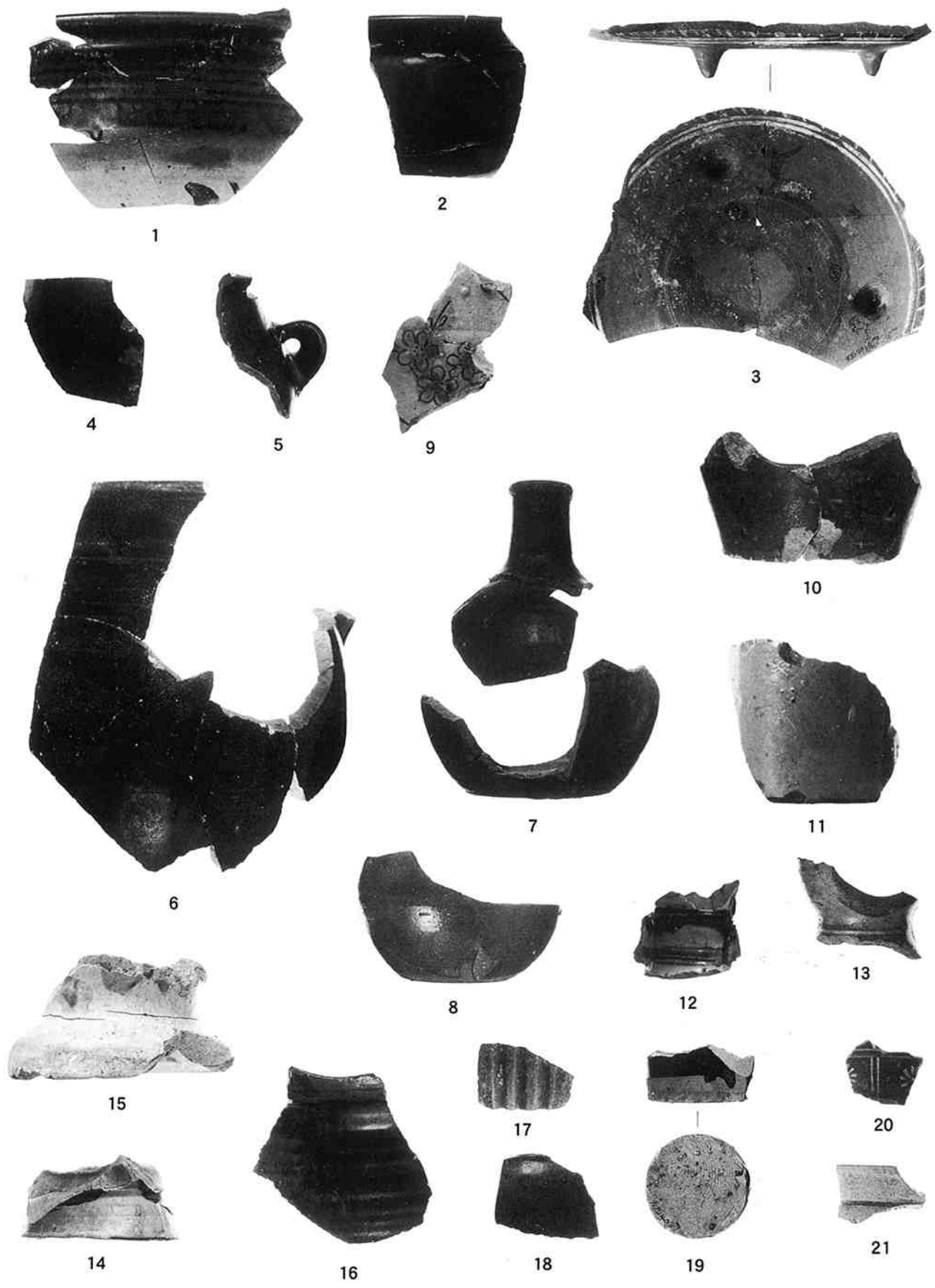
図版28 沖縄産施釉陶器（1）



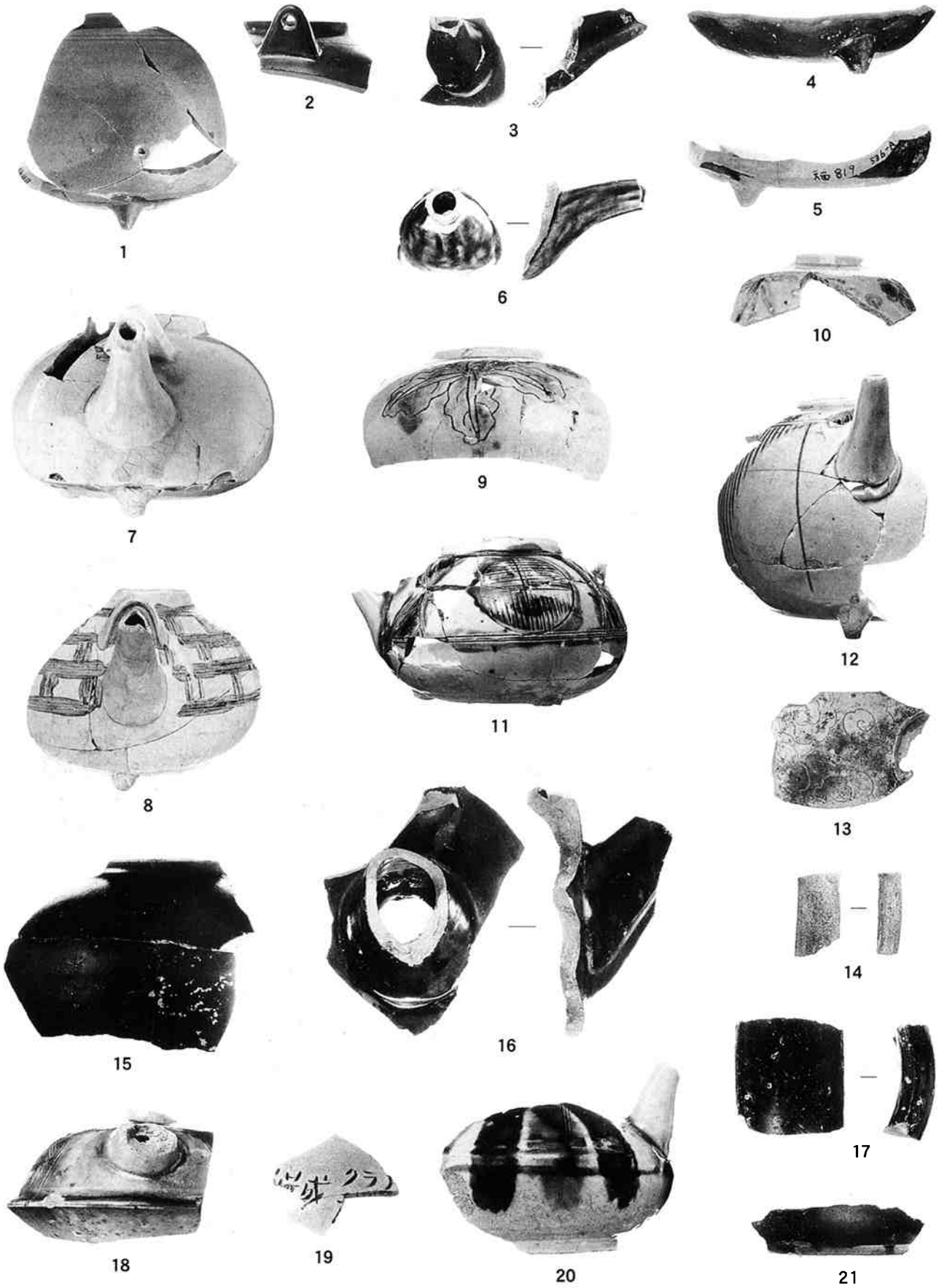
図版29 沖縄産施釉陶器 (2)



図版30 沖縄産施釉陶器 (3)



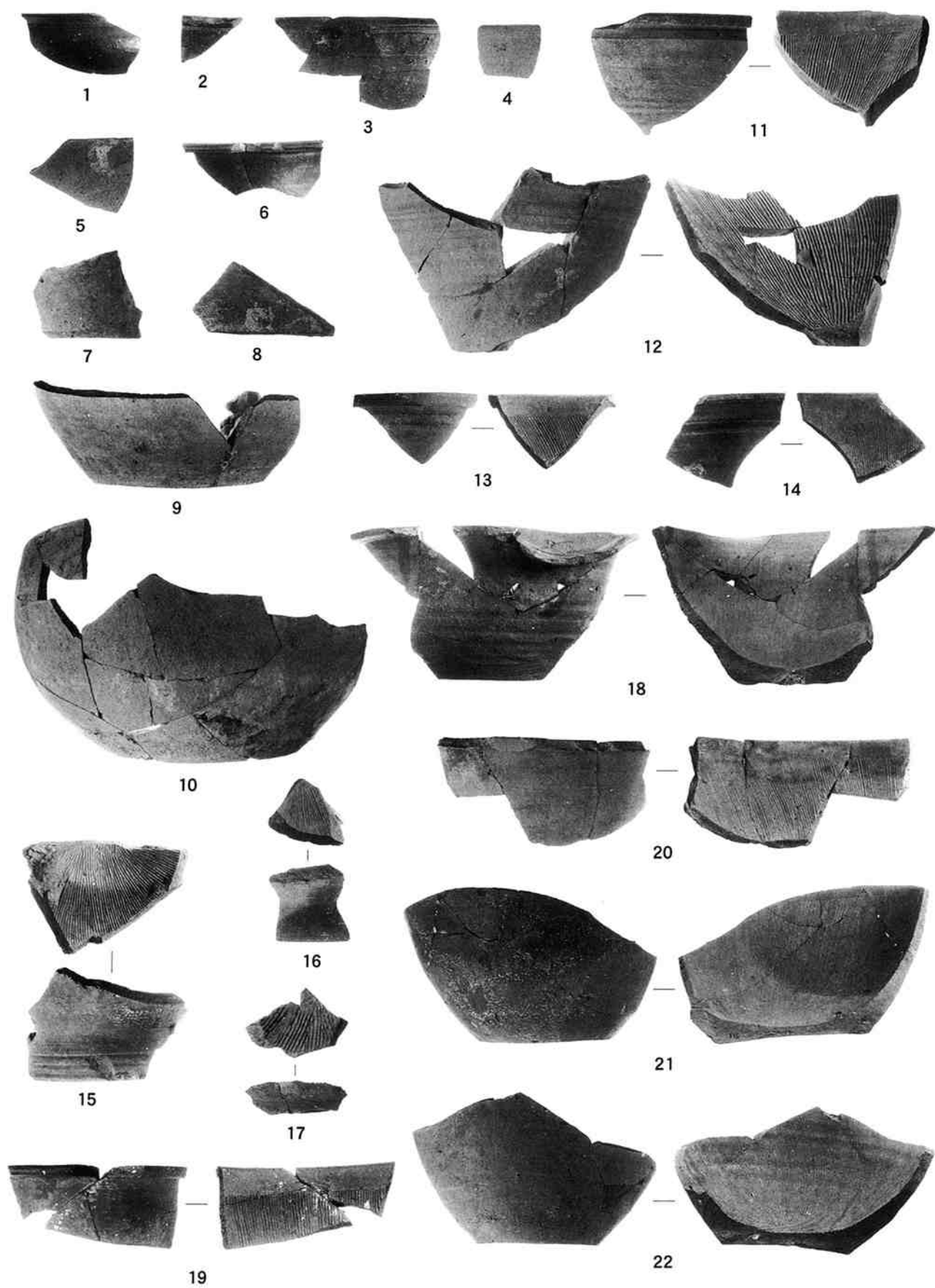
図版31 沖縄産施釉陶器（4）



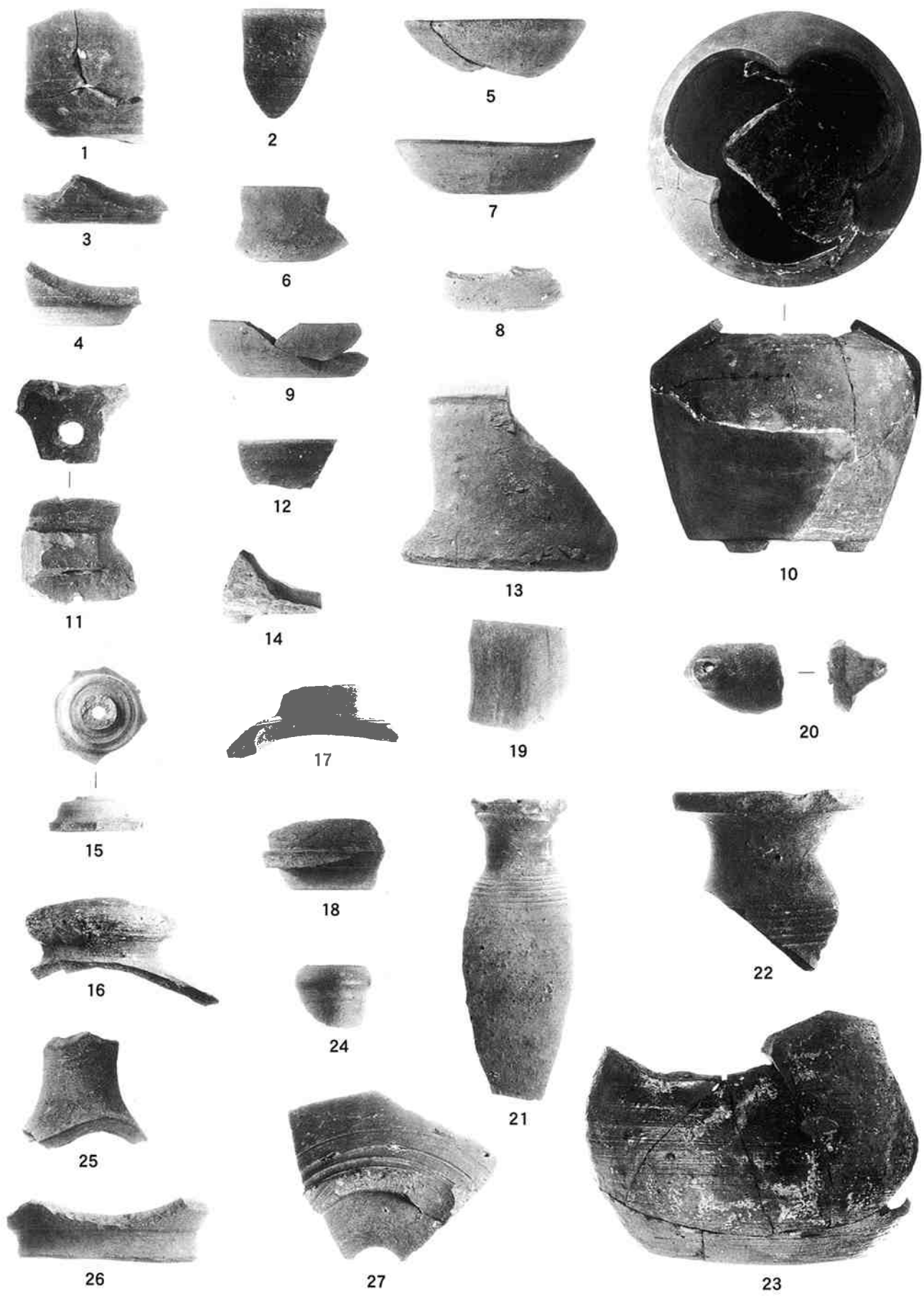
図版32 沖縄産施釉陶器 (5)



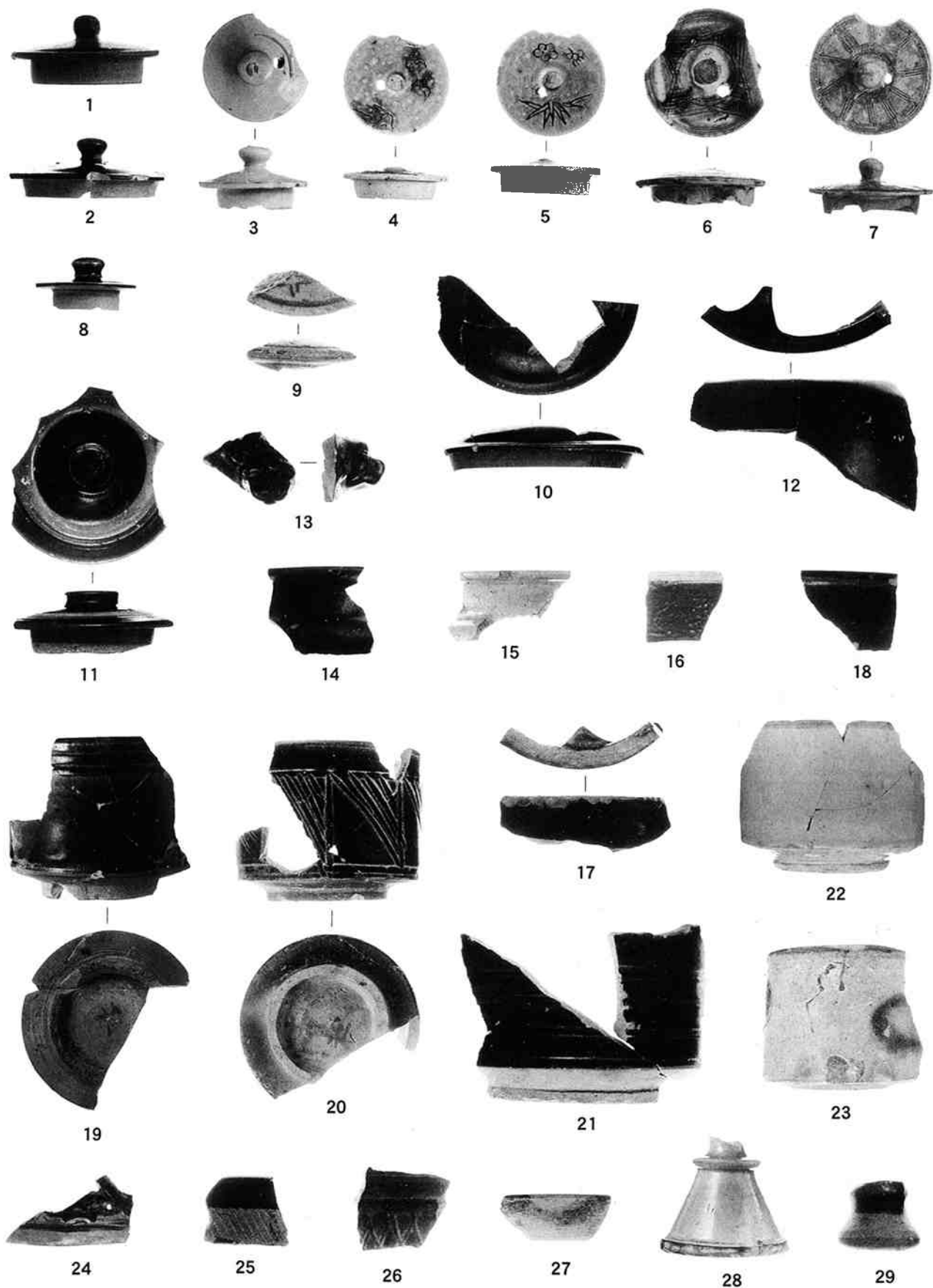
図版36 沖縄産無釉陶器 (3)



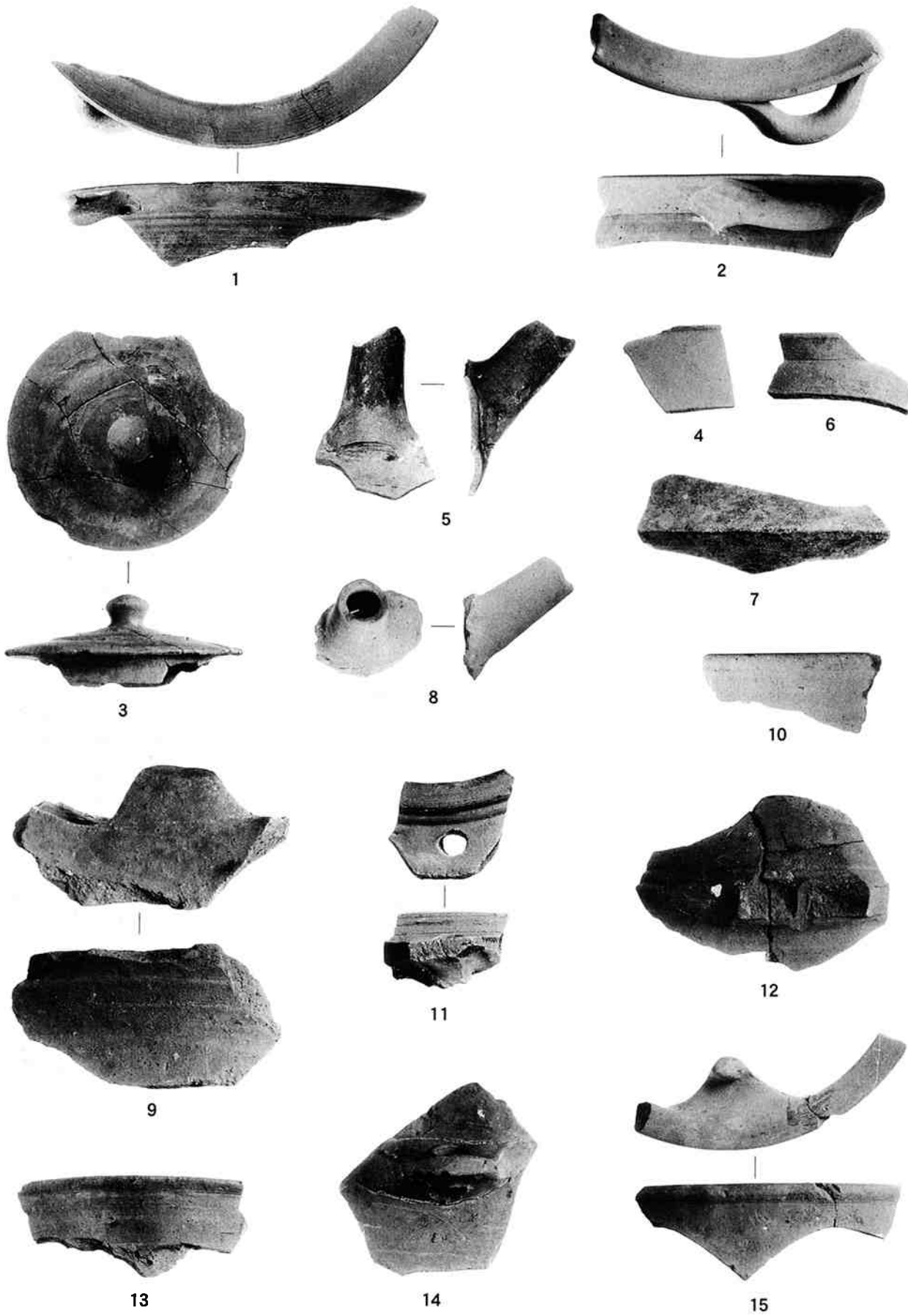
図版35 沖縄産無釉陶器 (2)



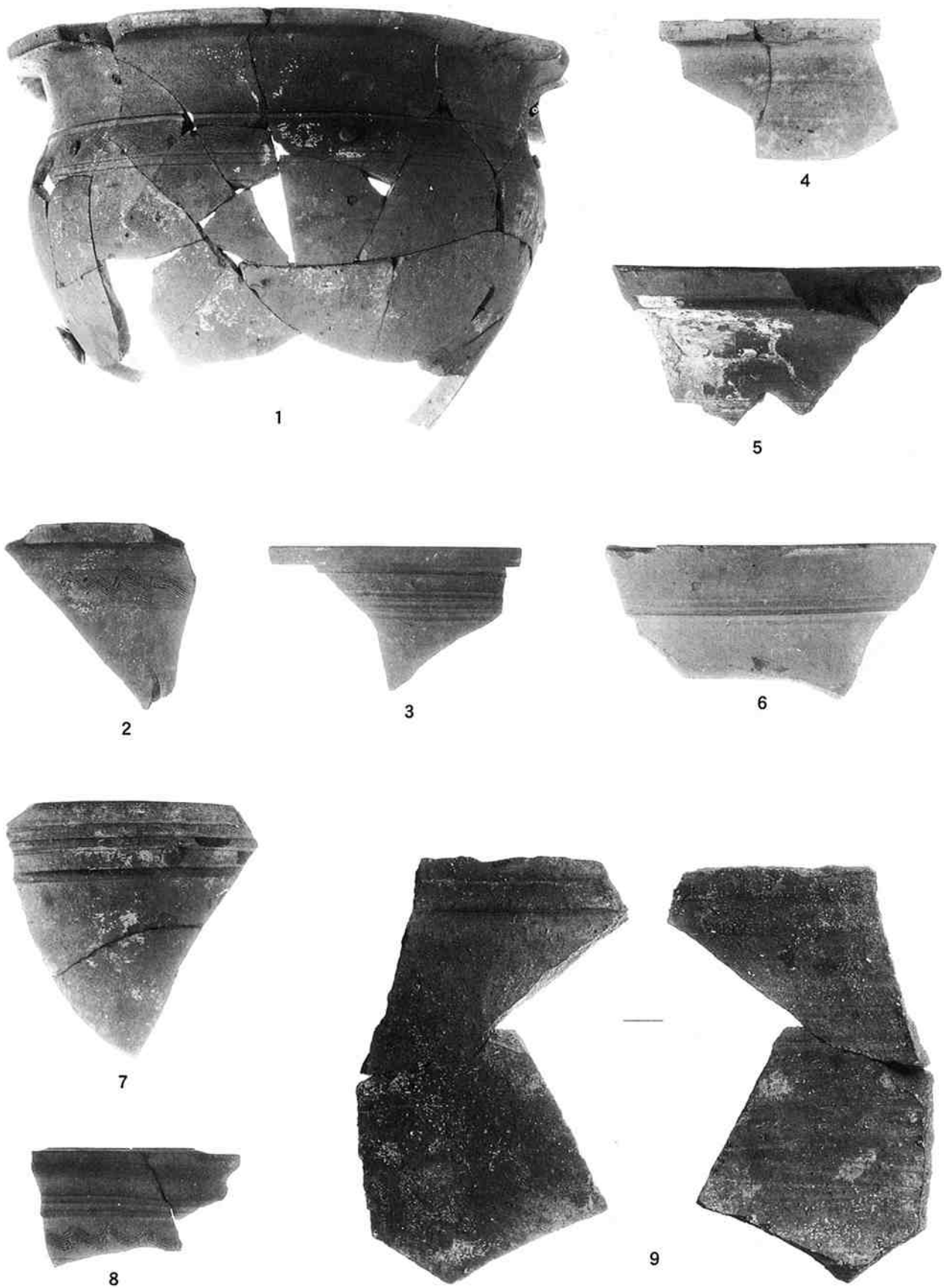
図版34 沖縄産無釉陶器 (1)



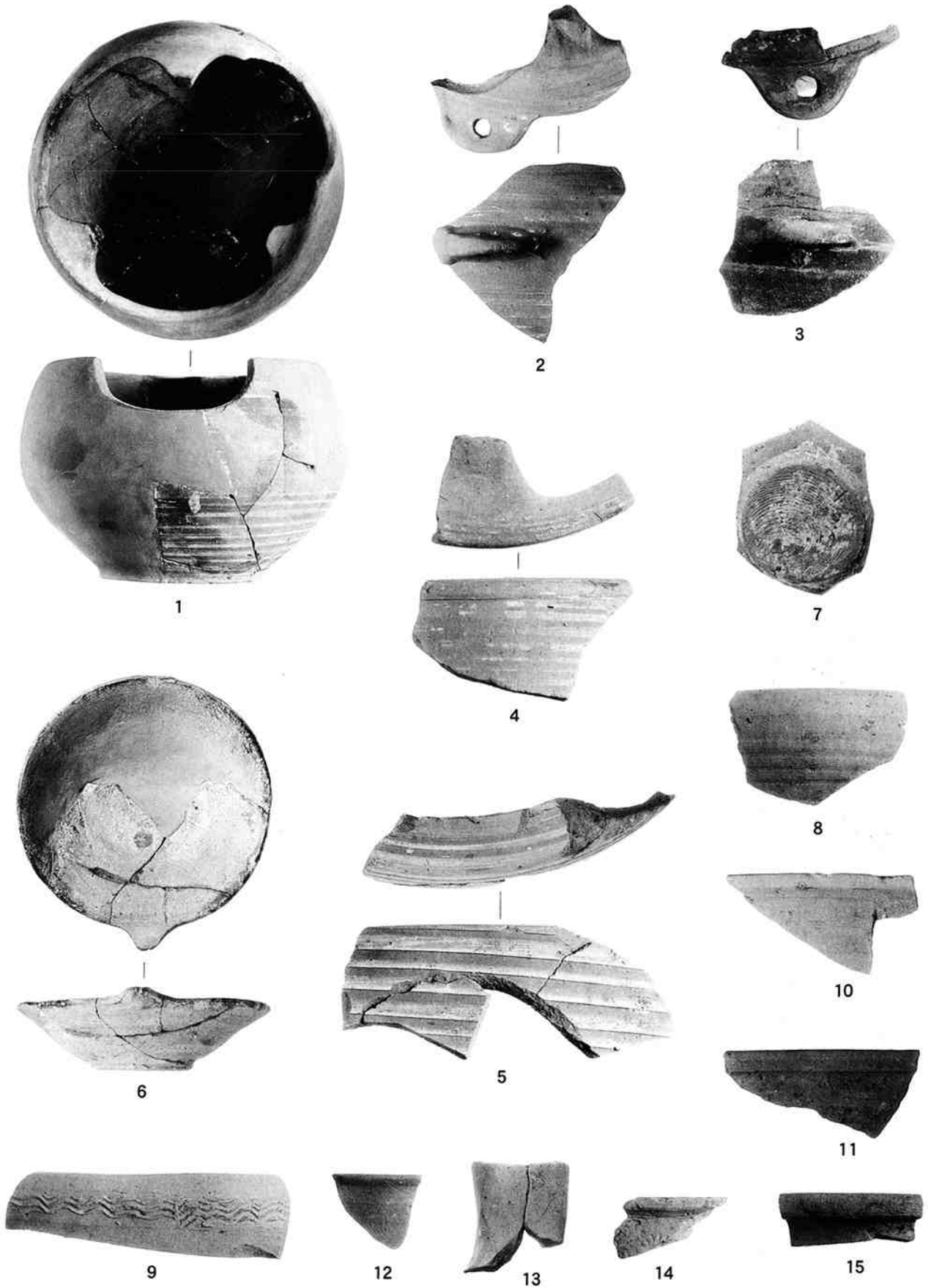
図版33 沖縄産施釉陶器 (6)



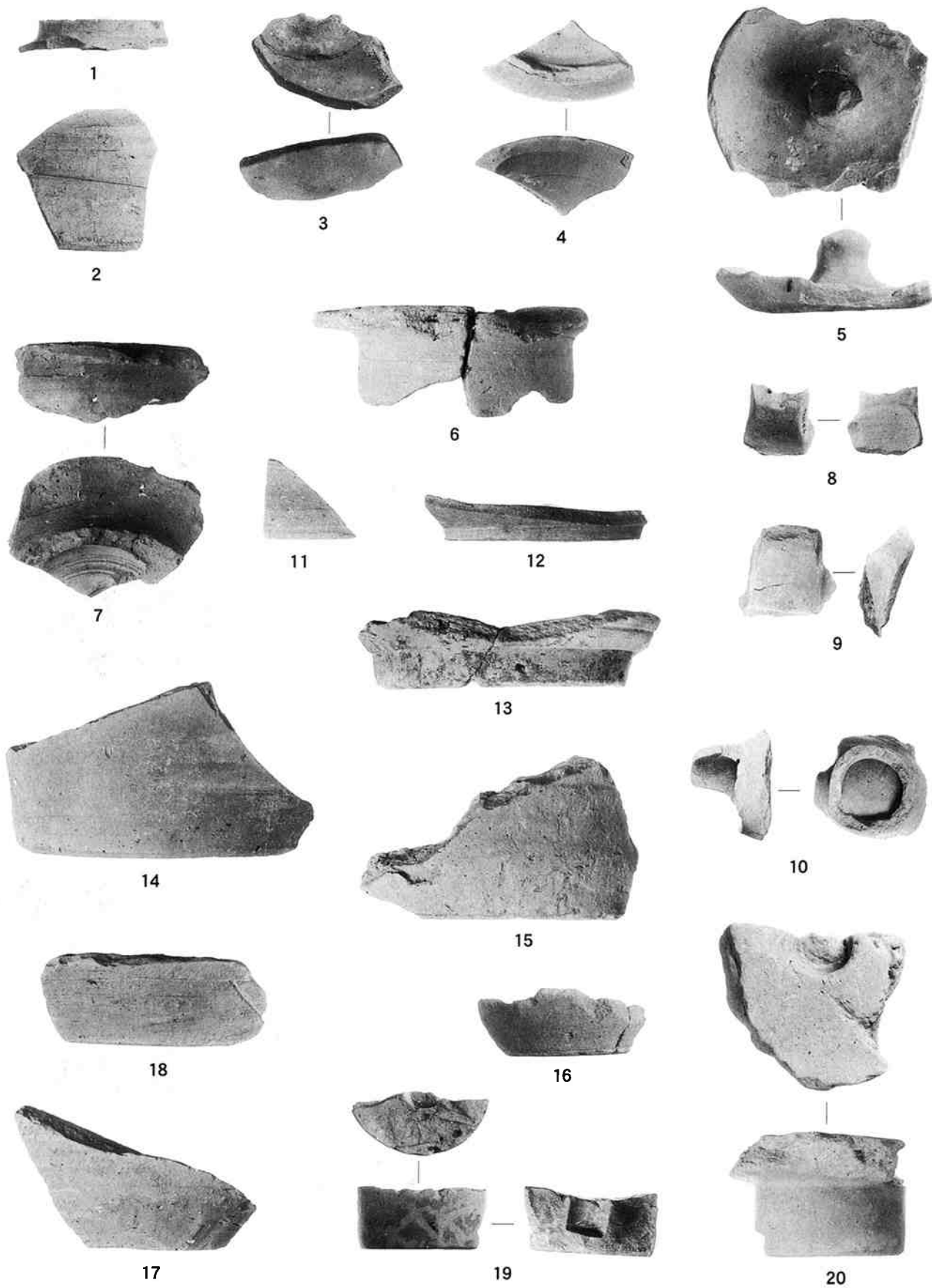
图版38 陶質土器 (1)



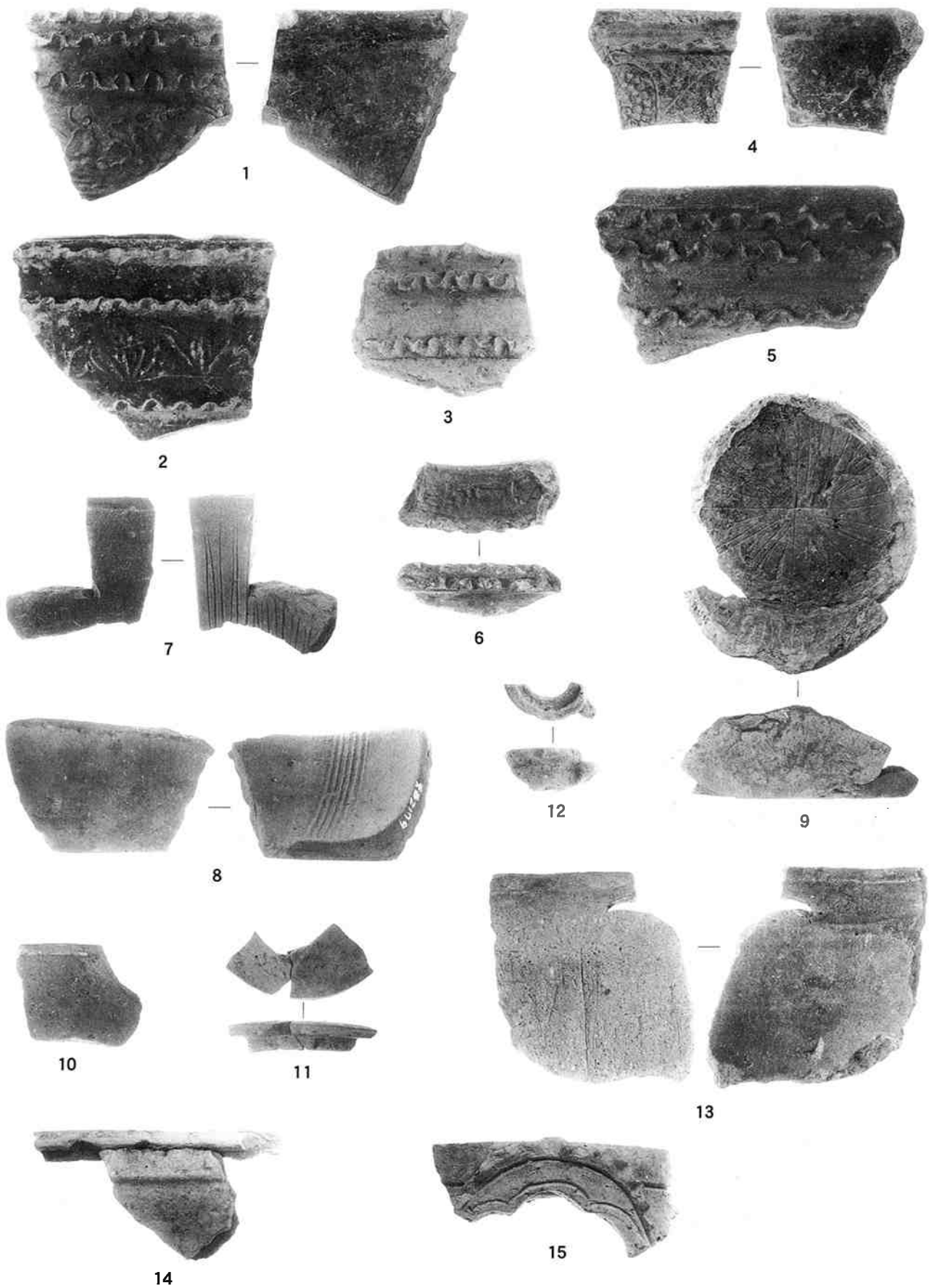
図版37 沖縄産無釉陶器 (4)



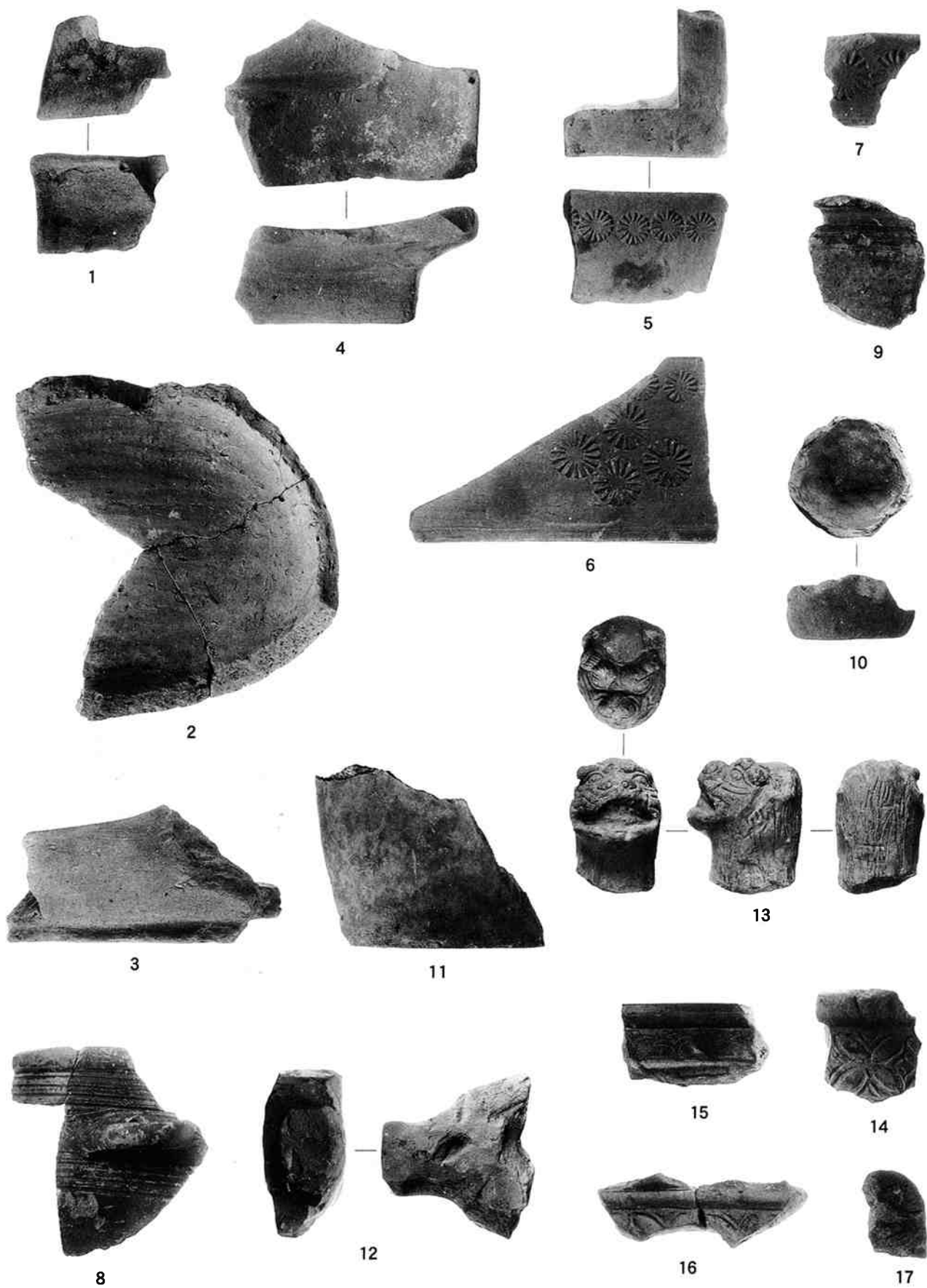
图版39 陶質土器 (2)



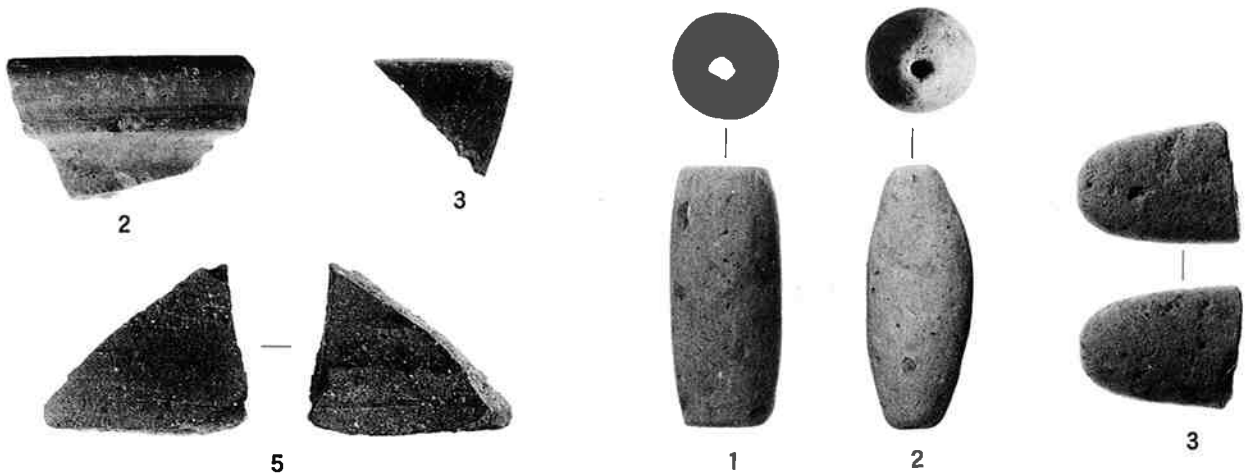
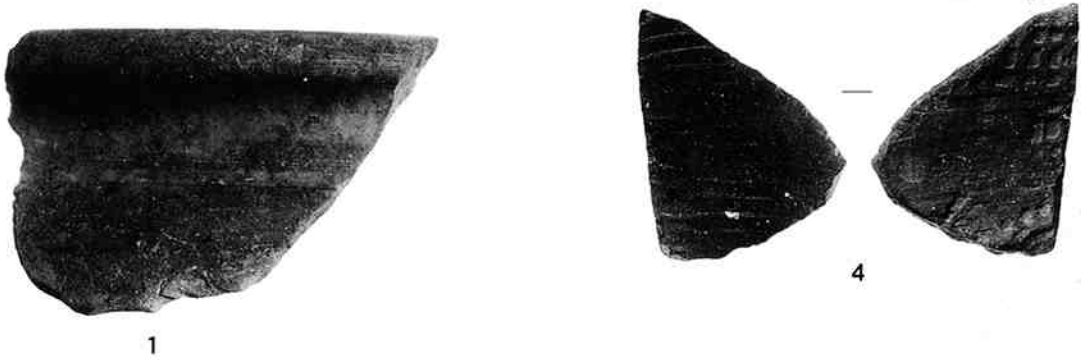
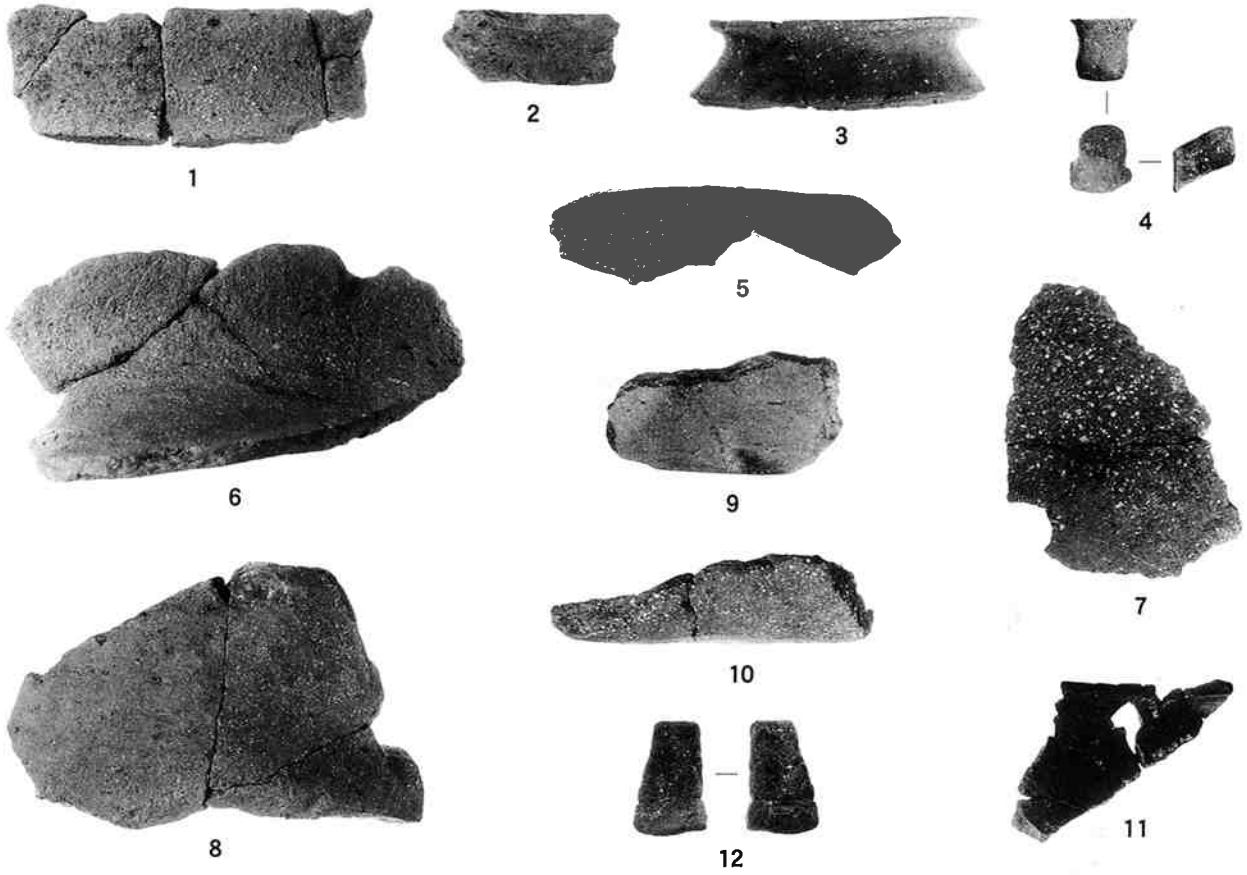
図版40 陶質土器 (3)



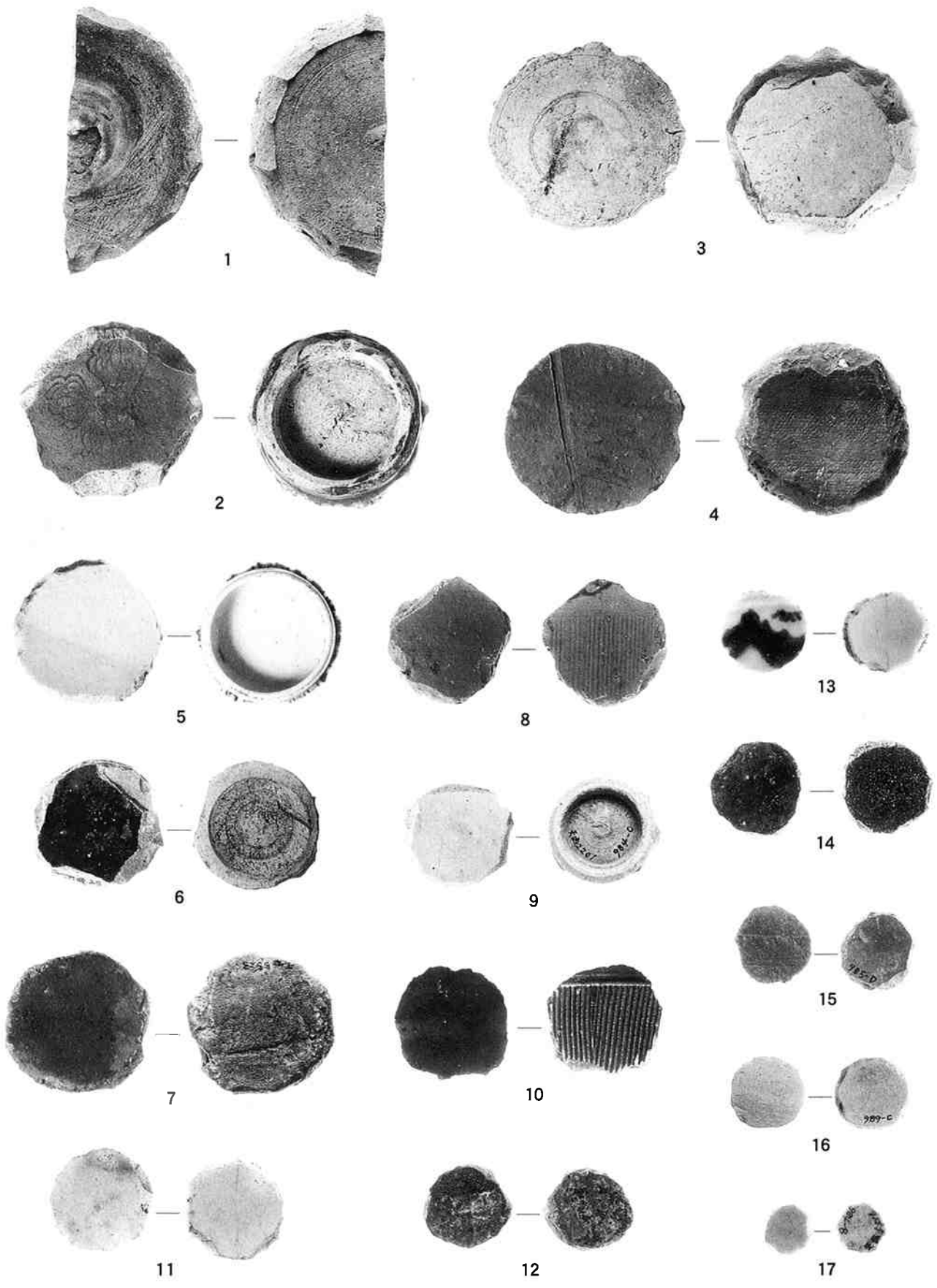
图版41 瓦質土器 (1)



图版42 瓦質土器 (2)



図版43 土器・類須恵器・土製品



图版44 円盤状製品



1



2



3



4



5



6



7



8

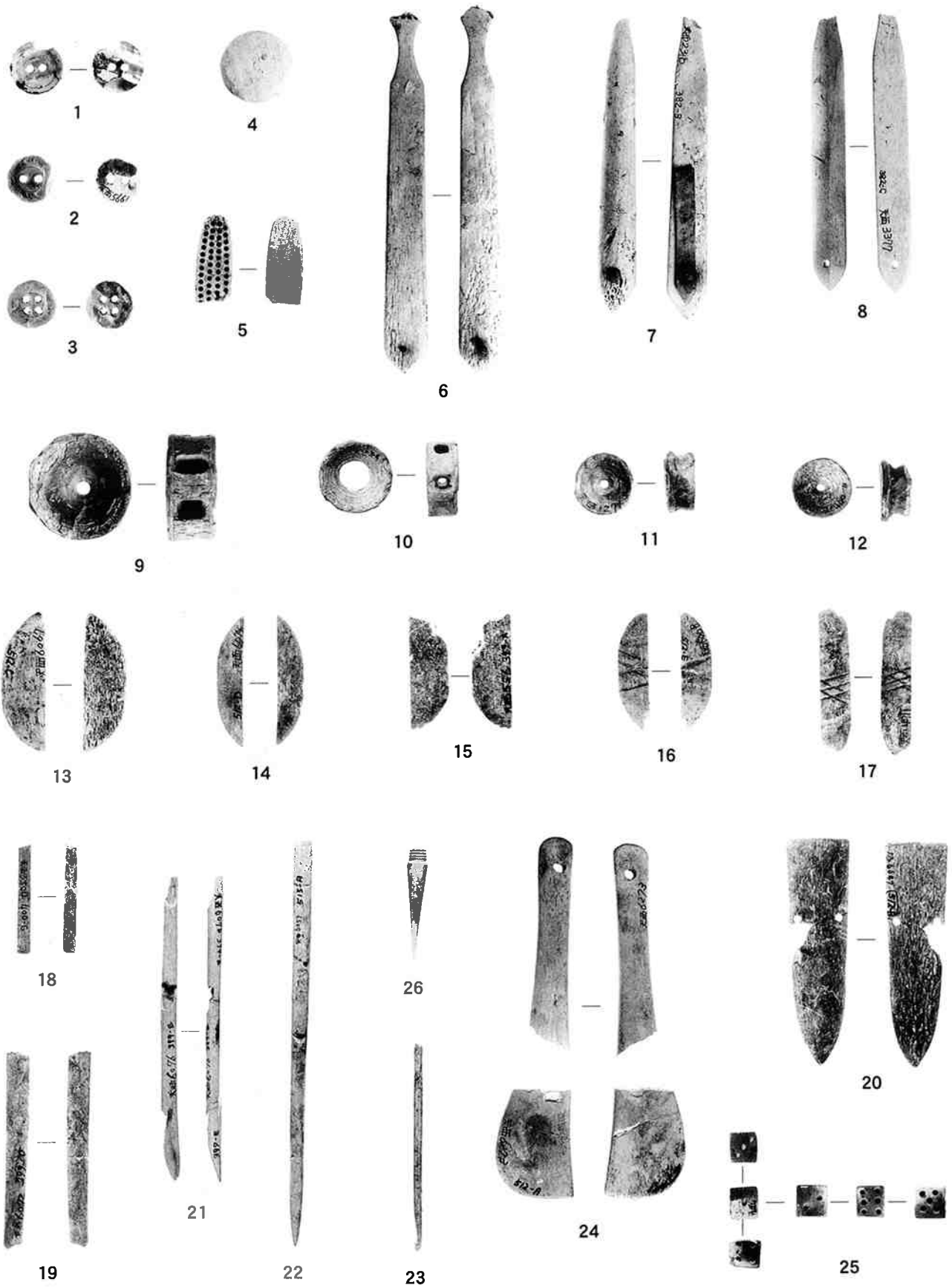


9

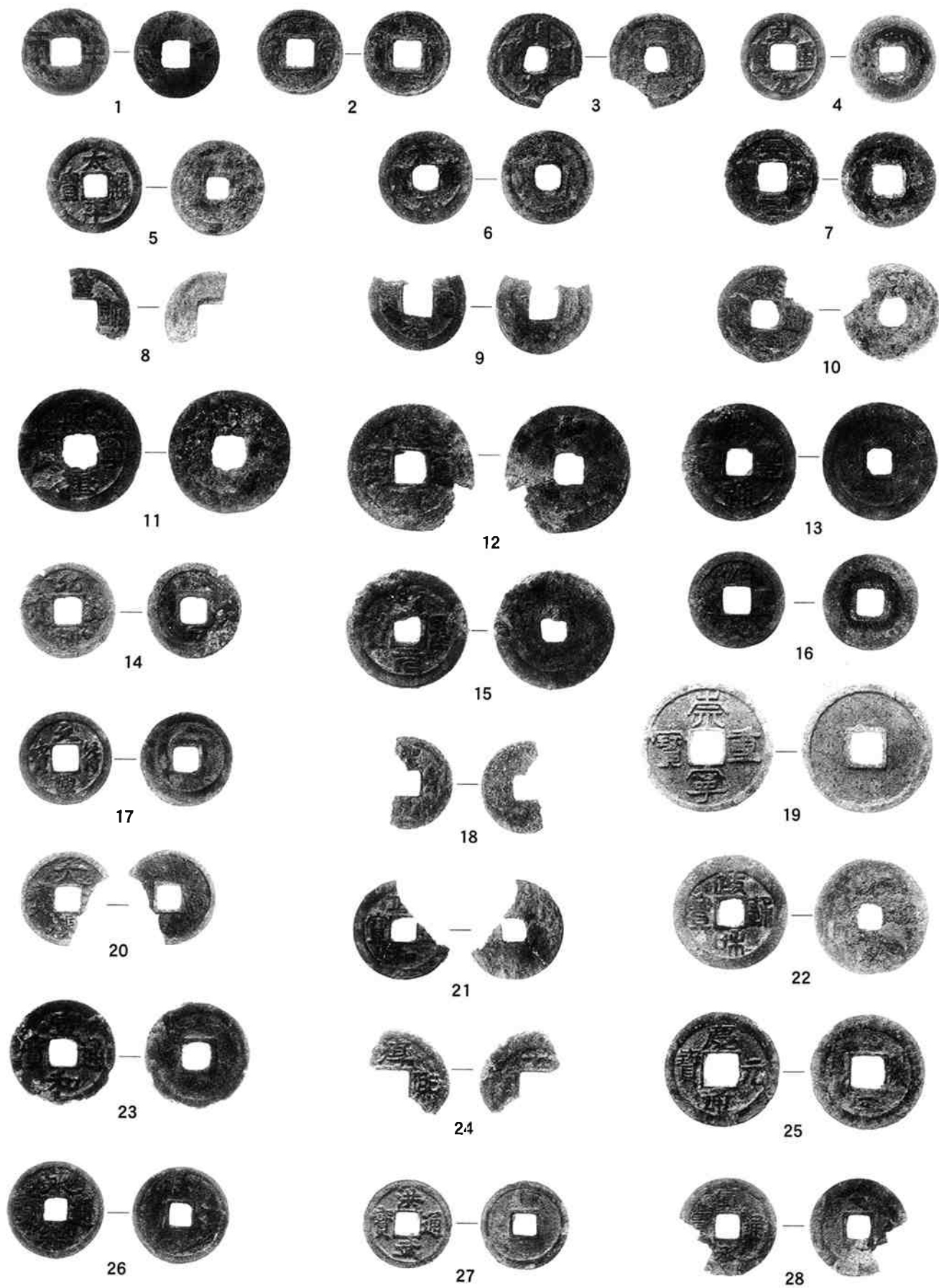


10

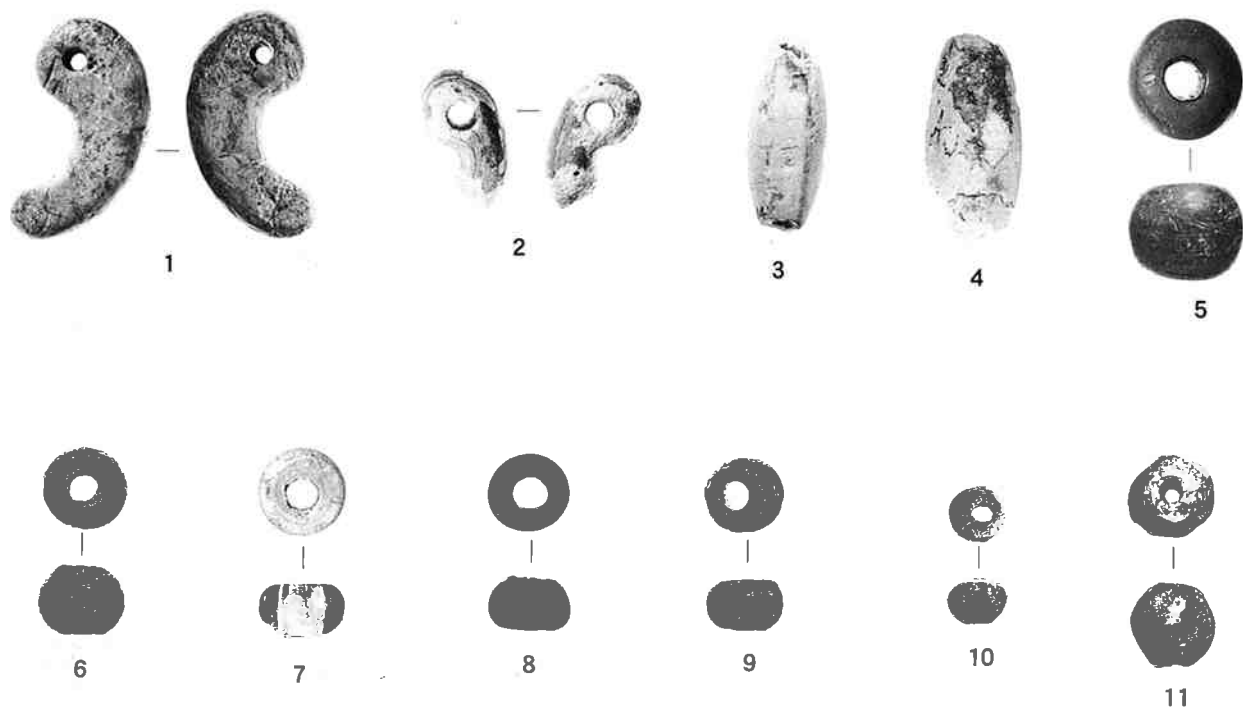
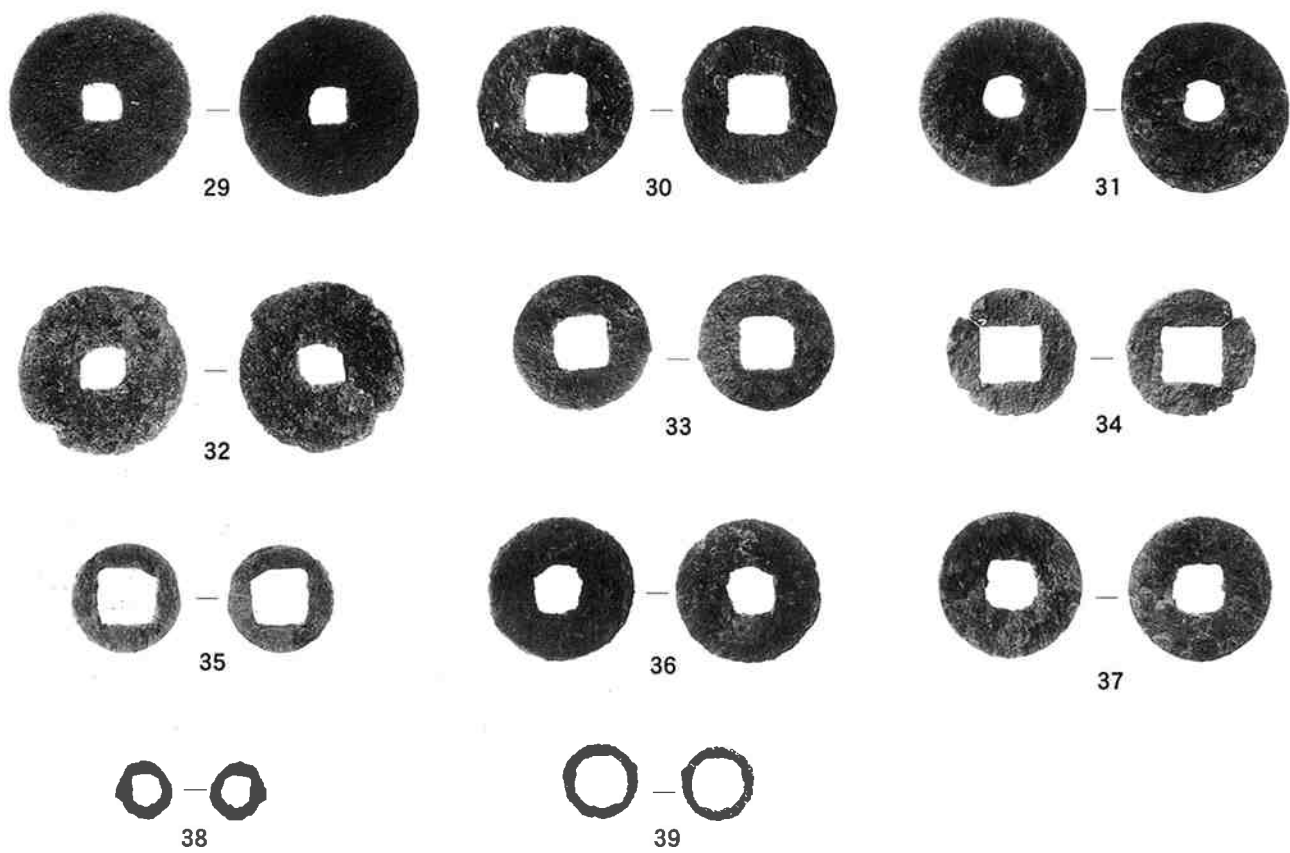
图版45 烟管



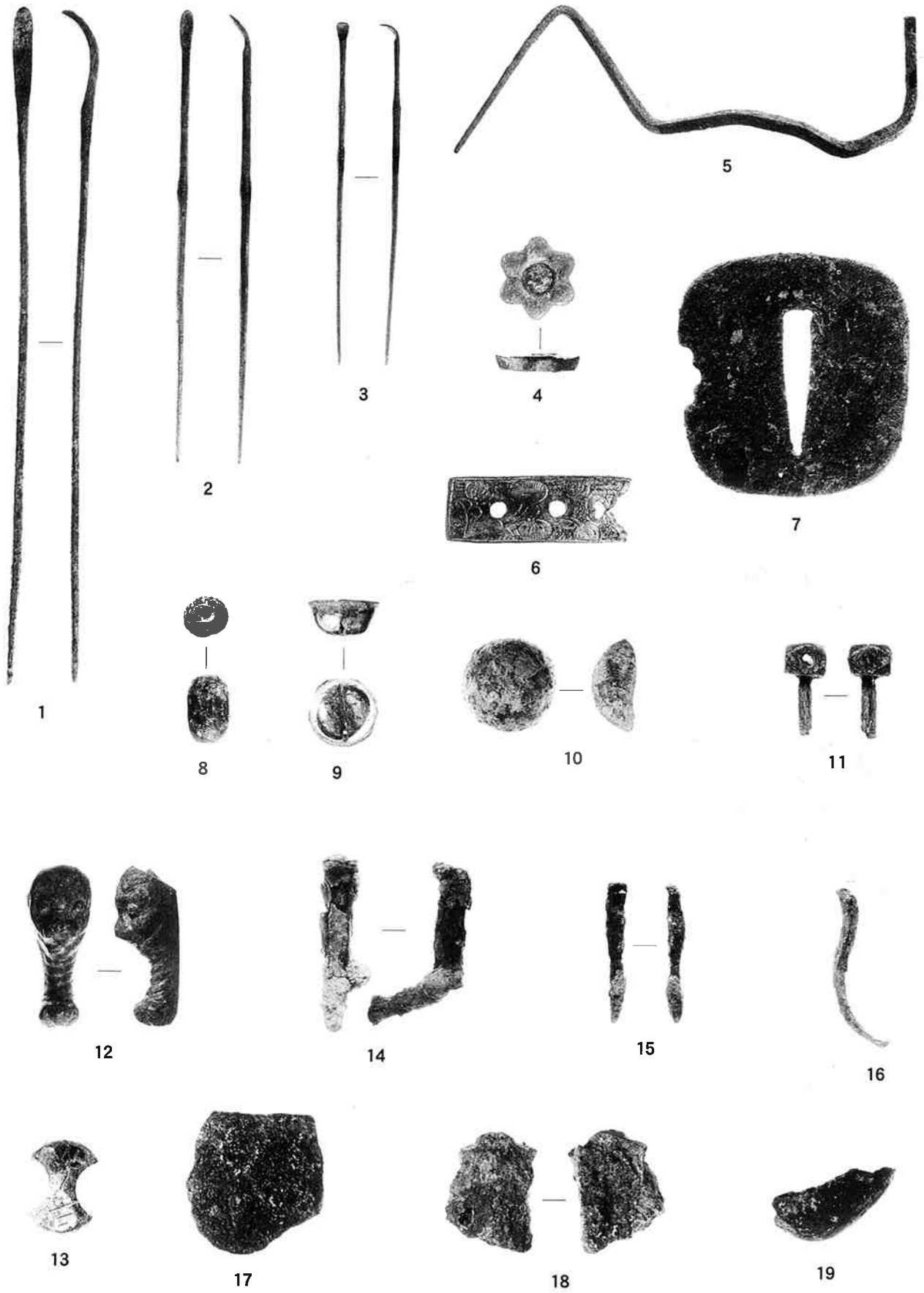
图版46 貝製品・骨製品



圖版47 錢貨 (有文)



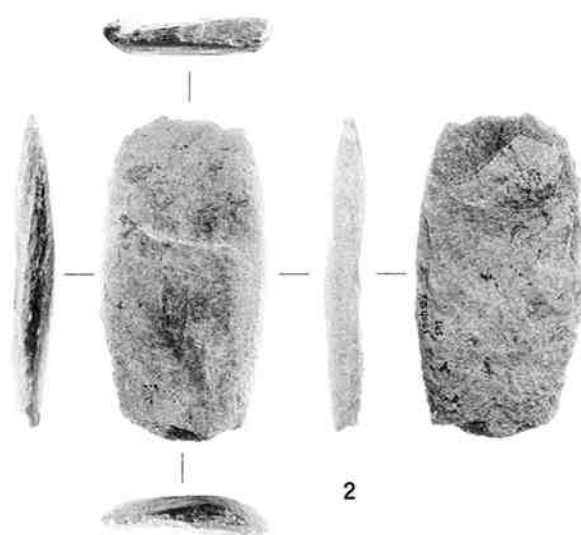
図版48 上：銭貨（無文）下：玉類



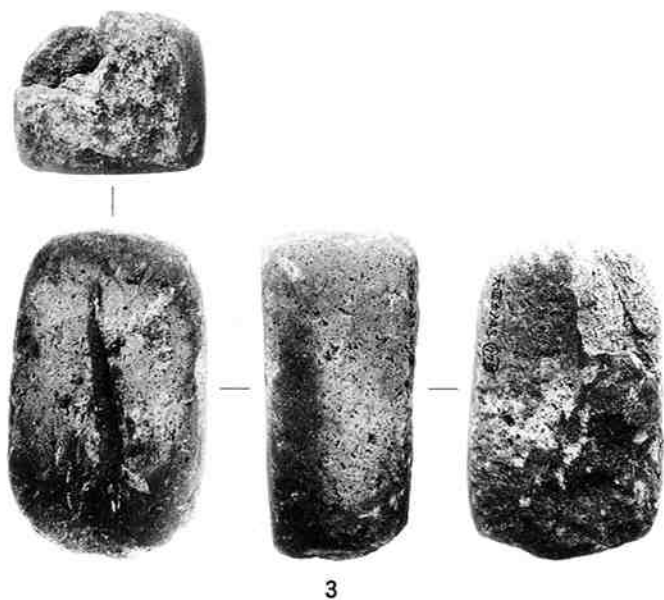
圖版49 青銅製品・鉄製品・坩堝



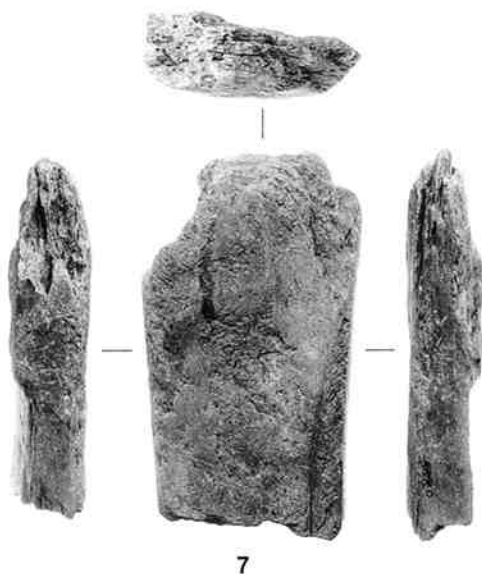
1



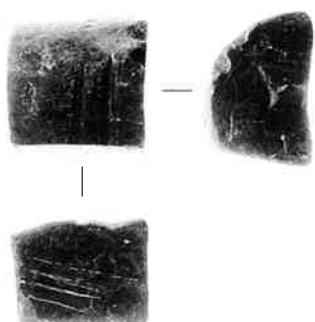
2



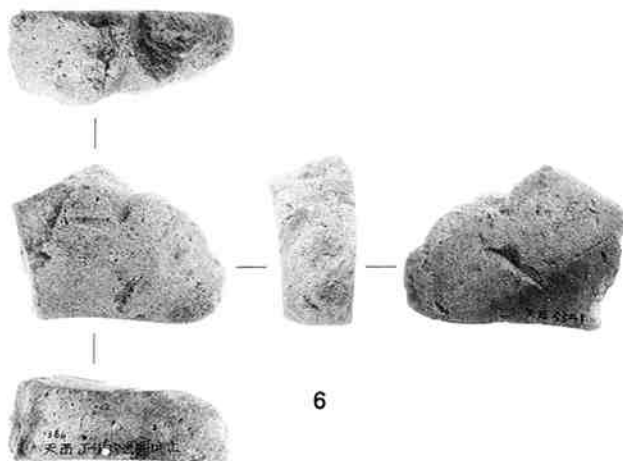
3



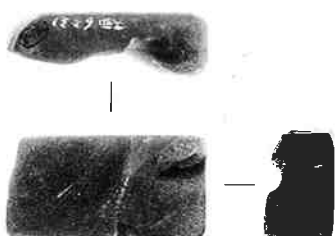
7



5

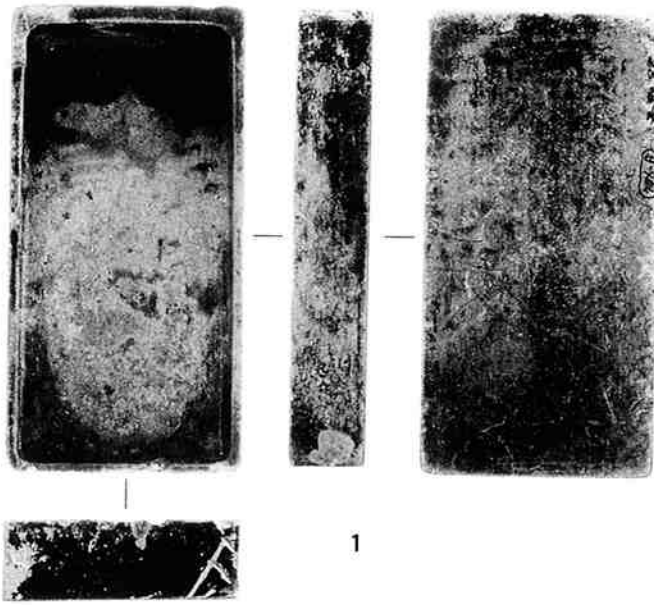


6

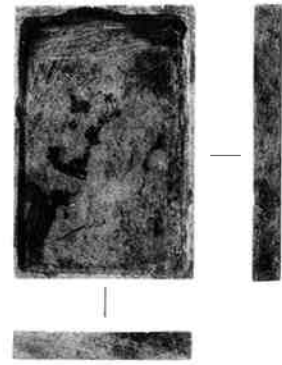


4

図版50 石器・石製品 (1)



1



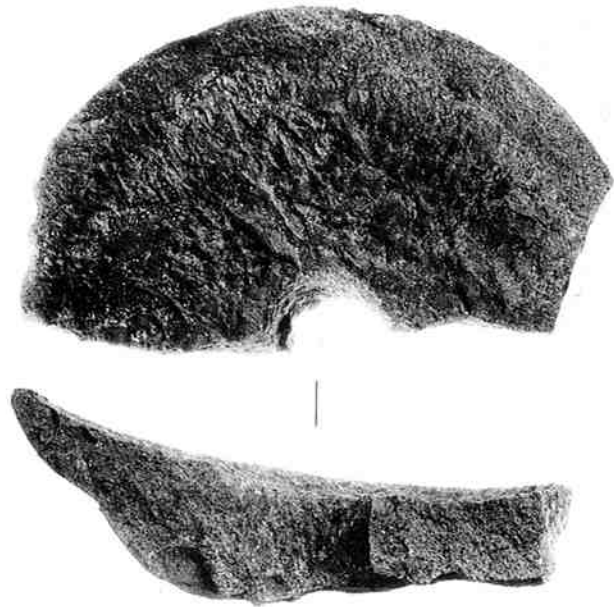
2



4



3



5

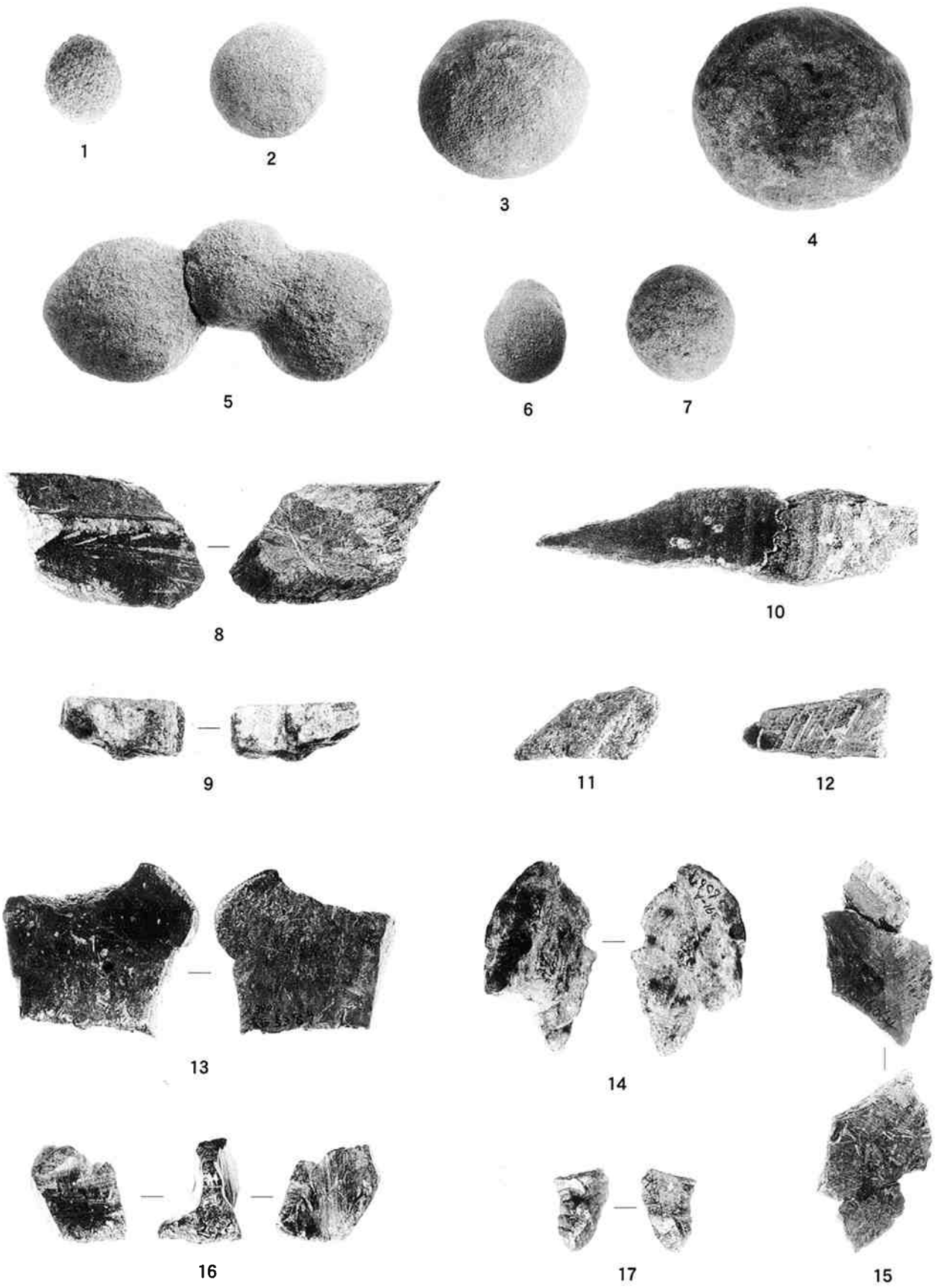


6

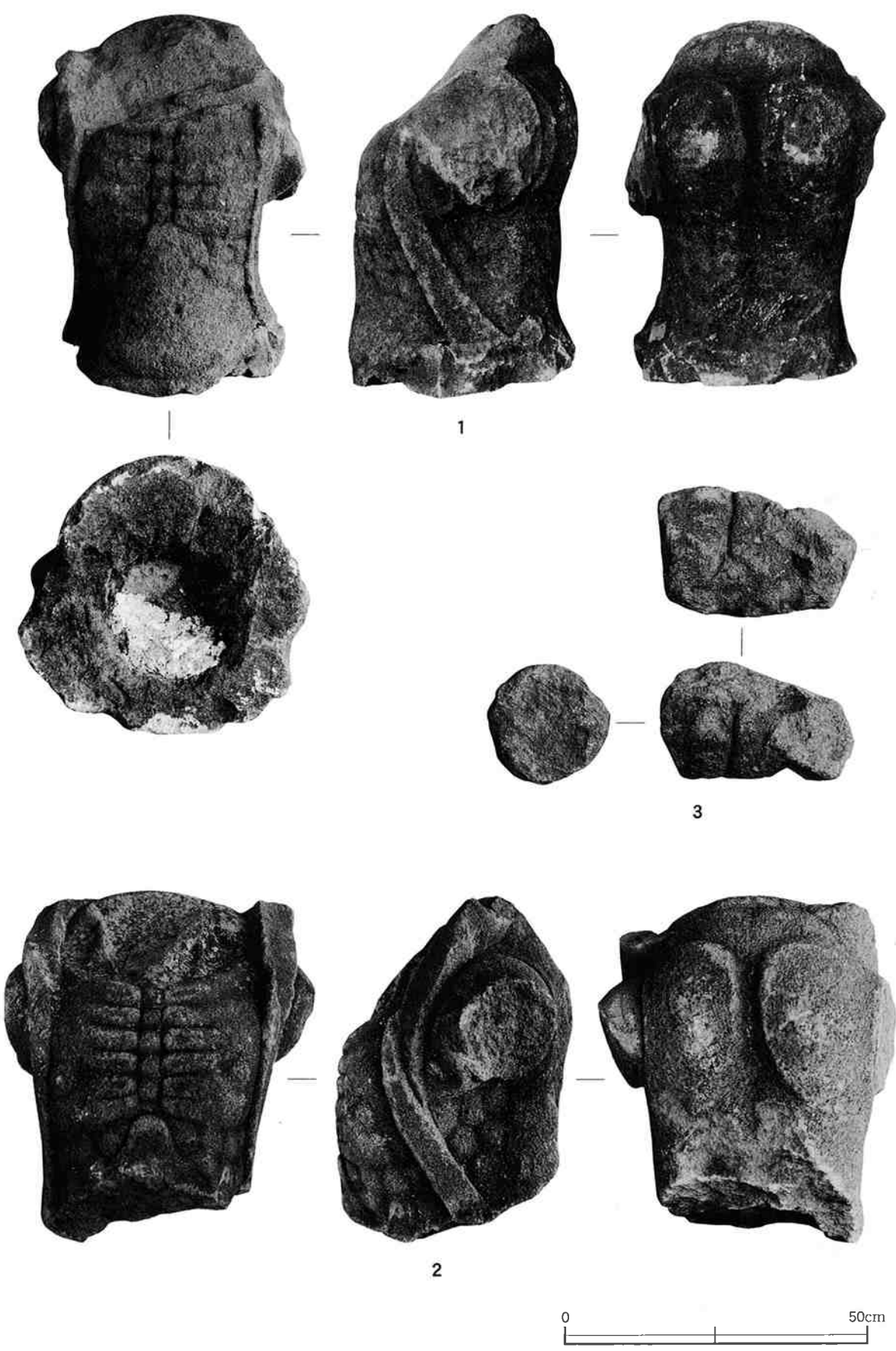


7

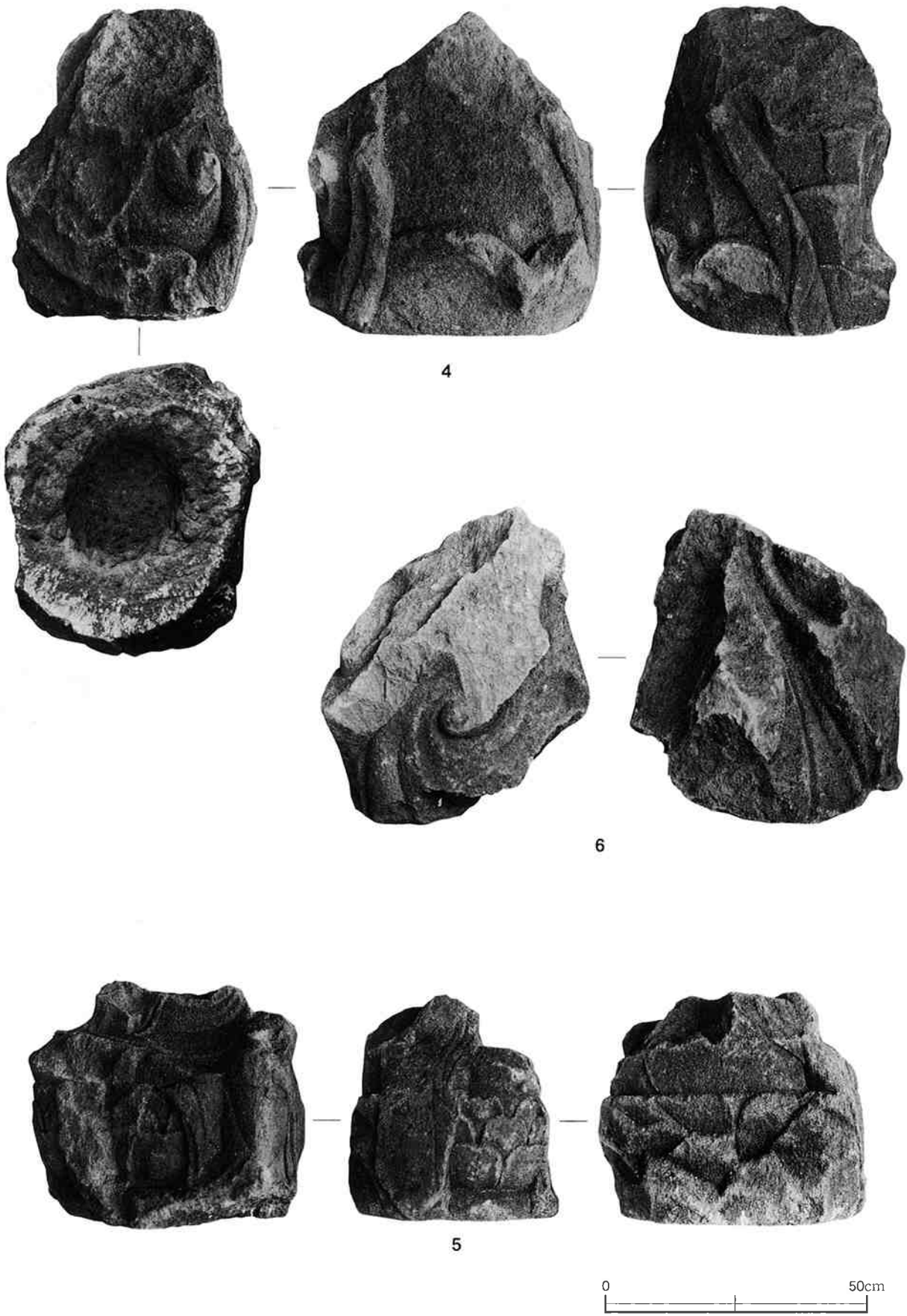
図版51 石器・石製品（2）



图版52 石器·石製品 (3)滑石製品



图版53 石像（1）



图版54 石像 (2)



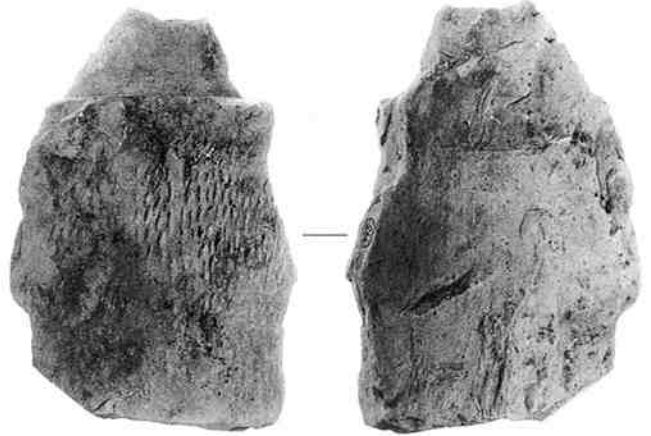
1



2



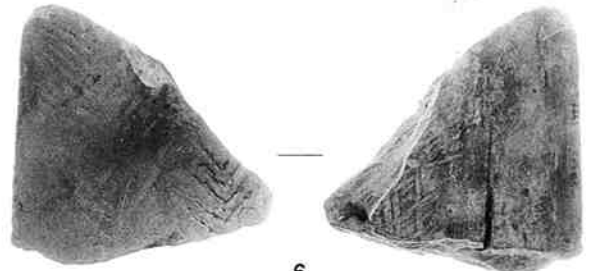
3



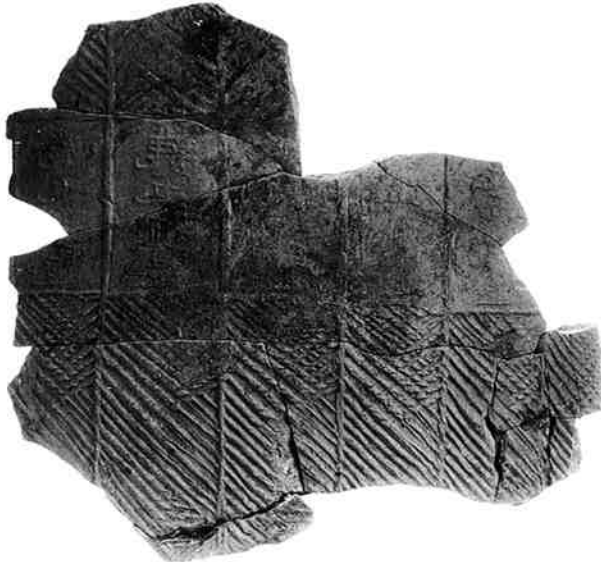
4



5



6



7

图版55 高麗系瓦・大和系瓦



图版56 明朝系瓦



1



4



2



5



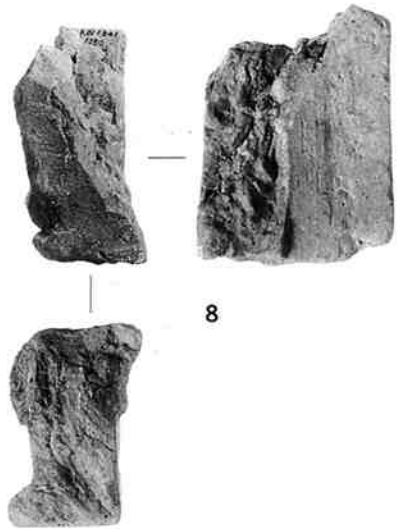
3



7

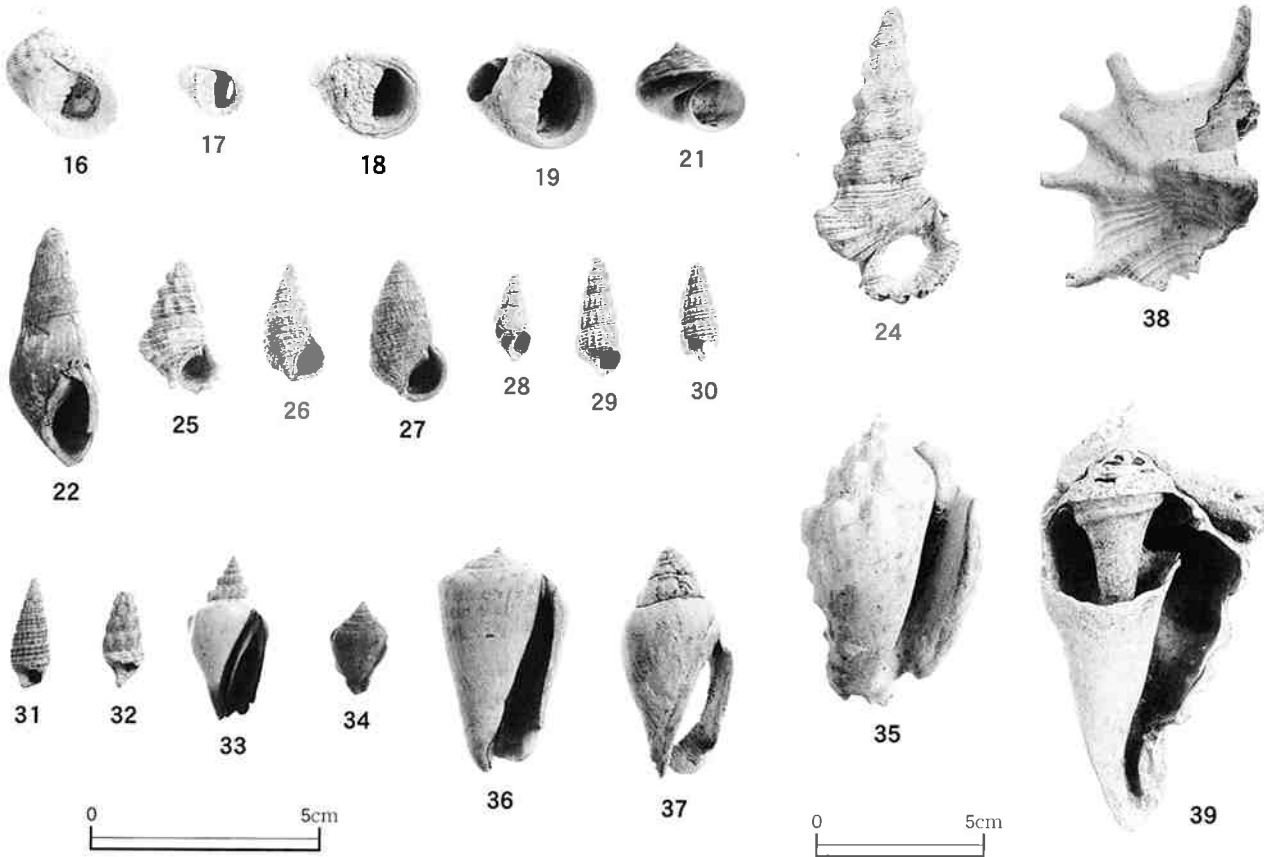
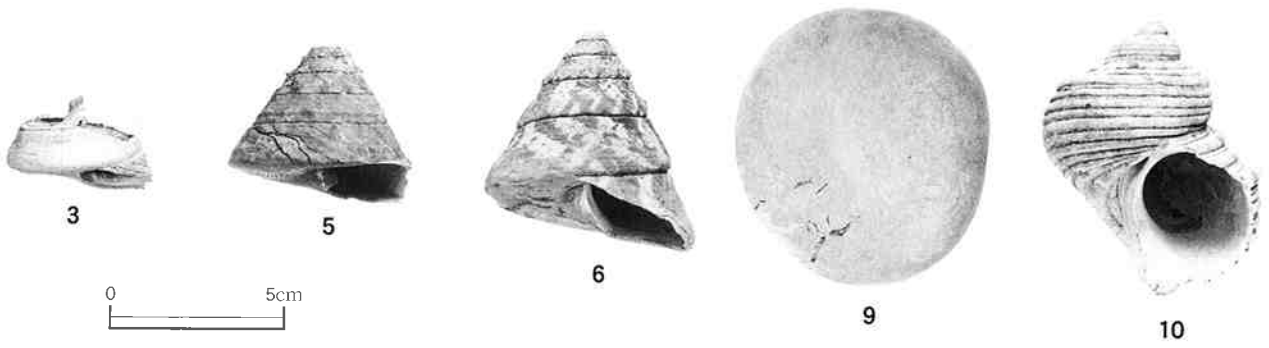
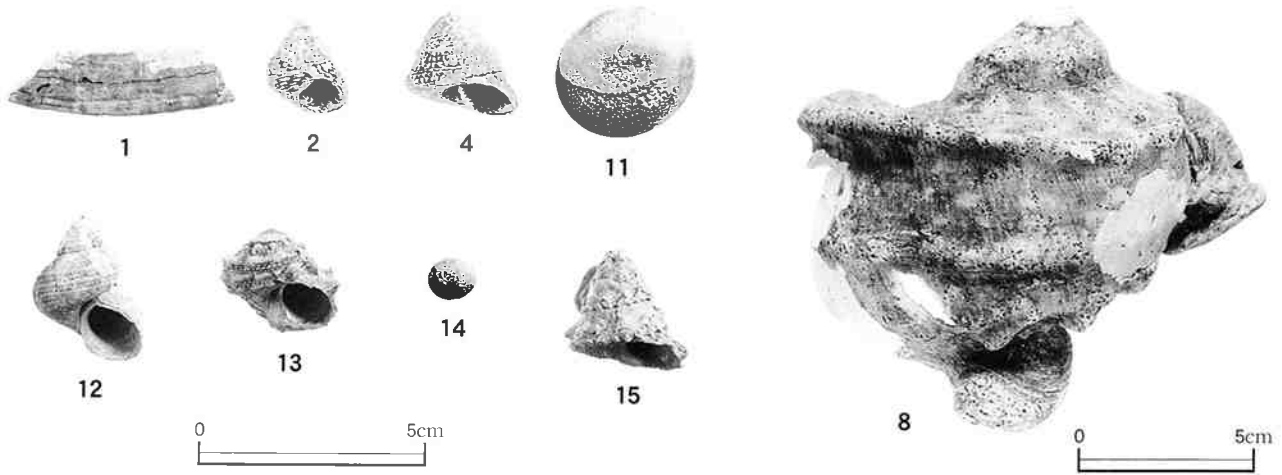


6

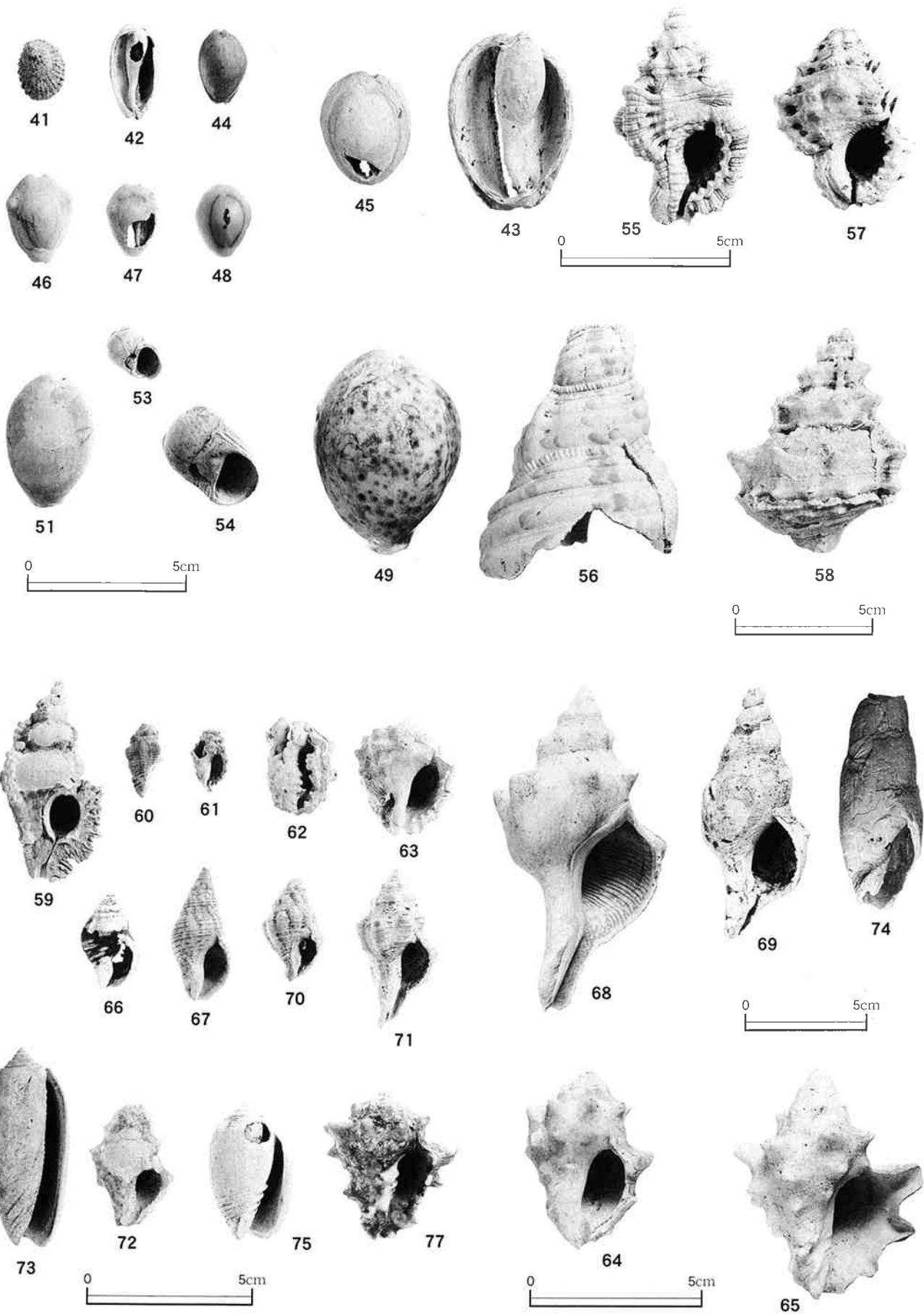


8

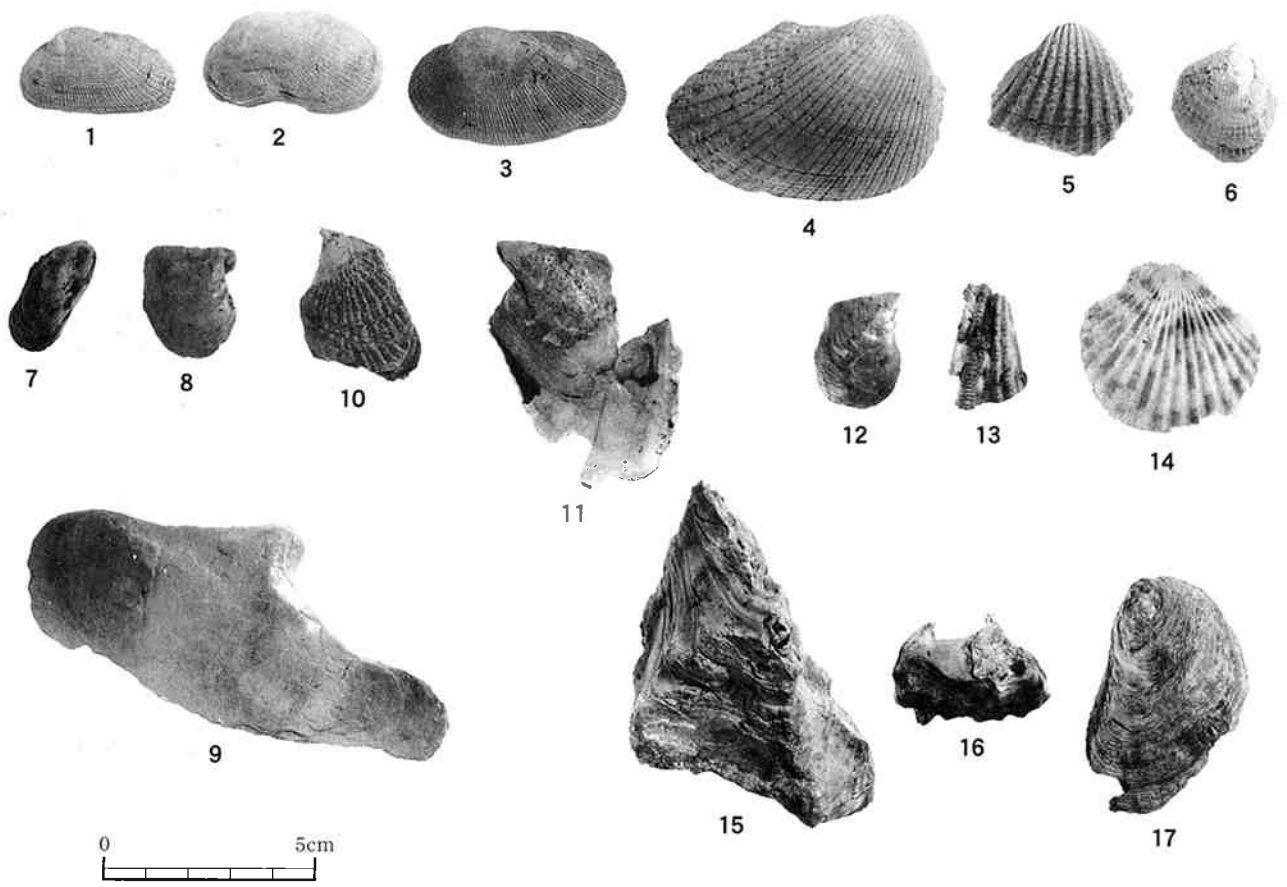
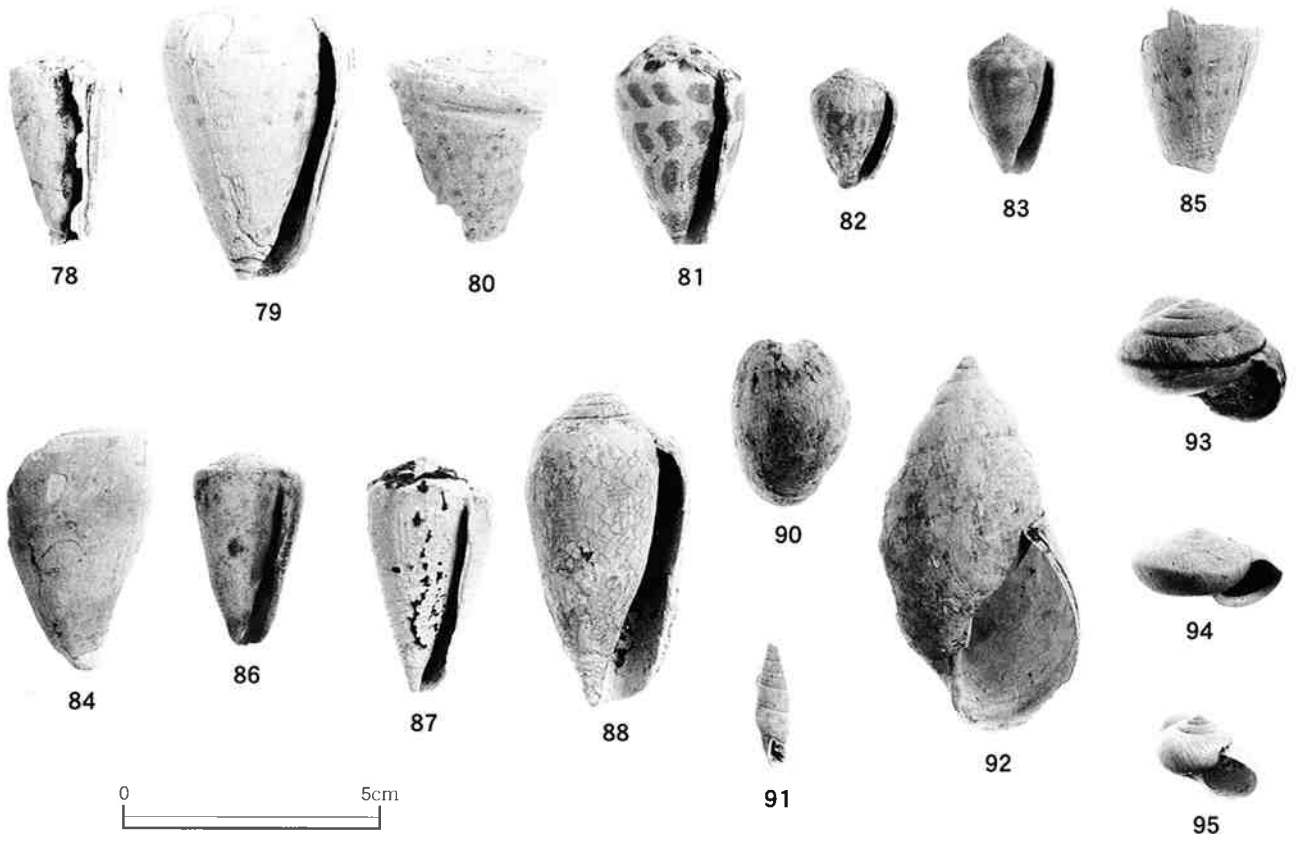
图版57 明朝系瓦·埴



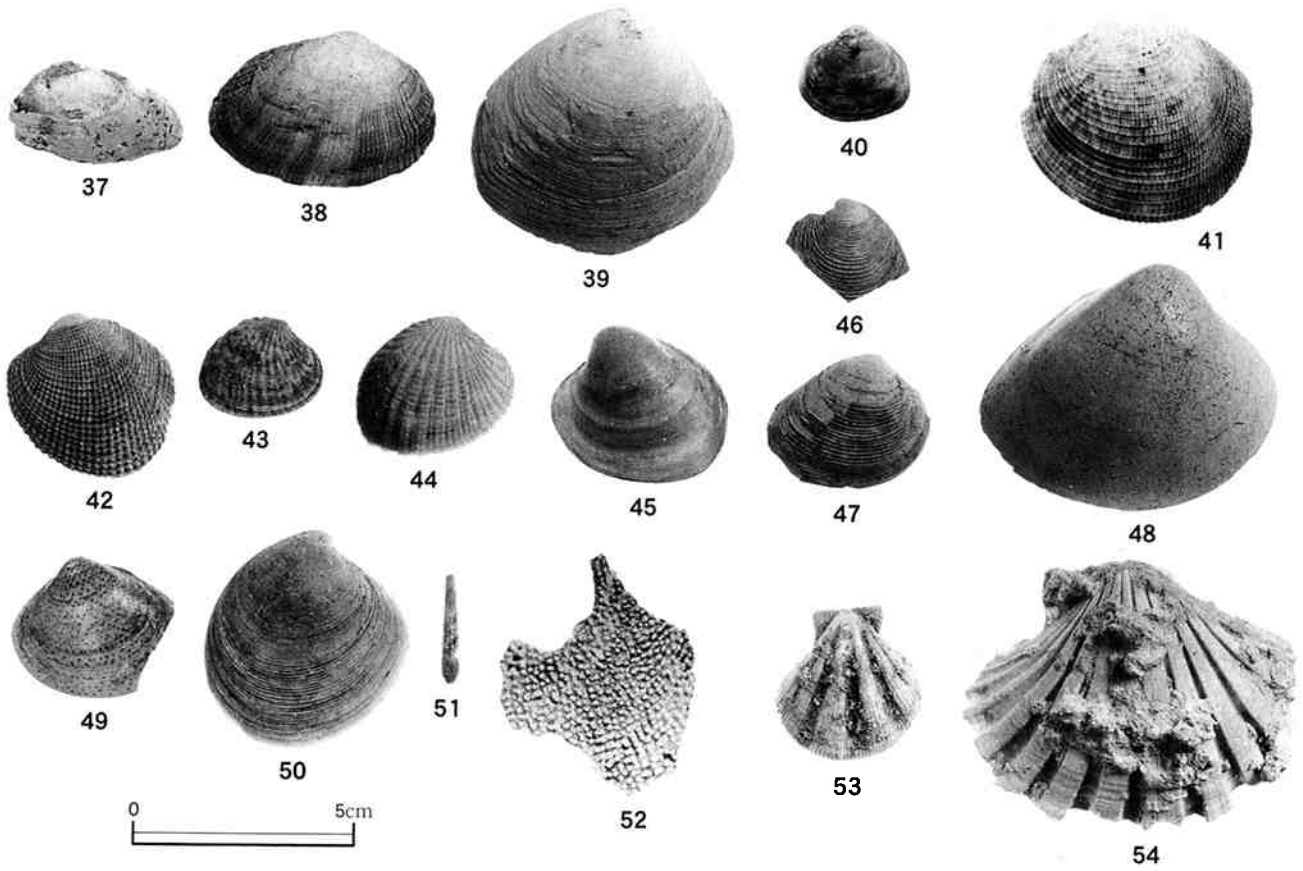
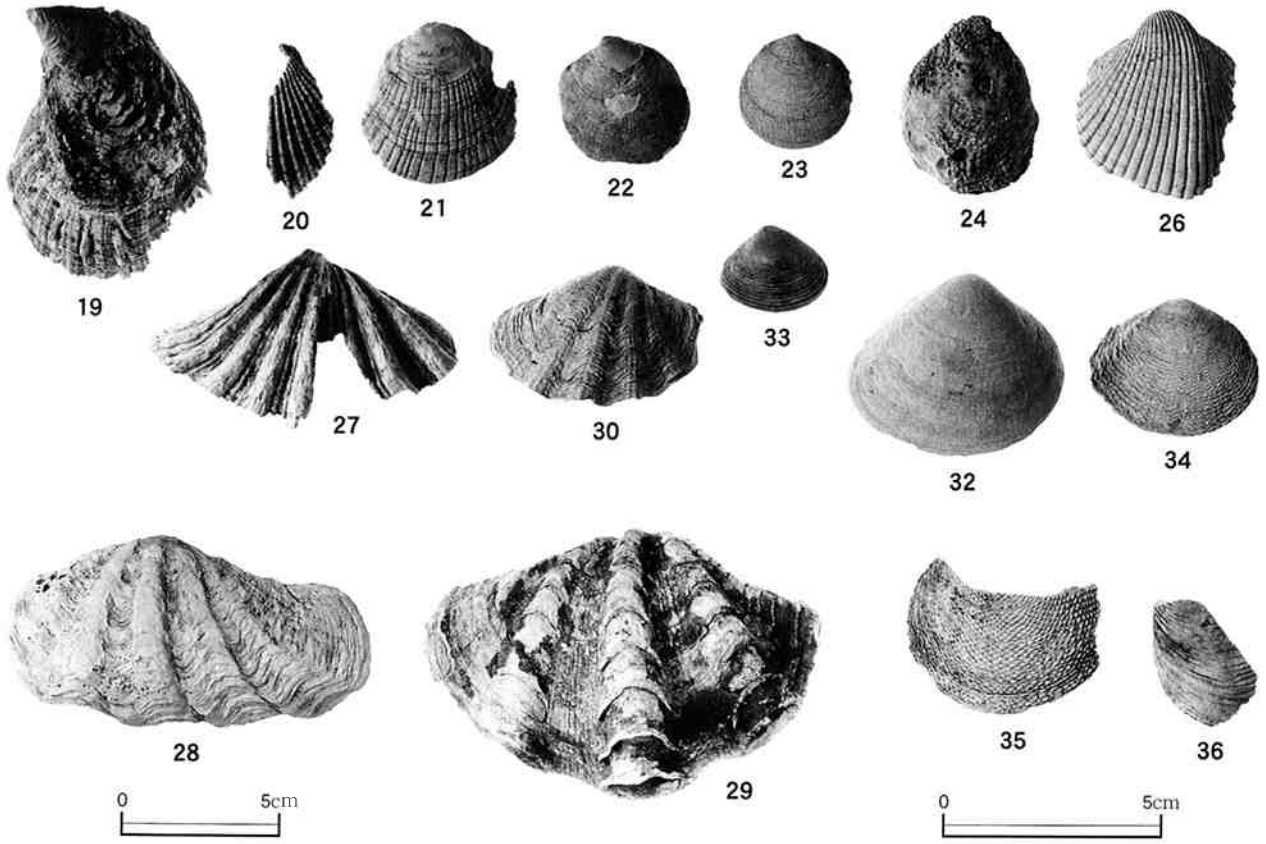
图版58 貝(1)



図版59 貝(2)



图版60 貝(3)



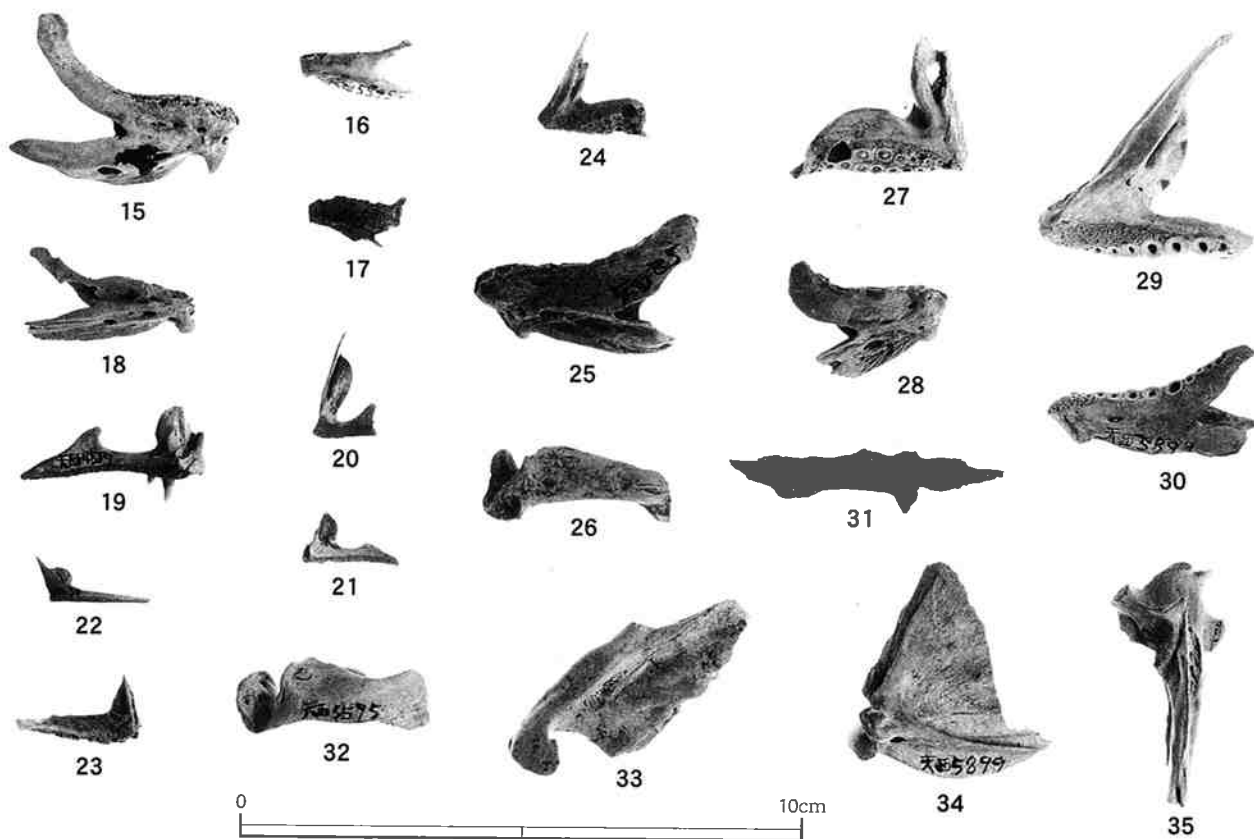
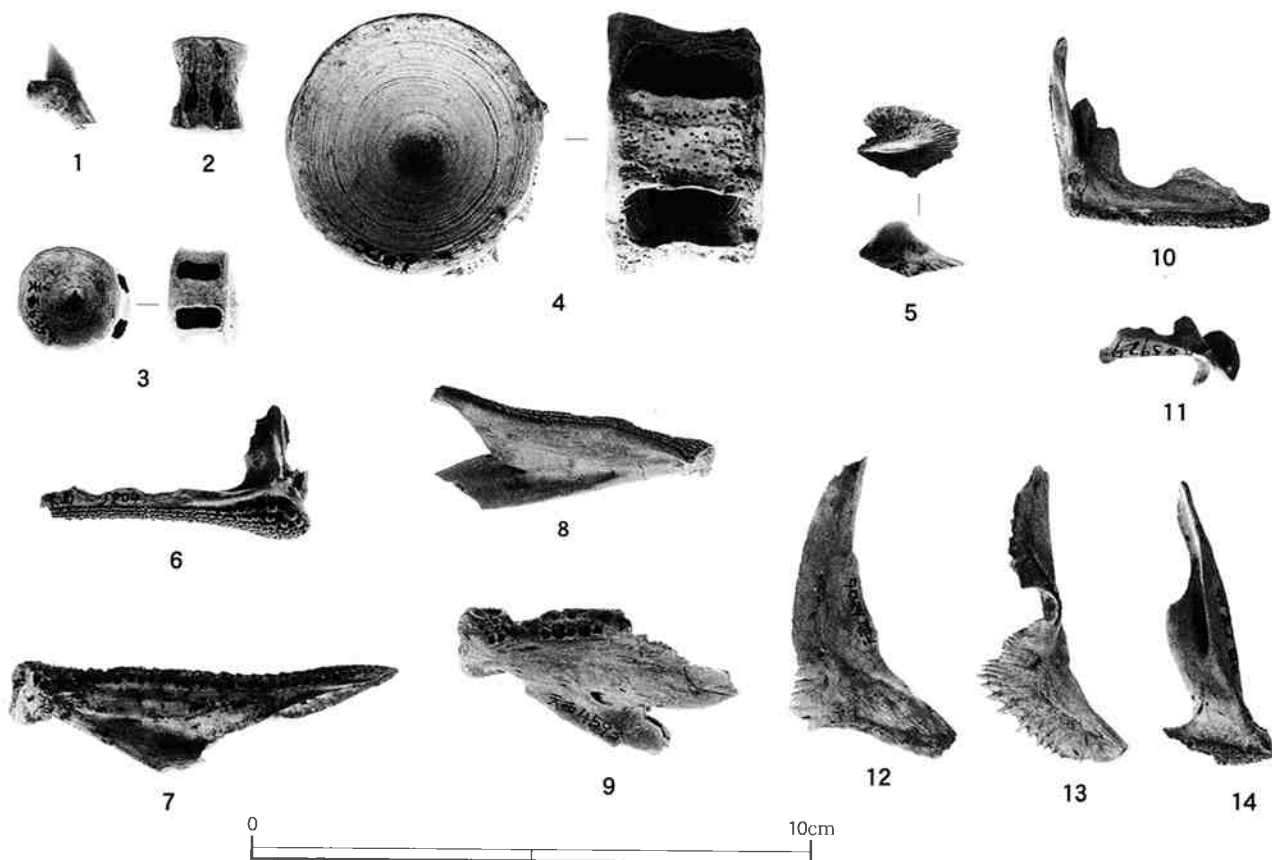
图版61 貝(4)

上

1. イタチザメ 歯
2. メジロザメA 脊椎骨
3. メジロザメB 脊椎骨
4. メジロザメB 脊椎骨
5. エイ 鱗
6. ハタ科Aa 左 前上顎骨
7. ハタ科Aa 右 歯骨
8. ハタ科Ab 左 歯骨
9. ハタ科B 右 歯骨
10. フェダイ科 キマダラヒメダイ 右 前上顎骨
11. フェダイ科 キマダラヒメダイ 右 主上顎骨
12. フェダイ科 キマダラヒメダイ 右 前鰓蓋骨
13. フェダイ科 ヒメフェダイ 右 前鰓蓋骨
14. フェダイ科 イソフェフキ 左 前上顎骨

下

15. フェダイ科A 右 歯骨
16. フェダイ科B 左 歯骨
17. フェダイ科C 左 歯骨
18. フェダイ科D 右 歯骨
19. フェダイ科E 左 前上顎骨
20. フェダイ科F 右 前上顎骨
21. フェダイ科G 右 前上顎骨
22. フェダイ科H 左 前上顎骨
23. フェダイ科I 左 前上顎骨
24. タイ科 クロダイ 右 前上顎骨
25. タイ科 クロダイ 左 歯骨
26. タイ科 クロダイ 左 主上顎骨
27. タイ科 タイワンダイ 左 前上顎骨
28. タイ科 タイワンダイ 右 歯骨
29. フェフキダイ科 ハマフェフキA 右 前上顎骨
30. フェフキダイ科 ハマフェフキA 右 歯骨
31. フェフキダイ科 ハマフェフキA 副楔骨
32. フェフキダイ科 ハマフェフキA 左 主上顎骨
33. フェフキダイ科 ハマフェフキA 左 口蓋
34. フェフキダイ科 ハマフェフキA 右 方骨
35. フェフキダイ科 ハマフェフキA 左 舌顎



図版62 魚類 (1)

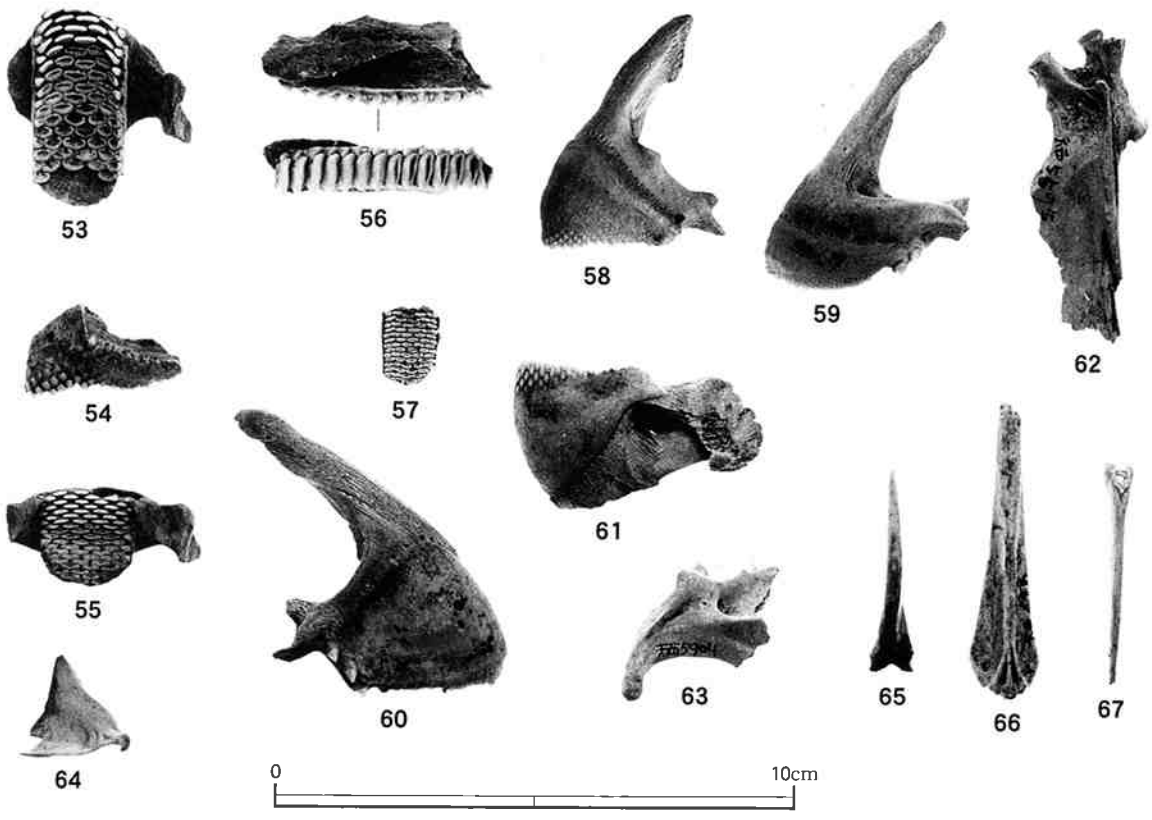
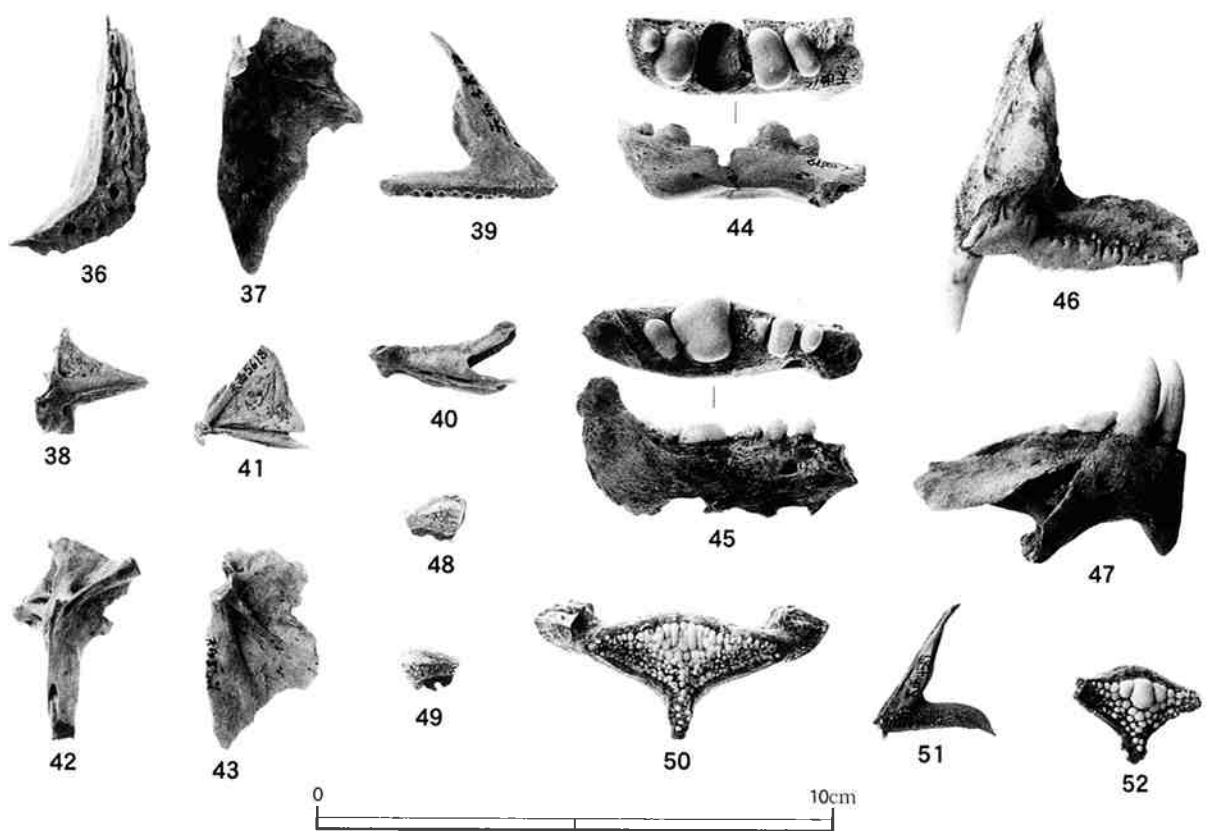
図版63

上

36. フェフキダイ科 ハマフェフキA 左 前鰓蓋骨
37. フェフキダイ科 ハマフェフキA 右 主鰓蓋骨
38. フェフキダイ科 ハマフェフキA 右 角骨
39. フェフキダイ科 ハマフェフキB 左 前上顎骨
40. フェフキダイ科 ハマフェフキB 左 歯骨
41. フェフキダイ科 ハマフェフキB 右 方骨
42. フェフキダイ科 ハマフェフキB 右 舌顎
43. フェフキダイ科 ハマフェフキB 右 主鰓蓋骨
44. フェフキダイ科 ヨコシマクロダイ 右 前上顎骨
45. フェフキダイ科 ヨコシマクロダイ 右 歯骨
46. ベラ科 コブダイ 右 前上顎骨
47. ベラ科 コブダイ 右 歯骨
48. ベラ科 コブダイ 右 上咽頭骨
49. ベラ科 コブダイ 左 上咽頭骨
50. ベラ科 コブダイ 下咽頭骨
51. ベラ科 コブダイ近似種 右 前上顎骨
52. ベラ科 タキベラ 下咽頭骨

下

53. ブダイ科 ナガブダイ 下咽頭骨
54. ブダイ科 イロブダイ 左 前上顎骨
55. ブダイ科 イロブダイ 下咽頭骨
56. ブダイ科 ナンヨウブダイ 左 上咽頭骨
57. ブダイ科 ナンヨウブダイ 下咽頭骨
58. ブダイ科 左 前上顎骨
59. ブダイ科 左 前上顎骨
60. ブダイ科 右 前上顎骨
61. ブダイ科 左 歯骨
62. ブダイ科 左 舌顎
63. ブダイ類 左 口蓋
64. カサゴ類 右 方骨
65. 種不明 背鰭棘(第1 or 2)
66. 種不明 臀鰭血管間棘
67. 種不明 第2臀鰭棘



图版63 鱼类 (2)

図版64

上

キジ類

1. 左 大腿骨 近位端～遠位端

カモ類

2. 右 上腕骨 近位部～遠位部

3. 左 尺骨 近位端～遠位部

4. 右 尺骨 遠位端

ウミウ

5. 左 上腕骨 骨体

6. 右 上腕骨 遠位端

7. 右 大腿骨 遠位端

トリ類

8. 左 尺骨 骨体

9. 左 尺骨 近位端～遠位部

10. 左 脛骨 遠位部

下

ニワトリ

1. 左 鳥口骨 近位端

2. 左 肩甲骨 遠位端

3. 左 上腕骨 完存

4. 右 橈骨 近位端

5. 左 橈骨 遠位端

6. 右 尺骨 完存

7. 右 中手骨 完存

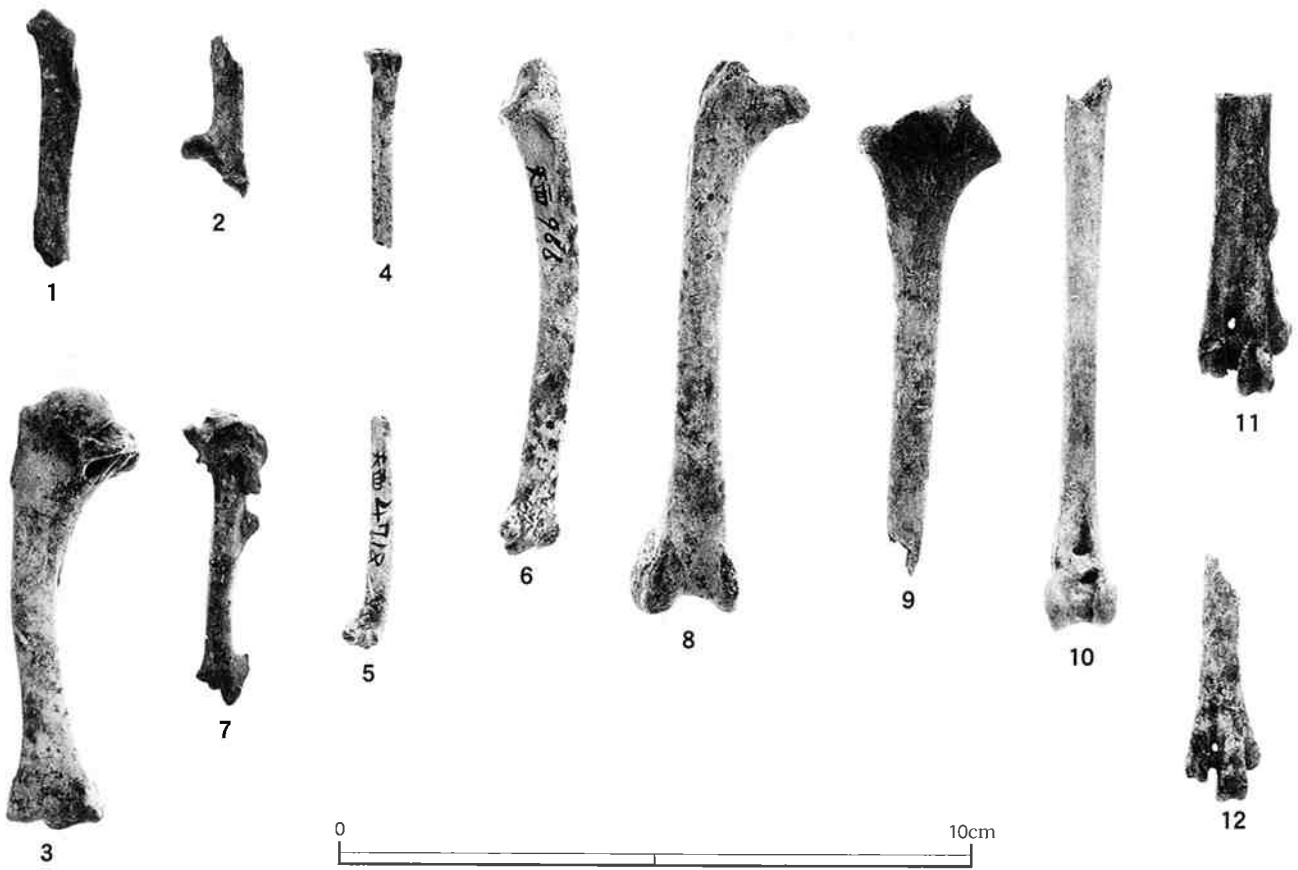
8. 右 大腿骨 完存 キズあり

9. 左 脛骨 近位端

10. 右 脛骨 近位部～遠位端

11. 右 中足骨 ♂ 遠位端

12. 右 中足骨 ♀ 遠位端



図版64 トリ・ニワトリ

図版65

上

イルカ類

1. 腰椎

ジュゴン

ㄨㄨ. 左 前頭骨 頬骨突起

ㄨㄨ. 環椎

ㄨㄨ. 棘突起

ㄨㄨ. 右 上腕骨 近位骨端はずれ～遠位部

下

イヌ

1. 右 下顎骨 P₂

2. 左 尺骨 近位部～遠位部

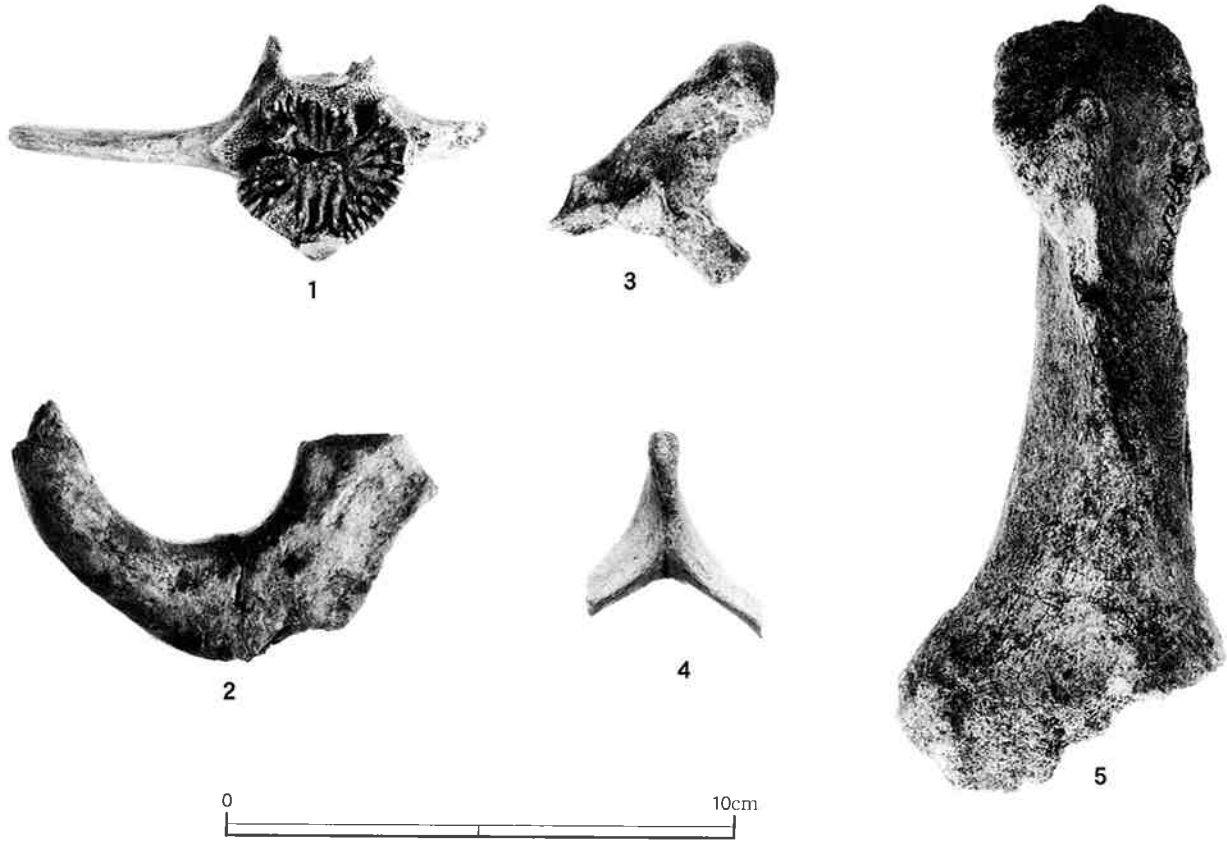
3. 右 脛骨 近位部～遠位部

ネコ

4. 左 寛骨 腸骨部～坐骨

5. 左 大腿骨 完存

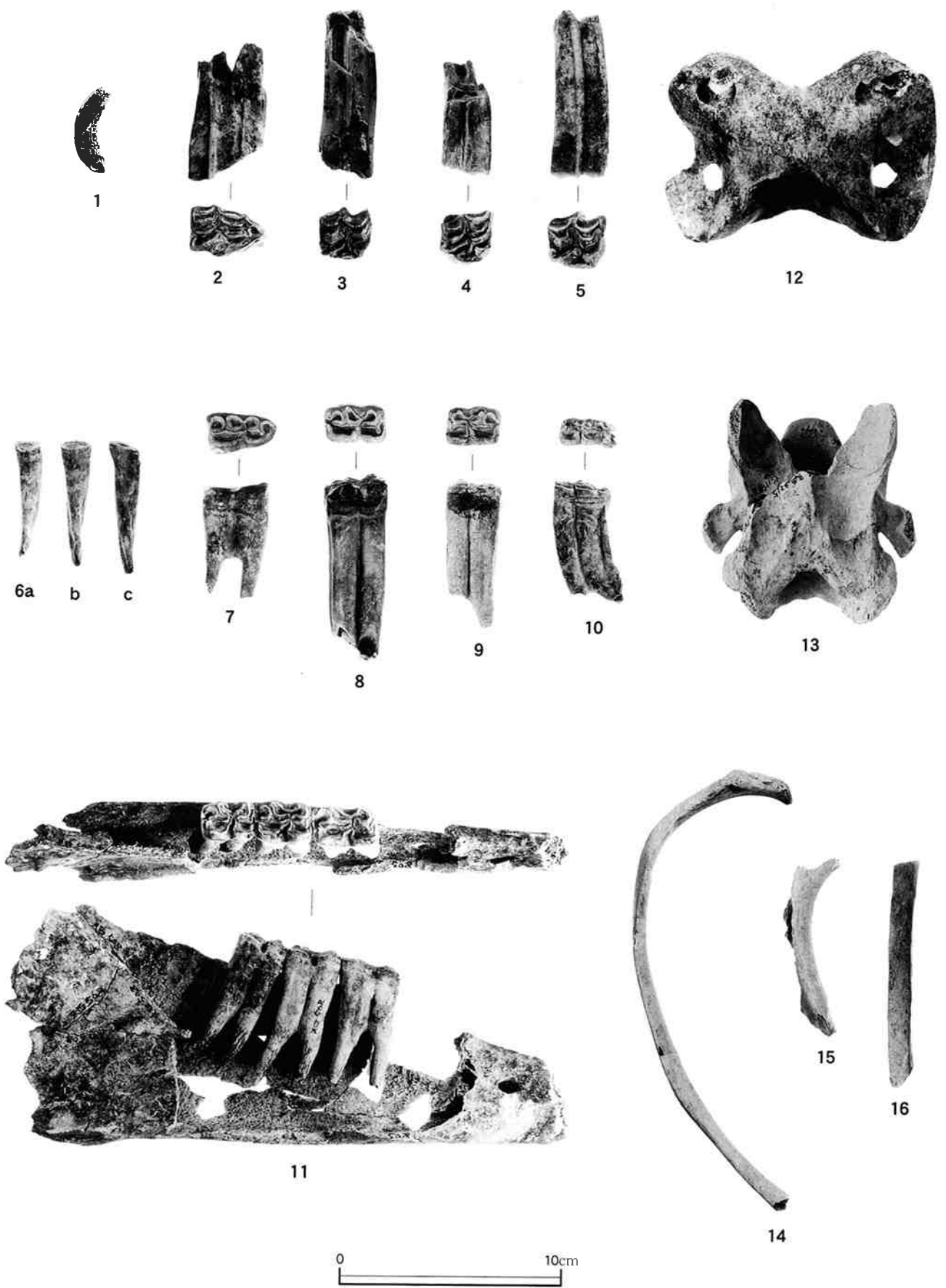
6. 右 踵骨 遠位端



図版65 イルカ類・ジュゴン・イヌ・ネコ

図版66

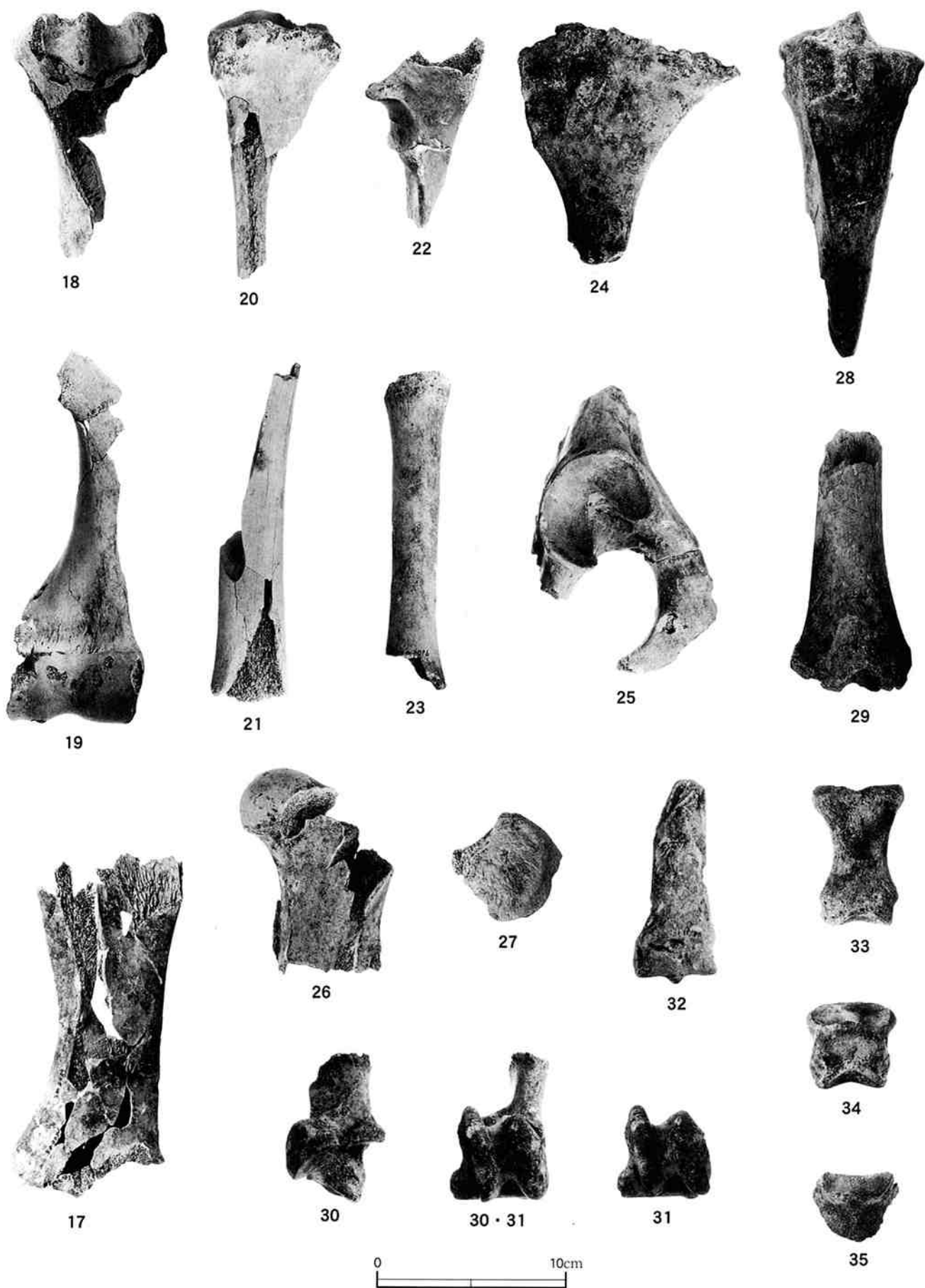
1. 右 上顎骨 犬歯
2. 右 上顎骨 P²
3. 右 上顎骨 P⁴
4. 右 上顎骨 M¹
5. 右 上顎骨 M²
6. 右 下顎骨 a. I₁ b. I₂ c. I₃
7. 右 下顎骨 P₂
8. 右 下顎骨 P₃
9. 左 下顎骨 P₄
10. 左 下顎骨 M₃
11. 右 下顎骨 P_{3,4} M₁
12. 環椎 キズあり
13. 頸椎 キズあり
14. 右 肋骨
15. 右 肋骨
16. 左 肋骨



図版66 ウマ (1)

図版67

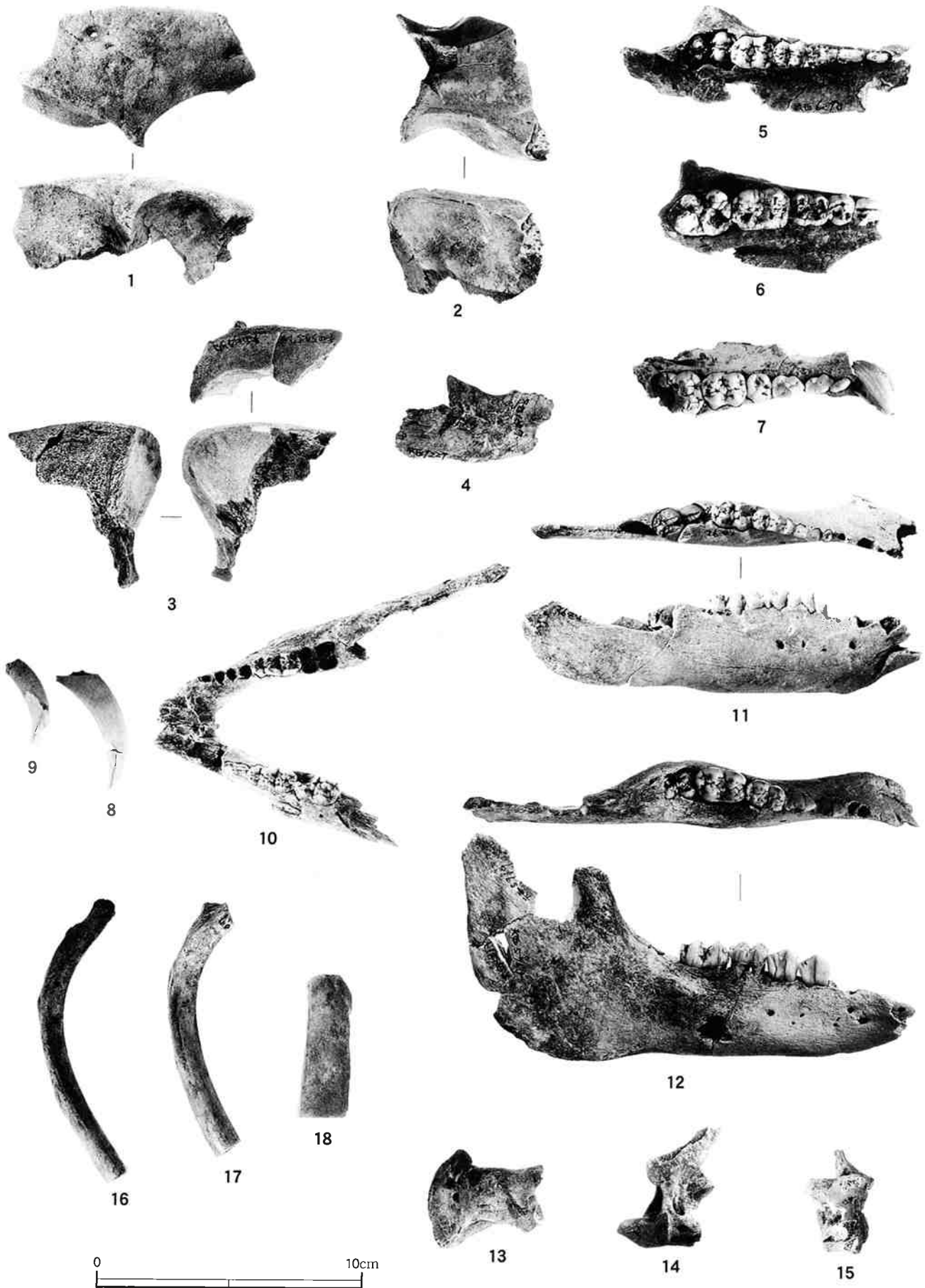
17. 左 肩甲骨 骨体～遠位端
18. 左 上腕骨 近位端
19. 右 上腕骨 骨体～遠位端
20. 左 橈骨 近位端 キズあり
21. 左 橈骨 遠位部 キズあり
22. 左 尺骨 近位部
23. 左 中手骨 近位端～遠位部
24. 左 寛骨 腸骨部
25. 右 寛骨 臼部～恥骨 キズあり
26. 左 大腿骨 近位端 キズあり
27. 右 膝蓋骨
28. 右 脛骨 近位端 キズあり
29. 右 脛骨 遠位端 キズあり
30. 左 踵骨 遠位端 キズあり
- 30・31. 左 踵骨・距骨
31. 左 距骨
32. 右 中足骨 遠位端 キズあり
33. 左 基節骨 完存
34. 左 中節骨 完存
35. 左 末節骨 完存 キズあり



図版67 ウマ (2)

図版68

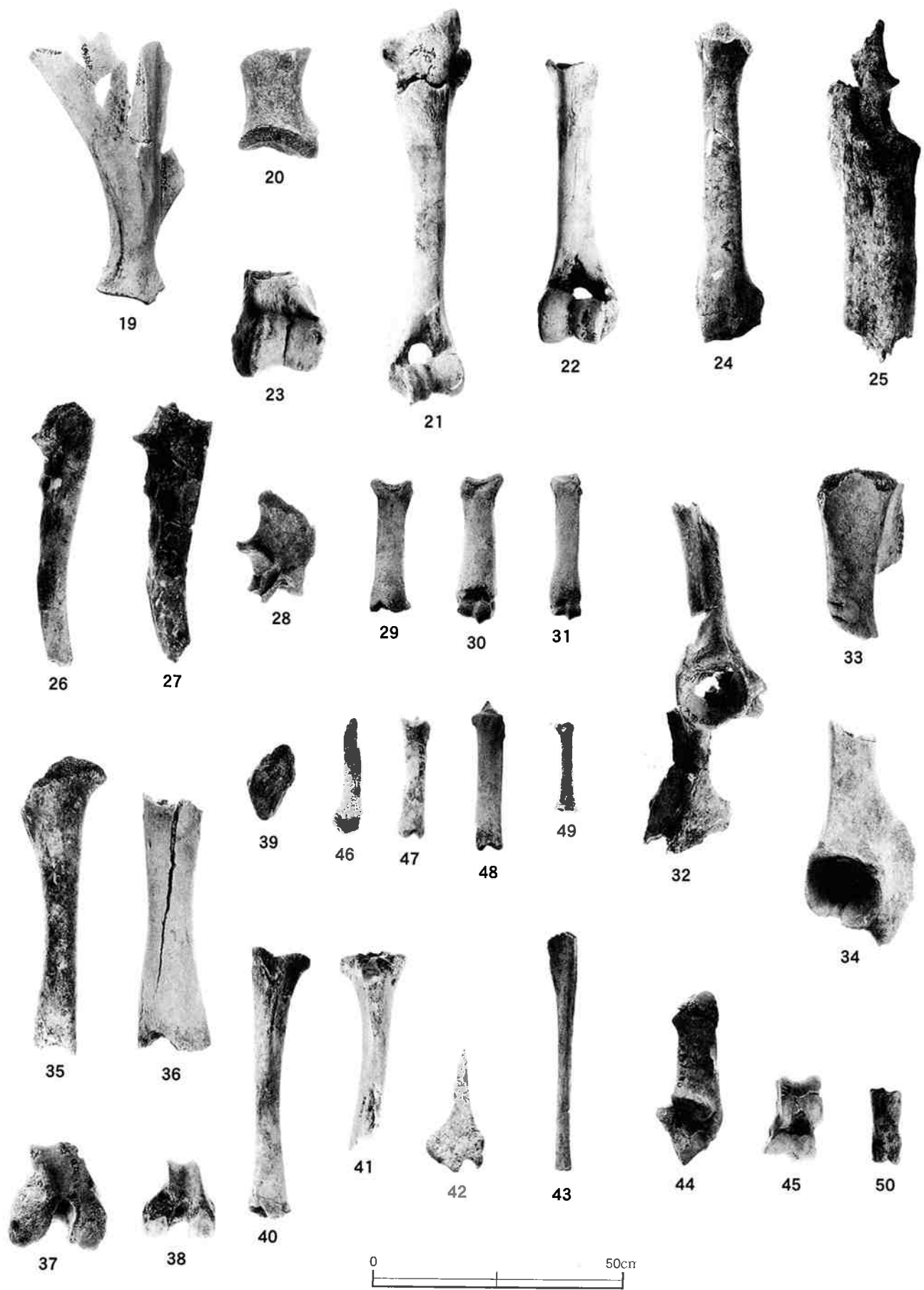
1. 右 前頭骨
2. 左右 頭頂骨 キズあり
3. 右 頭頂骨 キズあり
4. 右 頬骨
5. 右 上顎骨 $dm^{1,2,3,4} M^{1, <2>}$
6. 右 上顎骨 $P^{3,4} M^{1,2,3}$
7. 左 上顎骨 $\updownarrow CP^{1,2,3,4} M^{1, <2>}$
8. 右 下顎骨 \updownarrow 犬歯
9. 右 下顎骨 ♀ 犬歯
10. 下顎骨 $\left[\begin{array}{l} \text{右 } dm_4 \\ \text{左 } dm_{3,4} M_1 \end{array} \right.$
11. 右 下顎骨 $d m_{3,4} M_{1, <2>}$ キズあり
12. 右 下顎骨 ♀ $C P_{2,3} M_{1,2, <3>}$ キズあり
13. 環椎 キズあり
14. 軸椎
15. 頸椎
16. 右 肋骨 キズあり
17. 右 肋骨 キズあり
18. 肋骨 破片



図版68 ブタ (1)

図版69

- | | | | |
|-----|---|------------|--------------------|
| 19. | 右 | 肩甲骨 | 骨体～遠位端 |
| 20. | 右 | 肩甲骨 | 遠位端 キズあり |
| 21. | 右 | 上腕骨 | 完存 キズあり (イノシシの可能性) |
| 22. | 左 | 上腕骨 | 近位部～遠位端 キズあり |
| 23. | 左 | 上腕骨 | 遠位端 キズあり |
| 24. | 左 | 橈骨 | 完存 |
| 25. | 右 | 〔 橈骨
尺骨 | 近位端～遠位部 |
| | | | 近位部～遠位部 |
| 26. | 左 | 尺骨 | 近位部～遠位部 キズあり |
| 27. | 左 | 尺骨 | 近位部～遠位部 |
| 28. | 左 | 尺骨 | 近位骨端はずれ |
| 29. | 右 | 中手骨Ⅲ | 近位端～遠位骨端はずれ |
| 30. | 左 | 中手骨Ⅲ | 完存 |
| 31. | 右 | 中手骨Ⅳ | 完存 |
| 32. | 右 | 寛骨 | 腸骨部～坐骨 |
| 33. | 左 | 寛骨 | 腸骨部 キズあり |
| 34. | 左 | 寛骨 | 腸骨部～臼部 キズあり |
| 35. | 右 | 大腿骨 | 近位骨端はずれ～遠位部 |
| 36. | 右 | 大腿骨 | 近位部～遠位部 |
| 37. | 右 | 大腿骨 | 骨端のみ |
| 38. | 右 | 大腿骨 | 骨端のみ |
| 39. | 右 | 膝蓋骨 | |
| 40. | 左 | 脛骨 | 両端はずれ キズあり |
| 41. | 右 | 脛骨 | 近位端 |
| 42. | 右 | 脛骨 | 遠位端 キズあり |
| 43. | 右 | 腓骨 | 近位部～骨体 |
| 44. | 右 | 踵骨 | 完存 |
| 45. | 左 | 距骨 | 完存 |
| 46. | 左 | 中足骨Ⅱ | 完存 |
| 47. | 左 | 中足骨Ⅲ | 近位端～遠位骨端はずれ |
| 48. | 右 | 中足骨Ⅳ | 近位端～遠位骨端はずれ |
| 49. | 右 | 中足骨Ⅴ | 近位端～遠位骨端はずれ |
| 50. | 右 | 基節骨 | 完存 |



図版69 ブタ (2)

図版70

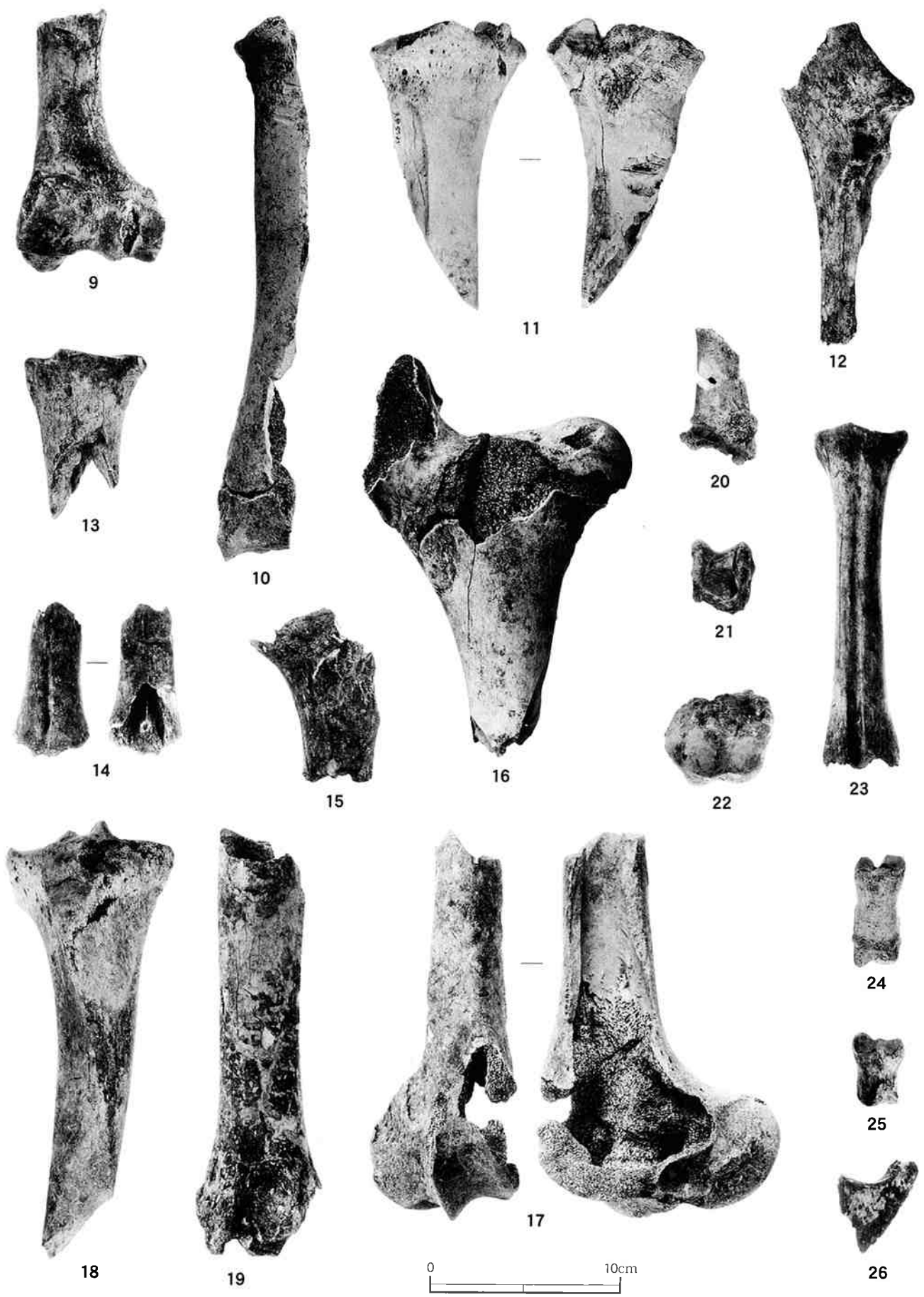
1. 左 角突起
2. 左 上顎骨 切歯骨
3. 左 下顎骨 M_{1,2,3}
4. 頸椎
5. 胸椎
6. 右 肋骨 キズあり
7. 右 肋骨 キズあり
8. 右 肩甲骨 骨体～遠位部



図版70 ウシ (1)

図版71

9. 左 上腕骨 遠位端 キズあり
10. 左 橈骨 近位端～遠位端
11. 左 橈骨 近位端 キズあり
12. 右 尺骨 近位部～骨体
13. 右 中手骨 近位端 キズあり
14. 右 中手骨 遠位部 キズあり
15. 左 寛骨 腸骨部
16. 右 大腿骨 近位端
17. 右 大腿骨 遠位端
18. 右 脛骨 近位端～骨体
19. 左 脛骨 骨体～遠位端 キズあり
20. 右 踵骨 キズあり
21. 左 距骨
22. 右 第4中心足根骨 完存
23. 右 中足骨 近位端～遠位部
24. 左 基節骨 完存 キズあり
25. 右 中節骨 完存
26. 左 末節骨



図版71 ウシ (2)

図版72

シカ

1. 左 角 キズあり
2. 左 大腿骨 近位端
3. 左 大腿骨 遠位端 キズあり
4. 左 脛骨 遠位端 キズあり

ヤギ

5. 右 上顎骨 M¹
6. 右 上顎骨 M²
7. 右 下顎骨 M³
8. 右 下顎骨 M²³
9. 右 上腕骨 遠位部
10. 右 上腕骨 遠位部
11. 右 橈骨 近位端～遠位部
12. 右 橈骨 近位部 キズあり
13. 左 尺骨 近位部
14. 右 寛骨 腸骨部
15. 右 寛骨 坐骨
16. 左 脛骨 骨体～遠位端

不明

17. 下顎骨 キズあり



図版72 シカ・ヤギ・不明

図版73

イヌ

1. 右 脛骨 遠位端

ヤギ

2. 左 寛骨 腸骨部

3. 左 脛骨 近位部

ウシ

4. 右 肋骨

5. 左 橈骨 遠位端

6. 左 橈骨 近位端

尺骨 近位部～骨体

7. 右 中手骨 遠位端

8. 左 大腿骨 遠位部

9. 右 中足骨 近位端

10. 右 橈骨 骨体

ウマ

11. 右 中手骨 近位部

12. 左 寛骨 腸骨部～臼部

13. 左 大腿骨 遠位端

14. 左 脛骨 近位部

15. 右 中足骨 近位端



图版73 切痕

第93表 ナンバーリング：出土地対照一覧

番号	出土地
466	I-17c-112
467	I-16NO.15
468	K-L17黒褐色土
469	I-18NO.23
470	L-17c-135
471	J-15c-119A
472	L17石列畦①+黒褐色土
473	レ17B(18)
474	I-18NO.2
475	J-17NO.5
476	K-L17NO.11畦黒褐色土
477	I-17NO.1第1層 礫溜直上
478	I-16溝状遺構
479	L-15NO.1
480	K-15c-125
481	J-17c-118
482	H-22-23方形遺構礫溜直上
483	G-20c-127
484	K-21c-11c数②茶褐色0-10
485	H-22-23方形遺構礫溜暗褐色
486	J-20c-11c数暗褐色砂利混
487	K-22c-11c①レ17西0-10
489	H-20c-116-a
490	G-22基壇内東西トレンチ
491	O-N-25石列内砂利敷下
492	H-23礫瓦溜暗褐色土
493	I-22方形砂利混褐色土層10
494	I-22方形表土褐色土10
495	G-23石列上 砂利
496	H-20c-116-b
498	H-22造成層10
499	L-21c-11c敷直下
500	J-20c-11c敷茶褐色
501	H-26c-112
502	M-21c-11c赤褐色土層
503	L-M-21礫溜下10
504	J-K-21c-11c敷 3回目清掃
505	H-22-23方形遺構礫溜暗褐色
506	H-22基壇中部
507	H-23造成層面礫溜直上30-40
509	M-21c-11c暗黒褐色土
510	H-22-23方形遺構礫溜暗褐色
511	E-24c-115
512	M-21c-11c黒褐色土
513	H-22-23方形遺構礫溜暗褐色
514	G-21c-11c下基壇レ17混
515	K-21c-11c数暗褐色砂利混
516	I-25溝状遺構
517	L-20c-11c敷下暗褐色土
518	J-26溝状遺構10
519	M-19石列北暗褐色土
520	J-27溝状遺構畦②
521	H-22畦東西包含層30
522	L-20c-11c敷下暗褐色土
523	I-25暗褐色土層
524	H-21c-11c敷下の下層混暗褐色土10
525	I-26溝状遺構10
526	I-21c-11c敷2の下15
527	L-21北東石列・石溜
528	J-21南北畦暗褐色土層
530	I-26溝状遺構10
531	M-21c-11c黒褐色土表面から46
532	M-21c-11c黒褐色土表面から46
533	I-27溝状遺構
534	J-27溝状遺構70
535	N-21礫溜
536	J-19畦暗褐色土層10
537	M-23黒褐色土下部
538	H-21造成層10
539	K-24c-117
540	H-21c-11c敷下炭混暗褐色土
541	L-19c-111
542	G-20c-11c敷3礫炭混褐色土
543	I-26溝状遺構30
544	L-K-19石列①②③暗褐色小礫混
545	G-21基壇石垣下コナ敷側黒褐色土
546	I-27溝状遺構20
548	J-28c-115c-11c層下部
549	M-24④
550	J-18NO.17
551	G-23c-111
552	I-23溝状遺構礫土40
554	K-20c-11c敷2下砂利混茶褐色土15-20
555	K-22c-111
556	L-20トレンチ黒褐色土5-10
557	I-23溝状遺構礫混土40
558	M-23暗褐色土 下部
559	G-23造成層上面一礫溜直上
560	J-26土層2下
561	L-20石列暗褐色土層
562	H-22-23方形遺構礫溜上暗褐色混
563	L-23石積
564	L-21トレンチ①瓦溜20
565	H-23方形遺構礫溜上暗褐色土
566	K-21c-11c数暗褐色砂利混①
568	J-20c-11c敷2下5
569	I-22造成層下 礫混黒褐色土30
571	G-23石列下 砂利
572	G-20ピット17
573	L-20トレンチ黒褐色土10-15
574	G-20c-11c敷下部畦東1枚目
576	H-22-23方形遺構礫溜上暗褐色混
577	L-27溝状遺構畦NO.7
578	H-26溝状遺構20
580	M-21ピット1
581	J-23石列南側暗褐色土上面
582	K-L16東西畦茶褐色土50-60
583	J-19造成層
584	I-25暗褐色土層
586	G-21黒褐色土下部
587	L-21トレンチ②瓦溜
588	H-28ピット15 東側
589	J-25ピット11
590	J-13ピット5-h
591	J-13ピット5-a
592	K-18溝状遺構畦NO.1とNO.8の間

番号	出土地
593	L-19c-116
594	J-19黒褐色土下部
595	L-19黒褐色土赤粒混10-20
596	L-16茶褐色混雑土10-20
597	L-19黒褐色 暗茶褐色上面
598	L-25c-118
599	J-19黒褐色土上部
601	K-19c-117 環状遺構の側
602	L-25c-115
603	L-16茶褐色混雑土0-10
604	L-19c-113
605	M-20c-11c敷直上造成土
606	H-23礫瓦溜暗褐色土
607	M-21c-11c黒褐色土
608	L-21c-110-a上部
609	H-22-23方形遺構礫溜暗褐色土
610	H-22方形遺構礫溜土混赤土礫溜上
611	M-21c-11c黒褐色土
612	L-16石列西褐色土混雑
614	H-22-23方形遺構畦暗赤土
615	I-23礫瓦溜暗赤褐色
616	K-20c-11c敷茶褐色
617	K-20畦赤土混雑暗褐色土
618	L-19c-116
619	J-19黒褐色土上部
620	I-23南北畦暗褐色土
621	M-N-24石列
622	J-20暗褐色土上面
624	M-21c-11c黒褐色土
627	K-19c-111
628	L-19暗褐色土上面
629	J-25c-113
630	J-16畦暗褐色混
631	L-16-15茶褐色混雑
632	L-16造成層
633	K-19石列東側①暗茶褐色
634	H-22-23溝渠中
635	M-20c-11c赤褐色80
636	L-20c-117
637	G-21c-11c地山直上 黒褐色土 下
638	K-22c-111
639	L-20c-118
640	I-21c-110右より上
641	L-22小礫混
643	J-20c-11c敷茶褐色赤土混
644	L-21内石列上面
645	J-21-20c-11c敷茶褐色②
647	H-22-23方形遺構黒褐色土
648	I-21c-112環乱
649	K-L-20石列上面
650	K-20畦赤土混暗褐色土
651	J-22-21c-11c敷赤土赤褐色
652	N-21集石
653	M-23黒褐色土下部
654	L-20内石列0-10
656	J-22造成層20
657	K-20畦暗褐色混
658	H-26溝状遺構10
659	H-22-23方形遺構礫溜黒褐色土
660	L-27地山直上
661	K-22造成層上面瓦溜トレンチ
662	I-27溝状遺構
663	I-28c-115
666	G-22-21基壇石積下
667	J-21c-11c敷1南側造成層5
668	J-21c-11c敷2下10
669	K-20畦赤土混暗褐色土
670	J-26c-110
671	J-21造成土10
672	I-22畦 南北包含層25
673	H-20c-11c敷1間レ17
675	M-21集石②
676	L-21c-11c敷2の下5
677	L-21c-11c敷2より下20
678	L-20石列3間瓦溜下砂利混褐色土
679	I-27地山直上
680	H-20c-11c敷24-b赤土混褐色土
683	L-20東西トレンチコナ敷
685	L-21瓦礫溜
686	L-M-21礫溜下10
687	K-19内隣 瓦溜礫溜
689	H-22方形遺構混赤土上礫溜
690	M-23暗褐色混雑土
691	J-16瓦溜
692	J-17瓦溜茶褐色混雑土
694	H-17地山直上
695	H-13 14黒褐色土層
696	K-14c-111上面
697	J-17茶褐色混雑土20
698	G-H-13ピット暗褐色土混褐色土10-20
699	J-19黒褐色土層
700	I-16茶褐色混雑土50-60
701	L-17溝状石列畦NO.2西B
702	J-14黒褐色土上面
703	G-19地山直上
704	G-18黒褐色土上面
705	L-14黒褐色土層
707	J-19畦小礫溜黒褐色土
708	L-15黒褐色土層
709	L-18茶褐色混雑土10-15
710	J-17赤褐色混雑土
711	K-15黒褐色土上面
712	K-16茶褐色混雑土60-70
713	L-17茶褐色混雑土10-20
714	J-16畦①茶褐色小礫・砂利混
715	L-17溝状石列A北畦NO.1西
716	K-14c-111上面
717	L-17溝状石列畦NO.2西B
718	K-17石積環乱
719	I-16茶褐色混雑土表土60-65
720	J-19c-111
721	K-18c-111
722	J-19黒褐色土層
723	J-K-13黒褐色土上面
724	L-16-15造成層直上茶褐色混雑土
725	J-19黒褐色土層

番号	出土地
726	F-18黒褐色土層
728	K-L-16東西畦茶褐色混雑土10-20
729	K-L-16畦茶褐色混雑土0-10
730	L-16茶褐色混雑土50-60
731	J-18石列 南側黒褐色土
732	K-L-16東西畦茶褐色混雑土10-20
733	K-L-17-18石列遺構内茶褐色混
734	J-16畦 壁面
735	L-J-17茶褐色混雑土0-10
738	J-16畦茶褐色小礫 砂利混
739	J-18茶褐色混雑土0-10
743	I-16茶褐色混雑土表土50-60
744	I-16茶褐色混雑土表土50-60
746	K-18環状遺構畦NO.5-NO.6間溝
747	G-18貝・灰・墨集中黒褐色土
748	L-16茶褐色混雑土表土60-65
749	K-16畦 壁面
752	J-18茶褐色混雑土0-10
753	H-13-14黒褐色土層
755	L-15-16赤土混暗褐色土上面
756	L-18黒褐色土層
757	K-18茶褐色混雑土0-10
758	K-15黒褐色土上面
759	J-14黒褐色土上面
760	L-16瓦溜
761	K-21c-11c畦壁清掃
762	L-21瓦礫溜
763	L-21瓦礫溜
766	K-L-19黒褐色土
767	L-15黒褐色土層
770	L-18石列
771	J-18造成層上面清掃
773	H-13-14黒褐色土層
774	L-16炭溜NO.1
775	L-J-17茶褐色土混雑
776	K-16石垣東茶褐色混雑土
777	I-18茶褐色土
778	L-20c-11B2
779	G-14c-116
780	L-20c-11D
781	I-13c-111
783	J-17茶褐色混雑土10-20
785	G-14c-111
786	L-16造成層上面
787	G-14c-113
788	J-12c-117
789	G-20基壇上面
790	L-20東西トレンチコナ敷下
791	M-20瓦溜
792	K-20c-1120
793	H-22畦暗褐色混
794	L-19暗褐色土混
795	L-M-19暗褐色小礫混10-20
796	L-19石積み内暗褐色混
797	I-22礫溜暗茶褐色混(黒褐色)
799	I-22溝渠中 西側
800	L-22東西畦暗褐色混
802	H-22礫溜西茶褐色土混赤土混 黒褐色土上
803	K-L-18石列内
804	K-19暗褐色小礫混0-20
805	L-17暗褐色混雑土0-10
806	H-22-21畦礫溜より混雑赤
807	K-17茶褐色混雑土
808	K-17石垣内暗茶褐色混雑土
809	K-18溝状石列A畦NO.1東
810	K-17茶褐色混雑土10-15
811	L-17茶褐色混雑土
812	L-17茶褐色混雑土10-20
813	H-22方形遺構混赤土地山直上
815	L-22方形遺構内北畦②③壁レ17
816	L-22方形遺構礫溜壁下部
817	H-22東側傾斜面礫溜
818	L-20石列2と3の間瓦溜下
821	J-27溝状遺構10
822	M-23黒色混雑土層0-10
823	L-21瓦礫溜
824	M-21瓦溜
825	M-20瓦溜
826	L-21瓦礫溜
827	L-M-21礫溜
828	M-21瓦溜
829	N-21礫溜
830	J-17赤土上面清掃
831	K-18茶褐色土層
832	H-18黒褐色土層
834	G-18貝NO.1下黒褐色土
835	K-18茶褐色混
836	L-20c-11A
837	J-17茶褐色混雑土0-10
838	L-18地山直上
839	K-16茶褐色混雑土50-70
840	J-17茶褐色混雑土10-20
841	K-17茶褐色混雑土0-10
842	K-17トレンチ茶褐色混雑土
846	G-18貝NO.1下黒褐色土
847	H-17地山直上
848	L-J-17混雑茶褐色土0-10
951	M-21瓦溜
952	L-21瓦礫溜
953	G-20基壇上面
955	G-21c-110
956	I-21c-112 環乱内側
957	K-20c-114
858	I-22西側
859	H-21畦礫溜より砂利混
860	L-M-19小礫混暗褐色土10-20
861	L-21c-117-a
862	H-21畦礫溜より砂利混畦
863	I-22畦礫溜暗茶褐色混赤土混
864	K-19内隣 瓦溜礫溜
866	K-19暗褐色灰混
867	H-20c-114
868	H-22礫溜西側混赤土黒褐色土上
869	K-20c-114
870	H-21c-117-b
871	K-15暗褐色土

番号	出土地
872	J-20c-1122
873	E-21c-112-e
874	G-21c-114
875	E-21c-115
876	H-22礫溜東
877	L-19内石列NO.1
878	H-21c-111
879	H-21c-115a
880	E-21c-119
881	H-21c-113
883	J-16茶褐色混雑土50-60
884	J-19畦小礫溜黒褐色土
885	K-16茶褐色混雑土60-70
886	K-19環状遺構畦NO.5-NO.8の間
887	J-16茶褐色混雑土50-60
888	J-19c-116
889	K-16茶褐色混雑土60-70
890	K-L-17-18石列遺構内茶褐色混
891	K-L-17-18石列遺構内茶褐色混
892	J-18黒褐色土層
893	J-18石列 南側黒褐色土
894	J-14黒褐色土上面
895	J-19c-111
896	K-19c-113
897	H-17地山直上
898	J-19内小礫溜黒褐色土上面
900	J-19c-117
901	J-18石列南側造成層
902	K-15黒褐色土上面
903	L-19暗褐色土赤粒混10-20
904	H-18黒褐色土上面
905	L-19黒褐色土赤粒混10-20
906	H-17黒褐色土層
907	G-18貝NO.1下黒褐色土
908	K-16石垣東茶褐色混雑土
909	K-17石垣北側
910	J-16畦 壁面
913	L-18暗褐色土 黒褐色
914	K-L-19黒褐色土10-20
915	L-18西壁より茶褐色混
916	J-16畦①茶褐色小礫砂利混
918	E-27西側暗褐色混雑土層上部
919	M-20東西石垣前面暗褐色土
925	L-21瓦礫溜
926	L-16茶褐色混雑土0-10
929	J-17トレンチ赤土上面
930	J-16茶褐色混雑土50-60
931	K-17石垣内暗茶褐色混雑土
932	K-17トレンチ赤土上面
933	L-18黒褐色土層
935	J-16茶褐色混雑土50-60
936	J-15NO.13
937	L-16NO.19礫溜
938	J-16NO.10
939	K-15c-111
940	J-18c-1137
941	J-18c-1118
942	L-15-16c-11c敷内
943	I-18NO.1
944	I-16NO.32
945	I-15c-112
946	K-15c-111
947	J-16NO.23
948	I-16NO.16
949	I-15c-118C
950	J-15NO.14
951	J-16NO.13A
952	J-16NO.16
953	K-16NO.19
954	L-16NO.9
955	L-16NO.28
956	K-15c-115
957	K-16土層②
958	J-18NO.35
959	L-16c-115
960	J-15NO.17
961	L-16溝状遺構
962	I-17NO.3
963	K-15NO.6
964	J-18NO.18
965	L-17c-111
966	I-16NO.4(c-1125)
967	K-15c-1

第93表 ナンバーリング：出土地対照一覧

番号	出土地
1011	J-19 ^c ㉔20
1012	J-19 ^c ㉔27
1013	J-18石列・南側黒褐色土礫集中
1014	K-15黒褐色土上面
1015	J-19 ^c ㉔9
1016	L-16茶褐色混雑土表土50~60
1017	L-16茶褐色混雑土表土50~60
1018	K-19環状遺構畦NO.8と6の間
1020	J-19 ^c ㉔6
1021	J-19黒褐色土層
1022	J-18石列・南側黒褐色土
1024	M-20瓦溜
1030	K-15 ^c ㉔16
1031	L-16NO.6
1032	L-16NO.4(㉔㉔25)
1033	J-17 ^c ㉔2
1034	K-17NO.11炭溜
1035	J-15 ^c ㉔14
1036	J-18NO.35
1037	K-15 ^c ㉔3敷下黒褐色土
1038	K-16 ^c ㉔15
1039	J-16東西畦茶褐色小礫・砂利混
1040	L-15 ^c ㉔28
1041	L-16溝状遺構
1042	J-17 ^c ㉔4
1043	J-16NO.3B
1044	J-18NO.2
1045	L-15 ^c ㉔3敷
1046	K-17NO.11畦黒褐色土
1047	L-16 ^c ㉔9
1048	J-16NO.13根詰め石内
1049	L-17 ^c ㉔2
1050	K-15NO.15
1051	L-10 ^c ㉔24
1052	K-17NO.11炭溜
1053	G-16畦・壁面
1054	L-19黒褐色土層
1055	L-18黒褐色土層
1056	H-18地山直上 黒褐色土
1057	H-18黒褐色土層
1058	L-17 ^c ㉔1
1059	L-17 ^c ㉔27
1060	H-18黒褐色土層
1061	L-17 ^c ㉔1a ス 焼土
1062	J-17茶褐色混雑土10~20
1063	J-17茶褐色混雑土10~20
1064	K-18茶褐色混雑土0~10
1065	G-18地山直上 黒褐色土
1066	L-17茶褐色混雑土0~10
1067	J-17NO.1第1層
1069	G-18貝・骨・墨集中黒褐色土
1070	F-17黒褐色土層
1071	G-17黒褐色土層
1072	L-15 ^c ㉔22
1073	L-16 ^c ㉔11壁面
1074	L-15 ^c ㉔3敷下黒褐色土
1075	J-17 ^c ㉔12
1076	K-17石垣複乱
1077	G-16畦・壁面
1078	J-19内黒褐色土小礫混
1079	L-17溝状石列A畦NO.2西
1082	N-21炭溜
1083	L-21瓦礫溜
1084	M-20 ^c ㉔3敷直上造成土
1085	J-22地山面清掃
1086	基壇東西トレンチ20~40
1087	H-17-27・28地山面清掃
1089	L-27溝状遺構30
1090	L-20東西トレンチコナ敷
1091	N-21炭溜
1094	L-M-21炭溜下砂利混雑褐色土10
1095	M-21炭溜
1097	M-21瓦溜
1098	H-22貝NO.①炭溜まり
1099	K-18茶褐色混雑土0~10
1100	L-M-19小礫混雑赤褐色土10~20
1101	L-19石列北上暗褐色土
1102	L-22方形遺構②1層
1103	L-21 ^c ㉔9 石溜掘下
1104	L-21 ^c ㉔12
1105	L-22方形遺構28層 礫混雑褐色土 地山直上
1106	K-17石垣畦南
1107	H-21・22炭溜畦混雑赤褐色土
1108	H-21畦混雑赤褐色土砂利混
1109	H-22南壁赤土混雑褐色土下礫溜
1110	H-22方形遺構混雑赤褐色土地山直上
1111	L-22畦混雑茶褐色混雑土(黒褐色土下)
1112	L-22炭溜暗茶褐色混雑土(黒褐色土下)
1113	L-21 ^c ㉔4
1114	J-16-17 畦清掃
1115	L-19暗赤褐色小礫溜10~20
1116	L-21 ^c ㉔9 石溜掘下
1117	L-18暗赤褐色小礫混
1118	L-21 ^c ㉔12-b
1119	L-22炭溜黒褐色炭混
1120	L-19暗赤褐色小礫溜0~10
1121	K-19石列西暗赤褐色小礫混
1122	L-21 ^c ㉔8
1123	L-21 ^c ㉔5-b
1124	L-22炭溜黒褐色炭混
1125	H-22炭溜最下部
1126	H-21 ^c ㉔11a
1127	L-22方形遺構内北畦⑩・⑪層ハ
1128	H-22方形遺構混雑褐色土
1129	L-22炭溜暗茶褐色混雑赤土混
1130	L-24溝状遺構地山直上
1137	J-16瓦溜
1138	J-16瓦溜
1140	H-18地山直上
1141	K-16土壌③
1143	J-16NO.3b
1144	K-16 ^c ㉔7d
1145	L-16NO.32
1146	L-15NO.3
1147	L-15 ^c ㉔25
1148	L-16NO.6

番号	出土地
1149	L-16 ^c ㉔14
1150	J-15NO.19
1151	L-19畦混雑褐色土㉔㉔
1152	J-15NO.1
1153	L-18 ^c ㉔F1
1154	L-16NO.24
1155	K-15NO.1
1156	K-15 ^c ㉔24
1157	M-17 ^c ㉔1
1158	H-14 ^c ㉔5a
1159	L-17 ^c ㉔5
1160	J-17NO.9
1161	J-16NO.21
1162	K-17茶褐色混雑土0~10
1163	G-18貝・骨・墨集中黒褐色土
1164	G-18黒褐色土層
1165	L-16NO.26h
1166	K-15NO.15
1167	J-16NO.3A
1168	K-17茶褐色砂利層
1169	K-15 ^c ㉔22
1170	K-16土壌④
1171	J-17造成層
1173	L-17NO.1第1層
1174	L-15 ^c ㉔3敷
1175	J-15NO.17
1176	J-15NO.19
1177	K-16土壌②
1179	K-15NO.1
1180	L-17NO.1第2層
1181	L-16溝状遺構
1182	G-16畦・壁面
1183	L-18NO.1
1184	L-17NO.1第2層
1185	H-14 ^c ㉔5b
1186	L-15NO.3
1187	K-16 ^c ㉔18
1188	J-15NO.1
1189	L-16NO.32
1190	K-16土壌②
1191	K-L-17-18- ^c 敷北黒褐色土
1192	K-16土壌④
1193	L-17NO.1第2層
1194	K-15 ^c ㉔1
1195	J-15黒褐色土
1196	L-17 ^c ㉔9
1197	K-16 ^c ㉔21
1198	K-L-17-18- ^c 敷南黒褐色土
1199	K-15NO.6
1200	J-15NO.8B
1201	K-15NO.13
1202	L-18NO.1
1203	K-16土壌①
1204	K-16NO.19炭溜
1205	L-16造成層黒土礫
1206	K-15 ^c ㉔1
1207	K-L-17-18- ^c 敷
1208	J-15 ^c ㉔4
1209	J-17NO.11
1210	L-15 ^c ㉔3敷下黒褐色土
1211	L-17 ^c ㉔35
1212	L-17 ^c ㉔1
1213	L-16 ^c ㉔17
1214	L-17茶褐色砂利混
1215	K-16 ^c ㉔18 ①土壌
1216	L-16溝状遺構
1217	L-16溝状遺構
1218	L-17 ^c ㉔1a黒褐色土
1219	L-17 ^c ㉔12
1220	K-16-17土壌 B1
1221	J-17畦南(北畦)黒褐色土
1222	L-17 ^c ㉔2
1223	K-16 ^c ㉔23 石溜
1224	L-15 ^c ㉔3敷下黒褐色土
1225	G-18貝NO.1下黒褐色土
1226	J-15NO.17
1227	H-14 ^c ㉔15b
1228	K-15NO.6
1229	J-16NO.16
1230	L-17茶褐色砂利混
1231	J-15NO.11
1232	L-16NO.7
1233	K-15土壌あ
1234	L-15 ^c ㉔15
1235	J-15NO.17
1236	L-16NO.3(㉔㉔26)
1237	J-16 ^c ㉔21
1238	K-16土壌③
1239	K-16土壌B0~10
1240	L-14 ^c ㉔16
1241	L-17 ^c ㉔3
1242	L-15 ^c ㉔7
1243	K-L-15-16土壌あ中㉔㉔1
1244	L-15 ^c ㉔3敷
1245	K-16NO.19炭溜
1246	J-18畦 ^c 赤褐色混雑
1247	L-16造成層直上黒褐色土
1248	K-16土壌A北石詰㉔㉔
1249	L-17 ^c ㉔27
1250	L-15 ^c ㉔15
1251	J-15NO.8B
1252	L-16NO.5
1253	J-17NO.1
1254	J-17黒褐色土
1255	K-16 ^c ㉔28
1256	J-17NO.1
1257	L-15NO.1
1258	L-15 ^c ㉔3敷下黒褐色土
1259	L-17NO.1第1層
1260	L-15 ^c ㉔3敷下黒褐色土
1261	J-16NO.16
1262	L-17 ^c ㉔2
1263	L-17NO.1第2層
1264	J-15NO.8C
1265	L-17NO.1第1層 炭溜直上
1266	L-16NO.23B

番号	出土地
1267	L-16溝状遺構
1268	K-15NO.15
1269	L-15 ^c ㉔24
1270	K-16NO.19炭溜
1271	H-18黒褐色土層
1272	J-15 ^c ㉔3
1274	K-L-15-16土壌あ③黒褐色
1275	L-17-K-17黒褐色土上面礫敷
1276	K-16土壌①
1277	L-16 ^c ㉔27
1278	J-17NO.4
1279	G-17黒褐色土層
1280	K-17土壌A
1281	J-18NO.35
1282	F-18黒褐色土層
1283	J-16NO.3A
1284	G-17黒褐色土層
1285	K-L-17-18- ^c 敷北黒褐色土
1286	K-16 ^c ㉔18
1291	J-16瓦溜
1292	J-16瓦溜
1293	L-16溝状遺構
1294	J-17 ^c ㉔10
1295	L-17NO.1第2層
1296	L-17NO.1
1297	K-16土壌④
1298	G-18貝・骨・墨集中黒褐色土
1299	L-17黒褐色土層
1300	J-15NO.19
1301	J-18NO.35B
1302	J-17NO.5
1303	K-17NO.11畦黒褐色土
1304	J-16 ^c ㉔3
1305	J-17NO.5
1307	L-18 ^c ㉔4
1308	J-15地山面清掃
1309	J-15線敷南北畦C地山直上
1310	L-18 ^c ㉔5A
1311	J-17 ^c ㉔7
1312	J-18NO.35
1313	L-16NO.14
1314	K-17NO.11炭溜
1315	G-18黒褐色土層
1316	K-15 ^c ㉔28
1317	L-15-16土壌あコナ敷黒褐色土
1318	K-L-17-18- ^c 敷南黒褐色土
1319	K-17NO.11炭溜
1320	J-18NO.35
1321	K-16 ^c ㉔16
1322	J-15NO.19B炭溜
1323	J-K-15線敷東西畦A
1324	J-K-15線敷東西畦A
1325	J-18 ^c ㉔37
1326	K-17NO.11畦黒褐色土
1327	J-16東西畦②暗茶褐色土
1328	G-17黒褐色土層
1329	J-17 ^c ㉔5
1330	L-17 ^c ㉔35
1331	K-L-15-16土壌あ畦4~東⑥2枚目コナ
1332	L-17 ^c ㉔11
1333	L-17 ^c ㉔35
1334	J-17 ^c ㉔4
1335	L-17 ^c ㉔8
1336	K-L-15土壌あ⑤黒褐色
1337	L-15 ^c ㉔3敷下黒褐色土
1338	L-17NO.1第1層
1339	L-17 ^c ㉔25
1340	J-15黒褐色土
1341	L-17NO.1第2層
1342	J-16NO.17
1343	L-18NO.23
1344	J-17NO.5
1345	K-L-17-18- ^c 敷北黒褐色土
1346	J-17畦南(北畦)黒褐色土
1347	K-17NO.11炭溜
1348	J-17 ^c ㉔21
1349	J-15 ^c ㉔14
1350	J-16NO.23
1351	L-16 ^c ㉔1
1352	J-15 ^c ㉔53A
1353	L-16 ^c ㉔1
1354	K-17NO.11黒褐色土
1355	L-17NO.1第1層
1356	K-16NO.19炭溜㉔㉔
1357	L-15造成層0~10
1358	K-L-17土壌
1359	K-17黒褐色土上面
1360	L-18赤褐色混雑土
1361	L-14 ^c ㉔1D
1362	G-18地山直上 黒褐色土
1363	L-15 ^c ㉔8a
1364	L-16NO.8
1365	H-15 ^c ㉔15b
1366	K-16土壌②
1367	L-14 ^c ㉔9
1368	K-17茶褐色砂利赤土混
1369	K-16土壌④
1370	K-16NO.19炭溜
1371	L-17 ^c ㉔1
1372	K-16造成層
1373	J-17暗褐色混雑
1374	K-L-15-16黒褐色土層清掃
1375	F-18黒褐色土層
1376	J-17造成層
1377	K-15 ^c ㉔2
1378	K-16NO.19炭溜㉔㉔
1379	J-15NO.11
1380	L-16NO.7
1381	G-17黒褐色土層
1382	G-17黒褐色土層
1383	J-16NO.26h
1385	L-16NO.32
1386	L-18NO.1
1387	L-17NO.1第1層 炭溜直上
1388	J-15 ^c ㉔7-B
1389	L-16NO.21

番号	出土地
1390	K-14東西畦黒褐色土
1391	H-14 ^c ㉔15a
1392	G-17黒褐色土層
1393	G-18黒褐色土層
1395	G-16畦・壁面
1396	L-16NO.21
1397	K-17黒色土上面
1398	K-16造成層混雑
1399	L-17NO.1
1400	K-17造成層下部
1401	J-15NO.1
1402	H-15 ^c ㉔15a
1403	K-16NO.19炭溜
1404	L-17 ^c ㉔1C
1405	K-L-18石列畦①トレンチ黒褐色土
1406	L-15 ^c ㉔8a
1407	G-19黒褐色土直上
1408	J-15NO.8C
1409	F-16畦壁面
1410	H-18黒褐色土層
1411	J-15NO.25
1413	J-17NO.5
1414	G-18黒褐色土(貝・骨・墨・集中)
1415	L-22方形遺構炭溜最下部西側
1416	M-20石列2-3の間瓦溜
1417	H-22炭溜下暗褐色土
1420	J-16瓦溜
1423	K-17石垣複乱
1424	K-L-16東西畦茶褐色混雑土10~20
1428	J-16畦・壁面
1429	L-16茶褐色混雑土表土60~65
1430	K-17茶褐色混雑土0~10
1431	K-16畦・壁面
1432	K-17石垣複乱
1433	J-16畦・壁面
1434	K-17石垣北側
1435	K-17茶褐色混雑土0~10
1438	L-16茶褐色混雑土表土50~60
1440	K-17石垣内暗茶褐色混雑土
1441	L-16茶褐色混雑土表土50~60
1442	L-19石列NO.1裏
1443	F-41石敷遺構茶褐色混雑土
1444	K-L-17石垣上面炭溜混雑赤褐色土
1445	L-18石列の中茶褐色混雑砂利
1447	L-22炭溜黒褐色炭混
1448	F-41茶褐色混雑土層0~20
1449	L-22方形遺構内西側畦①層ハ
1451	H-23炭溜まり最下部
1451	J-15 ^c ㉔2
1453	J-16畦造成層直上(瓦溜まり)Ⅵ
1454	H-22炭溜下暗褐色土混赤土
1456	J-16畦造成層直上(瓦溜まり)Ⅴ
1458	L-22方形遺構炭溜最下部
1461	L-16造成層直上 黒褐色土
1462	L-22炭溜赤土混雑褐色土(炭混)

第93表 ナンバーリング：出土地対照一覧

番号	出土地
1533	J-20c ①+11-a ②-④の下
1534	J-17茶褐色混雑土20-25
1535	J-17茶褐色混雑土20-25
1536	J-16土造成成層土(瓦溜まり) V
1537	L-16瓦溜
1538	M-L17石列上面茶褐色混雑
1539	G-14c ①+14
1540	L-16造成層
1541	J-16鉄だまりNO.2
1542	L-18黒褐色土層
1543	L-19暗褐色土赤粒混10-20
1544	L-19黒褐色土赤粒混10-20
1545	H-17地山直上
1547	L-22方形状遺構内北柱21層
1549	K-19瓦 雑溜
1550	H-17黒褐色土層
1551	L-15黒褐色土層
1552	H-17地山直上
1553	L-21瓦溜
1554	G-22基壇の側石溜 北側
1555	L-21瓦溜
1556	M-20石列2-3の間瓦溜
1558	L-21瓦溜
1559	H-22-21遺構溜り混雑赤土
1560	L-22方形状遺構西側⑩層 雑溜まり
1564	L-18暗赤褐色・黒褐色
1565	L-18地山直上
1566	K-16造成層上面
1568	K-L16暗茶褐色混雑土攪乱0-10
1569	L-17茶褐色混雑土0-10
1571	J-18茶褐色混雑土0-10
1572	L-22方形状遺構⑩層下部
1573	L-22方形状遺構22層
1574	G-14c ①+2
1575	F-18黒褐色土層
1577	H-22c ①+1上面
1578	H-22雑溜下暗褐色土混赤土上面
1579	H-22雑溜下暗褐色土混赤土上面
1580	L-17茶褐色混雑土10-20
1581	L-18黒褐色土層
1582	L-18石列南側造成層
1583	L-13c ①+4
1584	H-27雑溜黒褐色土層0-20
1585	M-20南側瓦溜
1586	M-20南側瓦溜
1587	M-20南側瓦溜
1588	M-20南側瓦溜
1589	M-20南側瓦溜
1590	M-20南側瓦溜
1591	M-20南側瓦溜
1592	M-20南側瓦溜
1593	M-20南側瓦溜
1594	M-20南側瓦溜
1595	M-20南側瓦溜
1596	M-20南側瓦溜
1597	M-20南側瓦溜
1598	M-20南側瓦溜
1599	M-20南側瓦溜
1600	M-20南側瓦溜
1601	M-20南側瓦溜
1602	M-20南側瓦溜
1603	M-20南側瓦溜
1604	M-20南側瓦溜
1605	M-20南側瓦溜
1606	M-20南側瓦溜
1607	M-20南側瓦溜
1608	M-20南側瓦溜
1609	M-20南側瓦溜
1610	M-20南側瓦溜
1611	M-20南側瓦溜
1612	M-20南側瓦溜
1613	M-20南側瓦溜
1614	M-20南側瓦溜
1615	M-20南側瓦溜
1616	M-20南側瓦溜
1617	M-20南側瓦溜
1618	M-20南側瓦溜
1619	M-20南側瓦溜
1620	M-20南側瓦溜
1621	M-20南側瓦溜
1622	M-20南側瓦溜
1623	M-20南側瓦溜
1624	M-20南側瓦溜
1625	M-20南側瓦溜
1626	M-20南側瓦溜
1627	M-20南側瓦溜
1628	M-20南側瓦溜
1629	M-20南側瓦溜
1630	M-20南側瓦溜
1631	M-20南側瓦溜
1632	M-20南側瓦溜
1633	M-20南側瓦溜
1634	M-20南側瓦溜
1635	M-20南側瓦溜
1636	M-20南側瓦溜
1637	M-20南側瓦溜
1638	M-20南側瓦溜
1639	M-20南側瓦溜
1640	M-20南側瓦溜
1641	M-20南側瓦溜
1642	M-20南側瓦溜
1643	M-20南側瓦溜
1644	M-20南側瓦溜
1645	M-20南側瓦溜
1646	M-20南側瓦溜
1647	M-20南側瓦溜
1648	M-20南側瓦溜
1649	M-20南側瓦溜
1650	M-20南側瓦溜
1651	M-20南側瓦溜
1652	M-20南側瓦溜
1653	M-20南側瓦溜
1654	M-20南側瓦溜
1655	M-20南側瓦溜
1656	M-20南側瓦溜
1657	M-20南側瓦溜
1658	M-20南側瓦溜
1659	M-20南側瓦溜
1660	M-20南側瓦溜
1661	M-20南側瓦溜
1662	M-20南側瓦溜
1663	M-20南側瓦溜
1664	M-20南側瓦溜
1665	M-20南側瓦溜
1666	M-20南側瓦溜
1667	M-20南側瓦溜
1668	M-20南側瓦溜
1669	M-20南側瓦溜
1670	M-20南側瓦溜
1671	M-20南側瓦溜
1672	M-20南側瓦溜
1673	M-20南側瓦溜
1674	M-20南側瓦溜
1675	M-20南側瓦溜
1676	M-20南側瓦溜
1677	M-20南側瓦溜
1678	M-20南側瓦溜
1679	M-20南側瓦溜
1680	M-20南側瓦溜
1681	M-20南側瓦溜
1682	M-20南側瓦溜
1683	M-20南側瓦溜
1684	M-20南側瓦溜
1685	M-20南側瓦溜
1686	M-20南側瓦溜
1687	M-20南側瓦溜
1688	M-20南側瓦溜
1689	M-20南側瓦溜
1690	M-20南側瓦溜
1691	M-20南側瓦溜
1692	M-20南側瓦溜
1693	M-20南側瓦溜
1694	M-20南側瓦溜
1695	M-20南側瓦溜
1696	M-20南側瓦溜
1697	M-20南側瓦溜
1698	M-20南側瓦溜
1699	M-20南側瓦溜
1700	M-20南側瓦溜
1701	M-20南側瓦溜
1702	M-20南側瓦溜
1703	M-20南側瓦溜
1704	M-20南側瓦溜
1705	M-20南側瓦溜
1706	M-20南側瓦溜
1707	M-20南側瓦溜
1708	M-20南側瓦溜
1709	M-20南側瓦溜
1710	M-20南側瓦溜
1711	M-20南側瓦溜
1712	M-20南側瓦溜
1713	M-20南側瓦溜
1714	M-20南側瓦溜
1715	M-20南側瓦溜
1716	M-20南側瓦溜
1717	M-20南側瓦溜
1718	M-20南側瓦溜
1719	M-20南側瓦溜
1720	M-20南側瓦溜
1721	M-20南側瓦溜
1722	M-20南側瓦溜
1723	M-20南側瓦溜
1724	M-20南側瓦溜
1725	M-20南側瓦溜
1726	M-20南側瓦溜
1727	M-20南側瓦溜
1728	M-20南側瓦溜
1729	M-20南側瓦溜
1730	M-20南側瓦溜
1731	M-20南側瓦溜
1732	M-20南側瓦溜
1733	M-20南側瓦溜
1734	M-20南側瓦溜
1735	M-20南側瓦溜
1736	M-20南側瓦溜
1737	M-20南側瓦溜
1738	M-20南側瓦溜
1739	M-20南側瓦溜
1740	M-20南側瓦溜
1741	M-20南側瓦溜
1742	M-20南側瓦溜
1743	M-20南側瓦溜
1744	M-20南側瓦溜
1745	M-20南側瓦溜
1746	M-20南側瓦溜
1747	M-20南側瓦溜
1748	M-20南側瓦溜
1749	M-20南側瓦溜
1750	M-20南側瓦溜
1751	M-20南側瓦溜
1752	M-20南側瓦溜
1753	M-20南側瓦溜
1754	M-20南側瓦溜
1755	M-20南側瓦溜
1756	M-20南側瓦溜
1757	M-20南側瓦溜
1758	M-20南側瓦溜
1759	M-20南側瓦溜
1760	M-20南側瓦溜
1761	M-20南側瓦溜
1762	M-20南側瓦溜
1763	M-20南側瓦溜
1764	M-20南側瓦溜
1765	M-20南側瓦溜
1766	M-20南側瓦溜
1767	M-20南側瓦溜
1768	M-20南側瓦溜
1769	M-20南側瓦溜
1770	M-20南側瓦溜
1771	M-20南側瓦溜
1772	M-20南側瓦溜
1773	M-20南側瓦溜
1774	M-20南側瓦溜
1775	M-20南側瓦溜
1776	M-20南側瓦溜
1777	M-20南側瓦溜
1778	M-20南側瓦溜
1779	M-20南側瓦溜
1780	M-20南側瓦溜
1781	M-20南側瓦溜
1782	M-20南側瓦溜
1783	M-20南側瓦溜
1784	M-20南側瓦溜
1785	M-20南側瓦溜
1786	M-20南側瓦溜
1787	M-20南側瓦溜
1788	M-20南側瓦溜
1789	M-20南側瓦溜
1790	M-20南側瓦溜
1791	M-20南側瓦溜
1792	M-20南側瓦溜
1793	M-20南側瓦溜
1794	M-20南側瓦溜
1795	M-20南側瓦溜
1796	M-20南側瓦溜
1797	M-20南側瓦溜
1798	M-20南側瓦溜
1799	M-20南側瓦溜
1800	M-20南側瓦溜

番号	出土地
1880	K-L27-28地山直上
1881	N-24黒褐色土層混雑砂利10-20
1882	M-21雑溜
1883	N-20瓦溜
1884	N-21雑溜
1885	L-28雑溜茶褐色土層
1886	L-26雑溜黒褐色土層0-10
1887	H-27雑溜黒褐色土層0-20
1888	J-25西側暗褐色混雑土上部
1889	J-26西側暗褐色混雑土上部
1890	L-20暗褐色土層
1891	L-22造成層15
1892	L-24南側暗褐色混雑土下部
1893	L-24南側暗褐色混雑土下部
1894	L-24南側暗褐色混雑土下部
1895	M-20石列2-3の間瓦溜
1896	L-24暗褐色土層下部
1897	M-20瓦溜70-90
1898	L-21①+②腐混暗褐色土
1899	K-23石列北暗褐色混雑土5
1900	K-21造成層上砂利混雑土
1901	J-25暗褐色土層
1902	K-27清状遺構No.8
1903	K-L-23暗褐色土層
1904	L-24南側暗褐色土層
1905	H-28暗褐色混雑土層下部
1906	K-24南側暗褐色混雑土
1907	L-25清状遺構内0-10
1908	L-25清状遺構10-20
1909	J-27南側暗褐色混雑土上部
1910	L-24南側暗褐色土層
1911	L-24清状遺構0-15
1912	L-25西側暗褐色混雑土層上部
1913	N-24石列北石溜
1914	H-22造成層25
1915	K-20暗褐色混雑土層
1916	J-25雑溜黒褐色土10-20
1917	L-20雑溜南側
1918	H-20造成層 赤・黒土20-30
1919	J-28雑溜黒褐色土20-30
1920	L-20黒色土層上面
1921	H-1-20造成層
1922	M-21瓦溜中下部
1923	L-21瓦 雑溜上部
1924	J-28雑溜黒褐色土層0-10
1925	L-24黒褐色土層10-20
1926	L-23造成土上面
1927	H-28暗褐色混雑土層10-20
1928	N-25黒色土
1929	H-24造成土上面
1930	F-23造成土上面
1931	G-23石列遺構周辺造成土上面
1932	M-20造成土層雑集中部
1933	H-20造成層(赤・黒土)
1934	L-22雑集中部
1935	L-20暗褐色土層
1936	H-24暗褐色混雑土層40-50
1937	L-26西側暗褐色混雑土層
1938	L-26西側暗褐色混雑土層
1939	L-26西側暗褐色混雑土層
1940	L-26西側暗褐色混雑土層
1941	L-26西側暗褐色混雑土層
1942	L-26西側暗褐色混雑土層
1943	L-26西側暗褐色混雑土層
1944	L-26西側暗褐色混雑土層
1945	L-26西側暗褐色混雑土層
1946	L-26西側暗褐色混雑土層
1947	L-26西側暗褐色混雑土層
1948	L-26西側暗褐色混雑土層
1949	L-26西側暗褐色混雑土層
1950	L-26西側暗褐色混雑土層
1951	L-26西側暗褐色混雑土層
1952	L-26西側暗褐色混雑土層
1953	L-26西側暗褐色混雑土層
1954	L-26西側暗褐色混雑土層
1955	L-26西側暗褐色混雑土層
1956	L-26西側暗褐色混雑土層
1957	L-26西側暗褐色混雑土層
1958	L-26西側暗褐色混雑土層
1959	L-26西側暗褐色混雑土層
1960	L-26西側暗褐色混雑土層
1961	L-26西側暗褐色混雑土層
1962	L-26西側暗褐色混雑土層
1963	L-26西側暗褐色混雑土層
1964	L-26西側暗褐色混雑土層
1965	L-26西側暗褐色混雑土層
1966	L-26西側暗褐色混雑土層
1967	L-26西側暗褐色混雑土層
1968	L-26西側暗褐色混雑土層
1969	L-26西側暗褐色混雑土層
1970	L-26西側暗褐色混雑土層
1971	L-26西側暗褐色混雑土層
1972	L-26西側暗褐色混雑土層
1973	L-26西側暗褐色混雑土層
1974	L-26西側暗褐色混雑土層
1975	L-26西側暗褐色混雑土層
1976	L-26西側暗褐色混雑土層
1977	L-26西側暗褐色混雑土層
1978	L-26西側暗褐色混雑土層
1979	L-26西側暗褐色混雑土層
1980	L-26西側暗褐色混雑土層
1981	L-26西側暗褐色混雑土層
1982	L-26西側暗褐色混雑土層
1983	L-26西側暗褐色混雑土層
1984	L-26西側暗褐色混雑土層
1985	L-26西側暗褐色混雑土層
1986	L-26西側暗褐色混雑土層
1987	L-26西側暗褐色混雑土層
1988	L-26西側暗褐色混雑土層
1989	L-26西側暗褐色混雑土層
1990	L-26西側暗褐色混雑土層
1991	L-26西側暗褐色混雑土層
1992	L-26西側暗褐色混雑土層
1993	L-26西側暗褐色混雑土層
1994	L-26西側暗褐色混雑土層
1995	L-26西側暗褐色混雑土層
1996	L-26西側暗褐色混雑土層
1997	L-26西側暗褐色混雑土層
1998	L-26西側暗褐色混雑土層
1999	L-26西側暗褐色混雑土層
2000	L-26西側暗褐色混雑土層
2001	L-26西側暗褐色混雑土層
2002	L-26西側暗褐色混雑土層
2003	L-26西側暗褐色混雑土層
2004	L-26西側暗褐色混雑土層
2005	L-26西側暗褐色混雑土層
2006	L-26西側暗褐色混雑土層
2007	L-26西側暗褐色混雑土層
2008	L-26西側暗褐色混雑土層
2009	L-26西側暗褐色混雑土層
2010	L-26西側暗褐色混雑土層
2011	L-26西側暗褐色混雑土層
2012	L-26西側暗褐色混雑土層
2013	L-26西側暗褐色混雑土層
2014	L-26西側暗褐色混雑土層
2015	L-26西側暗褐色混雑土層
2016	L-26西側暗褐色混雑土層
2017	L-26西側暗褐色混雑土層
2018	L-26西側暗褐色混雑土層
2019	L-26西側暗褐色混雑土層
2020	L-26西側暗褐色混雑土層
2021	L-26西側暗褐色混雑土層
2022	L-26西側暗褐色混雑土層
2023	L-26西側暗褐色混雑土層
2024	L-26西側暗褐色混雑土層
2025	L-26西側暗褐色混雑土層
2026	L-26西側暗褐色混雑土層
2027	L-26西側暗褐色混雑土層
2028	L-26西側暗褐色混雑土層
2029	L-26西側暗褐色混雑土層
2030	L-26西側暗褐色混雑土層
2031	L-26西側暗褐色混雑土層
2032	L-26西側暗褐色混雑土層
2033	L-26西側暗褐色混雑土層
2034	L-26西側暗褐色混雑土層
2035	L-26西側暗褐色混雑土層
2036	L-26西側暗褐色混雑土層
2037	L-26西側暗褐色混雑土層
2038	L-26西側暗褐色混雑土層
2039	L-26西側暗褐色混雑土層
2040	L-26西側暗褐色混雑土層
2041	L-26西側暗褐色混雑土層
2042	L-26西側暗褐色混雑土層
2043	L-26西側暗褐色混雑土層
2044	L-26西側暗褐色混雑土層
2045	L-26西側暗褐色混雑土層
2046	L-26西側暗褐色混雑土層
2047	L-26西側暗褐色混雑土層
2048	L-26西側暗褐色混雑土層
2049	L-26西側暗褐色混雑土層
2050	L-26西側暗褐色混雑土層
2051	L-26西側暗褐色混雑土層
2052	L-26西側暗褐色混雑土層
2053	L-26西側暗褐色混雑土層
2054	L-26西側暗褐色混雑土層
2055	L-26西側暗褐色混雑土層
2056	L-26西側暗褐色混雑土層
2057	L-26西側暗褐色混雑土層
2058	L-26西側暗褐色混雑土層
2059	L-26西側暗褐色混雑土層

第93表 ナンバーリング：出土地対照一覧

番号	出土地
2478	L-25清状遺構内50
2480	L-25清状遺構内40~50
2481	L-24暗褐色混雑土層40~50
2484	K-L-27・28地山直上
2485	M-25清状遺構10~20
2486	L-25清状遺構内0~10
2489	L-26西側暗褐色混雑土層上部
2490	L-24南側暗褐色混雑土下部
2491	H-27西側暗褐色混雑土下部
2492	L-25清状遺構
2494	G-21石敷き上部
2495	H-22造成土上面
2497	L-23造成土上面
2498	L-23黒色混雑土0~10
2499	K-26暗褐色砂利混
2500	L-25暗褐色砂利混
2503	M-27東側暗褐色砂利混
2504	M-27黒色土層
2505	L-25暗褐色土砂利混
2509	L-25暗褐色砂利混
2510	L-23黒色混雑土0~10
2511	M-25黒色土
2512	L-25南側暗褐色砂利混
2514	K-25暗褐色砂利混
2515	K-25西側暗褐色砂利混
2516	K-25暗褐色砂利混
2518	M-25東側暗褐色砂利混
2520	K-25西側暗褐色砂利混
2521	L-24造成土上面
2522	K-25西側暗褐色土
2523	K-25西側暗褐色土
2524	K-27南側暗褐色砂利混
2525	M-26東側暗褐色砂利混
2526	K-26西側暗褐色砂利混
2527	L-25南側暗褐色砂利混
2528	N-24黒色土層0~10
2529	L-21敷石上部
2530	K-26西側暗褐色砂利混
2531	L-25暗褐色砂利混
2532	M-20南側畦瓦溜
2533	M-20南側畦瓦溜黒褐色土
2534	M-20南側畦瓦溜
2535	J-26西側暗褐色混雑土下部
2536	K-24石敷上面赤土混褐色土
2537	K-28暗褐色砂利混
2539	L-26暗褐色砂利混
2541	L-22造成土上面
2542	L-26混雑黒褐色土層0~10
2543	L-25暗褐色砂利混
2544	H-23石列南側・隣集中
2546	N-23黒色混雑土
2547	H-22造成土上面
2549	K-25西側暗褐色砂利混
2550	K-26暗褐色砂利混
2556	K-27暗褐色砂利混
2557	L-26暗褐色砂利混
2559	L-26暗褐色砂利混
2561	L-26暗褐色砂利混
2564	J-23清状遺構隣溜下砂利層
2576	J-25暗褐色土
2577	L-23・24赤黒混層掃除
2578	G-22基壇 前面部地山清掃
2579	J-28南側暗褐色土
2580	H-26地山直上暗褐色土
2581	L-26暗褐色土下部
2583	G-22基壇 前面部掃除
2584	H-23赤黒混層掃除
2585	M-23暗褐色混雑土10
2587	L-25暗褐色土
2588	L-26暗褐色土層
2589	J-25暗褐色土
2590	L-23・24赤黒混層掃除
2591	J-26南側暗褐色混雑土10~20
2592	L-26暗褐色土
2593	N-24南側暗褐色混雑土下部
2594	M-27・28地山直上
2598	L-26暗褐色混雑土層30~40
2599	M-26暗褐色土
2600	G-23・24造成土上面掃除
2601	L-26西側暗褐色混雑土層下部
2602	M-24暗褐色土下部
2603	M-24暗褐色土0~10
2605	K-25暗褐色砂利混
2606	K-25西側暗褐色砂利混
2607	K-25西側暗褐色土
2608	N-27南側暗褐色砂利混
2610	K-25西側暗褐色砂利混
2612	L-25南側暗褐色土層
2615	M-25清状遺構暗褐色土
2616	J-27暗褐色混雑土上部
2617	H-26西側暗褐色混雑土層下部
2618	M-24南側暗褐色混雑土上部
2620	G-23・24造成土上面掃除
2621	L-25暗褐色土
2622	L-20地山直上暗褐色土掃除
2623	H-21造成土上面掃除
2624	N-27南側暗褐色混雑土層中部
2625	L-26暗褐色土層
2626	M-23暗褐色混雑土10
2628	L-25暗褐色混雑土層0~20
2629	L-26暗褐色土
2630	H-22造成土上面
2631	M-21瓦集中下部
2632	H-24造成土層上部
2634	G-24造成土上面
2635	K-28瓦集中部
2636	L-25暗褐色土
2637	L-25地山直上
2638	G-22造成土上面瓦溜まり
2643	N-25第2層 (黒色土)
2645	K-26西側暗褐色砂利混
2648	M-27黒色土
2651	M-27西側暗褐色砂利混
2652	K-27暗褐色砂利混
2654	G-21石敷き上部
2655	L-25暗褐色砂利混下部

番号	出土地
2656	N-27南側暗褐色砂利混
2657	M-25黒色土
2658	黒色混雑土層0~10
2659	L-25暗褐色砂利混
2660	L-25暗褐色砂利混下部
2662	K-27暗褐色砂利混
2664	M-25黒色土
2665	M-28黒色土
2666	L-26暗褐色砂利混
2667	K-27暗褐色砂利混
2668	K-27暗褐色砂利混
2669	L-26暗褐色砂利混
2671	N-25黒色土
2672	K-27暗褐色砂利混
2673	K-27瓦集中部
2679	H-23遺構110
2683	J-27西側暗褐色混雑土下部
2684	M-20隣集中部
2685	M-24南側暗褐色混雑土上部
2687	L-27南側暗褐色混雑土層下部
2688	L-27南側暗褐色混雑土層上部
2690	L-28西側暗褐色混雑土層上部
2691	L-28西側暗褐色土層
2694	J-27暗褐色混雑土下部
2695	J-27南側暗褐色混雑土上部
2696	J-27南側暗褐色混雑土上部
2697	L-25暗褐色混雑土層30~40
2698	N-23暗褐色土0~10
2699	J-28暗褐色土
2700	M-21瓦隣集中
2701	L-25・26暗褐色土下部
2702	L-28地山直上 (暗褐色土)
2704	L-28西側暗褐色混雑土層上部
2705	K-L-27・28地山直上
2706	L-25暗褐色土
2707	J-25暗褐色土
2708	H-22・23造成土上面掃除
2709	K-26地山直上
2710	N-24南側暗褐色混雑土下部
2711	L-27清状遺構0~10
2712	L-21造成土上面掃除
2713	L-28西側暗褐色混雑土層下部
2716	L-26暗褐色土層
2717	J-27清状遺構0~5・10
2718	L-24暗褐色土層
2719	J-26隣溜下暗褐色土
2720	K-15NO.1
2721	M-L-18黒褐色土層0~10
2722	L-17c'・t12
2723	L-15c'・t1
2724	K-L-15・16黒色土
2725	L-16c'・t10盛土
2726	L-22堆・東西造成土20
2727	M-23土塊石下
2728	L-20c'・t2
2729	G-22暗褐色土混赤土40
2730	J-15c'・t24-C
2731	J-15c'・t10-A
2732	J-18清状遺構焼土層50
2733	G-17黒褐色土層
2734	J-21c'・t1暗褐色土
2735	G-22基壇黒褐色土直上
2736	K-15・16造成層
2737	L-J-16NO.26h
2738	J-27暗褐色土
2739	G-18瓦・骨・墨集中黒褐色土
2740	L-18c'・t1
2741	L-21石列北東石溜表面
2742	K-25c'・t3
2743	L-17c'・t1
2744	L-21石列北東暗褐色土
2745	L-17NO.1
2746	K-18c'・t30
2747	K-22c'・t1①c'・t10西10~20
2748	K-16土塊
2749	J-15c'・t7-B
2750	L-20c'・t3敷3南側地山直上隣混褐色土
2751	M-L-18黒褐色土層10~20
2752	L-18c'・t12
2753	L-20c'・t17
2754	K-L-17・18-c'・t12北黒褐色土
2755	L-17NO.23
2756	L-15c'・t3敷下黒褐色土
2757	F-20基壇黒褐色土30~40
2758	L-17-c'・t1石列下黒褐色土
2759	J-27清状遺構畦②2
2760	J-26清状遺構
2761	J-16瓦・隣集中上面0~10
2762	J-26土塊110
2764	H-21c'・t敷2の下 暗褐色土
2765	J-27暗褐色土層
2768	H-23清状遺構地山直上
2769	J-23石積暗褐色①
2770	H-21c'・t敷2の下 畦造成層
2771	H-20c'・t敷2下20
2772	H-26暗褐色土層
2773	H-26暗褐色土層
2774	J-24暗褐色土層
2775	K-22造成層5
2776	L-25暗褐色土層
2777	K-26土塊北側
2778	L-24暗褐色土層
2779	H-28c'・t2
2780	J-27清状遺構0~5・10
2781	K-24清状遺構
2782	西側壁0~25
2783	L-16茶褐色混雑土10~20
2784	L-27清状遺構
2785	L-28c'・t5
2786	J-21清状遺構畦②3
2787	L-15・16土塊東西①黒褐色土
2788	L-17c'・t43炭溜西c'・t
2789	L-25暗褐色土層
2790	J-26隣溜下暗褐色土
2791	H-22東西c'・t造成層25~30
2792	J-25暗褐色土層

番号	出土地
2793	H-20c'・t敷2下40
2794	M-24石列
2795	H-22南北畦造成層10
2796	L-24暗褐色土層
2797	L-28c'・t4
2798	J-25暗褐色土層
2799	K-22暗褐色土15
2800	J-25暗褐色土層
2801	L-21造成層5
2802	H-23清状遺構 畦①
2803	L-21c'・t敷2造成層の下
2804	N-27清状遺構
2805	H-28c'・t1
2806	H-22東西c'・t造成層10~15
2807	L-23c'・t混雑黒褐色土・造成層下
2808	M-23集石畦
2809	L-26暗褐色土層
2810	K-22地山移行層上面
2811	L-26c'・tNo.34
2812	L-28c'・t14
2813	J-28NO.50 焼土溜清状遺構
2814	L-K-23暗褐色土層15
2815	H-22造成層上隣混褐色土10
2816	K-20c'・t敷2下15
2817	H-20c'・t敷1上面3下
2819	L-19c'・t混雑下赤土混暗褐色土
2820	K-20c'・t敷2下炭混暗褐色土30
2821	J-26暗褐色土
2822	H-25暗褐色土層
2823	L-27清状遺構
2824	J-26暗褐色土
2825	J-26暗褐色土
2827	L-26暗褐色土層
2828	L-21瓦隣暗褐色土
2829	H-28c'・t1
2831	L-22造成層20
2832	J-26土塊上隣溜暗褐色土
2834	L-27清状遺構
2835	J-23石積暗褐色①
2836	M-20西側畦明茶褐色土混雑
2837	L-28c'・t5
2838	J-27暗褐色土層
2839	H-23清状遺構南北畦
2840	J-26土塊上隣溜暗褐色土
2841	M-19石列1・2間砂粒混茶褐色土20
2842	K-22造成層5
2843	L-19・20石列1・2間砂粒混茶褐色土
2845	L-22c'・t敷2東面 地山直上5
2846	L-23石積
2847	M-25c'・tNo.1
2848	F-21基壇 東西c'・t暗褐色
2849	H-24c'・t19
2850	L-23清状遺構畦土混褐色土
2853	K-21c'・t敷2下5
2855	L-24清状遺構暗褐色土
2856	K-21c'・t畦壁清掃
2857	L-M-19東西暗褐色土混雑
2858	J-20c'・t敷1
2859	J-26土塊
2861	I-20・21c'・t敷1
2862	L-25暗褐色土層
2863	J-22南側暗褐色土層
2866	N-25清状遺構畦
2867	G-23石列下・砂利
2868	F-24c'・t6
2869	H-24清状遺構南側暗褐色土層
2870	J-26土塊北暗褐色土
2872	L-15・16土塊a④
2873	L-26暗褐色土層
2874	M-L-19黒褐色土石敷面0~10
2875	N-23暗褐色土下部
2876	K-L-18黒褐色土石敷面
2877	H-20c'・t敷2下20
2878	K-22造成層上面瓦溜
2879	L-23清状遺構畦
2880	J-23石積①層
2881	L-20c'・t敷2地山直上・包含層40~50
2882	M-19石列1・2間砂粒混茶褐色土30
2883	L-25暗褐色土層
2884	L-24小隣溜下暗褐色土
2886	K-23暗褐色土下部10
2887	N-27地山直上
2888	L-22造成層下隣混黒褐色土20
2890	L-22造成層10
2891	H-26暗褐色土層
2892	L-20c'・t敷2下10
2894	H-23清状遺構 東西畦2層
2895	N-22南側
2896	K-26隣溜まり
2897	J-24暗褐色土層
2898	J-27清状遺構畦②4
2899	L-26暗褐色土層
2900	L-20c'・t敷1北側上面3下
2901	H-23・3最下状遺構南側暗褐色土
2902	L-20c'・t敷
2903	M-20石列c'・t暗褐色混雑土
2904	L-15c'・t11(32)
2905	K-19c'・t17
2906	J-19c'・t26
2907	L-18石列清掃
2908	H-20c'・t敷2
2909	L-23暗褐色土・下部5
2910	H-20c'・t5
2911	J-25暗褐色土層
2912	K-L-18黒褐色土石敷面0~10
2913	H-23清状遺構 畦②
2914	H-20c'・t7
2915	H-L-23石積①層
2916	F-23c'・t3
2917	H-22南側暗褐色土層25
2918	L-18NO.44
2919	K-22c'・t1
2920	L-18c'・t28
2921	J-15NO.33
2923	L-19c'・t1
2924	K-22赤土混暗褐色土

番号	出土地
2925	N-20c'・t敷2赤土下暗褐色混雑土
2927	L-20c'・t敷
2928	K-23暗褐色土下部5
2929	H-23清状遺構暗褐色土①b
2930	M-18黒褐色土0~10
2931	L-14赤土・小隣敷直上
2932	H-22造成層25~35
2933	H-16造成層直上黒褐色土
2934	J-13c'・t1a
2935	G-H-13黒褐色土層20~30
2938	J-27暗褐色土層
2939	H-22南側暗褐色土層暗褐色③
2940	M-23石積・瓦
2941	J-27集石遺構
2942	H-23清状遺構 南側暗褐色①
2943	L-17NO.8
2944	M-L-18暗褐色土上面
2945	L-17c'・t49
2946	M-23暗褐色土
2947	K-17c'・t9黒土
2948	K-17NO.26
2949	L-17c'・t44A
2950	L-17c'・t44A
2951	J-15c'・t27
2952	L-17NO.39c'・t上部
2953	J-24c'・t12
2954	L-21c'・t敷2 畦
2956	L-15NO.25
2957	J-18畦南 (南側暗褐色) 黒褐色土
2958	L-17c'・t8
2959	K-17NO.11-G②
2960	K-17c'・t22d
2961	L-15造成層10~20
2962	L-15c'・t15(36)
2963	H-23清状遺構南側暗褐色
2964	L-15c'・t2
2965	L-19混褐色土石敷面0~10
2966	L-19c'・t3
2967	J-18畦南 (南側暗褐色) 黒褐色土
2968	H-23石積清掃
2969	L-19石敷黒褐色土0~10
2970	K-23暗褐色土上部5
2971	G-14c'・t黒褐色土0~14
2972	L-17NO.1
2973	L-19混褐色土石敷面0~10
2974	M-21隣溜
2975	J-15c'・t46
2976	L-18c'・t6
2978	K-17NO.4
2979	J-18NO.1
2980	L-17造成層直上黒褐色土
2981	L-23清状遺構
2982	L-17NO.21
2983	F-24c'・t6
2984	K-17c'・t33
2985	L-17c'・t46
2986	K-18・60下小隣敷
2988	K-18黒褐色土
2989	H-14c'・t13
2990	M-23石積暗褐色混雑土
2991	J-13c'・t3b
2992	K-16土塊①
2993	K-27清状遺構
2994	H-23清状遺構 南側暗褐色②最下
2995	J-21c'・t敷1
2997	L-21造成層5
2999	H-23内石積①層
3000	J-26土塊北暗褐色土
3001	J-25暗褐色土層
3002	J-23c'・tPQ造成層上
3005	J-21c'・t敷 下 東西畦地山直上
3006	M-27清状遺構
3007	J-25暗褐色土層
3008	K-26土塊
3009	N-20c'・t敷2赤土混暗褐色土15
3011	L

第93表 ナンバーリング：出土地対照一覧

番号	出土地	番号	出土地	番号	出土地	番号	出土地
3058	K-16茶褐色泥礫50-70	3184	H-25暗褐色土層	3312	I-22造成層15	3446	L-26暗褐色土層
3059	J-16造成層10-20	3185	J-16壁面	3313	※21瓦溜	3447	L-25暗褐色土層
3060	F-23c ㊦1	3186	J-26壁面	3314	L-21瓦溜	3448	L-24南側畦40-50
3061	I-16c ㊦25	3187	L-22集石c ㊦1	3315	N-20壁溜	3449	L-24暗褐色土層
3062	K-17NO.11-G㊦	3188	K-21J㊦畦壁清掃	3316	M-21南北トレンチ敷石溜5	3451	L-23石積暗褐色泥礫土
3063	E-24c ㊦㊦	3189	K-24畦暗褐色土	3317	M-21壁溜	3452	J-26壁溜
3064	L-17c ㊦11	3190	M-28地山直上	3318	K-23石列北暗褐色泥礫土5	3453	L-23石積暗褐色泥礫土
3065	K-18NO.19	3191	K-23石列南暗褐色上下部5	3319	M-21壁溜	3454	J-25暗褐色土層
3066	K-15c ㊦16	3192	I-15c ㊦19	3320	J-22造成層15	3455	M-20N㊦㊦石列南暗褐色泥礫土
3068	J-K-15黒褐色土	3194	J-19瓦溜	3321	M-24石列清砂利敷	3456	L-26暗褐色土層
3069	L-17c ㊦39	3195	L-19黒褐色土石敷0-10	3322	M-20石列2.3の間瓦溜	3458	M-L-20石列2.1
3070	L-17c ㊦45	3196	N-21トレンチ瓦溜	3323	L-20石列2.3の間瓦溜	3459	J-26暗褐色土
3071	J-16c ㊦19	3197	F-21基壇煉赤土混0-20	3324	G-23造成層上面より20	3460	J-26暗褐色土
3072	J-18NO.24	3198	M-L-18黒褐色土層 地山面10-20	3325	M-21壁溜	3461	J-26壁溜
3073	J-28c ㊦㊦	3199	F-23c ㊦㊦	3327	H-22造成層25	3462	N-20遺物 瓦溜
3074	L-23畦石積 砂利層	3200	J-21c㊦敷3回目上面	3328	L-22造成層15	3464	M-20瓦溜70-90
3075	H-1㊦石積㊦層	3201	L-17c ㊦43炭溜10-15	3329	H-22造成層25	3465	M-20石列トレンチ暗褐色泥礫土
3076	M-20トレンチ暗褐色泥礫土壁溜下	3202	M-21c ㊦4	3330	M-21壁溜	3466	M-24南側畦暗褐色土層
3077	J-19c ㊦21黒褐色土	3203	L-26暗褐色土層	3331	J-26c ㊦14	3468	L-25畦溝伏遺構
3078	J-25暗褐色土層	3204	L-17c ㊦43炭溜10-15	3332	H-22造成層25	3469	L-20c ㊦敷上層暗褐色土
3079	赤褐色泥礫土層	3205	L-19黒褐色土石敷面0-10	3333	L-22造成層15	3470	M-23黒褐色土下部
3080	J-23溝状遺構煉礫層	3206	M-23集石㊦	3334	K-23石列北暗褐色泥礫土5	3472	M-23黒褐色土上部
3081	L-18c ㊦15	3208	J-16瓦 煉赤中上面0-10	3335	H-22造成層25	3473	J-27溝状遺構暗褐色土10
3082	L-16c ㊦26	3209	J-17NO.8	3336	M-21壁溜	3474	H-23造成層40-50
3083	K-17造成層0-10	3210	K-22c ㊦㊦	3337	M-21壁溜	3475	L-23溝状遺構暗褐色土
3084	K-18c ㊦12	3211	J-20畦間部㊦敷1直上	3338	L-25暗褐色土層	3477	L-23溝状遺構暗褐色土
3085	J-17NO.48	3212	J-25溝状遺構	3339	M-21壁溜	3478	L-25暗褐色土層
3086	H-23溝状遺構 東西畦暗褐色㊦層	3213	I-15c ㊦13(34)	3341	M-21壁溜	3479	L-25暗褐色土層
3087	M-20瓦溜	3214	I-15c ㊦8.9	3342	G-21基壇 表面より20石列直上	3480	L-21トレンチ瓦溜㊦
3088	J-28c ㊦5b ㊦	3215	L-19c ㊦1	3343	L-25暗褐色土層	3482	L-20南側畦瓦溜
3089	J-23㊦溝状遺構畦	3216	M-21c㊦敷石溜10南北トレンチ	3344	L-26上層1 下部	3483	H-25暗褐色泥礫土層下部
3090	H-20c ㊦24	3217	J-18内瓦溜まり	3345	H-22造成層25	3486	L-25畦溝伏遺構
3092	G-19西側畦40	3218	F-21基壇煉赤土混礫土層0-20	3346	L-20石列2.3の間瓦溜	3488	暗褐色土下部
3093	L-22溝状遺構畦上面10	3219	F-21基壇東西トレンチ暗褐色	3347	M-21南北トレンチ敷石溜5	3489	M-20瓦溜70-90
3094	M-20トレンチ石列南暗褐色泥礫土	3221	基壇東壁面	3348	H-23造成層上面20	3491	L-25溝状遺構
3095	J-23石列南暗褐色土下部	3222	F-21 22基壇東側壁面清掃	3349	F-24c ㊦11	3493	L-25溝状遺構
3096	J-20㊦敷1直上赤色土	3224	L-20c ㊦24	3350	G-24c ㊦19	3494	L-24南側畦暗褐色泥礫土下部
3097	L-19黒褐色土石敷面0-10	3225	基壇東壁面	3351	G-21基壇表面5-10下石列直上	3495	L-24南側畦暗褐色泥礫土下部
3098	K-L-18黒褐色土10-20	3228	H-19c ㊦4	3352	F-24c ㊦10	3496	L-21石列瓦溜
3099	I-13c ㊦5C	3229	G-24c ㊦23	3353	L-22造成層15	3497	L-24暗褐色土
3100	G-21基壇トレンチ㊦下	3230	K-22地山面清掃	3354	M-21壁溜	3500	L-20畦赤茶褐色土
3101	H-23畦南北溝状遺構3層	3231	I-20c ㊦17	3355	M-24石列清砂利敷	3501	L-M-20畦赤茶褐色土
3102	L-17c ㊦下黒褐色土	3232	H-22煉瓦基中南北畦赤褐色泥礫㊦	3356	J-27暗褐色土層	3502	N-20遺物 瓦溜
3103	L-17c ㊦43炭溜15-20	3233	G-23c ㊦赤土混褐色土	3357	M-24石列清砂利敷	3504	N-19トレンチ暗褐色泥礫赤土下
3104	J-23溝状遺構煉礫土層	3234	M-L-20石列暗褐色砂利小上	3358	L-24暗褐色土下部	3506	J-24畦NO.2暗褐色
3105	L-18暗褐色土壁溜	3236	F-20基壇黒褐色土20-40	3359	J-25暗褐色土層	3507	L-20トレンチ砂混暗褐色泥礫10
3106	H-23畦東西溝状遺構地山直上	3237	H-20c ㊦42	3360	L-24暗褐色土下部	3508	L-20赤茶褐色土
3107	I-20c ㊦20	3238	H-20c ㊦40	3361	K-23石列北暗褐色泥礫土5	3509	L-22方形状赤土混褐色土5
3109	H-21c㊦敷2の下 畦砂利混褐色土	3239	H-20c ㊦41	3362	L-22c ㊦G造成層面	3510	H-22方形状赤土混褐色土10
3110	G-23石列下 砂利	3240	L-20c ㊦26	3363	M-23暗褐色土下部	3511	L-23暗褐色土
3111	M-21壁溜	3241	H-24溝状遺構南北畦No.5地山直上	3364	L-25畦溝伏遺構	3512	L-23溝状遺構煉礫土5
3112	H-23畦東西溝状遺構暗褐色㊦b	3242	H-19c ㊦㊦	3366	K-20黒褐色土上面	3513	H-23溝状遺構1石積内
3114	L-24c ㊦4	3243	H-20c ㊦25	3367	L-27地山直上	3514	H-23暗褐色土
3115	H-23畦東西溝状遺構1層	3244	H-19c ㊦1	3370	M-21瓦基中下部	3515	L-24暗褐色土層
3116	K-20㊦敷茶褐色土	3245	M-20㊦敷	3373	L-26壁溜黒褐色土層0-10	3516	I-21NO.3㊦畦
3117	G-23c ㊦㊦	3246	H-20c ㊦30	3374	J-27煉赤褐色土0-10	3517	G-20 ㊦㊦敷2下5
3118	J-20 ㊦㊦敷2下20	3247	L-20c ㊦20	3376	L-28黒色泥礫土層0-10	3518	H-20 ㊦㊦敷2下10-15
3119	L-15黒褐色土層	3248	L-20c ㊦46	3378	L-20畦瓦基中層	3519	H-20 ㊦㊦敷2下10-15
3120	J-20㊦敷 南北畦暗赤色土層	3249	19㊦畦 壁面	3379	L-27溝状遺構	3520	L-24暗褐色土
3121	H-22煉赤褐色土層 造成層上	3250	L-26暗褐色土層	3380	L-25暗褐色土層	3521	H-23溝状遺構1石積内
3122	J-26土層1 ㊦30	3251	L-26暗褐色土層	3381	L-21石列瓦溜	3522	H-24遺構35
3123	F-24c ㊦16	3252	M-20瓦溜70-90	3382	I-J-24南側畦暗褐色土混礫土下部70-75	3523	G-23石列下 砂利
3124	J-27暗褐色土層	3253	L-2石列瓦溜	3383	L-21トレンチ瓦溜まり	3524	F-24畦10
3125	F-16溝状遺構	3254	L-21石列瓦溜	3384	L-27溝状遺構	3525	L-25畦溝伏遺構
3126	L-15黒褐色土層	3256	G-24c ㊦14	3385	M-23石積暗褐色泥礫土	3526	H-23溝状遺構炭層上部
3127	M-23黒褐色土層 下部	3257	L-22暗褐色泥礫土10-20	3387	L-25暗褐色土層	3527	H-22方形状赤土混褐色土10
3128	K-15 16造成層	3259	H-21瓦溜基中下部 灰混黒褐色土	3388	N-24清赤土混暗褐色土	3528	H-22方形状赤土混褐色土10
3129	K-18赤褐色泥礫	3260	M-21㊦敷	3389	M-25畦溝状遺構㊦赤土混暗褐色土	3529	L-21地山直上
3130	J-25溝状遺構土層	3261	M-21東西トレンチN石溜上面	3390	J-26土層2	3530	L-22溝状遺構地山直上
3131	J-15NO.52	3262	M-21壁溜	3391	N-24石溜赤土混暗褐色土	3532	H-22方形状赤土混褐色土10
3132	J-16造成層上面	3263	H-24遺構130	3392	M-20瓦溜70-90	3533	L-21地山直上
3133	K-15-16黒色土	3264	H-21㊦敷2下3	3393	N-20 ㊦トレンチ瓦溜下暗褐色泥礫15	3534	H-23溝状遺構赤土混褐色土
3134	I-15c ㊦28	3265	N-21壁溜	3396	I-J-24南側畦暗褐色土混礫50-60	3535	H-23埧土炭層
3136	K-21㊦敷3回目	3266	L-20石列2.3の間瓦溜	3398	L-24小窪溜下暗褐色土層	3536	H-23溝状遺構炭層上部
3137	F-24c ㊦11	3267	L-20石列2.3の間瓦溜	3400	N-20トレンチ砂多時暗褐色泥礫	3537	I-24c ㊦2
3139	I-12c ㊦13	3268	J-27畦溝状遺構暗褐色土	3403	N-20 ㊦トレンチ瓦溜下暗褐色泥礫15	3538	L-23溝状遺構赤土混褐色土
3140	L-25溝状遺構20-40	3269	M-21壁溜	3404	M-20東西石垣内暗褐色土	3539	L-23溝状遺構東側暗褐色㊦
3141	J-13 1d	3270	J-27溝状遺構畦3層	3405	M-23石積暗褐色泥礫土	3540	H-G-21地山直上
3142	L-18c ㊦7	3271	J-27溝状遺構畦2層	3406	N-20遺溜	3541	L-21地山直上
3143	K-22c ㊦1西	3272	M-19 ㊦石列1.2の間砂粒混茶褐色土5	3407	N-24石溜赤土混暗褐色土	3542	H-G-21地山直上
3144	K-16土層㊦	3273	L-25暗褐色土層	3408	M-23石積暗褐色泥礫土	3543	J-21NO.3
3145	K-15c ㊦4	3274	H-26暗褐色土層	3409	N-23 ㊦24小窪溜	3544	J-23溝状遺構暗茶色砂利混
3146	L-24c ㊦2 10	3275	L-21瓦溜	3411	L-20畦暗褐色泥礫	3545	H-22方形状遺構地山部分
3147	H-24c ㊦5	3276	N-21瓦溜	3412	L-25暗褐色土層	3546	G-21㊦敷の畦㊦部分
3149	J-27溝状遺構	3277	N-20壁溜	3413	M-25溝状遺構畦㊦暗褐色土	3547	H-23 ㊦24遺構15
3150	F-24c ㊦㊦	3278	J-27溝状遺構畦暗褐色炭混	3414	H-27西側畦暗褐色泥礫土下部	3548	K-21㊦畦壁清掃
3151	L-19黒褐色土石敷面	3279	G-23畦10	3415	L-25溝状遺構10-20	3549	K-28c ㊦3
3152	M-19c ㊦E石下	3280	H-25畦 溝状遺構	3416	L-21トレンチ瓦溜まり	3550	K-21㊦畦壁清掃
3153	M-21集石1	3281	K-21造成層上砂利混褐色土	3417	N-20 ㊦トレンチ瓦溜暗褐色土混20	3551	H-L-23遺構120
3154	J-18c ㊦18B	3282	J-25c ㊦4	3418	L-26暗褐色土層	3552	I-20 ㊦㊦敷2下10-15
3155	J-12c ㊦15	3283	M-23暗褐色土下部	3419	N-26c ㊦NO.35	3553	H-24遺構15-20
3156	J-23石積砂利層	3284	M-23暗褐色土下部	3420	N-26c ㊦NO.35	3554	M-21東西トレンチN
3157	K-27c ㊦1	3285	M-23暗褐色泥礫土	3421	J-26暗褐色土	3555	G-20 ㊦㊦敷2下15
3158	L-22溝状遺構畦上面20	3286	J-26土層1 下部	3422	L-24小窪溜下暗褐色土層	3556	H-23 ㊦㊦敷2下5
3159	L-21c ㊦3	3287	J-26土層1 下部	3423	L-27畦NO.7 溝状遺構	3557	H-24遺構15
3160	G-23c ㊦㊦	3288	E-24c ㊦3	3424	J-26暗褐色土	3558	M-21東西トレンチN石溜5
3161	K-16c ㊦a造成層	3289	㊦21瓦溜	3425	N-20遺物 瓦溜	3559	G-20 ㊦㊦敷2下5
3162	L-25溝状遺構	3290	L-19 ㊦石列1.2間砂粒混茶褐色土20	3426	M-20石列トレンチ暗褐色泥礫土	3560	H-23溝状遺構暗褐色土0-40
3163	K-25c ㊦A	3291	K-21造成層上煉溜暗褐色泥礫	3427	H-L-24暗褐色泥礫土層	3562	M-21南北トレンチ敷石溜上面
3164	J-15NO.52	3292	J-27暗褐色土層	3428	L-23石積暗褐色泥礫土	3563	H-23石列南側煉赤土
3165	L-16茶褐色泥礫土	3293	N-20トレンチ砂粒混暗褐色泥礫20	3429	M-20東西トレンチ南側暗褐色泥礫	3565	H-23溝状遺構赤土混褐色土
3166	L-25溝状遺構	3294	L-20トレンチ造成層	3430	L-23 ㊦24小窪溜	3566	I-20 ㊦㊦敷2下10-15
3167	J-20 ㊦㊦敷茶褐色赤混	3295	K-24小窪溜下暗褐色土	3431	N-20遺物 瓦溜	3567	H-22造成層上瓦溜
3168	J-K-15黒褐色土	3296	N-M-20トレンチ㊦20	3432	G-22暗褐色土混赤土40	3568	H-24c ㊦13
3169	J-25暗褐色土層	3299	K-21造成層上煉溜暗褐色泥礫	3434	H-28暗褐色土層	3569	H-23遺構125
3170	L-15黒褐色土層	3300	L-25暗褐色土層	3435	J-26壁溜下暗褐色土	3571	M-21南北トレンチ敷石溜上面
3171	L-4赤土 黒褐色土上面	3301	M-23暗褐色土下部	3436	J-26土層上煉溜暗褐色土	3572	H-24遺構15
3172	J-16c ㊦26	3302	J-25c ㊦17	3437	M-23石積み 瓦	3573	I-20 ㊦㊦敷2下10-15
3173	J-18石列南側暗褐色泥礫土	3303	H-23c ㊦A造成層	3438	M-23石積み 瓦	3574	I-20 ㊦㊦敷2下10-15
3174	J-16瓦 煉赤中上面0-10	3304	M-23暗褐色土下部	3439	L-24暗褐色土層	3575	H-22方形状10
3175	K-17NO.11畦黒褐色土	3305	K-21造成層上煉溜暗褐色泥礫	3440	L-M-20畦砂粒混暗褐色土	3577	H-20 ㊦㊦敷2下10-

第93表 ナンバーリング：出土地対照一覧

番号	出土地
3583	N-21練溜
3584	I-20 21フヲ敷2下10~15
3585	I-20 21フヲ敷2下10~15
3586	H-24道橋110
3587	J-27清状道橋2層
3588	M-21東西トフヲ石溜上面
3589	J-27清状道橋2層
3590	F-23c ット6
3592	J-24暗褐色土層
3593	I-24c ット1
3594	J-26清状道橋1層
3595	I-20 21フヲ敷2下10~15
3596	J-23練溜表面
3597	J-27清状道橋
3598	I-20 21フヲ敷2下10~15
3599	M-21南北トフヲ敷右溜上面
3600	J-26清状道橋1層
3601	J-26清状道橋雑土層
3602	H-20 21フヲ敷2下10~15
3603	H-24道橋15~20
3604	G-20 21フヲ敷2下15
3605	H-23練溜褐色土層10
3606	J-21NO.1フヲ敷
3608	H-23練溜褐色土層10
3610	H-24道橋15
3611	J-26c ット16
3612	M-22集石①
3613	J-28c ット③
3614	H-24道橋15~20
3615	I-23清状道橋雑土5
3616	H-23練溜褐色土層50
3618	H-23練溜褐色土層
3619	I-27清状道橋南北40
3620	I-27清状道橋南北40
3621	H-22集石②
3622	I-H-23石列上部(砂利)
3623	M-22c ット1
3624	J-21造成層上面
3626	J-24c ット7
3628	F-24E土10
3629	J-25c ット16
3630	H-23練溜褐色土層10
3632	H-20 21フヲ敷2下10~15
3633	I-23清状道橋雑土15
3634	I-27清状道橋南北30
3635	I-23清状道橋雑土30
3636	H-23練溜褐色土層10
3637	I-21造成層上面
3638	J-26清状道橋30~40
3639	I-23清状道橋雑土30
3640	H-22方形状砂利混褐色土
3641	F-23c ット8
3642	I-23清状道橋雑土10
3643	I-26清状道橋20~30
3644	I-H-23石列上部
3645	I-26清状道橋20~30
3646	H-24道橋15
3647	I-H-23石列上部
3648	H-24道橋15
3649	H-23道橋上面
3650	I-H-23石列上部(砂利)
3651	H-23道橋上面
3652	J-23清状道橋石溜
3653	H-23清状道橋炭層上部
3654	M-G-21地山直上
3655	H-23道橋15
3656	H-23道橋15
3657	K-20フヲ敷北トフヲ敷黒褐色土0~10
3658	I-23清状道橋石溜
3659	G-24E土10
3660	G-24E土10
3661	J-23清状道橋石溜
3663	K-20フヲ敷北トフヲ敷黒褐色土0~10
3664	K-20フヲ敷北トフヲ敷黒褐色土10
3665	F-24c ット6
3666	H-23清状道橋
3667	J-23清状道橋雑溜下砂利層
3668	J-21NO.3フヲ敷
3669	K-20フヲ敷北トフヲ敷黒褐色土10
3670	K-23 22壁壁清溜
3671	J-21NO.2フヲ敷
3672	J-20フヲ敷暗褐色土コヲ敷北
3673	J-27清状道橋4層
3674	M-23石積
3675	H-G-21地山直上
3677	G-21フヲ敷部分コヲ敷の畦
3678	J-23清状道橋雑溜下砂利層
3679	J-27清状道橋2層
3680	H-24道橋3東側20
3681	H-24道橋35
3682	G-24E土10
3683	J-25清状道橋 畦
3684	H-24c ット7 8 9埋土
3685	J-26清状道橋10~20
3686	J-25c ット5
3687	I-25清状道橋 畦
3688	H-23清状道橋暗褐色土0~40
3689	H-22方形状道橋地山
3690	H-23道橋120
3691	J-27清状道橋2層
3692	H-23道橋15
3693	J-28c ット⑤
3694	J-26清状道橋0~10
3695	I-25清状道橋 畦
3696	K-23 22壁壁清溜
3697	J-26清状道橋2層
3698	H-23練溜褐色土層50
3699	J-26清状道橋0~10
3700	L-22集石③
3701	M-21南北トフヲ敷右溜上面
3702	M-21南北トフヲ敷右溜上面
3703	H-G-21地山直上
3704	F-24c ット4
3705	H-G-21地山直上
3706	H-G-21地山直上

番号	出土地
3708	J-26土層上練溜暗褐色土
3709	H-24c ット7 8 9埋土
3711	I-22方形状褐色土10
3712	F-23c ット6
3713	I-26清状道橋30~40
3714	I-24c 小石溜下 地山直上
3715	H-24道橋3 東側20
3716	H-23道橋115
3717	J-25c ット11
3718	I-20フヲ敷2下5
3719	M-21東西トフヲ敷石溜5
3720	H-23 24道橋15
3721	F-24c ット4
3722	H-23 24道橋110
3723	J-24暗褐色土 上面
3724	I-20フヲ敷2下5
3725	H-23道橋15
3726	J-24暗褐色土 上面
3727	H-20 21フヲ敷2下10~15
3728	H-22方形状10
3729	J-27c ット1
3730	J-24暗褐色土 上面
3731	J-24暗褐色土 上面
3732	H-23 24道橋15
3733	J-24暗褐色土
3735	H-24道橋110
3736	I-21造成層15
3737	J-27清状道橋4層
3738	J-25c ット5
3740	J-26清状道橋0~10
3741	I-23清状道橋雑土
3742	I-20 21フヲ敷2下10~15
3744	H-24道橋110
3745	I-H-23石列上部
3746	H-G-21地山直上
3748	I-25暗褐色土層
3749	F-23 畦 石列
3750	M-21東西トフヲ敷石溜5
3751	J-23清状道橋
3752	K-27c ット1
3753	H-24道橋35
3754	H-23練溜褐色土層15
3755	I-H-23石列上部(砂利)
3756	I-H-23石列上部(砂利)
3757	I-23清状道橋雑土15
3758	I-21造成層15
3759	H-23練溜褐色土層15
3760	I-22集石②
3762	I-H-23道橋120
3763	H-23 24道橋110
3764	I-H-23石列-下部 南側清溜
3765	I-23清状道橋炭層80
3766	H-23道橋上面
3768	H-23 24道橋115
3769	I-23清状道橋雑土50
3770	H-23 24道橋115
3771	H-24道橋15
3772	I-27清状道橋炭層80
3773	I-H-23道橋120
3774	I-23清状道橋雑溜10
3775	F-23c ット8
3776	J-27清状道橋炭層80
3777	J-27清状道橋炭層80
3778	H-23 24道橋115
3779	I-23清状道橋雑溜10
3780	H-23 24道橋115
3781	清状道橋南北30
3782	H-22方形状砂利混褐色土5
3783	H-24道橋15
3784	H-23練溜褐色土層15
3785	J-21NO.1フヲ敷畦
3787	M-20造成層下面
3788	I-27練溜黒褐色土層30~40
3789	I-27練溜黒褐色土層20~40
3790	I-28黒色混雑土層0~10
3791	J-27練溜黒褐色土層10~20
3792	J-27練溜黒褐色土層20~30
3793	J-20茶褐色混雑土層10~20
3794	I-28練溜黒褐色土層10~20
3795	I-28練溜茶褐色土層
3796	M-20造成層雑土層中部
3798	J-27練溜黒褐色土層20~30
3800	H-26暗褐色土層
3801	M-20瓦集中層
3802	M-20石列2-3の間瓦溜
3803	H-21造成層15
3804	M-21瓦溜
3805	I-27清状道橋20
3806	M-20フヲ敷直上造成土
3807	L-21瓦溜
3809	F-22基壇黒褐色土層20~40
3810	L-M-19黄褐色混雑層
3811	K-19 18瓦溜 赤土混褐色土
3813	K-19黄褐色土混雑
3814	H-G-21地山直上
3815	I-22方形状暗褐色土 (砂利混) 5
3816	H-24清状道橋畦
3817	H-24清状道橋東西畦No.5暗褐色土
3818	H-24清状道橋東西畦No.5 砂利混
3819	H-23清状道橋暗褐色土0~40
3820	G-H-21フヲ敷2下造成層25
3821	J-21畦造成層
3822	I-21地山直上
3823	I-21c ット1 集石上
3824	J-23清状道橋畦②層
3825	H-22南北畦練溜暗褐色土①
3826	K-23石積
3827	M-20南側畦瓦溜
3828	L-26清状道橋内0~10
3829	L-21瓦溜
3830	G-22造成層の上瓦溜まり
3831	K-21トフヲ敷瓦溜まり
3833	I-22方形状暗褐色土 地山直上.15
3834	F-21基壇雑 埴溜0~20

番号	出土地
3835	M-20フヲ敷下暗褐色土
3836	J-24暗褐色土層
3837	F-21基壇雑 埴溜0~20
3838	K-19 18瓦溜
3839	L-M-19 18練溜茶褐色土層
3840	F-22基壇雑赤土層0~5
3841	F-21基壇雑 赤土混0~20
3842	M-20南側畦瓦溜
3843	J-22南北畦暗褐色土層
3844	I-22方形状道橋赤土混褐色土
3845	H-22c ット赤土混褐色土
3846	H-22方形状道橋赤土混褐色土
3847	F-22基壇雑赤土層0~20
3849	H-22東西畦雑瓦集中心暗褐色土①
3850	M-20フヲ敷下瓦溜
3851	H-22方形状道橋赤土混褐色土
3852	H-24清状道橋東西畦No.5地山直上
3853	F-21基壇黒褐色土
3854	H-23道橋15
3855	I-27清状道橋20
3856	H-24道橋15
3857	G-24E土10
3858	M-21東西トフヲ敷石溜
3859	M-21南北トフヲ敷下石溜
3860	G-20 21フヲ敷2下15
3861	G-20 21フヲ敷2下5
3862	H-23道橋2
3863	M-21東西トフヲ敷石溜上面
3864	G-23石列下-砂利
3865	I-25清状道橋 畦
3866	J-25c ット16
3867	I-23練溜表面
3868	J-27清状道橋
3869	H-20 21フヲ敷2下10~15
3870	I-27清状道橋上面
3871	M-21東西トフヲ敷石溜5
3872	H-24道橋15~20
3873	H-23土炭層
3874	M-21東西トフヲ敷石溜5
3875	M-21南北トフヲ敷右石溜5
3876	H-23清状道橋赤土混褐色土
3877	I-20 21フヲ敷2下10~15
3879	J-26清状道橋1層
3880	M-21東西トフヲ敷石溜10
3881	K-20フヲ敷北トフヲ敷黒褐色土10
3882	I-26清状道橋2層
3883	I-26c ット16
3884	H-24c ット7 8 9埋土
3885	H-22方形状10
3886	I-20 21フヲ敷2下10~15
3888	I-23清状道橋雑土5
3889	I-H-23石列上部
3890	H-23練溜褐色土層
3892	I-24c 小石溜下 地山直上
3894	M-21南北トフヲ敷コヲ敷下石溜
3895	J-21造成土面
3896	M-22c ット1
3897	N-20トフヲ敷瓦溜
3898	M-20フヲ敷個石溜まり
3899	J-24暗褐色土層
3900	J-23清状道橋雑溜下練溜
3902	J-23清状道橋雑溜下練溜
3903	F-22基壇黒褐色土層20
3904	M-20瓦溜 暗褐色土混
3905	F-21基壇黒褐色土
3906	J-24暗褐色土層
3907	F-21基壇雑 埴溜0~20
3908	J-21地山直上
3909	F-21基壇雑 埴溜0~20
3910	F-21基壇雑 赤土混0~20
3911	I-22方形状暗褐色土 地山直上15
3912	I-22方形状暗褐色土 地山直上15
3914	I-22方形状暗褐色土 地山直上15
3924	F-21基壇雑 埴溜0~20
3925	F-21基壇雑 赤土混0~20
3927	F-21基壇雑 赤土混0~20
3928	J-23清状道橋雑溜下練溜
3930	M-20フヲ敷下暗褐色土
3932	F-21基壇雑 赤土混0~20
3933	F-21基壇雑 埴溜
3934	M-20フヲ敷下暗褐色土
3935	L-M-19 18練溜茶褐色土層
3936	J-23清状道橋雑溜下練溜
3937	J-23清状道橋雑溜下練溜
3938	J-21地山直上
3939	L-20トフヲ敷溜0~5
3940	F-21基壇雑埴溜0~20
3941	L-M-19 18練溜茶褐色土層
3942	F-21基壇雑赤土混0~20
3944	K-19 18瓦溜
3945	M-20南側畦瓦溜
3947	K-19 18瓦溜
3948	F-21基壇雑 赤土混0~20
3950	F-22基壇雑赤土層0~5
3951	M-20南側畦瓦溜
3953	M-20南側畦瓦溜黒褐色土
3954	M-20南側畦20~40
3955	J-27西側畦暗褐色土下部
3956	H-25暗褐色土混雑土層上部
3957	M-20フヲ敷下暗褐色土
3958	L-M-19 18練溜茶褐色土層
3959	L-M-19 18練溜茶褐色土層
3960	L-M-19 18練溜茶褐色土層
3961	F-21基壇雑 埴溜0~20

番号	出土地
3962	K-19 18瓦溜
3963	M-20フヲ敷下瓦溜
3964	F-22基壇黒褐色土層20~40
3965	F-21基壇雑 埴溜
3966	F-21基壇雑 埴溜
3967	F-22基壇黒褐色土層20~40
3968	M-20フヲ敷下瓦溜
3969	H-22c ット赤土混褐色土
3970	J-24暗褐色土層
3971	G-23 24造成層上面掃除
3972	F-22基壇雑赤土層0~5
3974	F-22基壇雑赤土層0~20
3976	F-22基壇雑赤土層0~5
3977	K-19 18瓦溜
3979	F-21基壇雑 埴溜
3980	H-22方形状道橋赤土混褐色土
3981	M-20フヲ敷下瓦溜
3982	F-22基壇雑赤土層0~5
3984	I-22南北畦暗褐色土層
3985	I-22南北畦暗褐色土層
3986	H-22方形状道橋赤土混褐色土
3987	L-M-19 18練溜茶褐色土層
3988	F-21基壇黒褐色土
3989	I-22南北畦暗褐色土層
3990	F-22基壇黒褐色土層20~40
3991	F-22黒褐色土層20~40
3992	F-21基壇雑 埴溜0~20
3993	M-20フヲ敷下瓦溜
3994	K-19 18瓦溜
3995	F-21基壇雑 赤土混0~20
3996	F-22基壇黒褐色土層20~40
3997	L-21トフヲ敷溜まり
3998	I-22基壇黒褐色土層20~40
4001	F-22基壇黒褐色土層20~40
4002	L-M-19 西側畦黄褐色混雑
4003	F-22基壇黒褐色土層20~40
4004	F-21基壇黒褐色土層20~30
4005	K-19 18瓦溜 赤土混褐色土
4006	K-19 18瓦溜 赤土混褐色土
4008	H-24清状道橋東西畦No.5暗褐色土
4009	F-20c ット暗褐色砂利混
4010	I-22東西畦 瓦溜暗褐色土①
4011	F-22基壇黒褐色土層20~40
4012	M-L-20石列②暗褐色砂利多下
4013	H-24清状道橋東西畦No.5 1 砂利混
4014	K-19 18瓦溜 赤土混褐色土
4015	K-19 18瓦溜 赤土混褐色土
4016	F-21基壇黒褐色土層20~30
4017	M-L-20石列②暗褐色砂利多下
4018	I-21c ット1 集石上
4019	K-23石積
4020	F-22基壇黒褐色土層20~40
4021	F-20基壇黒褐色土層20~30
4022	F-20基壇黒褐色土層20~30
4023	F-20基壇黒褐色土層20~30
4024	F-20基壇黒褐色土層20~30
4025	I-21畦造成層
4027	M-24南側畦暗褐色混雑土上部
4032	L-21c ット1 黒褐色砂利
4033	G-H-21フヲ敷2下造成層25
4034	F-21基壇黒褐色土層20~30
4037	K-19黄褐色土混雑
4039	K-19 18瓦溜 赤土混褐色土
4040	K-19黄褐色土混雑
4041	J-21畦造成層
4043	J-21畦造成層
4045	F-21基壇黒褐色土層20~30
4047	L-M-19東西畦黄褐色混雑
4048	J-20c ット暗褐色砂利混
4050	L-M-19東西畦黄褐色混雑
4051	G-H-21フヲ敷2下造成層25
4052	L-M-19東西畦黄褐色混雑
4053	H-23清状道橋暗褐色土層20~40
4054	H-24清状道橋東西畦No.5暗褐色土
4055	H-24清状道橋東西畦No.5①層
4056	K-23石積
4	

第93表 ナンバーリング：出土地対照一覧

番号	出土地	番号	出土地	番号	出土地	番号	出土地
4101	H-23溝状遺構茶褐色 砂利混	4238	L-21トレンチ⑤瓦溜まり	4371	K-21コ-ヲ敷側造成層	4503	J-17茶褐色土混埋
4102	H-22方形状暗褐色土 (砂利混) 5	4239	L-21トレンチ⑤瓦溜まり	4372	G-19西側畦15	4505	I-15c' ット10A(31)
4104	H-24c' ット7 畦上部	4240	I-24暗褐色混雑土層	4373	L-20 21トレンチ⑤暗褐色土瓦溜	4506	J-18NO.1
4106	H-23溝状遺構茶褐色 砂利混	4241	M-24暗褐色土	4374	G-22瓦溜まり造成層の上	4508	K-22②遺構5
4107	H-23畦砂利混暗褐色土20	4243	I-23溝状遺構雑泥土10	4375	L-20畦淡褐色混雑	4509	I-15c' ット敷下
4108	H-23畦赤土混褐色土20	4244	H-24遺構15	4377	L-M-20畦瓦溜直上	4510	K-17b' ット22-a
4110	L-21トレンチ⑦雑溜下15	4245	K-23-22畦壁清掃	4378	L-21トレンチ⑤瓦溜まり30	4511	J-17NO.11-a
4112	K-23-24小窪溜	4246	M-21東西トレンチS石溜上面	4379	J-27暗褐色土層	4512	L-17NO.11黒褐色土
4113	I-J-24暗褐色土混雑土下部70~75	4247	L-M-20瓦溜直上	4380	H-23c' ット1	4513	J-18NO.2
4115	N-20遺構	4248	M-23暗褐色混雑土	4381	I-24c' ット4-10	4515	K-17NO.11 b-2
4116	L-27溝状遺構	4249	H-26暗褐色土層	4382	J-26雑溜	4516	K-17NO.11-e
4117	I-J-24南側畦暗褐色土混雑土50~60	4250	M-25溝状遺構畦暗褐色土	4383	J-26土塊上雑溜暗褐色土	4517	I-28c' ット15上部10~20
4118	I-22畦溝集中	4251	L-25畦溝状遺構	4384	I-26暗褐色土層	4518	K-17NO.11 b-1
4119	L-21コ-ヲの上トレンチ⑤瓦溜	4252	L-21トレンチ⑤瓦溜まり	4385	L-20コ-ヲ敷下瓦溜	4519	I-17c' ット43炭溜10~15
4121	K-25畦	4253	H-23-24遺構15	4386	M-20コ-ヲ敷	4520	L-15 16コ-ヲ敷
4123	I-26暗褐色土層	4254	K-21コ-ヲ敷側造成層	4387	I-22溝集中部	4522	K-17NO.22-e
4124	M-20畦砂粒混暗褐色土	4255	J-27暗褐色土層	4388	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4524	I-15c' ット11(32)
4125	L-21石列瓦溜	4256	L-20畦瓦集中层	4389	M-20コ-ヲ敷	4525	L-15c' ット敷北
4126	L-21トレンチ⑤瓦溜まり	4258	H-23遺構上面	4390	L-20コ-ヲ敷下瓦溜	4527	K-18NO.11
4127	N-20トレンチ③砂粒混暗褐色土20	4259	L-21トレンチ⑤瓦溜まり	4391	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4529	K-17NO.22-a
4129	L-21トレンチ⑤瓦溜まり30	4260	I-H-22石列下部 南側溝	4392	I-22溝集中部	4530	I-28c' ット15上部0~20
4130	L-20畦瓦集中層	4261	L-21トレンチ⑤瓦-雑溜10	4394	I-22溝集中部	4531	J-18畦4(南北畦)黒褐色土
4131	L-21石列瓦溜	4262	M-25溝状遺構①畦暗褐色土	4395	K-20コ-ヲ敷下瓦溜	4533	K-18c' ット1
4132	N-20遺物 瓦溜	4263	I-23溝状遺構雑泥土30	4396	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4534	L-17c' ット46 47の間
4133	L-M-19東西畦暗褐色混雑	4264	H-23 24遺構115	4397	L-21瓦雑溜	4535	I-17NO.1
4136	H-24溝状遺構暗褐色土0~20	4265	H-23 24遺構110	4398	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4537	G-22基壇褐色土混赤土
4137	I-22雑-瓦集中	4266	I-20 21コ-ヲ敷下10~15	4399	L-20コ-ヲ敷下瓦溜	4538	H-20c' ット28
4138	M-21雑溜	4267	I-J-24南側畦暗褐色土混雑土50~60	4400	L-20コ-ヲ敷下瓦溜	4540	L-20c' ット13
4139	H-23畦赤土混褐色土20	4268	M-24暗褐色土	4401	I-22溝集中部	4541	I-16c' ット9
4140	H-23溝状遺構暗褐色土0~20	4270	H-23雑混褐色土層15	4402	I-22-21トレンチ溝集中部	4542	L-18c' ット16
4141	H-22東西畦雑瓦溜茶褐色土混	4271	I-27溝状遺構暗褐色土	4403	I-21-22トレンチ溝集中部	4543	J-18NO.39
4142	H-24溝状遺構東西畦No.5①上	4272	I-22暗褐色土層	4405	I-20c' ット6	4544	J-20コ-ヲ敷2回目清掃
4143	H-23溝状遺構炭層下部地山直上	4273	L-M-20畦瓦溜直上	4406	L-18畦黒褐色土	4545	L-21石溜
4144	H-22方形状遺構地山	4274	L-23石積暗褐色混雑土	4407	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4546	G-22基壇黒褐色土層
4145	H-23溝状遺構暗褐色土0~40	4275	L-24溝状遺構上面	4409	I-22溝集中部	4547	I-15 16造成層中黒色土層
4146	H-23溝状遺構炭層上部	4276	L-27暗褐色土層	4410	I-22溝集中部	4548	I-22畦-東西包含層30
4148	J-23溝状遺構雑溜下砂利層	4277	L-21石列瓦溜	4411	I-22溝集中部	4549	I-20コ-ヲ敷2下北側石列直上褐色土
4149	H-23溝状遺構茶褐色 砂利混	4278	K-25畦	4412	H-22-23溝集中	4550	L-20コ-ヲ敷下瓦溜
4150	H-24c' ット7 畦上部	4279	L-20畦淡褐色混雑	4413	H-22-23溝集中	4551	K-18 60下小窪敷
4151	I-22方形状砂利混褐色土5	4280	M-20砂粒混暗褐色土	4414	I-22溝集中部	4552	L-18NO.12
4152	H-23畦砂粒混暗褐色土20	4281	I-H-23遺構120	4415	I-22溝集中部	4553	I-17c' ット30~10
4153	I-22方形状褐色土10	4282	F-23石列 畦	4416	I-22溝集中部	4554	I-16c' ット18C
4155	I-22溝状遺構地山直上	4284	L-20 21トレンチ⑤暗褐色土瓦溜	4418	I-22溝集中部	4555	L-17c' ット7 石列下黒褐色土
4156	J-23溝状遺構暗褐色土砂利①	4285	K-23-24雑溜	4419	I-22溝集中部	4556	L-18南北畦黒褐色土
4157	H-22方形状赤土混褐色土10	4286	L-20畦淡褐色混雑	4420	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4557	I-17c' ット南北畦黒褐色土
4158	H-23石列南側-溝集中	4287	L-M-20畦瓦溜直上	4422	I-22溝集中部	4558	N-21暗褐色土
4159	J-23溝状遺構畦②	4288	M-20コ-ヲ敷側石溜まり	4423	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4559	J-26溝状遺構30
4160	H-24c' ット8西隣	4289	H-26暗褐色土層	4424	I-22溝集中部	4560	M-L-19黒褐色土土敷0~10
4161	M-21南北トレンチコ-ヲ敷コ-ヲ敷下石溜	4290	L-24溝状遺構上面	4425	I-22溝集中部	4561	K-17NO.11-b
4163	J-26溝状下暗褐色土	4292	L-20トレンチ②砂混暗褐色混雑土10	4426	I-22溝集中部	4562	K-16c' ット23
4164	L-21石列瓦溜	4293	J-26暗褐色土	4427	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4563	I-15c' ット15(36)
4165	N-20トレンチ⑤瓦溜	4294	L-21トレンチ⑦雑溜下15	4428	I-22溝集中部	4564	L-15c' ット敷下黒褐色土
4166	I-26暗褐色土層	4295	I-27暗褐色土層	4429	M-L-20石列2上	4565	I-15c' ット10-c
4167	N-20遺物 瓦溜	4296	K-21コ-ヲ敷側造成層上	4430	N-M-20トレンチ③瓦溜上面20	4566	K-17NO.22-f
4168	N-20遺物 瓦溜	4297	L-20畦瓦集中層	4432	N-26c' ットNo35	4567	K-17NO.11 b-1
4169	L-20石列暗褐色混雑土	4298	M-22集石①	4433	M-23石積み 瓦	4568	K-17NO.22-C
4170	N-20 21トレンチ⑤瓦溜下暗褐色混雑15	4299	J-26溝状遺構20~30	4434	J-25暗褐色土層	4569	K-18c' ット3
4171	L-23-24小窪溜	4301	J-25暗褐色土層	4435	L-24暗褐色土層	4570	L-17NO.11黒褐色土
4172	L-24小窪溜下暗褐色土層	4302	I-22c' ットD	4437	L-24暗褐色土層	4571	J-17NO.11-a
4173	N-20 21トレンチ⑤瓦溜暗褐色土混20	4303	K-21コ-ヲ敷側造成層	4439	J-27暗褐色土層	4572	L-15c' ット敷下黒褐色土
4174	N-20遺物-瓦溜	4304	M-24暗褐色土下部	4440	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4573	J-16NO.13-10
4175	L-20石列3南コ-ヲ敷下瓦溜	4305	G-22瓦溜まり造成層の上	4441	I-22溝集中部	4574	J-19瓦雑溜
4176	I-22方形状遺構雑混褐色土	4306	G-22瓦溜まり造成層の上	4442	I-22溝集中部	4575	I-22造成層(包含層)25~30
4177	I-22方形状遺構雑混褐色土	4308	L-21石列瓦溜	4443	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4577	J-17茶褐色土混雑
4178	F-22基壇雑混赤土0~20	4309	N-24暗褐色土下部	4444	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4579	M-20トレンチ③砂粒混暗褐色混雑15
4180	H-22方形状遺構暗褐色土混赤土	4310	H-24遺構110	4445	L-20コ-ヲ敷下瓦溜	4580	K-27溝状遺構
4181	I-22方形状遺構雑混褐色土	4312	J-27暗褐色土層	4446	I-22 21トレンチ溝集中部	4581	K-19トレンチ③瓦溜直上
4182	K-20赤土混黒褐色土	4313	G-19西側畦15	4447	I-27溝状遺構40	4583	K-16畦 壁面
4183	F-22基壇雑-雑溜0~20	4315	L-23石積暗褐色混雑土	4448	K-26c' 集石遺構	4584	F-20基壇遺構黒褐色土
4184	H-22方形状遺構黒褐色土	4316	J-27暗褐色土層	4449	L-20コ-ヲ敷下瓦溜	4585	L-K-18内石列No.1畦茶褐色混雑
4185	H-20c' ット37	4317	M-24暗褐色土下部	4450	L-20石列2-3の間瓦溜	4586	K-21暗褐色混雑土5
4186	F-22基壇雑混赤土0~20	4319	I-23溝状遺構	4451	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4587	K-L-17造成層上部0~10
4187	I-22方形状遺構小窪混褐色土層	4320	L-23-24小窪溜	4452	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4588	K-15c' ット敷下黒褐色土
4188	H-22方形状遺構小窪混褐色土層	4321	I-23溝状遺構雑泥土15	4453	I-22 21トレンチ溝集中部	4589	I-20コ-ヲ敷2下15
4190	H-21貝殻集中部	4322	I-H-23石列上部(砂利)	4454	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4590	J-16c' ット16黒褐色土
4192	I-22溝集中部	4324	I-27暗褐色土層	4456	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4591	L-20石列3畦
4194	F-22基壇黒褐色土	4325	N-20 21トレンチ⑥瓦溜	4457	M-21コ-ヲ敷瓦溜	4592	K-18黒褐色土
4195	H-24遺構15	4326	L-25畦溝状遺構	4458	J-27溝状遺構畦1層	4593	L-K-19石列①②③暗赤褐色小窪混
4196	M-23暗褐色土混雑土	4327	H-26暗褐色土瓦混	4459	I-22溝集中部	4594	L-23暗褐色土下部5
4197	L-21トレンチ⑤瓦溜まり	4328	M-20瓦溜70~90	4461	I-22溝集中部	4595	J-20コ-ヲ敷側
4198	L-20石列伴遺造成層下	4329	L-21トレンチ⑤瓦溜まり20	4462	H-22造成層	4596	N-20赤土混暗褐色土
4200	G-22造成層の上瓦溜まり	4330	L-21トレンチ⑤瓦溜まり瓦	4463	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4597	H-24暗褐色混雑土層
4201	L-25畦溝状遺構	4331	L-21石列瓦溜	4464	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4598	L-15 16コ-ヲ敷直下黒褐色土
4202	N-21トレンチ⑤暗褐色土15	4332	L-21トレンチ⑤瓦溜まり	4465	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4599	I-26溝状遺構畦③④
4203	L-21トレンチ⑤瓦-雑溜10	4333	M-20瓦溜70~90	4467	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4600	I-25溝状遺構
4205	L-20畦瓦集中層	4334	L-20トレンチ②赤土下瓦溜	4468	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4601	J-17NO.2
4206	I-22c' ットD	4336	M-23石積 瓦	4469	I-22溝集中部	4602	K-22造成層上
4207	M-20瓦溜70~90	4337	N-21トレンチ⑤暗褐色土15	4470	H-23雑瓦溜暗赤褐色土	4603	L-15c' ット敷下黒褐色土
4208	L-23-24小窪溜	4338	J-26暗褐色土	4473	I-22溝集中部	4604	L-17c' ット敷北溝内褐色土
4209	I-22東西畦雑-瓦溜暗褐色土①	4339	M-20トレンチ③砂粒暗褐色混雑	4474	I-22溝集中部	4605	J-16NO.4
4210	M-L-20石列②暗褐色砂利多下	4340	F-24c' ット16	4475	L-20コ-ヲ敷下瓦溜	4607	J-27溝状遺構畦②
4211	L-21石列瓦溜	4341	L-23石積暗褐色混雑土	4476	I-22溝集中部	4609	J-25暗褐色土層
4212	M-25溝状遺構暗褐色土	4343	F-24c' ット4	4477	L-20コ-ヲ敷	4612	J-12c' ット10-a
4213	L-21コ-ヲの上トレンチ⑤瓦溜	4344	J-25暗褐色土層	4478	M-21瓦溜	4613	J-22環状遺構
4214	L-21トレンチ⑤瓦溜まり	4345	M-20砂粒混暗褐色土	4480	M-21瓦溜	4615	L-18黒褐色土層10~20
4215	L-M-20瓦溜直上	4346	I-25暗褐色土層	4481	I-22溝集中部	4616	F-24c' ット23
4216	F-23c' ット8	4347	L-21c' トレンチ瓦溜	4482	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4618	F-28c' ットD
4217	J-26溝状遺構30~40	4348	I-22暗褐色土層	4483	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4619	K-21暗褐色土
4218	L-21石列瓦溜	4349	L-21トレンチ⑤瓦-雑溜10	4484	H-22-23溝集中	4620	M-19c' ットE石上
4219	J-24南側畦40~50	4351	L-M-20畦瓦溜直上	4485	M-20コ-ヲ敷	4621	I-J-24南側畦暗褐色混雑土60~70
4220	M-23石積暗褐色混雑土	4352	I-25暗褐色土層	4486	M-20コ-ヲ敷	4622	L-20 21石列南トレンチ③砂混暗褐色土20
4221	G-19西側畦15	4353	L-20畦赤茶褐色土	4487	L-21瓦雑溜	4623	M-L-19黒褐色土層-地山面10~20
4222	L-21トレンチ⑦瓦溜まり30	4354	L-20トレンチ②砂混暗褐色混雑10	4488	H-22雑瓦溜まり清掃	4624	M-L-18貝殻集中部
4223	I-27溝状遺構南北40	4355	I-27暗褐色土層	4489	L-20コ-ヲ敷下瓦溜	4625	M-19黒褐色土層0~10
4224	L-20トレンチ②赤土下瓦溜20	4356	L-21石列瓦溜	4490	I-22溝集中部	4626	M-L-18黒褐色土土敷0~10
4225	L-21トレンチ⑤瓦溜まり	4357	I-24暗褐色土層	4491	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4627	L-K-18内石列畦No.1①暗褐色混雑
4226	J-23溝状遺構暗茶褐色砂利混	4358	L-25溝状遺構10~20	4492	M-20コ-ヲ敷下瓦溜	4628	L-K-18内石列畦No.1①暗褐色混雑
4227	L-22集石③	4359	M-24暗褐色土下部	4493	K-26集石②	4629	M-L-18黒褐色土層10~20
4228	K-21コ-ヲ敷側造成層上	4360	N-24暗褐色土下部	4494	I-22溝集中部	4630	K-L-19黒褐色土土敷面0~10
4229	L-24黒褐色土層下部	4361	J-27暗褐色土層	4495	I-22溝集中部	4631	K-20コ-ヲ敷1
4230	M-20瓦溜70~90	4362	J-26土塊2	4496	南北トレンチコ-ヲ敷下石溜まり	4633	J-19瓦-雑溜東下部雑溜面
4232	F-21造成層15	4365	N-21トレンチ⑤瓦溜	4497	M-		

第93表 ナンバーリング：出土地対照一覧

番号	出土地	番号	出土地	番号	出土地	番号	出土地
4638	I-15黒褐色土層	4776	H-22畦東西造成層10	4913	I-207-9A敷2包含層	5048	L-207-9A敷
4639	M-21c' ㊦赤土混暗褐色土46~73	4777	I-22畦 東西造成土10	4914	J-25暗褐色土層	5049	L-21瓦礫溜
4640	I-19造成層下部炭集中部	4779	H-24暗褐色土	4915	I-J-24南側畦暗褐色混雑土50~60	5050	L-22埴集中部
4641	I-14赤土黒褐色土直上	4780	I-28c' ㊦18	4916	L-20石列㊦㊧暗褐色土層	5051	L-22埴集中部
4642	L-18南北畦黒褐色土	4781	H-25土塊	4918	L-20石列㊦㊧茶褐色土遺物溜	5052	L-21瓦礫溜
4643	K-27溝状遺構	4782	J-22造成層30	4919	M-20遺物溜造成層	5053	L-21瓦礫溜
4644	J-27c' ㊦13	4783	L-24溝状遺構暗褐色土礫溜	4920	I-207-9A敷2下25	5054	L-22埴集中部
4645	G-H-13c' ㊦橙褐色土下黒褐色土	4784	I-23造成層30	4921	K-21暗褐色混雑土15	5055	L-22埴集中部
4646	K-22c' ㊦㊧南東側10~30	4785	J-25暗褐色土層	4922	L-23暗褐色混雑土層10	5056	L-22埴集中部
4647	H-G-13c' ㊦南黒褐色土10~20	4786	N-27溝状遺構	4923	J-27暗褐色土層	5057	L-217-9A敷瓦溜
4648	K-27石溜㊧	4787	G-19西側畦30	4924	J-22c' ㊦No.2造成層上	5058	L-21瓦礫溜
4649	J-19瓦 礫溜	4788	F-22基壇黒褐色土5~10	4925	M-27地山直上	5059	G-21㊦㊧ 基壇
4650	L-21c' ㊦19表面清掃	4790	H-27地山面落込砂利混褐色土	4926	L-20㊦㊧㊦暗褐色混雑土	5061	L-22埴集中部
4651	H-23方形状砂利混褐色土5	4791	H-19西側畦50	4927	I-24溝状遺構	5062	K-207-9A敷下瓦溜
4652	L-20石列壁面	4792	J-26溝状遺構10	4930	L-21瓦礫溜造成層下	5063	M-21瓦溜
4653	H-G-13黒褐色土層	4793	K-217-9A敷茶褐色赤土混	4931	K-21暗褐色土	5064	I-22-21㊦㊦埴集中部
4654	西側壁	4794	J-27溝状遺構	4932	L-20石列㊦㊦㊦暗褐色混雑	5064	I-22-21埴集中部
4655	J-15赤土黒黒褐色土直上	4795	L-157-9A敷下黒褐色土	4936	J-22畦 東面造成土20	5066	L-207-9A敷下瓦溜
4656	F-22基壇黒褐色土	4796	H-21造成層15	4937	H-23畦南北包含35	5067	L-22埴集中部
4658	J-19瓦 礫溜付近	4797	H-21造成層15	4938	K-22暗褐色混雑土層5	5068	H-22方形状遺構横溜上暗褐色土
4659	西側壁	4798	J-27畦 ㊦4溝状遺構	4939	K-23暗褐色土下部10	5069	L-207-9A敷下瓦溜
4660	M-18黒褐色土壁	4799	K-20東西㊦㊦㊦敷2造成土上面25	4940	M-L-20石列2上	5070	L-21瓦礫溜
4661	K-23石列 南側溝まり	4800	I-21南北㊦㊦㊦造成層上面10	4941	L-23暗褐色混雑土層5	5072	M-21瓦溜
4662	J-19瓦 礫溜下部砂粒炭暗褐色土	4801	J-207-9A敷2下5	4942	J-25暗褐色土層	5073	L-207-9A敷下瓦溜
4663	I-20c' ㊦7-9	4802	K-17造成層直上黒褐色土	4943	J-25暗褐色土層	5074	M-21南北㊦㊦㊦敷石溜上面
4664	F-20c' ㊦15	4803	K-L-17造成層直上黒褐色土	4944	H-22造成層遺構まで35	5075	H-22造成層黒褐色土
4665	L-20石列赤赤土5	4804	K-19石列東側暗赤褐色土礫混	4945	J-25暗褐色土層	5077	L-207-9A敷下瓦溜
4666	F-20基壇 東西畦黒褐色土	4805	L-17-7c' 下黒褐色土	4947	J-27暗褐色土層	5078	L-26暗褐色土層
4667	L-20石列3畦	4807	L-20㊦㊦㊦㊦暗褐色土20	4948	K-23暗褐色土下部10	5079	L-21瓦礫溜
4668	J-K-21-207-9A敷3回目	4808	G-18黒褐色土(具・骨・墨・集中)	4949	I-207-9A敷2下10	5080	H-22-23埴集中
4669	L-18c' ㊦12	4809	H-23c' ㊦1造成層上	4950	M-L-18暗褐色色礫混	5082	L-22埴集中部
4670	I-24暗褐色混雑土層	4810	I-24c' ㊦14-20	4951	K-26土塊下部	5083	M-20瓦溜70~90
4671	K-18c' ㊦14	4811	H-22畦混黒褐色土 造成層上	4952	L-24小窪溜下暗褐色土層	5085	I-21-22埴集中部
4672	J-19c' ㊦17b	4813	K-17NO.22-d	4953	K-23遺構上面	5086	M-217-9A敷瓦溜
4673	J-27溝状遺構暗褐色土10	4814	K-17NO.11-b	4954	M-23暗褐色土	5087	K-22造成層上
4674	H-20c' ㊦26	4815	L-17NO.20	4955	L-21南東側石列・石溜下暗褐色土	5088	L-22埴集中部
4675	K-18西側混雑土小窪敷	4816	J-26溝状遺構20	4956	L-18c' ㊦20南側㊦㊦	5089	M-207-9A敷下瓦溜
4676	J-16瓦 礫集中上面	4817	J-16NO.13-10	4958	L-16茶褐色混雑土	5090	L-21瓦礫溜
4677	K-18石列小窪上面	4818	L-17NO.23	4959	L-207-9A敷	5091	L-22埴集中部
4678	K-22c' ㊦1北東側10~30	4819	K-17NO.11 b-3	4960	M-18c' ㊦15	5094	L-21瓦礫溜
4679	G-23石列上・砂利	4820	K-27溝状遺構	4961	K-L-18東西畦黒褐色土混雑	5095	L-22埴集中部
4680	L-21c' ㊦9 0~20	4821	E-24c' ㊦㊦	4963	J-18石列南側暗褐色混雑土	5097	L-21瓦礫溜
4682	J-18NO.1	4822	I-26溝状遺構地山直上	4964	L-18c' ㊦1	5098	L-22埴集中部
4683	J-16NO.15	4823	J-22東西㊦㊦㊦造成層上面25	4965	K-16石垣東茶褐色混雑土	5100	L-22埴集中部
4684	I-17NO.1第2層	4824	K-18NO.19	4966	L-19南北畦黒褐色土	5101	L-22埴集中部
4685	L-17NO.9	4825	L-23-24小窪溜下暗褐色土	4968	J-19瓦 礫溜	5103	M-21瓦溜
4686	L-157-9A敷下黒褐色土	4826	F-24-22造成層20	4969	J-19造成層	5104	L-20石列2-3の間瓦溜
4687	K-17NO.11-e	4827	L-157-9A敷下黒褐色土	4970	J-19造成層	5105	L-22埴集中部
4688	K-17NO.11-b	4828	L-17NO.16	4971	M-L-18石列上面	5106	L-22埴集中部
4689	K-17NO.11-e	4829	J-17NO.41	4973	L-18c' ㊦20	5107	L-22埴集中部
4690	L-18c' ㊦131	4830	J-17NO.40	4975	L-16茶褐色混雑土0~10	5108	L-22埴集中部
4691	L-18c' ㊦127	4831	I-207-9A敷2下5造成層	4976	L-19c' ㊦12	5109	M-207-9A敷下瓦溜
4692	K-27溝状遺構	4832	I-28c' ㊦㊦6	4977	M-L-18東西畦黒褐色土赤粒混10~20	5110	M-20南側瓦溜
4693	G-H-13c' ㊦黒褐色土0~10	4833	L-157-9A敷	4978	L-16茶褐色混雑土0~10	5111	L-25溝状遺構内20~40
4694	L-21石溜上暗褐色混雑土	4834	J-27溝状遺構畦㊦3	4979	J-17茶褐色混雑土0~20	5114	M-28黒色土
4695	L-18c' ㊦13	4835	K-17NO.6	4980	J-16畦 壁面	5116	M-28黒色土
4696	L-18c' ㊦17	4836	K-22暗褐色混雑土層	4982	I-14赤土・黒褐色直上	5120	J-26南側畦暗褐色混雑土下部
4697	M-19c' ㊦1	4837	I-17-H-18杭まじり7a	4983	L-17石列上面清掃	5121	H-24赤黒混層掃除
4698	L-19c' ㊦17	4838	J-22c' ㊦1造成層上	4984	J-18石列南側暗褐色混雑土	5122	J-28暗褐色土
4699	K-17NO.22-d	4839	J-21南北㊦㊦㊦造成層上面15	4985	J-19暗褐色土混雑	5123	J-28西側畦暗褐色土
4700	J-18NO.2	4840	K-L-14黒色土	4986	J-19暗褐色混雑土上部	5124	L-25暗褐色土層
4701	L-19c' ㊦13	4841	L-23畦石溜暗褐色土	4987	M-L-18東西畦黒褐色土	5125	J-25暗褐色土
4702	I-20-217-9A敷2下10~15	4842	J-22c' ㊦No.3造成層上	4988	K-19c' ㊦12	5126	J-28南側畦暗褐色混雑土中部
4703	L-157-9A敷下黒褐色土	4843	L-23畦10	4989	J-19茶褐色土混雑土	5127	L-25暗褐色混雑土層20~30
4704	L-17NO.11黒褐色土	4844	H-26暗褐色土層	4991	H-26溝状遺構畦㊦1	5128	K-23暗褐色土下部掃除
4705	K-17c' ㊦15-a	4845	I-28c' ㊦㊦	4993	J-19南側畦黒褐色土	5129	L-28暗褐色混雑土層
4706	K-16c' ㊦19	4846	L-26暗褐色土層下部	4994	J-16畦茶褐色混雑土小窪敷直上	5130	L-27南側畦暗褐色混雑土層上部
4707	J-207-9A敷3南側混雑褐色土	4847	L-19㊦㊦㊦㊦礫溜	4995	H-217-9A敷2下㊦㊦㊦混暗褐色土	5132	J-27南側畦暗褐色混雑土下部
4708	K-17NO.11-e	4848	H-23造成層上面	4996	M-23土塊	5133	H-27南側畦暗褐色混雑土層上部
4709	J-17NO.11-a	4849	N-21窪溜	4997	L-19c' ㊦12	5134	L-24南側畦暗褐色混雑土層上部
4710	L-15-167-9A敷直下黒褐色	4850	L-22c' ㊦No.2造成層上	4999	M-207-9A敷	5135	M-24南側畦暗褐色混雑土上部
4711	K-18NO.9	4851	M-21c' ㊦16	5000	H-22-23埴集中	5136	J-28西側畦暗褐色混雑土下部
4712	K-17NO.11 b-2	4852	J-18畦4 礫層	5001	L-207-9A敷下瓦溜	5137	J-28西側畦暗褐色混雑土中部
4713	L-17NO.11黒褐色土	4853	L-16茶褐色混雑土10~20	5002	L-22埴集中部	5139	M-20南側瓦溜
4716	L-21c' ㊦12炭混暗褐色土10~15	4854	M-26畦 溝状遺構	5003	L-22埴集中部	5141	K-28暗褐色砂利混下部
4718	H-19西側畦20	4855	H-26溝状遺構赤土混土30~40	5005	M-207-9A敷下瓦溜	5142	L-26暗褐色砂利混
4719	N-23暗褐色土 下部	4856	J-28溝状遺構	5007	I-22埴状遺構 土埴集中部	5143	M-20南側瓦溜
4720	J-26溝状遺構10	4857	J-28c' ㊦14	5008	畦	5145	K-28瓦集中部
4722	M-23黒褐色土下部	4858	G-23石列下 砂利	5009	L-207-9A敷下瓦溜	5146	H-25暗褐色混雑土層0~30
4723	L-27地山直上	4859	K-20東西㊦㊦㊦敷2造成土上面25	5010	J-16瓦 礫集中上面0~10	5147	L-25溝状遺構内10~20
4724	H-22窪溜褐色土 造成層上	4860	L-16茶褐色混雑土0~10	5011	H-26溝状遺構赤土混土30~40	5148	M-20南側瓦溜
4725	L-22埴集中部	4861	J-22畦 東面造成土	5012	J-26暗褐色土	5150	M-25溝状遺構0~10
4726	H-22-23埴集中	4862	H-20c' ㊦16	5013	J-19瓦 礫溜	5151	H-28東側畦暗褐色混雑土層下部
4727	L-18-19黒褐色土上面	4863	J-25c' ㊦14	5014	K-26溝状遺構西側	5152	H-27南側畦暗褐色混雑土層下部
4728	L-18-19黒褐色土上面	4864	H-22造成層10	5015	L-27遺構No.2	5153	J-27西側畦暗褐色混雑土
4729	K-23石列北暗褐色土	4866	J-25NO.5	5016	L-15黒褐色土層	5154	H-27南側畦暗褐色混雑土層上部
4730	L-17石列No.2畦暗褐色礫混	4867	M-L-18黒褐色土土敷面0~10	5017	L-16茶褐色混雑土0~10	5155	H-28暗褐色混雑土層下部
4731	K-L-18黒褐色土土敷面0~10	4868	L-28c' ㊦17	5018	H-207-9A敷3窪混褐色土	5156	M-20南側瓦溜
4733	K-23石列北暗褐色混雑土10	4869	H-22造成層20	5019	I-J-24南側畦暗褐色混雑土下部70~75	5157	M-20南側瓦溜
4734	K-L-19黒褐色土土敷面0~10	4870	L-K-18石列暗赤褐色砂利 礫混	5020	J-27暗褐色土層	5159	M-20南側瓦溜
4735	K-L-18黒褐色土10~20	4871	L-17-7c' 石列下黒褐色土	5021	K-22石列 北畦	5160	L-25溝状遺構内0~10
4736	L-22南北畦造成土10	4872	J-22造成層10	5022	J-15黒褐色土層	5161	L-25溝状遺構内20~30
4737	H-22畦南北包含層35'40	4873	J-28c' ㊦15	5023	L-21c' ㊦9 20~40	5162	H-257-9A下赤土混暗褐色土
4738	K-L-19黒褐色土土敷面	4874	H-23c' ㊦1B	5024	H-23石列地山直上砂利混褐色土5	5163	M-20南側瓦溜
4739	M-L-18黒褐色土混雑土10	4877	M-L-19黒褐色土層 地山面10~20	5025	L-26土塊・礫溜暗褐色土	5165	H-27南側畦暗褐色混雑土下部
4741	K-21暗褐色混雑土10	4878	K-16造成層	5027	J-25c' ㊦19	5166	L-28南側畦暗褐色混雑土下部
4743	K-L-19黒褐色土層10~20	4879	J-17NO.11-a	5027	J-157-9A敷上面凹み	5167	L-24南側畦暗褐色混雑土下部
4744	K-22暗褐色土20	4880	L-17-7c' 石列下黒褐色土	5028	K-207-9A敷下茶褐色赤土混	5168	J-25西側畦暗褐色混雑土下部
4745	H-207-9A敷2下40	4881	J-27溝状遺構畦㊦1	5029	J-14黒褐色土上面礫敷	5169	M-25溝状遺構0~10
4747	J-26暗褐色土層	4882	I-J-17-18黒褐色土	5030	F-24c' ㊦㊦	5170	M-25溝状遺構10~20
4748	J-24暗褐色土層	4883	L-18c' ㊦20北部分	5031	H-20c' ㊦20	5171	M-N-25溝状遺構東西暗褐色土
4760	L-21c' ㊦13-a南側瓦	4884	K-L-18黒褐色土土敷面	5032	N-24埴状遺構内表面	5171	M-N-25溝状遺構東西暗褐色土
4761	L-17-7c' 石列下黒褐色土	4885	L-18南北畦黒褐色土10~20	5033	M-18c' ㊦14	5173	M-24南側畦暗褐色混雑土上部
4762	K-20東西㊦㊦㊦敷2造成土上面25	4886	J-19暗褐色混雑土層下部	5034	I-21c' ㊦12炭混暗褐色土0~10	5174	L-24南側畦暗褐色混雑土層上部
4763	J-15c' ㊦24-B	4887	K-147-9A上面	5035	K-16小窪敷上茶褐色混雑土	5175	H-26西側畦暗褐色混雑土層上部
4764	L-23造成層上面	4888	K-16石垣東茶褐色混雑土	5036	I-16畦 壁面	5177	M-27地山直上
4765	L-22c' ㊦No.3造成層上	4889	K-17NO.11-b	5037	H-23石列下砂利混褐色土地山直上	5178	H-27南側畦暗褐色混雑土層下部
4766	I-207-9A敷2下20	4900	J-17NO.11-a	5038	J-15黒褐色土層	5180	L-25溝状遺構30~40
4768	J-24畦10	4902	K-19畦NO.1より北環状遺構	5039	K-23-24地山直上	5181	H-28暗褐色土層
476							

第93表 ナンバーリング：出土地対照一覧

番号	出土地	番号	出土地	番号	出土地	番号	出土地
5194	H-26西側暗褐色混雑土層下部	5340	K-28暗褐色砂利混下部	6057	H-25上層	6200	K-16畦直成層
5195	I-27南側暗褐色混雑土層下部	5341	M-25黒色土	6059	L-20レフ黒褐色土5~10	6204	H-23-24遺構15
5197	M-25-26溝暗褐色土	5342	K-28暗褐色砂利混	6060	I-H-23遺構120	6205	H-20-21コア敷下10~15
5198	M-24南側暗褐色混雑土層上部	5343	L-26石灰岩層集中部	6062	H-20レフT24	6206	L-17造成層直上遺構赤色土層
5199	L-25溝状遺構内0~10	5344	L-26石灰岩層集中部	6063	J-15-16南北黒色土	6207	L-26溝状遺構20~30
5200	I-22墳集中部	5348	K-28暗褐色砂利混	6064	G-20レフT14	6208	K-20コア敷北トロン15~20
5201	M-20コア敷下瓦溜	5351	L-27暗褐色砂利混下部	6065	N-24暗褐色土層下部	6240	J-15-16南北黒色土
5203	I-22墳集中部	5352	K-28暗褐色砂利混下部	6066	I-J-16黒色土	6242	H-24遺構15
5204	I-21レフT12複乱地山直上	5353	L-25暗褐色砂利混	6067	J-21暗褐色土層	6243	H-23造成層上
5205	I-22-21トロン墳集中部	5354	N-25黒色土	6068	J-18暗褐色混雑下部	6244	N-23黒土上
5206	L-20コア敷下	5357	M-24黒褐色混雑土層0~10	6069	I-24レフT1	6262	N-23黒土上
5207	I-22墳集中部	5359	K-28暗褐色砂利混下部	6074	K-23石列暗褐色土上10	6266	I-J-16黒色土
5208	I-22墳集中部	5363	L-25暗褐色砂利混下部	6075	L-21石列瓦溜	6288	H-23方形砂利混褐色土5
5209	I-22墳集中部	5364	L-27暗褐色砂利混下部	6076	L-25暗褐色土層	6289	J-15-16南北黒色土
5210	L-22集石	5367	N-27暗褐色砂利混層	6077	I-J-16黒色土	6292	J-17茶褐色混雑土瓦溜
5212	I-21トロン墳集中部	5368	N-27暗褐色砂利混層	6079	J-25暗褐色土表面	6293	K-16畦4造成層直上
5213	I-22墳集中部	5369	N-27暗褐色砂利混層	6081	I-22方形赤土混褐色土10	6294	K-17茶褐色砂利混
5214	I-22-21トロン墳集中部	5370	L-25暗褐色砂利混	6082	K-L-14黒色土	6295	I-17レフT16赤土混
5215	I-22墳集中部	5434	L-24暗褐色土層下部	6083	I-27溝状遺構60	6296	J-17黒褐色土直上34
5216	I-22墳集中部	5436	L-27西側暗褐色混雑土層上部	6084	K-18北畦か造成層上黒褐色土	6297	K-17造成層下部
5217	I-21-22トロン墳集中部	5438	L-25溝状遺構内0~10	6085	H-18溝状遺構	6298	K-17溝状遺構土10~20
5218	M-20コア敷下瓦溜	5439	K-24石垣	6086	J-18東畦か造成層直上黒褐色土	6299	赤褐色混雑土
5220	M-21瓦溜	5441	L-24西側暗褐色土	6087	造成層直上隣1-C黒褐色土	6300	J-18造成層直上遺構面黒褐色土層
5221	M-20コア敷下瓦溜	5449	K-24南側暗褐色土	6088	K-18石列下き 黒褐色土層	6301	I-17レフT2赤土混
5222	I-22墳集中部	5463	H-26西側暗褐色混雑土層上部	6089	K-18東畦か造成層上黒褐色土	6302	L-K-17造成層
5223	H-22-23方形遺構畦赤土	5468	L-25暗褐色土	6090	J-15-16南北黒色土	6303	東畦か造成層直上黒褐色土
5224	I-22墳集中部	5469	I-20地山直上掃除	6091	造成層直上黒褐色土	6304	K-L-16造成層0~10
5225	I-22墳集中部	5470	J-25暗褐色土	6092	赤褐色混雑土	6305	J-18造成層直上遺構面混雑暗褐色土
5226	M-20コア敷下瓦溜	5471	J-26暗褐色土	6093	造成層直上隣1-C黒褐色土	6306	H-18レフT4
5228	M-20コア敷下瓦溜	5473	I-20地山直上暗褐色土掃除	6094	I-17造成層直上遺構赤色土層	6307	K-22地山移行層
5229	L-21瓦溜	5476	H-28暗褐色混雑土層下部	6095	I-17遺構面内造成層直上黒褐色土	6308	I-21レフT5-a
5230	I-22墳集中部	5477	H-25暗褐色土層40~50	6096	L-17黒褐色土層上面	6309	J-16瓦溜下隣
5232	I-21-22墳集中部	5478	N-23暗褐色土0~10	6097	赤褐色混雑土	6310	J-18レフT4南北黒褐色土
5233	I-22墳集中部	5479	M-24南側暗褐色土層	6098	赤褐色混雑土層	6311	L-17暗褐色土層
5234	M-20コア敷下瓦溜	5480	N-24南側暗褐色土	6099	造成層直上隣1-C黒褐色土層	6312	種3-A造成層直上
5235	L-20コア敷下瓦溜	5481	N-23暗褐色土0~10	6100	J-18暗褐色土層10	6313	I-J-16黒色土
5237	K-23西側赤土混雑暗褐色土	5482	H-25暗褐色土層40~50	6101	I-J-16黒色土	6314	K-17溝状遺構10~20
5238	J-25西側暗褐色土	5484	J-27南側暗褐色混雑土20~30	6102	東畦か造成層直上黒褐色土	6315	245-1遺構上面地山直上
5240	L-25暗褐色混雑土層下部	5485	J-27南側暗褐色土	6103	赤褐色混雑土層	6316	K-L-17造成層面清掃
5241	L-25西側暗褐色土層	5486	J-25西側暗褐色混雑土層上部	6105	I-18造成層直上遺構面隣2B	6317	J-27溝状遺構10
5243	K-21南側暗褐色混雑土	5487	M-23石垣南暗褐色土	6106	H-21レフT9-a	6318	K-17溝状遺構土0~10
5245	J-28南側暗褐色混雑土下部	5488	H-25暗褐色土層40~50	6107	J-27溝状遺構40	6319	H-24遺構15
5246	K-22赤土混雑暗褐色土	5491	H-24赤黒混雑層掃除	6108	I-18暗褐色土層20	6320	造成層直上黒褐色土
5247	H-25コア敷下赤土混雑暗褐色土	5492	M-23石垣南暗褐色混雑土	6109	造成層直上隣4-A黒褐色土	6322	K-15黒褐色土直上
5248	J-25西側暗褐色混雑土層下部	5493	M-20東西石垣内側暗褐色土	6110	K-16茶褐色混雑	6323	K-14黒褐色土層
5249	J-25西側暗褐色土	5495	L-24南側暗褐色混雑土下部	6111	東畦か黒褐色土	6324	造成層直上黒褐色土北壁
5251	H-25暗褐色混雑土層下部	5496	M-23南側暗褐色混雑土	6112	I-J-17赤褐色混雑黒色土	6325	I-15-16黒色土
5253	N-23南側暗褐色混雑土下部	5498	J-26西側暗褐色混雑土下部	6113	K-18暗褐色土層20	6326	I-16黒褐色土 2枚目隣
5255	J-26南側暗褐色土	5499	M-23南側暗褐色土	6114	造成層直上黒褐色土	6327	M-23レフT7
5256	K-26地山直上	5500	H-27西側暗褐色混雑土下部	6115	造成層直上黒褐色土	6328	K-16畦2造成層直上
5258	H-25暗褐色土層40~50	5501	J-26南側暗褐色混雑土	6116	K-18暗褐色土層10	6329	K-16造成層
5259	I-25西側暗褐色混雑土層上部	5503	M-23暗褐色混雑土10	6117	J-15-16西黒色土	6330	L-21トロン瓦溜
5260	N-24南側暗褐色土	5504	J-26南側暗褐色土	6118	K-15-16畦造成層	6331	K-17黒褐色土
5261	M-25-26溝暗褐色土	5505	I-20地山直上暗褐色土掃除	6119	K-16南北黒色土	6332	J-17造成層縮留
5262	L-24暗褐色混雑土層下部	5508	K-22赤土混雑暗褐色土	6120	J-16畦5造成層直上 黒褐色土	6333	K-L-17造成層
5263	J-26暗褐色土	5510	K-L-27-28地山直上	6121	J-16造成層上瓦溜隣黒褐色土層	6334	K-L-14黒色土
5265	H-25暗褐色土層40~50	5513	L-25溝状遺構内0~10	6122	暗褐色混雑土層上黒褐色土	6335	K-17南北畦2黒褐色土
5266	M-25レフTNo.1暗褐色土	5520	K-22南側暗褐色混雑土	6123	I-17造成層直上遺構面黒褐色土層	6336	K-17レフT4造成層直上
5267	J-26南側暗褐色土	5523	M-25 26レフTNo.2	6124	北壁(北)造成層直上黒褐色土	6337	K-L-17造成層縮留
5268	L-27溝状遺構0~5	5524	L-24西側暗褐色混雑土	6125	H-23暗褐色土層15	6338	K-18東畦か赤褐色土層
5269	L-24暗褐色混雑土層下部	5525	K-20南側暗褐色土	6126	K-16茶褐色混雑	6339	I-25暗褐色土層
5270	I-25南側暗褐色土層	5528	H-25暗褐色混雑土層下部30~40	6127	J-17畦造成層	6340	K-17畦4暗褐色土直上隣溜
5271	K-24石敷上面赤土混雑暗褐色土	5529	H-25暗褐色混雑土層下部30~40隣溜	6128	J-18北畦か造成層直上遺構面黒褐色土	6341	H-17畦造成層縮留
5272	M-25溝状遺構暗褐色土	5530	M-24西側暗褐色土	6129	L-17造成層	6342	J-16黒色土
5276	M-25暗褐色土	5531	H-25暗褐色混雑土層上部	6130	I-17造成層直上遺構面黒褐色土層	6343	J-17-18石列下隣黒褐色土
5277	J-25暗褐色混雑土層	5532	J-25西側暗褐色混雑土層上部	6131	I-28レフT15 0~20	6344	K-15黒褐色土上面
5278	J-27南側暗褐色混雑土層上部	5533	M-23石垣南暗褐色土	6132	暗褐色混雑土層上黒褐色土	6345	K-18-22暗褐色土直上
5279	I-25暗褐色混雑土層0~20	5537	H-25コア敷下赤土混雑暗褐色土	6133	K-16暗褐色土層20	6346	I-17レフT18 焼土
5280	L-20南側赤土混雑暗褐色土隣溜直上	5539	I-25暗褐色混雑土層0~20	6134	K-18北畦か造成層上黒褐色土	6347	造成層直上黒褐色土
5281	H-25暗褐色混雑土層下部30~40隣溜	5541	H-25暗褐色混雑土層上部0~30	6135	J-15-16西黒色土	6348	K-20暗褐色混雑土層
5282	L-24南側暗褐色混雑土下部	5543	J-28南側暗褐色混雑土下部	6136	H-23遺構2	6349	I-15-16西畦赤土層
5283	H-25暗褐色土層40~50	5545	M-24南側暗褐色混雑土層上部	6137	I-J-16黒色土	6350	K-17赤褐色土層
5284	J-27暗褐色混雑土層下部	5549	M-20南側瓦溜	6138	J-17暗褐色土層	6351	J-18レフT4南北黒褐色土
5285	I-26西側暗褐色土層	5557	M-27黒褐色土	6140	K-16南北黒色土層	6352	K-18-17黒褐色土層溜上面
5286	J-26南側暗褐色土層上部	5563	J-17暗褐色土層	6141	I-18暗褐色混雑土層20	6353	K-L-17暗褐色土
5287	J-25南側暗褐色土	5597	L-18暗赤褐色小隣溜	6150	I-28レフT15 0~20	6354	I-17造成層
5288	J-27南側暗褐色土	5714	I-27溝状遺構10	6151	I-28レフT15	6356	種直成層直上黒褐色土
5290	J-27西側暗褐色土下部	6000	H-19レフT3C	6152	J-27溝状遺構40	6359	K-16造成層直上黒褐色土 焼土
5291	M-28暗褐色土	6001	I-17造成層直上遺構面黒褐色土層	6153	J-21暗褐色土層	6360	I-17畦4 黒褐色土直上隣溜5~10
5292	J-27西側暗褐色土	6003	赤褐色混雑土	6154	I-18石列下き 黒褐色土	6361	J-17レフT4南北黒褐色土
5293	J-27南側暗褐色土	6002	K-15-16畦造成層	6155	I-17造成層直上遺構面黒褐色土層	6362	K-17暗褐色土直上
5294	J-28南側暗褐色土	6004	I-J-17赤褐色混雑黒色土	6156	I-26レフT1	6363	K-18黒褐色土21
5296	J-27西側暗褐色混雑土下部	6005	K-18黒褐色土上面	6157	K-L-14黒色土	6364	K-18黒褐色土
5297	L-24南側暗褐色混雑土下部	6006	J-16造成層上瓦溜隣黒褐色土層	6158	I-21コア敷2の下5	6365	K-L-18 17列黒褐色土
5298	M-27溝状遺構No.6	6007	K-18黒褐色土上面	6160	K-16南北黒色土	6366	I-K-15黒褐色土
5299	M-24暗褐色土下部	6008	K-L-14黒色土	6161	I-J-16黒色土層	6367	L-21コア敷2
5301	L-25西側暗褐色混雑土層下部	6009	暗褐色混雑土層上黒褐色土	6162	I-26溝状遺構10	6368	J-15暗褐色土上面
5302	J-25西側暗褐色混雑土層中部	6010	J-18北畦か造成層直上遺構面黒褐色土	6163	K-18黒褐色土上面	6369	J-17暗褐色混雑土層
5303	M-23石垣南暗褐色混雑土	6011	K-16南北黒色土	6164	K-L-14黒色土	6370	K-L-17暗褐色土直上
5305	L-25西側暗褐色土層	6012	J-16畦5造成層直上 黒褐色土	6166	I-22方形遺構混雑褐色土南側	6371	K-15黒褐色土直上
5306	H-28暗褐色土層	6013	I-19集中遺構A黒褐色赤土粒混	6167	H-20レフT22	6372	I-17暗褐色土層
5307	M-25溝状遺構10~20	6014	L-21レフT4造成層の下	6168	L-25溝状遺構横レフT炭土	6373	K-16畦1造成層直上
5308	L-25暗褐色土層	6015	I-18暗褐色土層20	6169	I-20レフT127	6374	J-17暗褐色混雑土層
5309	M-20暗砂粒混雑暗褐色土	6018	J-15-16西黒色土	6170	H-20レフT12赤土混褐色土30~40	6375	造成層直上黒褐色土
5310	I-J-24暗褐色混雑土層60~70	6019	J-20-21コア敷2下20	6171	J-20レフT33	6376	K-17黒褐色土
5311	M-20南側瓦溜	6020	H-18溝状遺構	6172	J-20 21コア敷2下20	6377	J-20 21コア敷2下20
5312	M-20南側瓦溜	6021	I-16 15造成層	6173	I-22方形遺構西側溜	6378	I-16暗褐色土(地山直上)
5313	M-20南側瓦溜	6024	造成層直上隣4-A黒褐色土	6174	I-21レフT17	6379	K-16暗褐色土上面
5315	M-20南側瓦溜	6026	G-23石列 南側造成土上面	6175	I-19レフT1	6380	I-22方形遺構隣溜直上
5316	L-25西側暗褐色混雑土層上部	6031	I-28黒色混雑土層0~40	6176	H-21レフT20-b上部	6381	I-17造成層砂利敷き直上
5317	L-27西側暗褐色混雑土層上部	6033	L-20造成層30~40最下部地山直上	6177	H-21レフT11	6382	L-20レフT4造成層
5318	M-24南側暗褐色土層	6034	M-25黒色土層	6178	I-22方形遺構●集中部 下 赤土混雑土	6383	K-18 27層黒褐色土直上
5319	J-27南側暗褐色土層	6036	J-17暗褐色混雑土層	6179	I-21レフT7	6384	K-22地山移行層上面
5320	J-27西側暗褐色混雑土層	6037	K-26暗褐色砂利混	6180	J-20-21コア敷2西畦茶褐色	6385	K-17溝状石列隣方隣 砂利赤土
5324	M-24南側暗褐色混雑土層上部	6040	L-27黒色混雑土層20~30	6181	G-20レフT31-32環状遺構	6386	I-17溝状レフT東西黒褐色土
5325	L-28南側暗褐色混雑土層下部	6041	L-28黒色土層第2層	6182	H-20レフT25-a	6387	L-22方形遺構隣溜混雑褐色土
5326	H-28南側暗褐色土層	6042	I-25暗褐色混雑土層20~30	6183	H-21レフT7西側の穴	6388	K-18 17層黒褐色土隣溜上面
5328	L-26西側暗褐色土層上部	6043	M-24黒色土層20~30	6184	H-22方形遺構小隣混褐色土	6389	H-22造成層まで35
5329	L-25南側暗褐色混雑土層下部	6045	H-27暗褐色混雑土層0~20	6185	F-20環状遺構	6390	H-19レフT25
5330	L-25南側暗褐色土層	6046	I-26黒色混雑土層0~10	6186	I-22暗褐色土層	6391	I-22方形遺構隣溜混雑褐色土
5331	J-27西側暗褐色土	6047	I-27暗褐色混雑土層0~20	6187	I-22暗褐色土層	6392	造成層直上黒褐色土
5332	L-24南側暗褐色混雑土層中部	6048	I-27暗褐色混雑土層0~20	6188	J-20 21コア敷2(東西)レフT炭土	6393	H-18溝状遺構
5333	J-27南側暗褐色混雑土層中部						

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第8集

天 界 寺 跡 (II)

—首里杜館地下駐車場入り口新設工事に伴う緊急発掘調査—

発行年 平成14年(2002年)3月
発 行 沖縄県立埋蔵文化財センター
編 集 沖縄県立埋蔵文化財センター
〒 903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7
TEL 098(835)8751~8752
印 刷 グローバル企画印刷(株)
〒 901-1111 南風原町兼城 577
TEL 098(889)3222